

令和4年9月2日
政策経営部広報広聴課

令和4年度 世田谷区民意識調査の結果について

1 調査目的

区民が、区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政運営の基礎資料とする。

2 調査概要

- (1) 調査期間 令和4年5月19日～6月2日
- (2) 対象 満18歳以上の区内在住者(外国籍含む) 4,000人(無作為抽出)
- (3) 調査方法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答
- (4) 回収結果 有効回収数1,923人 回収率48.1%
(内訳:郵送回収1,300通・67.6%、インターネット回収623通・32.4%)
- (5) 調査項目 23項目(全72問 ※枝問含む)

1. 定住性	2. 区政	3. <u>区の基本計画</u>	4. 職員応対
5. <u>ふるさと納税</u>	6. 福祉と医療	7. <u>認知症</u>	8. 悩みや不安の相談先
9. 障害者を支える取り組み	10. 子育て・子どもを取り巻く環境	11. 地域コミュニティ	
12. <u>公共施設</u>	13. 災害時の備え	14. 男女共同参画の推進	15. 多文化共生
16. 文化活動	17. スポーツ	18. たばこマナー	19. 農業
20. <u>公園</u>	21. <u>区道の舗装</u>	22. <u>新型コロナウイルス感染症</u>	23. <u>区の情報発信</u>

経年調査質問(40問) 単年調査質問(32問) ※下線は令和4年度新規項目

3 調査結果

別添「世田谷区民意識調査2022(概要版)」及び「世田谷区民意識調査2022」のとおり

4 今後のスケジュール

- 9月 3日 区ホームページに「世田谷区民意識調査2022」及び「概要版(日本語版・英語版・テキストデータ)」を掲載
- 9月 5日 区政情報センター(区政情報コーナー)、図書館で区民向けに閲覧開始
- 9月15日 区のおしらせ「せたがや」9月15日号に調査結果の一部を掲載

世田谷区民意調査 2022

(概要版)

(令和4年5月実施)

区民意調査概要版は、令和4年5月に実施した「世田谷区民意調査2022」を要約したもので、広く区民の方にその内容を知っていただくために作成しました。

今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「区の基本計画」「認知症」「新型コロナウイルス感染症」などに関する項目を調査対象といたしました。

これらの調査結果については、区政を推進するための基礎資料として活用してまいります。

また、詳しく知りたい方は、世田谷区の区政情報センター、区政情報コーナー、区立図書館、区のホームページで「世田谷区民意調査2022」をご覧ください。

調査の概要

対象者	世田谷区在住の満18歳以上の男女
対象数	4,000人 (内訳/日本国籍3,901人、外国籍99人)
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査方法	郵送配布・回収またはインターネットによる回答
調査期間	令和4年5月19日～6月2日
有効回収数	1,923人 (内訳/日本国籍1,896人、外国籍27人)
有効回収率	48.1% (内訳/郵送回収1,300通・67.6%、 インターネット回収623通・32.4%)

※過去に同様の調査を行っている項目については、直近のデータを記載しています。

回答者の属性

- 1 定住性
- 2 区政
- 3 区の基本計画
- 4 職員応対
- 5 ふるさと納税
- 6 福祉と医療
- 7 認知症
- 8 悩みや不安の相談先
- 9 障害者を支える取り組み
- 10 子育て・子どもを取り巻く環境
- 11 地域コミュニティ
- 12 公共施設
- 13 災害時の備え
- 14 男女共同参画の推進
- 15 多文化共生
- 16 文化活動
- 17 スポーツ
- 18 たばこマナー
- 19 農業
- 20 公園
- 21 区道の舗装
- 22 新型コロナウイルス感染症
- 23 区の情報発信

令和4年9月



世田谷区

今回の調査項目は次のとおりです。このうち★印のある項目をこの概要版に掲載しています。

1. 定住性

- (1) 居住年数
- ★ (2) 暮らしの満足度
- ★ (3) 住みやすさ
- ★ (4) 定住意向
- (5) 定住意向理由
- (6) 非定住意向理由
- ★ (7) 地域における日常生活での困りごと

2 区政

- ★ (1) 区が積極的に取り組むべき事業

3 区の基本計画

- (1) 基本計画の「6つの重点政策」の中で取り組みが進展したもの
- ★ (2) 次期基本計画で期待する取り組み
- (3) 区政への参加や地域で活動する際、区に期待する取り組み

4 職員対応

- ★ (1) 窓口対応
- ★ (2) 印象が良かった点
- ★ (3) 印象が悪かった点
- ★ (4) 職員対応での注意点

5. ふるさと納税

- ★ (1) 「ふるさと納税」の経験
- (2) 「ふるさと納税」をした理由
- (3) 「ふるさと納税」をしない理由
- ★ (4) 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度

6. 福祉と医療

- ★ (1) 「福祉の相談窓口」の認知度
- (2) 介護や医療必要時の居留意向
- ★ (3) 「在宅医療」の認知度
- ★ (4) 「ACP」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度
- (5) 人生の最終段階に関する話し合いについて

7 認知症

- ★ (1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度
- (2) 認知症についての印象
- (3) 認知症になった場合の暮らし方
- ★ (4) 認知症になっても暮らしやすくするための活動

8 悩みや不安の相談先

- ★ (1) 相談できる医療機関や行政窓口の認知度
- (2) 悩みや不安の相談先

9 障害者を支える取組み

- ★ (1) 障害者差別解消法の認知度
- ★ (2) 共生社会ホストタウンの認知度

10 子育て・子どもを取り巻く環境

- ★ (1) 区の子育て環境
- (2) 子育てについて相談できる人の有無
- (3) 「世田谷版ネウボラ」の認知度
- (4) 子どもの外遊びへの大人の関わりについて

11 地域コミュニティ

- ★ (1) 地域活動への参加経験・参加意向
- (2) 参加している地域団体
- (3) 参加している地域活動の種類
- (4) 町会・自治会への加入状況
- (5) 町会・自治会に加入しない理由
- (6) 町会・自治会に期待するもの

12 公共施設

- ★ (1) 区民利用施設の利用頻度
- (2) 区民利用施設を利用していない理由

13 災害時の備え

- (1) 防災への対処
- (2) 水や食料の備蓄について
- ★ (3) 地区防災計画の認知度
- ★ (4) ハザードマップの認知度
- (5) ハザードマップの活用状況

14 男女共同参画の推進

- ★ (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について
- (2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度
- ★ (3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方
- (4) DV被害にあったときの相談先
- (5) 性的マイノリティという言葉の認知度

15 多文化共生

- ★ (1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

16 文化活動

- (1) 区内の文化資源の認知度
- ★ (2) 区内の文化資源環境への満足度

17 スポーツ

- ★ (1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツ実施環境の変化
- (3) 今後のスポーツ施設整備について

18 たばこマナー

- ★ (1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度

19 農業

- ★ (1) 農業公園の認知度

20 公園

- ★ (1) 公園拡張事業の認知度

21 区道の舗装

- ★ (1) 舗装に関する満足度
- (2) 舗装状態が悪い理由

22 新型コロナウイルス感染症

- ★ (1) 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴うコミュニケーションの機会について

23 区の情報発信

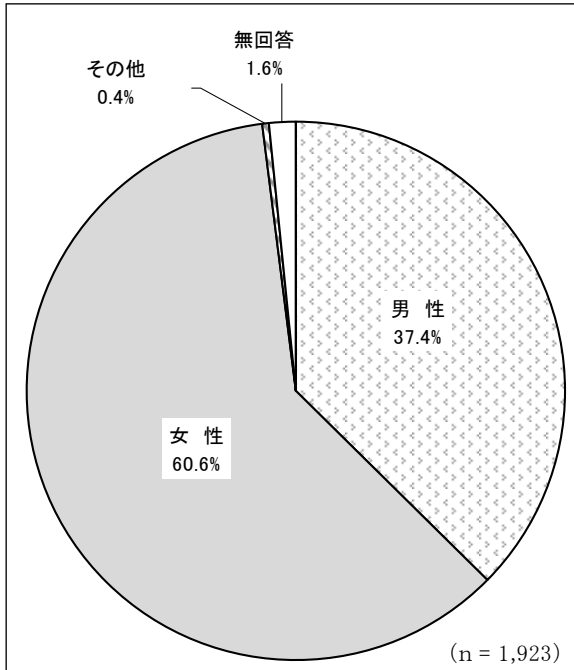
- ★ (1) 区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先
- (2) 情報を入手しやすいデジタル媒体
- (3) 新型コロナウイルスのワクチン接種予約申し込み支援の認知度
- (4) スマートフォンの活用状況

グラフの見方

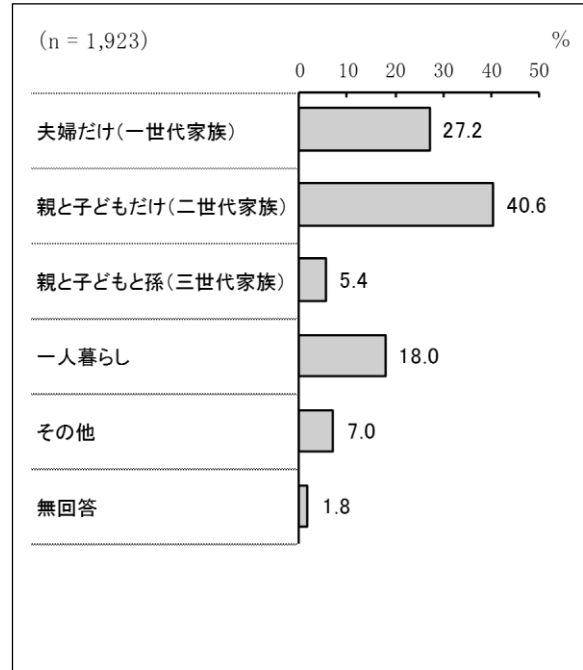
- 1 (複数回答) と記述されたもの以外は、選択肢を1つだけ選ぶ設問です。
- 2 小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならないものがあります。
- 3 複数回答の設問については、合計が100.0%を超えることがあります。
- 4 グラフ中のnは、設問の回答者数を表します。

回答者の属性

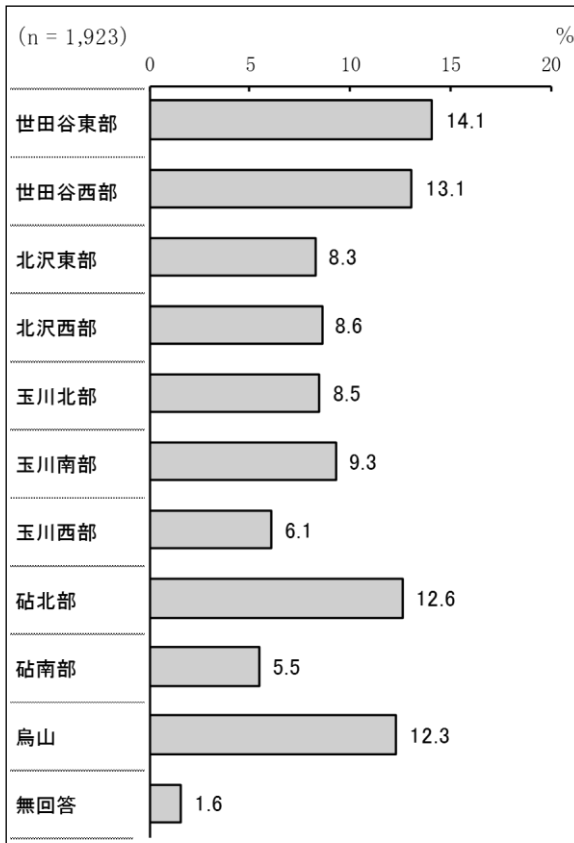
(1) 性別



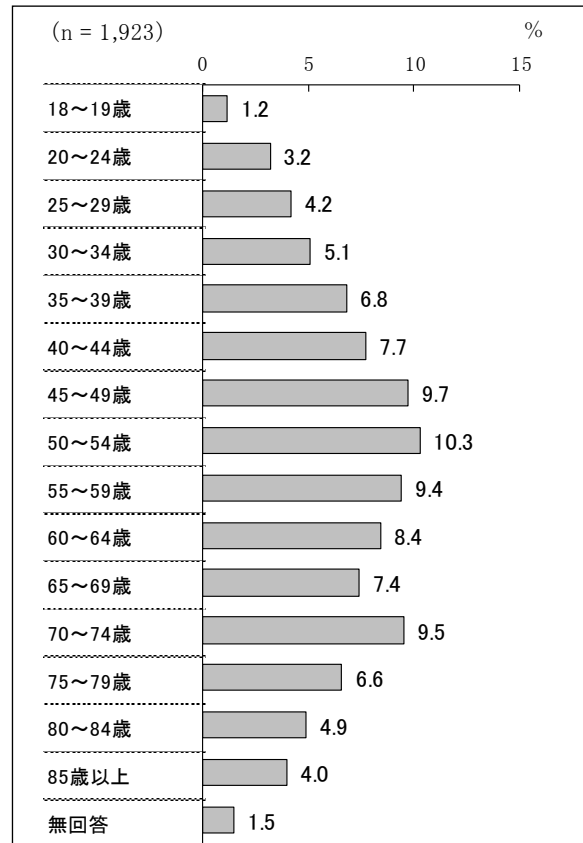
(2) 家族構成



(3) 居住地区



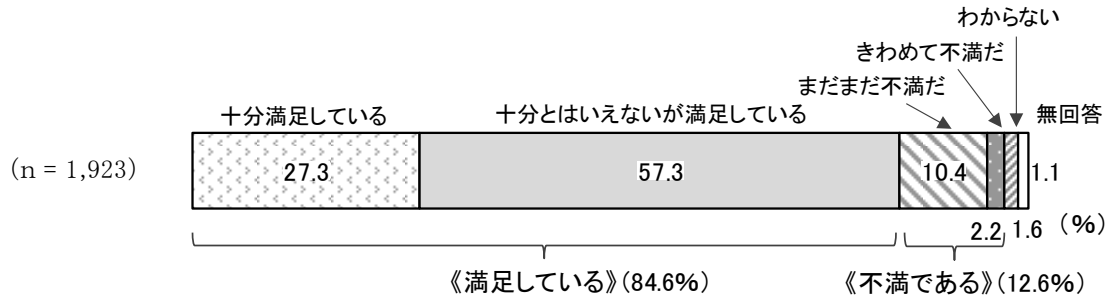
(4) 年齢



1. 定住性

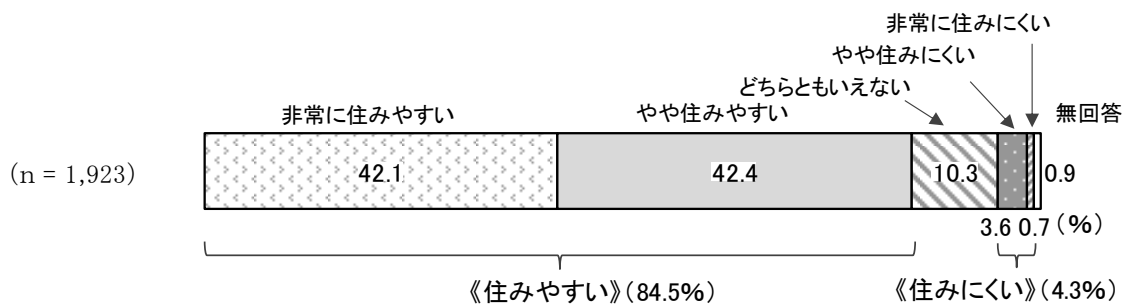
●暮らしの満足度

現在の暮らしについて、《満足している》と感じている方は84.6%となっています。



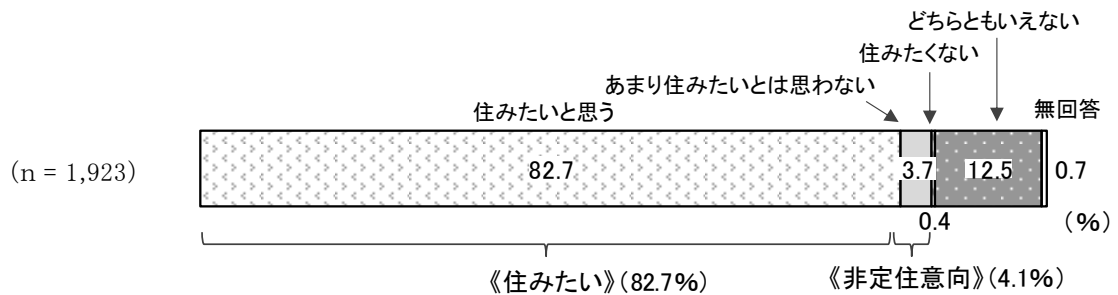
●住みやすさ

《住みやすい》と感じている方は84.5%となっています。



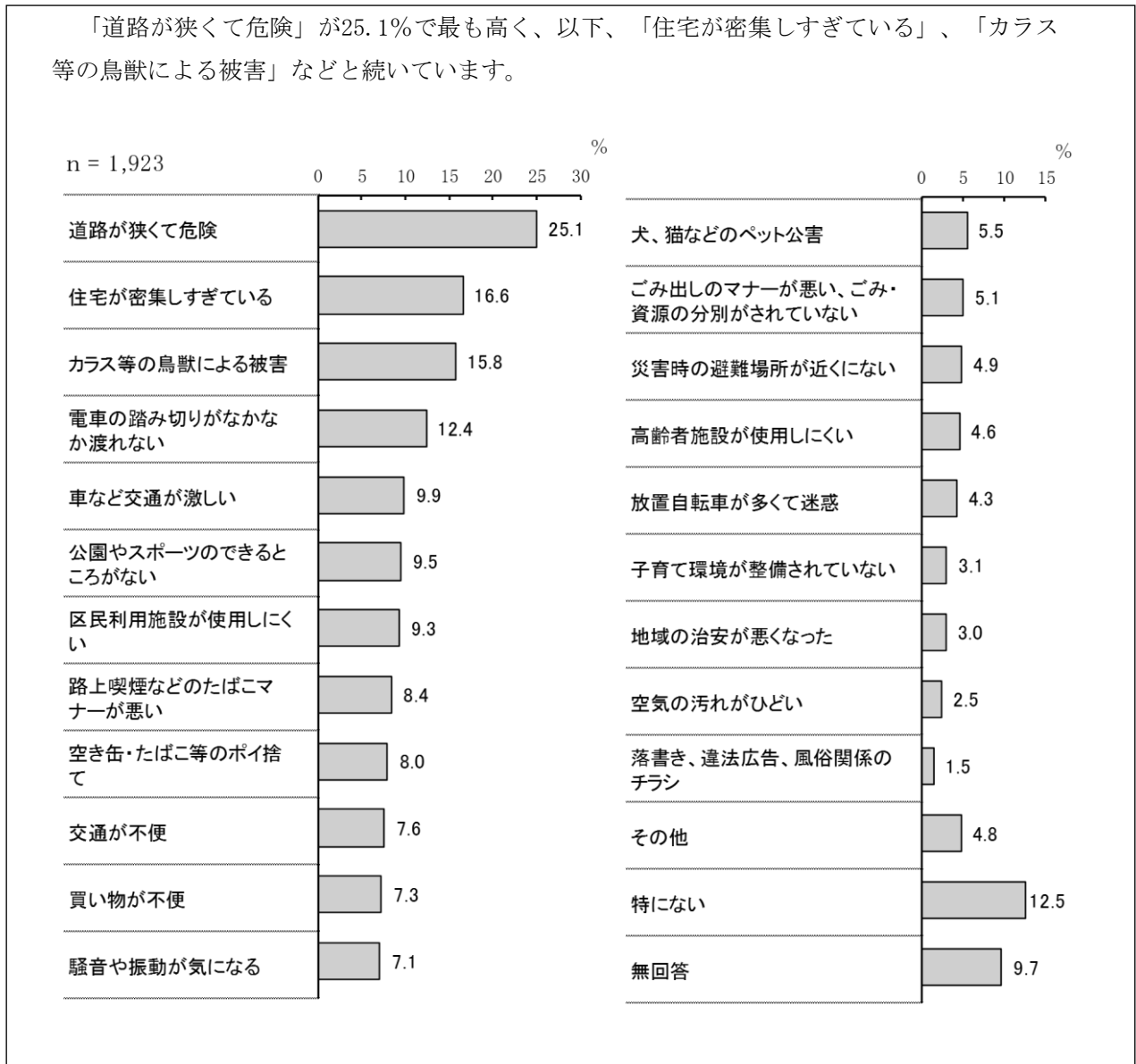
●定住意向

今後も世田谷区に「住みたいと思う」方は82.7%となっています。



●地域における日常生活での困りごと（複数回答）

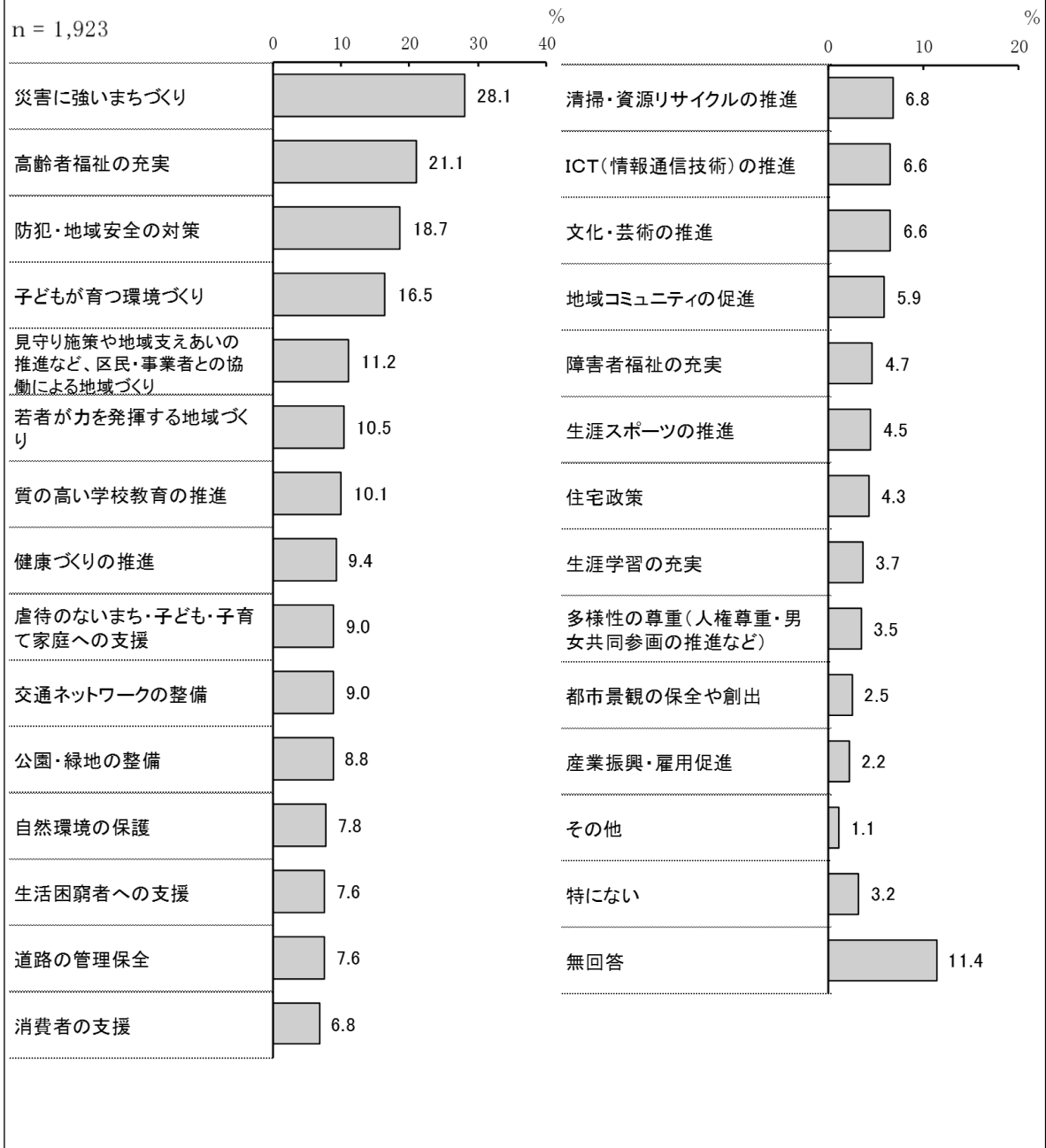
「道路が狭くて危険」が25.1%で最も高く、以下、「住宅が密集しすぎている」、「カラス等の鳥獣による被害」などと続いています。



2. 区政

●区が積極的に取り組むべき事業（複数回答）

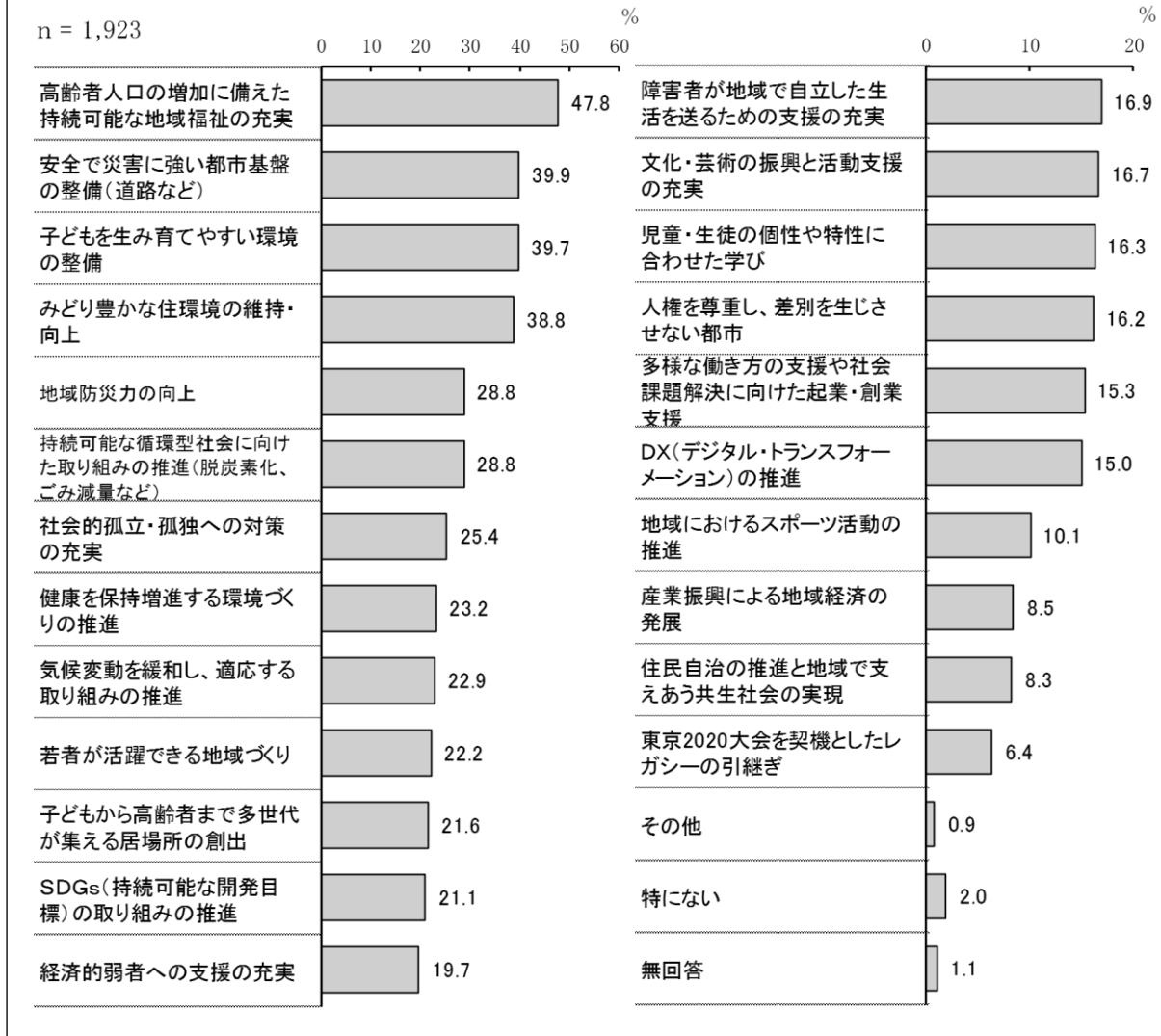
「災害に強いまちづくり」が28.1%で最も高く、以下、「高齢者福祉の充実」、「防犯・地域安全の対策」などと続いています。



3. 区の基本計画

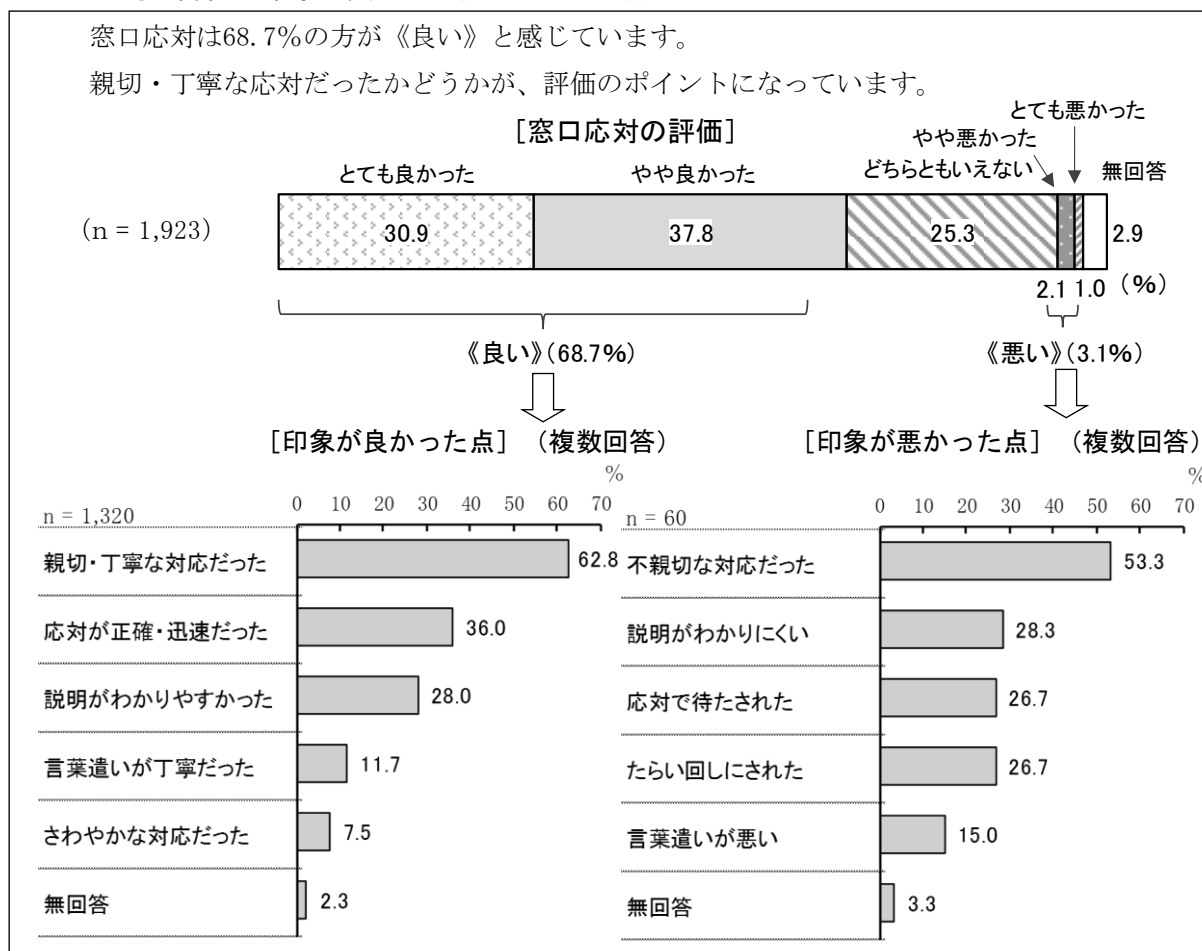
●次期基本計画で期待する取り組み（複数回答）

「高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実」が47.8%で最も高く、以下、「安全で災害に強い都市基盤の整備（道路など）」、「子どもを生き育てやすい環境の整備」、「みどり豊かな住環境の維持・向上」などと続いています。

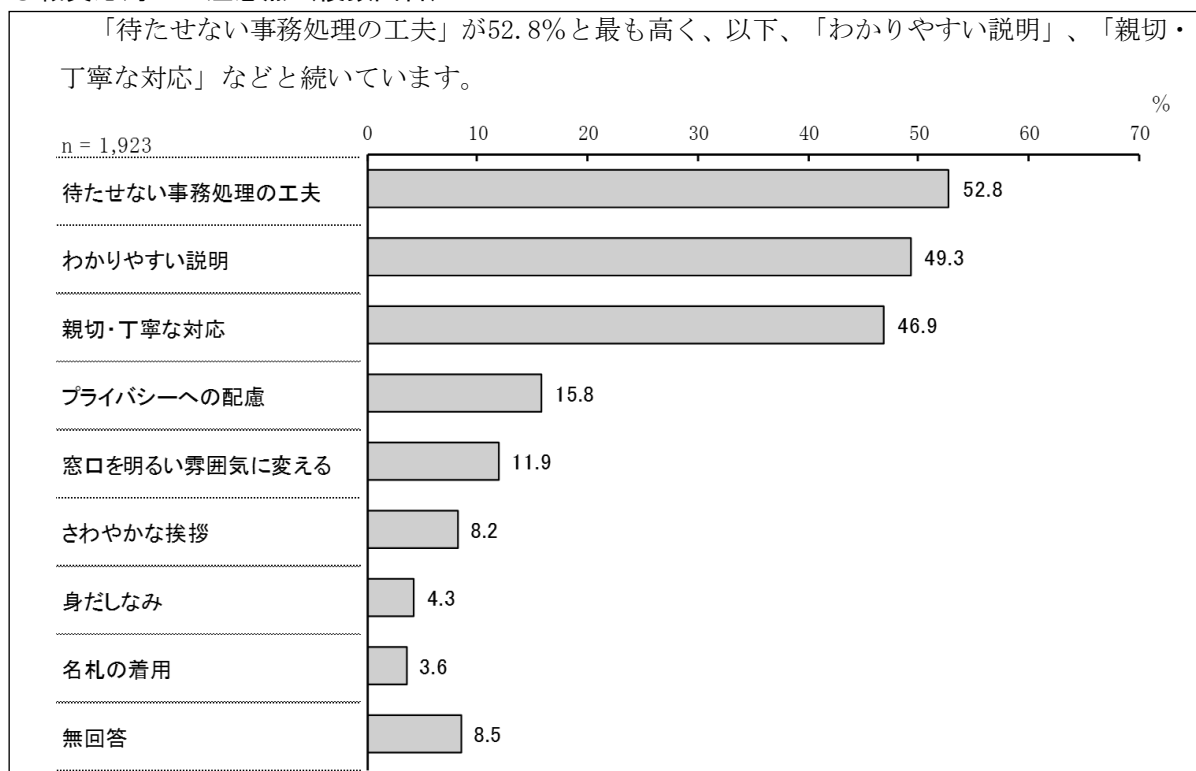


4. 職員応対

●窓口対応の評価と印象が良かった点・悪かった点



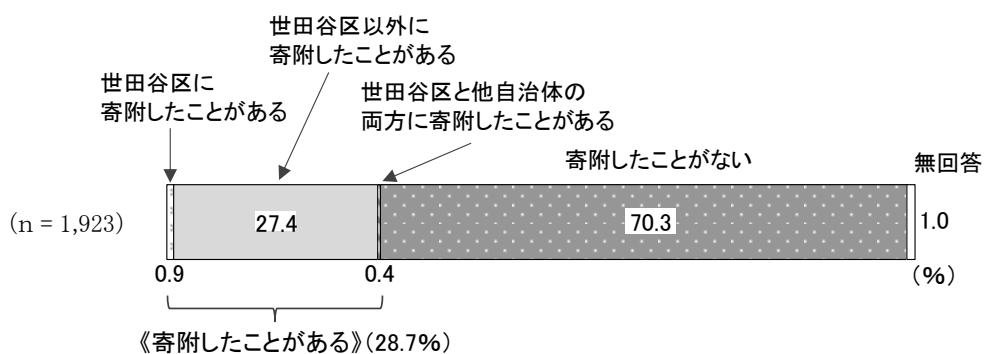
●職員対応での注意点 (複数回答)



5. ふるさと納税

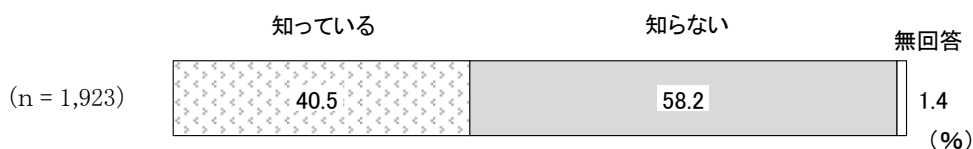
● 「ふるさと納税」の経験

「ふるさと納税」の経験については、《寄附したことがある》人は28.7%となっていますが、その多くは「世田谷区以外に寄附したことがある」人で、世田谷区に寄附したことがある人は1.3%となっています。



● 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度

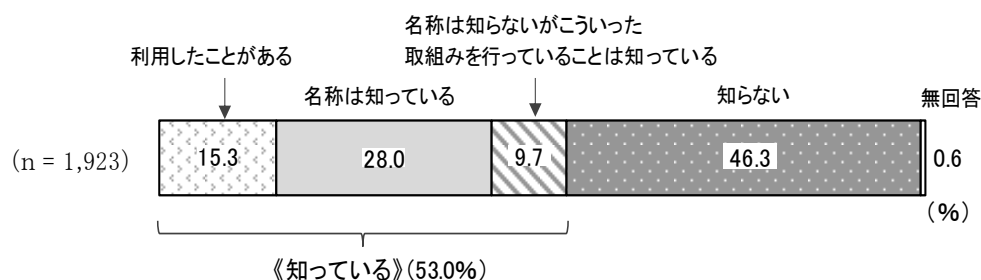
「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度については、「知っている」が40.5%、「知らない」が58.2%となっています。



6. 福祉と医療

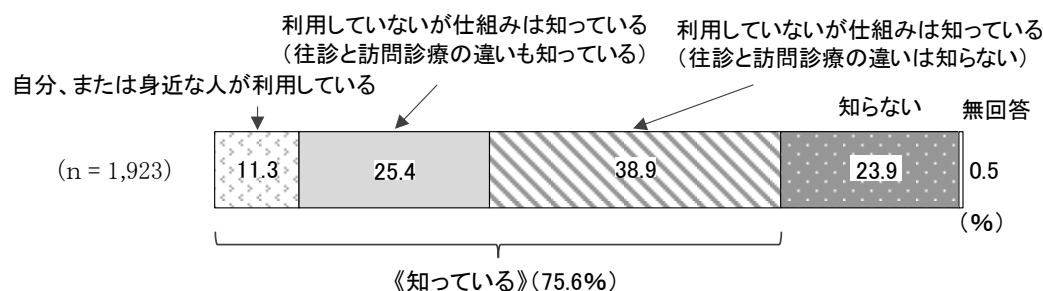
● 「福祉の相談窓口」の認知度

「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(28.0%)、「利用したことがある」(15.3%)、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」(9.7%)を合わせた《知っている》が53.0%、「知らない」が46.3%となっています。



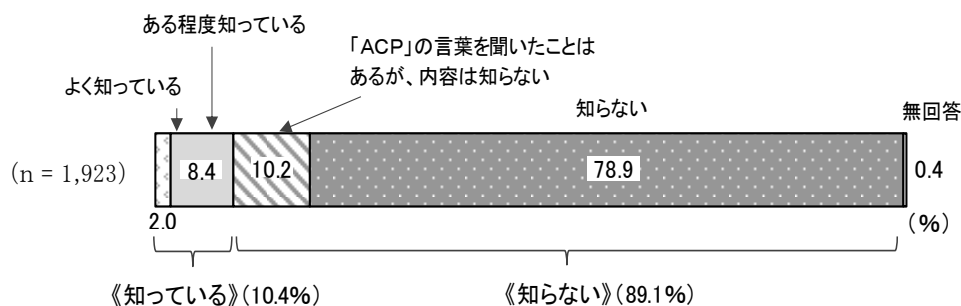
● 「在宅医療」の認知度

「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いは知らない)」(38.9%)、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いも知っている)」(25.4%)、「自分、または身近な人が利用している」(11.3%)を合わせた《知っている》が75.6%、「知らない」が23.9%となっています。



● 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

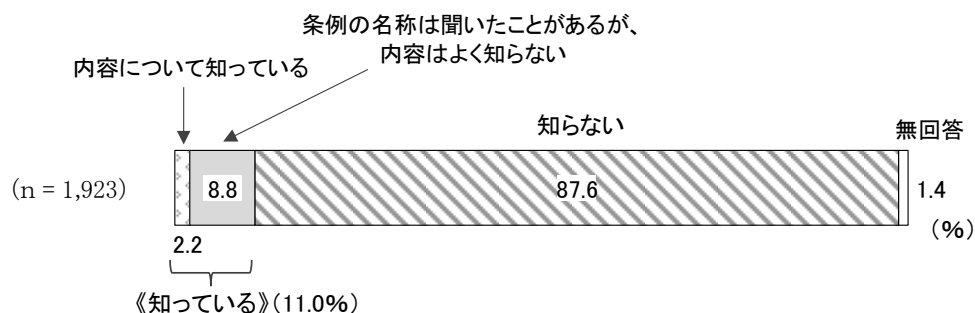
「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度を聞いたところ、「ある程度知っている」(8.4%)、「よく知っている」(2.0%)を合わせた《知っている》が10.4%、「「ACP」の言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」(10.2%)、「知らない」(78.9%)を合わせた《知らない》が89.1%となっています。



7. 認知症

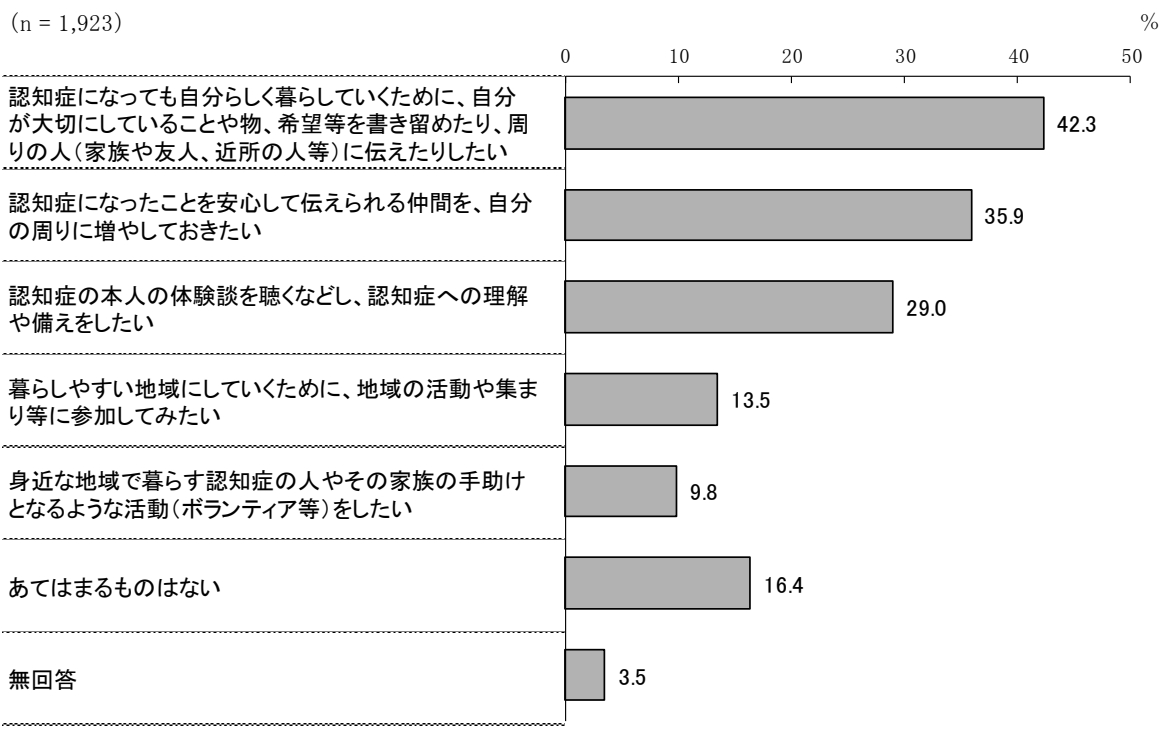
●「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度

「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度を聞いたところ、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」(8.8%)、「内容について知っている」(2.2%)を合わせた《知っている》が11.0%、「知らない」が87.6%となっています。



●認知症になっても暮らしやすくするための活動

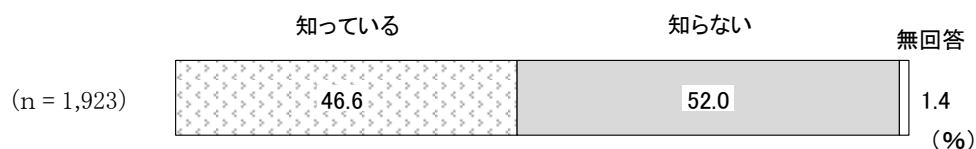
認知症になっても暮らしやすくするための活動を聞いたところ、「認知症になっても自分らしく暮らしていくために、自分が大切にしていることや物、希望等を書き留めたり、周りの人(家族や友人、近所の人等)に伝えたい」が42.3%と最も高く、「認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい」、「認知症の本人の体験談を聴くなどし、認知症への理解や備えをしたい」などと続いています。



8. 悩みや不安の相談先

●相談できる医療機関や行政窓口の認知度

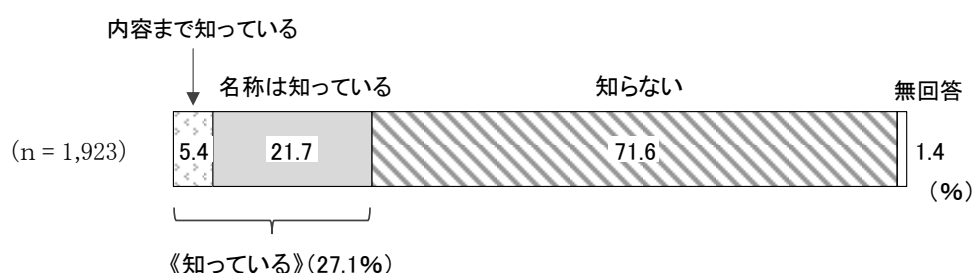
相談できる医療機関や行政窓口の認知度を聞いたところ、「知っている」が46.6%、「知らない」が52.0%となっています。



9. 障害者を支える取り組み

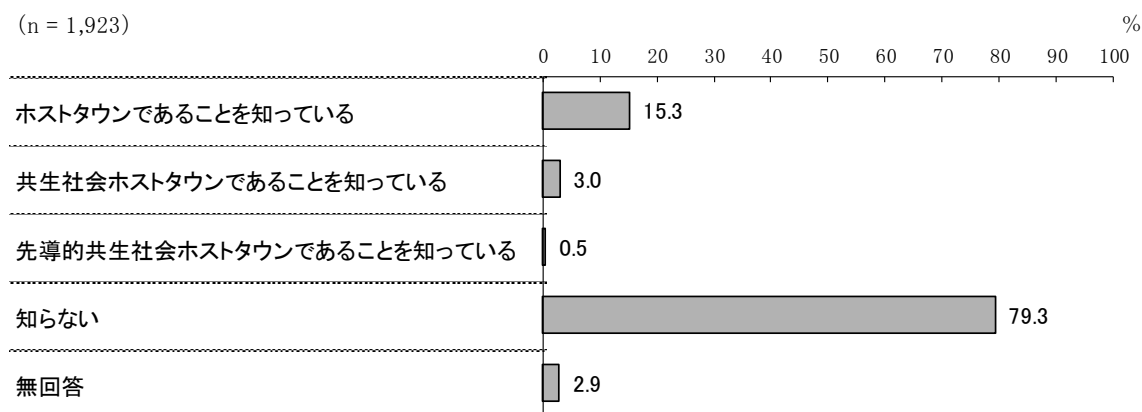
●障害者差別解消法の認知度

障害者差別解消法の認知度を聞いたところ、「内容まで知っている」(5.4%)と「名称は知っている」(21.7%)を合わせた《知っている》が27.1%、「知らない」が71.6%となっています。



●共生社会ホストタウンの認知度（複数回答）

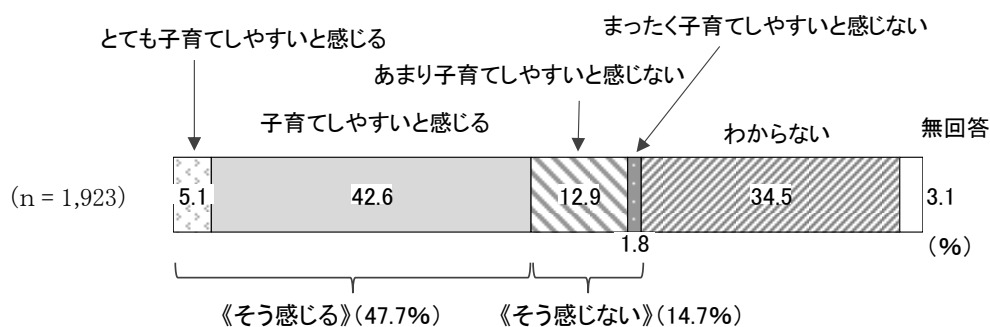
「知らない」が79.3%と最も高く、以下、「ホストタウンであることを知っている」、「共生社会ホストタウンであることを知っている」などと続いています。



10. 子育て・子どもを取り巻く環境

●区の子育て環境

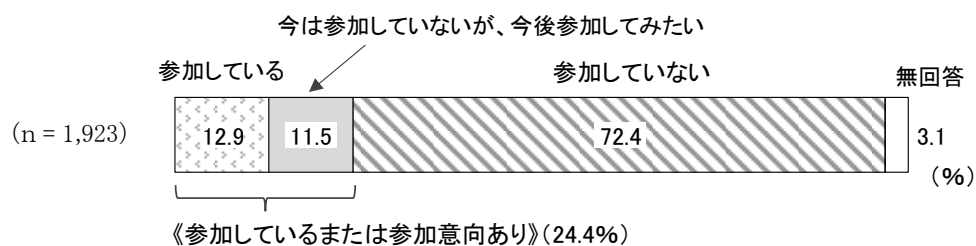
世田谷区の子育て環境について聞いたところ、「とても子育てしやすいと感じる」(5.1%)と「子育てしやすいと感じる」(42.6%)を合わせた《そう感じる》が47.7%、「あまり子育てしやすいと感じない」(12.9%)と「まったく子育てしやすいと感じない」(1.8%)を合わせた《そう感じない》が14.7%となっています。



11. 地域コミュニティ

●地域活動への参加経験・参加意向

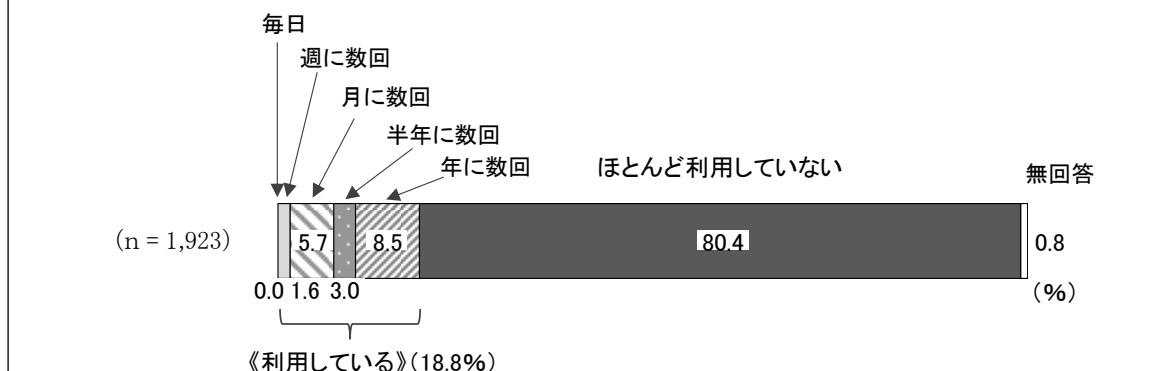
身近な地域の活動に参加しているかどうかを聞いたところ、「参加している」(12.9%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(11.5%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》が24.4%となっています。「参加していない」が72.4%となっています。



12. 公共施設

●区民利用施設の利用頻度

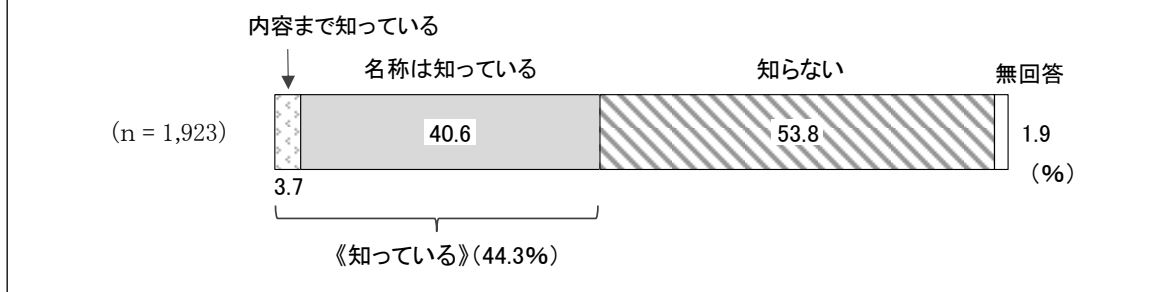
区民利用施設（地区会館や区民集会所）の利用頻度を聞いたところ、「毎日」（0.0%）、「週に数回」（1.6%）、「月に数回」（5.7%）、「半年に数回」（3.0%）、「年に数回」（8.5%）を合わせた《利用している》が18.8%、「ほとんど利用していない」が80.4%となっています。



13. 災害時の備え

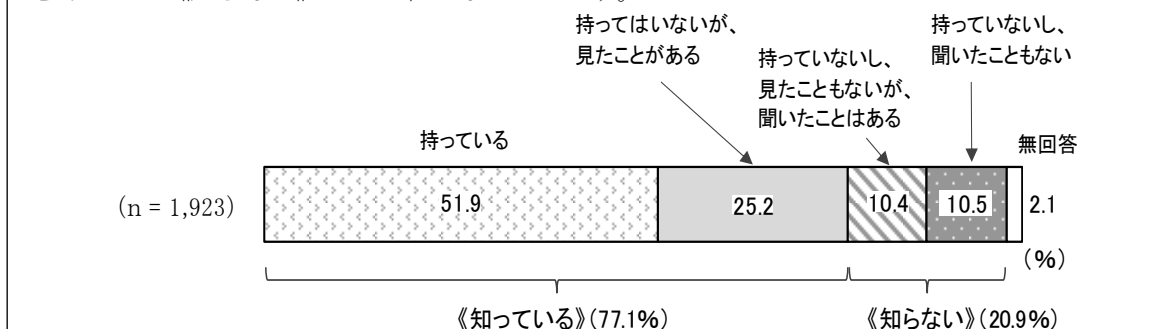
●地区防災計画の認知度

地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（40.6%）と「内容まで知っている」（3.7%）を合わせた《知っている》が44.3%、「知らない」が53.8%となっています。



●ハザードマップの認知度

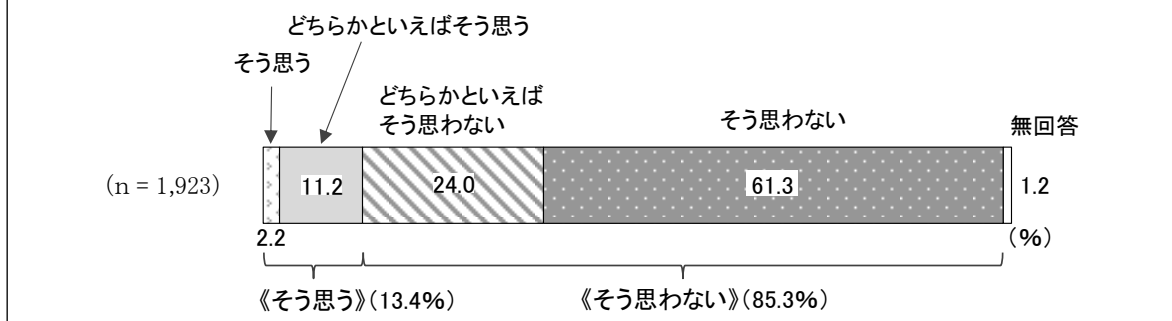
ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」（51.9%）と「持ってはいないが、見たことがある」（25.2%）を合わせた《知っている》が77.1%、「持ってはいないし、見たこともないが、聞いたことはある」（10.4%）と「持ってはいないし、聞いたこともない」（10.5%）をあわせた《知らない》が20.9%となっています。



14. 男女共同参画の推進

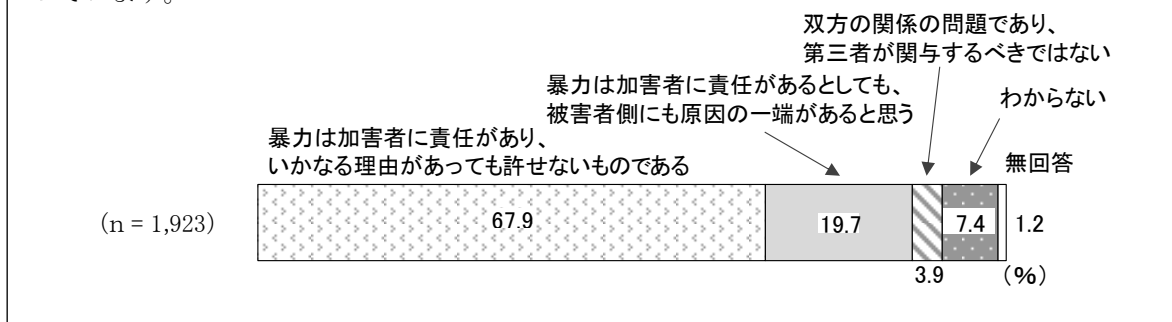
● 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、《そう思う》が13.4%、《そう思わない》が85.3%となっています。



● 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

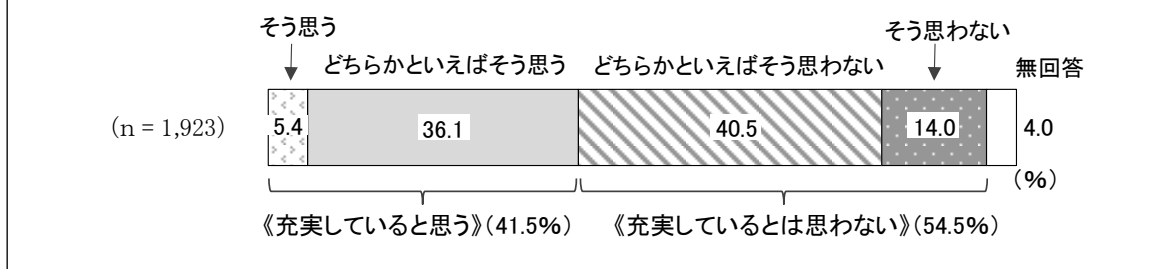
「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が67.9%と最も高く、次いで、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が19.7%となっています。



15. 多文化共生

● 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

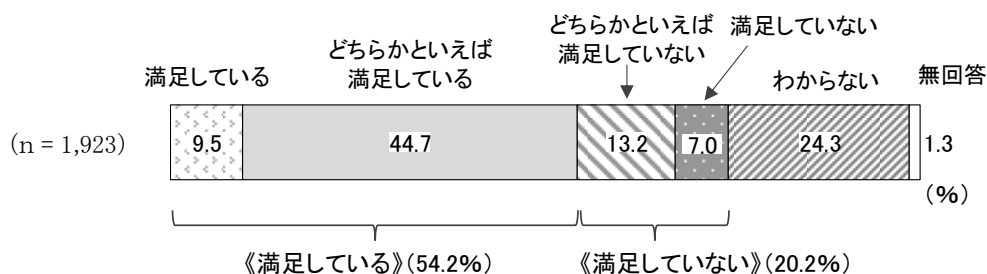
区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度を聞いたところ、《充実していると思う》が41.5%、《充実しているとは思わない》が54.5%となっています。



16. 文化活動

●区内の文化資源環境への満足度

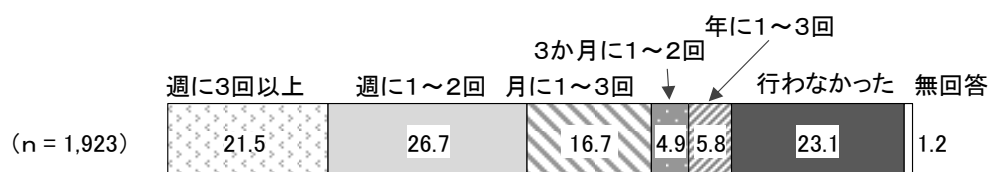
区内の文化資源環境への満足度を聞いたところ、《満足している》が54.2%、《満足していない》が20.2%となっています。



17. スポーツ

●この1年間に行ったスポーツや運動の回数

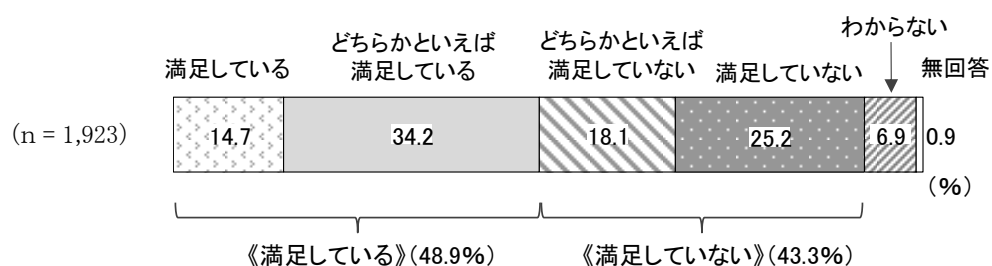
この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に1～2回」が26.7%で最も高く、以下、「週に3回以上」、「月に1～3回」などと続いています。



18. たばこマナー

●居住地域におけるたばこマナーの満足度

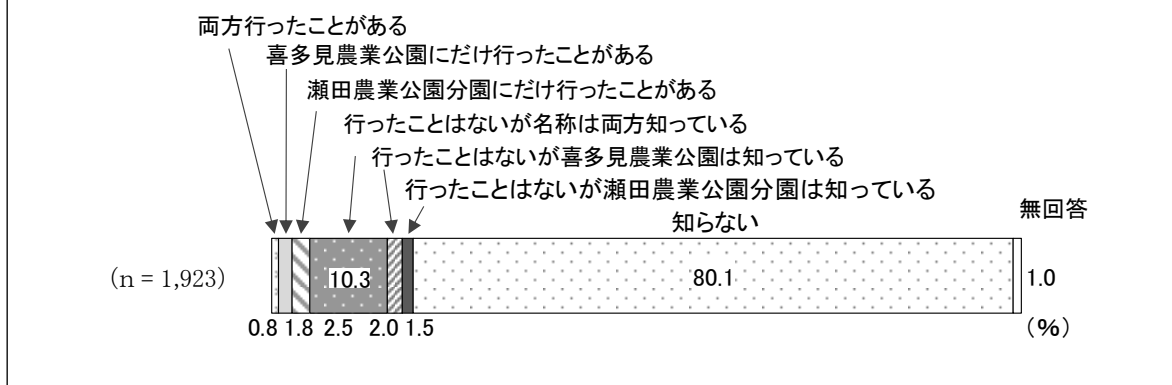
居住地域におけるたばこマナーの満足度を聞いたところ、《満足していない》が43.3%、《満足している》が48.9%となっています。



19. 農業

●農業公園の認知度

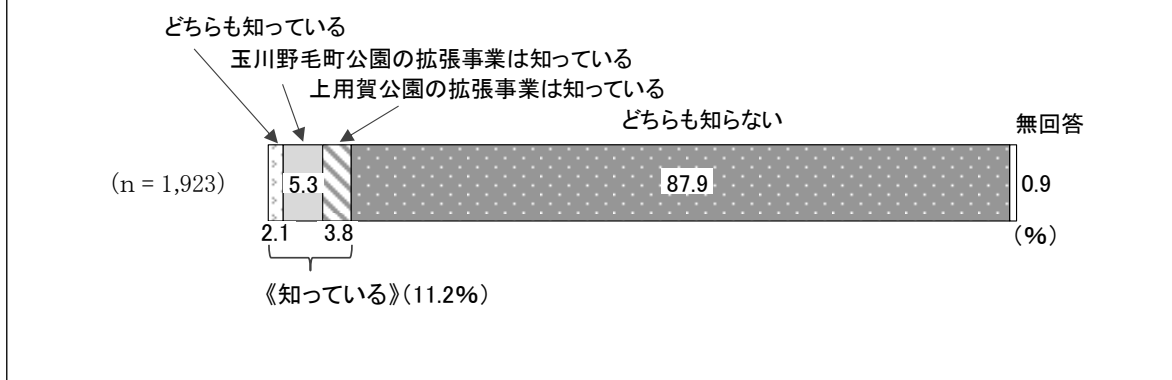
農業公園の認知度を聞いたところ、「知らない」が80.1%を占め、「行ったことはないが名称は両方知っている」が10.3%となっています。



20. 公園

●公園拡張事業の認知度

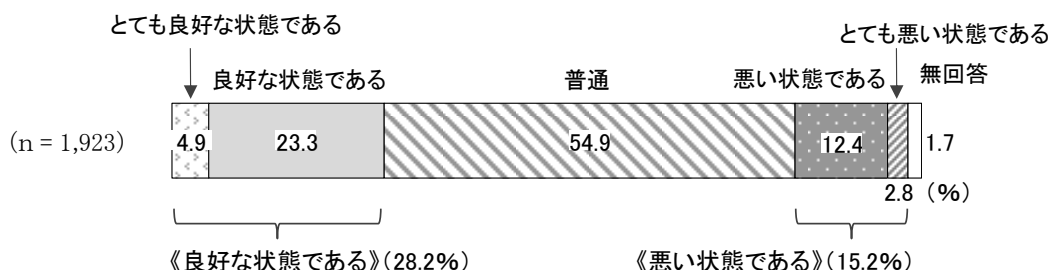
公園拡張事業の認知度を聞いたところ、「どちらも知らない」が87.9%と多数を占めています。「どちらも知っている」(2.1%)と「玉川野毛町公園の拡張事業は知っている」(5.3%)、「上用賀公園の拡張事業は知っている」(3.8%)を合わせた《知っている》は11.2%となっています。



21. 区道の舗装

●舗装に関する満足度

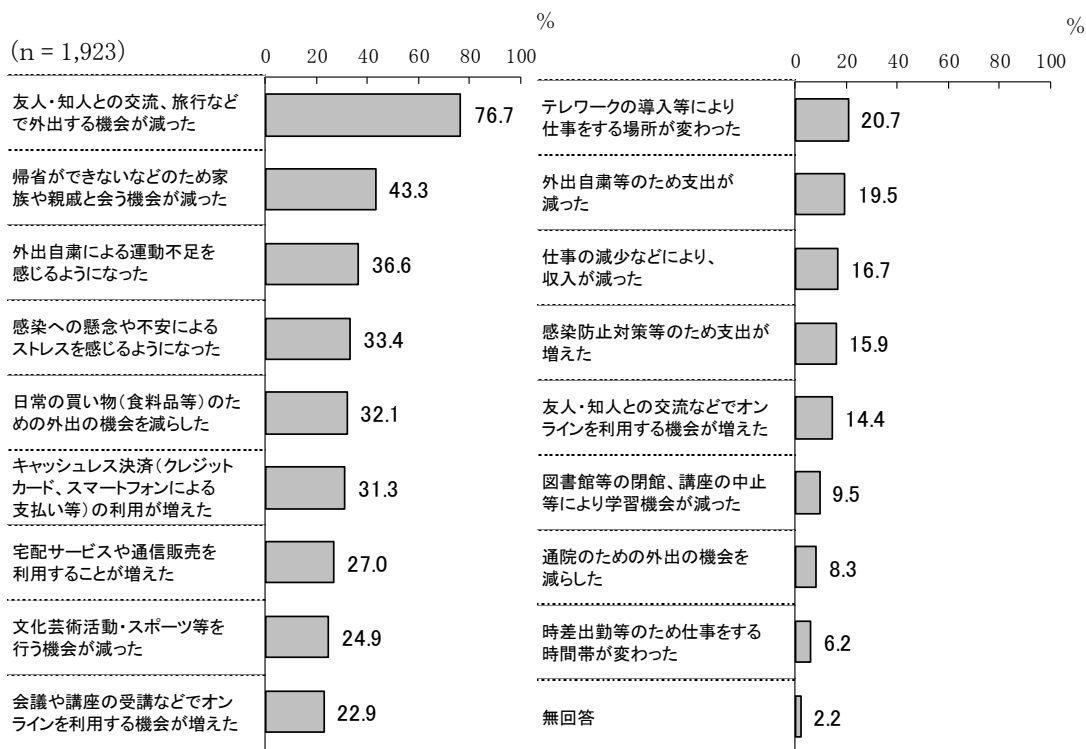
舗装に関する満足度を聞いたところ、《良好な状態である》が28.2%、「普通」が54.9%、《悪い状態である》が15.2%となっています。



22. 新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響（複数回答）

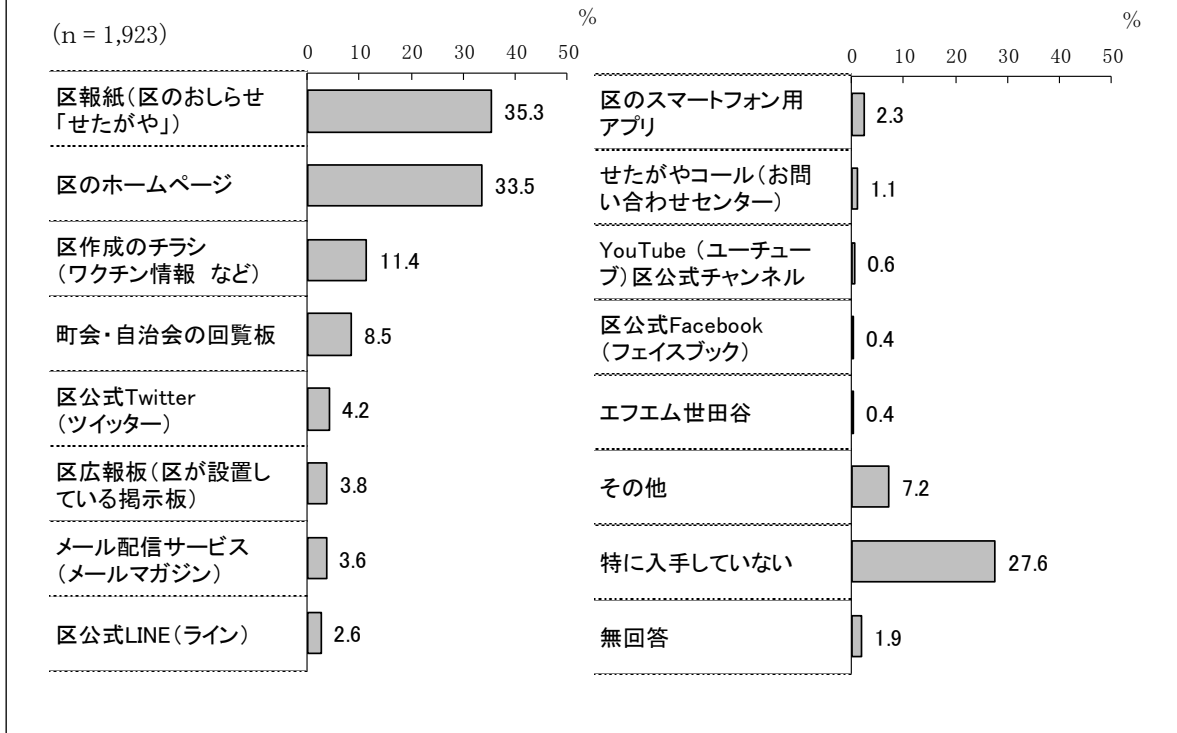
新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響は、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」が76.7%で最も高く、以下、「帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った」、「外出自粛による運動不足を感じるようになった」、「感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった」、「日常の買い物（食料品等）のための外出の機会を減らした」、「キャッシュレス決済（クレジットカード、スマートフォンによる支払い等）の利用が増えた」などと続いています。



23. 区の情報発信

●区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先（複数回答）

区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先は、「区報紙（区のおしらせ「せたがや）」が35.3%で最も高く、以下、「区のホームページ」、「区作成のチラシ（ワクチン情報など）」などと続いています。



世田谷区民意識調査2022（概要版）

令和4年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 2095）

発行 世田谷区政策経営部広報広聴課
 東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号
 電話：03（5432）2014
 ファクシミリ：03（5432）3001

実施 株式会社名豊
 愛知県名古屋市中区松原2丁目2番33号
 電話：052（322）0071（代表）
 ファクシミリ：052（322）0130

世田谷区民意識調査 2022

(令和4年5月実施)



はじめに

世田谷区では、日頃より、様々な形で区民の皆様から区政に対するご意見・ご要望をお聴かせいただいています。

区民意識調査も、こうした広聴事業のひとつとして、区政に対するニーズや意識とその変化を把握するために毎年実施しているもので、今回で48回目となります。

本書は、本年実施した区民意識調査の結果を取りまとめたものです。今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「区の基本計画」「認知症」「新型コロナウイルス感染症」などに関する項目を調査対象といたしました。

この調査結果を今後の事業の見直しや政策立案の参考とさせていただくとともに、引き続き区民の皆様へのわかりやすい情報提供・情報発信に努め、行政への理解や関心を深めていただき、区民参加を更に推進してまいります。

最後に、調査実施にあたりまして、ご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

令和4年9月

世田谷区

目 次

調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 標本設計	1
5. 回収結果	4
6. この報告書のみかた	5
7. 標本誤差	6

標本構成

1. 標本構成	7
---------	---

質問と回答	11
-------	----

調査結果

1. 定住性	33
(1) 居住年数	33
(2) 暮らしの満足度	37
(3) 住みやすさ	43
(4) 定住意向	48
(5) 定住意向理由	54
(6) 非定住意向理由	59
(7) 地域における日常生活での困りごと	61
2. 区政	66
(1) 区が積極的に取り組むべき事業	66
3. 区の基本計画	70
(1) 基本計画の「6つの重点政策」の中で取り組みが進展したもの	70
(2) 次期基本計画で期待する取り組み	72
(3) 区政への参加や地域で活動する際、区に期待する取り組み	74
4. 職員対応	76
(1) 窓口対応	76
(2) 印象が良かった点	79

(3) 印象が悪かった点	82
(4) 職員対応での注意点	84
5. ふるさと納税	87
(1) 「ふるさと納税」の経験	87
(2) 「ふるさと納税」をした理由	90
(3) 「ふるさと納税」をしない理由	93
(4) 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度	96
6. 福祉と医療	99
(1) 「福祉の相談窓口」の認知度	99
(2) 介護や医療必要時の居住意向	103
(3) 「在宅医療」の認知度	107
(4) 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度	111
(5) 人生の最終段階に関する話し合いについて	114
7. 認知症	117
(1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度	117
(2) 認知症についての印象	120
(3) 認知症になった場合の暮らし方	123
(4) 認知症になっても暮らしやすくするための活動	126
8. 悩みや不安の相談先	129
(1) 相談できる医療機関や行政窓口の認知度	129
(2) 悩みや不安の相談先	132
9. 障害者を支える取り組み	135
(1) 障害者差別解消法の認知度	135
(2) 共生社会ホストタウンの認知度	138
10. 子育て・子どもを取り巻く環境	140
(1) 区の子育て環境	140
(2) 子育てについて相談できる人の有無	144
(3) 「世田谷版ネウボラ」の認知度	147
(4) 子どもの外遊びへの大人の関わりについて	150
11. 地域コミュニティ	153
(1) 地域活動への参加経験・参加意向	153
(2) 参加している地域団体	157

(3) 参加している地域活動の種類	160
(4) 町会・自治会への加入状況	163
(5) 町会・自治会に加入しない理由	167
(6) 町会・自治会に期待するもの	171
12. 公共施設	174
(1) 区民利用施設の利用頻度	174
(2) 区民利用施設を利用しない理由	177
13. 災害時の備え	180
(1) 防災への対処	180
(2) 水や食料の備蓄について	188
(3) 地区防災計画の認知度	192
(4) ハザードマップの認知度	196
(5) ハザードマップの活用状況	201
14. 男女共同参画の推進	205
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	205
(2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度	209
(3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方	213
(4) DV被害にあったときの相談先	216
(5) 性的マイノリティという言葉の認知度	219
15. 多文化共生	222
(1) 区が多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度	222
16. 文化活動	226
(1) 区内の文化資源の認知度	226
(2) 区内の文化資源環境への満足度	231
17. スポーツ	234
(1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数	234
(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツ実施環境の変化	238
(3) 今後のスポーツ施設整備について	240
18. たばこマナー	243
(1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度	243

19. 農業	247
(1) 農業公園の認知度	247
20. 公園	251
(1) 公園拡張事業の認知度	251
21. 区道の舗装	254
(1) 舗装に関する満足度	254
(2) 舗装状態が悪い理由	257
22. 新型コロナウイルス感染症	258
(1) 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響	258
(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴うコミュニケーションの機会について	261
23. 区の情報発信	264
(1) 区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先	264
(2) 情報を入手しやすいデジタル媒体	267
(3) 新型コロナウイルスのワクチン接種予約申し込み支援の認知度	270
(4) スマートフォンの活用状況	273

調 査 概 要

1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

- | | |
|---------------------|-------------------|
| (1) 定住性 | (13) 災害時の備え |
| (2) 区政 | (14) 男女共同参画の推進 |
| (3) 区の基本計画 | (15) 多文化共生 |
| (4) 職員対応 | (16) 文化活動 |
| (5) ふるさと納税 | (17) スポーツ |
| (6) 福祉と医療 | (18) たばこマナー |
| (7) 認知症 | (19) 農業 |
| (8) 悩みや不安の相談先 | (20) 公園 |
| (9) 障害者を支える取り組み | (21) 区道の舗装 |
| (10) 子育て・子どもを取り巻く環境 | (22) 新型コロナウイルス感染症 |
| (11) 地域コミュニティ | (23) 区の情報発信 |
| (12) 公共施設 | |

3. 調査設計

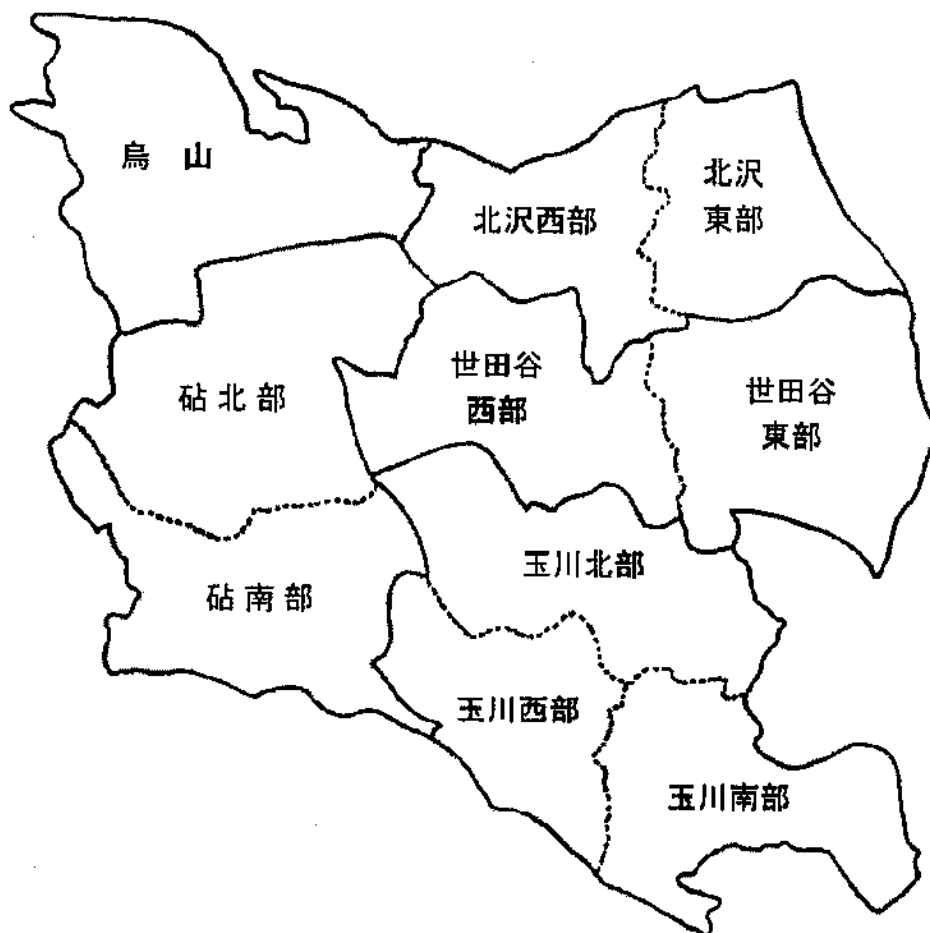
- | | |
|----------|--------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満18歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 4,000人（内訳／3,901人、外国籍99人） |
| (3) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・回収またはインターネットによる回答 |
| (5) 調査期間 | 令和4年5月19日～6月2日 |
| (6) 調査機関 | 株式会社名豊 |

4. 標本設計

- | | |
|-----------|------------------|
| (1) 母集団 | 世田谷区在住の満18歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 4,000人 |
| (3) 調査地点数 | 200地点 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |

【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



【標本数の配分】

各地域（層）における18歳以上の人口数（令和4年4月1日現在）により、4,000の標本数を配分した。

【抽 出】

- ① 調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が20になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。
- ② 調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$
 を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。
- ③ 対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目指定された起算番号目の人を第1番目の抽出対象とし、以下一定の抽出間隔で指定の対象数20を系統的に抽出した。

地域別町丁名一覧表

地域	町丁目	地域	町丁目			
世田谷東部	池尻	1～4丁目	玉川南部	奥沢	1～8丁目	
	下馬	1～6丁目		東玉川	1～2丁目	
	三宿	1～2丁目		玉川田園調布	1～2丁目	
	太子堂	1～5丁目		等々力	1～8丁目	
	三軒茶屋	1～2丁目		尾山台	1～3丁目	
	野沢	1～4丁目		玉堤	1～2丁目	
	若林	1～5丁目		玉川西部	中町	1～5丁目
	上馬	1～5丁目			野毛	1～3丁目
	駒沢	1～2丁目			瀬田	1～5丁目
		上野毛	1～4丁目			
世田谷西部	世田谷	1～4丁目	玉川	1～4丁目		
	弦巻	1～5丁目	砧北部	船橋	1～7丁目	
	宮坂	1～3丁目		千歳台	1～6丁目	
	桜	1～3丁目		祖師谷	1～6丁目	
	経堂	1～5丁目		砧	1～8丁目	
	桜丘	1～5丁目		成城	1～9丁目	
北沢東部	北沢	1～5丁目	砧南部	大蔵	1～6丁目	
	代沢	1～5丁目		砧公園		
	大原	1～2丁目		岡本	1～3丁目	
	羽根木	1～2丁目		鎌田	1～4丁目	
	代田	1～6丁目	喜多見	1～9丁目		
北沢西部	松原	1～6丁目	宇奈根	1～3丁目		
	梅丘	1～3丁目	烏山	八幡山	1～3丁目	
	豪徳寺	1～2丁目		南烏山	1～6丁目	
	赤堤	1～5丁目		粕谷	1～4丁目	
	桜上水	1～5丁目		北烏山	1～9丁目	
		給田		1～5丁目		
玉川北部	駒沢公園		上祖師谷	1～7丁目		
	駒沢	3～5丁目	上北沢	1～5丁目		
	新町	1～3丁目				
	深沢	1～8丁目				
	桜新町	1～2丁目				
	用賀	1～4丁目				
	上用賀	1～6丁目				
	玉川台	1～2丁目				

5. 回収結果

(1) 有効回収数 1,923人 (内訳/日本国籍 1,896人、外国籍 27人)

(2) 有効回収率 48.1%

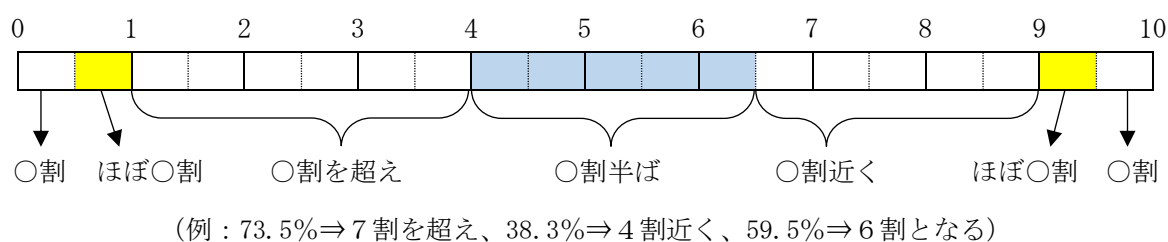
(内訳/郵送回収 1,300通・67.6%、インターネット回収 623通・32.4%)

回収結果内訳 (人口は令和4年4月1日現在)

			標本数A	調査 地点数	18歳以上の人口数(母集団)	回収数B	回収率 C=B/A
全体			4,000	200	789,099	1,923	48.1%
地区	世田谷	東部	660	33	130,171	271	41.1%
		西部	460	23	90,484	251	54.6%
	北沢	東部	340	17	65,874	160	47.1%
		西部	360	18	69,631	165	45.8%
	玉川	北部	360	18	72,811	164	45.6%
		南部	340	17	68,123	178	52.4%
		西部	260	13	51,214	118	45.4%
	砧	北部	500	25	96,737	242	48.4%
		南部	200	10	40,487	106	53.0%
	烏山			520	26	103,567	237
無回答			-	-	-	31	-
性別×年齢	男性	計	1,859	-	368,221	720	38.7%
		10歳代・20歳代	333	-	63,662	63	18.9%
		30歳代	321	-	60,951	81	25.2%
		40歳代	349	-	72,751	123	35.2%
		50歳代	338	-	68,328	155	45.9%
		60歳代	225	-	43,419	123	54.7%
		70歳代	176	-	36,333	110	62.5%
		80歳以上	117	-	22,777	65	55.6%
		無回答	-	-	-	0	-
	女性	計	2,141	-	420,878	1,165	54.4%
		10歳代・20歳代	357	-	67,884	101	28.3%
		30歳代	334	-	67,251	145	43.4%
		40歳代	401	-	79,958	211	52.6%
		50歳代	345	-	72,354	224	64.9%
		60歳代	235	-	45,810	178	75.7%
		70歳代	275	-	44,670	199	72.4%
80歳以上		194	-	42,951	106	54.6%	
無回答	-	-	-	1	-		
その他			-	-	-	7	-

6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。
- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は1つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
- (5) 基数が30に満たないデータについては参考値とする。
- (6) 数値を考察するにあたり、割合の表現は以下のとおりとしている。



7. 標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

$$(\text{標本誤差}) \quad b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

<p>N=母集団（世田谷区全体） n=比率算出の基礎（サンプル数） p=回答比率</p>
--

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の

標本誤差早見表のとおり求められる。

標本誤差早見表

基数(n)		回答比率(P)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
総数		1,923	± 1.9%	± 2.6%	± 3.0%	± 3.2%	± 3.2%	
地域	世田谷	東部	271	± 5.1%	± 6.9%	± 7.9%	± 8.4%	± 8.6%
		西部	251	± 5.3%	± 7.1%	± 8.2%	± 8.7%	± 8.9%
	北沢	東部	160	± 6.7%	± 8.9%	± 10.2%	± 10.9%	± 11.2%
		西部	165	± 6.6%	± 8.8%	± 10.1%	± 10.8%	± 11.0%
	玉川	北部	164	± 6.6%	± 8.8%	± 10.1%	± 10.8%	± 11.0%
		南部	178	± 6.4%	± 8.5%	± 9.7%	± 10.4%	± 10.6%
		西部	118	± 7.8%	± 10.4%	± 11.9%	± 12.7%	± 13.0%
	砧	北部	242	± 5.4%	± 7.3%	± 8.3%	± 8.9%	± 9.1%
		南部	106	± 8.2%	± 11.0%	± 12.6%	± 13.4%	± 13.7%
	烏山		237	± 5.5%	± 7.3%	± 8.4%	± 9.0%	± 9.2%
性別	男性	720	± 3.2%	± 4.2%	± 4.8%	± 5.2%	± 5.3%	
	女性	1,165	± 2.5%	± 3.3%	± 3.8%	± 4.1%	± 4.1%	
年代	10・20歳代	167	± 6.6%	± 8.7%	± 10.0%	± 10.7%	± 10.9%	
	30歳代	229	± 5.6%	± 7.5%	± 8.6%	± 9.1%	± 9.3%	
	40歳代	334	± 4.6%	± 6.2%	± 7.1%	± 7.6%	± 7.7%	
	50歳代	379	± 4.4%	± 5.8%	± 6.6%	± 7.1%	± 7.3%	
	60歳代	304	± 4.9%	± 6.5%	± 7.4%	± 7.9%	± 8.1%	
	70歳代	310	± 4.8%	± 6.4%	± 7.3%	± 7.9%	± 8.0%	
	80歳以上	171	± 6.5%	± 8.6%	± 9.9%	± 10.6%	± 10.8%	

基数(n)		回答比率(P)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n = 2,500の場合		(2,500)	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
n = 2,000の場合		(2,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 1,500の場合		(1,500)	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.6%
n = 1,000の場合		(1,000)	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n = 800の場合		(800)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 600の場合		(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n = 400の場合		(400)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 200の場合		(200)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n = 100の場合		(100)	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

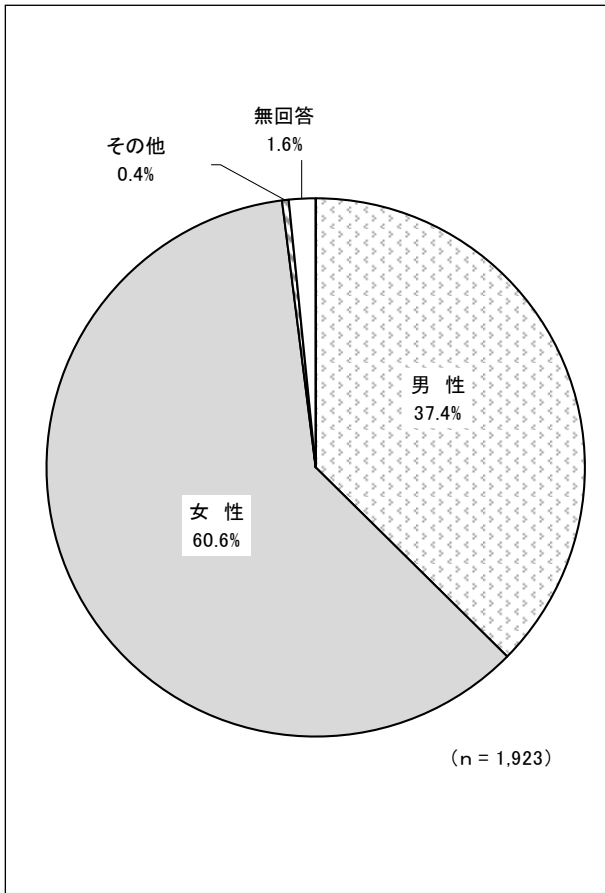
(注) この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答数が1,923人であり、その設問の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±3.2%である。」

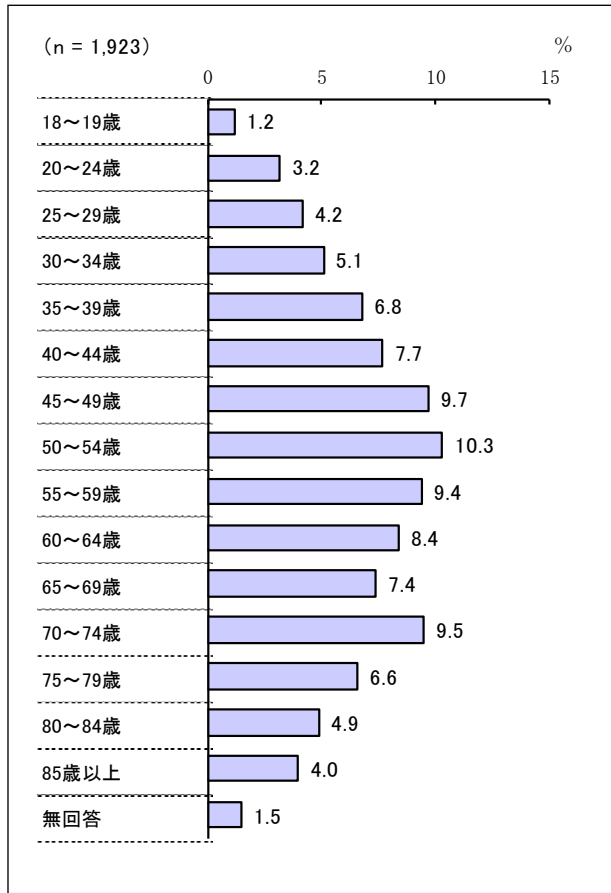
標 本 構 成

1. 標本構成

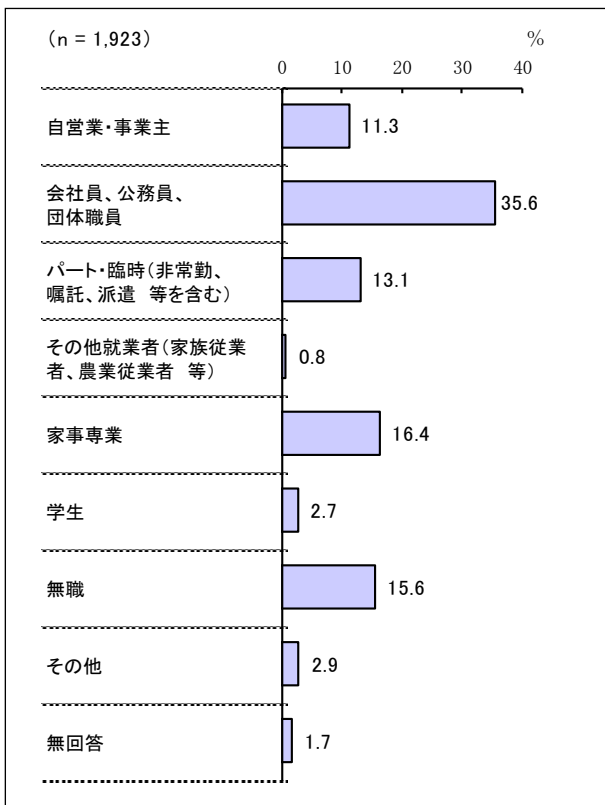
(1) 性別



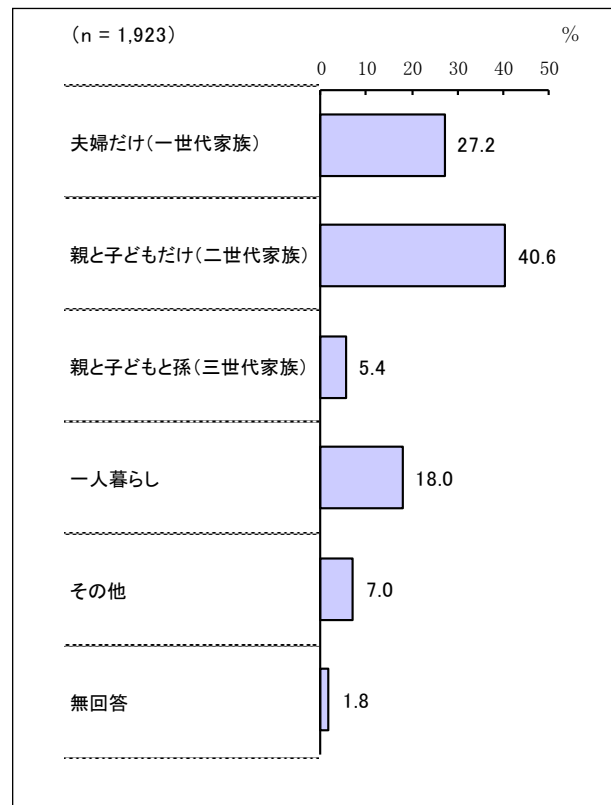
(2) 年齢



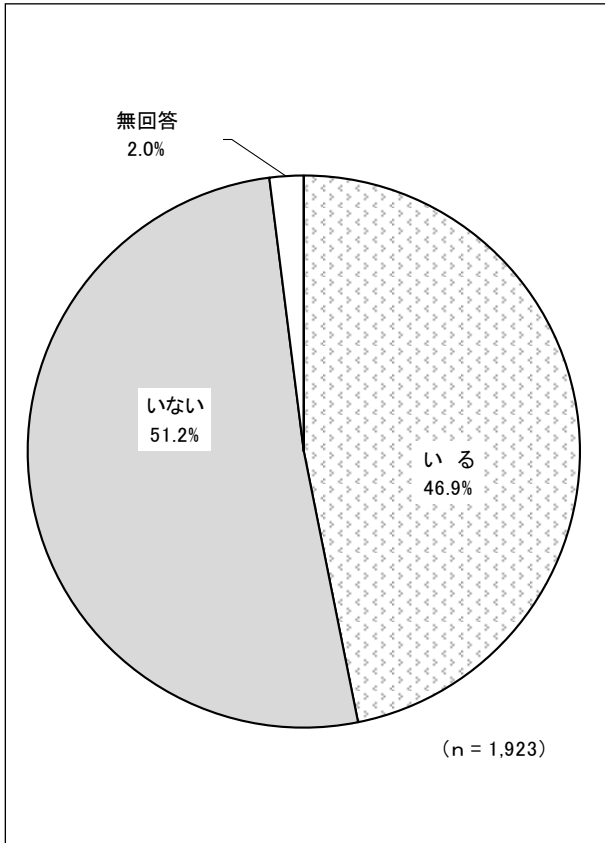
(3) 職業



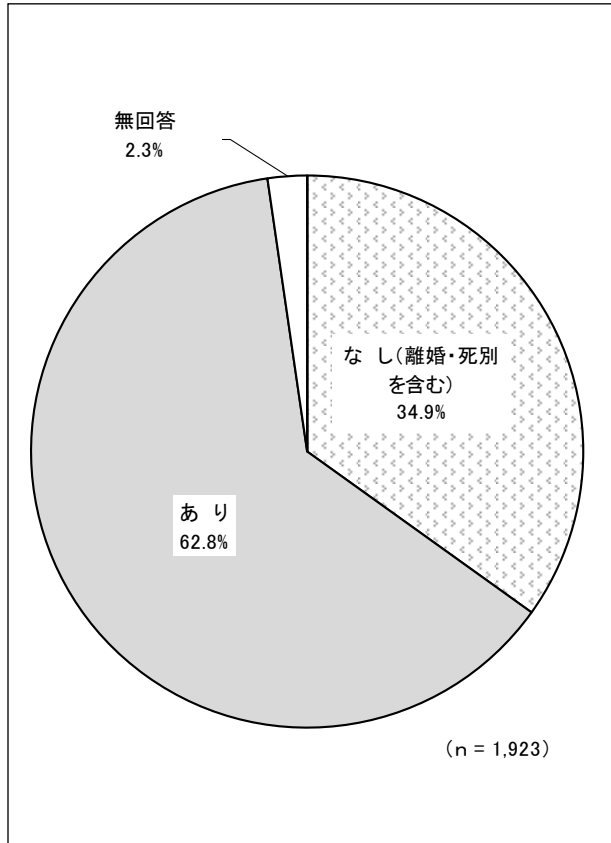
(4) 家族構成



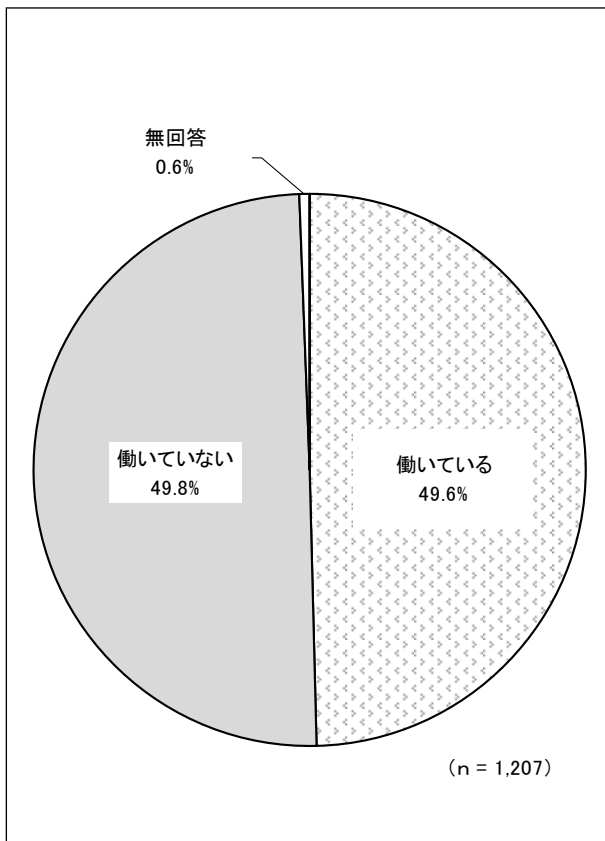
(5) 同居家族における高齢者の有無



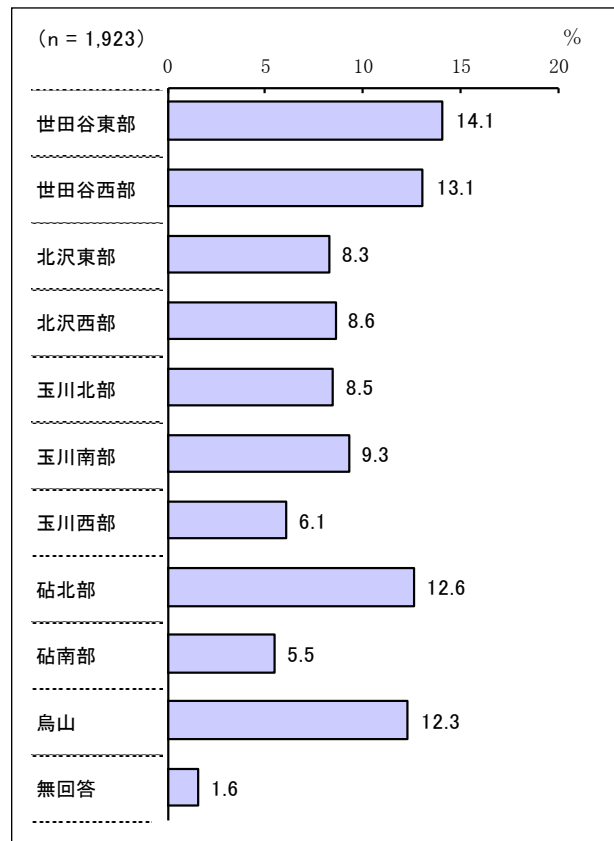
(6) 配偶者の有無



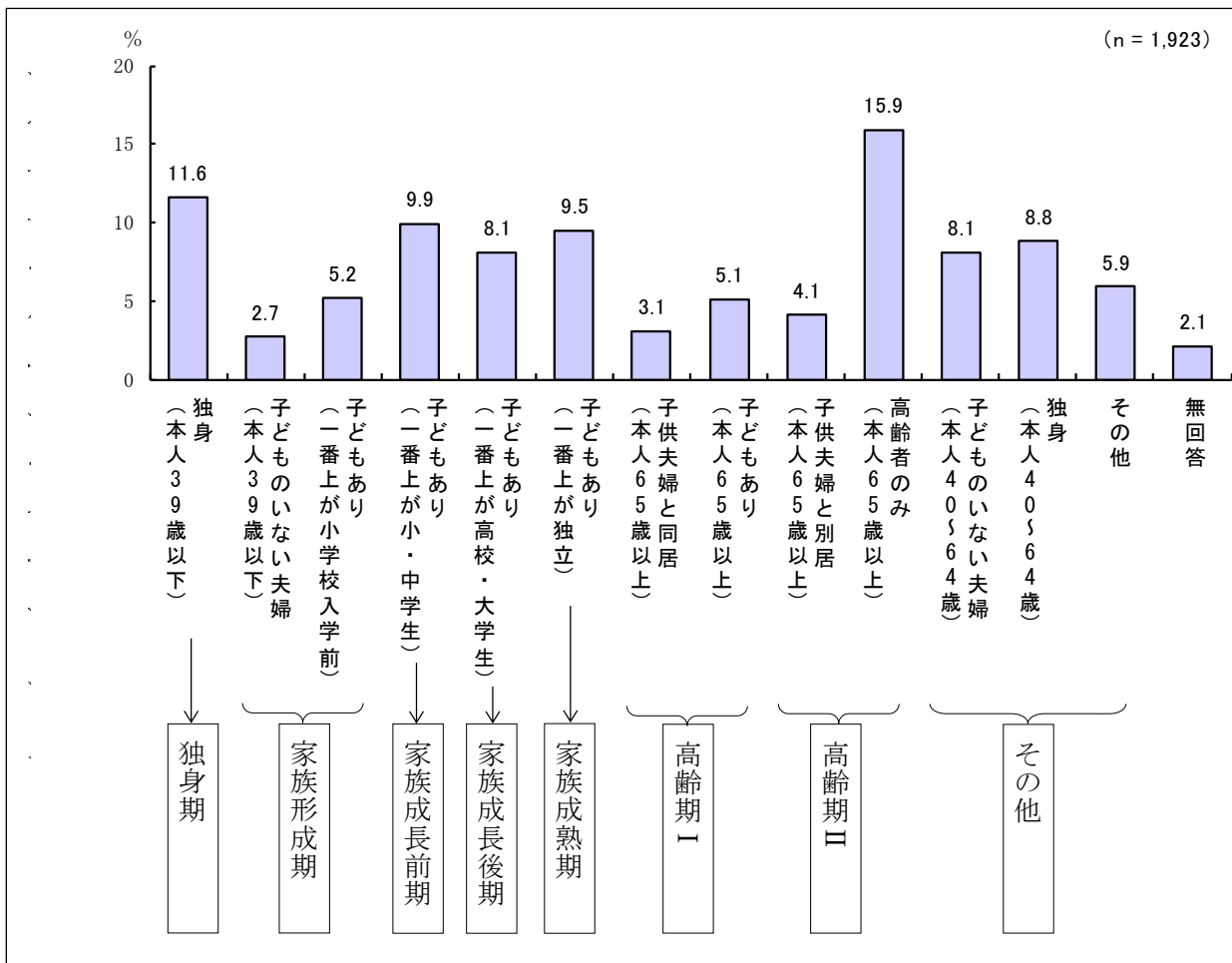
(7) 共働きの有無



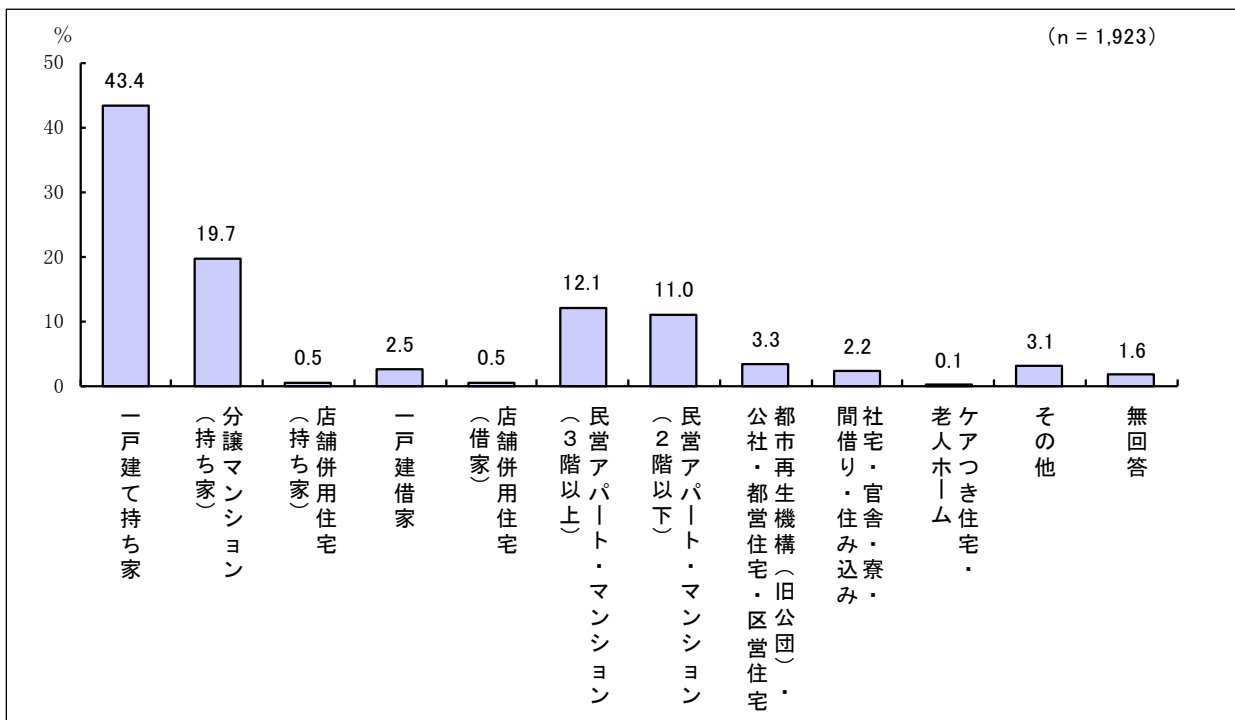
(8) 居住地区



(9) ライフステージ



(10) 住居形態



質 問 と 回 答

この調査は世田谷区役所が実施しています

令和4年度 世田谷区民意識調査 調査票

【ご回答にあたってのお願い】

1. 封筒の宛名に書かれているご本人がお答えください。
ただし、事情により、ご本人による記入やインターネット操作が難しい場合は、ご家族の方が代わりに行っていただいても構いません。
2. 回答は、最初から1問ずつ、最後までお答えください。
3. 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によって、○をつける数を（1つ）（いくつでも）などと指定していますので、その範囲内でお答えください。
5. 回答は郵送またはインターネットで行うことができます。

6月2日（木）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

郵送での回答方法

1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函してください。

インターネットによる回答方法（文面は日本語のみです）

パソコン、スマートフォンからご回答いただけます。

URL : <https://○○○○/>

あなたのID番号 : ●●●●

あなたのパスワード : ●●●●



1. 回答が60分を超えると自動的に接続が切断されます。回答内容は保存されるため再度ID番号とパスワードでログインすると、続きから回答できます。
2. このID・パスワードは無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。どなたがどのID・パスワードであるかは照合できません。
3. インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。

≫≫ 調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール 電話 03-5432-3333

午前8時～午後9時（年中無休）

≫≫ 調査主体 世田谷区 政策経営部 広報広聴課

(n = 1,923)

定 住 性

(全員の方に)

問1 あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。(〇は1つ)

1	1年未満	2.8	5	10～18年未満	15.6
2	1～3年未満	6.2	6	18～30年未満	19.7
3	3～6年未満	7.4	7	30年以上	39.6
4	6～10年未満	8.0			

(無回答) 0.7

(全員の方に)

問2 あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。(〇は1つ)

1	十分満足している	27.3	3	まだまだ不満だ	10.4
2	十分とはいえないが満足している	57.3	4	きわめて不満だ	2.2
			5	わからない	1.6

(無回答) 1.1

(全員の方に)

問3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。

(〇は1つ)

1	非常に住みやすい	42.1	4	やや住みにくい	3.6
2	やや住みやすい	42.4	5	非常に住みにくい	0.7
3	どちらともいえない	10.3			

(無回答) 0.9

(全員の方に)

問4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(〇は1つ)

1	住みたいと思う	82.7	問4-1にお答えください。
2	あまり住みたいとは思わない	3.7	
3	住みたくない	0.4	→問4-2にお答えください。
4	どちらともいえない	12.5	→問5にお答えください。

(無回答) 0.7

▼(問4で「1」と答えた方に) (n=1,590)

問4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。(〇はいくつでも)

1	住み慣れているから	69.1	9	教育や文化、その他の社会施設などがよく整備されているから	19.1
2	生まれた時からずっと住んでいるから	14.7	10	仕事や商売の関係で	7.4
3	自分の土地(住宅)だから	35.5	11	家賃など経済的負担が適当だから	2.4
4	住まいが広いなど住宅事情がよいから	9.1	12	子育てがしやすいから	9.0
5	自然や街並みなど生活環境がよいから	49.0	13	その他	2.3
6	交通や買物など生活に便利だから	67.5	14	わからない	0.1
7	通勤・通学など交通の便がよいから	38.6			
8	人間関係がよいから	17.4			

(無回答) 0.2

(問4で「2～3」と答えた方に) (n=79)

問4-2 世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。(〇はいくつでも)

1	土地柄になじめないから	7.6	9	教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから	16.5
2	生まれ育った土地ではないから	13.9	10	仕事や商売の関係で	2.5
3	自分の土地(住宅)でないから	11.4	11	家賃など経済的負担が多いから	38.0
4	住まいが狭いなど住宅事情が悪いから	40.5	12	子育てがしにくいから	16.5
5	自然や街並みなど地域の生活環境が悪いから	24.1	13	その他	22.8
6	交通や買物など生活に不便だから	16.5	14	わからない	2.5
7	通勤・通学など交通の便が悪いから	7.6			
8	地域・近隣との交流がほとんどないから	19.0			

(無回答) 2.5

(全員の方に)

問5 あなたは、普段生活してこの地域でどんなことにお困りですか。(〇は3つまで)

《街づくり・暮らし》		《交通》	
1 公園やスポーツのできる場所がない	9.5	11 交通が不便	7.6
2 住宅が密集しすぎている	16.6	12 車など交通が激しい	9.9
3 放置自転車が多くて迷惑	4.3	13 電車の踏み切りがなかなか渡れない	12.4
4 災害時の避難場所が近くにない	4.9	14 道路が狭くて危険	25.1
5 地域の治安が悪くなった	3.0	-----	
6 落書き、違法広告、風俗関係のチラシ	1.5	《環境・ごみ》	
7 子育て環境が整備されていない	3.1	15 騒音や振動が気になる	7.1
8 区民利用施設が使用しにくい	9.3	16 空気の汚れがひどい	2.5
9 高齢者施設が使用しにくい	4.6	17 空き缶・たばこ等のポイ捨て	8.0
10 買い物が不便	7.3	18 路上喫煙などのたばこマナーが悪い	8.4
		19 ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない	5.1
		20 カラス等の鳥獣による被害	15.8
		21 犬、猫などのペット公害	5.5
		22 その他	4.8
		23 特にない	12.5
		(無回答)	9.7

***** 区 政 *****

(全員の方に)

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

《健康・福祉》		《暮らし・コミュニティ》	
1 健康づくりの推進	9.4	12 地域コミュニティの促進	5.9
2 見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり	11.2	13 防犯・地域安全の対策	18.7
3 高齢者福祉の充実	21.1	14 消費者の支援	6.8
4 障害者福祉の充実	4.7	15 多様性の尊重(人権尊重・男女共同参画の推進など)	3.5
5 生活困窮者への支援	7.6	16 文化・芸術の推進	6.6
		17 生涯スポーツの推進	4.5
-----		18 清掃・資源リサイクルの推進	6.8
《子ども若者・教育》		19 産業振興・雇用促進	2.2
6 若者が力を発揮する地域づくり	10.5	-----	
7 生涯学習の充実	3.7	《都市づくり》	
8 ICT(情報通信技術)の推進	6.6	20 災害に強いまちづくり	28.1
9 子どもが育つ環境づくり	16.5	21 住宅政策	4.3
10 質の高い学校教育の推進	10.1	22 公園・緑地の整備	8.8
11 虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	9.0	23 自然環境の保護	7.8
		24 都市景観の保全や創出	2.5
		25 交通ネットワークの整備	9.0
		26 道路の管理保全	7.6
		27 その他	1.1
		28 特にない	3.2
		(無回答)	11.4

区の基本計画

(全員の方に)

問7 平成26年3月に策定した世田谷区基本計画(平成26年度～令和5年度)において、基本構想の実現に向けて「6つの重点政策」を掲げ、取り組みを進めています。この間に、進展したと考える取り組みはどれですか。(〇はいくつでも)

1	子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進	18.1	4	自然の恵みを活かして小さなエネルギーで暮らす豊かなまちの実現	9.5
2	高齢者・障害者等の在宅生活を支え、孤立させないための地域包括ケアシステムと住まい	18.8	5	世田谷区の文化の創造と知のネットワークづくり	10.6
3	安全で災害に強いまちづくり	18.7	6	豊かなコミュニティ活動の発展と住民自治の推進	8.0
			7	特になし	45.8
(無回答)					4.3

(全員の方に)

問8 これからの10年後を見据えて、次期基本計画(令和6年度～令和13年度)において期待する取り組みはどれですか。(〇はいくつでも)

1	健康を保持増進する環境づくりの推進	23.2	15	東京2020大会を契機としたレガシー(スポーツや文化、教育などの様々な分野で残っていく有形、無形の遺産)の引継ぎ	6.4
2	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実	47.8	16	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進	22.9
3	社会的孤立・孤独への対策の充実	25.4	17	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進(脱炭素化、ごみ減量など)	28.8
4	障害者が地域で自立した生活を送るための支援の充実	16.9	18	多様な働き方の支援や社会課題解決に向けた起業・創業支援	15.3
5	経済的弱者への支援の充実	19.7	19	産業振興による地域経済の発展	8.5
6	子どもを生き育てやすい環境の整備	39.7	20	みどり豊かな住環境の維持・向上	38.8
7	若者が活躍できる地域づくり	22.2	21	住民自治の推進と地域で支えあう共生社会の実現	8.3
8	児童・生徒の個性や特性に合わせた学び	16.3	22	DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進	15.0
9	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出	21.6	23	SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みの推進	21.1
10	地域防災力の向上	28.8	24	その他	0.9
11	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など)	39.9	25	特になし	2.0
12	人権を尊重し、差別を生じさせない都市	16.2	(無回答)		1.1
13	文化・芸術の振興と活動支援の充実	16.7			
14	地域におけるスポーツ活動の推進	10.1			

(全員の方に)

問9 区では、区民の皆さんのまちづくりへの主体的な参加を一層広げていく必要があります。区民の皆さんが、区政への参加や地域での活動に主体的に取り組むにあたり、今後区に期待する取り組みはどれですか。(〇はいくつでも)

1	地域の活動を行う場所の充実	27.4
2	地域の活動を行う団体等に関する情報発信	28.2
3	地域で活動する団体相互のネットワークの充実	14.0
4	オープンデータ(行政情報)の公開・活用	27.8
5	デジタル技術を活用した区政への参加	25.1
6	デジタルデバイド(インターネット等を利用できる人とそうでない人との間に生じる格差)対策	28.6
7	ワークショップ・シンポジウム等への参加・意見提出	8.3
8	アンケート・パブリックコメント等への意見提出	7.7
9	区政への参加や地域での活動に関心がない	5.0
10	その他	1.2
11	特になし	11.9

(無回答) 3.6

職員 応 対

(全員の方に)

問10 区の窓口や対応について印象はいかがでしたか。(〇は1つ)

1	とても良かった	30.9	問10-1にお答えください。
2	やや良かった	37.8	
3	どちらともいえない	25.3	→ 問11にお答えください。
4	やや悪かった	2.1	→ 問10-2にお答えください。
5	とても悪かった	1.0	

(無回答) 2.9

(問10で「1~2」と答えた方に) (n=1,320)

問10-1 印象が良かった点はどれですか。(〇は2つまで)

1	説明がわかりやすかった	28.0	4	親切・丁寧な対応だった	62.8
2	対応が正確・迅速だった	36.0	5	言葉遣いが丁寧だった	11.7
3	さわやかな対応だった	7.5			

(無回答) 2.3

(問10で「4~5」と答えた方に) (n=60)

問10-2 印象が悪かった点はどれですか。(〇は2つまで)

1	説明がわかりにくい	28.3	4	不親切な対応だった	53.3
2	対応で待たされた	26.7	5	言葉遣いが悪い	15.0
3	たらい回しにされた	26.7			

(無回答) 3.3

(全員の方に)

問11 今後、職員応対について、どのような点に注意すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1 身だしなみ	4.3	5 親切・丁寧な対応	46.9
2 わかりやすい説明	49.3	6 待たせない事務処理の工夫	52.8
3 名札の着用	3.6	7 窓口を明るい雰囲気に変える	11.9
4 さわやかな挨拶	8.2	8 プライバシーへの配慮	15.8
(無回答)		8.5	

ふるさと納税

ふるさと納税とは、個人による自治体への寄附であり、原則として、寄附額のうち自己負担額の2,000円を超える部分が税金の控除対象となります(一定の上限があります)。

(全員の方に)

問12 これまでに、ふるさと納税(自治体への寄附)をしたことがありますか。(〇は1つ)

1 世田谷区に寄附したことがある	0.9	問12-1にお答えください。
2 世田谷区以外に寄附したことがある	27.4	
3 世田谷区と他自治体の両方に寄附したことがある	0.4	
4 寄附したことがない	70.3	問12-2にお答えください。
(無回答)		1.0

(問12で「1~3」を選択した方に) (n=551)

問12-1 あなたがその自治体へふるさと納税をした一番の理由は何ですか。(〇は1つ)

1 故郷や縁のある自治体を応援するため	14.0	4 節税対策になるから	15.2
2 魅力的な返礼品がもらえるから	58.1	5 経済的に余裕があるから	0.9
3 寄附金の使い道に共感したから	5.4	6 その他	0.5
(無回答)		5.8	

(問12で「4」を選択した方に) (n=1352)

問12-2 あなたがふるさと納税をしない一番の理由は何ですか。(〇は1つ)

1 制度そのものに反対しているから	8.5	4 自治体よりも、他団体への寄附を優先させたから	5.1
2 方法がわからない、または手続きが面倒だったから	31.7	5 寄附をする経済的余裕がないから	20.8
3 寄附金が何に使われているか明確でないから	8.2	6 寄附そのものに関心がないから	9.3
		7 その他	13.0
(無回答)		3.3	

(全員の方に)

問13 「ふるさと納税」による世田谷区の区民税の減収額は、令和3年度では約70億円となり、この額は年々増加しています。この現状を知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	40.5	2 知らない	58.2
(無回答)		1.4	

福 祉 と 医 療

(全員の方に)

問14 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（○は1つ）

1 利用したことがある	15.3	3 名称は知らないがこういった取組みを行っていることは知っている	9.7
2 名称は知っている	28.0	4 知らない	46.3
		(無回答)	0.6

(全員の方に)

問15 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。（○は1つ）

1 そう思う	35.3	3 あまりそう思わない	5.6
2 どちらかといえばそう思う	33.0	4 そう思わない	3.2
		5 わからない	22.5
		(無回答)	0.4

(全員の方に)

問16 あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。（○は1つ）

1 自分、または身近な人が利用している	11.3		
2 利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）	25.4		
3 利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）	38.9		
4 知らない	23.9		
		(無回答)	0.5

人生の最終段階にどのような治療やケアを望むのかを、医療・介護関係者や家族等の信頼できる身近な人と繰り返し話し合うプロセスを「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」といいます。

(全員の方に)

問17 あなたは、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」を知っていますか。（○は1つ）

1 よく知っている	2.0	3 「ACP」の言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない	10.2
2 ある程度知っている	8.4	4 知らない	78.9
		(無回答)	0.4

(全員の方に)

問18 あなたは、人生の最終段階を迎えた時の過ごし方について、医療・介護関係者や家族等の信頼できる身近な人と話し合ったことがありますか。（○は1つ）

1 詳しく話し合ったことがある	3.4	3 話し合ったことはない	48.6
2 少し話し合ったことがある	26.5	4 考えたことがない	21.2
		(無回答)	0.4

認 知 症

認知症とは、暮らしの障害であり、脳の病気や様々な原因によって脳の働きが低下し、日常生活や社会生活を送るうえで支障が出てくる状態をいいます。

(全員の方に)

問19 区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、世田谷を目指して、令和2年10月に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を施行しました。あなたは、この条例を知っていますか。(〇は1つ)

1	内容について知っている	2.2		
2	条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	8.8		
3	知らない	87.6	(無回答)	1.4

(全員の方に)

問20 認知症についてどのような印象・考えをお持ちですか。(〇はいくつでも)

1	認知症は、誰もがなり得るものである	84.2
2	認知症は、高齢者になる病気で、自分には関係がない	1.6
3	認知症になってからも、自分なりにできることがある	33.8
4	認知症になると、自分では何もできなくなる	16.1
5	認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	20.2
6	認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができなくなる	22.1
7	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	36.9
8	認知症について関心がない	1.2
9	あてはまるものはない	1.6
		(無回答) 1.5

(全員の方に)

問21 あなたが認知症になったら、どのように暮らしていきたいですか。(〇はいくつでも)

1	認知症であることを周りの人(家族や友人、近所の人等)に伝え、理解者や仲間を増やしながら地域とともに暮らしていきたい	47.2
2	認知症であることを周りの人(家族や友人、近所の人等)に知られてもよいが、できるだけ地域とは関わりたくない	7.6
3	認知症であることを周りの人(家族や友人、近所の人等)に知られたくないが、地域との関わりはこれまでどおり続けていきたい	7.1
4	認知症であることを周りの人(家族や友人、近所の人等)に知られたくないので、できるだけ地域とは関わりたくない	1.9
5	認知症により苦手になった部分(生活障害)については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい	50.7
6	認知症になってからも、自分のことは自分で決め、納得しながら暮らしたい	26.9
7	自分のことは周りの人(家族等)に決めてもらいたい	8.4
8	今までの住まい(自宅等)での暮らしを続けていきたい	28.8
9	介護施設等に入所したい	22.3
10	わからない	8.1
		(無回答) 1.7

(全員の方に)

問22 認知症になってからも暮らしやすい世田谷にするために、あなたはどんなことをしたいですか。

(○はいくつでも)

1 認知症の本人の体験談を聴くなどし、認知症への理解や備えをしたい	29.0
2 認知症になっても自分らしく暮らしていくために、自分が大切にしていることや物、希望等を書き留めたり、周りの人(家族や友人、近所の人等)に伝えたりしたい	42.3
3 認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい	35.9
4 暮らしやすい地域にしていくために、地域の活動や集まり等に参加してみたい	13.5
5 身近な地域で暮らす認知症の人やその家族の手助けとなるような活動(ボランティア等)をしたい	9.8
6 あてはまるものはない	16.4
(無回答)	3.5

***** 悩みや不安の相談先 *****

(全員の方に)

問23 あなたは、悩みや不安、ストレスを感じたときに相談できる、医療機関や行政機関の専門窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている	46.6	2 知らない	52.0
(無回答)		1.4	

(全員の方に)

問24 あなたは、自分自身では抱えきれない悩みや不安、ストレスを感じたときに、どのようにしますか。(○は1つ)

1 専門の相談窓口相談する	9.4	3 誰にも相談しない	13.4
2 家族や友人など身近な人に相談する	66.4	4 わからない	9.1
(無回答)		1.8	

***** 障害者を支える取り組み *****

(全員の方に)

問25 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(○は1つ)

1 内容まで知っている	5.4	2 名称は知っている	21.7	3 知らない	71.6
(無回答)			1.4		

世田谷区は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会においてアメリカ合衆国の「ホストタウン」に加え「共生社会ホストタウン」※としても内閣官房に登録されました。

また、ユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーなどの先進的な取り組みを行う「先導的共生社会ホストタウン」にも認定されています。

区は、大会後もホストタウン・共生社会ホストタウンとしての取り組みを継続しています。

※共生社会ホストタウン・・・パラリンピアンとの交流などをきっかけに、一人ひとりの個性が尊重され、障害のあるなしに関わらずだれもが暮らしやすい共生社会の実現に向けた取り組みを推進する自治体のこと

(全員の方に)

問26 あなたは、世田谷区が共生社会ホストタウンであることを知っていますか。(○はいくつでも)

1	ホストタウンであることを知っている	15.3	
2	共生社会ホストタウンであることを知っている	3.0	
3	先導的共生社会ホストタウンであることを知っている	0.5	
4	知らない	79.3	(無回答) 2.9

子育て・子どもを取り巻く環境

(全員の方に)

問27 あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。(○は1つ)

1	とても子育てしやすいと感じる	5.1	3	あまり子育てしやすいと感じない	12.9
2	子育てしやすいと感じる	42.6	4	まったく子育てしやすいと感じない	1.8
			5	わからない	34.5
				(無回答)	3.1

(全員の方に)

問28 あなたは、18歳未満の子どもを子育て中、またはあなたご自身もしくは配偶者が妊娠中ですか。(○は1つ)

1	はい	20.7	2	いいえ	74.6	▶ 問29にお答えください。
				(無回答)	4.7	

(問28で「1」と答えた方に) (n=398)

問28-1 あなたは、子育てについて相談できる人が身近な地域にいますか。(○は1つ)

1	いる	75.4	2	いない	24.6
				(無回答)	0.0

(全員の方に)

問29 あなたは、「世田谷版ネウボラ」という、妊娠期から就学前までの乳幼児を育てているご家庭を切れ目なく支えるため、医療機関や地域の支援の担い手と連携して相談支援していく取り組みを行っていることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	8.9	2 知らない	87.4	(無回答)	3.7
---------	-----	--------	------	-------	-----

(全員の方に)

問30 近所の子どもたちが外で遊ぶことへの大人の関わりについて、あなたの気持ちに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

1 子どもたちがもっと外で遊べるように、何らかの協力をしたい	10.7
2 子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい	40.0
3 大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だと思う	38.5
4 子どもたちが外で遊ぶことには、親や学校、保育園など関係者が関われば良い	4.7
5 子どもたちが外で遊ぶことについて大人が支える必要は無い	0.9

(無回答) 5.3

地域コミュニティ

(全員の方に)

問31 あなたは、身近な地域の活動に参加していますか。(〇は1つ)

1 参加している	12.9	問31-1、問31-2にお答えください。
2 今は参加していないが、今後参加してみたい	11.5	
3 参加していない	72.4	
(無回答)	3.1	問32にお答えください。

(問31で「1」と答えた方に) (n=249)

問31-1 参加している地域団体等は何ですか。(〇はいくつでも)

1 町会・自治会などの地域活動	52.6
2 関心のある分野での、NPO(社会貢献をする市民活動団体)やボランティア	16.1
3 文化活動やスポーツなどの地域サークル	38.2
4 コミュニティ・ビジネス(ビジネスの手法で、地域住民に公共的なサービスを提供する事業 例:有償ボランティアによる家事介護事業など)	2.8
5 その他	11.2

(無回答) 1.6

(問31で「1」と答えた方に) (n=249)

問31-2 参加している地域活動はどんなことですか。(〇はいくつでも)

1 子育て支援活動	11.6	6 介護予防・健康づくり活動	8.4
2 青少年健全育成活動	6.0	7 スポーツ活動	20.5
3 高齢者支援活動(見守り、家事支援など)	8.4	8 文化・芸術活動	13.7
4 お祭り・イベント	26.9	9 環境美化・リサイクル活動	17.7
5 防犯・防災活動	19.3	10 交通安全活動	8.4

(無回答) 15.3

町会・自治会は、同じ地域に住む人同士が、地縁に基づき自主的に組織している団体です。行事や活動を通じて顔の見えるおつきあいが広がります。犯罪の防止や子どもの健全育成、災害時における助け合いの力となるなど、町会・自治会は安全で充実した生活の支えとなっています。

(全員の方に)

問32 あなたは、町会・自治会に入っていますか。(○は1つ)

1	入っている	45.2	————▶	問33にお答えください。
2	入っていない。今後、入ってもよい	3.6		
3	入っていない。今後、どうするかは分からない	19.3	————▶	問32-1にお答えください。
4	入っていない。今後入りたくない	16.0		
5	入っているか分からない	14.0	————▶	問33にお答えください。
	(無回答)	1.8		

(問32で「2~4」と答えた方に) (n=750)

問32-1 町会・自治会に入っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1	どのような活動をしているのかわからない	37.6	8	役員になった場合の負担が心配	21.1
2	興味を持てる活動がない	9.3	9	会費の負担が困難	9.6
3	自分のライフスタイルや価値観と合わない	14.5	10	自分の地区の町会・自治会を知らない	31.1
4	デジタル化が進んでいない	5.5	11	加入の仕方を知らない	23.5
5	地域に知り合いが少ない	23.9	12	加入のきっかけがなかった	26.3
6	近所付き合いが煩わしく感じる	17.9	13	町会・自治会以外の地域活動に参加している	1.2
7	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	32.7	14	その他	11.6
	(無回答)	0.5			

(全員の方に)

問33 町会・自治会に期待するものは何ですか。(○はいくつでも)

1	防災・防犯活動の強化	56.0	9	役員などの負担の軽減	22.2
2	高齢者や子どもへの見守り活動の充実	38.7	10	ライフスタイルに配慮した参加形態	24.1
3	多世代に向けた魅力的なイベントの実施	12.3	11	参加したいと思う活動ができる仕組み	21.2
4	学校など地域の機関や団体との連携	10.1	12	平日日中以外でも活動できる工夫	7.9
5	ホームページ等を活用した活動内容の周知	8.3	13	気軽に意見が言える窓口などの設置	12.5
6	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション	8.0	14	未加入者も参加できる行事などで、町会の雰囲気を知ってから加入の検討ができること	13.4
7	メールによる連絡体制の整備	6.2	15	その他	7.1
8	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金	11.4			
	(無回答)	3.8			

公共施設

(全員の方に)

問34 あなたは、身近な区民利用施設である地区会館（例：池尻地区会館）や区民集会所（例：新代田区民集会所）をどの程度利用していますか。（○は1つ）

1 毎日	0.0	4 半年に数回	3.0	→ 問35にお答えください。
2 週に数回	1.6	5 年に数回	8.5	
3 月に数回	5.7	6 ほとんど利用していない	80.4	→ 問34-1にお答えください。
		(無回答)	0.8	

(問34で「6」と答えた方に) (n=1,546)

問34-1 区民利用施設を利用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

1 近所に区民利用施設がないから	10.9	
2 施設が古く、使い勝手が悪いから	3.2	
3 区民利用施設に関する情報発信が少ないから	20.8	
4 インターネット環境が整っていないから	2.3	
5 利用目的にあった施設環境が整っていないから	10.6	
6 その他	33.6	
7 わからない	28.3	

災害時の備え

(全員の方に)

問35 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	心がか けている	い え ば 心 が け て い る	ど ち ら か と い え ば 心 が け て い ない	ど ち ら か と い え ば 心 が け て い ない	心 が け て い ない	わ か ら な い	
(1) 防災知識の向上	19.9	53.5	15.0	4.9	4.6	2.1	(無回答)
(2) 地区での避難所運営訓練や防災塾への参加	3.3	11.9	22.4	40.9	16.4	5.1	
(3) *避難行動要支援者の支援	3.9	12.5	19.6	33.8	25.5	4.7	

*避難行動要支援者・・・要介護高齢者等や障害者のうち、身体の障害等の理由により、災害時に自力で自宅外へ避難することが困難な方や、自ら救出を求めることが困難な方。

(全員の方に)

問36 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。（○は1つ）

1 1～2日分	22.1	4 1週間分以上	12.3
2 3日分	34.1	5 水や食料の備蓄はしていない	11.3
3 4～6日分	19.1	(無回答)	1.1

(全員の方に)

問37 あなたは、地区防災計画を知っていますか。(〇は1つ)

1	内容まで知っている	3.7	2	名称は知っている	40.6	3	知らない	53.8	
								(無回答)	1.9

区では、水害から身を守るために、日頃の備えとして役立てていただくため、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を作成しています。「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」とは、水害リスクと区民のとりべき行動が確認できるよう、浸水のおそれがある範囲や浸水の深さ、避難所、避難行動、情報収集方法等を掲載しているものです。令和2年9月に区内全戸へ配布しました。

(全員の方に)

問38 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。(〇は1つ)

1	持っている	51.9	問38-1にお答えください。	
2	持っていないが、見たことがある	25.2		
3	持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある	10.4	問39にお答えください。	
4	持っていないし、聞いたこともない	10.5		
			(無回答)	2.1

(問38で「1～2」と答えた方に) (n=1,482)

問38-1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅の浸水リスク(浸水するかどうか、浸水する場合は浸水の深さ)を確認しましたか。(〇は1つ)

1	確認した	80.6	2	確認していない	19.0	
					(無回答)	0.4

男女共同参画の推進

区では、第二次男女共同参画プラン後期計画を令和4年3月に策定しました。プランでは、「あらゆる分野における女性活躍推進」、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の着実な推進」、「暴力やハラスメントのない社会の構築」、「多様性を認め合い、尊厳をもって生きることができる社会の構築」という4つの目標を掲げ、男女共同参画社会の実現に向けて様々な施策に取り組んでいます。

(全員の方に)

問39 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。(〇は1つ)

1	そう思う	2.2	3	どちらかといえばそう思わない	24.0	
2	どちらかといえばそう思う	11.2	4	そう思わない	61.3	
					(無回答)	1.2

(全員の方に)

問40 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(DV防止法)を知っていますか。(〇は1つ)

1 法律も内容も知っている	29.5	3 知らない	11.8
2 聞いたことはあるが、内容は知らない	57.6	(無回答)	1.1

(全員の方に)

問41 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス=夫婦(事実婚・離婚後も含む)や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

1 暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである	67.9
2 暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う	19.7
3 双方の関係の問題であり、第三者が関与するべきではない	3.9
4 わからない	7.4
(無回答)	1.2

(全員の方に)

問42 あなたは、DV被害にあったとき、どのようにしますか。(〇は1つ)

1 専門の相談窓口相談する	39.4	3 誰にも相談しない	3.3
2 家族や知人など身近な人に相談する	40.3	4 わからない	15.2
(無回答)	1.8		

(全員の方に)

問43 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	80.0	2 知らない	18.9
(無回答)	1.1		

多文化共生

世田谷区には令和4年4月1日現在、約21,000人(人口の約2.2%)の外国人の方が住んでおり、身近なところで外国人の方と接する機会が増えてきています。

こうした状況を踏まえ、区は、外国人も日本人も共に生き生きと暮らすことができる、「多文化共生」社会の実現を目指し、世田谷をさらに魅力あるまちにするよう取り組んでいます。

(全員の方に)

問44 あなたは、「外国人と日本人が共に暮らす」という視点からみて、区の多文化共生社会の実現に向けた施策が充実していると思いますか。(〇は1つ)

1 そう思う	5.4	3 どちらかといえばそう思わない	40.5
2 どちらかといえばそう思う	36.1	4 そう思わない	14.0
(無回答)	4.0		

文化活動

(全員の方に)

問45 あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	行ったことがある	知っていることはない	聞いたことがある	知らない	(無回答)
(1) 世田谷美術館や世田谷文学館、世田谷パブリックシアターなどの公立の文化施設	60.1	23.3	6.2	8.9	1.4
(2) 五島美術館や静嘉堂文庫美術館、大学付属の博物館などの民間の文化施設	27.1	34.8	9.8	24.4	3.8
(3) 世田谷代官屋敷や郷土資料館、次大夫堀公園民家園、野毛大塚古墳などの歴史的な文化資源	46.9	24.3	8.8	17.9	2.1

(全員の方に)

問46 あなたは、区内の文化・芸術に親しめる環境に満足していますか。(○は1つ)

1 満足している	9.5		
2 どちらかといえば満足している	44.7		
3 どちらかといえば満足していない	13.2		
4 満足していない	7.0		
5 わからない	24.3	(無回答)	1.3

スポーツ

区では、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

(全員の方に)

問47 あなたがこの1年間にスポーツや運動(ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む)を行った回数ほどのくらいですか。(○は1つ)

1 週に3回以上	21.5		
2 週に1~2回	26.7		
3 月に1~3回	16.7		
4 3か月に1~2回	4.9		
5 年に1~3回	5.8		
6 行わなかった	23.1	(無回答)	1.2

(全員の方に)

問48 新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツを実施する環境の変化について、お聞かせください。

(〇はいくつでも)

1	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった	22.3
2	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した	13.9
3	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった	9.9
4	スポーツや運動を意識的に行うようになった	13.7
5	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった	11.7
6	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった	9.4
7	新たなスポーツや運動を行うようになった	5.0
8	インターネット(動画配信やオンライン教室等)を利用したスポーツ・運動を実施することが多くなった	8.3
9	クラブ活動や部活動が休止したため、実施できなかった	3.7
10	特に変化は感じられなかった	34.9

(無回答) 4.0

(全員の方に)

問49 新たなスポーツ施設が作られるとしたら、あなたは何かができる施設が欲しいですか。

(〇はいくつでも)

1	ウォーキング	30.3	9	ボルダリング・クライミング	11.5	17	弓道	5.2
2	トレーニング	23.3	10	サッカー	3.7	18	アーチェリー	3.1
3	ランニング・マラソン	10.5	11	フットサル	4.4	19	バレーボール	2.7
4	自転車・サイクリング	18.0	12	ラグビー	1.3	20	水泳	24.2
5	ゴルフ	12.3	13	野球・ソフトボール	3.3	21	卓球	10.4
6	テニス・ソフトテニス	11.4	14	スケートボード	3.2	22	バスケットボール	5.3
7	壁打ち(テニス・野球・サッカー等)	9.6	15	バドミントン	9.6	23	3×3バスケットボール	3.1
8	スカッシュ	6.3	16	武道(柔道・剣道・空手等)	4.7	24	ダンス・ヨガ・体操競技等	30.1
						25	その他	8.4

(無回答) 5.0

たばこマナー

区は、喫煙する人とならない人が相互に理解を深め、地域のたばこマナーが向上するまちづくりの実現をめざすため、「世田谷区たばこルール」を策定し、平成30年10月より区内全域の道路、公園を喫煙禁止にしました。

(全員の方に)

問50 あなたは、現在お住まいの地域における路上喫煙やポイ捨て等たばこマナーに満足していますか。

(〇は1つ)

1	満足している	14.7	3	どちらかといえば満足していない	18.1
2	どちらかといえば満足している	34.2	4	満足していない	25.2
			5	どちらでもない(気にしていない)	6.9

(無回答) 0.9

農 業

(全員の方に)

問5 1 あなたは、農業公園（喜多見農業公園・瀬田農業公園分園）を知っていますか。(○は1つ)

1	両方行ったことがある	0.8		
2	喜多見農業公園にだけ行ったことがある	1.8		
3	瀬田農業公園分園にだけ行ったことがある	2.5		
4	行ったことはないが名称は両方知っている	10.3		
5	行ったことはないが喜多見農業公園は知っている	2.0		
6	行ったことはないが瀬田農業公園分園は知っている	1.5		
7	知らない	80.1	(無回答)	1.0

公 園

(全員の方に)

問5 2 区では、国家公務員宿舎跡地を活用し、玉川野毛町公園（野毛一丁目）や上用賀公園（上用賀四丁目）の拡張事業を進めています。あなたは、これらの公園で拡張事業が進められていることを知っていますか。(○は1つ)

1	どちらも知っている	2.1		
2	玉川野毛町公園の拡張事業は知っている	5.3		
3	上用賀公園の拡張事業は知っている	3.8		
4	どちらも知らない	87.9	(無回答)	0.9

区道の舗装

区では、23区最長の1,095キロメートルの道路を管理しており、安全で歩きやすい環境の整備、騒音や振動の発生抑制などを目的として、道路舗装の適切な維持更新に努めています。

(全員の方に)

問5 3 あなたがよく利用する道路やお住まいの近くの道路の舗装について、どのような印象をお持ちですか。(○は1つ)

1	とても良好な状態である	4.9	} 問5 4にお答えください。
2	良好な状態である	23.3	
3	普通	54.9	
4	悪い状態である	12.4	} 問5 3-1にお答えください。
5	とても悪い状態である	2.8	
	(無回答)	1.7	

(問53で「4～5」と答えた方に) (n=293)

問53-1 舗装が悪い状態であるという理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1	ひび割れている	39.2	5	凸凹している	64.5
2	わだちができています	9.2	6	舗装が古くて表面が荒れている	37.2
3	舗装がはがれて穴があいている	18.8	7	段差がある	38.6
4	水溜りができる	36.2	8	騒音、振動が発生する	17.7
			9	その他	13.7
				(無回答)	0.3

新型コロナウイルス感染症

(全員の方に)

問54 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、あなたの仕事や生活にどのような影響がありましたか。

(〇はいくつでも)

1	仕事の減少などにより、収入が減った	16.7	10	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	43.3
2	外出自粛等のため支出が減った	19.5	11	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った	9.5
3	感染防止対策等のため支出が増えた	15.9	12	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	24.9
4	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	20.7	13	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	33.4
5	時差出勤等のため仕事をする時間帯が変わった	6.2	14	外出自粛による運動不足を感じるようになった	36.6
6	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	27.0	15	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた	22.9
7	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした	32.1	16	友人・知人との交流などでオンラインを利用する機会が増えた	14.4
8	通院のための外出の機会を減らした	8.3	17	キャッシュレス決済(クレジットカード、スマートフォンによる支払い等)の利用が増えた	31.3
9	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	76.7			
				(無回答)	2.2

(全員の方に)

問55 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外出や人とのコミュニケーションの機会が減少することが問題となっています。あなたは、この1年間に「1日中誰とも会話をしなかった日」がありましたか。(〇は1つ)

1	頻繁にあった(週に数日程度)	11.0	3	ほとんどなかった(年に数日程度)	20.4
2	たまにあった(月に数日程度)	18.4	4	全くなかった	48.2
				(無回答)	2.0

区の情報発信

(全員の方に)

問56 世田谷区の新型コロナウイルスに関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

1 区報紙(区のおしらせ「せたがや」)	35.3	9 区のスマートフォン用アプリ	2.3
2 区のホームページ	33.5	10 せたがやコール(お問い合わせセンター)	1.1
3 区公式Twitter(ツイッター)	4.2	11 区広報板(区が設置している掲示板)	3.8
4 区公式LINE(ライン)	2.6	12 区作成のチラシ(ワクチン情報 など)	11.4
5 区公式Facebook(フェイスブック)	0.4	13 町会・自治会の回覧板	8.5
6 YouTube(ユーチューブ)区公式チャンネル	0.6	14 その他	7.2
7 メール配信サービス(メールマガジン)	3.6	15 特に入手していない	27.6
8 エフエム世田谷	0.4		

(無回答)

1.9

(全員の方に)

問57 区では、区ホームページや区公式ツイッターなど様々なデジタル媒体で情報の発信をしています。これらの媒体で情報を入手しやすいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)

1 区のホームページ	44.4	6 メール配信サービス(メールマガジン)	7.3
2 区公式Twitter(ツイッター)	12.3	7 区のスマートフォン用アプリ	6.3
3 区公式LINE(ライン)	14.1	8 特にない	8.1
4 区公式Facebook(フェイスブック)	2.4	9 利用したことがない	27.8
5 YouTube(ユーチューブ)区公式チャンネル	3.3		

(無回答)

3.1

(全員の方に)

問58 区では、新型コロナワクチンの接種予約にあたり、ご自身でインターネットなどによる予約をすることが困難な方を対象に、区職員がまちづくりセンターで予約の申し込み支援を行っています。あなたは、この取り組みを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っており利用した	7.2	3 知らない	49.2
2 知っているが利用はしていない	41.7		

(無回答)

1.9

(全員の方に)

問59 スマートフォン(らくらくホンを含む)が普及し、電話やメールに限らず、インターネット利用やLINEなどのコミュニケーションツールとして、日常生活の多くの場面で使われています。スマートフォンについて、あなた自身の状況で最もあてはまるものを選択してください。(〇は1つ)

1 スマートフォンを持っており、電話・メールだけでなく、その他の機能(カメラ、インターネット、LINEなど)も利用している	79.4
2 スマートフォンを持っており、電話・メールを利用している	6.6
3 スマートフォンは持っているが、ほとんど使っていない	3.5
4 スマートフォンを持っていない。使い方がわかれば持ちたいと思っている	2.2
5 スマートフォンを持っていない。必要性を感じていない	6.1

(無回答)

2.2

(引き続き、次ページの質問にお答えください)

*** 基本項目 (フェイスシート) ***

(全員の方に)

F 1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

1 男性	37.4	2 女性	60.6	3 その他	0.4
(無回答) 1.6					

F 2 あなたの年齢はいくつですか。(〇は1つ)

1 18～19歳	1.2	6 40～44歳	7.7	11 65～69歳	7.4
2 20～24歳	3.2	7 45～49歳	9.7	12 70～74歳	9.5
3 25～29歳	4.2	8 50～54歳	10.3	13 75～79歳	6.6
4 30～34歳	5.1	9 55～59歳	9.4	14 80～84歳	4.9
5 35～39歳	6.8	10 60～64歳	8.4	15 85歳以上	4.0
(無回答) 1.5					

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。(〇は1つ)

1 自営業・事業主	11.3	4 其他就業者 (家族従業者、農業従業者 等)	0.8
2 会社員、公務員、団体職員	35.6	5 家事専業	16.4
3 パート・臨時 (非常勤、嘱託、派遣 等を含む)	13.1	6 学生	2.7
		7 無職	15.6
		8 その他	2.9
(無回答) 1.7			

F 4 あなたの家族構成は次のどれですか。(〇は1つ)

1 夫婦だけ (一世代家族)	27.2	4 一人暮らし	18.0
2 親と子どもだけ (二世世代家族)	40.6	5 その他	7.0
3 親と子どもと孫 (三世世代家族)	5.4		
(無回答) 1.8			

F 5 回答者ご本人も含めて、ご家族の中に高齢者 (65歳以上の方) はいらっしゃいますか。(〇は1つ)

1 いる	46.9	2 いない	51.2
(無回答) 2.0			

F 6 配偶者はいらっしゃいますか。(〇は1つ)

1 なし (離婚・死別を含む)	34.9	→ F 7にお答えください。
2 あり	62.8	→ F 6-1にお答えください。
(無回答) 2.3		

(F 6で「2」と答えた方に) (n=1,207)

F 6-1 あなたと配偶者は、2人とも働いていますか。(〇は1つ)

1 働いている	49.6	2 働いていない	49.8
(無回答) 0.6			

(全員の方に)

F7 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 独身	24.0	6 子ども夫婦と同居(本人が65歳以上)	3.1
2 子どもあり(一番上が小学校入学前)	5.2	7 子ども夫婦と別居(本人が65歳以上)	4.1
3 子どもあり(一番上が小・中学生)	9.9	8 高齢者のみ(本人が65歳以上)	8.3
4 子どもあり(一番上が高校・大学生)	8.1	9 夫婦のみ	15.2
5 子どもあり(一番上が独立:学校卒業、就職、結婚など)	14.5	10 その他	5.4

(無回答)

2.1

F8 あなたの住居形態は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 一戸建て持ち家	43.4	8 都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅	3.3
2 分譲マンション(持ち家)	19.7	9 社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	2.2
3 店舗併用住宅(持ち家)	0.5	10 ケアつき住宅・老人ホーム	0.1
4 一戸建借家	2.5	11 その他	3.1
5 店舗併用住宅(借家)	0.5		
6 民営アパート・マンション(3階以上)	12.1		
7 民営アパート・マンション(2階以下)	11.0		

(無回答)

1.6

F9 あなたのお住まいの地域は次のどれですか。(○は1つ)

1 世田谷東部	(池尻、下馬、三宿、太子堂、三軒茶屋、野沢、若林、上馬、駒沢1~2丁目)	14.1
2 世田谷西部	(世田谷、弦巻、宮坂、桜、経堂、桜丘)	13.1
3 北沢東部	(北沢、代沢、大原、羽根木、代田)	8.3
4 北沢西部	(松原、梅丘、豪徳寺、赤堤、桜上水)	8.6
5 玉川北部	(駒沢公園、駒沢3~5丁目、新町、深沢、桜新町、用賀、上用賀、玉川台)	8.5
6 玉川南部	(奥沢、東玉川、玉川田園調布、等々力、尾山台、玉堤)	9.3
7 玉川西部	(中町、野毛、瀬田、上野毛、玉川)	6.1
8 砧北部	(船橋、千歳台、祖師谷、砧、成城)	12.6
9 砧南部	(大蔵、砧公園、岡本、鎌田、喜多見、宇奈根)	5.5
10 烏山	(八幡山、南烏山、粕谷、北烏山、給田、上祖師谷、上北沢)	12.3

(無回答)

1.6

ご協力ありがとうございました。

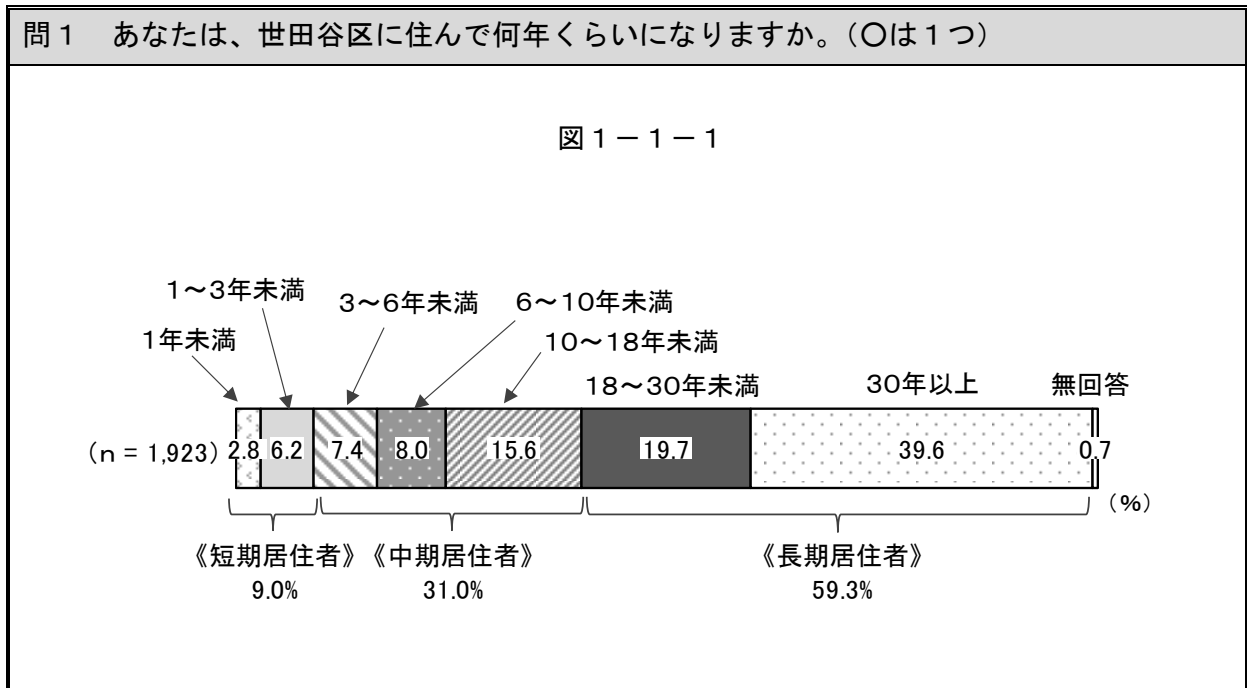
※ ご記入いただいた調査用紙は6月2日までに、投函してください。

調 査 結 果

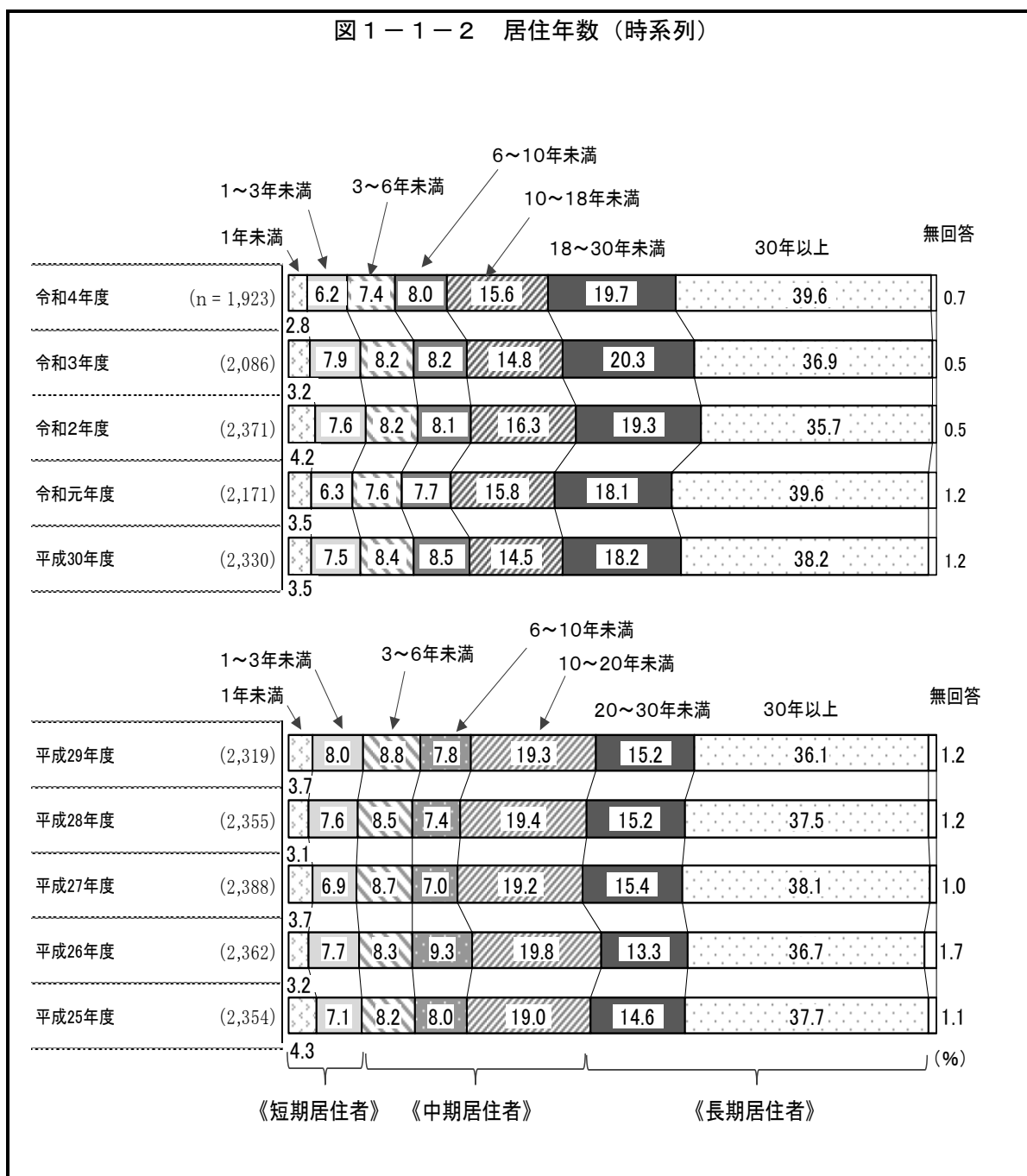
1. 定住性

(1) 居住年数

◎居住年数 18 年以上の《長期居住者》はほぼ 6 割

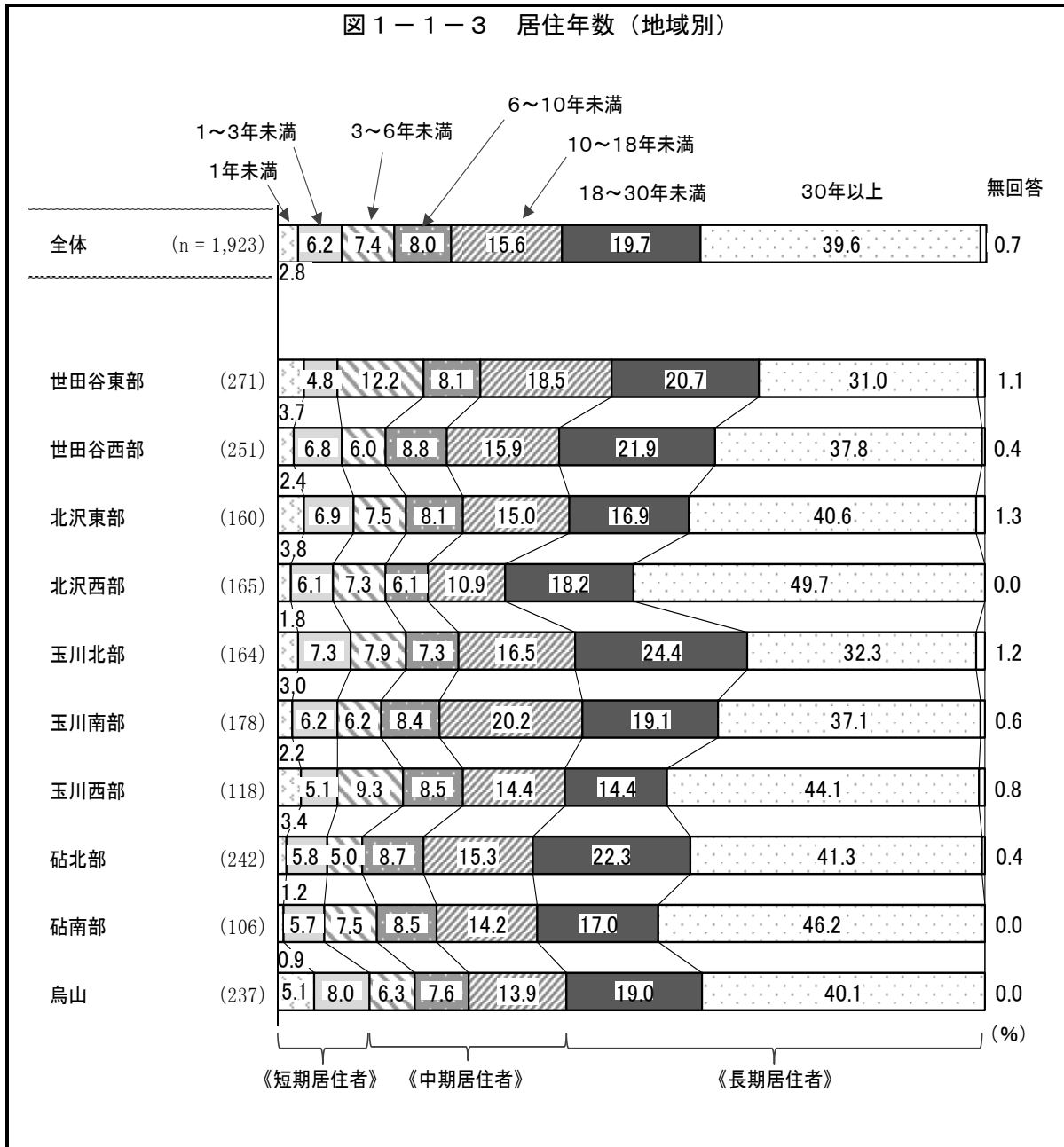


世田谷区での居住年数は、「1年未満」(2.8%)と「1～3年未満」(6.2%)を合わせた《短期居住者》(9.0%)がほぼ1割、「3～6年未満」(7.4%)、「6～10年未満」(8.0%)、「10～18年未満」(15.6%)を合わせた《中期居住者》(31.0%)が3割を超え、「18～30年未満」(19.7%)と「30年以上」(39.6%)を合わせた《長期居住者》(59.3%)がほぼ6割となっている。(図1-1-1)

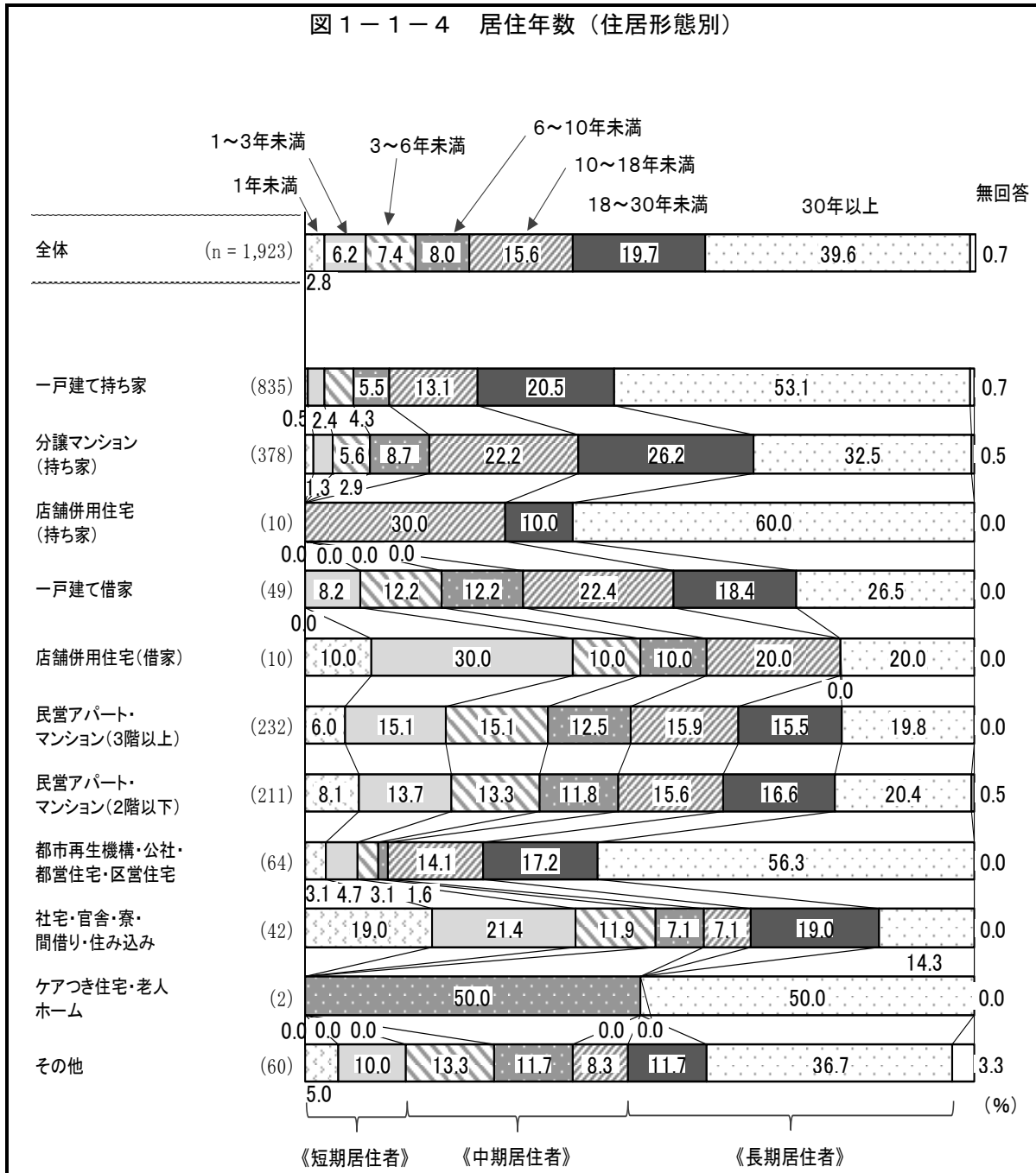


平成30年度以降と平成29年度以前では、「10～18年未満」と「18～30年未満」の区分が異なるが、平成25年度からの時系列の変化をみると、《短期居住者》、《中期居住者》、《長期居住者》ともに割合に大きな変化は見られない。《長期居住者》は5割台で推移している。

(図 1 - 1 - 2)



地域別にみると、《長期居住者》は北沢西部が7割近くで最も高く、砧北部、砧南部で6割を超えている。《短期居住者》は烏山で1割を超えている。（図1-1-3）

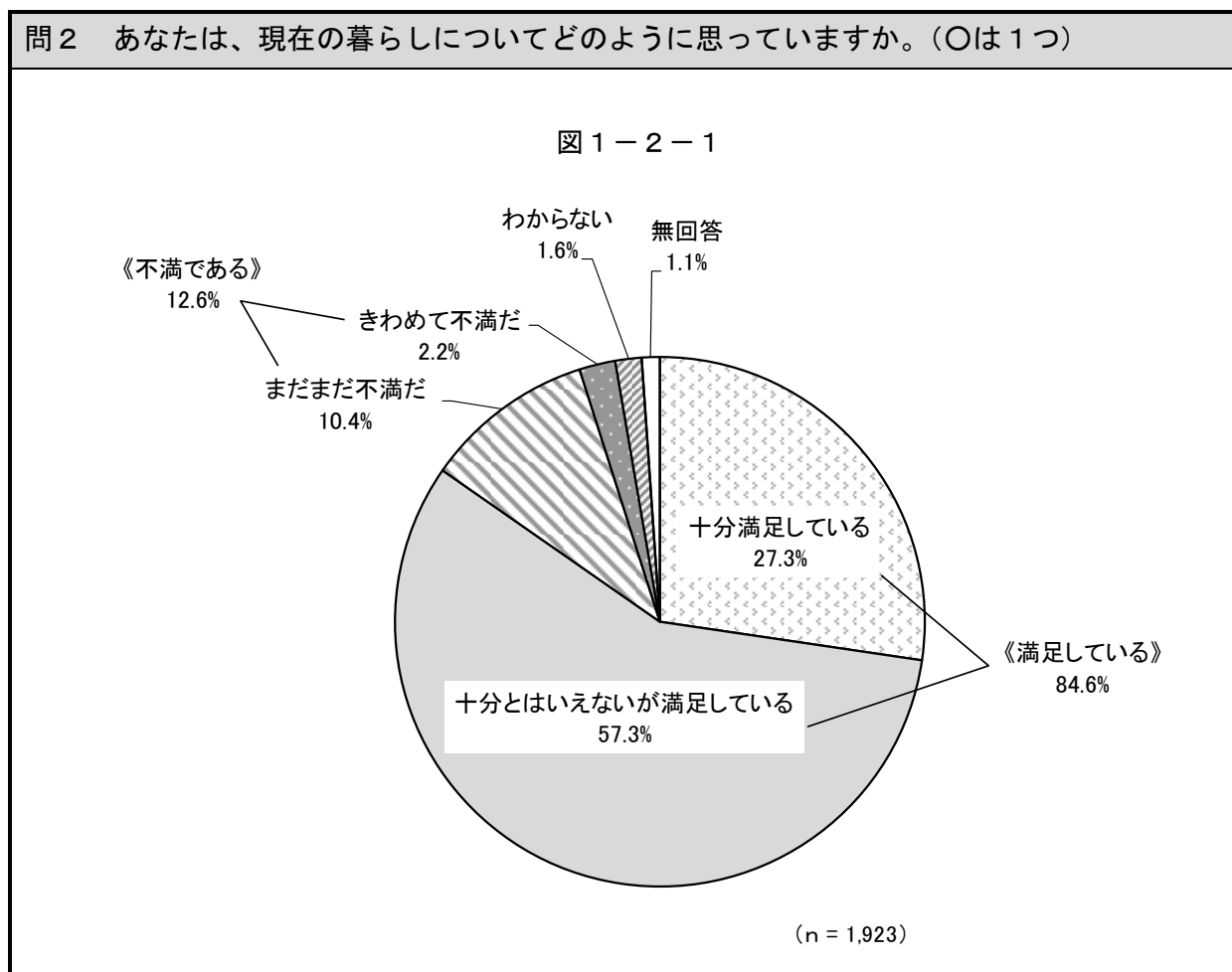


住居形態別にみると、《長期居住者》は、一戸建て持ち家、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅では7割を超えている。《短期居住者》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで4割となっている。（図1-1-4）

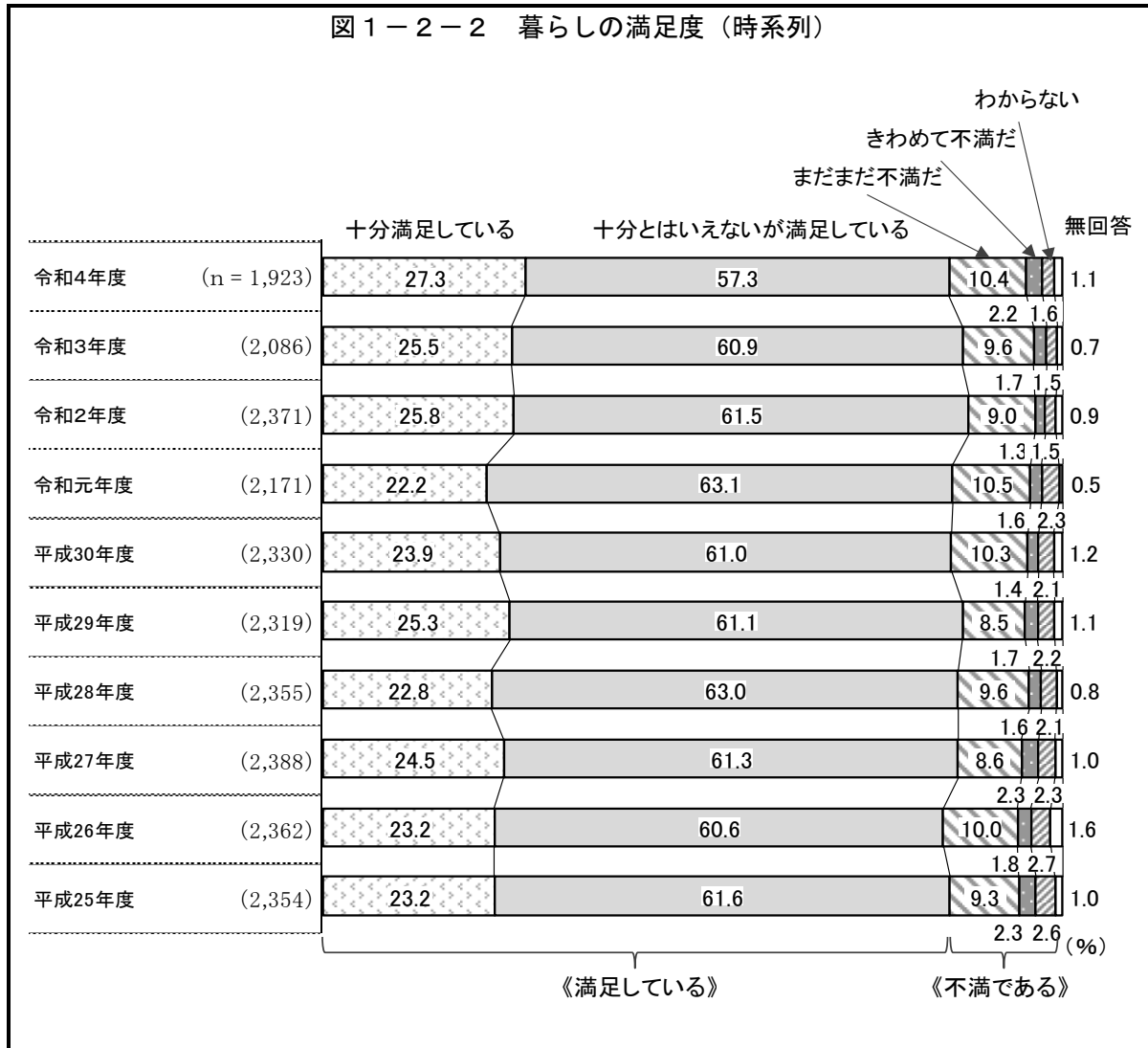
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

(2) 暮らしの満足度

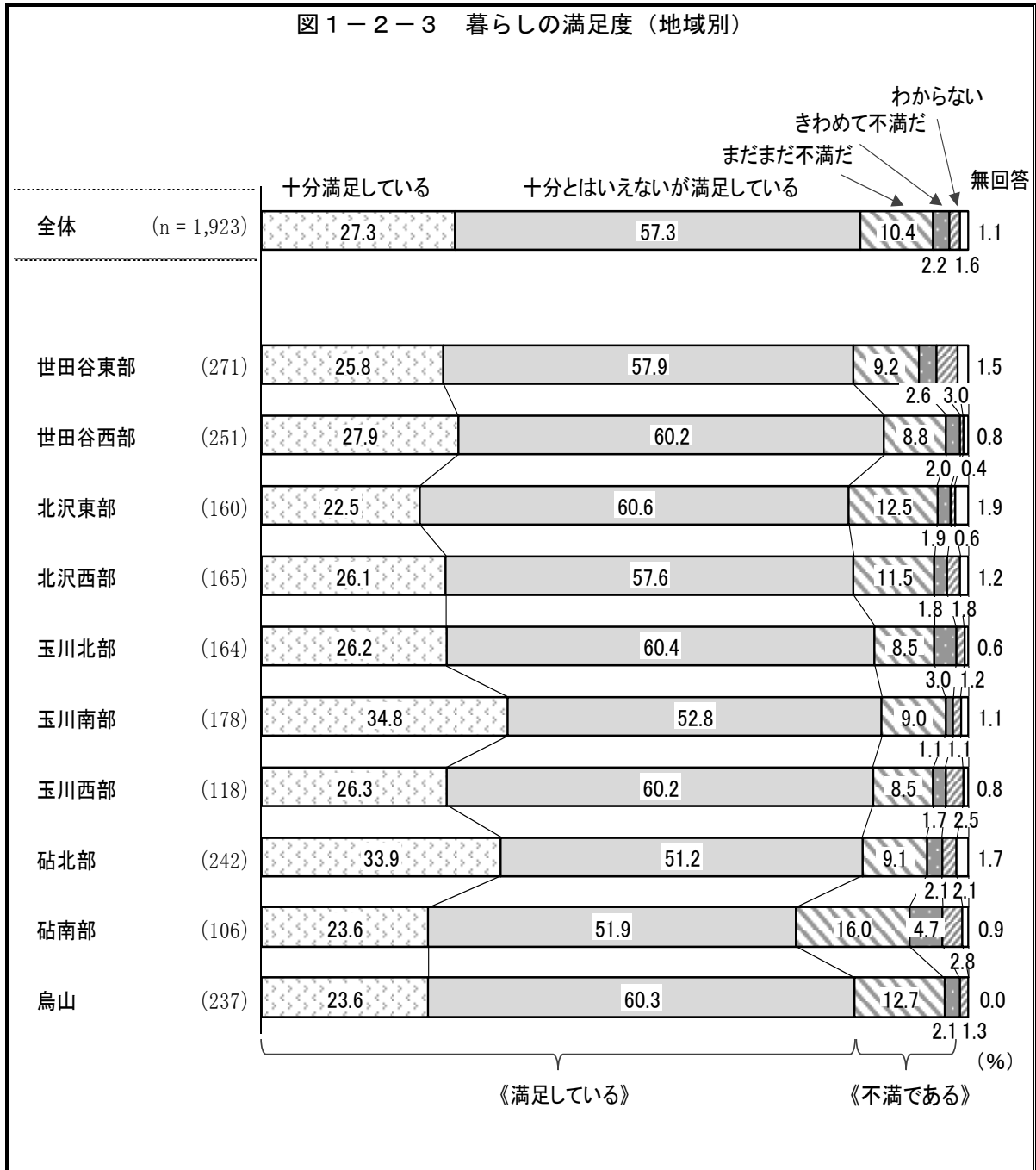
◎ 《満足している》が8割半ば



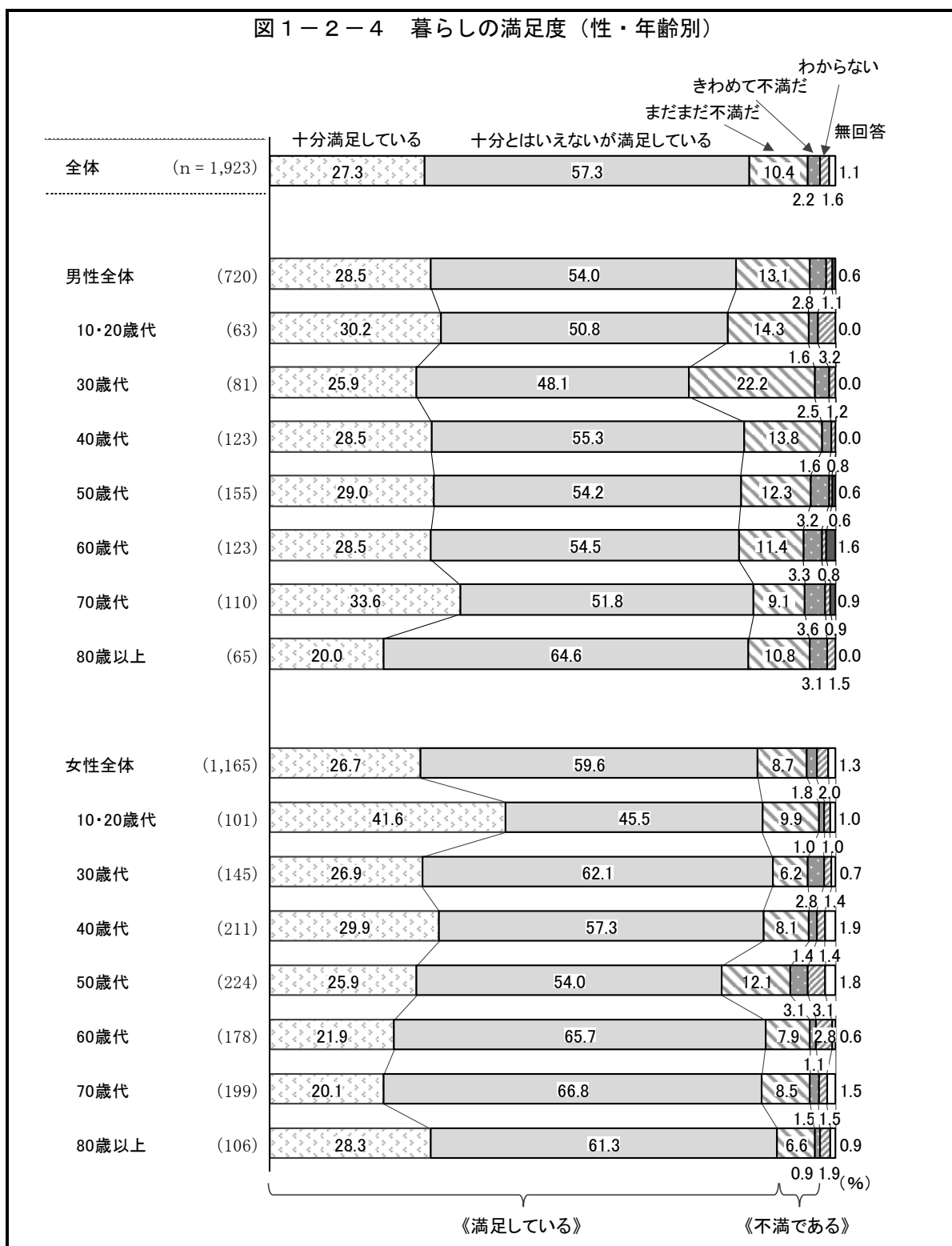
現在の暮らしについてどのように思っているか聞いたところ、「十分満足している」(27.3%)と「十分とはいえないが満足している」(57.3%)を合わせた《満足している》(84.6%)が8割半ばとなり、「まだまだ不満だ」(10.4%)と「きわめて不満だ」(2.2%)を合わせた《不満である》(12.6%)を大きく上回っている。(図1-2-1)



平成 25 年度からの時系列の変化をみると、《満足している》が多数を占める傾向に変化はない。（図 1 - 2 - 2）

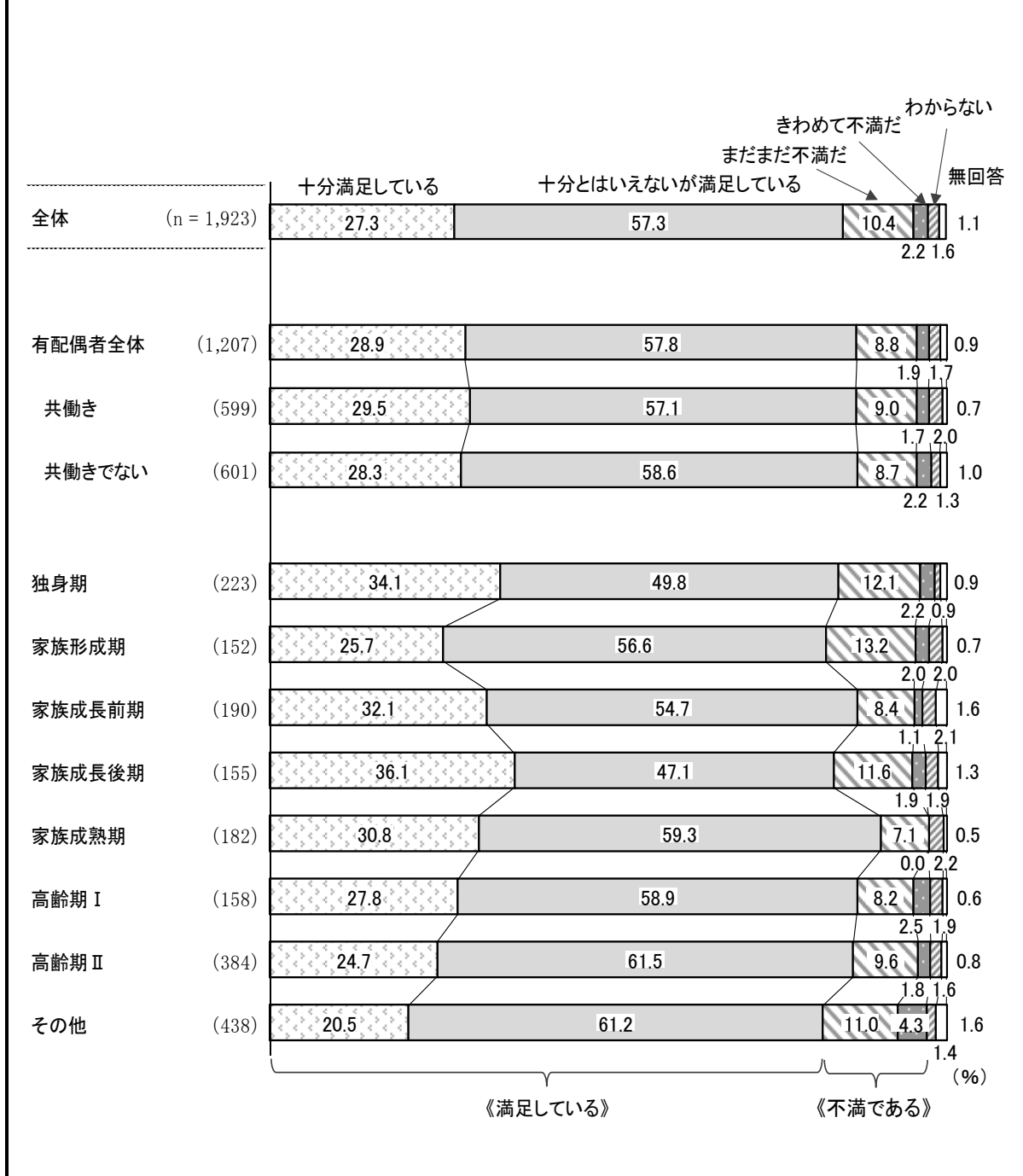


地域別にみると、いずれの地域も《満足している》が多数を占めており、「十分満足している」は玉川南部で3割半ば、砧北部で3割を超えている。一方、《不満である》は砧南部でほぼ2割となっている。（図1-2-3）



性・年齢別にみると、《満足している》は女性の80歳以上で9割、女性の30歳代でほぼ9割となっている。「十分満足している」は女性の10・20歳代で4割を超えている。《不満である》は、男性の30歳代で2割半ばとなっている。（図1-2-4）

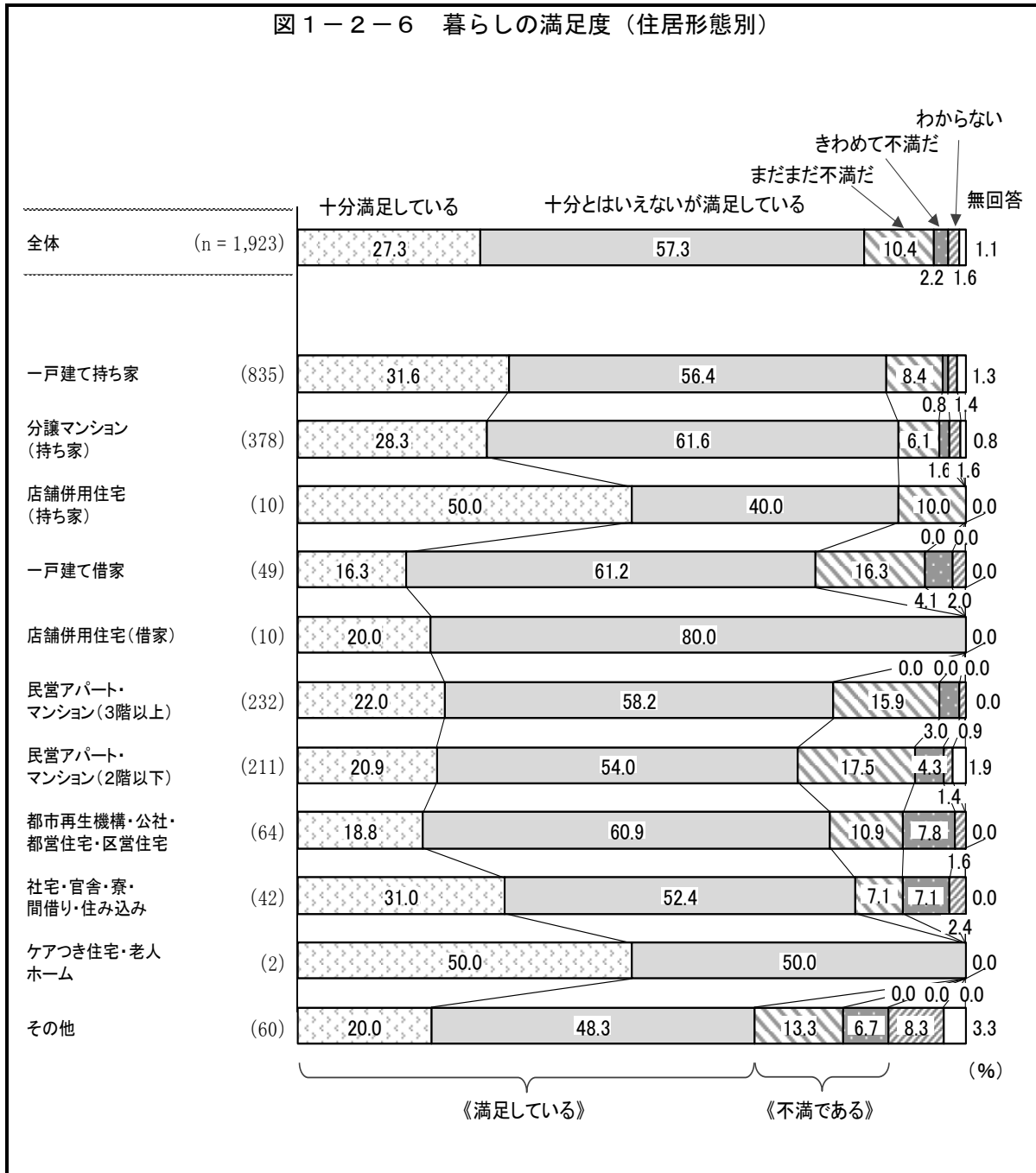
図 1-2-5 暮らしの満足度（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

ライフステージ別にみると、《満足している》は家族成熟期が9割で最も高くなっている。「十分満足している」は家族成長後期で3割半ばとなっている。（図1-2-5）

図 1-2-6 暮らしの満足度（住居形態別）

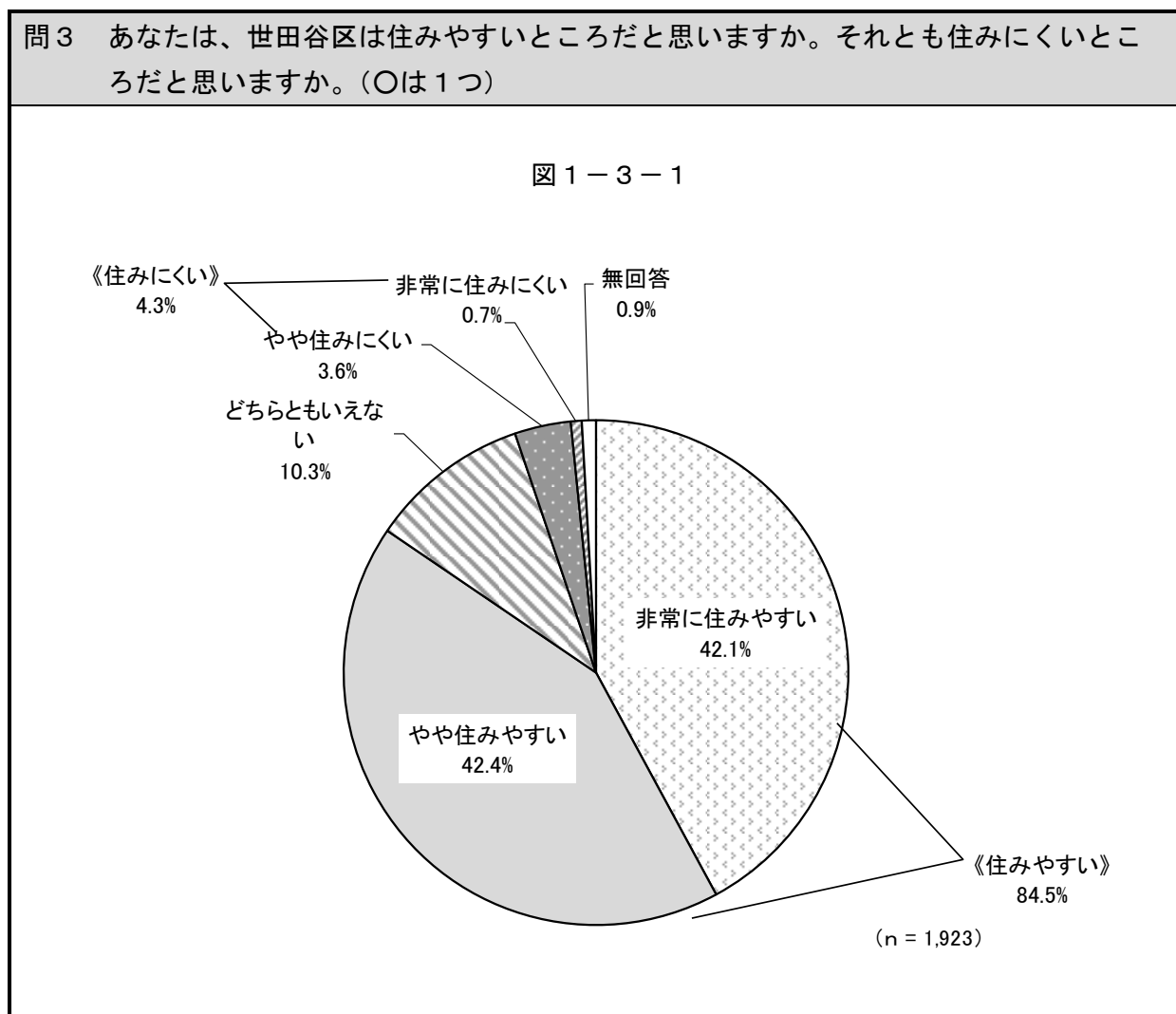


住居形態別にみると、《満足している》は、分譲マンション（持ち家）で9割、一戸建て持ち家で9割近くとなっている。《不満である》は、民営アパート・マンション（2階以下）で2割を超えている。（図1-2-6）

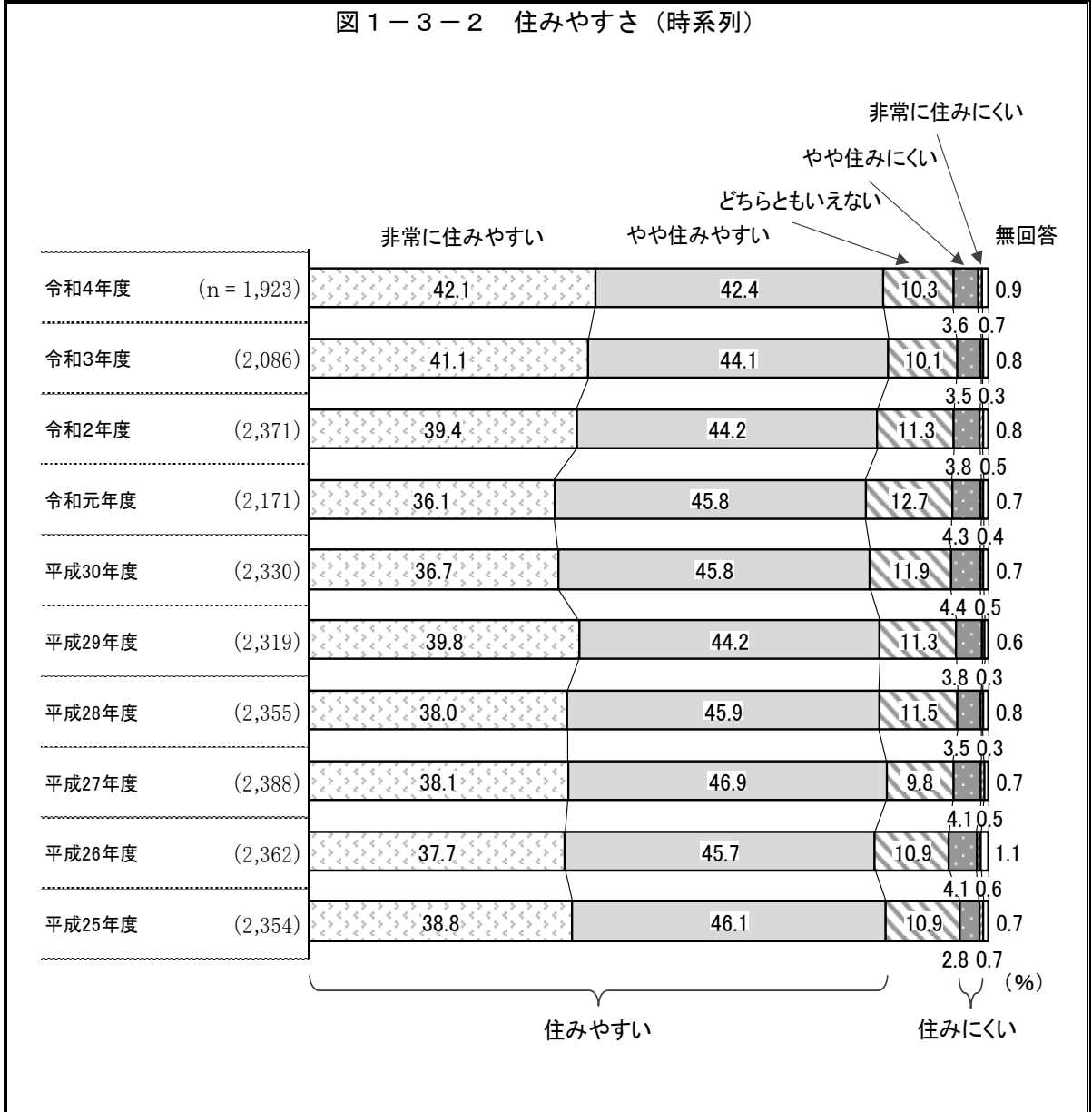
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

(3) 住みやすさ

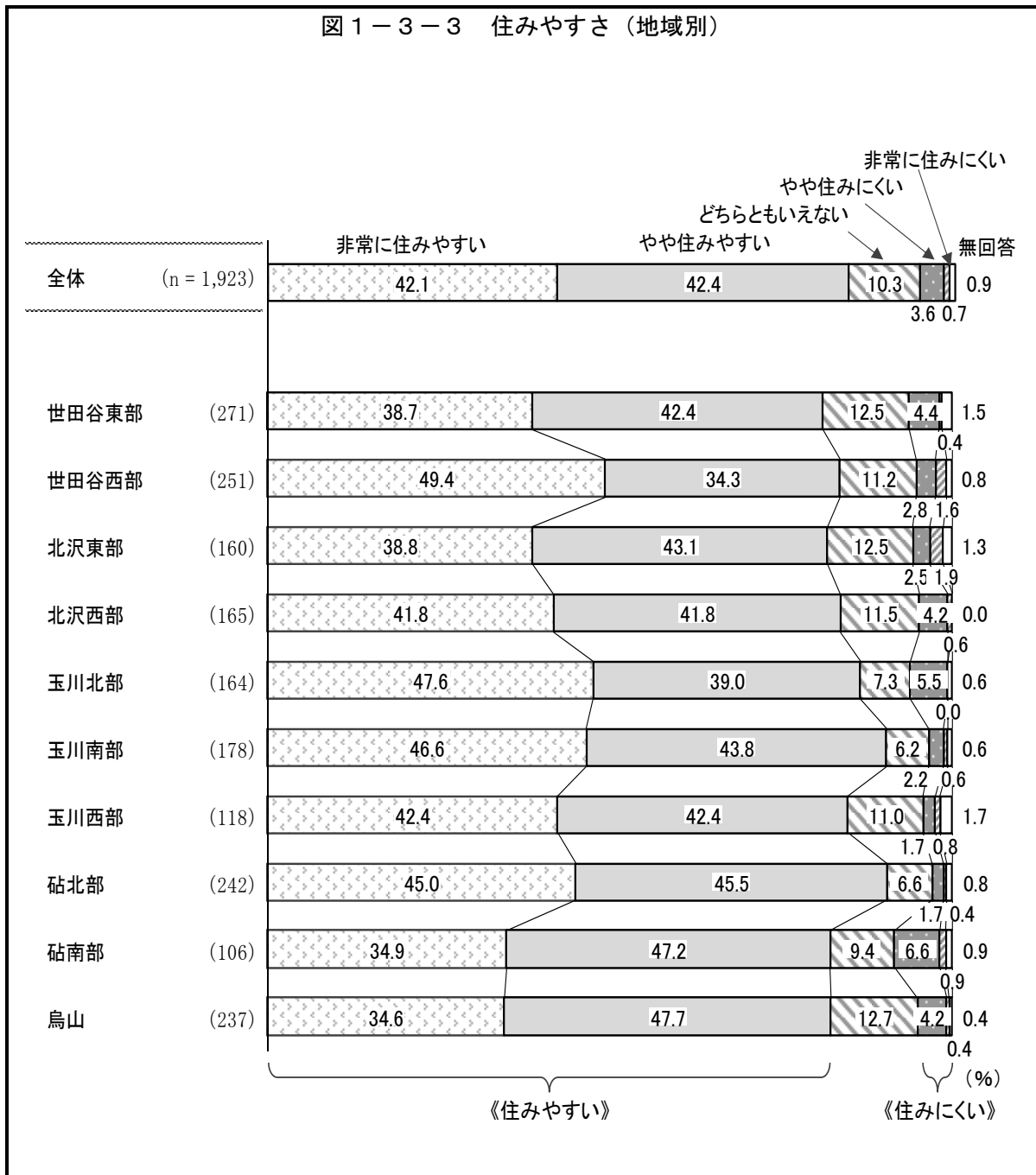
◎「住みやすい」が8割半ば



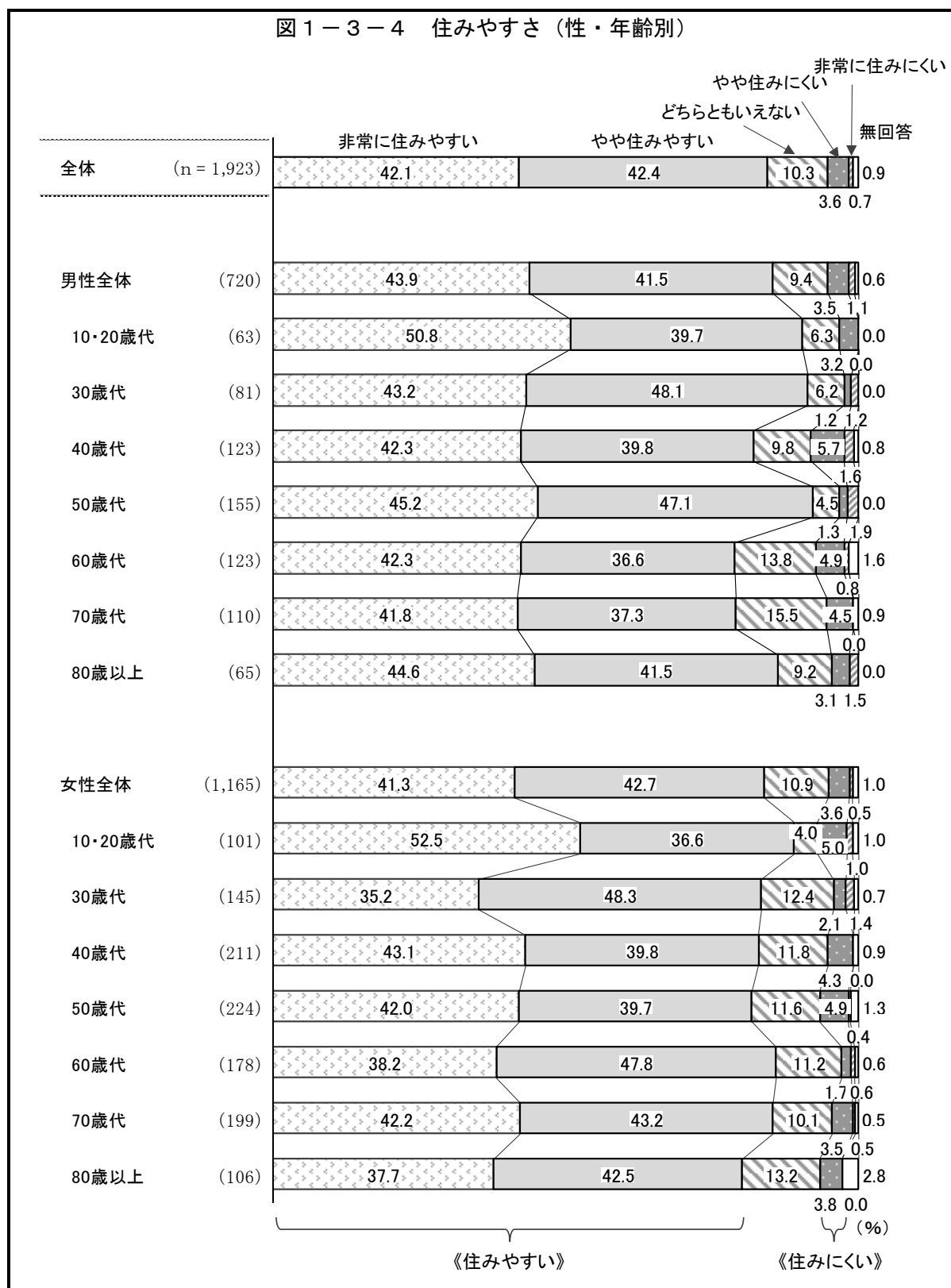
世田谷区の住みやすさについて聞いたところ、「非常に住みやすい」(42.1%)と「やや住みやすい」(42.4%)を合わせた《住みやすい》(84.5%)が8割半ばとなっており、「やや住みにくい」(3.6%)と「非常に住みにくい」(0.7%)を合わせた《住みにくい》(4.3%)を大きく上回っている。(図1-3-1)



平成 25 年度からの時系列の変化をみると、「住みやすい」の割合は、いずれの年も 8 割台となっている。「非常に住みやすい」の割合は、3 割台後半で推移し、令和 3 年から 4 割を超えている。(図 1-3-2)

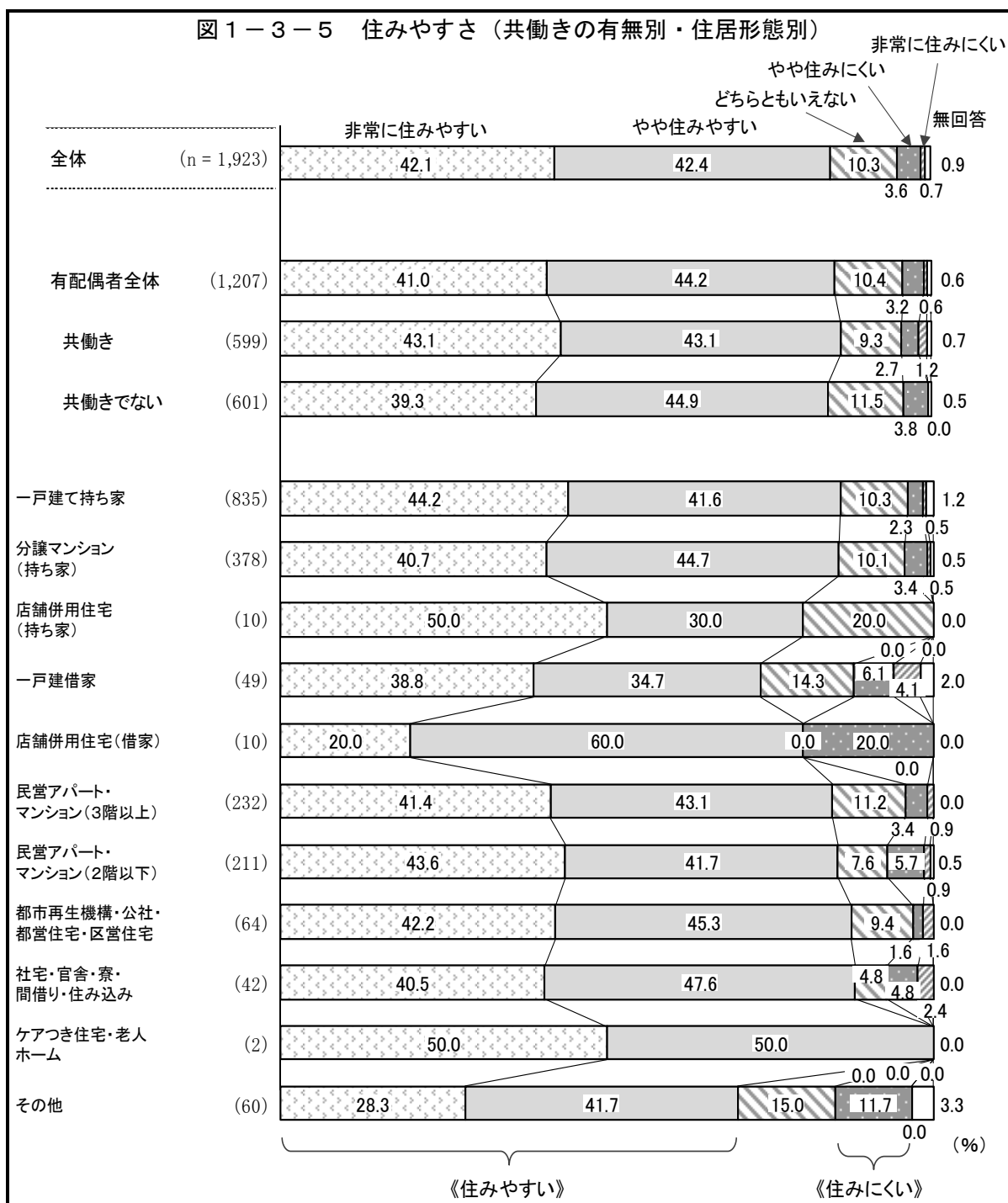


地域別にみると、いずれの地域も《住みやすい》が多数を占めており、「非常に住みやすい」は世田谷西部でほぼ5割、玉川北部、玉川南部で5割近くとなっている。《住みにくい》は、いずれの地域でも1割に満たなかった。(図1-3-3)



性・年齢別にみると、《住みやすい》は男性の30歳代、50歳代で9割を超え、女性の10・20歳代でほぼ9割となっている。「非常に住みやすい」は女性の10・20歳代で5割を超え、男性の10・20歳代でほぼ5割と高い。《住みにくい》は、どの年代でも1割に満たなかった。

(図1-3-4)



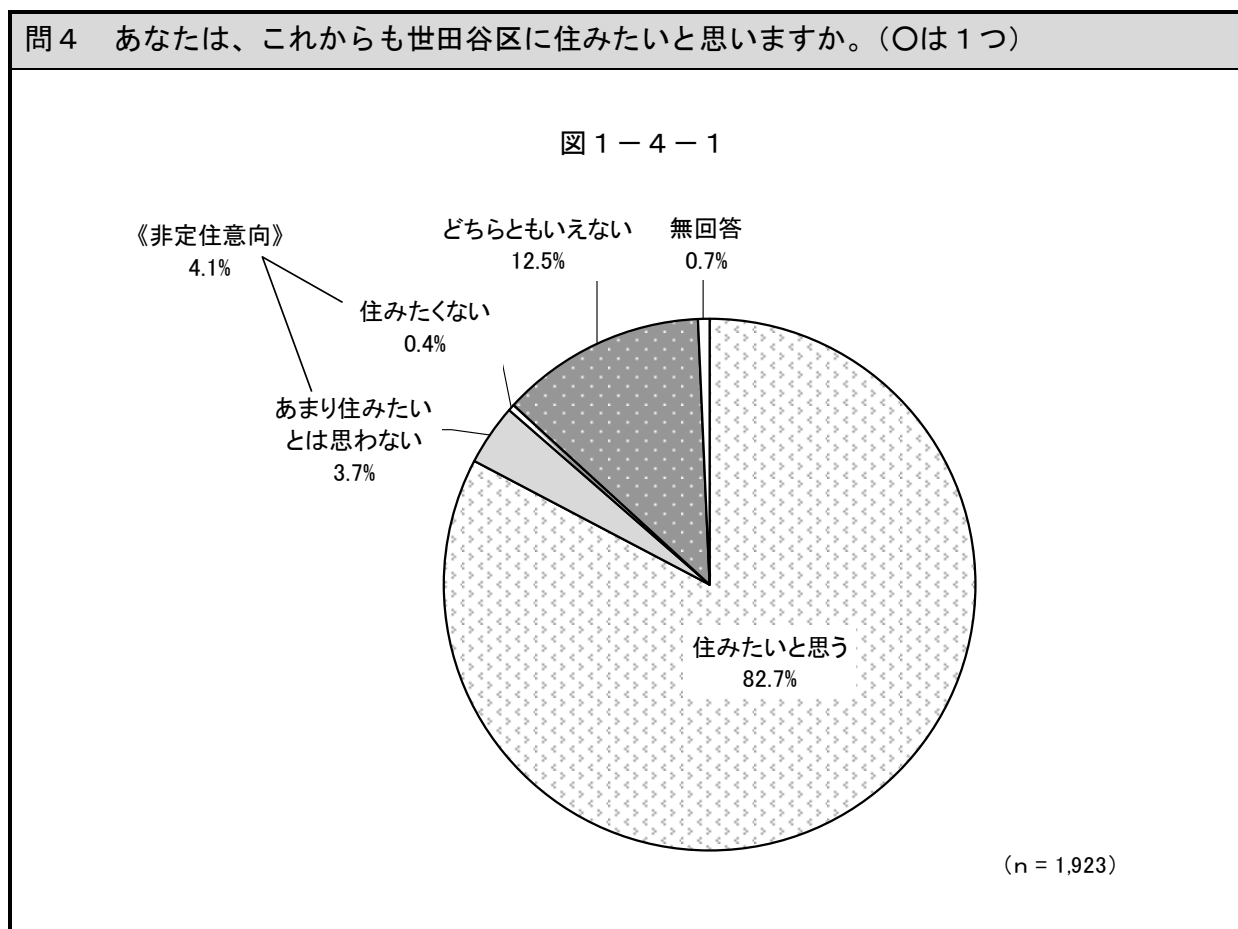
共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別にみると、《住みやすい》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込み、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅で9割近くとなっている。（図1-3-5）

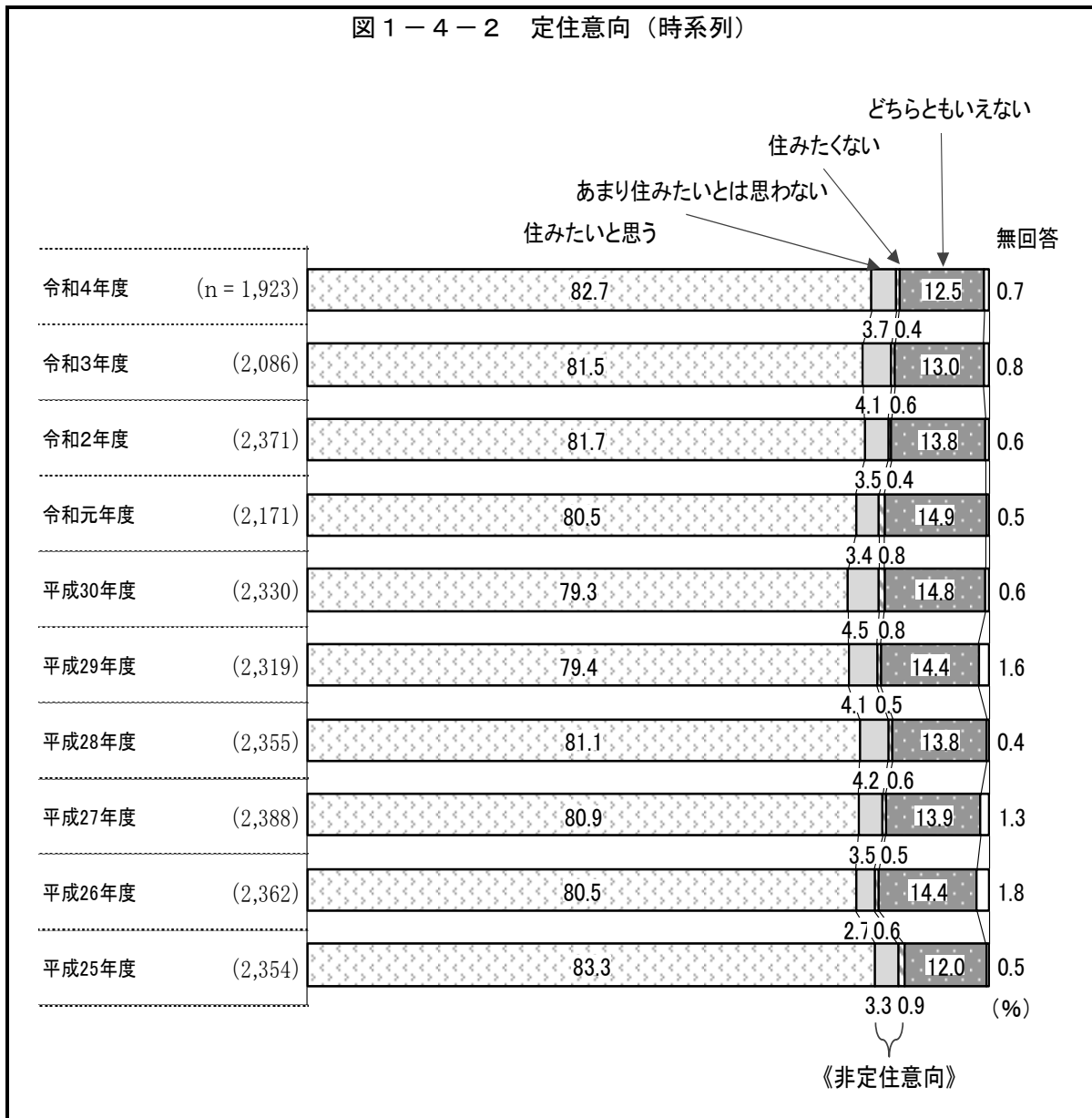
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

(4) 定住意向

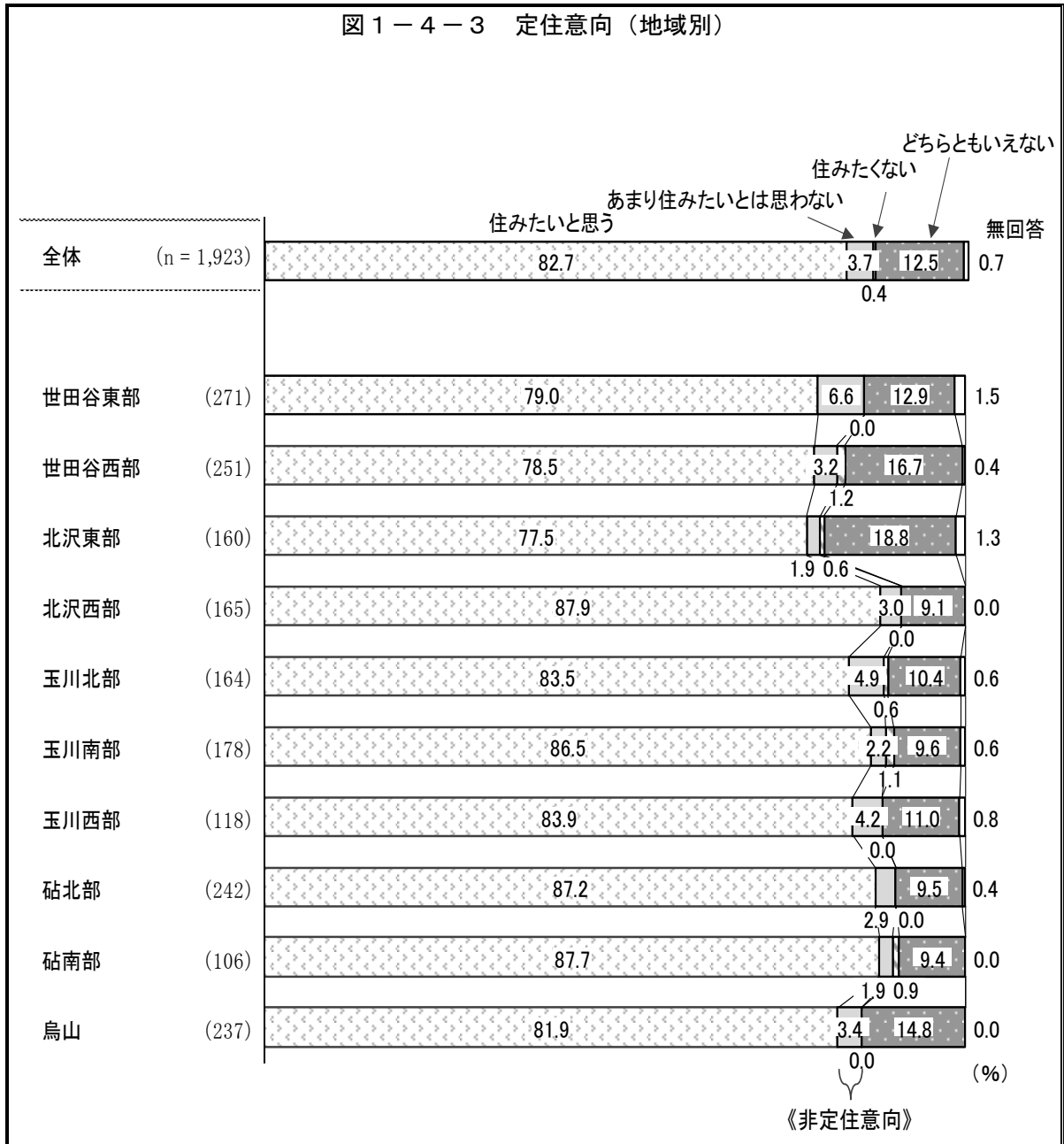
◎「住みたいと思う」が8割を超えている



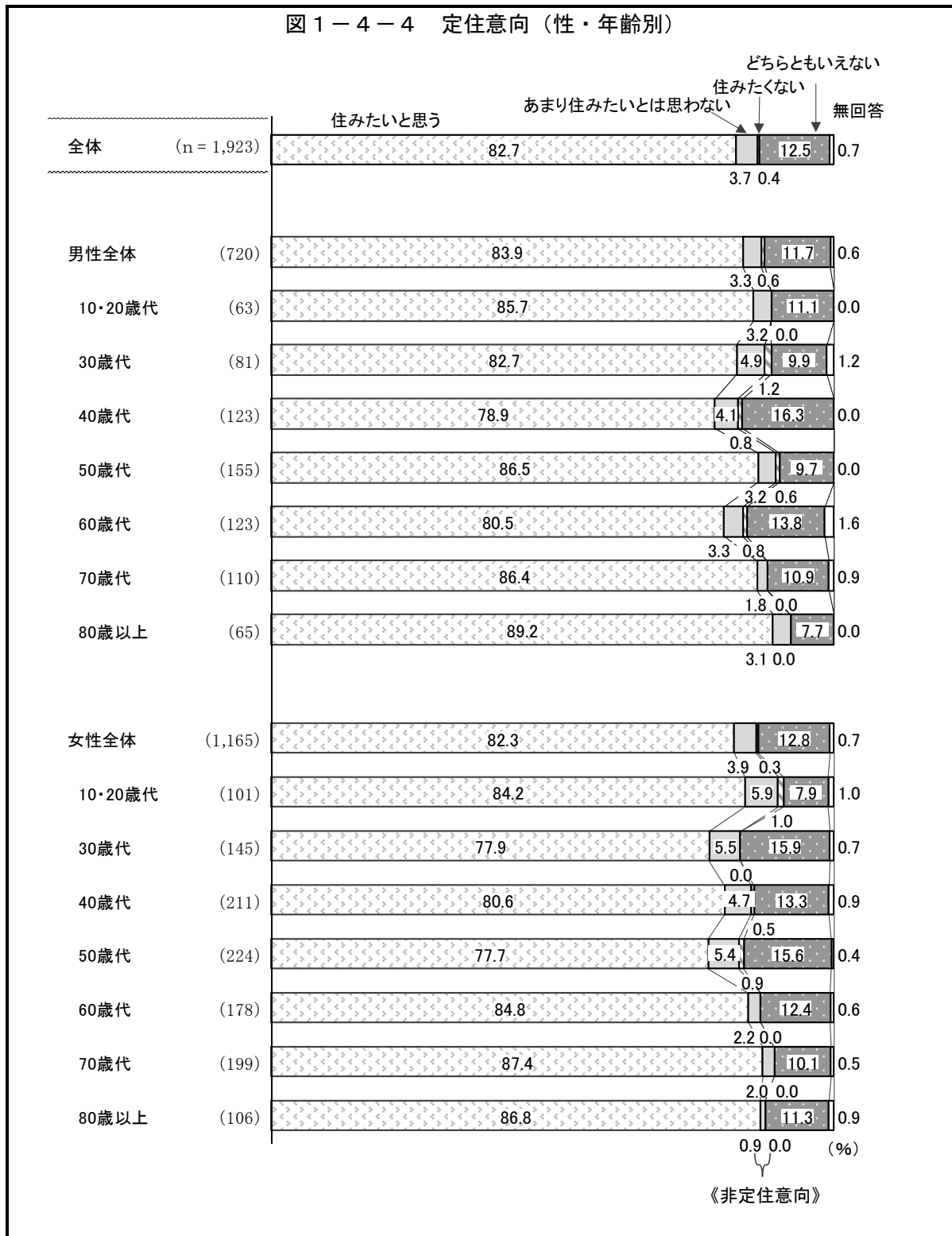
今後の世田谷区への定住意向を聞いたところ、「住みたいと思う」(82.7%)が8割を超えている。「あまり住みたいとは思わない」(3.7%)と「住みたくない」(0.4%)を合わせた《非定住意向》(4.1%)は1割に満たなかった。(図1-4-1)



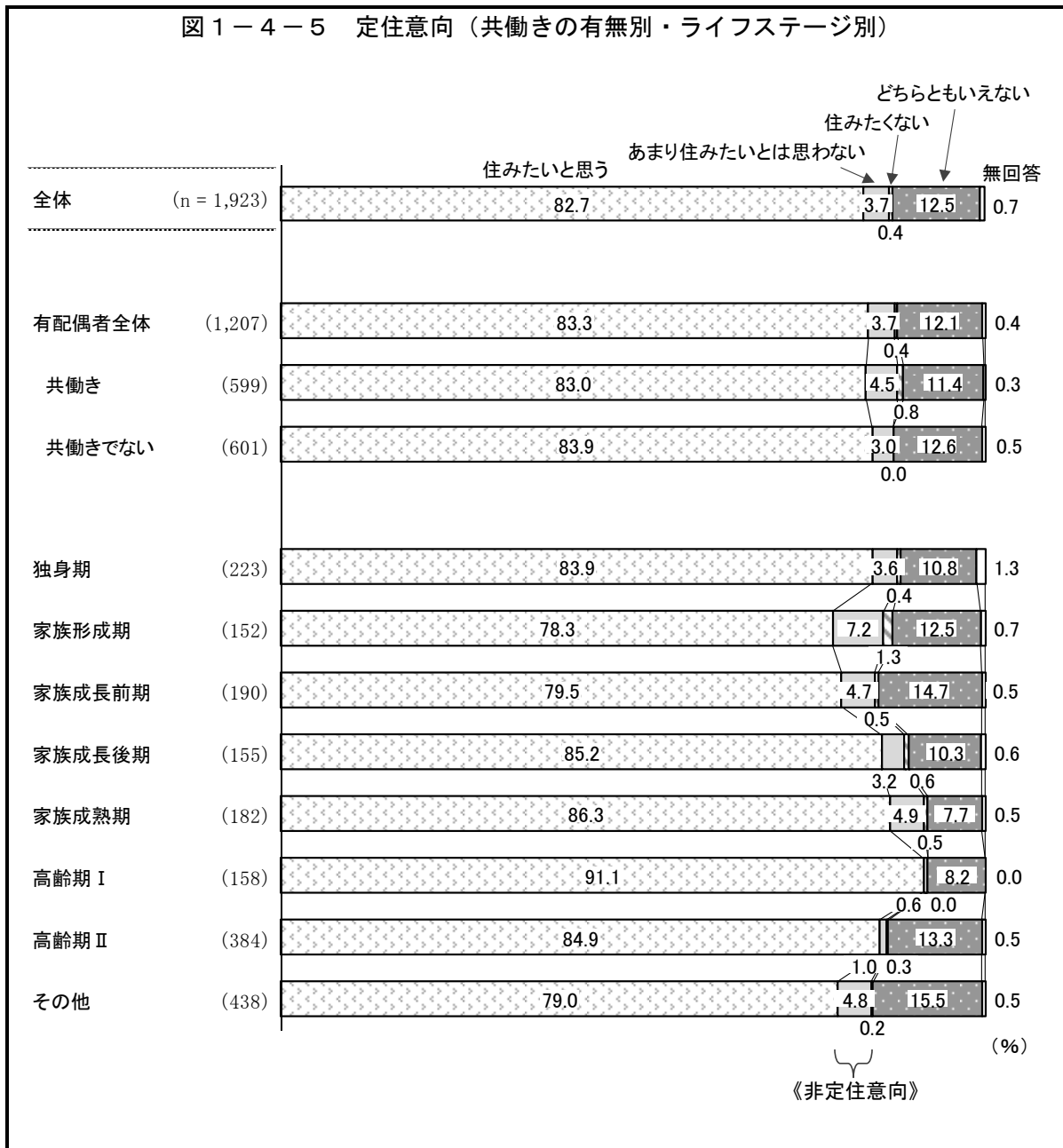
平成 25 年度からの時系列の変化をみると、「住みたいと思う」は、若干の変動はあるものの、8割前後で推移している。（図 1-4-2）



地域別にみると、「住みたいと思う」は、北沢西部、砧南部、砧北部、玉川南部、で9割近くとなっている。いずれの地域でも《非定住意向》は1割に満たなかった。（図1-4-3）

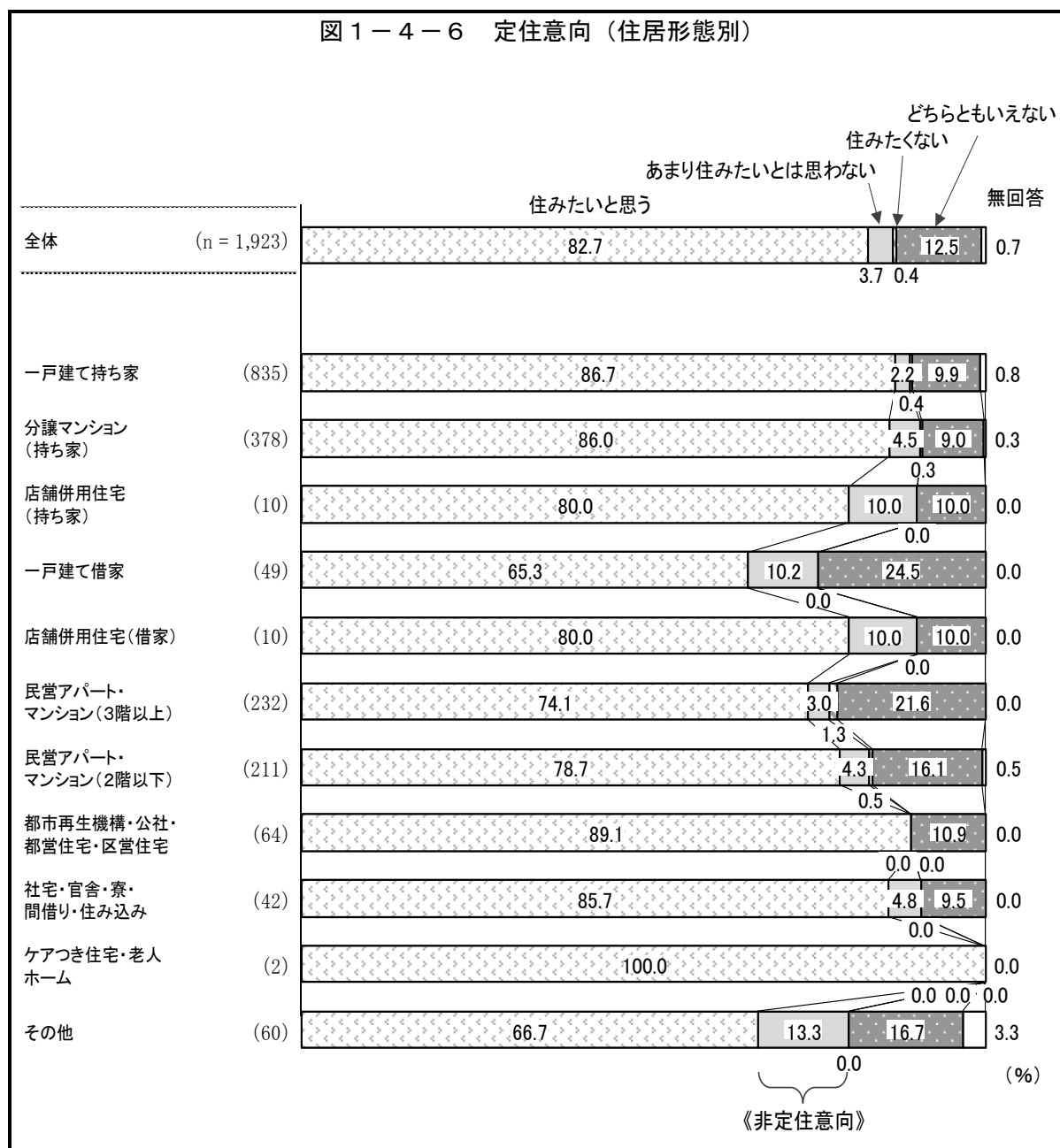


性・年齢別にみると、「住みたいと思う」は男性の80歳以上でほぼ9割となっている。《非定住意向》は男性の30歳代、女性の10・20歳代で1割近くとなっている。定住意向は高年層で高く、若年層で低い傾向が見られる。（図1-4-4）



共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

ライフステージ別にみると、「住みたいと思う」は高齢期 I で9割を超えている。《非定住意向》は、家族形成期で1割近くとなっている。（図1-4-5）



住居形態別にみると、「住みたいと思う」は都市再生機構・公社・都営住宅・区営住宅でほぼ9割、一戸建て持ち家で9割近く、分譲マンション（持ち家）、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで8割半ばとなっている。（図1-4-6）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

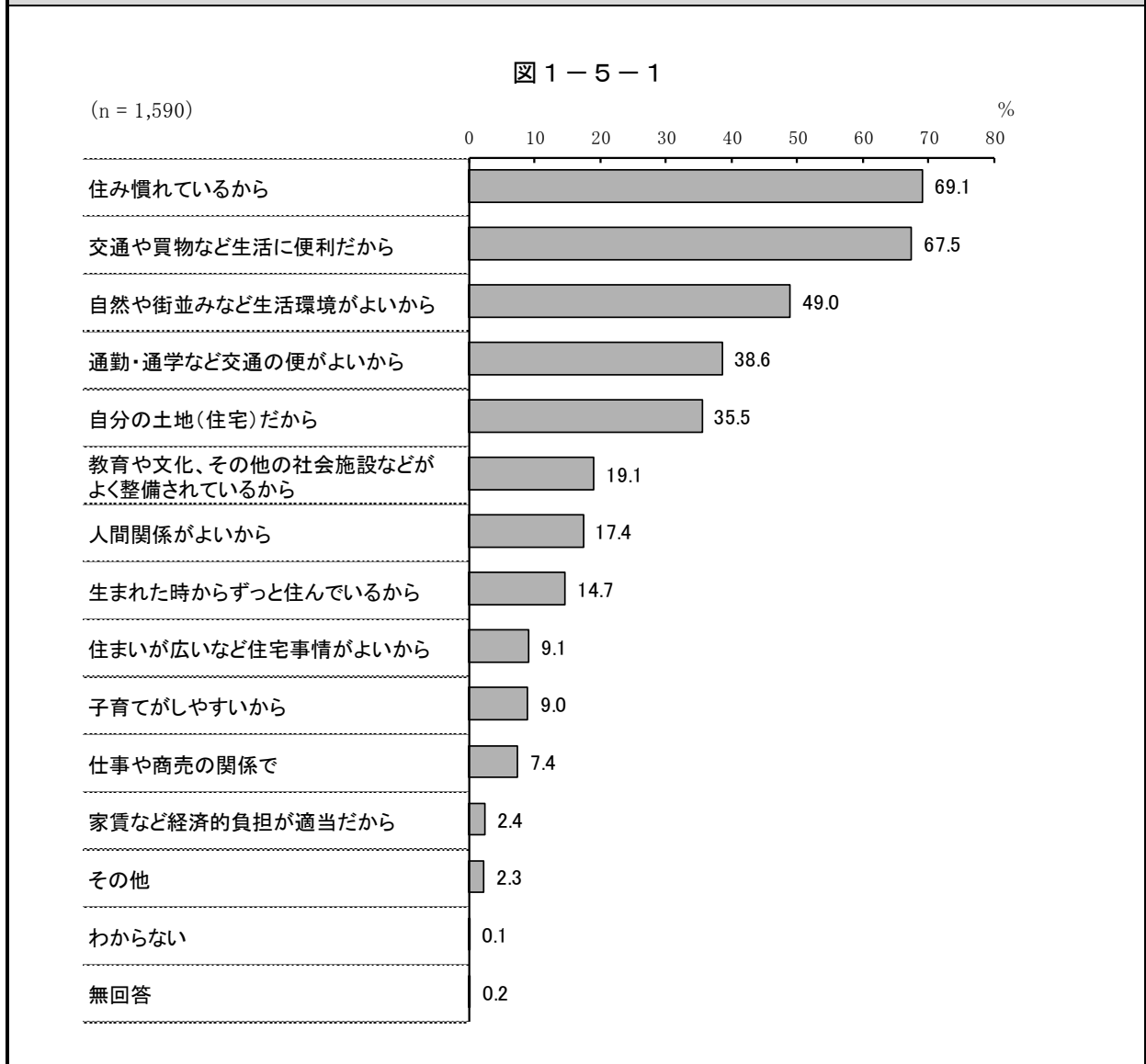
(5) 定住意向理由

◎世田谷区に住みたい理由の第1位は「住み慣れているから」

(問4で「住みたいと思う」と答えた方に)

問4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。

(〇はいくつでも)



今後も世田谷区に「住みたいと思う」と答えた方(1,590人)に、その理由を聞いたところ、「住み慣れているから」(69.1%)がほぼ7割、「交通や買い物など生活に便利だから」(67.5%)が7割近くとなっている。以下、「自然や街並みなど生活環境がよいから」(49.0%)、「通勤・通学など交通の便がよいから」(38.6%)、「自分の土地(住宅)だから」(35.5%)などと続く。(図1-5-1)

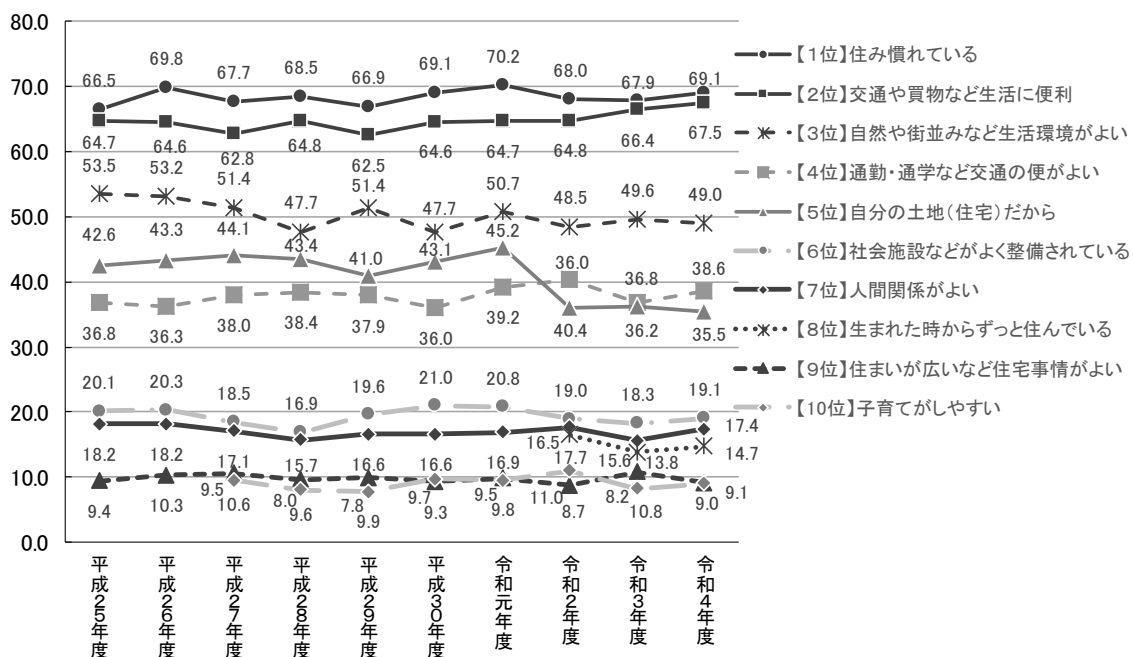
表 1-5-1 定住意向理由（時系列）

（%）

理由	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
n	1,961	1,901	1,931	1,909	1,841	1,848	1,747	1,936	1,700	1,590
【1位】住み慣れている	66.5	69.8	67.7	68.5	66.9	69.1	70.2	68.0	67.9	69.1
【2位】交通や買い物など生活に便利	64.7	64.6	62.8	64.8	62.5	64.6	64.7	64.8	66.4	67.5
【3位】自然や街並みなど生活環境がよい	53.5	53.2	51.4	47.7	51.4	47.7	50.7	48.5	49.6	49.0
【4位】通勤・通学など交通の便がよい	36.8	36.3	38.0	38.4	37.9	36.0	39.2	40.4	36.8	38.6
【5位】自分の土地（住宅）だから	42.6	43.3	44.1	43.4	41.0	43.1	45.2	36.0	36.2	35.5
【6位】社会施設などがよく整備されている	20.1	20.3	18.5	16.9	19.6	21.0	20.8	19.0	18.3	19.1
【7位】人間関係がよい	18.2	18.2	17.1	15.7	16.6	16.6	16.9	17.7	15.6	17.4
【8位】生まれた時からずっと住んでいる	—	—	—	—	—	—	—	16.5	13.8	14.7
【9位】住まいが広いなど住宅事情がよい	9.4	10.3	10.6	9.6	9.9	9.3	9.8	8.7	10.8	9.1
【10位】子育てがしやすい	—	—	9.5	8.0	7.8	9.7	9.5	11.0	8.2	9.0

図 1-5-2 定住意向理由（時系列）

（%）



平成 25 年度からの時系列の変化をみると、「住み慣れているから」と「交通や買い物など生活に便利だから」の 2 項目が 6 割台以上で上位に挙げられている傾向に変化はみられない。令和 2 年度から追加された「生まれた時からずっと住んでいるから」は令和 3 年同様 8 位となっている。（表 1-5-1、図 1-5-2）

表 1 - 5 - 2 定住意向理由 (地域別)

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,590	住み慣れているから 69.1	交通や買い物など生活に便利だから 67.5	自然や街並みなど生活環境がよいから 49.0	通勤・通学など交通の便がよいから 38.6	自分の土地(住宅)だから 35.5	社会施設などがよく整備されているから 19.1	人間関係がよいから 17.4	生まれた時からずっと住んでいるから 14.7	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.1	子育てがしやすいから 9.0
世田谷部	214	交通や買い物など生活に便利だから 80.8	住み慣れているから 62.1	通勤・通学など交通の便がよいから 42.1	自然や街並みなど生活環境がよいから 41.6	自分の土地(住宅)だから 34.1	人間関係がよいから 16.8	社会施設などがよく整備されているから 15.9	生まれた時からずっと住んでいるから 10.7	仕事や商売で 8.4	子育てがしやすいから 6.1
世田西部	197	住み慣れているから 74.1	交通や買い物など生活に便利だから 72.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 48.2	通勤・通学など交通の便がよいから 45.7	自分の土地(住宅)だから 33.0	社会施設などがよく整備されているから 19.3	人間関係がよいから 16.8	生まれた時からずっと住んでいるから 15.7	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.1	子育てがしやすいから 8.1
北東 沢部	124	交通や買い物など生活に便利だから 73.4	住み慣れているから 66.9	通勤・通学など交通の便がよいから 41.9	自分の土地(住宅)だから 36.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 33.9	生まれた時からずっと住んでいるから 16.9	人間関係がよいから 15.3	社会施設などがよく整備されているから 15.3	住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.9	仕事や商売で 7.3
北西 沢部	145	住み慣れているから 73.1	交通や買い物など生活に便利だから 72.4	通勤・通学など交通の便がよいから 49.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 44.8	自分の土地(住宅)だから 42.8	社会施設などがよく整備されているから 17.2	生まれた時からずっと住んでいるから 15.2	人間関係がよいから 13.1	仕事や商売で 9.7	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.0
玉川部	137	住み慣れているから 69.3	交通や買い物など生活に便利だから 62.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 55.5	自分の土地(住宅)だから 35.8	通勤・通学など交通の便がよいから 35.8	人間関係がよいから 21.9	社会施設などがよく整備されているから 19.0	生まれた時からずっと住んでいるから 18.2	子育てがしやすいから 13.1	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.2
玉川南部	154	交通や買い物など生活に便利だから 70.1	住み慣れているから 68.2	自然や街並みなど生活環境がよいから 52.6	通勤・通学など交通の便がよいから 39.6	自分の土地(住宅)だから 33.1	人間関係がよいから 22.1	社会施設などがよく整備されているから 20.1	生まれた時からずっと住んでいるから 16.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 12.3	子育てがしやすいから 8.4
玉川部	99	住み慣れているから 66.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 62.6	交通や買い物など生活に便利だから 61.6	通勤・通学など交通の便がよいから 39.4	自分の土地(住宅)だから 34.3	人間関係がよいから 16.2	社会施設などがよく整備されているから 16.2	生まれた時からずっと住んでいるから 14.1	住まいが広いなど住宅事情がよいから 12.1	子育てがしやすいから 11.1
砧北部	211	住み慣れているから 71.1	交通や買い物など生活に便利だから 63.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 56.9	自分の土地(住宅)だから 39.8	通勤・通学など交通の便がよいから 28.4	社会施設などがよく整備されているから 27.0	人間関係がよいから 16.6	生まれた時からずっと住んでいるから 12.8	子育てがしやすいから 12.3	住まいが広いなど住宅事情がよいから 7.6
砧南部	93	住み慣れているから 72.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 61.3	交通や買い物など生活に便利だから 48.4	自分の土地(住宅)だから 34.4	通勤・通学など交通の便がよいから 29.0	人間関係がよいから 20.4	社会施設などがよく整備されているから 17.2	生まれた時からずっと住んでいるから 14.0	子育てがしやすいから 12.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 7.5
烏山	194	住み慣れているから 66.0	交通や買い物など生活に便利だから 61.9	自然や街並みなど生活環境がよいから 42.8	通勤・通学など交通の便がよいから 34.5	自分の土地(住宅)だから 32.0	社会施設などがよく整備されているから 17.5	生まれた時からずっと住んでいるから 16.0	人間関係がよいから 14.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.8	子育てがしやすいから 9.3

地域別にみると、「住み慣れているから」はすべての地域で2位以内に挙げられている。砧南部は「交通や買い物など生活に便利だから」が48.4%と他の地域に比べやや低い。

(表 1 - 5 - 2)

表1-5-3 定住意向理由(性・年齢別) (%)											
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,590	住み慣れているから 69.1	交通や買い物など生活に便利だから 67.5	自然や街並みなど生活環境がよいから 49.0	通勤・通学など交通の便がよいから 38.6	自分の土地(住宅)だから 35.5	社会施設などがよく整備されているから 19.1	人間関係がよいから 17.4	生まれた時からずっと住んでいるから 14.7	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.1	子育てがしやすいから 9.0
男性全体	604	住み慣れているから 66.2	交通や買い物など生活に便利だから 64.4	自然や街並みなど生活環境がよいから 46.2	通勤・通学など交通の便がよいから 42.1	自分の土地(住宅)だから 33.4	社会施設などがよく整備されているから 18.9	人間関係がよいから 16.6	生まれた時からずっと住んでいるから 14.4	仕事や商売の関係で 9.6	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.1
10・20歳代	54	交通や買い物など生活に便利だから 63.0	住み慣れているから 63.0	通勤・通学など交通の便がよいから 59.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 38.9	生まれた時からずっと住んでいるから 29.6	仕事や商売の関係で 16.7	自分の土地(住宅)だから 14.8	人間関係がよいから 13.0	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.3	社会施設などがよく整備されているから 9.3
30歳代	67	交通や買い物など生活に便利だから 64.2	通勤・通学など交通の便がよいから 55.2	自然や街並みなど生活環境がよいから 50.7	住み慣れているから 43.3	子育てがしやすいから 17.9	仕事や商売の関係で 16.4	自分の土地(住宅)だから 13.4	人間関係がよいから 13.4	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.9	社会施設などがよく整備されているから 11.9
40歳代	97	住み慣れているから 68.0	交通や買い物など生活に便利だから 60.8	通勤・通学など交通の便がよいから 52.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 50.5	自分の土地(住宅)だから 23.7	社会施設などがよく整備されているから 17.5	子育てがしやすいから 16.5	人間関係がよいから 12.4	生まれた時からずっと住んでいるから 11.3	仕事や商売の関係で 8.2
50歳代	134	交通や買い物など生活に便利だから 70.1	住み慣れているから 65.7	通勤・通学など交通の便がよいから 49.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 44.0	自分の土地(住宅)だから 41.0	社会施設などがよく整備されているから 19.4	人間関係がよいから 17.9	生まれた時からずっと住んでいるから 11.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.9	子育てがしやすいから 6.7
60歳代	99	住み慣れているから 71.7	交通や買い物など生活に便利だから 65.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 56.6	自分の土地(住宅)だから 44.4	通勤・通学など交通の便がよいから 40.4	社会施設などがよく整備されているから 17.2	生まれた時からずっと住んでいるから 13.1	住まいが広いなど住宅事情がよいから 12.1	人間関係がよいから 9.1	仕事や商売の関係で 5.1
70歳代	95	住み慣れているから 73.7	交通や買い物など生活に便利だから 55.8	自分の土地(住宅)だから 42.1	社会施設などがよく整備されているから 42.1	生まれた時からずっと住んでいるから 28.4	通勤・通学など交通の便がよいから 26.3	人間関係がよいから 17.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 14.7	仕事や商売の関係で 10.5	6.3
80歳以上	58	住み慣れているから 75.9	交通や買い物など生活に便利だから 70.7	自分の土地(住宅)だから 39.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 34.5	社会施設などがよく整備されているから 24.1	人間関係がよいから 22.4	生まれた時からずっと住んでいるから 20.7	通勤・通学など交通の便がよいから 19.0	住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.6	仕事や商売の関係で 5.2
女性全体	959	住み慣れているから 70.7	交通や買い物など生活に便利だから 70.2	自然や街並みなど生活環境がよいから 51.1	通勤・通学など交通の便がよいから 37.0	自分の土地(住宅)だから 36.9	社会施設などがよく整備されているから 19.4	人間関係がよいから 19.3	生まれた時からずっと住んでいるから 13.6	子育てがしやすいから 10.2	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.2
10・20歳代	85	交通や買い物など生活に便利だから 78.8	通勤・通学など交通の便がよいから 65.9	住み慣れているから 62.4	自然や街並みなど生活環境がよいから 44.7	生まれた時からずっと住んでいるから 23.5	自分の土地(住宅)だから 14.1	住まいが広いなど住宅事情がよいから 12.9	人間関係がよいから 10.6	仕事や商売の関係で 5.9	
30歳代	113	住み慣れているから 59.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 55.8	交通や買い物など生活に便利だから 54.9	通勤・通学など交通の便がよいから 45.1	子育てがしやすいから 23.9	社会施設などがよく整備されているから 19.5	自分の土地(住宅)だから 16.8	生まれた時からずっと住んでいるから 14.2	人間関係がよいから 12.4	住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.8
40歳代	170	交通や買い物など生活に便利だから 70.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 61.8	住み慣れているから 58.2	通勤・通学など交通の便がよいから 51.8	自分の土地(住宅)だから 30.6	子育てがしやすいから 25.9	人間関係がよいから 24.7	社会施設などがよく整備されているから 23.5	生まれた時からずっと住んでいるから 8.8	仕事や商売の関係で 8.2
50歳代	174	交通や買い物など生活に便利だから 73.6	住み慣れているから 71.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 54.6	通勤・通学など交通の便がよいから 49.4	自分の土地(住宅)だから 38.5	人間関係がよいから 19.5	社会施設などがよく整備されているから 17.8	生まれた時からずっと住んでいるから 15.5	仕事や商売の関係で 8.6	
60歳代	151	住み慣れているから 81.5	交通や買い物など生活に便利だから 74.8	自然や街並みなど生活環境がよいから 49.0	自分の土地(住宅)だから 44.4	通勤・通学など交通の便がよいから 21.9	生まれた時からずっと住んでいるから 17.9	人間関係がよいから 14.6	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.9	仕事や商売の関係で 6.6	
70歳代	174	住み慣れているから 79.9	交通や買い物など生活に便利だから 70.1	自分の土地(住宅)だから 52.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 48.3	人間関係がよいから 25.3	社会施設などがよく整備されているから 23.0	通勤・通学など交通の便がよいから 19.5	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.9	生まれた時からずっと住んでいるから 10.3	仕事や商売の関係で 4.0
80歳以上	92	住み慣れているから 79.3	交通や買い物など生活に便利だから 66.3	自分の土地(住宅)だから 50.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 33.7	人間関係がよいから 21.7	社会施設などがよく整備されているから 16.3	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.8	生まれた時からずっと住んでいるから 7.6	通勤・通学など交通の便がよいから 7.6	家賃的負担が適当だから 4.3

性・年齢別にみると、男性30代を除いて、各年代とも「住み慣れている」「交通や買い物など生活に便利だから」が3位以内に挙げられている。(表1-5-3)

表1-5-4 定住意向理由（共働きの有無別・ライフステージ別）

（%）

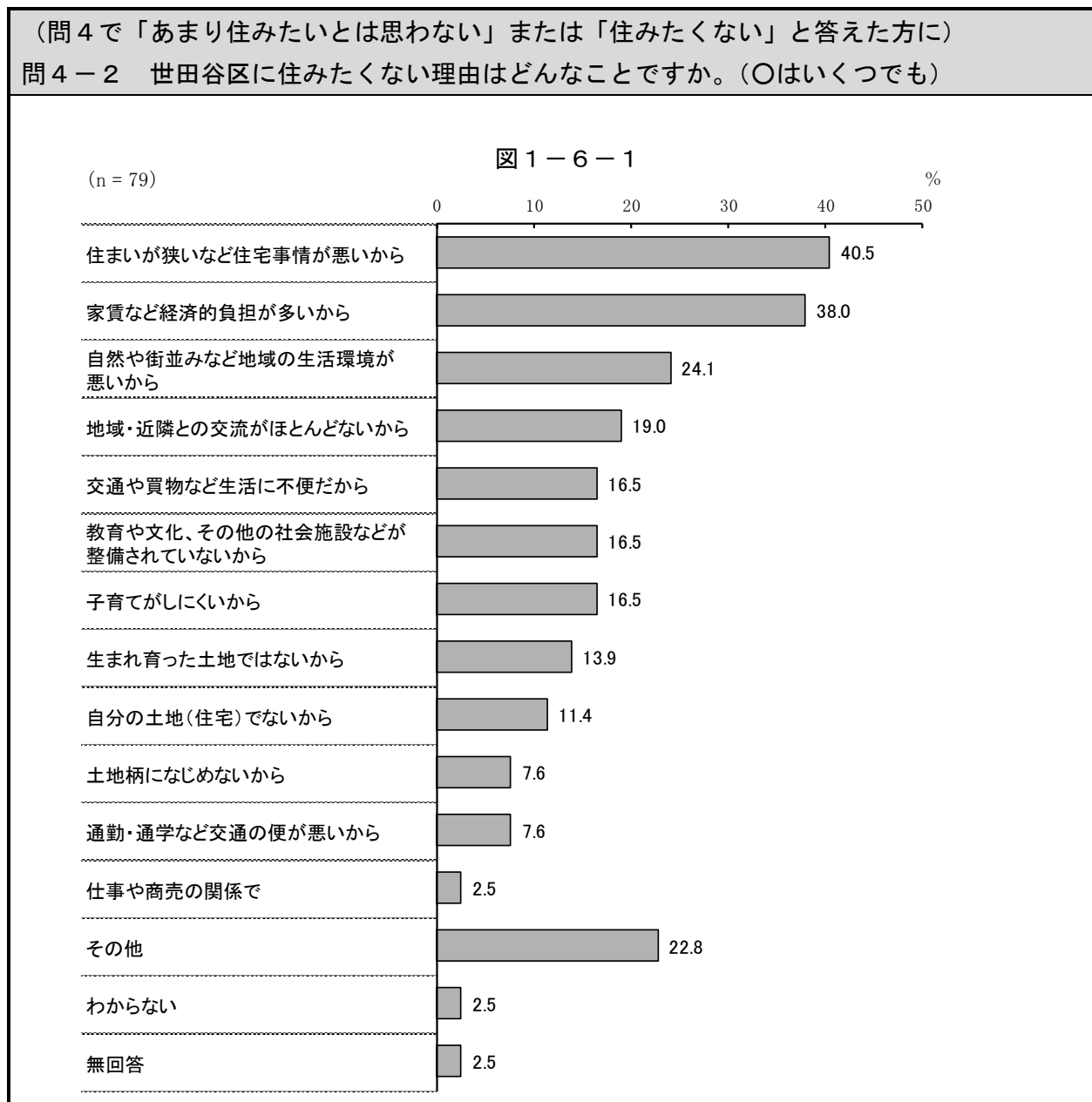
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,590	住み慣れているから 69.1	交通や買い物など生活に便利だから 67.5	自然や街並みなど生活環境がよいから 49.0	通勤・通学など交通の便がよいから 38.6	自分の土地（住宅）だから 35.5	社会施設などがよく整備されているから 19.1	人間関係がよいから 17.4	生まれた時からずっと住んでいるから 14.7	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.1	子育てがしやすいから 9.0
有配偶者全体	1,006	交通や買い物など生活に便利だから 68.5	住み慣れているから 67.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 51.1	自分の土地（住宅）だから 40.4	通勤・通学など交通の便がよいから 37.6	社会施設などがよく整備されているから 21.8	人間関係がよいから 18.6	生まれた時からずっと住んでいるから 13.2	子育てがしやすいから 12.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.7
共働き	497	交通や買い物など生活に便利だから 68.4	住み慣れているから 63.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 51.9	通勤・通学など交通の便がよいから 47.9	自分の土地（住宅）だから 36.0	社会施設などがよく整備されているから 21.3	人間関係がよいから 17.7	子育てがしやすいから 15.5	生まれた時からずっと住んでいるから 11.7	仕事や商売の関係で 9.9
共働きでない	504	住み慣れているから 71.0	交通や買い物など生活に便利だから 68.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 50.2	自分の土地（住宅）だから 44.6	通勤・通学など交通の便がよいから 27.6	社会施設などがよく整備されているから 22.4	人間関係がよいから 19.4	生まれた時からずっと住んでいるから 14.7	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.7	子育てがしやすいから 10.3
独身期	187	交通や買い物など生活に便利だから 68.4	住み慣れているから 61.5	通勤・通学など交通の便がよいから 59.4	自然や街並みなど生活環境がよいから 47.1	生まれた時からずっと住んでいるから 21.9	自分の土地（住宅）だから 13.4	住まいが広いなど住宅事情がよいから 12.8	人間関係がよいから 12.3	社会施設などがよく整備されているから 10.2	仕事や商売の関係で 9.6
家族形成期	119	交通や買い物など生活に便利だから 59.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 56.3	住み慣れているから 50.4	通勤・通学など交通の便がよいから 46.2	子育てがしやすいから 29.4	社会施設などがよく整備されているから 22.7	自分の土地（住宅）だから 17.6	生まれた時からずっと住んでいるから／仕事や商売の関係で 12.6	人間関係がよいから 10.1	
家族成長前期	151	交通や買い物など生活に便利だから 63.6	住み慣れているから 59.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 55.0	通勤・通学など交通の便がよいから 53.6	子育てがしやすいから 38.4	自分の土地（住宅）だから 31.1	人間関係がよいから 28.5	社会施設などがよく整備されているから 24.5	生まれた時からずっと住んでいるから 9.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.6
家族成長後期	132	交通や買い物など生活に便利だから 71.2	住み慣れているから 65.9	通勤・通学など交通の便がよいから 59.1	自然や街並みなど生活環境がよいから 57.6	自分の土地（住宅）だから 37.9	社会施設などがよく整備されているから 26.5	人間関係がよいから 20.5	子育てがしやすいから 15.2	生まれた時からずっと住んでいるから 10.6	仕事や商売の関係で 9.1
家族成熟期	157	交通や買い物など生活に便利だから 75.2	住み慣れているから 70.1	自然や街並みなど生活環境がよいから 46.5	自分の土地（住宅）だから 44.6	通勤・通学など交通の便がよいから 42.7	社会施設などがよく整備されているから 17.2	人間関係がよいから 14.0	生まれた時からずっと住んでいるから 12.7	仕事や商売の関係で 8.3	住まいが広いなど住宅事情がよいから 7.6
高齢期Ⅰ	144	住み慣れているから 77.8	交通や買い物など生活に便利だから 68.8	自分の土地（住宅）だから 56.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 43.1	人間関係がよいから 23.6	通勤・通学など交通の便がよいから／社会施設などがよく整備されているから 22.2	生まれた時からずっと住んでいるから 18.8	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.1	子育てがしやすいから 4.9	
高齢期Ⅱ	326	住み慣れているから 77.0	交通や買い物など生活に便利だから 67.5	自分の土地（住宅）だから 44.8	自然や街並みなど生活環境がよいから 43.6	社会施設などがよく整備されているから 22.1	人間関係がよいから 19.9	通勤・通学など交通の便がよいから 15.6	生まれた時からずっと住んでいるから 13.8	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.7	仕事や商売の関係で 4.9
その他	346	住み慣れているから 72.3	交通や買い物など生活に便利だから 68.5	自然や街並みなど生活環境がよいから 51.2	通勤・通学など交通の便がよいから 38.2	自分の土地（住宅）だから 33.5	生まれた時からずっと住んでいるから 15.6	社会施設などがよく整備されているから 13.3	人間関係がよいから 12.7	仕事や商売の関係で 8.1	住まいが広いなど住宅事情がよいから 7.2

共働きの有無別にみると、いずれも「住み慣れているから」「交通や買い物など生活に便利だから」が上位2位に挙げられており、3位はいずれも「自然や街並みなど生活環境がよいから」となっている。

ライフステージ別にみると、「交通や買い物など生活に便利だから」はすべてのライフステージで2位以内に入っている。「自然や街並みなど生活環境がよいから」は家族形成期で2位となっている。（表1-5-4）

(6) 非定住意向理由

◎世田谷区に住みたくない理由の第1位は「住まいが狭いなど住宅事情が悪いから」



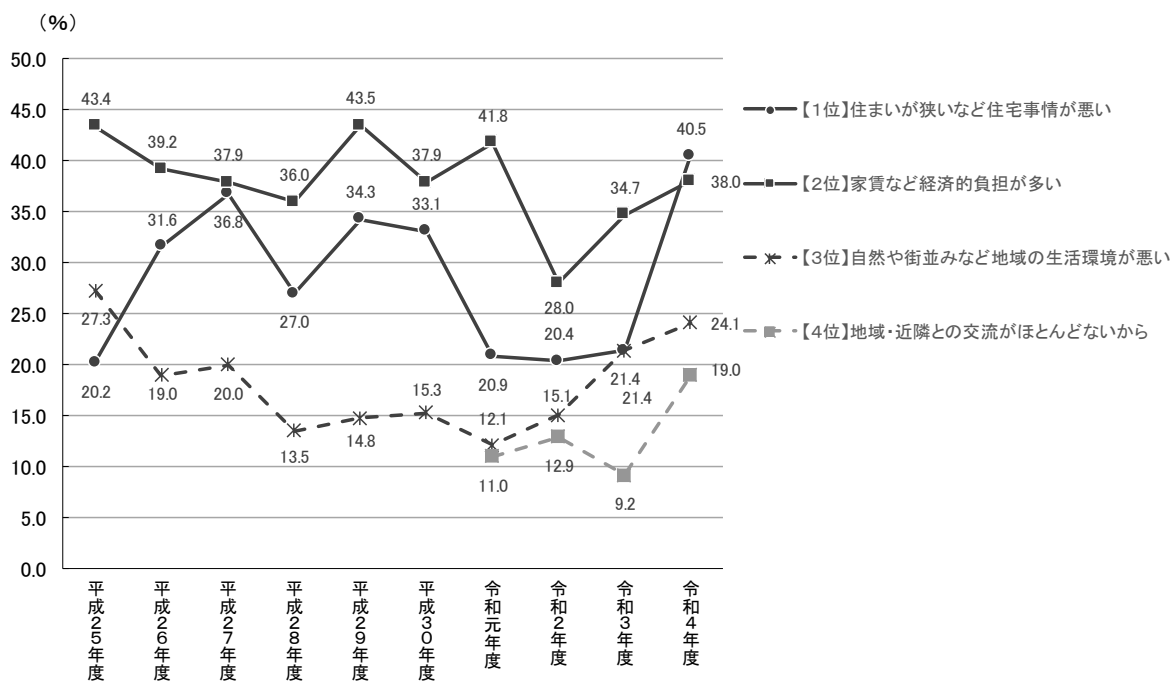
今後は世田谷区に「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答え、《非定住意向》を示した方(79人)に、その理由を聞いたところ、「住まいが狭いなど住宅事情が悪いから」(40.5%)がほぼ4割、「家賃など経済的負担が多いから」(38.0%)が4割近く、「自然や街並みなど地域の生活環境が悪いから」(24.1%)が2割半ばとなっている。以下、「地域・近隣との交流がほとんどないから」(19.0%)、「交通や買物など生活に不便だから」(16.5%)、「教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから」(16.5%)、「子育てがしにくいから」などと続く。(図1-6-1)

表 1 - 6 - 1 非定住意向理由（時系列）

（％）

理由	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
n	99	79	95	111	108	124	91	93	98	79
【1位】住まいが狭いなど住宅事情が悪い	20.2	31.6	36.8	27.0	34.3	33.1	20.9	20.4	21.4	40.5
【2位】家賃など経済的負担が多い	43.4	39.2	37.9	36.0	43.5	37.9	41.8	28.0	34.7	38.0
【3位】自然や街並みなど地域の生活環境が悪い	27.3	19.0	20.0	13.5	14.8	15.3	12.1	15.1	21.4	24.1
【4位】地域・近隣との交流がほとんどないから	10.1	19.0	13.7	10.8	13.9	15.3	11.0	12.9	9.2	19.0
【5位】交通や買物など生活に不便	31.3	29.1	24.2	28.8	24.1	27.4	24.2	29.0	22.4	16.5
【5位】社会施設などが整備されていない	13.1	16.5	16.8	17.1	14.8	16.9	15.4	11.8	11.2	16.5
【5位】子育てがしにくい	—	—	22.1	15.5	15.9	21.8	16.5	9.7	17.3	16.5
【8位】生まれ育った土地ではない	—	—	—	—	—	—	—	19.4	13.3	13.9
【9位】自分の土地（住宅）でない	14.1	29.1	18.9	18.9	24.1	19.4	24.2	17.2	12.2	11.4
【10位】土地柄になじめない	11.1	12.7	15.8	14.4	13.0	12.1	15.4	10.8	12.2	7.6

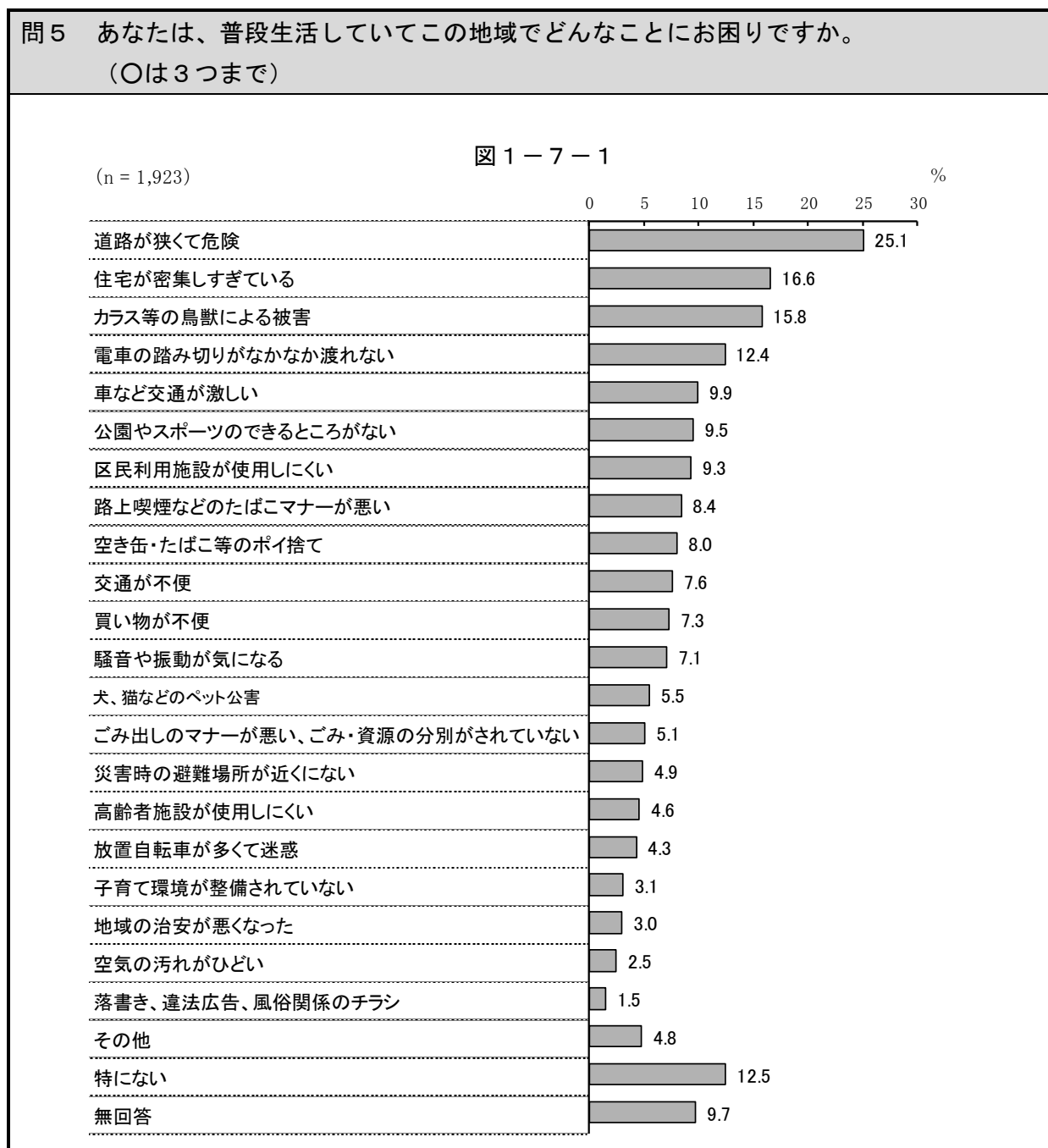
図 1 - 6 - 2 非定住意向理由（時系列）



平成 25 年度からの時系列の変化をみると、「住まいが狭いなど住宅事情が悪い」が、初めて 1 位となっている。「交通や買い物など生活に不便だから」は 2 割台から 3 割台で推移していたが、令和 4 年度では 1 割台になっている。（表 1 - 6 - 1、図 1 - 6 - 2）

(7) 地域における日常生活での困りごと

◎「道路が狭くて危険」が2割半ば



地域内での日常生活で困っていることを聞いたところ、「道路が狭くて危険」(25.1%)が2割半ばで最も高い。以下、「住宅が密集しすぎている」(16.6%)、「カラス等の鳥獣による被害」(15.8%)、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」(12.4%)、「車など交通が激しい」(9.9%)、「公園やスポーツのできる場所がない」(9.5%)などと続く。(図1-7-1)

表1-7-1 地域における日常生活での困りごと（時系列）

（%）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
令和4年度	1,923	道路が狭くて危険 25.1	住宅が密集しすぎている 16.6	カラス等の鳥獣による被害 15.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.4	車など交通が激しい 9.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.0	交通が不便 7.6
令和3年度	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラス等の鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.3	買い物が不便 7.6
令和2年度	2,371	道路が狭くて危険 28.2	住宅が密集しすぎている 19.3	カラス等の鳥獣による被害 18.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	区民利用施設が使用しにくい 13.3	車など交通が激しい 12.7	たばこマナーが悪い 10.9	公園やスポーツのできる場所がない 10.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.7	騒音や振動が気になる 9.0
令和元年度	2,171	道路が狭くて危険 26.7	カラス等の鳥獣による被害 19.2	住宅が密集しすぎている 17.0	車など交通が激しい 13.8	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7	空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.4	騒音や振動が気になる 9.7	公園やスポーツのできる場所がない 9.5	ごみ出しのマナーが悪い 8.8	
平成29年度	2,319	道路が狭くて危険 26.0	車など交通が激しい 16.1	住宅が密集しすぎている 15.9	カラス等の鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.4	区民利用施設が使用しにくい 10.1	交通が不便 9.1	騒音や振動が気になる 8.8	買い物が不便 8.6	公園やスポーツのできる場所がない／空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.1
平成28年度	2,355	道路が狭くて危険 23.4	住宅が密集しすぎている 15.1	カラス等の鳥獣による被害 14.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	車など交通が激しい 13.2	区民利用施設が使用しにくい 10.2	公園やスポーツのできる場所がない／交通が不便 8.0	買い物が不便 7.6	犬、猫などのペット公害 7.3	
平成27年度	2,388	道路が狭くて危険 25.3	住宅が密集しすぎている 15.7	カラス等の鳥獣による被害 14.7	車など交通が激しい 14.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.9	区民利用施設が使用しにくい 11.6	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.0	交通が不便／犬、猫などのペット公害 8.6	買い物が不便 8.5	
平成26年度	2,362	道路が狭くて危険 24.1	カラス等の鳥獣による被害 15.9	住宅が密集しすぎている 15.5	車など交通が激しい 15.4	区民利用施設が使用しにくい 11.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.1	放置自転車が多くて迷惑 9.6	公園やスポーツのできる場所がない 8.7	交通が不便 8.5	騒音や振動が気になる 8.4
平成25年度	2,354	道路が狭くて危険 25.9	車など交通が激しい／カラス等の鳥獣による被害 15.6	住宅が密集しすぎている 13.8	放置自転車が多くて迷惑 11.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.3	公園やスポーツのできる場所がない 10.1	区民利用施設が使用しにくい 10.0	騒音や振動が気になる 9.1	買い物が不便 9.0	
平成24年度	2,332	道路が狭くて危険 25.0	車など交通が激しい 16.3	カラス等の鳥獣による被害 14.5	住宅が密集しすぎている 13.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.6	放置自転車が多くて迷惑 11.6	区民利用施設が使用しにくい 10.9	騒音や振動が気になる 9.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.0	犬、猫などのペット公害 8.9

注) 平成30年度は質問項目がなかった。

平成24年度からの時系列の変化をみると、「道路が狭くて危険」はいずれの年も1位で、2割半ば前後で推移している。「住宅が密集しすぎている」は平成26年度以降は常に3位以内に挙がっている。「カラス等の鳥獣による被害」は、平成29年度の4位を除くと常に3位以内に挙がっている。（表1-7-1）

図1-7-2 地域における日常生活での困りごと—地域別（上位3項目）

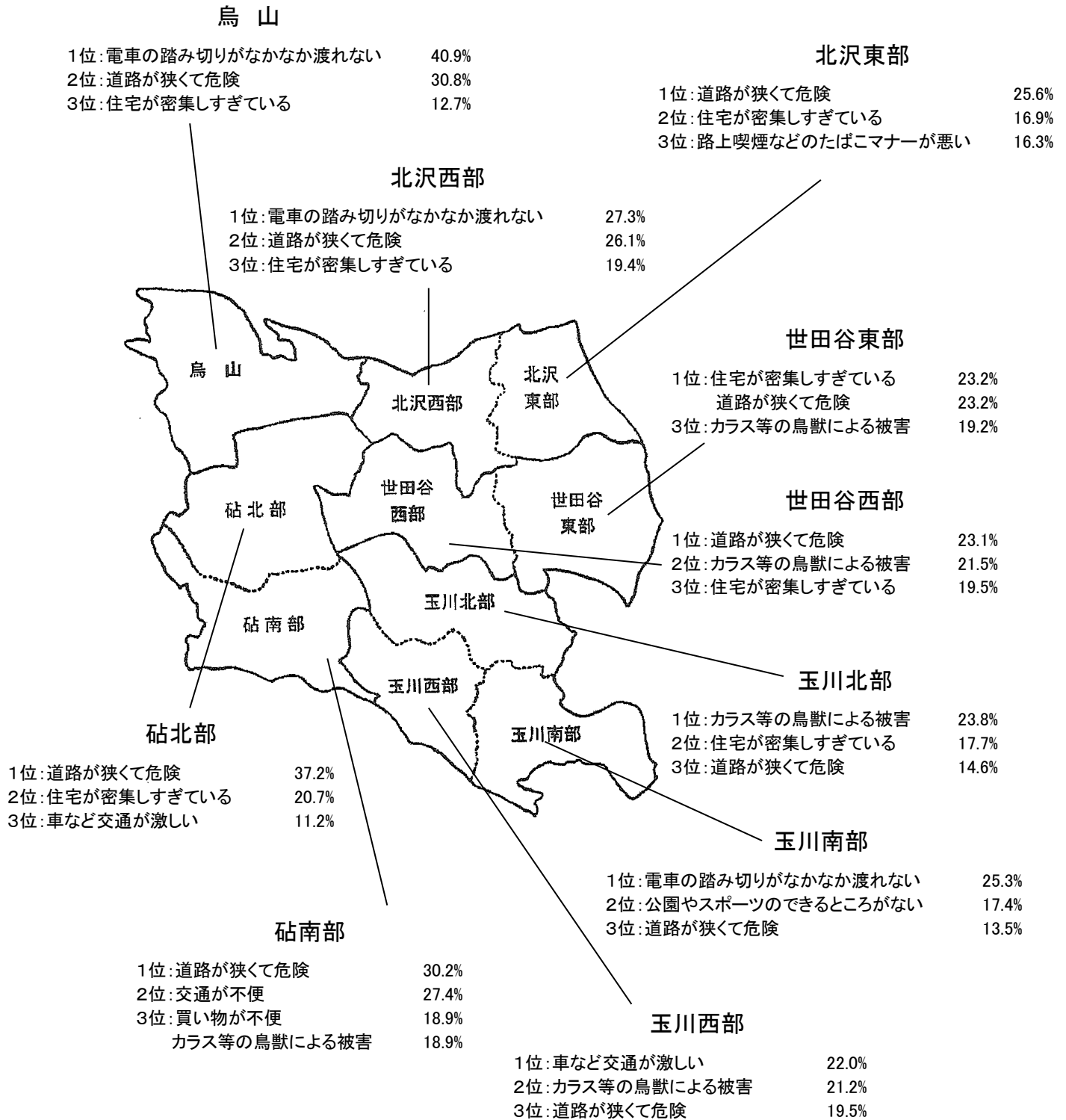


表1-7-2 地域における日常生活での困りごと（地域別） (%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	道路が狭くて危険 25.1	住宅が密集しすぎている 16.6	カラス等の鳥獣による被害 15.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.4	車など交通が激しい 9.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.0	交通が不便 7.6
世田谷東部	271	住宅が密集しすぎている／道路が狭くて危険 23.2	カラス等の鳥獣による被害 19.2	車など交通が激しい 14.0	区民利用施設が使用しにくい 13.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.2	騒音や振動が気になる 8.9	ごみ出しのマナーが悪い／ごみ・資源の分別がされていない 7.4	買い物に不便 7.0	
世田谷西部	251	道路が狭くて危険 23.1	カラス等の鳥獣による被害 21.5	住宅が密集しすぎている 19.5	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.2	公園やスポーツのできる場所がない 8.8	区民利用施設が使用しにくい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.0	車など交通が激しい 7.6	買い物に不便 6.0		
北沢東部	160	道路が狭くて危険 25.6	住宅が密集しすぎている 16.9	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 16.3	公園やスポーツのできる場所がない 15.6	カラス等の鳥獣による被害 12.5	空き缶・たばこ等のポイ捨て 11.9	区民利用施設が使用しにくい 9.4	騒音や振動が気になる 8.1	放置自転車が多くて迷惑／地域の治安が悪くなった 7.5	
北沢西部	165	電車の踏み切りがなかなか渡れない 27.3	道路が狭くて危険 26.1	住宅が密集しすぎている 19.4	カラス等の鳥獣による被害 13.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.1	区民利用施設が使用しにくい 7.9	騒音や振動が気になる 6.1	
玉川北部	164	カラス等の鳥獣による被害 23.8	住宅が密集しすぎている 17.7	道路が狭くて危険 14.6	区民利用施設が使用しにくい 12.8	騒音や振動が気になる 12.2	交通が不便／犬、猫などのペット公害 11.6	車など交通が激しい 8.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 7.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 7.3	
玉川南部	178	電車の踏み切りがなかなか渡れない 25.3	公園やスポーツのできる場所がない 17.4	道路が狭くて危険 13.5	区民利用施設が使用しにくい／カラス等の鳥獣による被害 10.1	住宅が密集しすぎている 8.4	買い物に不便 7.9	交通が不便 6.2	騒音や振動が気になる／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 5.6		
玉川西部	118	車など交通が激しい 22.0	カラス等の鳥獣による被害 21.2	道路が狭くて危険 19.5	公園やスポーツのできる場所がない／住宅が密集しすぎている 11.9	買い物に不便 11.0	区民利用施設が使用しにくい／騒音や振動が気になる 8.5	交通が不便 7.6	犬、猫などのペット公害 5.9		
砧北部	242	道路が狭くて危険 37.2	住宅が密集しすぎている 20.7	車など交通が激しい 11.2	カラス等の鳥獣による被害 10.3	交通が不便／電車の踏み切りがなかなか渡れない 8.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 7.9	公園やスポーツのできる場所がない／災害時の避難場所が近くにない／区民利用施設が使用しにくい／空き缶・たばこ等のポイ捨て 7.0			
砧南部	106	道路が狭くて危険 30.2	交通が不便 27.4	買い物に不便／カラス等の鳥獣による被害 18.9	車など交通が激しい／犬、猫などのペット公害 13.2	住宅が密集しすぎている 8.5	区民利用施設が使用しにくい／騒音や振動が気になる 7.5				
烏山	237	電車の踏み切りがなかなか渡れない 40.9	道路が狭くて危険 30.8	住宅が密集しすぎている 12.7	公園やスポーツのできる場所がない 11.8	放置自転車が多くて迷惑 11.4	カラス等の鳥獣による被害 9.7	区民利用施設が使用しにくい／交通が不便 8.0	車など交通が激しい 7.6	買い物に不便／空き缶・たばこ等のポイ捨て 7.2	

地域別にみると、「道路が狭くて危険」は世田谷東部、世田谷西部、北沢東部、砧北部、砧南部の5つの地域で1位となっている。「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は北沢西部、玉川南部、烏山の3つの地域で1位となっている。「住宅が密集しすぎている」は世田谷東部で1位となっている。（表1-7-2）

表 1-7-3 地域における日常生活での困りごと（性・年齢別） (%)

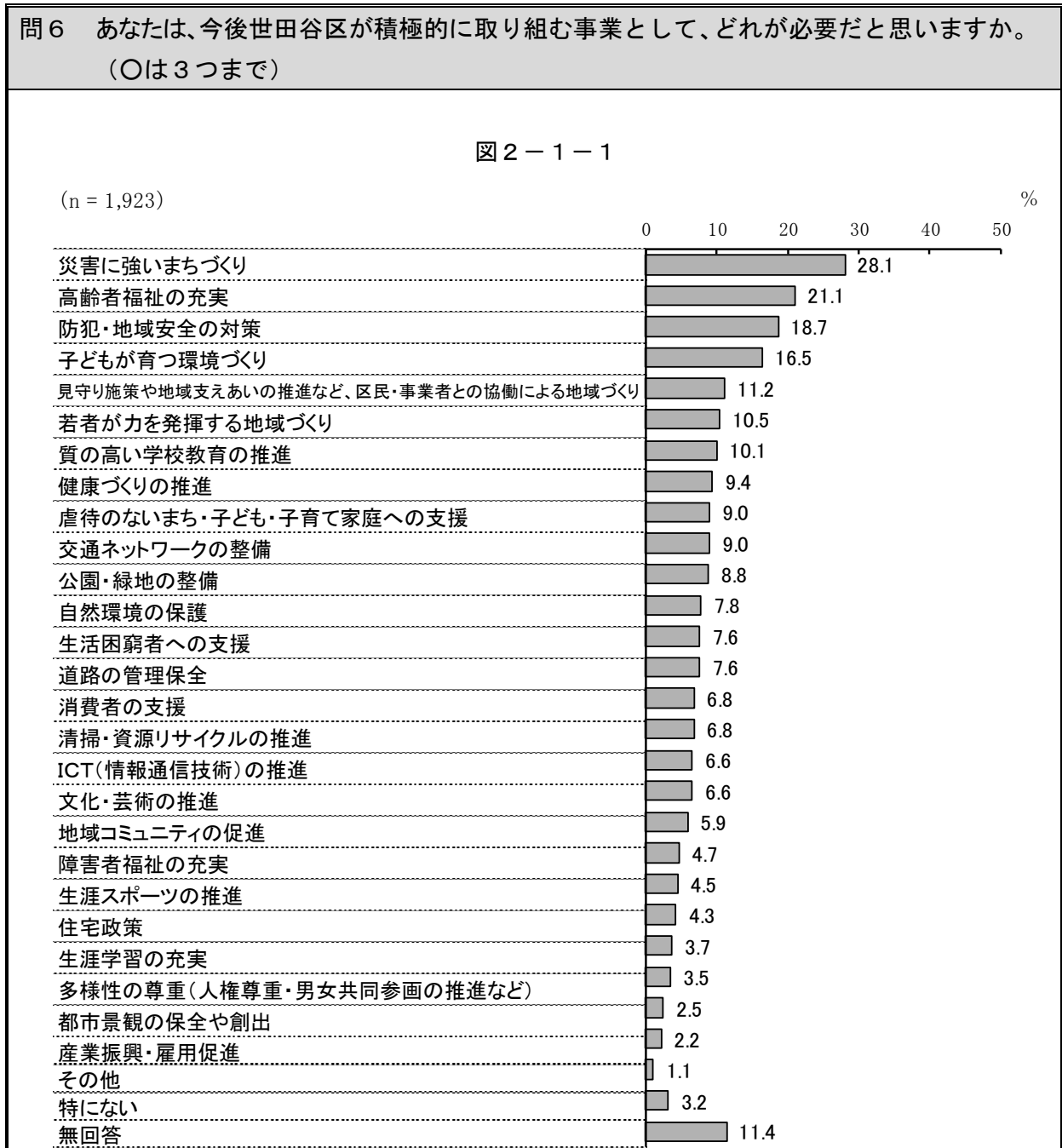
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	道路が狭くて危険 25.1	住宅が密集しすぎている 16.6	カラス等の鳥獣による被害 15.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.4	車など交通が激しい 9.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.0	交通が不便 7.6
男性全体	720	道路が狭くて危険 25.8	住宅が密集しすぎている 17.1	カラス等の鳥獣による被害 16.7	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	公園やスポーツのできる場所がない 11.5	車など交通が激しい 10.8	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.9	区民利用施設が使用しにくい 7.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 7.5	騒音や振動が気になる 7.1
10・20歳代	63	住宅が密集しすぎている 20.6	公園やスポーツのできる場所がない 17.5	道路が狭くて危険 17.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.7	交通が不便 12.7	車など交通が激しい 11.1	カラス等の鳥獣による被害 11.1	区民利用施設が使用しにくい 9.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 9.5	
30歳代	81	道路が狭くて危険 33.3	公園やスポーツのできる場所がない 18.5	住宅が密集しすぎている 13.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.1	買った物が不便 8.6	騒音や振動が気になる 8.6	放置自転車がなくて迷惑 6.2	区民利用施設が使用しにくい 6.2	
40歳代	123	道路が狭くて危険 27.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 20.3	住宅が密集しすぎている 19.5	公園やスポーツのできる場所がない 17.1	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 15.4	放置自転車がなくて迷惑 9.8	区民利用施設が使用しにくい 8.1	カラス等の鳥獣による被害 8.1		
50歳代	155	道路が狭くて危険 35.5	カラス等の鳥獣による被害 25.8	住宅が密集しすぎている 21.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 18.1	車など交通が激しい 11.0	公園やスポーツのできる場所がない 10.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.7	区民利用施設が使用しにくい 7.7	買った物が不便 5.8	空き缶・たばこ等のポイ捨て 5.8
60歳代	123	道路が狭くて危険 25.2	カラス等の鳥獣による被害 24.4	住宅が密集しすぎている 17.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 13.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.4	騒音や振動が気になる 8.9	区民利用施設が使用しにくい 7.3	犬、猫などのペット公害 6.5	公園やスポーツのできる場所がない 5.7	放置自転車がなくて迷惑 5.7
70歳代	110	道路が狭くて危険 16.4	カラス等の鳥獣による被害 12.7	住宅が密集しすぎている 10.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 9.1	公園やスポーツのできる場所がない 8.2	区民利用施設が使用しにくい 8.2	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 7.3			
80歳以上	65	道路が狭くて危険 15.4	区民利用施設が使用しにくい 13.8	災害時の避難場所が近くにない 9.2	高齢者施設が使用しにくい 7.7	住宅が密集しすぎている 7.7	公園やスポーツのできる場所がない 6.2	電車の踏み切りがなかなか渡れない 4.6	買った物が不便 4.6	車など交通が激しい 4.6	
女性全体	1,165	道路が狭くて危険 24.6	住宅が密集しすぎている 16.6	カラス等の鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.0	区民利用施設が使用しにくい 10.3	車など交通が激しい 9.5	交通が不便 8.5	公園やスポーツのできる場所がない 8.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.3	買った物が不便 8.1
10・20歳代	101	道路が狭くて危険 26.7	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	住宅が密集しすぎている 11.9	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.9	交通が不便 8.9	子育て環境が整備されていない 7.9	買った物が不便 7.9	カラス等の鳥獣による被害 7.9
30歳代	145	道路が狭くて危険 31.7	住宅が密集しすぎている 26.2	カラス等の鳥獣による被害 15.9	公園やスポーツのできる場所がない 14.5	交通が不便 13.1	車など交通が激しい 12.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.7	子育て環境が整備されていない 11.0		
40歳代	211	道路が狭くて危険 28.9	住宅が密集しすぎている 22.7	カラス等の鳥獣による被害 17.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.8	公園やスポーツのできる場所がない 12.3	車など交通が激しい 10.9	区民利用施設が使用しにくい 10.0	交通が不便 9.5	騒音や振動が気になる 9.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 6.6
50歳代	224	道路が狭くて危険 28.1	住宅が密集しすぎている 20.1	カラス等の鳥獣による被害 17.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.7	車など交通が激しい 12.5	区民利用施設が使用しにくい 11.6	騒音や振動が気になる 9.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.5	ゴミ出しのマナーが悪い 8.0	交通が不便 7.6
60歳代	178	道路が狭くて危険 20.2	カラス等の鳥獣による被害 14.0	住宅が密集しすぎている 13.5	区民利用施設が使用しにくい 9.0	車など交通が激しい 8.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 8.4	買った物が不便 8.4	交通が不便 8.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 7.9	
70歳代	199	道路が狭くて危険 18.1	カラス等の鳥獣による被害 12.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.6	区民利用施設が使用しにくい 11.1	高齢者施設が使用しにくい 11.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.6	買った物が不便 8.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.5	災害時の避難場所が近くにない 8.0	住宅が密集しすぎている 7.5
80歳以上	106	高齢者施設が使用しにくい 17.0	道路が狭くて危険 13.2	災害時の避難場所が近くにない 13.2	区民利用施設が使用しにくい 11.3	カラス等の鳥獣による被害 11.3	買った物が不便 10.4	住宅が密集しすぎている 10.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 8.5	犬、猫などのペット公害 6.6

性・年齢別にみると、1位は男性の10・20歳代が「住宅が密集しすぎている」、女性の60歳代が「カラス等の鳥獣による被害」、女性の80歳以上が「高齢者施設が使用しにくい」、その他の年代はいずれも「道路が狭くて危険」となっている。（表1-7-3）

2. 区政

(1) 区が積極的に取り組むべき事業

- ◎「災害に強いまちづくり」が第1位、「高齢者福祉の充実」が第2位、「防犯・地域安全の対策」が第3位



今後区が積極的に取り組むべき事業について聞いたところ、「災害に強いまちづくり」(28.1%)が3割近く、「高齢者福祉の充実」(21.1%)が2割を超え、「防犯・地域安全の対策」(18.7%)が2割近くとなっている。(図2-1-1)

表 2-1-1 区が積極的に取り組むべき事業（時系列）

（%）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
令和4年度	1,923	災害に強いまちづくり 28.1	高齢者福祉の充実 21.1	防犯・地域安全の対策 18.7	子どもが育つ環境づくり 16.5	見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり 11.2	若者が力を発揮する地域づくり 10.5	質の高い学校教育の推進 10.1	健康づくりの推進 9.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.0	
令和3年度	2,086	災害に強いまちづくり 29.8	防犯・地域安全の対策 21.3	高齢者福祉の充実 19.4	子どもが育つ環境づくり 16.9	見守り施策や地域支えあいの推進など 9.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.4	健康づくりの推進 9.4	質の高い学校教育の推進 9.3	ICT(情報通信技術)の推進 9.0	ICT(情報通信技術)の推進 8.7
令和2年度	2,371	災害に強いまちづくり 42.9	防犯・地域安全の対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.3	子どもが育つ環境づくり 18.6	ICT(情報通信技術)の推進 13.6	健康づくりの推進 13.1	自然環境の保護 12.4	見守り施策や地域支えあいの推進など 12.2	質の高い学校教育の推進／交通ネットワークの整備 12.1	
令和元年度	2,171	災害に強いまちづくり 32.8	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 31.2	子どもが育つ環境づくり 21.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.3	見守り施策や地域支えあいの推進など 13.4	質の高い学校教育の推進 12.2	健康づくりの推進 11.7	交通ネットワークの整備 11.3	公園・緑地の整備／自然環境の保護 10.6
平成30年度	2,330	防犯・地域安全の対策 35.7	高齢者福祉の充実 35.2	災害に強いまちづくり 34.6	子どもが育つ環境づくり 27.8	健康づくりの推進／見守り施策や地域支えあいの推進など 16.1	自然環境の保護 13.6	交通ネットワークの整備 13.4	質の高い学校教育の推進 13.0	公園・緑地の整備 12.7	
平成28年度	2,355	災害に強いまちづくり 32.0	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 26.2	子どもが育つ環境づくり 22.9	見守り施策や地域支えあいの推進など 13.0	健康づくりの推進 11.6	質の高い学校教育の推進 9.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.3	交通ネットワークの整備 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.3
平成27年度	2,388	高齢者福祉の充実 33.8	災害に強いまちづくり 27.2	防犯・地域安全の対策 24.0	子ども子育て家庭への支援 16.8	児童(保育)福祉の充実 16.0	見守り施策や地域支えあいの推進など/若者が力を発揮する地域づくり 11.9	自然環境の保護 11.6	健康づくりの推進 10.7	交通ネットワークの整備 10.2	
平成26年度	2,362	災害に強いまちづくり 46.3	防犯・地域安全の対策 37.9	高齢者福祉の充実 29.2	児童(保育)福祉の充実 19.3	自然環境の保護 18.0	道路の管理保全 14.9	公園・緑地の整備 12.1	消費者の支援 8.1	住宅施策 8.0	健康づくり 7.7
平成25年度	2,354	災害に強いまちづくり 49.9	防犯・地域安全の対策 41.6	高齢者福祉の充実 28.8	自然環境の保護 18.9	児童(保育)福祉の充実 15.5	道路の管理保全 15.4	公園・緑地の整備 11.4	消費者の支援 7.9	住宅施策 7.6	健康づくり 7.4
平成24年度	2,332	災害に強いまちづくり 56.4	防犯・地域安全の対策 44.6	高齢者福祉の充実 26.0	道路の管理保全 17.8	自然環境の保護 17.2	児童(保育)福祉の充実 13.1	公園・緑地の整備 9.7	消費者の支援 7.9	住宅施策 7.4	健康づくり 6.9

注) 平成29年度は質問項目がなかった。

平成24年度からの時系列の変化をみると、「災害に強いまちづくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が常に上位3位に挙がっている。また、「子どもが育つ環境づくり」は平成28年度以降、4位となっている。（表2-1-1）

表 2-1-2 区が積極的に取り組むべき事業（地域別）

（%）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	1,923	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	区民・事業者との協働による地域づくり	若者が力を発揮する地域づくり	質の高い学校教育の推進	健康づくりの推進	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備	9.0	
世田谷部	271	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	若者が力を発揮する地域づくり	区民・事業者との協働による地域づくり	質の高い学校教育の推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	生活困窮者への支援	消費者の道義的支援／管理保全	8.9	
世田谷部	251	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	若者が力を発揮する地域づくり	区民・事業者との協働による地域づくり	文化・芸術の推進／公園・緑地の整備／自然環境の保護		9.2	
北沢部	160	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	公園・緑地の整備	健康づくりの推進	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	質の高い学校教育の推進／文化・芸術の推進／道路の管理保全		9.4	
北沢部	165	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	区民・事業者との協働による地域づくり	健康づくりの推進	自然環境の保護	子どもが育つ環境づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	質の高い学校教育の推進	生活困窮者への支援／地域コミュニティの推進／道路の管理保全	7.9	
玉川部	164	災害に強いまちづくり	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	高齢者福祉の充実	質の高い学校教育の推進	区民・事業者との協働による地域づくり	交通ネットワークの整備	清掃・資源リサイクルの推進	若者が力を発揮する地域づくり	健康づくりの推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	9.1
玉川部	178	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	区民・事業者との協働による地域づくり	若者が力を発揮する地域づくり	質の高い学校教育の推進	生活困窮者への支援／公園・緑地の整備	健康づくりの推進／自然環境の保護	8.4	
玉川部	118	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実／子どもが育つ環境づくり	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	若者が力を発揮する地域づくり	自然環境の保護	区民・事業者との協働による地域づくり／質の高い学校教育の推進	健康づくりの推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援		10.2	
砧北部	242	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	区民・事業者との協働による地域づくり	若者が力を発揮する地域づくり／質の高い学校教育の推進	健康づくりの推進	交通ネットワークの整備	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	8.3	
砧南部	106	災害に強いまちづくり	子どもが育つ環境づくり	高齢者福祉の充実／防犯・地域安全の対策	交通ネットワークの整備	若者が力を発揮する地域づくり	道路の管理保全	区民・事業者との協働による地域づくり	健康づくりの推進／生活困窮者への支援／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援		8.5	
烏山	237	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	子どもが育つ環境づくり	防犯・地域安全の対策	交通ネットワークの整備	公園・緑地の整備	若者が力を発揮する地域づくり	消費者の支援	質の高い学校教育の推進	区民・事業者との協働による地域づくり	10.5

地域別にみると、「災害に強いまちづくり」がすべての地域において1位に挙がっている。北沢西部を除くすべての地域で「子どもが育つ環境づくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が2位から4位に挙がっている。（表2-1-2）

表 2-1-3 区が積極的に取り組むべき事業 (性・年齢別) (%)

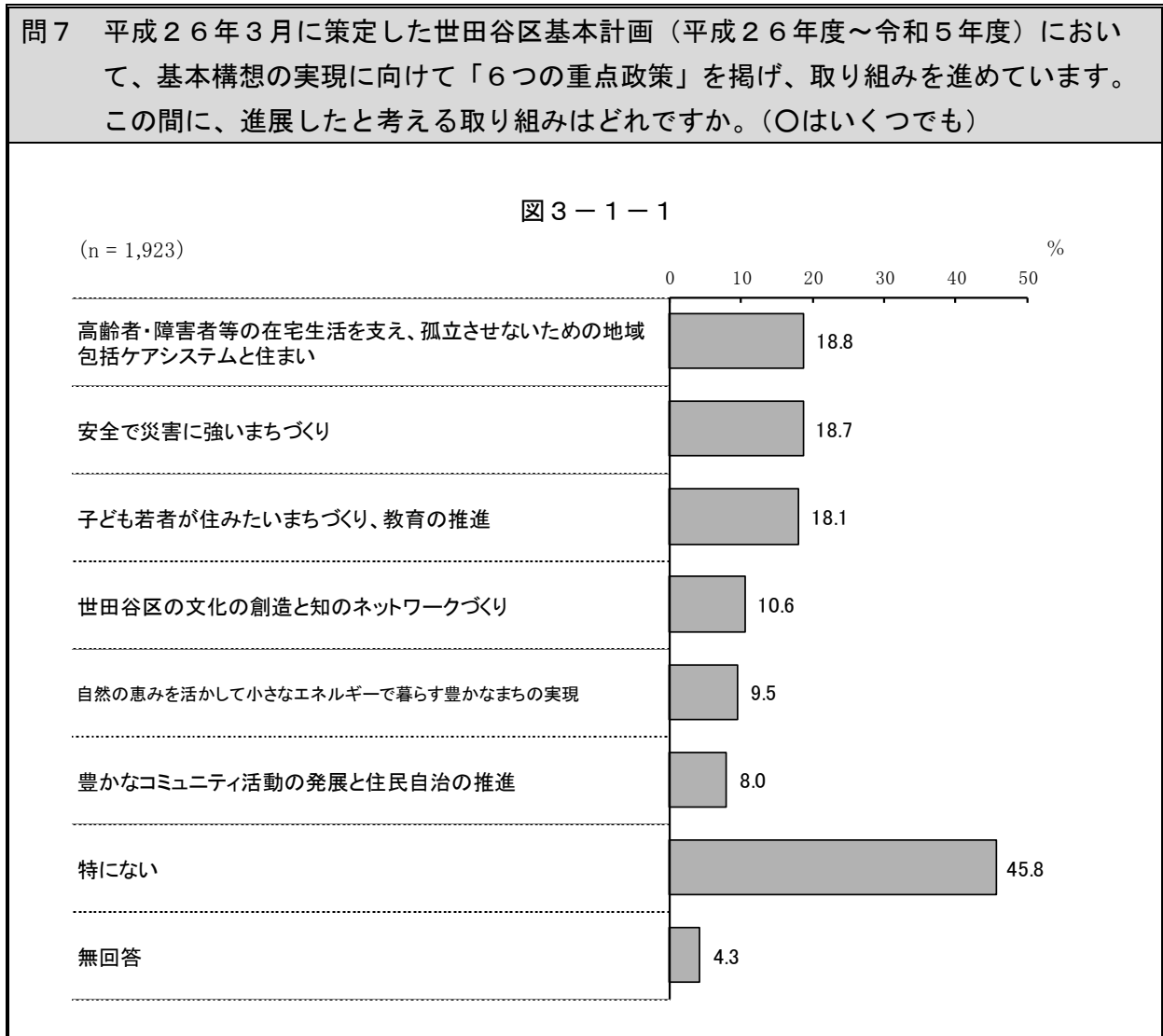
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	災害に強いまちづくり 28.1	高齢者福祉の充実 21.1	防犯・地域安全の対策 18.7	子どもが育つ環境づくり 16.5	区民・事業者との協働による地域づくり 11.2	若者が力を発揮する地域づくり 10.5	質の高い学校教育の推進 10.1	健康づくりの推進 9.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.0	9.0
男性全体	720	災害に強いまちづくり 23.3	高齢者福祉の充実 22.5	子どもが育つ環境づくり／防犯・地域安全の対策 17.4	若者が力を発揮する地域づくり 12.9	公園・緑地の整備 12.1	区民・事業者との協働による地域づくり 11.0	質の高い学校教育の推進 10.8	健康づくりの推進 10.1	ICT(情報通信技術)の推進 10.0	10.0
10・20歳代	63	若者が力を発揮する地域づくり 30.2	子どもが育つ環境づくり 25.4	質の高い学校教育の推進 15.9	ICT(情報通信技術)の推進／公園・緑地の整備 14.3	消費者の支援／災害に強いまちづくり／交通ネットワークの整備 12.7	区民・事業者との協働による地域づくり 11.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.1	11.1	11.1	11.1
30歳代	81	子どもが育つ環境づくり 38.3	若者が力を発揮する地域づくり／災害に強いまちづくり 22.2	質の高い学校教育の推進 18.5	公園・緑地の整備 17.3	健康づくりの推進／ICT(情報通信技術)の推進 14.8	防犯・地域安全の対策／消費者の支援 13.6	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.3	12.3	12.3	12.3
40歳代	123	災害に強いまちづくり 26.0	子どもが育つ環境づくり 24.4	質の高い学校教育の推進 21.1	防犯・地域安全の対策 20.3	ICT(情報通信技術)の推進 17.1	公園・緑地の整備 13.8	若者が力を発揮する地域づくり 13.0	生活困窮者への支援／交通ネットワークの整備 12.2	区民・事業者との協働による地域づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 10.6	10.6
50歳代	155	高齢者福祉の充実 30.3	災害に強いまちづくり 29.0	防犯・地域安全の対策 20.6	公園・緑地の整備 15.5	若者が力を発揮する地域づくり 14.8	区民・事業者との協働による地域づくり／子どもが育つ環境づくり 12.9	健康づくりの推進 11.6	ICT(情報通信技術)の推進 11.0	生活困窮者への支援 10.3	10.3
60歳代	123	高齢者福祉の充実 32.5	災害に強いまちづくり 28.5	防犯・地域安全の対策 19.5	健康づくりの推進／子どもが育つ環境づくり 13.0	区民・事業者との協働による地域づくり 12.2	若者が力を発揮する地域づくり／地域コミュニティの促進 9.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／自然環境の保護 8.1	8.1	8.1	8.1
70歳代	110	高齢者福祉の充実 30.0	災害に強いまちづくり 17.3	防犯・地域安全の対策 15.5	健康づくりの推進／子どもが育つ環境づくり／地域コミュニティの促進 10.0	区民・事業者との協働による地域づくり 10.0	文化・芸術の推進 10.0	公園・緑地の整備 9.1	生活困窮者への支援 9.1	8.2	8.2
80歳以上	65	高齢者福祉の充実 35.4	防犯・地域安全の対策／災害に強いまちづくり 16.9	地域コミュニティの促進／道路の管理保全 10.8	区民・事業者との協働による地域づくり 9.2	健康づくりの推進／生活困窮者への支援 7.7	公園・緑地の整備 6.2	清掃・資源リサイクルの推進 6.2	6.2	6.2	6.2
女性全体	1,165	災害に強いまちづくり 31.8	高齢者福祉の充実 19.9	防犯・地域安全の対策 19.8	子どもが育つ環境づくり 16.3	区民・事業者との協働による地域づくり 11.5	質の高い学校教育の推進 10.0	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.4	若者が力を発揮する地域づくり 9.3	自然環境の保護 8.8	8.8
10・20歳代	101	災害に強いまちづくり 27.7	子どもが育つ環境づくり 24.8	防犯・地域安全の対策 20.8	若者が力を発揮する地域づくり 18.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.8	消費者の支援／多様性の尊重(人権尊重・男女共同参画の推進など)／自然環境の保護 12.9	質の高い学校教育の推進 11.9	生活困窮者への支援／文化・芸術の推進／清掃・資源リサイクルの推進 9.9	9.9	9.9
30歳代	145	子どもが育つ環境づくり 40.7	災害に強いまちづくり 25.5	質の高い学校教育の推進 18.6	防犯・地域安全の対策 17.9	交通ネットワークの整備 15.2	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 14.5	消費者の支援 13.8	若者が力を発揮する地域づくり 12.4	公園・緑地の整備 11.7	区民・事業者との協働による地域づくり 9.7
40歳代	211	災害に強いまちづくり 33.6	防犯・地域安全の対策 21.3	質の高い学校教育の推進 20.4	子どもが育つ環境づくり 19.4	高齢者福祉の充実 14.7	道路の管理保全 11.8	交通ネットワークの整備 11.4	区民・事業者との協働による地域づくり 10.9	若者が力を発揮する地域づくり 10.4	文化・芸術の推進 10.0
50歳代	224	災害に強いまちづくり 41.1	防犯・地域安全の対策 25.0	高齢者福祉の充実 24.6	区民・事業者との協働による地域づくり 12.5	交通ネットワークの整備 11.6	若者が力を発揮する地域づくり／子どもが育つ環境づくり 10.3	清掃・資源リサイクルの推進／道路の管理保全 8.9	生活困窮者への支援／質の高い学校教育の推進 8.5	8.5	8.5
60歳代	178	災害に強いまちづくり 34.8	高齢者福祉の充実 30.9	防犯・地域安全の対策 23.6	健康づくりの推進 12.4	区民・事業者との協働による地域づくり 11.8	自然環境の保護 11.2	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 10.7	子どもが育つ環境づくり 8.4	障害者福祉の充実 7.9	生活困窮者への支援／地域コミュニティの促進／生涯スポーツの推進 6.2
70歳代	199	高齢者福祉の充実／災害に強いまちづくり 27.1	健康づくりの推進 13.1	防犯・地域安全の対策 12.6	区民・事業者との協働による地域づくり 12.1	子どもが育つ環境づくり 11.6	自然環境の保護 10.1	清掃・資源リサイクルの推進 9.5	生活困窮者への支援／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.0	9.0	9.0
80歳以上	106	高齢者福祉の充実 25.5	災害に強いまちづくり 23.6	区民・事業者との協働による地域づくり 15.1	防犯・地域安全の対策 14.2	健康づくりの推進 11.3	若者が力を発揮する地域づくり／公園・緑地の整備 8.5	清掃・資源リサイクルの推進／自然環境の保護／交通ネットワークの整備 7.5	7.5	7.5	7.5

性・年齢別にみると、男性の10・20歳代を除き、全ての年代で「災害に強いまちづくり」が3位以内となっている。(表2-1-3)

3. 区の基本計画

(1) 基本計画の「6つの重点政策」の中で取り組みが進展したもの

◎「高齢者・障害者等の在宅生活を支え、孤立させないための地域包括ケアシステムと住まい」と考えている人が2割近く



進展したと考える取り組みを聞いたところ、「高齢者・障害者等の在宅生活を支え、孤立させないための地域包括ケアシステムと住まい」（18.8%）が2割近くで最も高い。以下、「安全で災害に強いまちづくり」（18.7%）、「子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進」（18.1%）などと続く。（図3-1-1）

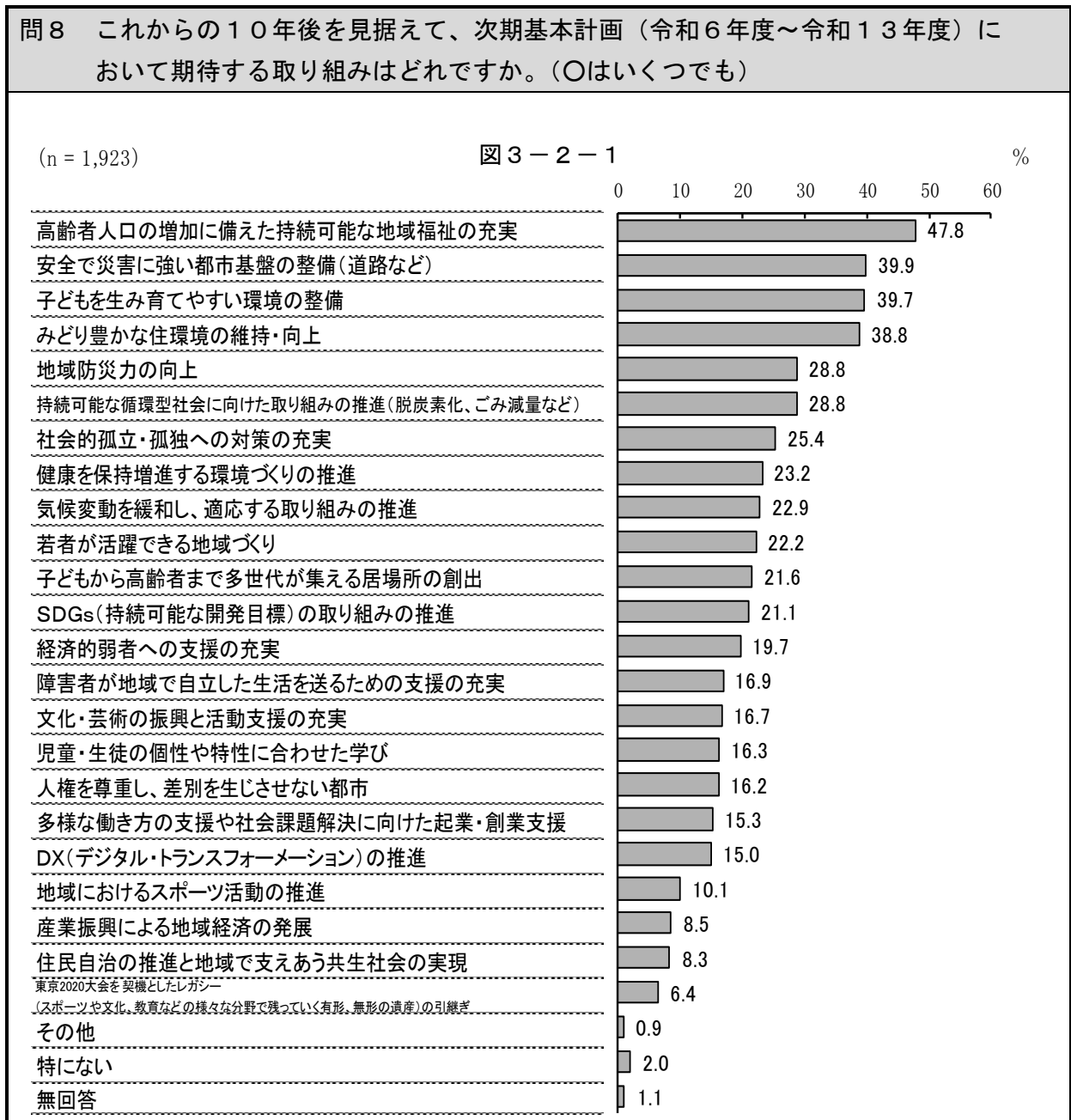
表3-1-1 進展したと考える取り組み（性・年齢別）

区分		n	高齢者・障害者等の在宅生活を 支え、孤立させないための地域包括 ケアシステムと住まい	安全で災害に強いまちづくり	子ども若者が住みたいまちづく り、教育の推進	世田谷区の文化の創造と知の ネットワークづくり	自然の恵みを活かして小さな エネルギーで暮らす豊かな まちの実現	豊かなコミュニティ活動の 発展と住民自治の推進	特 に な い	無 回 答
全 体		1,923	18.8	18.7	18.1	10.6	9.5	8.0	45.8	4.3
性・年齢別	男性全体	720	17.4	18.8	19.7	11.3	9.3	9.3	47.8	2.8
	10・20 歳代	63	7.9	20.6	22.2	11.1	11.1	19.0	44.4	1.6
	30 歳代	81	9.9	18.5	25.9	8.6	3.7	3.7	53.1	2.5
	40 歳代	123	12.2	13.8	26.8	17.1	13.0	8.1	42.3	0.8
	50 歳代	155	16.1	23.2	17.4	9.7	7.7	7.7	52.9	1.9
	60 歳代	123	13.8	12.2	13.8	6.5	7.3	9.8	55.3	3.3
	70 歳代	110	26.4	20.9	14.5	14.5	9.1	12.7	45.5	4.5
	80 歳以上	65	40.0	24.6	21.5	10.8	15.4	6.2	32.3	6.2
	女性全体	1,165	19.2	18.6	17.0	10.2	9.4	7.1	45.2	4.8
	10・20 歳代	101	3.0	9.9	15.8	8.9	9.9	9.9	54.5	1.0
	30 歳代	145	11.7	13.8	28.3	10.3	7.6	7.6	48.3	2.8
	40 歳代	211	12.8	19.4	22.7	12.3	7.1	7.1	48.8	1.9
	50 歳代	224	16.1	13.8	14.7	9.4	7.1	3.1	49.1	6.3
	60 歳代	178	23.6	23.6	10.7	12.9	7.9	6.7	43.8	4.5
70 歳代	199	32.2	22.6	13.6	10.1	14.6	8.0	37.7	6.5	
80 歳以上	106	33.0	26.4	13.2	4.7	13.2	11.3	32.1	11.3	

性・年齢別にみると、「高齢者・障害者等の在宅生活を支え、孤立させないための地域包括ケアシステムと住まい」は男性 80 歳以上で 4 割となっている。「豊かなコミュニティ活動の発展と住民自治の推進」は男性の 10・20 歳代でほぼ 2 割となっている。（表 3-1-1）

(2) 次期基本計画で期待する取り組み

◎「高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実」と考えている人が5割近く



期待する取り組みを聞いたところ、「高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実」(47.8%)が5割近くで最も高い。以下、「安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など)」(39.9%)、「子どもを生み育てやすい環境の整備」(39.7%)、「みどり豊かな住環境の維持・向上」(38.8%)、「地域防災力の向上」(28.8%)、「持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進(脱炭素化、ごみ減量など)」(28.8%)などと続く。(図3-2-1)

表3-2-1 期待する取り組み（性・年齢別）

(%)

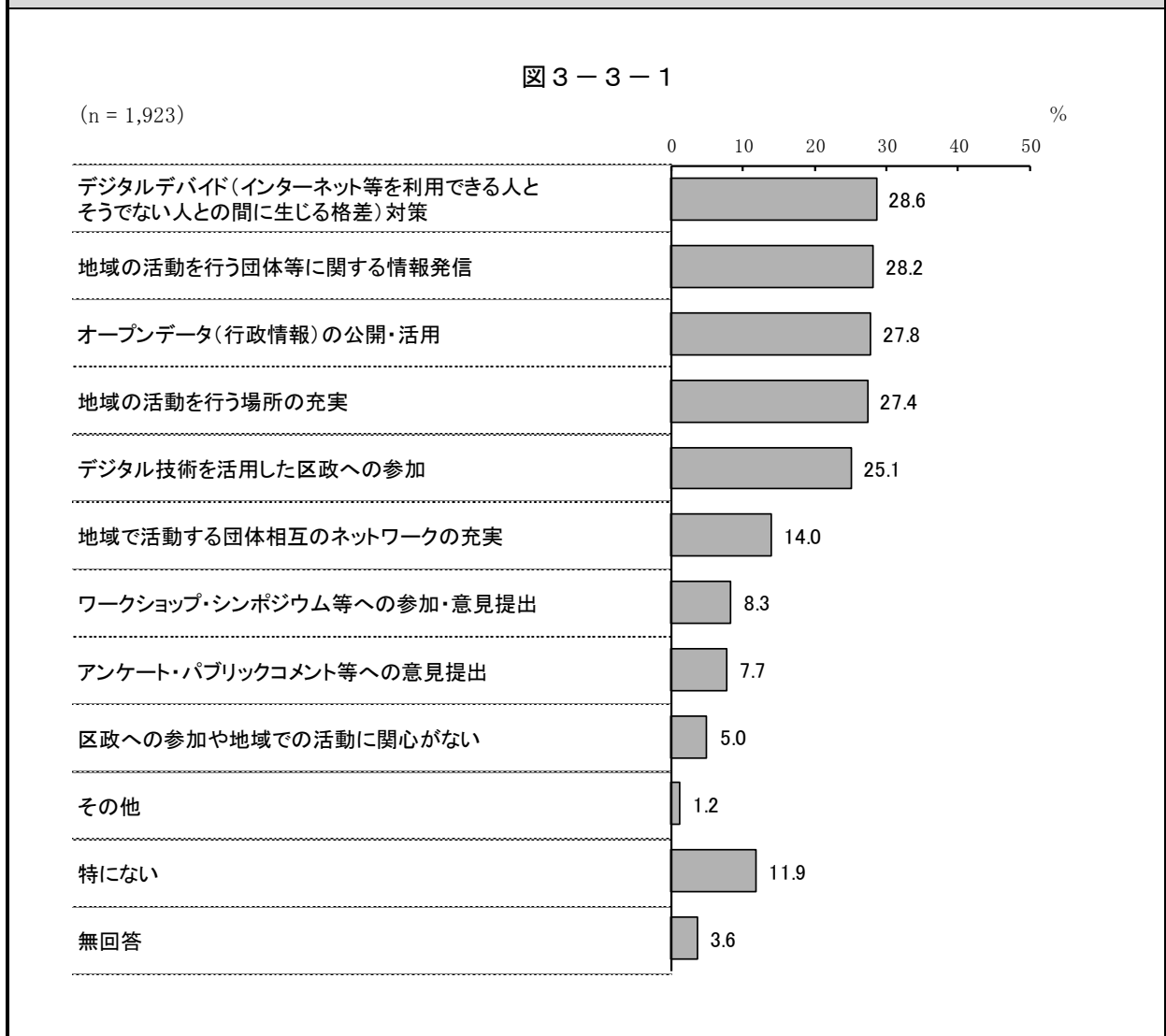
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	1,923	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 47.8	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 39.9	子どもを生き育てやすい環境の整備 39.7	みどり豊かな住環境の維持・向上 38.8	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 38.8	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進(脱炭素化、ごみ減量など) 28.8	地域防災力の向上 25.4	社会的孤立・孤独への対策の充実 25.4	健康を保持増進する環境づくりの推進 23.2	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 22.9	若者が活躍できる地域づくり 22.2
男性全体	720	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 43.8	子どもを生き育てやすい環境の整備 41.3	みどり豊かな住環境の維持・向上 36.3	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 35.0	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 26.1	地域防災力の向上 25.8	若者が活躍できる地域づくり 24.3	健康を保持増進する環境づくりの推進 23.5	社会的孤立・孤独への対策の充実 22.9	DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進 22.4	
10・20歳代	63	子どもを生き育てやすい環境の整備 50.8	若者が活躍できる地域づくり 47.6	みどり豊かな住環境の維持・向上 34.9	経済的弱者への支援の充実 27.0	児童・生徒の個性や特性に合わせた学び 23.8	人権を尊重し、差別を生じさせない都市/SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みの推進 22.2		安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など)/多様な働き方の支援や社会課題解決に向けた起業・創業支援/DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進 20.6			
30歳代	81	子どもを生き育てやすい環境の整備 67.9	若者が活躍できる地域づくり 44.4	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 39.5	みどり豊かな住環境の維持・向上 33.3	DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進 33.3	児童・生徒の個性や特性に合わせた学び/人権を尊重し、差別を生じさせない都市 25.9	健康を保持増進する環境づくりの推進 24.7	経済的弱者への支援の充実/地域防災力の向上 22.2			
40歳代	123	子どもを生き育てやすい環境の整備 48.8	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 35.0	DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進 33.3	みどり豊かな住環境の維持・向上 31.7	社会的孤立・孤独への対策の充実 26.0	児童・生徒の個性や特性に合わせた学び/持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 25.2	健康を保持増進する環境づくりの推進 24.4	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実/若者が活躍できる地域づくり 24.4	SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みの推進 23.6		
50歳代	155	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 46.5	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 41.9	子どもを生き育てやすい環境の整備 36.1	地域防災力の向上/みどり豊かな住環境の維持・向上 33.5	社会的孤立・孤独への対策の充実/持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 27.1	健康を保持増進する環境づくりの推進 26.5	DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進 26.5	若者が活躍できる地域づくり 23.2	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 21.9		
60歳代	123	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 65.9	みどり豊かな住環境の維持・向上 39.0	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 38.2	子どもを生き育てやすい環境の整備/地域防災力の向上 32.5	社会的孤立・孤独への対策の充実 27.6	健康を保持増進する環境づくりの推進/持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 24.4	SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みの推進 22.8	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 21.1			
70歳代	110	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 60.9	子どもを生き育てやすい環境の整備 37.3	みどり豊かな住環境の維持・向上 36.4	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 35.5	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 30.0	健康を保持増進する環境づくりの推進 28.2	経済的弱者への支援の充実 27.3	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出 24.5	社会的孤立・孤独への対策の充実 23.6		
80歳以上	65	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 63.1	みどり豊かな住環境の維持・向上 43.1	健康を保持増進する環境づくりの推進 35.4	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 29.2	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 26.2	地域防災力の向上 24.6	子どもを生き育てやすい環境の整備 20.0	社会的孤立・孤独への対策の充実 18.5	経済的弱者への支援の充実/子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出/人権を尊重し、差別を生じさせない都市/気候変動への取り組みの推進 16.9		
女性全体	1,165	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 50.1	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 43.6	みどり豊かな住環境の維持・向上 40.4	子どもを生き育てやすい環境の整備 39.1	地域防災力の向上 31.2	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 30.6	社会的孤立・孤独への対策の充実 26.9	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 25.3	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出 23.1	健康を保持増進する環境づくりの推進 23.0	
10・20歳代	101	子どもを生き育てやすい環境の整備 58.4	みどり豊かな住環境の維持・向上 35.6	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 32.7	若者が活躍できる地域づくり 28.7	地域防災力の向上/SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みの推進 25.7	人権を尊重し、差別を生じさせない都市/持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 24.8	経済的弱者への支援の充実/文化・芸術の振興と活動支援の充実 22.8				
30歳代	145	子どもを生き育てやすい環境の整備 70.3	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 44.1	みどり豊かな住環境の維持・向上 42.8	児童・生徒の個性や特性に合わせた学び 37.2	地域防災力の向上 33.1	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 28.3	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実/若者が活躍できる地域づくり 26.2	経済的弱者への支援の充実/子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出/多様な働き方の支援や社会課題解決に向けた起業・創業支援 22.8			
40歳代	211	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 48.8	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 44.1	みどり豊かな住環境の維持・向上 42.7	子どもを生き育てやすい環境の整備 40.3	地域防災力の向上 33.6	児童・生徒の個性や特性に合わせた学び 30.3	社会的孤立・孤独への対策の充実/SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みの推進 28.0	文化・芸術の振興と活動支援の充実 26.5	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 26.1		
50歳代	224	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 57.1	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 48.2	地域防災力の向上 33.0	みどり豊かな住環境の維持・向上 31.3	社会的孤立・孤独への対策の充実 30.8	子どもを生き育てやすい環境の整備 30.4	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 29.9	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 24.6	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出 22.3	若者が活躍できる地域づくり 21.4	
60歳代	178	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 64.0	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 44.4	みどり豊かな住環境の維持・向上 38.8	子どもを生き育てやすい環境の整備 33.7	社会的孤立・孤独への対策の充実/地域防災力の向上 32.6	健康を保持増進する環境づくりの推進 31.5	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 29.8	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出 27.5	健康を保持増進する環境づくりの推進 24.7		
70歳代	199	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 64.3	みどり豊かな住環境の維持・向上 51.3	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 40.7	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 37.7	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 34.7	地域防災力の向上 31.7	健康を保持増進する環境づくりの推進 30.7	子どもを生き育てやすい環境の整備 29.1	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出 27.1	社会的孤立・孤独への対策の充実 26.6	
80歳以上	106	高齢者人口の増加に備えた持続可能な地域福祉の充実 63.2	みどり豊かな住環境の維持・向上 39.6	安全で災害に強い都市基盤の整備(道路など) 37.7	持続可能な循環型社会に向けた取り組みの推進 34.9	気候変動を緩和し、適応する取り組みの推進 29.2	子どもから高齢者まで多世代が集える居場所の創出 26.4	社会的孤立・孤独への対策の充実 25.5	健康を保持増進する環境づくりの推進 24.5	障害者が地域で自立した生活を送るための支援の充実 23.6	子どもを生き育てやすい環境の整備 22.6	

性・年齢別にみると、「子どもを生き育てやすい環境の整備」では女性の30歳代で7割となっている。(表3-2-1)

(3) 区政への参加や地域で活動する際、区に期待する取り組み

◎「デジタルデバインド（インターネット等を利用できる人とそうでない人との間に生じる格差）対策」と考えている人が3割近く

問9 区では、区民の皆さんのまちづくりへの主体的な参加を一層広げていく必要があります。区民の皆さんが、区政への参加や地域での活動に主体的に取り組むにあたり、今後区に期待する取り組みはどれですか。（〇はいくつでも）



今後区に期待する取り組みを聞いたところ、「デジタルデバインド（インターネット等を利用できる人とそうでない人との間に生じる格差）対策」（28.6%）が3割近くで最も高い。以下、「地域の活動を行う団体等に関する情報発信」（28.2%）、「オープンデータ（行政情報）の公開・活用」（27.8%）、「地域の活動を行う場所の充実」（27.4%）、「デジタル技術を活用した区政への参加」（25.1%）などと続く。（図3-3-1）

表 3-3-1 今後区に期待する取り組み（性・年齢別）

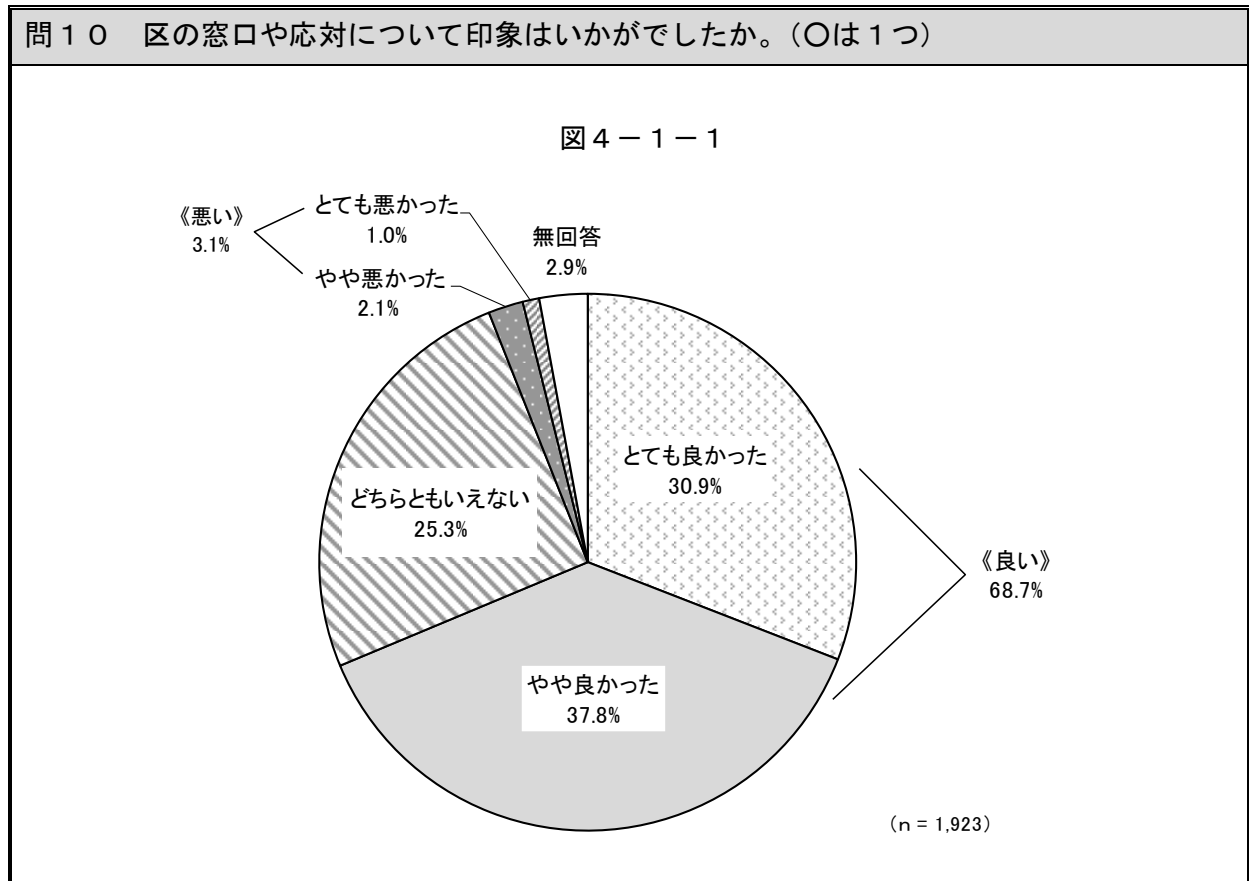
区分	n	(%)												
		デジタルデバイス（インターネット等）を利用できる人とそうでない人との間に生じる格差）対策	地域の活動を行う団体等に関する情報発信	オープンデータ（行政情報）の公開・活用	地域の活動を行う場所の充実	デジタル技術を活用した区政への参加	地域で活動する団体相互のネットワークの充実	ワークショップ・シンポジウム等への参加・意見提出	アンケート・パブリックコメント等への意見提出	区政への参加や地域での活動に関心がない	その他	特になし	無回答	
全体	1,923	28.6	28.2	27.8	27.4	25.1	14.0	8.3	7.7	5.0	1.2	11.9	3.6	
性・年齢別	男性全体	720	25.4	27.8	31.9	27.9	33.2	14.6	7.6	8.8	5.0	1.5	11.3	2.4
	10・20 歳代	63	15.9	20.6	28.6	34.9	33.3	12.7	6.3	12.7	-	-	12.7	4.8
	30 歳代	81	18.5	21.0	34.6	27.2	49.4	17.3	8.6	9.9	12.3	-	6.2	1.2
	40 歳代	123	22.8	23.6	30.1	27.6	49.6	12.2	8.1	8.9	5.7	0.8	9.8	2.4
	50 歳代	155	24.5	31.0	38.1	23.2	35.5	14.8	11.0	8.4	3.9	4.5	10.3	1.3
	60 歳代	123	22.0	32.5	30.1	34.1	31.7	16.3	8.9	7.3	3.3	1.6	11.4	1.6
	70 歳代	110	40.0	33.6	34.5	21.8	12.7	10.9	3.6	7.3	4.5	0.9	12.7	3.6
	80 歳以上	65	32.3	24.6	20.0	32.3	13.8	20.0	3.1	9.2	6.2	-	18.5	3.1
	女性全体	1,165	31.0	28.8	25.1	27.1	20.2	13.6	8.8	7.3	5.1	1.0	12.3	3.7
	10・20 歳代	101	18.8	21.8	26.7	18.8	23.8	9.9	6.9	4.0	8.9	1.0	16.8	2.0
	30 歳代	145	20.0	30.3	23.4	25.5	33.1	15.9	9.0	5.5	5.5	0.7	13.1	3.4
	40 歳代	211	22.3	27.5	24.6	23.2	30.8	12.3	13.7	9.0	5.7	1.4	12.3	1.4
	50 歳代	224	29.9	29.5	26.8	23.7	25.9	16.5	11.6	8.5	4.0	1.8	8.9	2.7
	60 歳代	178	41.0	30.9	28.1	32.6	15.2	15.2	7.3	6.2	2.8	-	9.0	0.6
70 歳代	199	44.7	33.7	25.1	33.7	4.5	13.1	5.0	8.5	3.5	1.5	14.1	4.5	
80 歳以上	106	34.9	22.6	17.9	30.2	3.8	9.4	3.8	6.6	8.5	-	16.0	16.0	

性・年齢別にみると、「デジタル技術を活用した区政への参加」は男性 30 歳代でほぼ 5 割、40 歳代で 5 割となっている。（表 3-3-1）

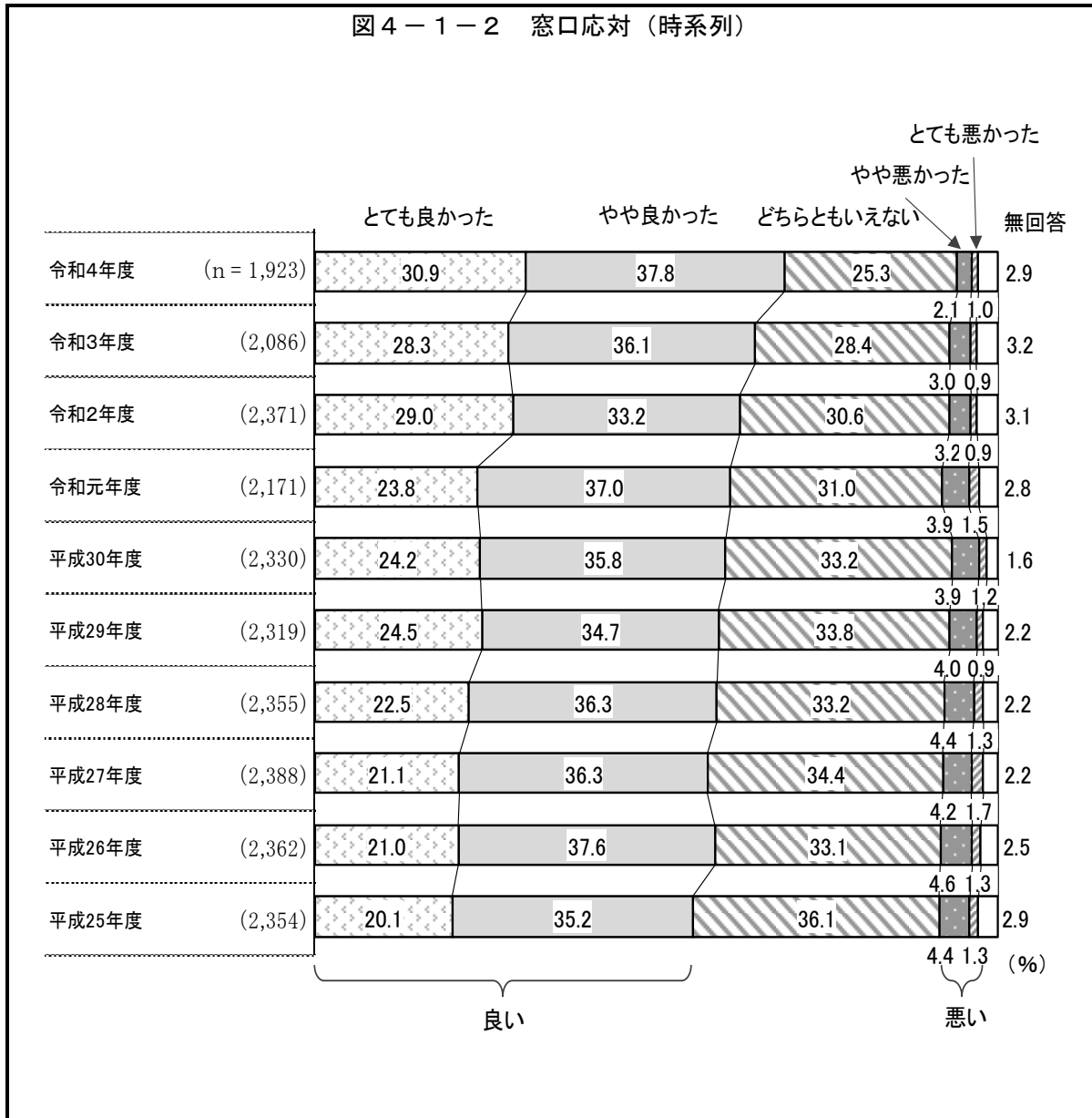
4. 職員応対

(1) 窓口応対

◎窓口応対が《良い》と感じている人が7割近く

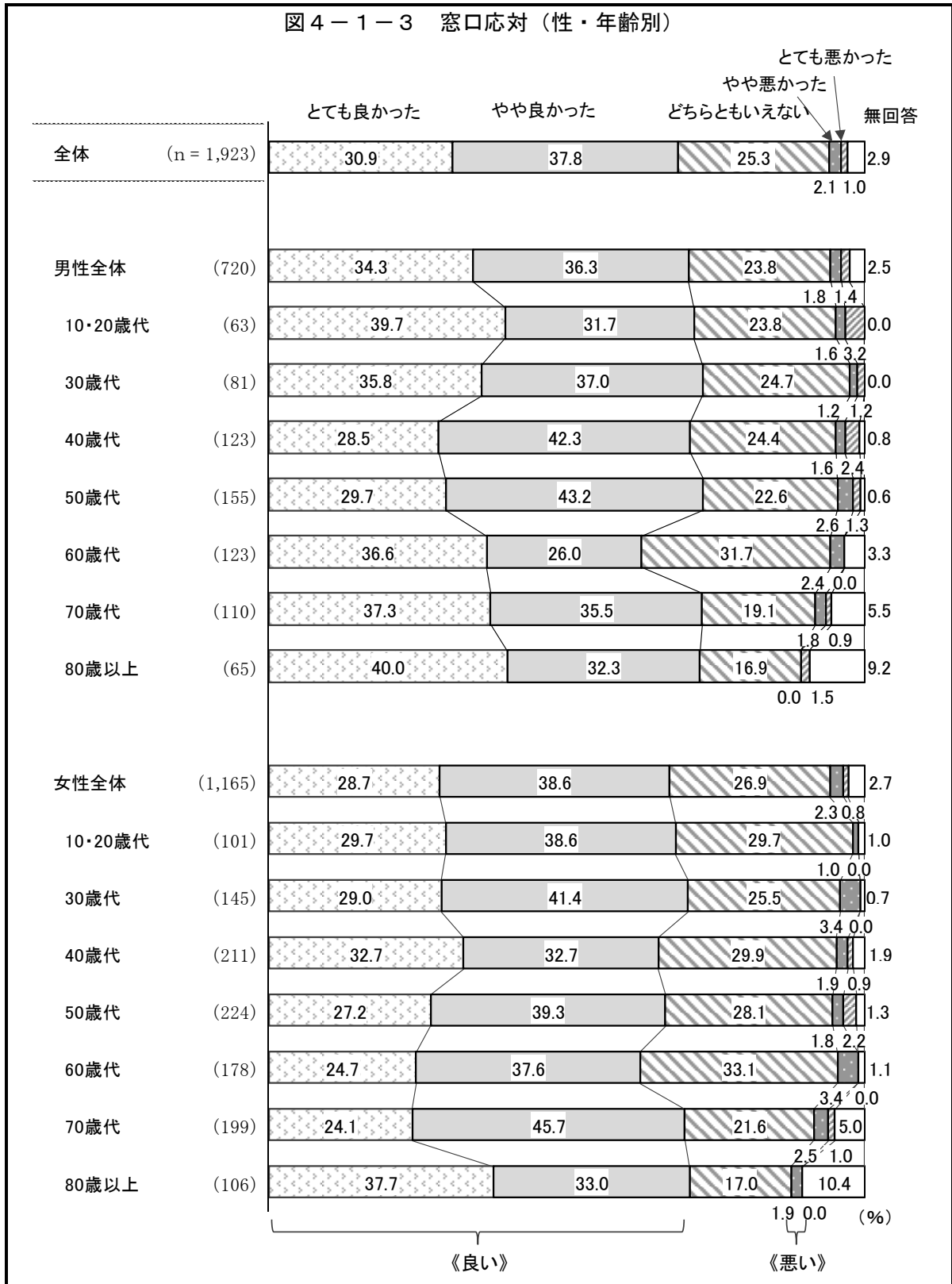


世田谷区の窓口や応対についての印象を聞いたところ、「とても良かった」(30.9%)と「やや良かった」(37.8%)を合わせた《良い》(68.7%)が7割近くとなっている。「どちらともいえない」(25.3%)は2割半ば、「やや悪かった」(2.1%)と「とても悪かった」(1.0%)を合わせた《悪い》(3.1%)は1割に満たない。(図4-1-1)



平成25年度からの時系列の変化をみると、「良い」は年々増える傾向にある。令和4年度(68.7%)では過去最も高くなっている。「悪い」は、いずれの年度も1割に満たない。

(図4-1-2)

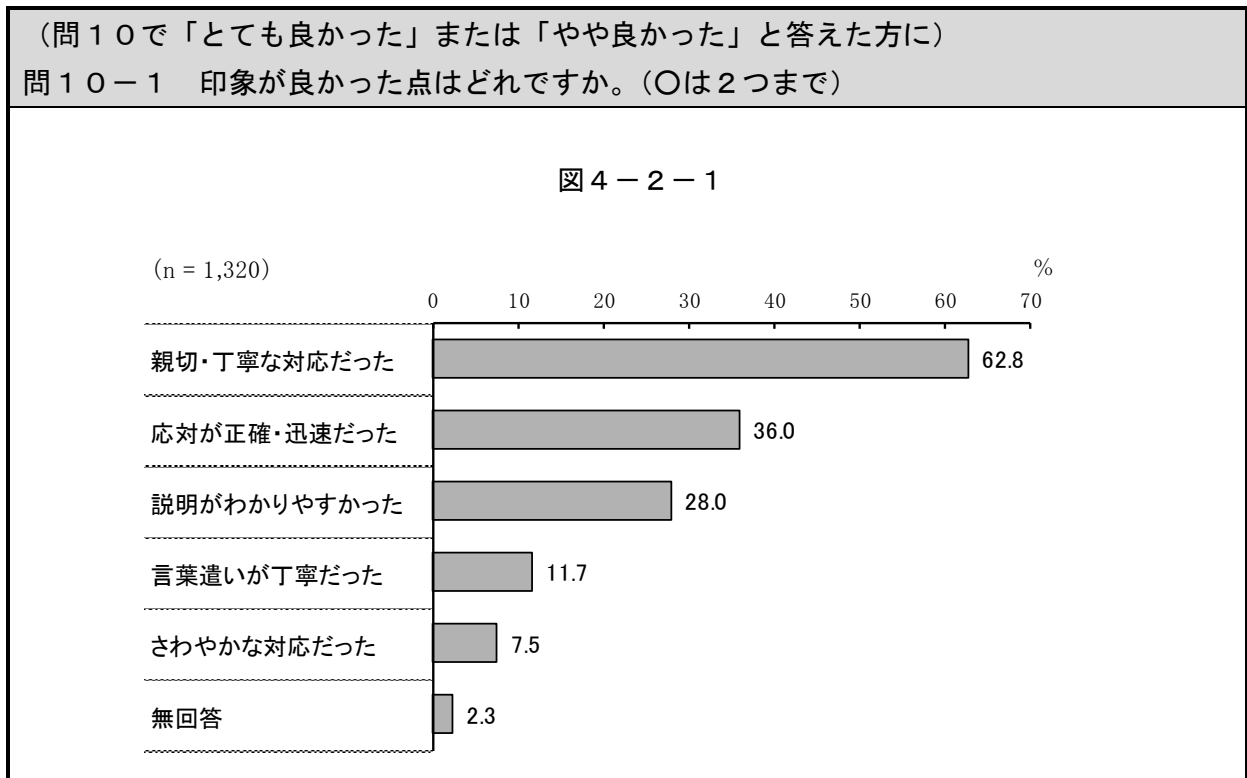


性・年齢別にみると、《良い》は男性では60歳代を除き全ての年代で7割以上となっている。「とても良かった」は男性の80歳以上が4割、女性の80歳以上が4割近くとなっている。

(図4-1-3)

(2) 印象が良かった点

◎印象が良かった点としては「親切・丁寧な対応だった」が6割を超えている



区の窓口や対応について「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方(1,320人)に、印象の良かった点を聞いたところ、「親切・丁寧な対応だった」(62.8%)が6割を超えて最も高い。以下、「対応が正確・迅速だった」(36.0%)、「説明がわかりやすかった」(28.0%)、「言葉遣いが丁寧だった」(11.7%)、「さわやかな対応だった」(7.5%)と続く。

(図4-2-1)

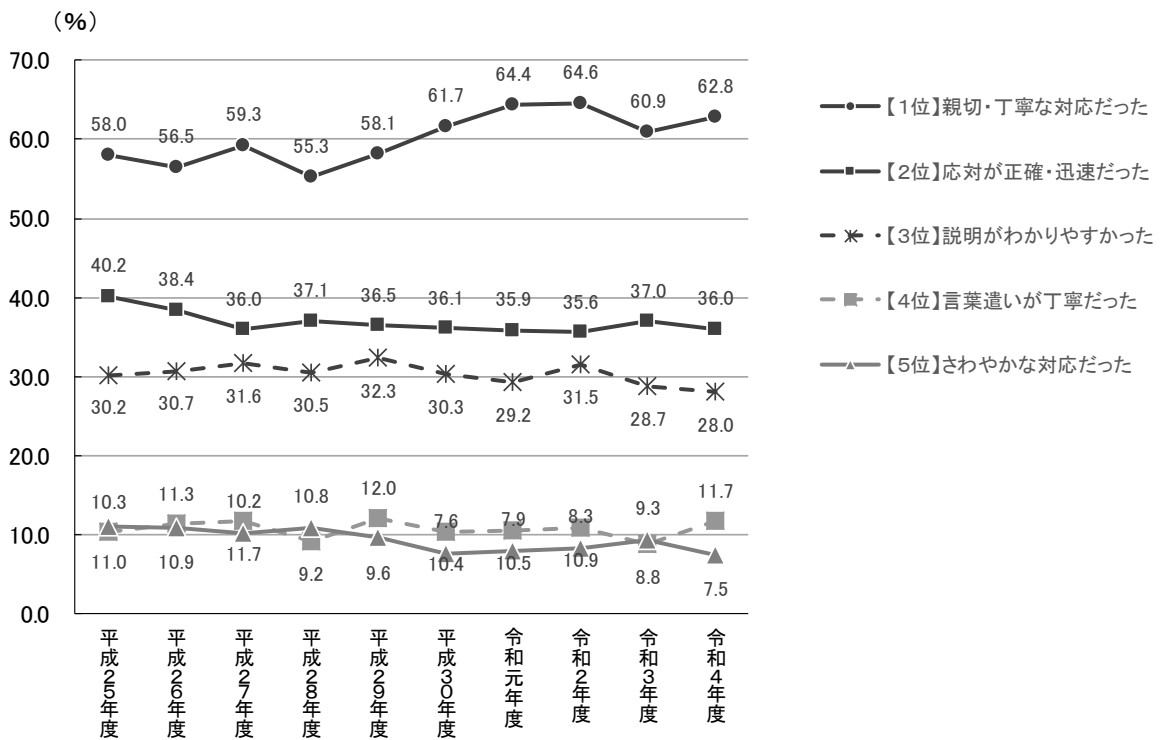
表4-2-1 印象が良かった点（時系列）

（％）

理由	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
n	1,302	1,382	1,373	1,386	1,371	1,399	1,319	1,473	1,344	1,320
【1位】親切・丁寧な対応だった	58.0	56.5	59.3	55.3	58.1	61.7	64.4	64.6	60.9	62.8
【2位】対応が正確・迅速だった	40.2	38.4	36.0	37.1	36.5	36.1	35.9	35.6	37.0	36.0
【3位】説明がわかりやすかった	30.2	30.7	31.6	30.5	32.3	30.3	29.2	31.5	28.7	28.0
【4位】言葉遣いが丁寧だった	10.3	11.3	11.7	9.2	12.0	10.4	10.5	10.9	8.8	11.7
【5位】さわやかな対応だった	11.0	10.9	10.2	10.8	9.6	7.6	7.9	8.3	9.3	7.5

注) 令和4年度の値で順位付けを行った

図4-2-2 印象が良かった点（時系列）



平成 25 年度からの時系列での変化をみると、「親切・丁寧な対応だった」がいずれの年度も 1 位となっており、令和 3 年度に比べ増加している。以下、3 位まではすべて同じ順位になっている。「言葉遣いが丁寧だった」は令和 4 年度で 4 位となっている。

(表4-2-1、図4-2-2)

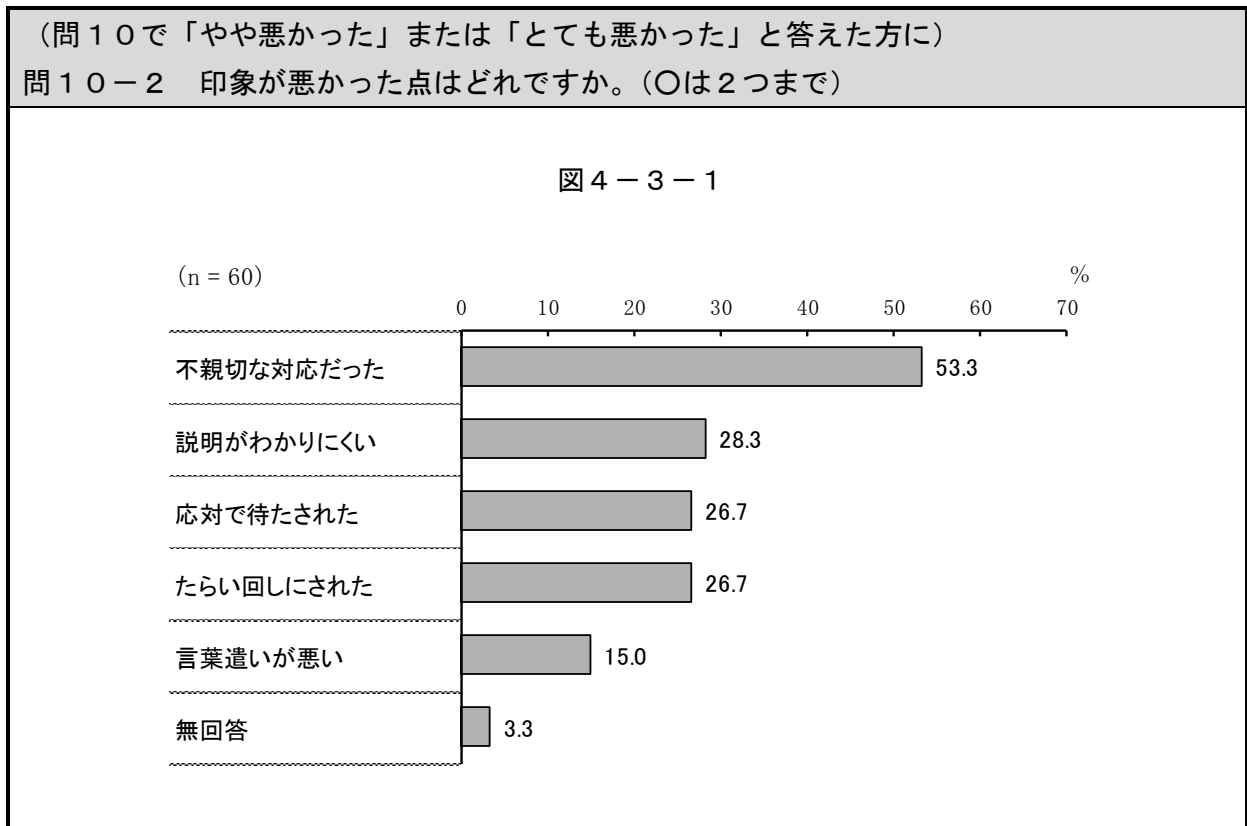
表 4-2-2 印象が良かった点（性・年齢別）

区分		n	親切・丁寧な対応だった	対応が正確・迅速だった	説明がわかりやすかった	言葉遣いが丁寧だった	さわやかな対応だった	無回答
全 体		1,320	62.8	36.0	28.0	11.7	7.5	2.3
性・年齢別	男性全体	508	63.4	38.0	26.8	13.4	10.4	1.2
	10・20 歳代	45	44.4	46.7	35.6	13.3	15.6	-
	30 歳代	59	67.8	45.8	20.3	15.3	10.2	1.7
	40 歳代	87	57.5	29.9	27.6	21.8	12.6	-
	50 歳代	113	61.1	40.7	25.7	15.9	9.7	0.9
	60 歳代	77	72.7	39.0	24.7	14.3	-	1.3
	70 歳代	80	67.5	35.0	26.3	5.0	16.3	2.5
	80 歳以上	47	70.2	31.9	31.9	2.1	10.6	2.1
	女性全体	784	62.5	34.7	28.6	10.8	5.2	3.2
	10・20 歳代	69	53.6	39.1	34.8	18.8	7.2	1.4
	30 歳代	102	64.7	39.2	24.5	6.9	4.9	4.9
	40 歳代	138	61.6	37.0	21.0	19.6	4.3	3.6
	50 歳代	149	63.8	34.9	30.2	8.7	4.0	3.4
	60 歳代	111	58.6	36.9	27.0	11.7	6.3	1.8
70 歳代	139	68.3	28.8	30.2	5.8	3.6	2.2	
80 歳以上	75	62.7	26.7	38.7	5.3	9.3	5.3	

性・年齢別にみると、「親切・丁寧な対応だった」はいずれの性別・年代でも最も高く、男性の60歳代が7割を超え、女性の70歳代が7割近くとなっている。「対応が正確・迅速だった」は男性の10・20歳代で5割近くとなっている。（表4-2-2）

(3) 印象が悪かった点

◎印象が悪かった点としては「不親切な対応だった」が5割を超えている



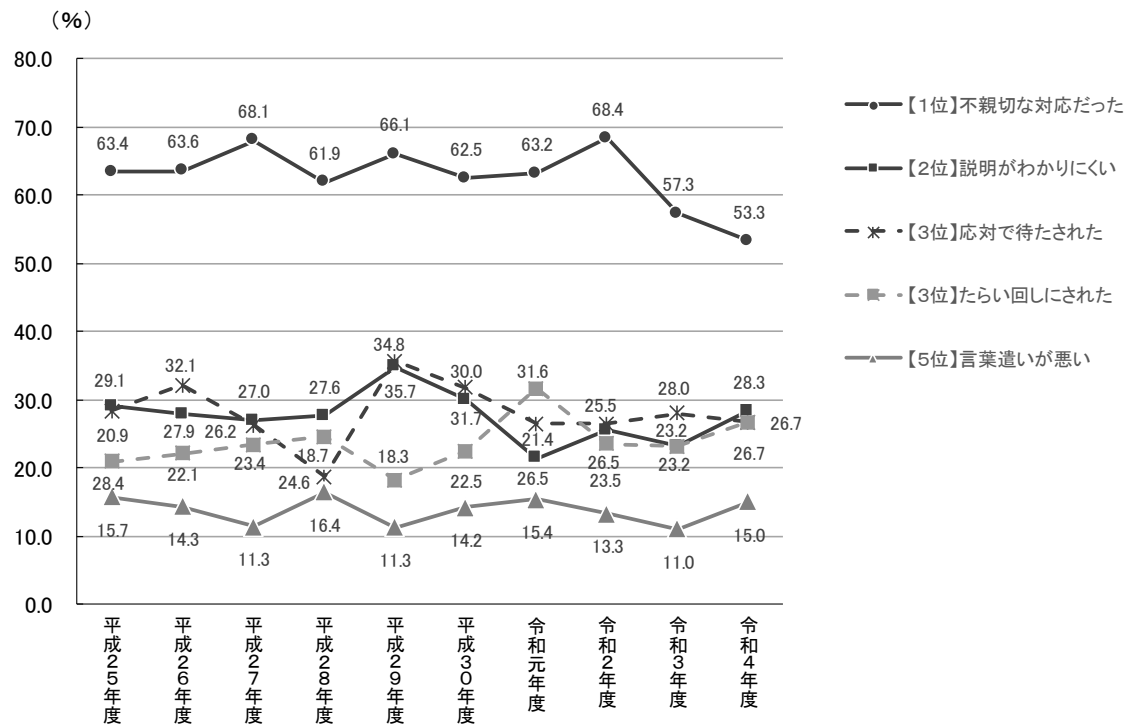
区の窓口や対応について「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方(60人)に、対応の印象が悪かった点を聞いたところ、「不親切な対応だった」(53.3%)が5割を超えて最も高い。以下、「説明がわかりにくい」(28.3%)、「対応で待たされた」(26.7%)、「たらい回しにされた」(26.7%)、「言葉遣いが悪い」(15.0%)と続く。(図4-3-1)

表4-3-1 印象が悪かった点（時系列）

理由	(%)									
	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
n	134	140	141	134	115	120	117	98	82	60
【1位】不親切な対応だった	63.4	63.6	68.1	61.9	66.1	62.5	63.2	68.4	57.3	53.3
【2位】説明がわかりにくい	29.1	27.9	27.0	27.6	34.8	30.0	21.4	25.5	23.2	28.3
【3位】応対で待たされた	28.4	32.1	26.2	18.7	35.7	31.7	26.5	26.5	28.0	26.7
【3位】たらい回しにされた	20.9	22.1	23.4	24.6	18.3	22.5	31.6	23.5	23.2	26.7
【5位】言葉遣いが悪い	15.7	14.3	11.3	16.4	11.3	14.2	15.4	13.3	11.0	15.0

注) 令和4年度の値で順位付けを行った

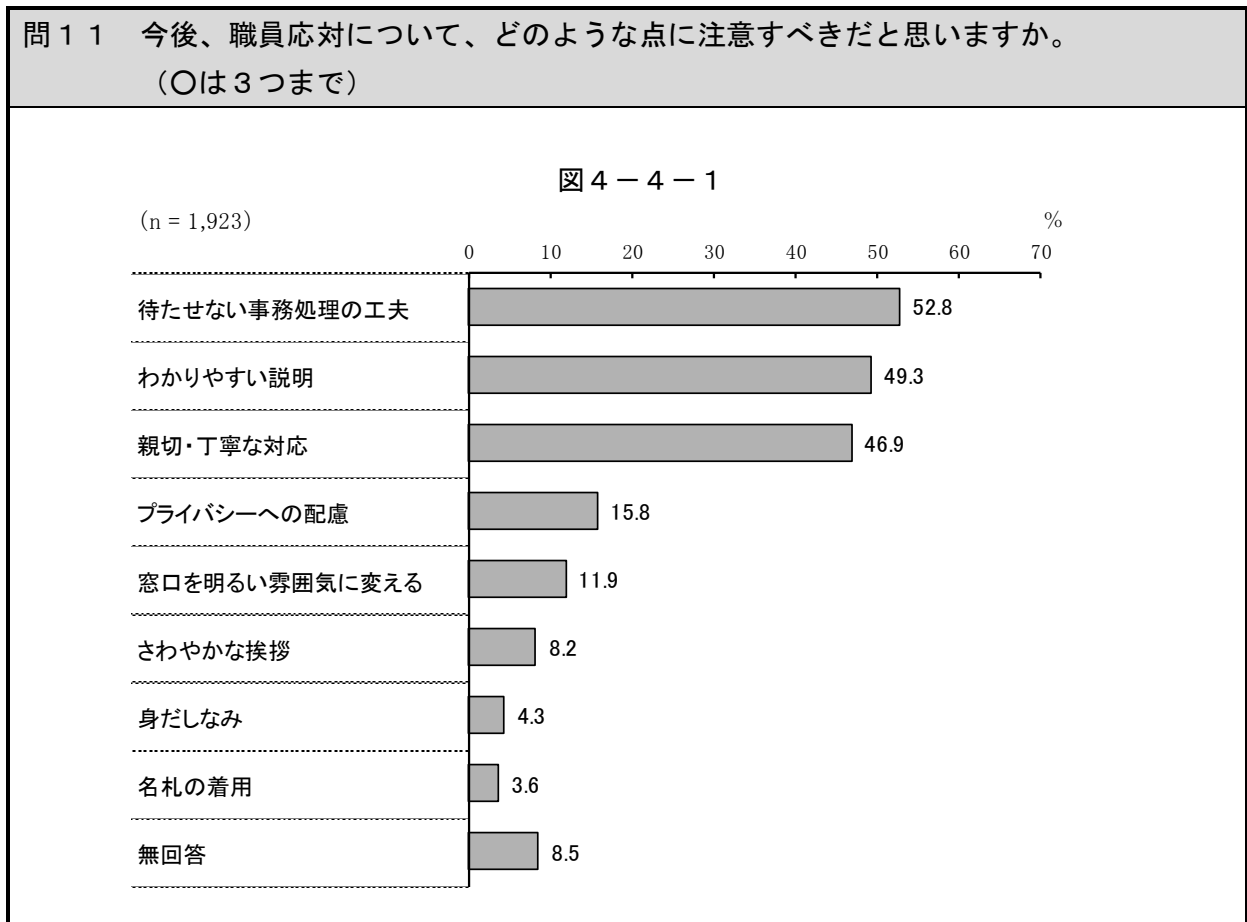
図4-3-2 印象が悪かった点（時系列）



平成25年度からの時系列での変化をみると、「不親切な対応だった」がいずれの年度でも飛びぬけて1位となっているが、令和3年度に続き、令和4年度でも割合が減少し、5割を超えている。（表4-3-1、図4-3-2）

(4) 職員応対での注意点

◎「待たせない事務処理の工夫」「わかりやすい説明」「親切・丁寧な対応」の3点が高い



今後の職員応対で注意すべき点を聞いたところ、「待たせない事務処理の工夫」(52.8%)が5割を超え、「わかりやすい説明」(49.3%)がほぼ5割、「親切・丁寧な対応」(46.9%)が5割近くとなっている。以下、「プライバシーへの配慮」(15.8%)、「窓口を明るい雰囲気に変える」(11.9%)、「さわやかな挨拶」(8.2%)などと続いている。(図4-4-1)

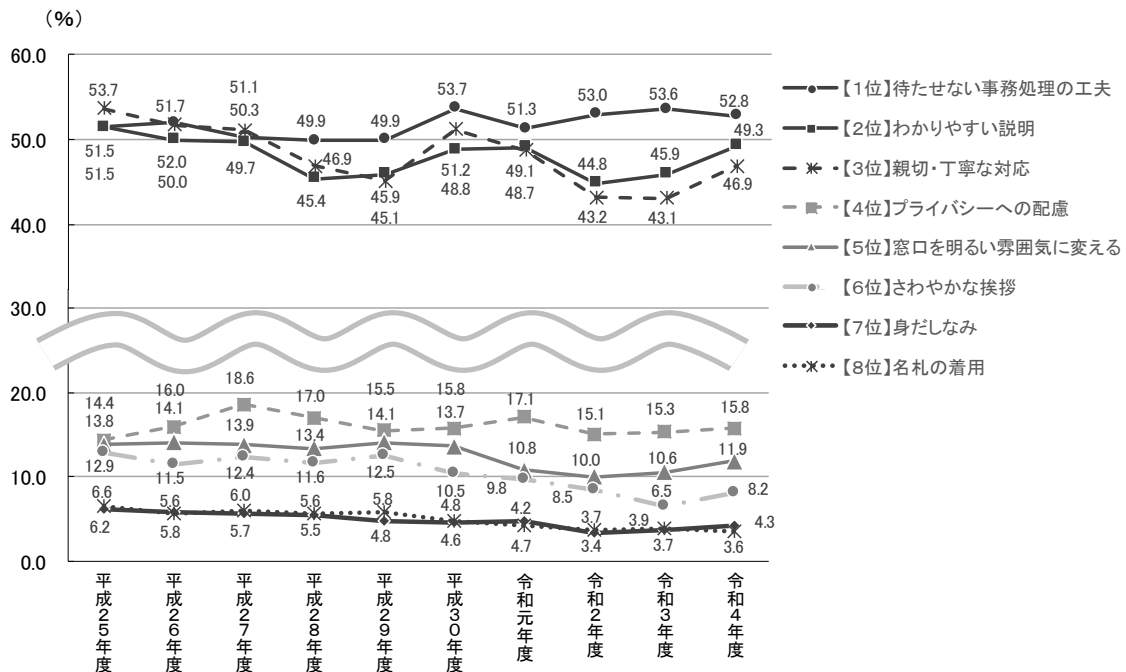
表 4-4-1 職員対応での注意点（時系列）

（％）

理由	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
n	2,354	2,362	2,388	2,355	2,319	2,330	2,171	2,371	2,086	1,923
【1位】待たせない事務処理の工夫	51.5	52.0	50.3	49.9	49.9	53.7	51.3	53.0	53.6	52.8
【2位】わかりやすい説明	51.5	50.0	49.7	45.4	45.9	48.8	49.1	44.8	45.9	49.3
【3位】親切・丁寧な対応	53.7	51.7	51.1	46.9	45.1	51.2	48.7	43.2	43.1	46.9
【4位】プライバシーへの配慮	14.4	16.0	18.6	17.0	15.5	15.8	17.1	15.1	15.3	15.8
【5位】窓口を明るく雰囲気に変える	13.8	14.1	13.9	13.4	14.1	13.7	10.8	10.0	10.6	11.9
【6位】さわやかな挨拶	12.9	11.5	12.4	11.6	12.5	10.5	9.8	8.5	6.5	8.2
【7位】身だしなみ	6.2	5.8	5.7	5.5	4.8	4.6	4.7	3.4	3.7	4.3
【8位】名札の着用	6.6	5.6	6.0	5.6	5.8	4.8	4.2	3.7	3.9	3.6

注) 令和4年度の値で順位付けを行った

図 4-4-2 職員対応での注意点（時系列）



平成25年度からの時系列での変化をみると、「待たせない事務処理の工夫」、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」の3項目がいずれの年度でも4割台から5割台で推移している。（表4-4-1、図4-4-2）

表 4-4-2 職員対応での注意点（性・年齢別）

（％）

区分	n	待たせない事務処理の工夫	わかりやすい説明	親切・丁寧な対応	プライバシーへの配慮	窓口を明るい雰囲気に変える	さわやかな挨拶	身だしなみ	名札の着用	無回答	
全体	1,923	52.8	49.3	46.9	15.8	11.9	8.2	4.3	3.6	8.5	
性・年齢別	男性全体	720	53.2	45.8	43.2	12.4	12.9	11.4	4.6	3.2	9.4
	10・20 歳代	63	44.4	31.7	33.3	23.8	19.0	9.5	7.9	-	19.0
	30 歳代	81	63.0	50.6	45.7	18.5	17.3	16.0	4.9	1.2	4.9
	40 歳代	123	58.5	38.2	35.8	14.6	19.5	9.8	4.9	2.4	5.7
	50 歳代	155	54.8	49.7	49.0	10.3	12.3	11.6	5.8	3.2	4.5
	60 歳代	123	54.5	49.6	45.5	10.6	10.6	11.4	3.3	2.4	10.6
	70 歳代	110	52.7	50.0	40.0	8.2	3.6	10.9	2.7	5.5	12.7
	80 歳以上	65	33.8	44.6	50.8	4.6	10.8	10.8	3.1	7.7	16.9
	女性全体	1,165	53.2	51.8	49.2	17.7	11.4	6.4	4.1	3.8	7.5
	10・20 歳代	101	50.5	43.6	35.6	20.8	25.7	9.9	-	3.0	3.0
	30 歳代	145	55.9	46.9	37.9	20.0	14.5	7.6	4.1	-	6.9
	40 歳代	211	50.7	46.9	49.8	17.1	13.7	6.6	3.8	2.4	9.0
	50 歳代	224	50.9	52.7	56.7	19.2	9.8	6.7	3.6	3.6	4.5
	60 歳代	178	57.9	55.1	53.4	18.0	7.3	3.9	5.1	4.5	6.7
	70 歳代	199	54.8	59.3	52.3	17.6	6.5	5.0	7.0	6.0	10.1
	80 歳以上	106	51.9	54.7	47.2	8.5	8.5	6.6	1.9	7.5	12.3

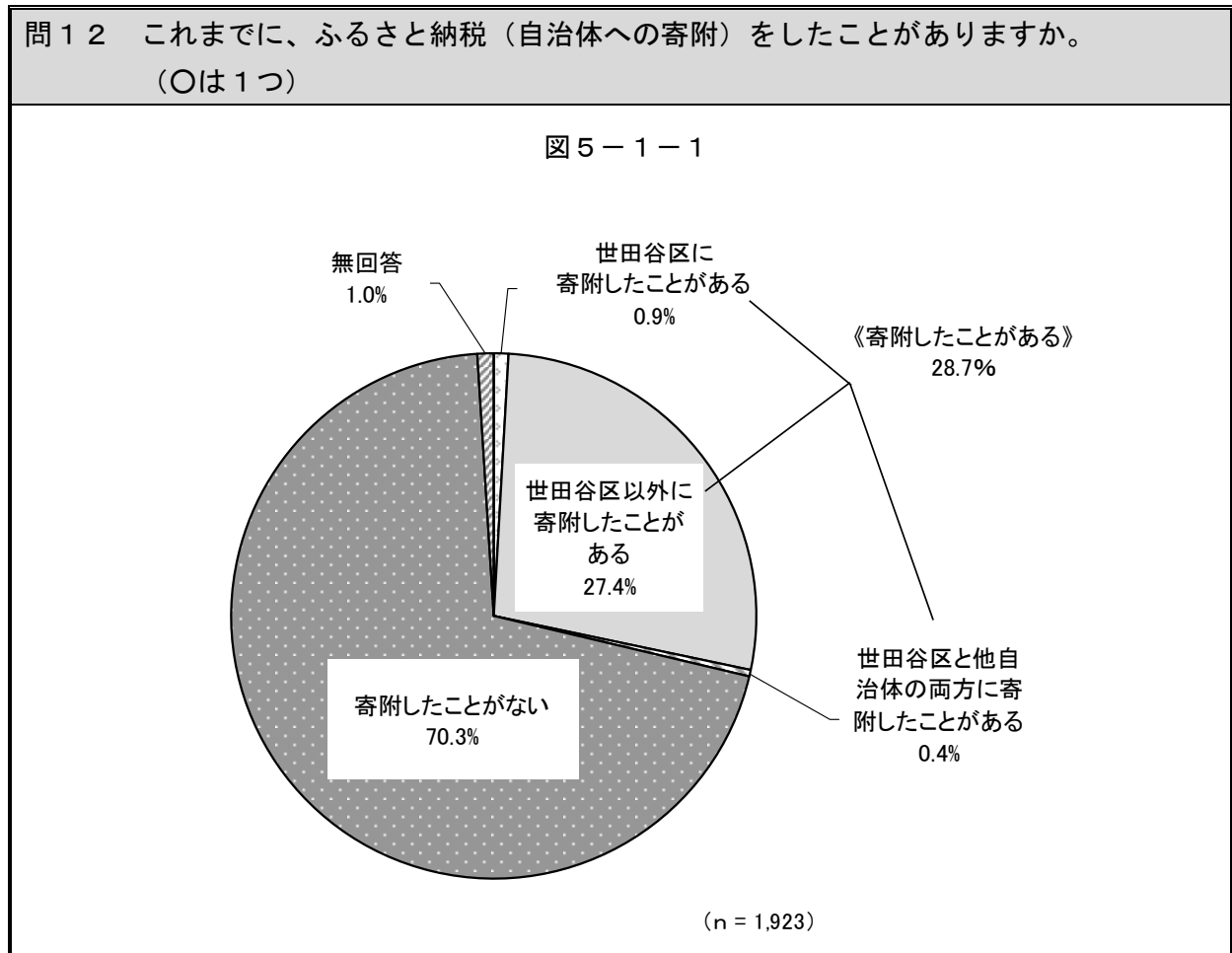
性・年齢別にみると、「待たせない事務処理の工夫」は男性の30歳代で6割超え、女性の60歳代で6割近くとなっている。「わかりやすい説明」は女性の70歳代でほぼ6割となっている。

（表 4-4-2）

5. ふるさと納税

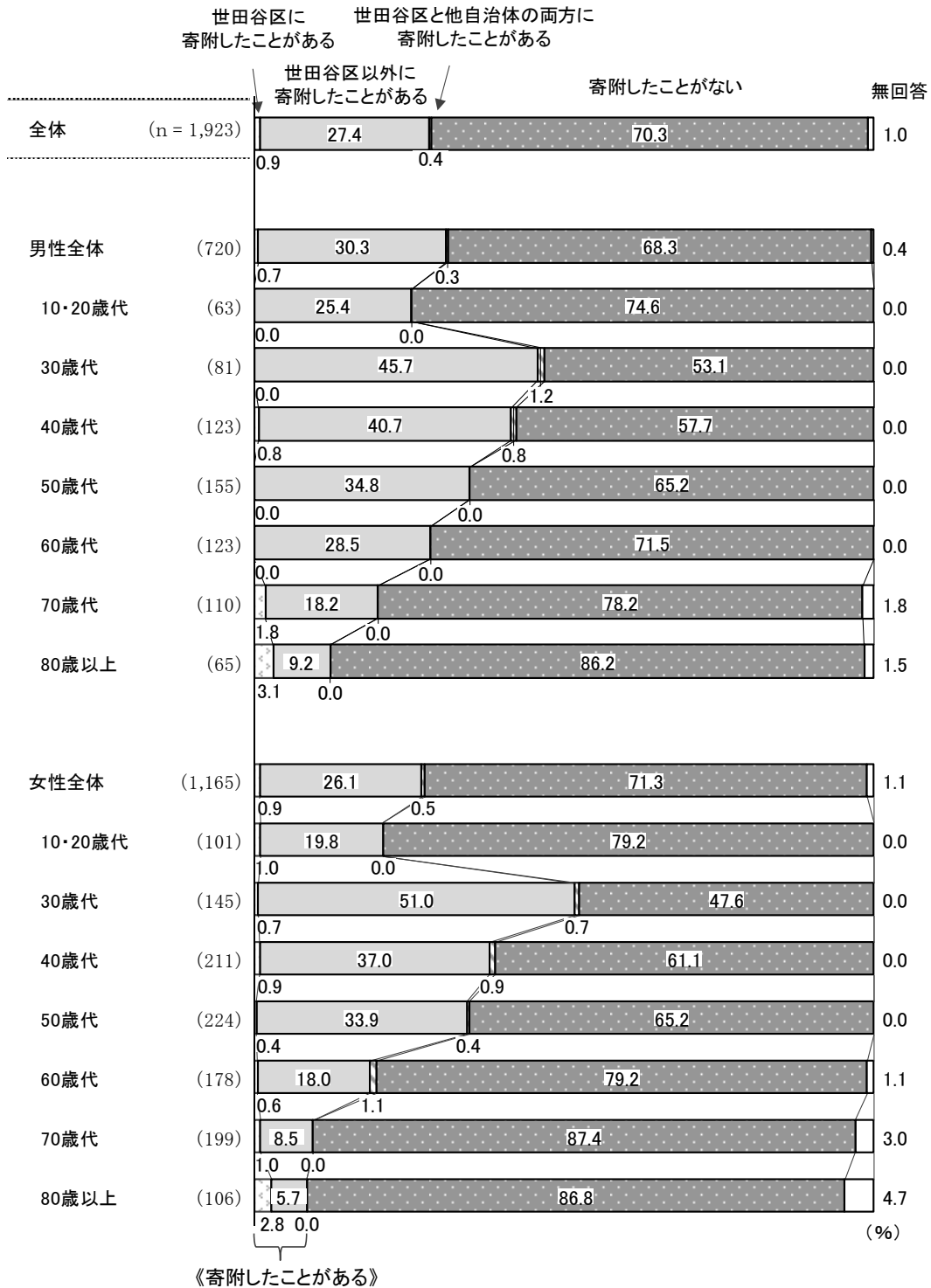
(1) 「ふるさと納税」の経験

◎寄附したことがある方は3割近く



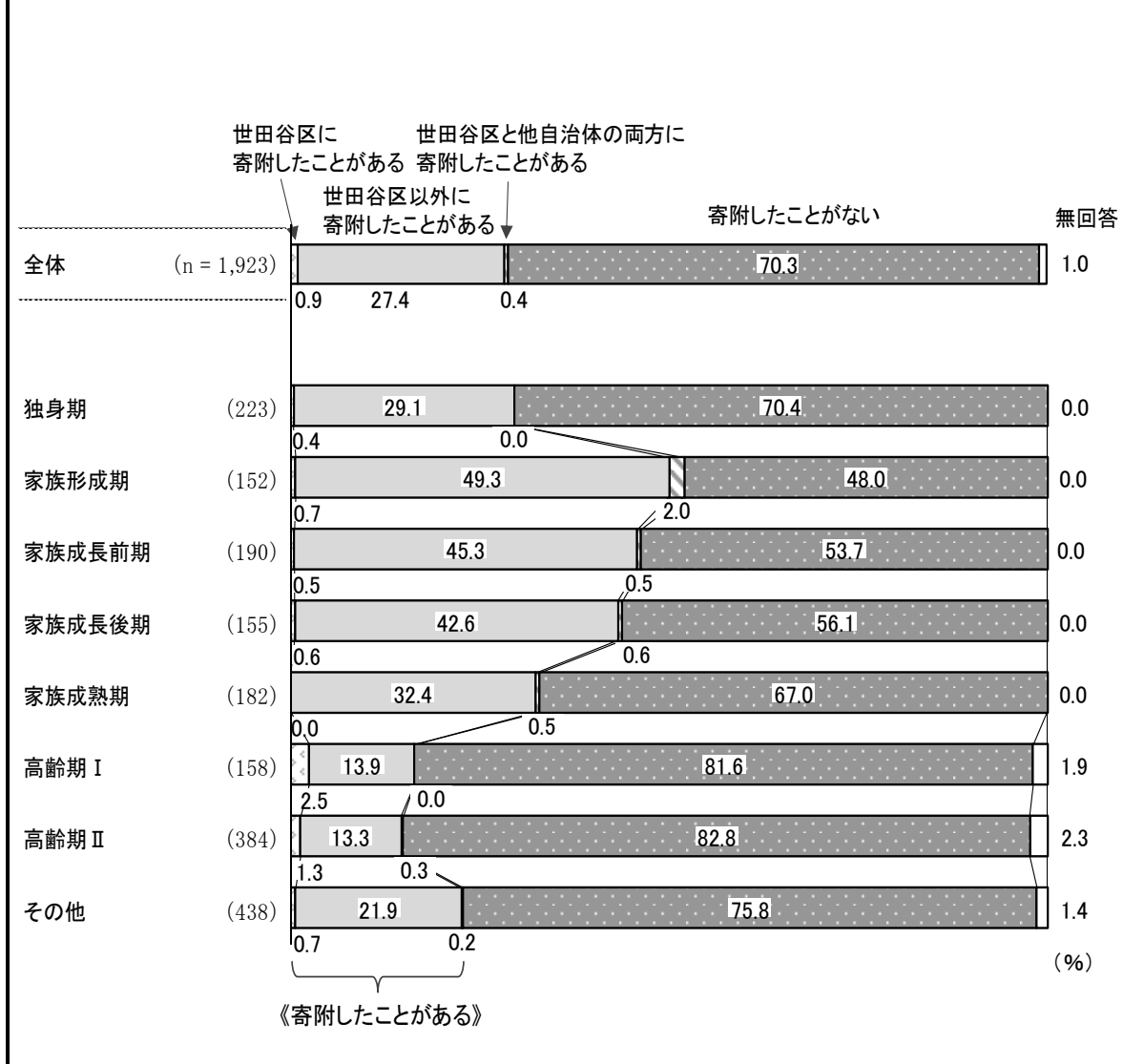
ふるさと納税（自治体への寄附）をしたことがあるか聞いたところ、《寄附したことがある》（28.7%）は3割近くとなっています。一方、「寄附したことがない」（70.3%）は7割となっています。（図5-1-1）

図5-1-2 「ふるさと納税」の経験の有無（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《寄附したことがある》は女性の30歳代が5割を超え、男性の30歳代が5割近くと高くなっている。（図5-1-2）

図5-1-3 「ふるさと納税」の経験の有無（ライフステージ別）



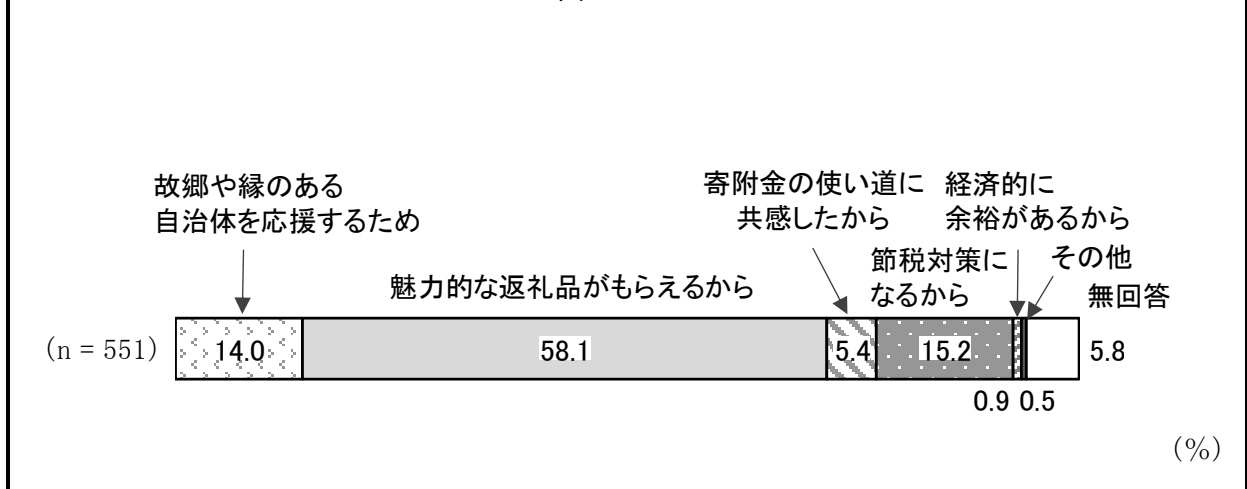
ライフステージ別にみると、《寄附したことがある》は家族形成期が5割を超え、「寄附したことがない」は高齢期 I、高齢期 II が8割を超えて高くなっている。(図5-1-3)

(2) 「ふるさと納税」をした理由

◎ふるさと納税をした理由を魅力的な返礼品がもらえるからとしている方が6割近く

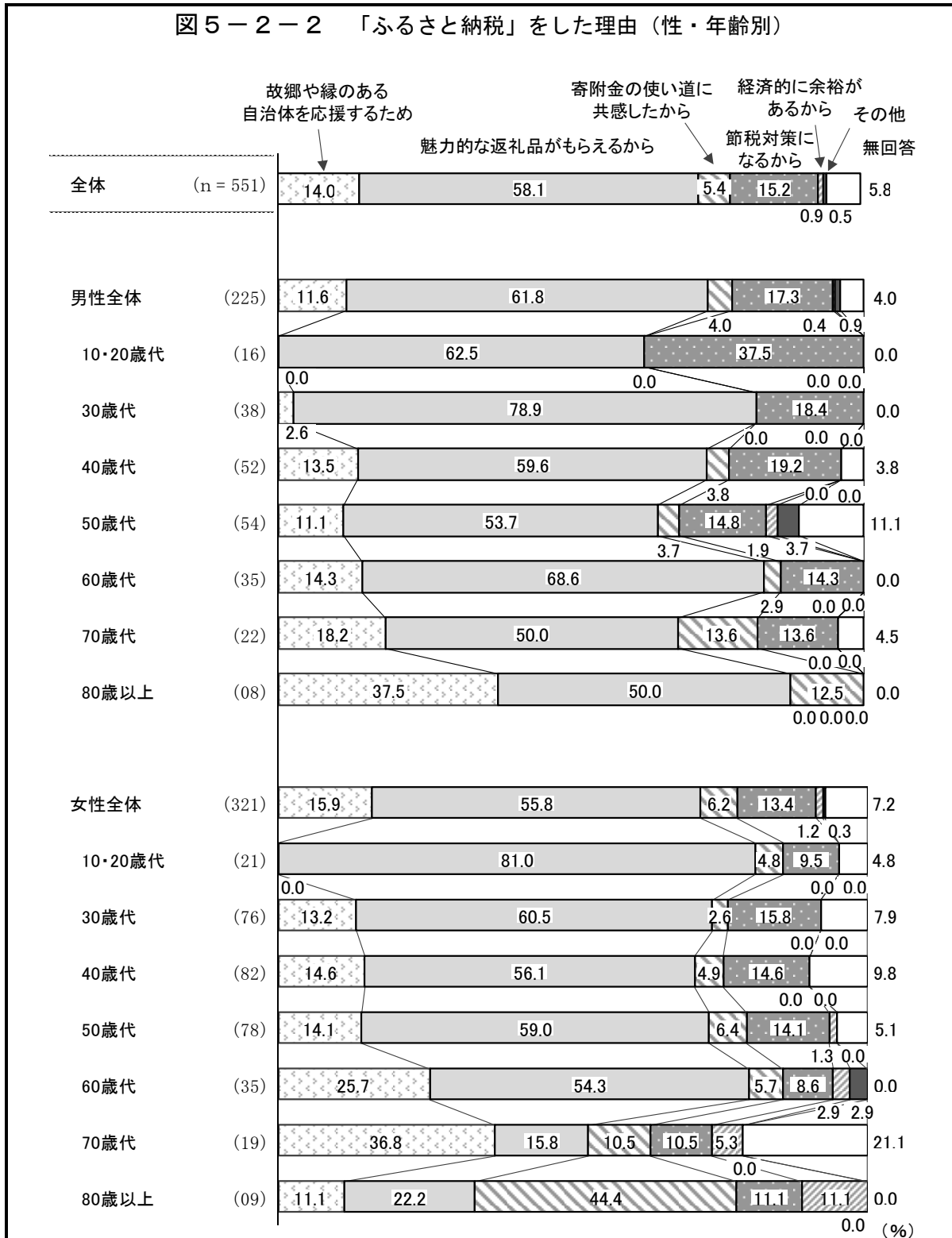
(問12で「世田谷区に寄附したことがある」または「世田谷区以外に寄附したことがある」または「世田谷区と他自治体の両方に寄附したことがある」を選択した方に)
問12-1 あなたがその自治体へふるさと納税をした一番の理由は何ですか。
(○は1つ)

図5-2-1



ふるさと納税をした理由を聞いたところ、「魅力的な返礼品がもらえるから」(58.1%)が6割近くと最も高く、「節税対策になるから」(15.2%)、「故郷や縁のある自治体を応援するため」(14.0%)、「寄附金の使い道に共感したから」(5.4%)、「経済的に余裕があるから」(0.9%)と続いている。(図5-2-1)

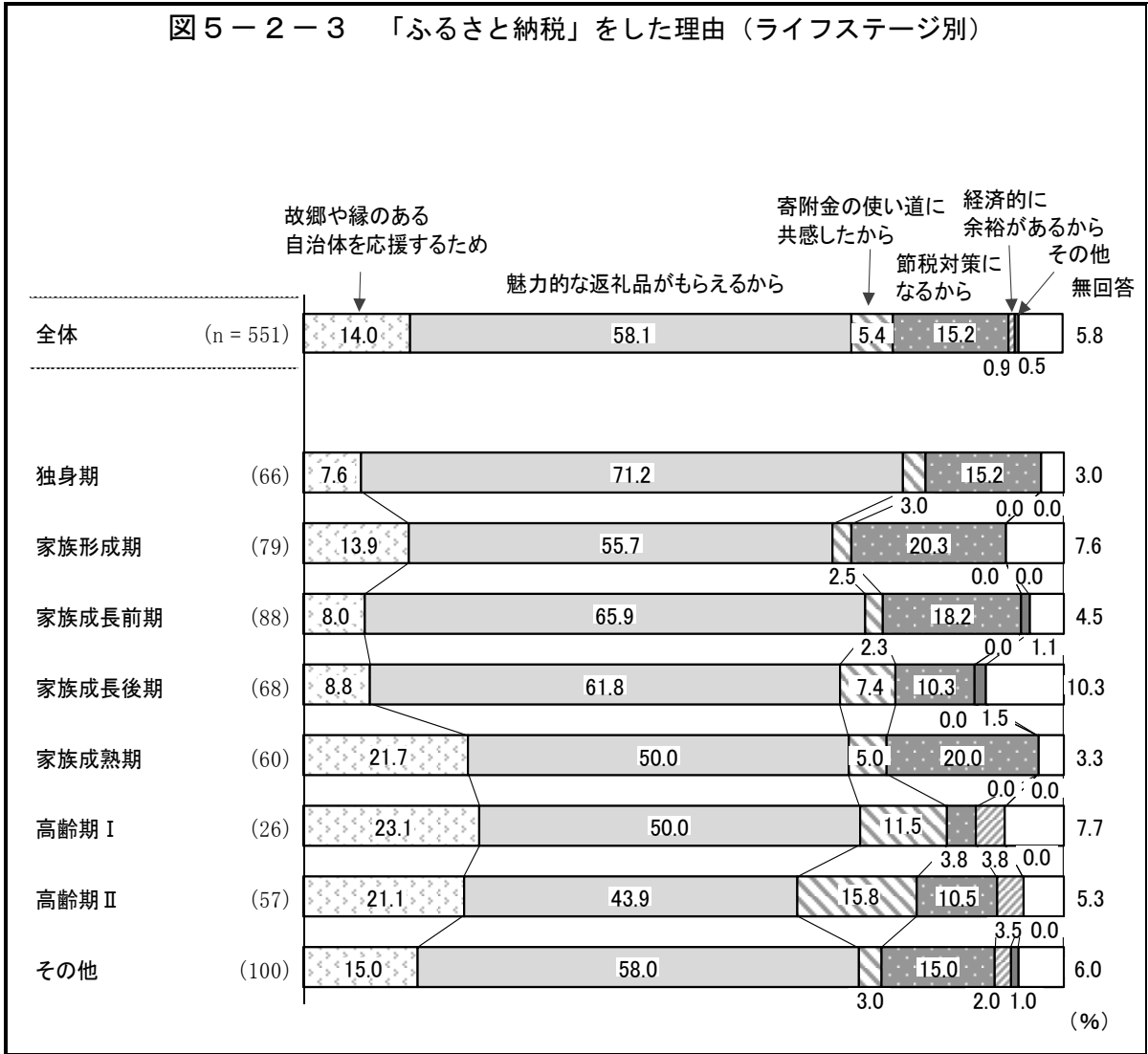
図5-2-2 「ふるさと納税」をした理由（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「魅力的な返礼品がもらえるから」は男性の30歳代が8割近くと高くなっている。（図5-2-2）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

図5-2-3 「ふるさと納税」をした理由（ライフステージ別）

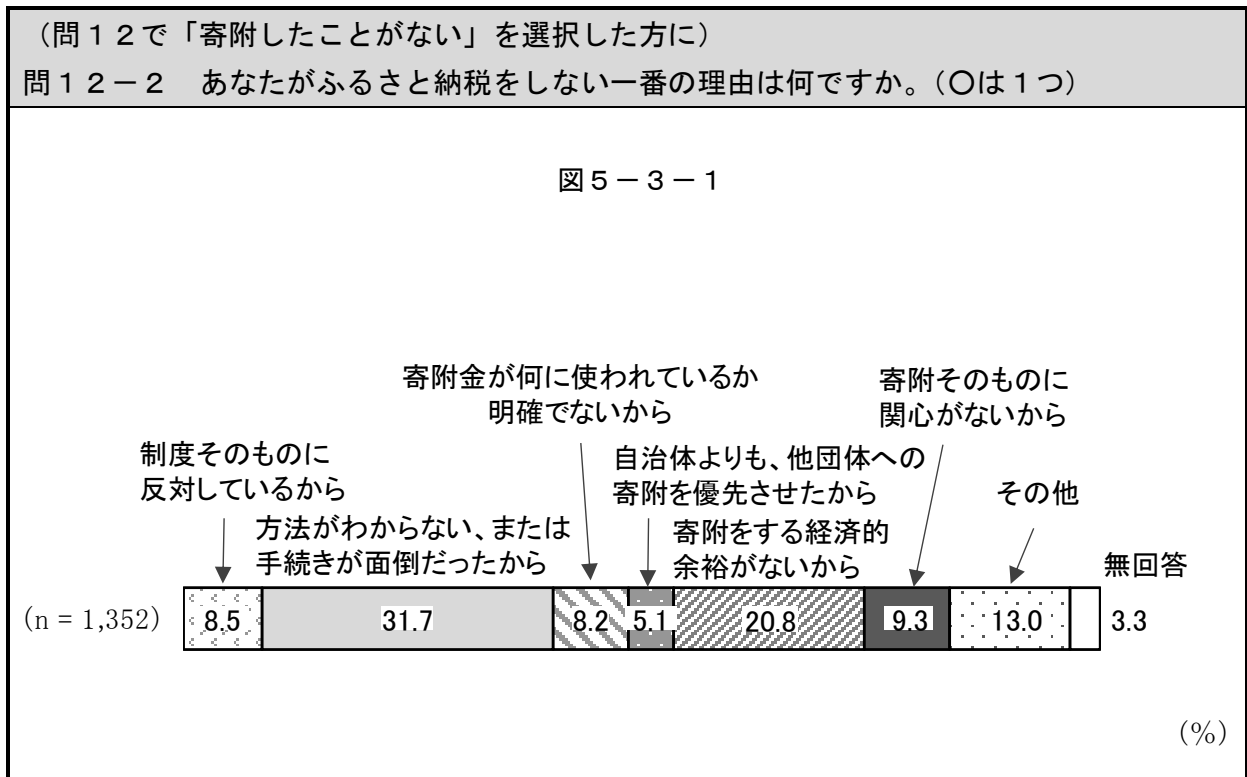


ライフステージ別にみると、「魅力的な返礼品がもらえるから」は独身期が7割を超えて高くなっている。（図5-2-3）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

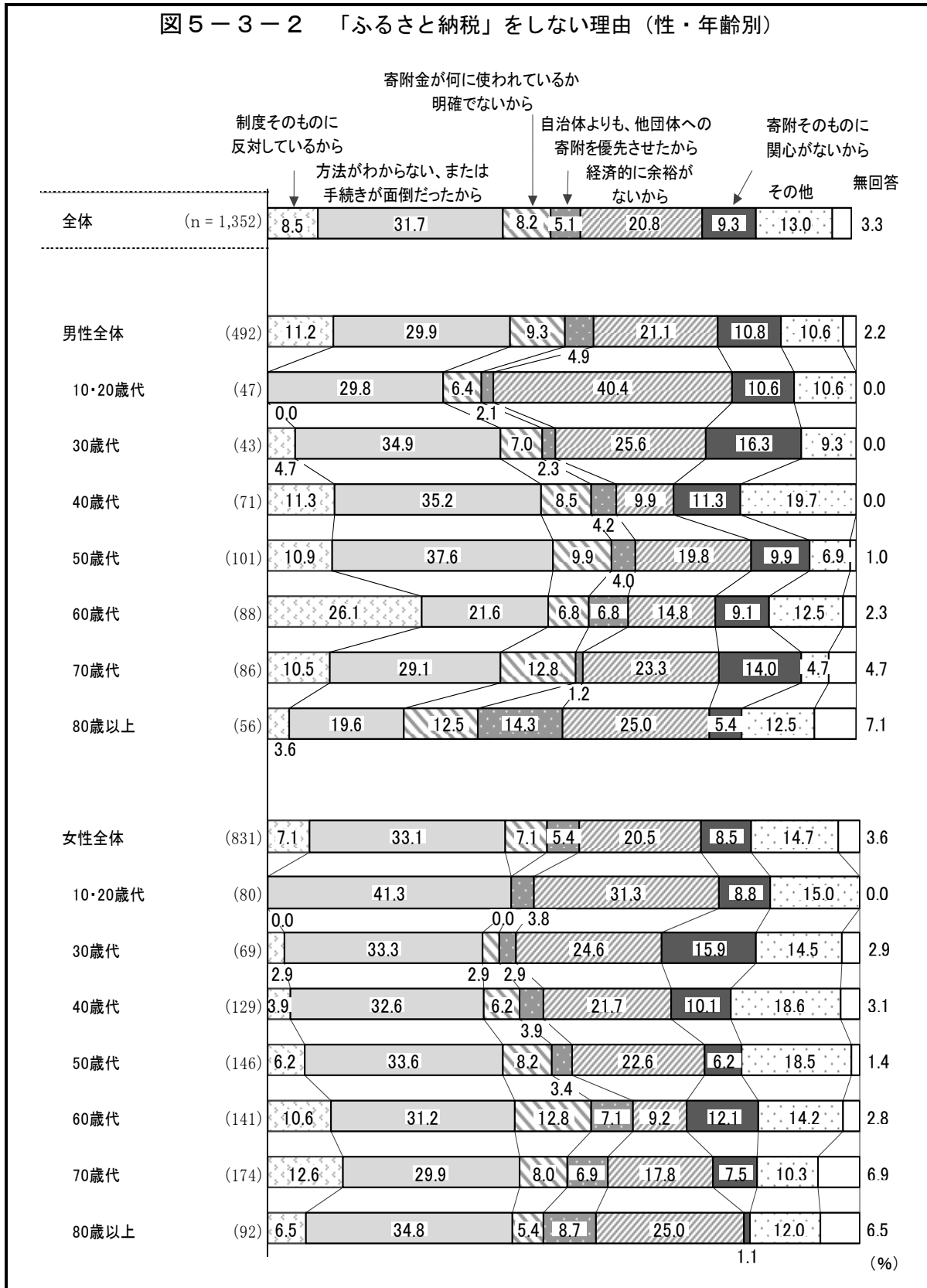
(3) 「ふるさと納税」をしない理由

◎ 「方法がわからない、または手続きが面倒だったから」が3割超え



ふるさと納税をしない理由を聞いたところ、「方法がわからない、または手続きが面倒だったから」(31.7%)が3割を超えて最も高く、「寄附をする経済的余裕がないから」(20.8%)、「寄附そのものに関心がないから」(9.3%)、「制度そのものに反対しているから」(8.5%)、「寄附金が何に使われているか明確でないから」(8.2%)などと続いている。(図5-3-1)

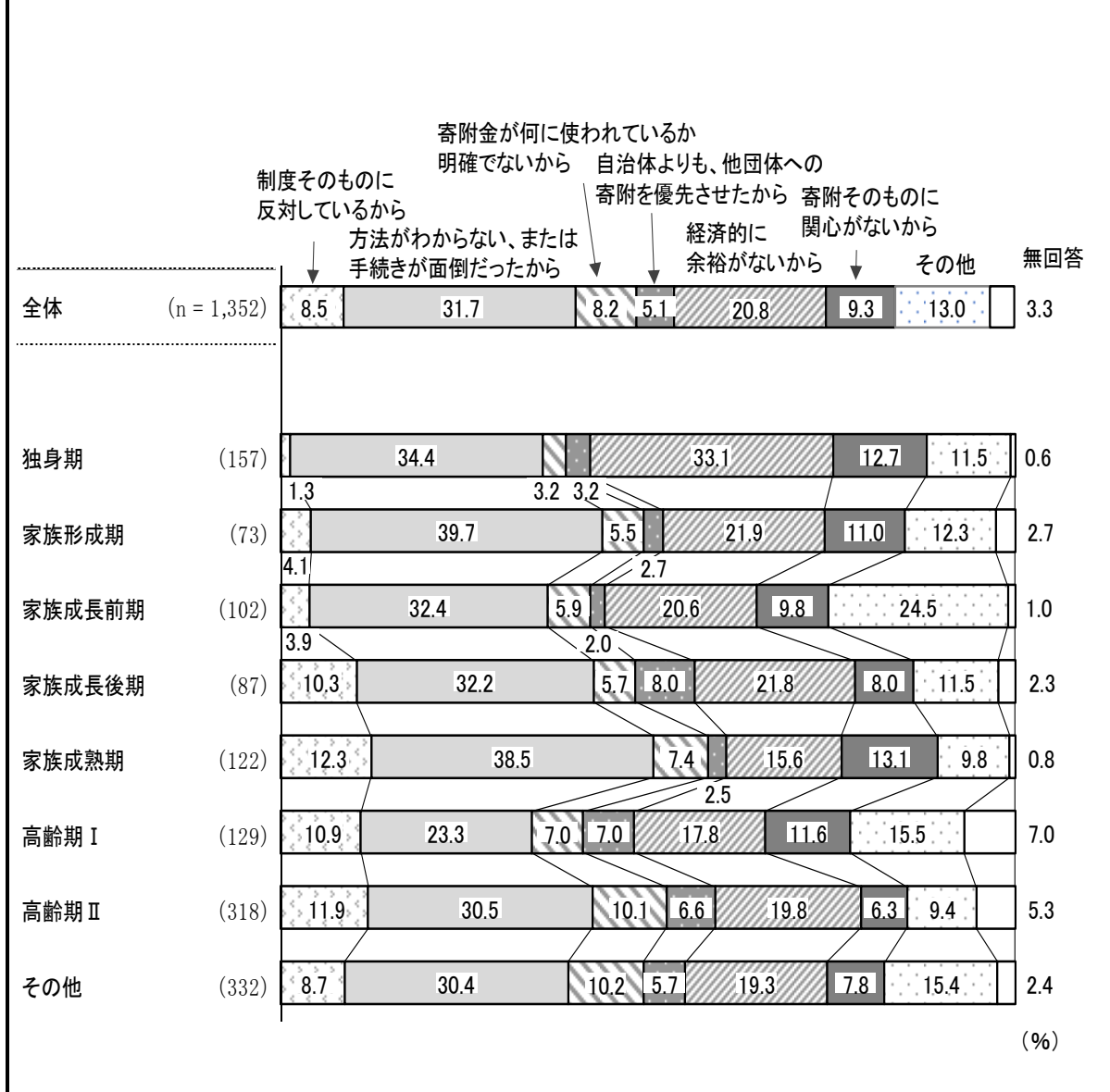
図 5-3-2 「ふるさと納税」をしない理由（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「方法がわからない、または手続きが面倒だったから」は女性の10・20歳代が4割を超え、「経済的に余裕がないから」は男性の10・20歳代が4割と高くなっている。

(図 5-3-2)

図5-3-3 「ふるさと納税」をしない理由（ライフステージ別）



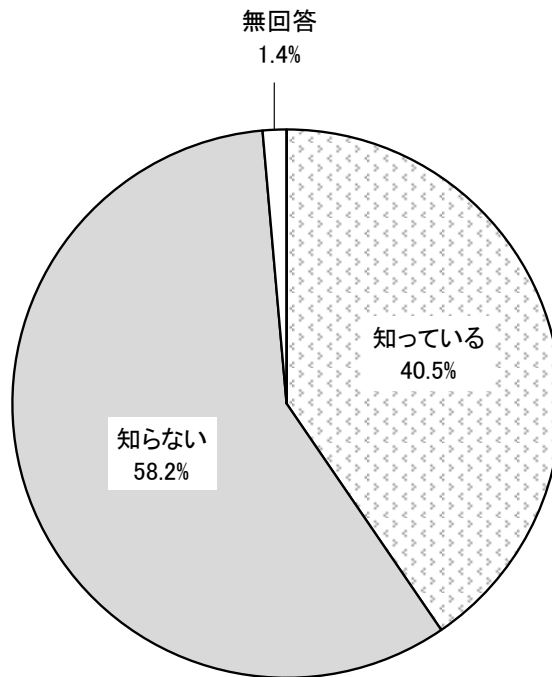
ライフステージ別にみると、「方法がわからない、または手続きが面倒だったから」が高齢期 I 以外で 3 割台となっている。また、「経済的に余裕がないから」は独身期が 3 割を超えて高くなっている。(図 5-3-3)

(4) 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度

◎ 「知らない」方が6割近く

問13 「ふるさと納税」による世田谷区の区民税の減収額は、令和3年度では約70億円となり、この額は年々増加しています。この現状を知っていますか。(○は1つ)

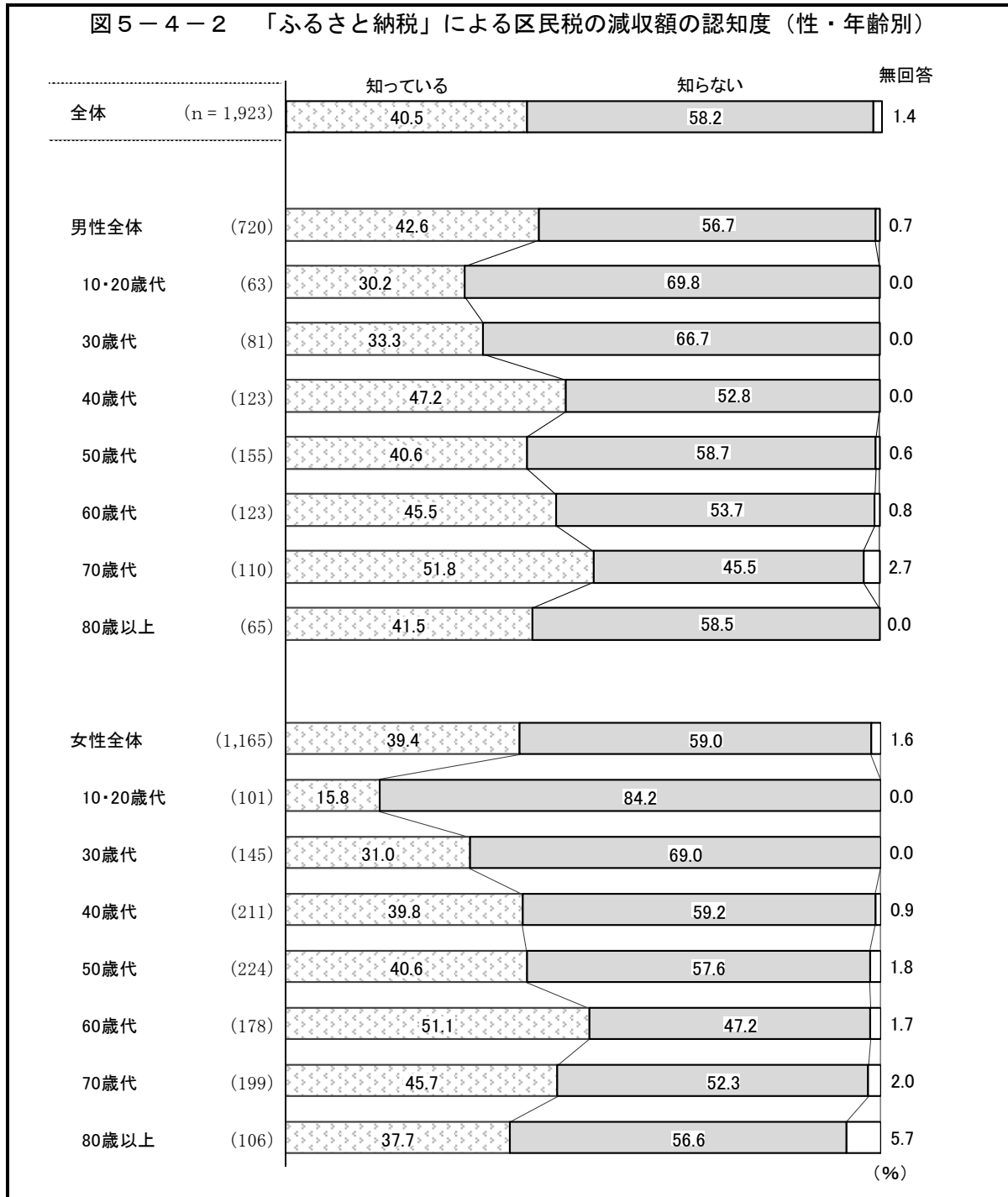
図5-4-1



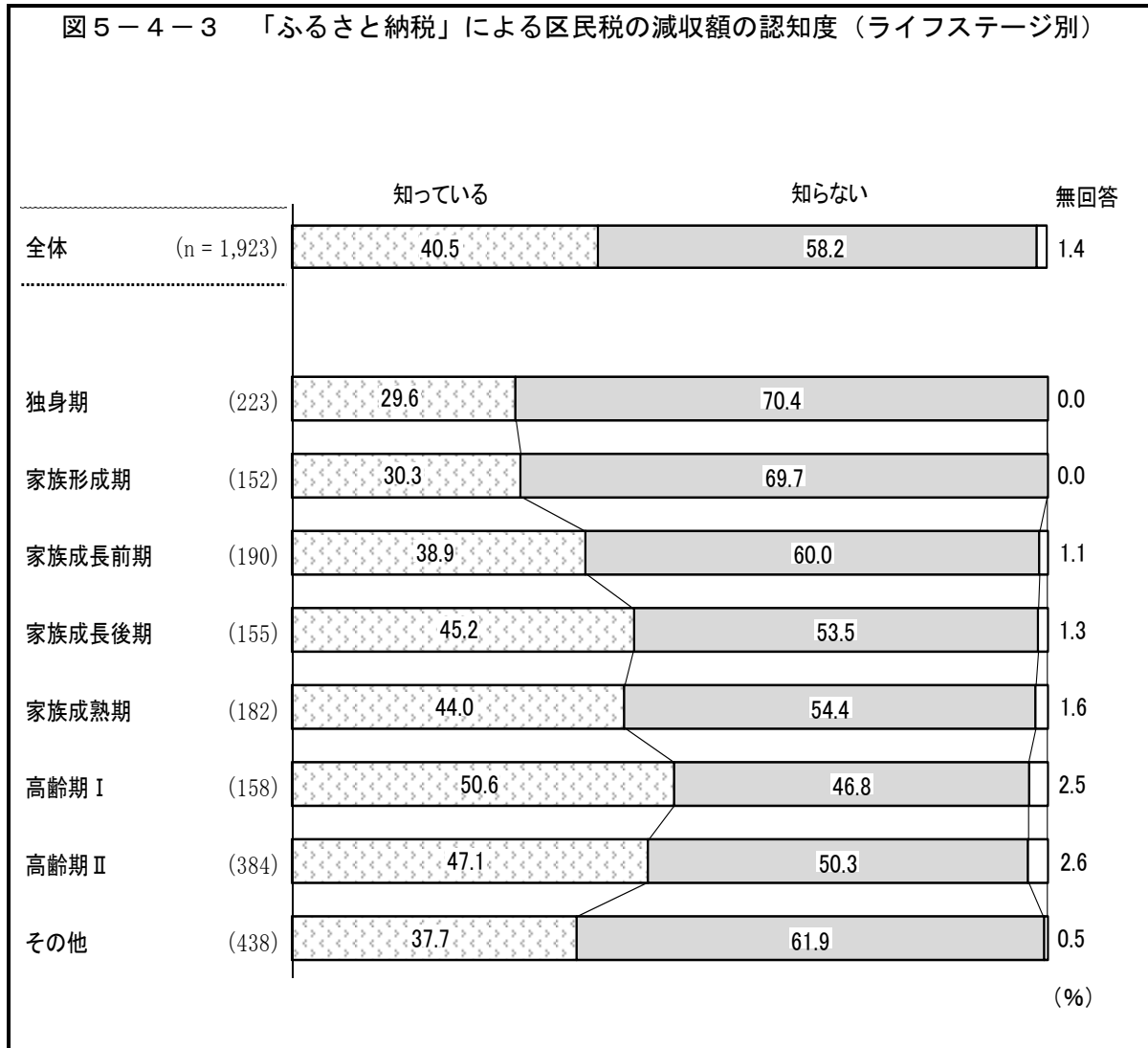
(n = 1,923)

ふるさと納税による区民税の減収額について知っているか聞いたところ、「知らない」(58.2%)が6割近くと最も高くなっている。次いで、「知っている」(40.5%)がほぼ4割となっている。

(図5-4-1)



性・年齢別にみると、「知らない」は女性の10・20歳代で8割半ばとなっている。一方、「知っている」は男性の70歳代、女性の60歳代で5割を超えている。（図5-4-2）



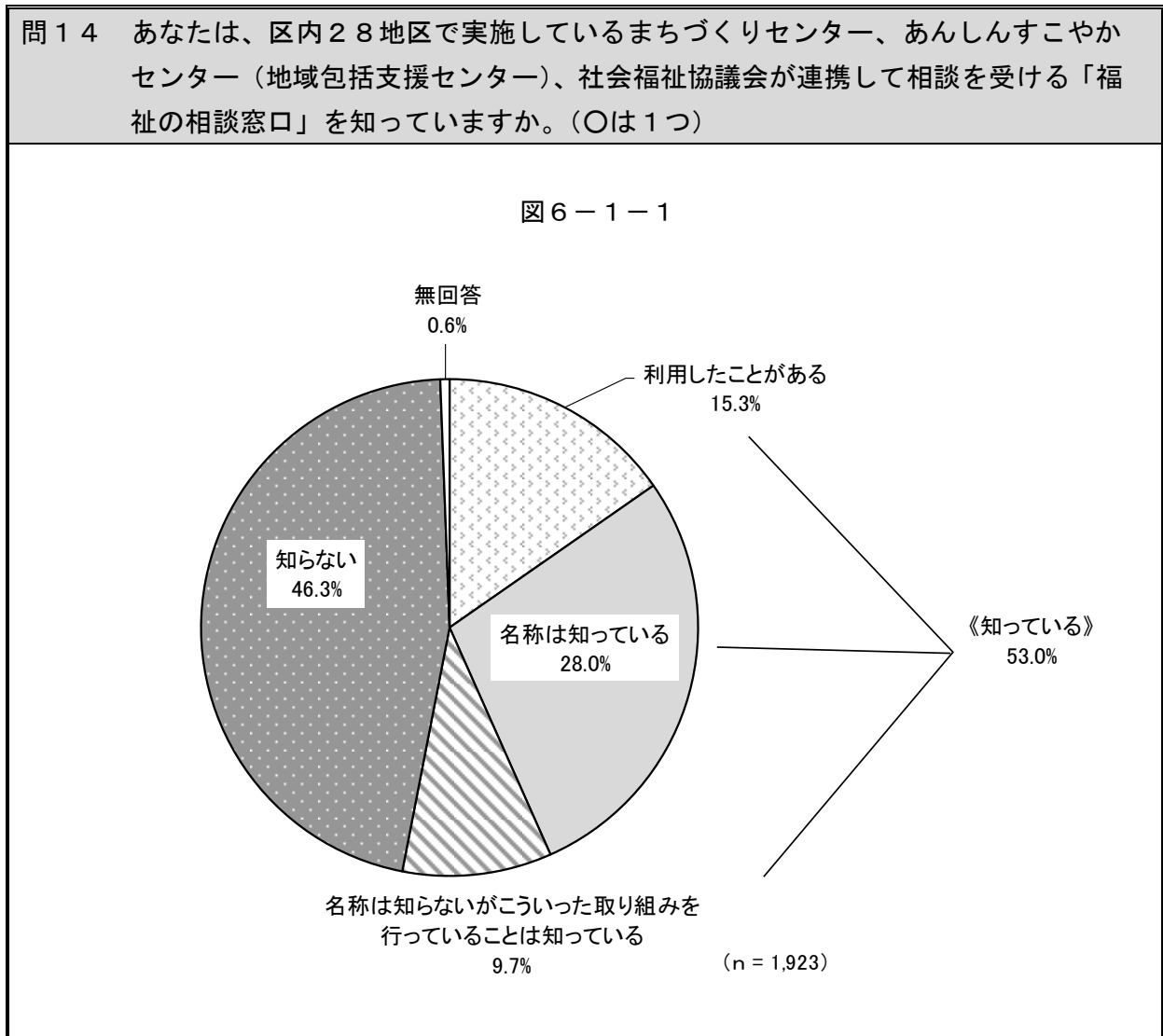
ライフステージ別にみると、「知らない」は独身期、家族形成期で7割と高くなっている。

(図 5-4-3)

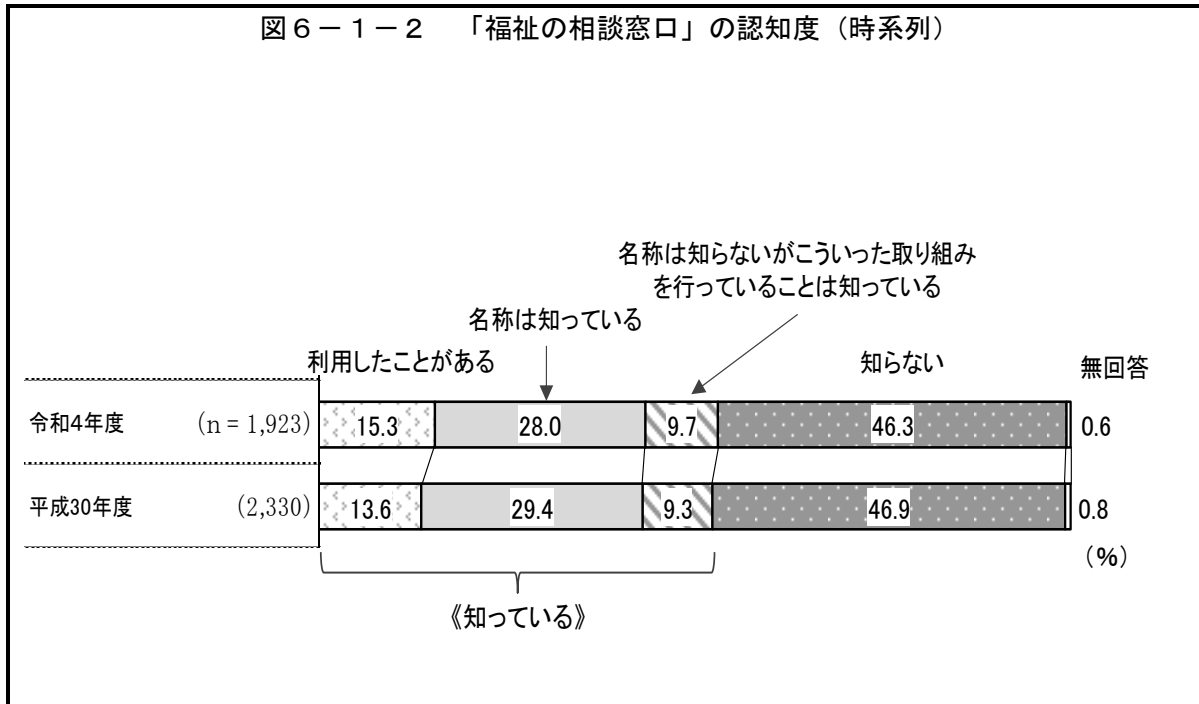
6. 福祉と医療

(1) 「福祉の相談窓口」の認知度

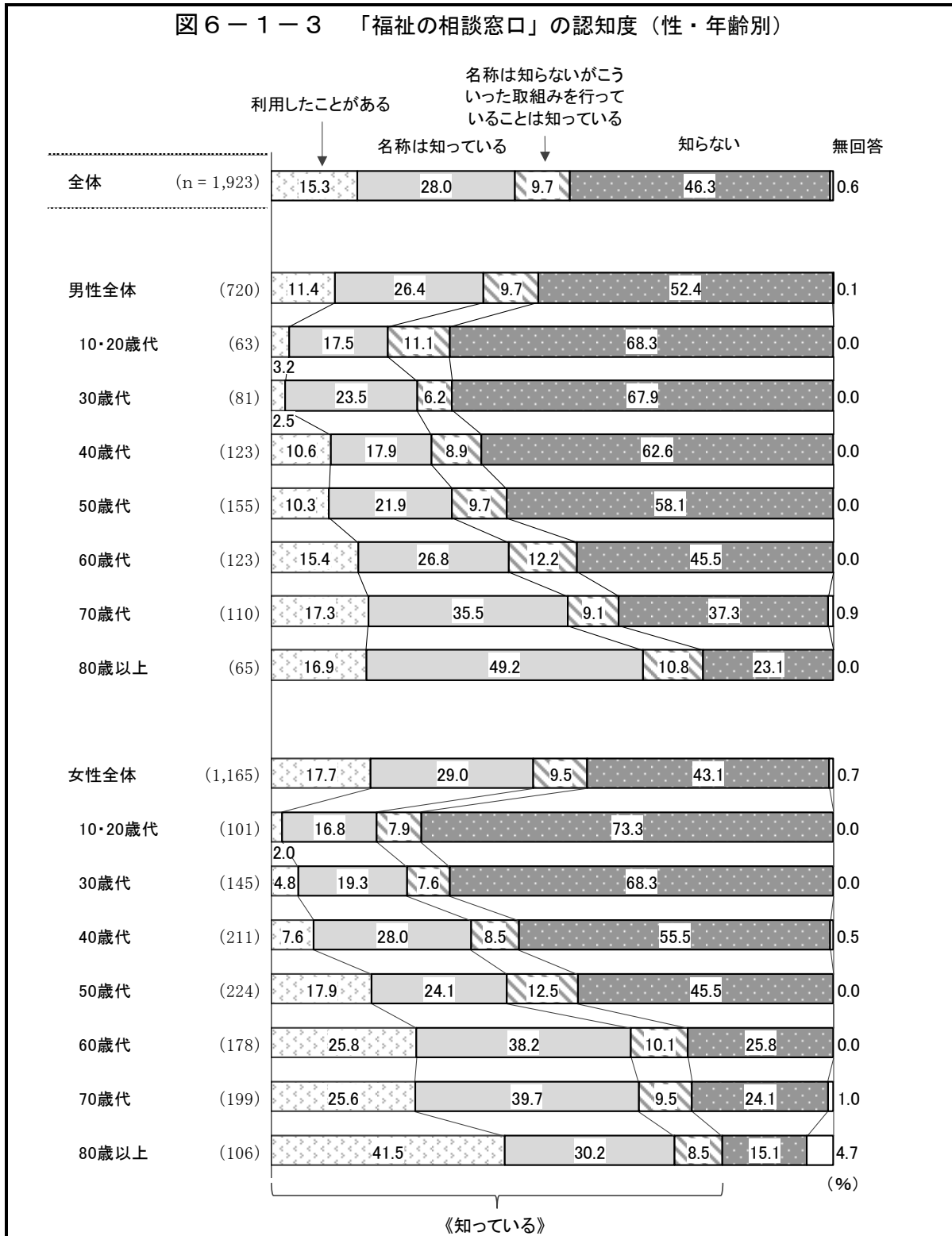
◎ 《知っている》が5割を超え、「利用したことがある」は1割半ば



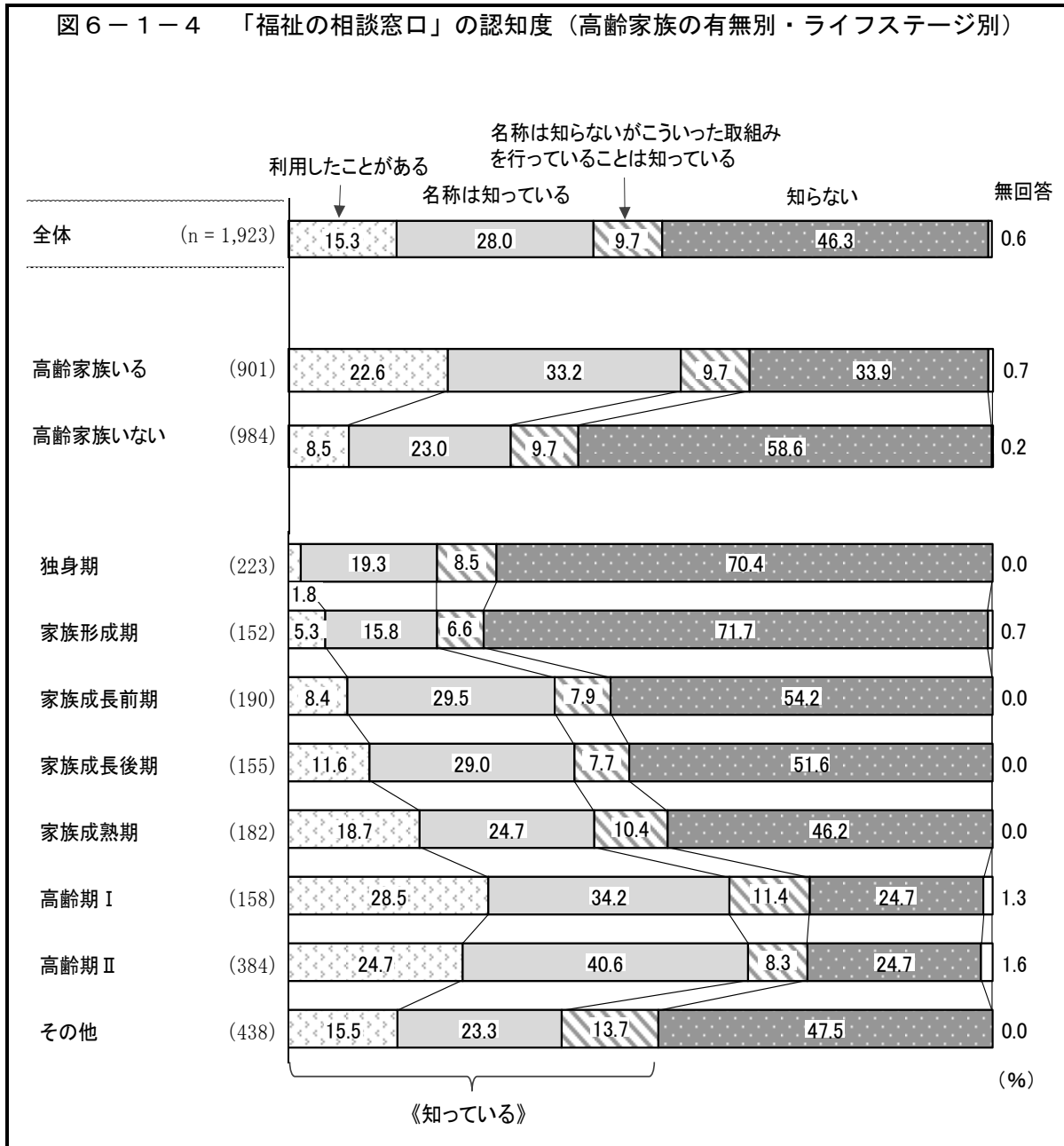
「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（28.0%）、「利用したことがある」（15.3%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（9.7%）を合わせた《知っている》（53.0%）が5割を超え、「知らない」（46.3%）は4割半ばとなっている。（図6-1-1）



平成30年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成30年度（52.3%）から令和4年度（53.0%）で大きな違いはみられない。（図6-1-2）



性・年齢別にみると、《知っている》は、男性、女性ともに年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の80歳以上で8割、男性の80歳以上で8割近くとなっている。「利用したことがある」は女性の80歳以上で4割を超えている。（図6-1-3）



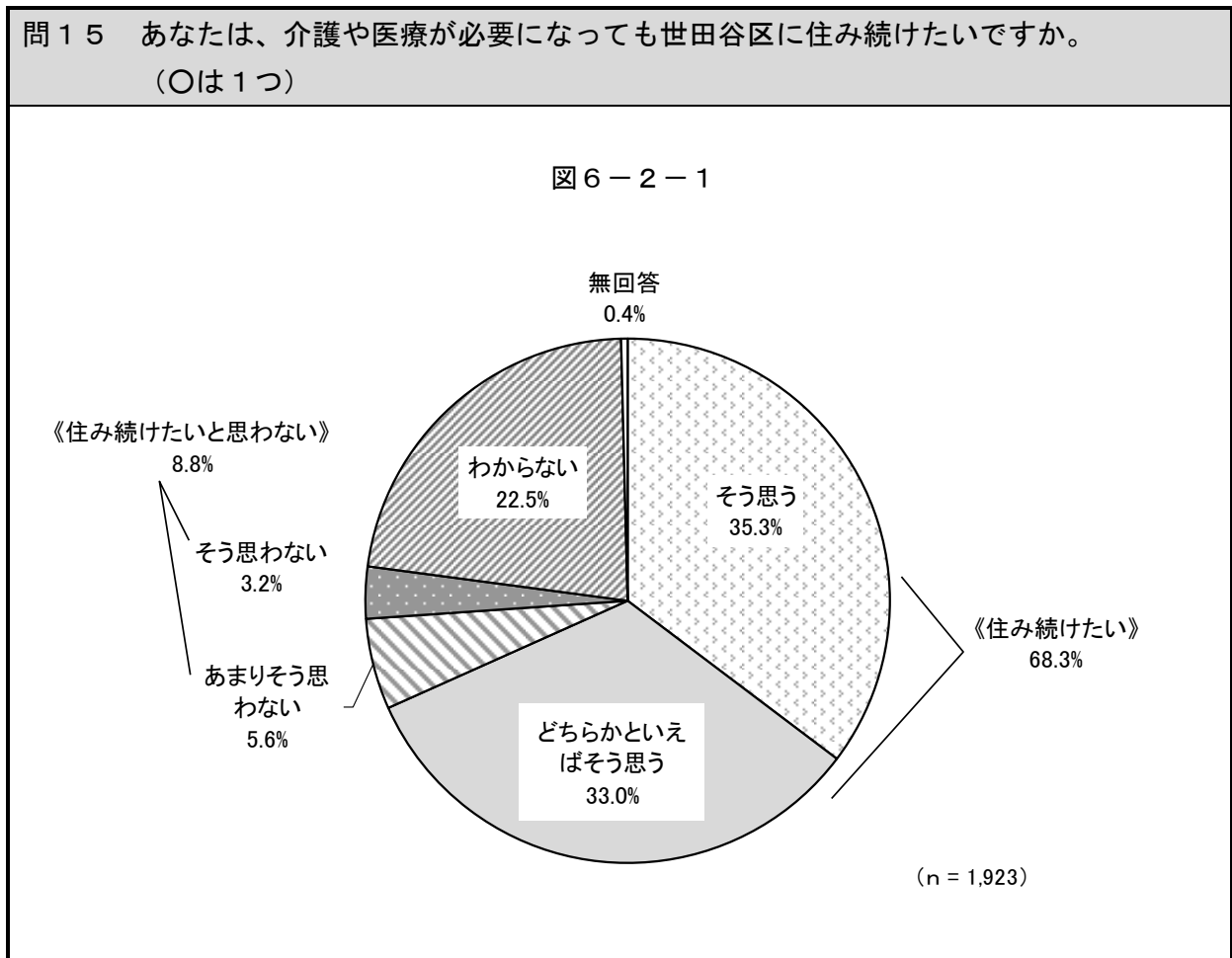
高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」が2割を超え、「名称は知っている」が3割を超えて、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、「利用したことがある」は高齢期Ⅰで3割近く、高齢期Ⅱで2割半ばとなっている。《知っている》は高齢期Ⅰが7割半ば、高齢期Ⅱが7割を超えている。

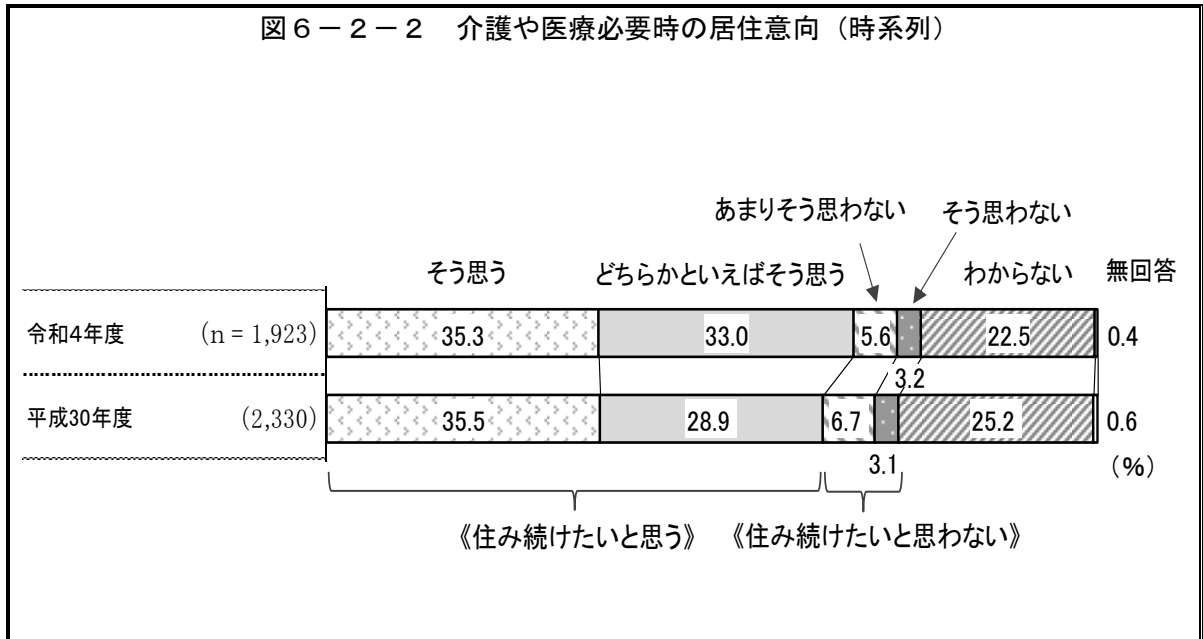
(図6-1-4)

(2) 介護や医療必要時の居留意向

◎ 《住み続けたい》が7割近く

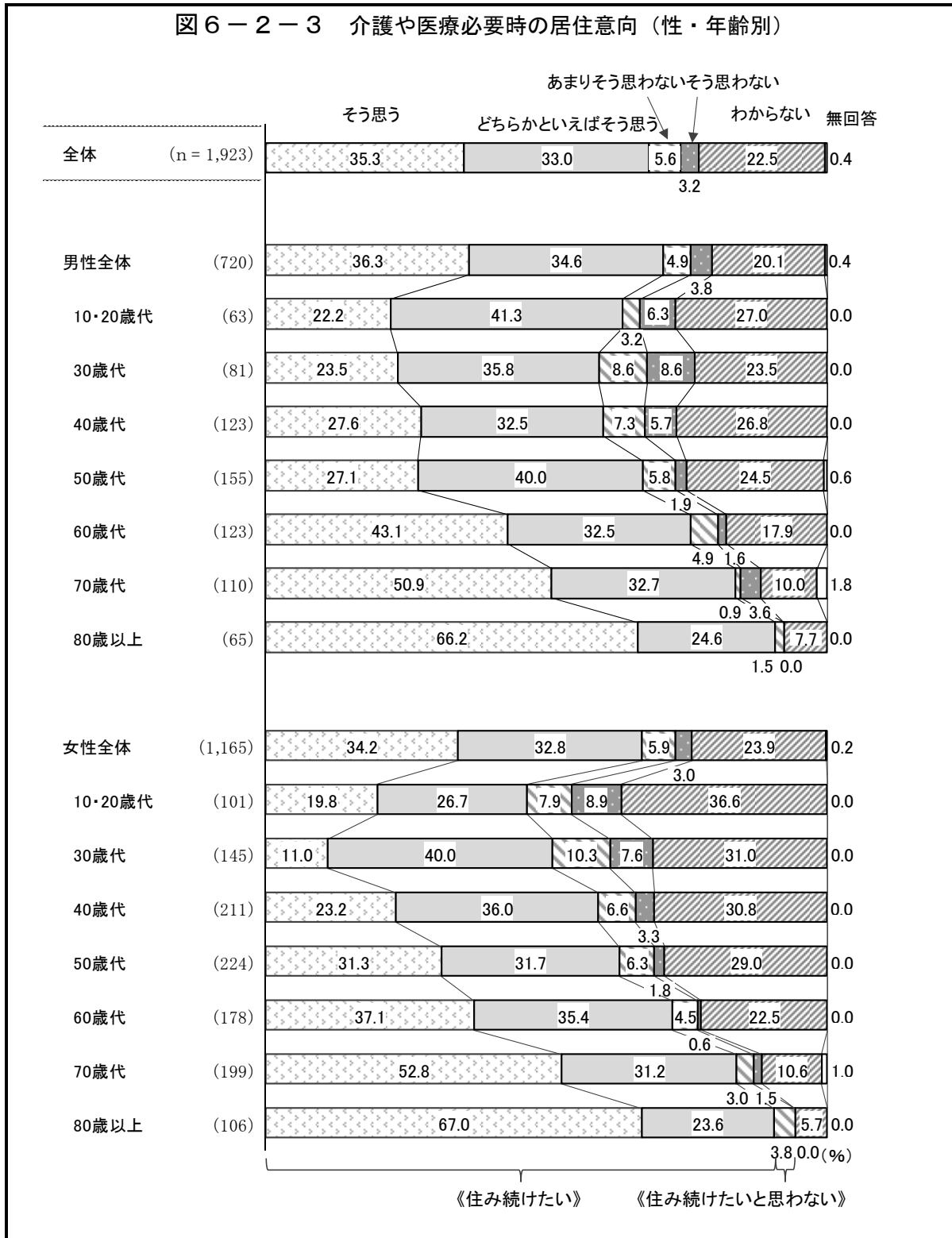


介護や医療必要時の世田谷区への居留意向について聞いたところ、「そう思う」（35.3%）と「どちらかといえばそう思う」（33.0%）を合わせた《住み続けたい》（68.3%）が7割近く、「あまりそう思わない」（5.6%）と「そう思わない」（3.2%）を合わせた《住み続けたいと思わない》（8.8%）は1割近くとなっている。（図6-2-1）



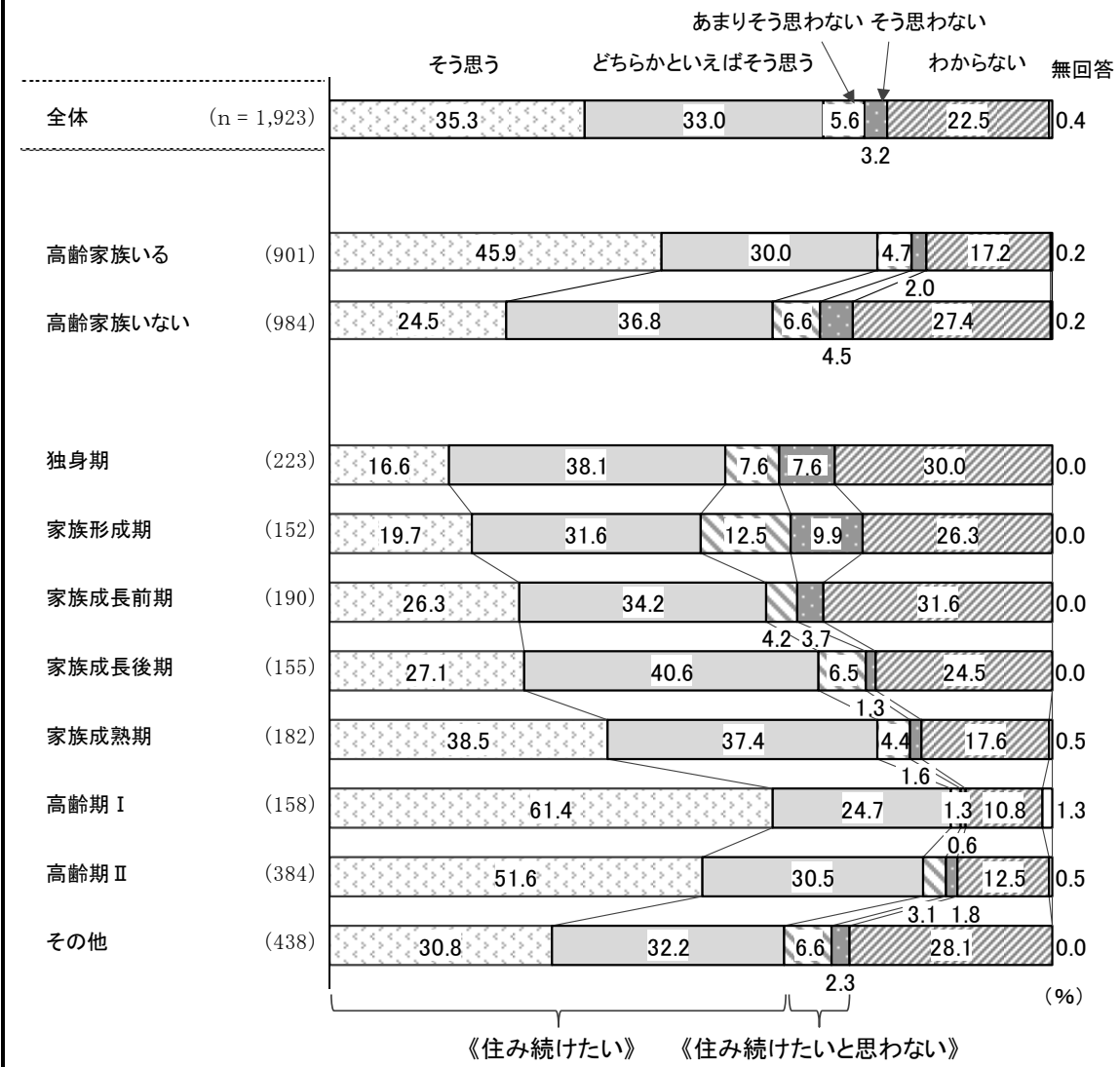
平成30年度からの時系列の変化をみると、《住み続けたいと思う》は平成30年度（64.4%）から令和4年度（68.3%）で増加している。《住み続けたいと思わない》は平成30年度（9.8%）から令和4年度（8.8%）で大きな違いはみられない。（図6-2-2）

図 6-2-3 介護や医療必要時の居留意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、年代が上がるにつれ《住み続けたい》が高くなる傾向にあり、男性の80歳以上、女性の80歳以上でほぼ9割となっている。《住み続けたいと思わない》は、女性の10・20歳代、30歳代、男性の30歳代が2割近くとなっている。（図6-2-3）

図6-2-4 介護や医療必要時の居留意向（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

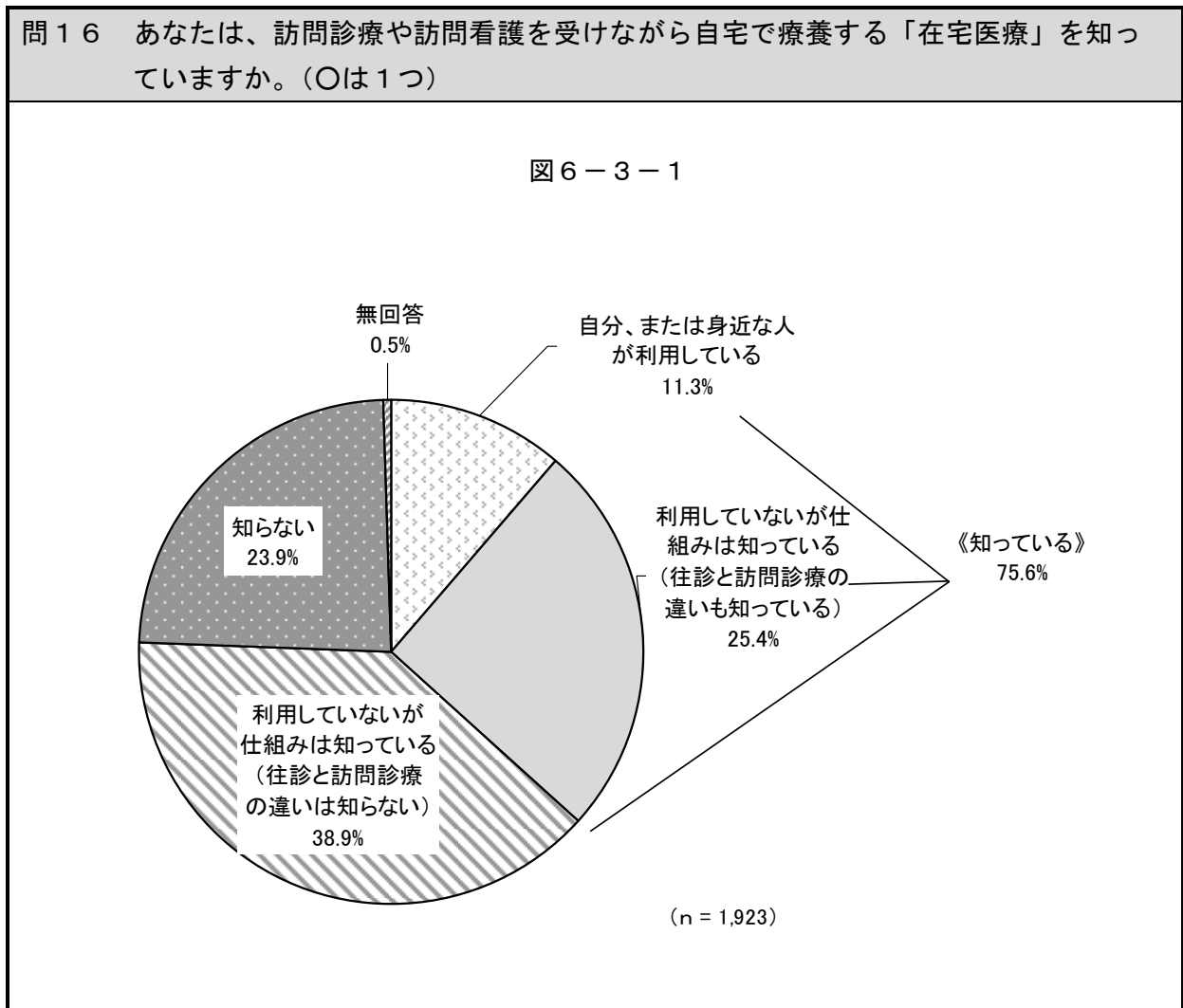


高齢家族の有無別にみると、《住み続けたい》は高齢家族がいる世帯で7割半ば、高齢家族がいない世帯で6割を超えている。「そう思う」は高齢家族がいる世帯で4割半ばとなっている。

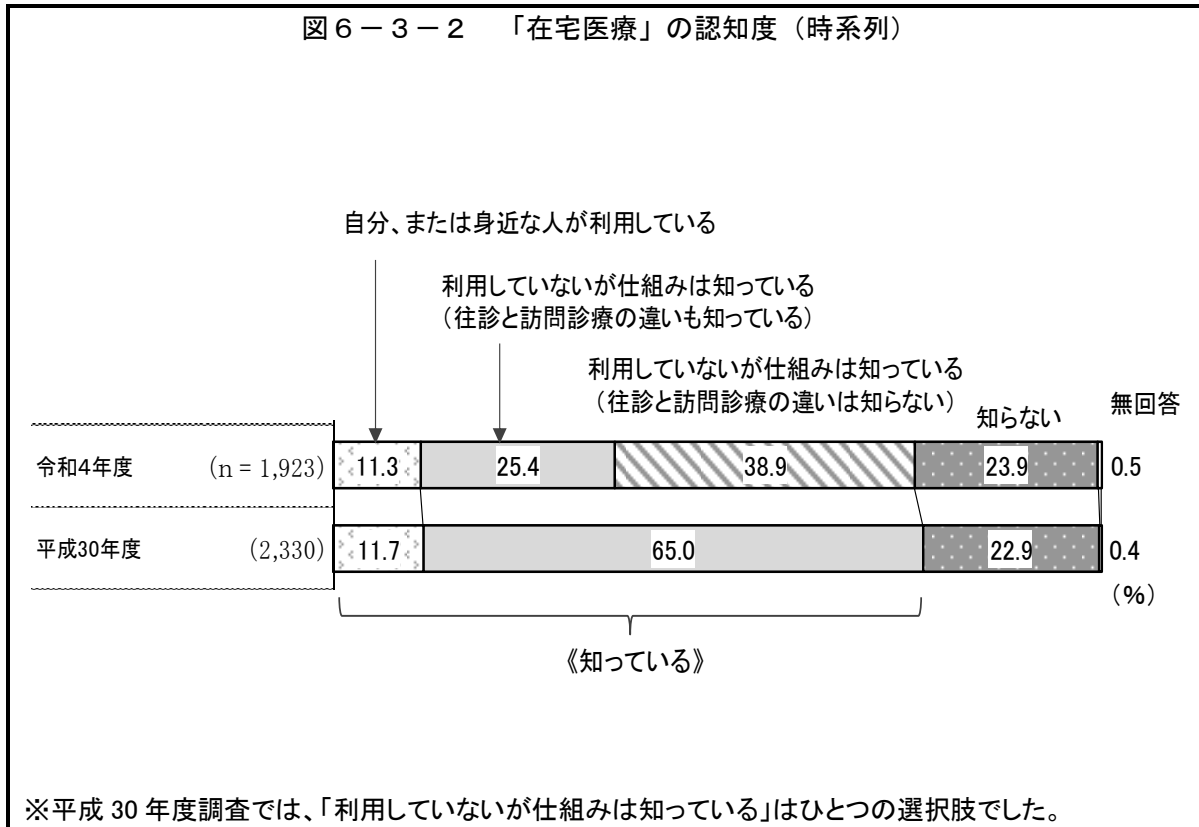
ライフステージ別にみると、《住み続けたい》は高齢期 I が8割半ば、高齢期 II が8割を超えて、そのうち、「そう思う」は高齢期 I が6割、高齢期 II が5割を超えている。《住み続けたいと思わない》は家族形成期が2割を超えている（図6-2-4）

(3) 「在宅医療」の認知度

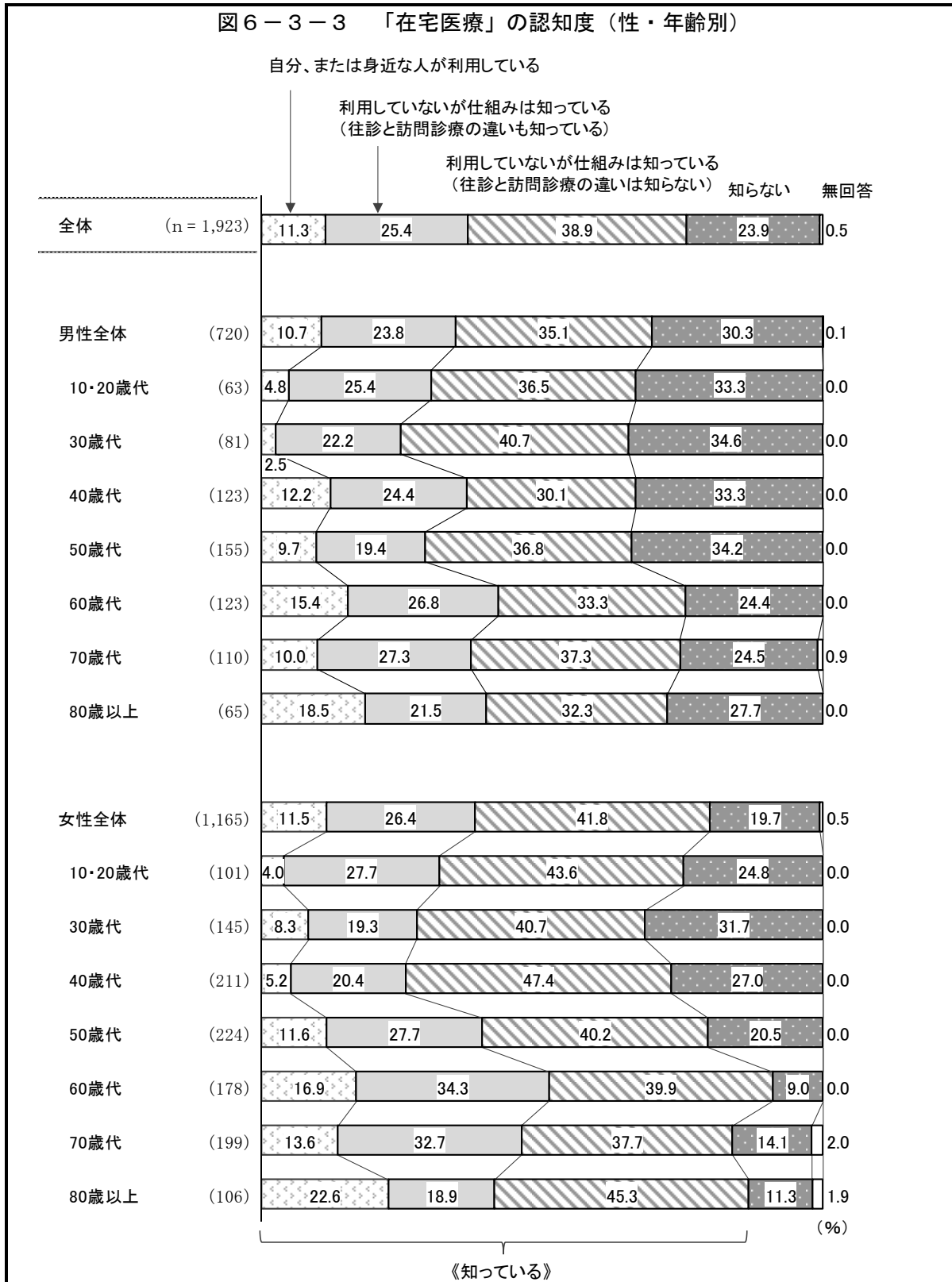
- ◎ 《知っている》が7割半ば、「自分、または身近な人が利用している」は1割を超える



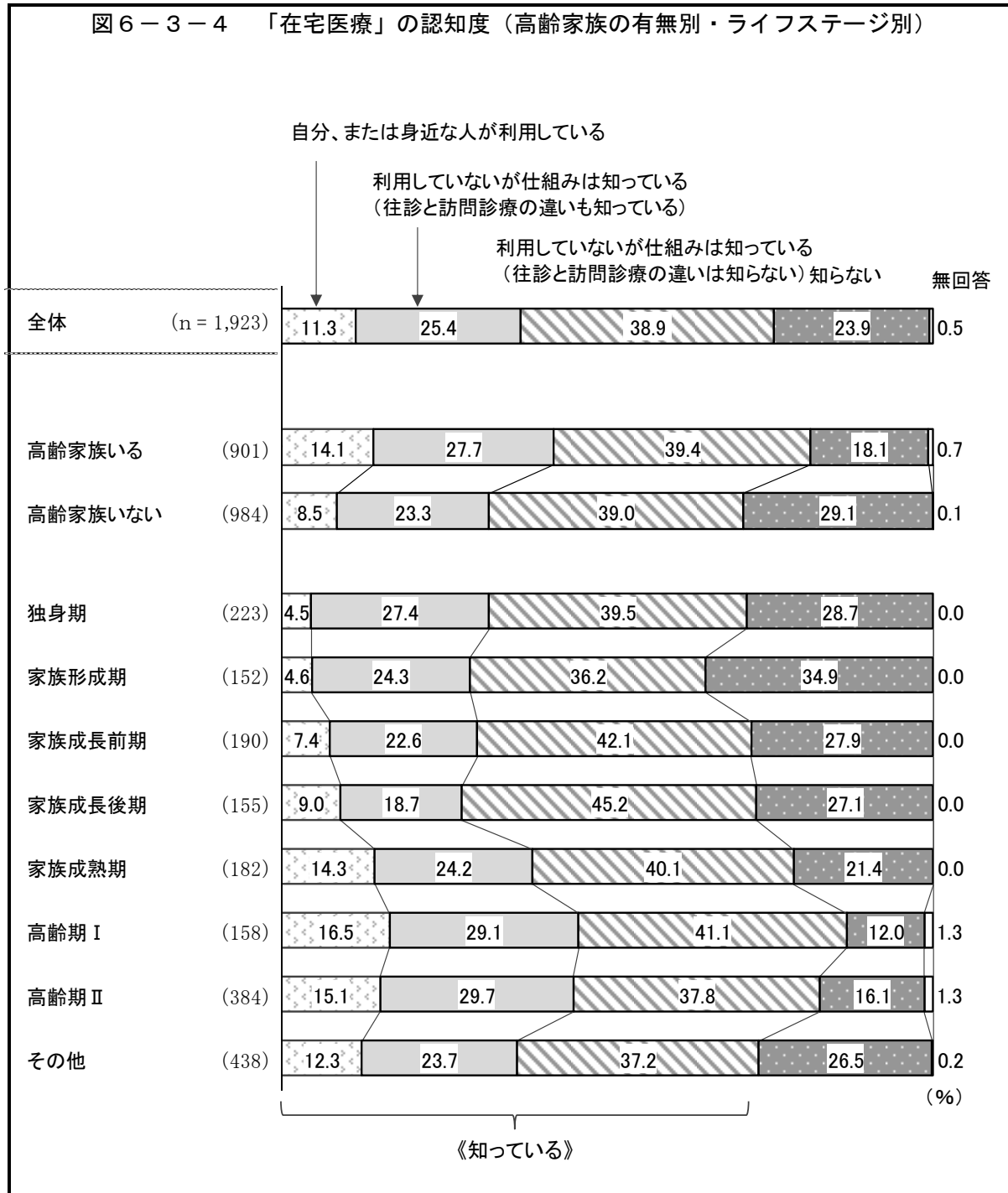
「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている (往診と訪問診療の違いは知らない) 」(38.9%) が4割近く、「利用していないが仕組みは知っている (往診と訪問診療の違いも知っている) 」(25.4%)、「自分、または身近な人が利用している」(11.3%) と合わせた《知っている》 (75.6%) が7割半ばとなっている。(図6-3-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（76.7%）から令和 4 年度（75.6%）で大きな違いはみられない。（図 6-3-2）



性・年齢別にみると、《知っている》はいずれの年代も男性より女性の方が高く、特に女性の60歳代で9割を超えている。（図6-3-3）

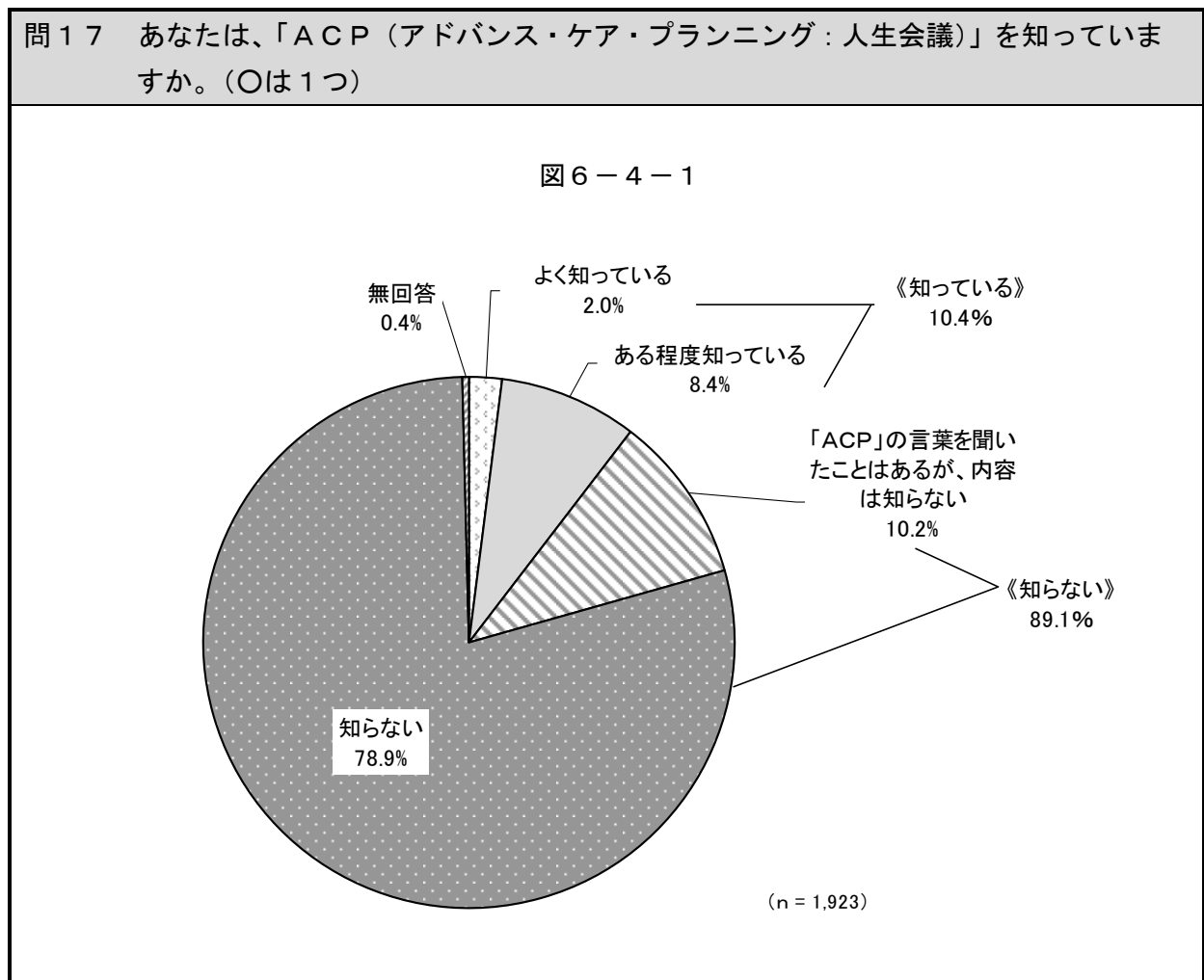


高齢家族の有無別にみると、「自分、または身近な人が利用している」の割合は高齢家族がいる世帯で1割半ばで、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

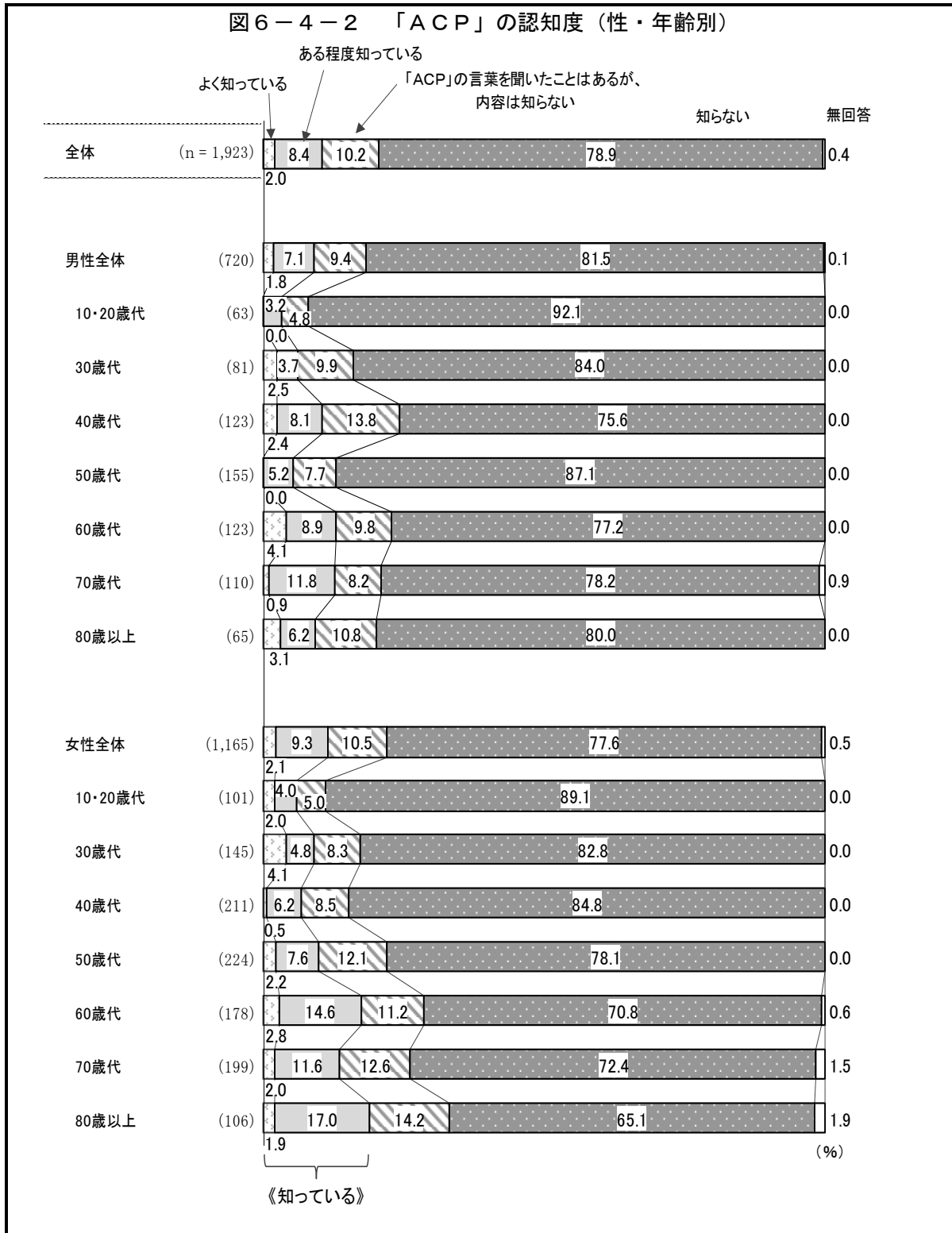
ライフステージ別にみると、「自分、または身近な人が利用している」と「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」を合わせた割合は、高齢期 I と高齢期 II で4割半ばと、他の層よりも高くなっている。（図6-3-4）

(4) 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

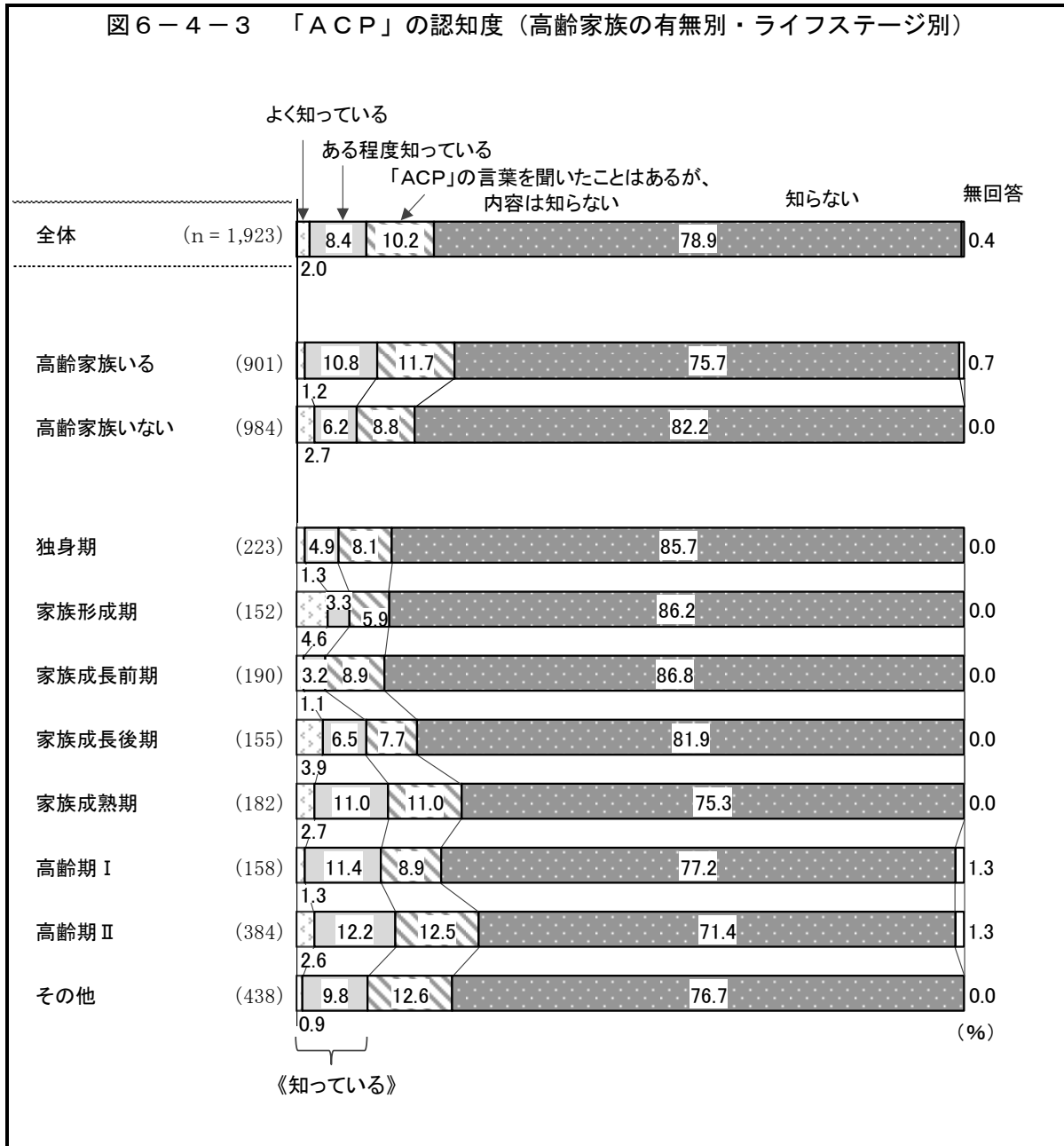
◎「知らない」が8割近く、《知っている》は1割



「ACP」の認知度を聞いたところ、「知らない」(78.9%)が8割近くと最も高く、「「ACP」の言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」(10.2%)を合わせた《知らない》(89.1%)はほぼ9割、「ある程度知っている」(8.4%)と「よく知っている」(2.0%)を合わせた《知っている》(10.4%)は1割となっている。(図6-4-1)



性・年齢別にみると、「知らない」は男性10・20歳代で9割を超え、女性10・20歳代でほぼ9割と高くなっている。一方「ある程度知っている」、「よく知っている」を合わせた《知っている》が、女性の80歳以上で2割近くとなっている。（図6-4-2）

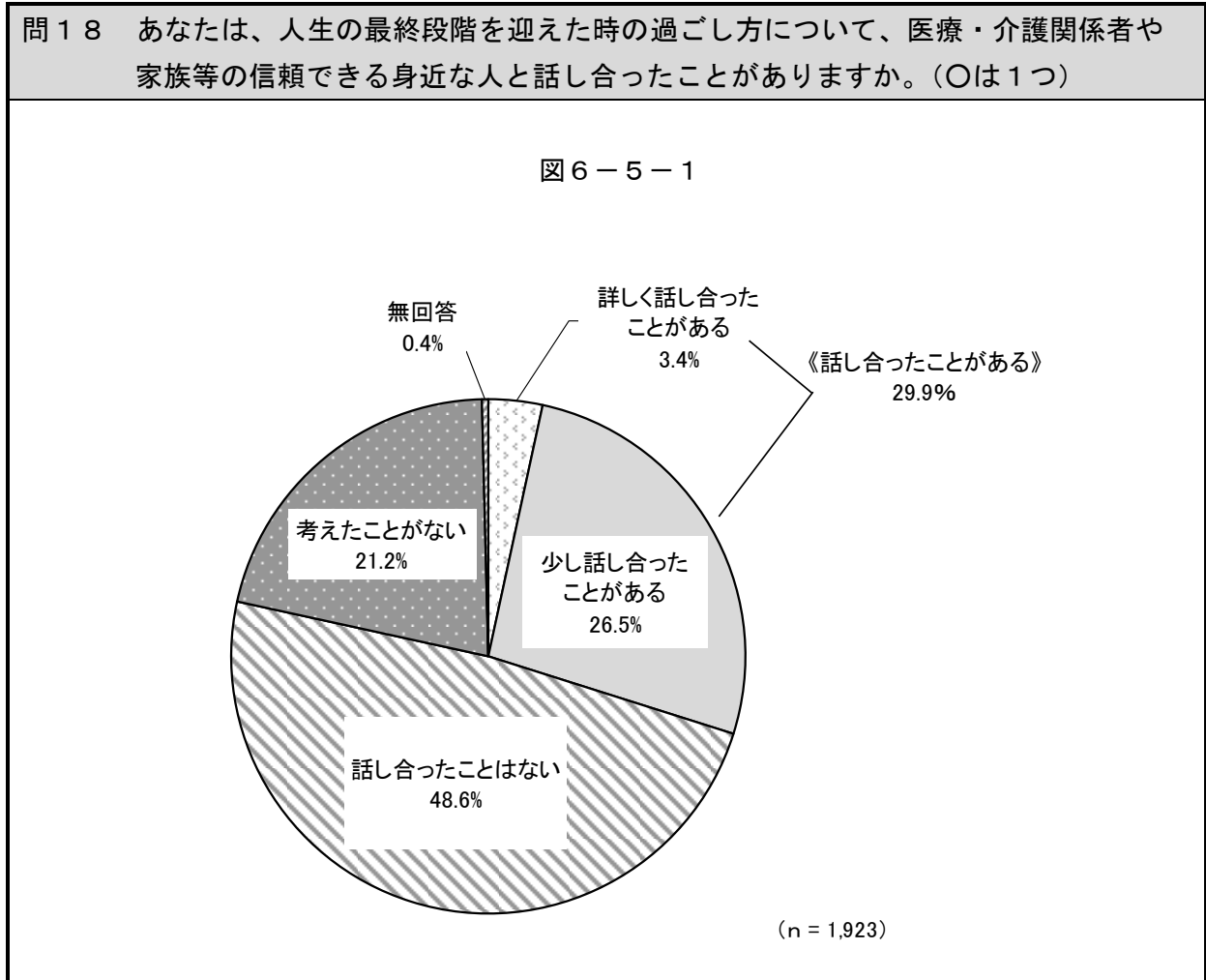


高齢家族の有無別にみると、《知っている》の割合は高齢家族がいる世帯で1割を超え、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

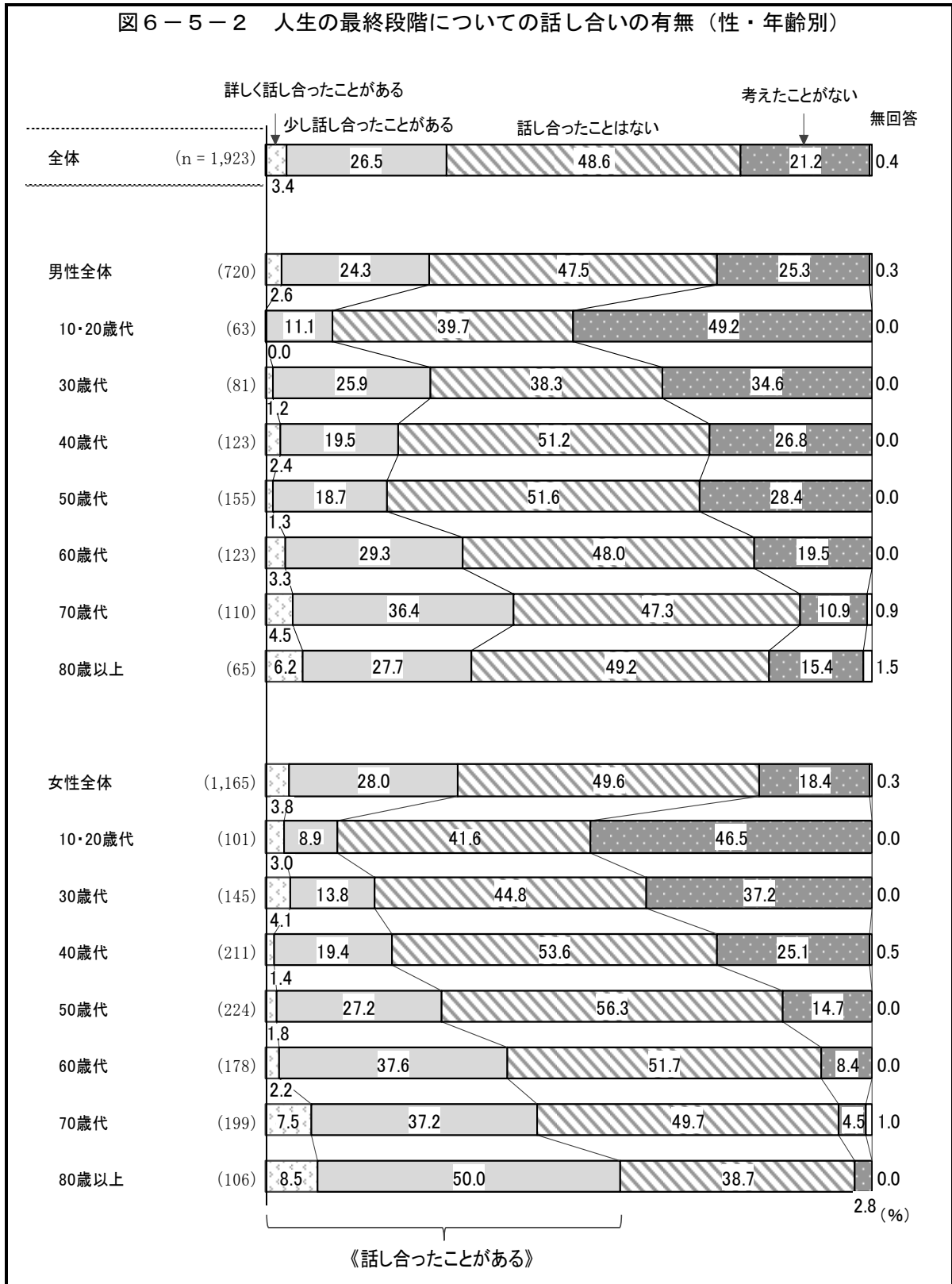
ライフステージ別にみると、「知らない」の割合は独身期、家族形成期、家族成長前期で8割半ばとなっている。（図6-4-3）

(5) 人生の最終段階に関する話し合いについて

◎ 「話し合ったことはない」が5割近く、《話し合ったことがある》は3割



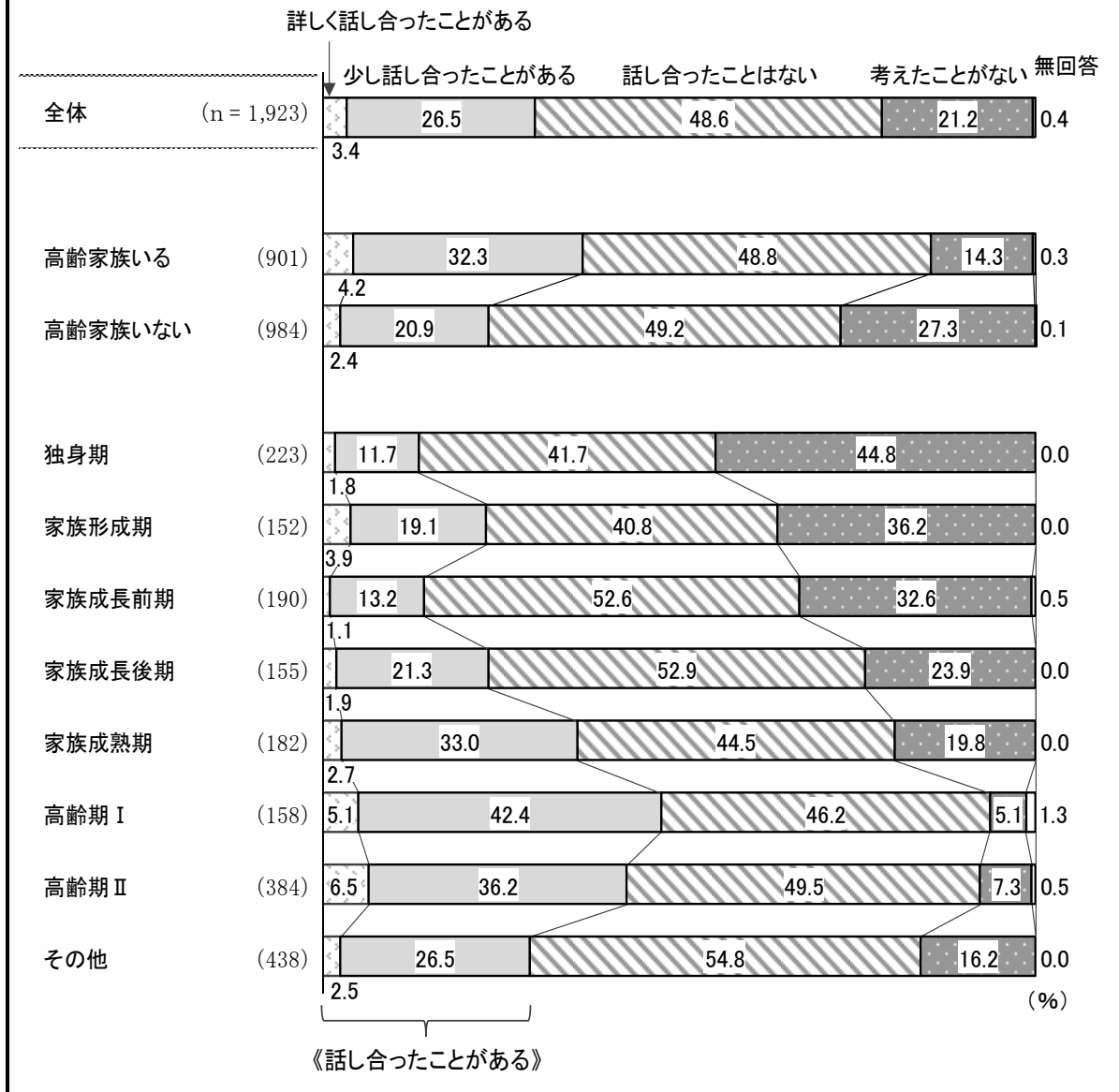
人生の最終段階についての話し合いの有無を聞いたところ、「話し合ったことはない」(48.6%)が5割近くと最も高く、「詳しく話し合ったことがある」(3.4%)と「少し話し合ったことがある」(26.5%)を合わせた《話し合ったことがある》(29.9%)は3割、「考えたことがない」(21.2%)は2割を超えている。(図6-5-1)



性・年齢別にみると、「詳しく話し合ったことがある」と「少し話し合ったことがある」を合わせた《話し合ったことがある》の割合は、女性の80歳以上で6割近くと高くなっている。

(図 6-5-2)

図6-5-3 人生の最終段階についての話し合いの有無
(高齢家族の有無別・ライフステージ別)



高齢家族の有無別にみると、「詳しく話し合ったことがある」と「少し話し合ったことがある」を合わせた《話し合ったことがある》の割合は高齢家族がいる世帯で4割近くで、高齢家族がない世帯より高くなっている。

ライフステージ別にみると、「考えたことがない」の割合は独身期で4割半ばとなっている。

(図6-5-3)

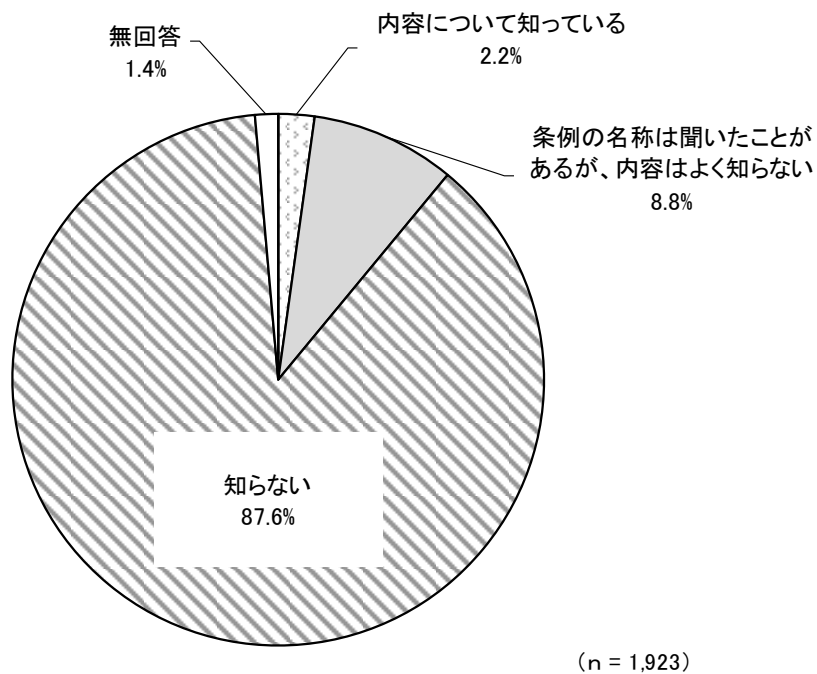
7. 認知症

(1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度

◎ 「知らない」方は9割近く

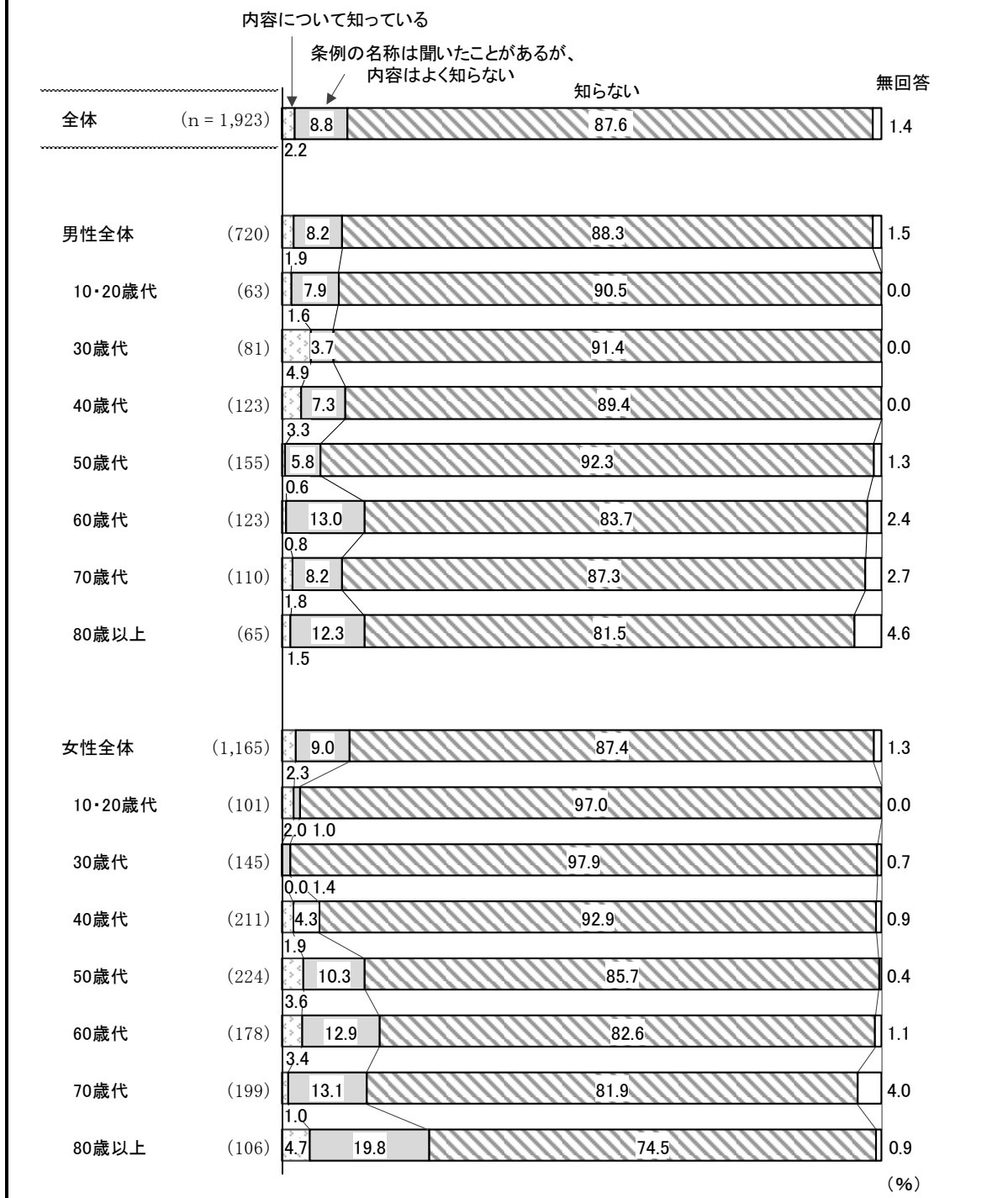
問19 区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、世田谷を目指して、令和2年10月に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を施行しました。あなたは、この条例を知っていますか。(〇は1つ)

図7-1-1

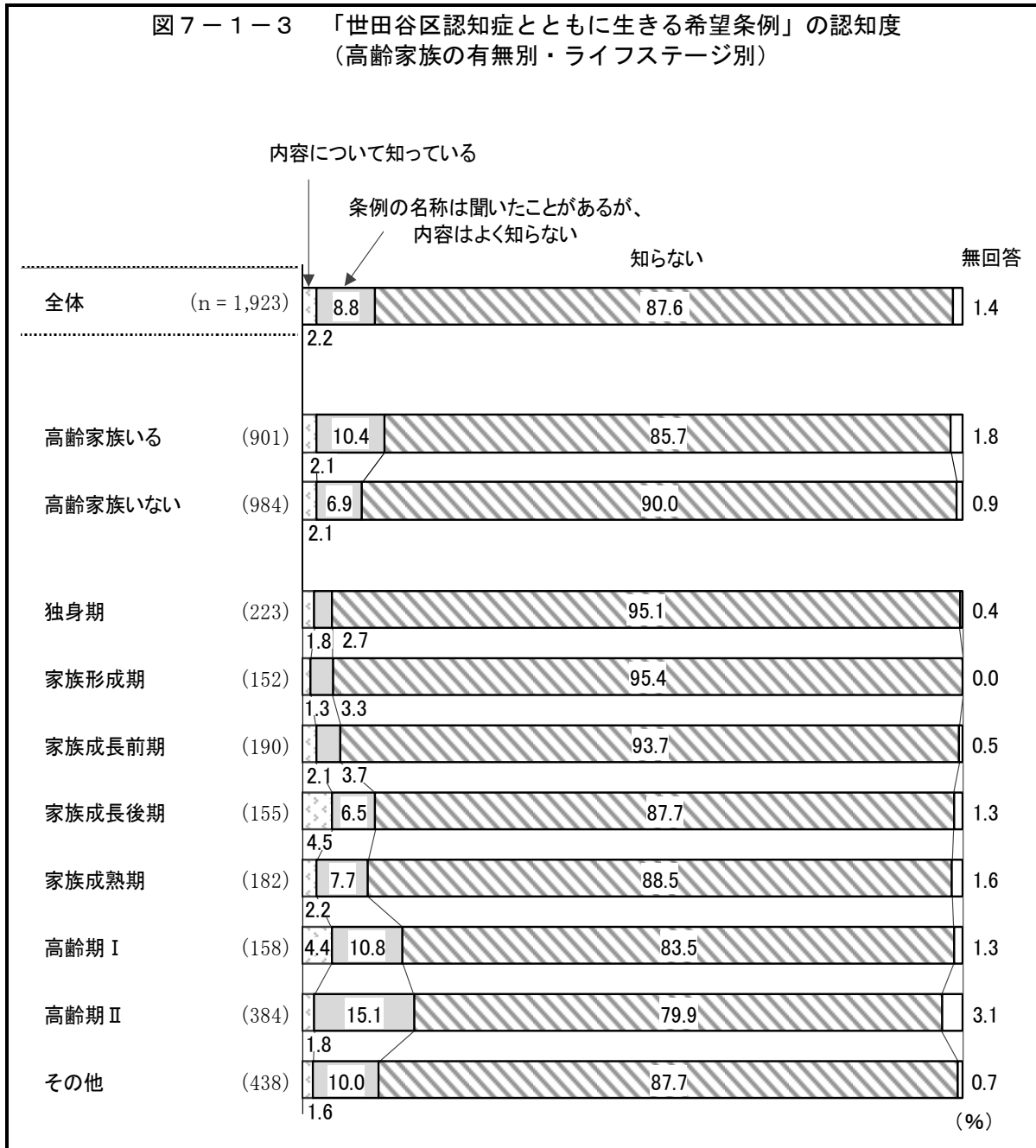


「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度を聞いたところ、「知らない」(87.6%)が9割近くと最も高く、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」(8.8%)、「内容について知っている」(2.2%)と続いている。(図7-1-1)

図 7-1-2 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」は、女性の80歳以上で2割となっている。（図7-1-2）

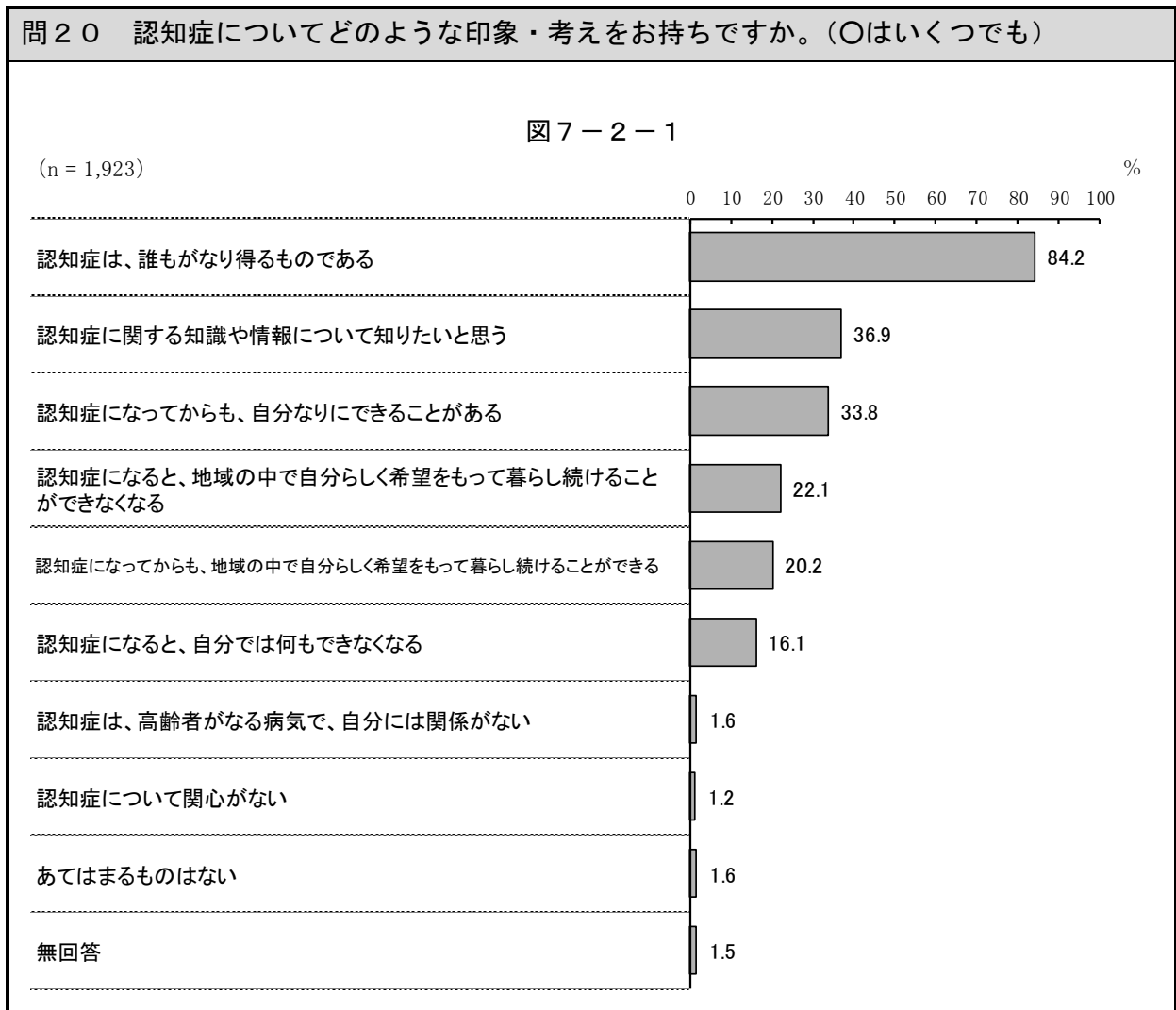


高齢家族の有無別にみると、大きな違いはみられない。

ライフステージ別にみると、「内容について知っている」、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」を合わせた《知っている》は高齢期Ⅱで2割近くと、やや高くなっている。(図7-1-3)

(2) 認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなり得るものである」と考えている方が8割半ば



認知症についてどのような印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなり得るものである」(84.2%)が8割半ばと最も高く、「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」(36.9%)、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」(33.8%)、「認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができなくなる」(22.1%)、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」(20.2%)と続いている。(図7-2-1)

表7-2-1 認知症についての印象（性・年齢別）

		(%)										
区分	n	認知症は、誰もがなり得るものである	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができなくなる	認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	認知症になると、自分では何もできなくなる	認知症は、高齢者になる病気で、自分には関係がない	認知症について関心がない	あてはまるものはない	無回答	
全体	1,923	84.2	36.9	33.8	22.1	20.2	16.1	1.6	1.2	1.6	1.5	
性・年齢別	男性全体	720	83.8	34.0	28.8	20.8	17.5	18.8	1.7	1.3	2.1	1.5
	10・20 歳代	63	73.0	33.3	22.2	12.7	12.7	20.6	4.8	3.2	6.3	-
	30 歳代	81	86.4	33.3	24.7	23.5	8.6	28.4	6.2	1.2	-	-
	40 歳代	123	89.4	34.1	25.2	11.4	13.0	11.4	2.4	0.8	2.4	-
	50 歳代	155	85.8	37.4	21.9	23.9	13.5	21.9	-	0.6	0.6	1.3
	60 歳代	123	90.2	30.1	33.3	24.4	24.4	13.8	-	0.8	1.6	2.4
	70 歳代	110	77.3	30.0	39.1	25.5	23.6	22.7	0.9	-	2.7	2.7
	80 歳以上	65	73.8	41.5	36.9	21.5	27.7	13.8	-	4.6	3.1	4.6
	女性全体	1165	85.1	38.3	37.2	22.8	22.1	14.0	1.5	1.2	1.2	1.4
	10・20 歳代	101	80.2	42.6	18.8	23.8	12.9	16.8	7.9	3.0	5.0	-
	30 歳代	145	90.3	33.1	24.8	31.7	6.2	24.1	5.5	0.7	-	0.7
	40 歳代	211	85.3	37.0	24.2	23.7	12.8	17.5	0.5	1.4	-	0.5
	50 歳代	224	89.3	41.5	38.4	18.8	23.7	12.5	-	0.9	2.2	0.9
	60 歳代	178	88.8	33.1	49.4	20.8	29.2	9.6	-	0.6	0.6	1.1
70 歳代	199	79.9	40.7	47.2	23.6	33.2	10.6	-	1.0	1.5	4.0	
80 歳以上	106	76.4	41.5	54.7	18.9	34.9	7.5	-	1.9	-	1.9	

性・年齢別にみると、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は、女性の80歳以上で5割半ばとなっている。（表7-2-1）

表 7-2-2 認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフステージ別）（%）

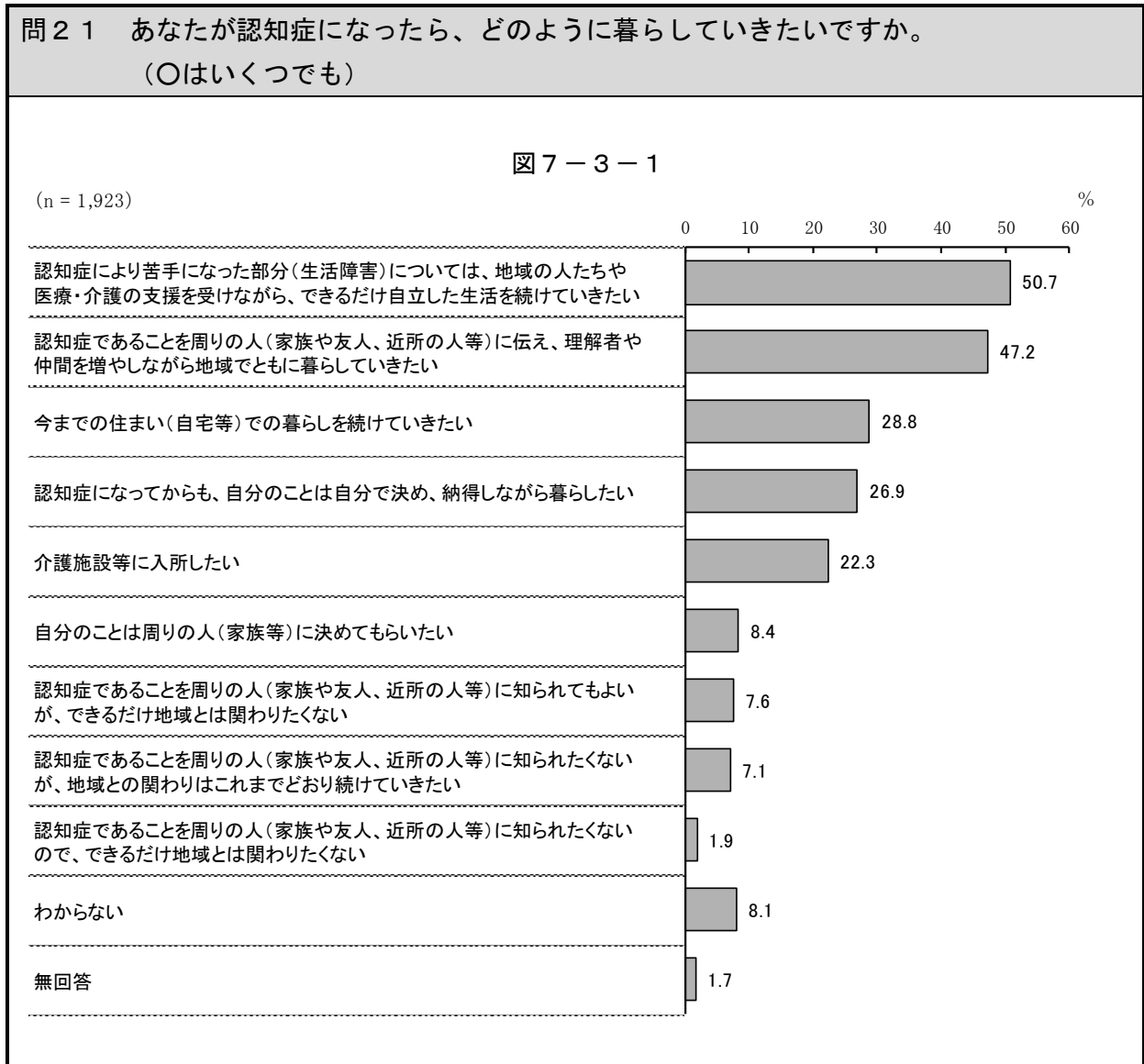
区分	n	認知症は、誰もがなり得るものである	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	認知症になってからも、自分なりにできることがある	暮らし続けることができなくなる	認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らすことができる	認知症になると、自分では何もできなくなる	認知症は、高齢者がなる病気で、自分には関係がない	認知症について関心がない	あてはまるものはない	無回答	
全 体	1,923	84.2	36.9	33.8	22.1	20.2	16.1	1.6	1.2	1.6	1.5	
高齢家族の有無	いる	901	84.2	36.8	41.5	21.9	26.0	13.5	0.3	1.2	1.9	
	いない	984	85.2	36.6	27.0	21.8	15.2	17.7	2.6	1.2	0.9	
ライフステージ別	独身期	223	81.6	38.1	22.9	22.9	12.1	21.5	6.7	2.2	4.0	0.4
	家族形成期	152	84.9	31.6	24.3	23.7	9.9	22.4	5.3	1.3	1.3	-
	家族成長前期	190	89.5	36.8	22.1	21.1	7.9	15.8	2.1	1.6	0.5	0.5
	家族成長後期	155	87.1	41.3	34.2	18.1	19.4	13.5	-	-	0.6	1.3
	家族成熟期	182	89.0	37.4	33.5	26.4	20.9	15.9	-	1.6	1.1	1.6
	高齢期Ⅰ	158	84.8	32.3	48.7	19.6	33.5	10.8	0.6	1.9	0.6	1.3
	高齢期Ⅱ	384	79.4	39.6	42.2	24.2	29.4	13.3	-	1.0	1.3	3.1
	その他	438	85.4	36.3	34.9	20.5	20.3	16.4	0.2	0.7	1.6	0.9

高齢家族の有無別にみると、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は、高齢家族がいる方が4割を超えている。

ライフステージ別にみると、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は、高齢期Ⅰが5割近くとなっている。（表7-2-2）

(3) 認知症になった場合の暮らし方

◎「認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい」と考えている方がほぼ5割



認知症になった場合の暮らし方を聞いたところ、「認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい」（50.7%）がほぼ5割と最も高く、「認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に伝え、理解者や仲間を増やしながらか地域とともに暮らしていきたい」（47.2%）、「今までの住まい（自宅等）での暮らしを続けていきたい」（28.8%）と続いている。

(図 7 - 3 - 1)

表7-3-1 認知症になった場合の暮らし方（性・年齢別）

（%）

区分	n	認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に伝え、理解者や仲間を増やしながら地域とともに暮らしていきたい	今までの住まい（自宅等）での暮らしを続けていきたい	認知症になってからも、自分のことは自分で決め、納得しながら暮らしたい	介護施設等に入所したい	自分のことは周りの人（家族等）に決めてもらいたい	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に知られてもよいが、できるだけ地域とは関わりたくない	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に知られたくないが、地域との関わりはこれまでどおり続けていきたい	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に知られたくないので、できるだけ地域とは関わりたくない	わからない	無回答	
		50.7	47.2	28.8	26.9	22.3	8.4	7.6	7.1	1.9	8.1	1.7	
全体	1,923	50.7	47.2	28.8	26.9	22.3	8.4	7.6	7.1	1.9	8.1	1.7	
性・年齢別	男性全体	720	44.4	50.0	27.4	21.4	19.2	8.8	7.9	6.5	2.1	9.0	1.7
	10・20 歳代	63	27.0	50.8	12.7	15.9	14.3	12.7	12.7	3.2	-	11.1	-
	30 歳代	81	25.9	40.7	16.0	12.3	29.6	16.0	11.1	4.9	2.5	12.3	-
	40 歳代	123	38.2	48.0	18.7	21.1	12.2	6.5	5.7	4.1	1.6	13.0	-
	50 歳代	155	44.5	51.6	22.6	22.6	16.1	7.1	9.7	6.5	1.3	9.7	1.3
	60 歳代	123	49.6	56.9	32.5	21.1	22.0	5.7	4.9	4.1	2.4	6.5	3.3
	70 歳代	110	57.3	48.2	38.2	20.0	21.8	8.2	6.4	11.8	3.6	7.3	2.7
	80 歳以上	65	64.6	50.8	55.4	38.5	21.5	10.8	7.7	12.3	3.1	1.5	4.6
	女性全体	1165	54.8	45.5	29.8	30.1	24.4	8.1	7.3	7.6	1.5	7.5	1.5
	10・20 歳代	101	38.6	45.5	17.8	24.8	20.8	13.9	8.9	5.9	3.0	11.9	-
	30 歳代	145	51.0	44.8	19.3	27.6	28.3	8.3	10.3	2.8	1.4	9.0	0.7
	40 歳代	211	46.0	44.5	17.1	24.2	27.0	5.7	6.2	5.7	1.9	8.5	0.5
	50 歳代	224	54.0	42.4	24.1	25.0	25.0	5.8	5.8	8.0	1.3	10.3	1.3
	60 歳代	178	61.2	46.6	30.9	27.0	27.5	9.6	4.5	7.3	0.6	5.1	1.1
70 歳代	199	65.8	49.7	49.2	40.7	20.6	8.0	8.5	8.5	1.0	4.5	4.5	
80 歳以上	106	62.3	44.3	53.8	47.2	17.9	9.4	9.4	17.0	2.8	2.8	0.9	

性・年齢別にみると、「認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい」は、男性の80歳以上、女性の70歳代で6割半ばとなっている。（表7-3-1）

表 7-3-2 認知症になった場合の暮らし方（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

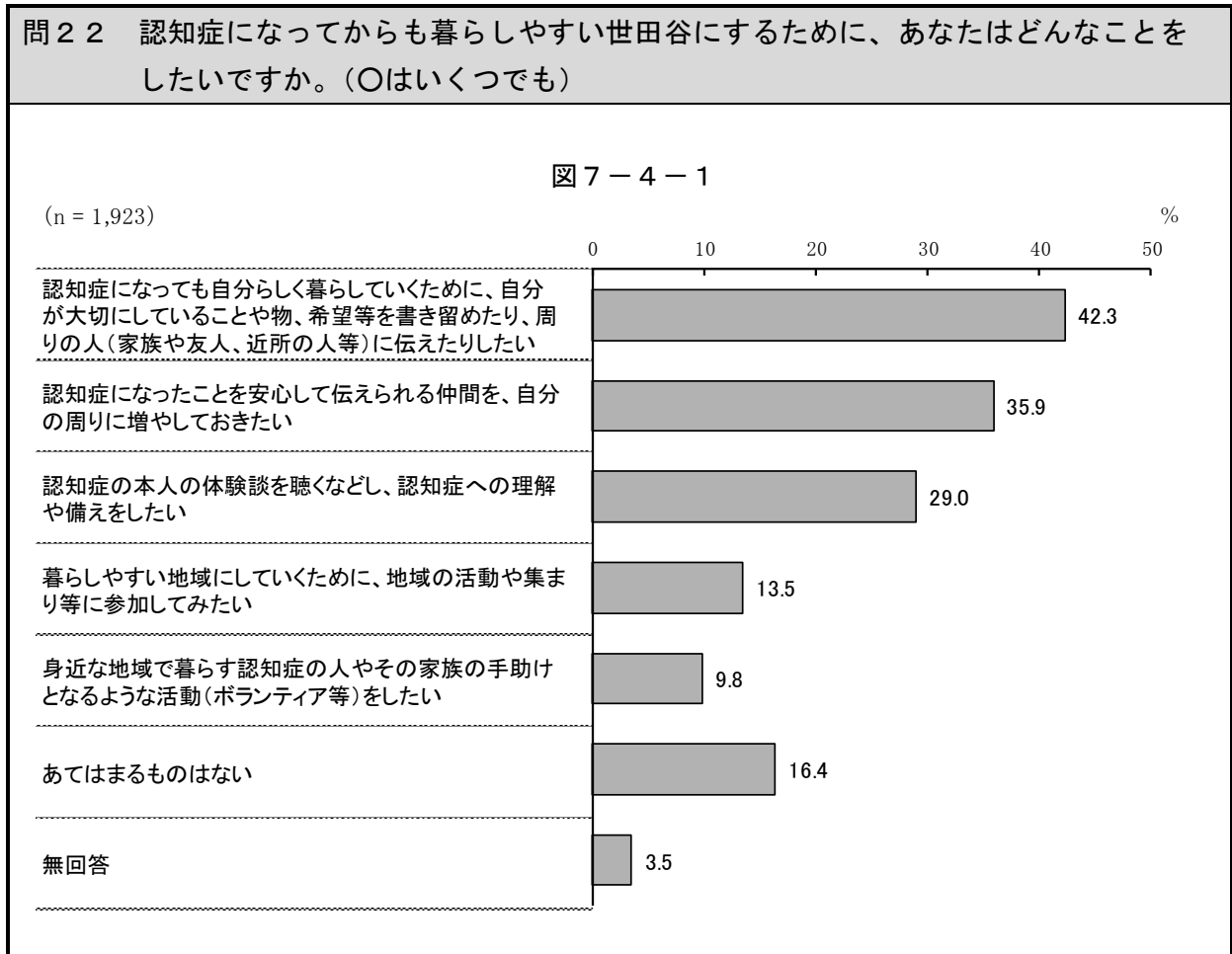
区分		n	認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい	認知症であることを周知しながら地域とともに暮らしていきたい	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に伝え、理解者や仲間を増やしながらか地域とともに暮らしていきたい	今までの住まい（自宅等）での暮らしを続けていきたい	認知症になってからも、自分のことは自分で決め、納得しながら暮らしたい	介護施設等に入所したい	自分のことは周りの人（家族等）に決めてもらいたい	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に知られてもよいが、できるだけ地域とは関わりたくない	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に知られたくないが、地域との関わりはこれまでどおり続けていきたい	認知症であることを周りの人（家族や友人、近所の人等）に知られたくないが、できるだけ地域とは関わりたくない	わからない	無回答
全	体	1,923	50.7	47.2	28.8	26.9	22.3	8.4	7.6	7.1	1.9	8.1	1.7	
高齢家族の有無	いる	901	57.4	48.1	37.7	30.0	23.9	7.2	6.8	8.7	2.0	7.0	2.1	
	いない	984	44.7	46.4	20.7	23.9	20.8	9.1	8.1	5.7	1.6	9.1	1.0	
ライフステージ別	独身期	223	36.3	42.2	13.5	22.4	22.0	11.7	9.4	4.9	2.7	13.5	0.4	
	家族形成期	152	41.4	52.6	18.4	19.7	26.3	11.8	11.8	3.9	2.0	6.6	-	
	家族成長前期	190	46.3	46.8	20.0	18.9	19.5	6.8	5.8	3.2	1.6	9.5	0.5	
	家族成長後期	155	49.7	44.5	21.3	27.1	19.4	6.5	9.0	7.1	1.3	9.0	1.3	
	家族成熟期	182	51.6	50.5	23.1	21.4	21.4	7.7	7.1	7.7	0.5	7.1	1.6	
	高齢期Ⅰ	158	61.4	48.7	46.8	32.9	21.5	8.9	7.0	8.9	1.3	4.4	1.9	
	高齢期Ⅱ	384	62.0	49.0	45.8	36.5	22.4	7.3	7.0	10.9	2.9	3.9	3.6	
	その他	438	49.8	45.9	26.7	27.4	23.7	6.6	6.6	6.2	1.6	10.0	0.9	

高齢家族の有無別にみると、「認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい」は、高齢家族がいる方で6割近くとなっている。

ライフステージ別にみると、「認知症により苦手になった部分（生活障害）については、地域の人たちや医療・介護の支援を受けながら、できるだけ自立した生活を続けていきたい」は、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで6割を超えている。（表7-3-2）

(4) 認知症になっても暮らしやすくするための活動

◎「認知症になっても自分らしく暮らしていくために、自分が大切にしていることや物、希望等を書き留めたり、周りの人（家族や友人、近所の人等）に伝えたりしたい」方は4割を超える



認知症になっても暮らしやすくするためにしたいことを聞いたところ、「認知症になっても自分らしく暮らしていくために、自分が大切にしていることや物、希望等を書き留めたり、周りの人(家族や友人、近所の人等)に伝えたりしたい」(42.3%)が4割を超えて最も高く、「認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい」(35.9%)、「認知症の本人の体験談を聴くなどし、認知症への理解や備えをしたい」(29.0%)、「暮らしやすい地域にしていくために、地域の活動や集まり等に参加してみたい」(13.5%)、「身近な地域で暮らす認知症の人やその家族の手助けとなるような活動(ボランティア等)をしたい」(9.8%)と続いている。(図7-4-1)

表 7-4-1 認知症になっても暮らしやすくするための活動（性・年齢別）（％）

区分	n	認知症になっても自分らしく暮らしていくために、自分が大切に行っていることや物、希望等を書き留めたり、周りの人（家族や友人、近所の人等）に伝えたりしたい	認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい	認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい	備えをしたい	認知症の本人の体験談を聴くなどし、認知症への理解や備えをしたい	暮らしやすい地域にしていきたいために、地域の活動や集まり等に参加してみたい	暮らしやすい地域で暮らす認知症の人やその家族の手助けとなるような活動（ボランティア等）をしたい	身近な地域で暮らす認知症の人やその家族の手助けとなるような活動（ボランティア等）をしたい	あてはまるものはない	無回答
全 体	1,923	42.3	35.9	29.0	13.5	9.8	16.4	3.5			
性・年齢別	男性全体	720	37.2	34.2	29.0	12.9	7.9	18.3	3.2		
	10・20 歳代	63	36.5	36.5	23.8	12.7	1.6	19.0	-		
	30 歳代	81	35.8	39.5	25.9	12.3	6.2	23.5	-		
	40 歳代	123	36.6	39.8	36.6	7.3	10.6	11.4	3.3		
	50 歳代	155	39.4	39.4	29.0	13.5	13.5	16.1	2.6		
	60 歳代	123	35.0	27.6	20.3	11.4	6.5	22.8	4.1		
	70 歳代	110	38.2	29.1	31.8	15.5	5.5	22.7	5.5		
	80 歳以上	65	38.5	23.1	35.4	21.5	4.6	13.8	6.2		
	女性全体	1,165	45.8	36.7	29.0	13.8	11.3	15.0	3.5		
	10・20 歳代	101	43.6	43.6	23.8	11.9	14.9	19.8	-		
	30 歳代	145	38.6	38.6	24.1	9.0	9.7	17.9	1.4		
	40 歳代	211	48.8	37.4	32.2	11.8	12.8	14.7	2.4		
	50 歳代	224	41.5	37.5	29.5	17.9	12.5	17.0	1.8		
	60 歳代	178	48.9	29.2	28.7	11.8	10.1	11.8	3.9		
	70 歳代	199	51.3	38.2	29.6	16.6	10.6	11.1	7.5		
	80 歳以上	106	44.3	34.9	33.0	16.0	7.5	16.0	7.5		

性・年齢別にみると、「認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい」は、女性の10・20歳代で4割を超えている。（表7-4-1）

表7-4-2 認知症になっても暮らしやすくするための活動 (高齢家族の有無別・ライフステージ別) (%)

区分	n	認知症になっても自分らしく暮らしていくために、自分が大切に行っていることや物、希望等を書き留めたり、周りの人(家族や友人、近所の人等)に伝えたりしたい	自分の周りに増やしておきたい	認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、備えをしたい	認知症の本人の体験談を聴くなどし、認知症への理解や集まり等に参加してみたい	暮らしやすい地域にいくために、地域の活動や	身近な地域で暮らす認知症の人やその家族の手助けとなるような活動(ボランティア等)をしたい	あてはまるものはない	無回答
全体	1,923	42.3	35.9	29.0	13.5	9.8	16.4	3.5	
高齢家族別	いる	901	44.0	33.3	28.6	13.7	9.3	16.2	4.9
	いない	984	40.9	38.0	29.2	13.2	10.6	16.7	2.0
ライフステージ別	独身期	223	39.0	41.7	23.8	11.2	9.0	19.7	0.9
	家族形成期	152	42.8	34.2	27.0	13.8	9.9	18.4	-
	家族成長前期	190	41.6	41.6	30.5	10.0	10.0	15.8	2.6
	家族成長後期	155	45.8	40.0	30.3	14.8	15.5	10.3	1.3
	家族成熟期	182	44.5	33.5	28.6	14.3	12.1	15.4	2.7
	高齢期Ⅰ	158	48.7	28.5	27.2	17.1	9.5	20.3	3.8
	高齢期Ⅱ	384	46.1	33.9	30.2	15.1	7.8	13.3	7.6
	その他	438	37.0	36.5	31.3	11.6	9.8	17.4	3.2

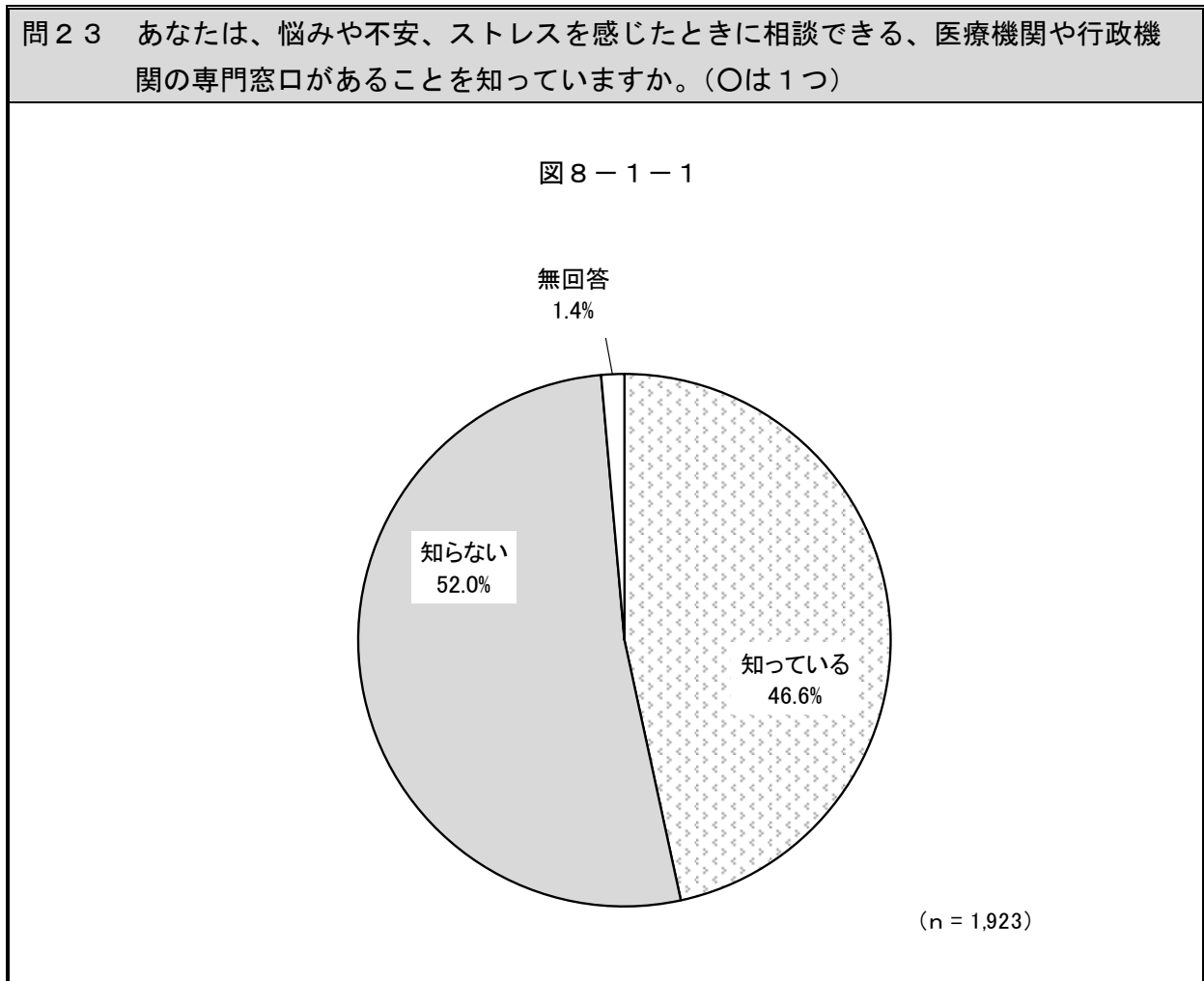
高齢家族の有無別にみると、大きな違いはみられない。

ライフステージ別にみると、「認知症になったことを安心して伝えられる仲間を、自分の周りに増やしておきたい」は独身期と家族成長前期で4割を超えている。(表7-4-2)

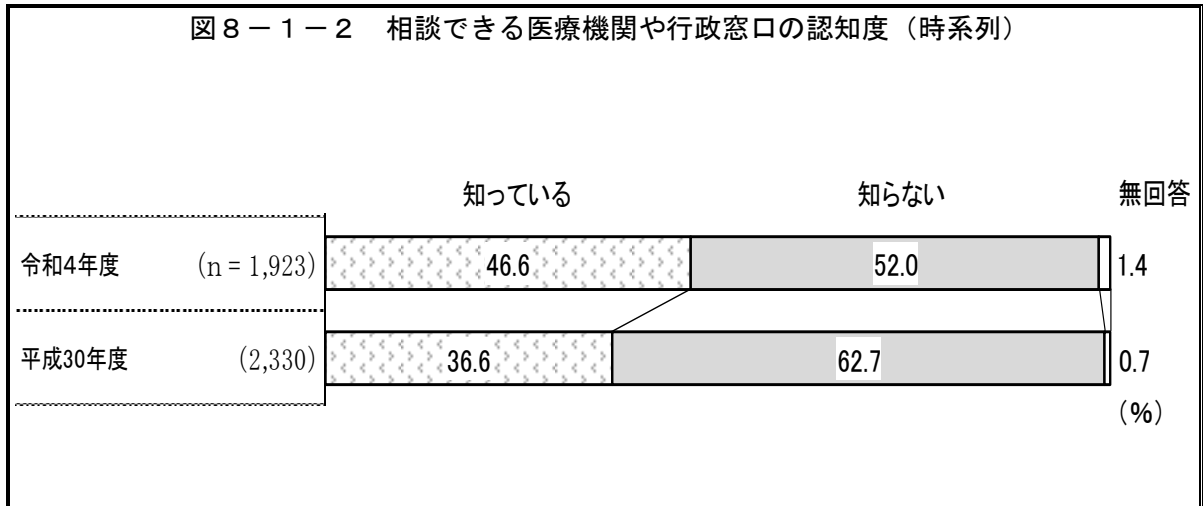
8. 悩みや不安の相談先

(1) 相談できる医療機関や行政窓口の認知度

◎「知っている」が5割近く、「知らない」が5割を超え

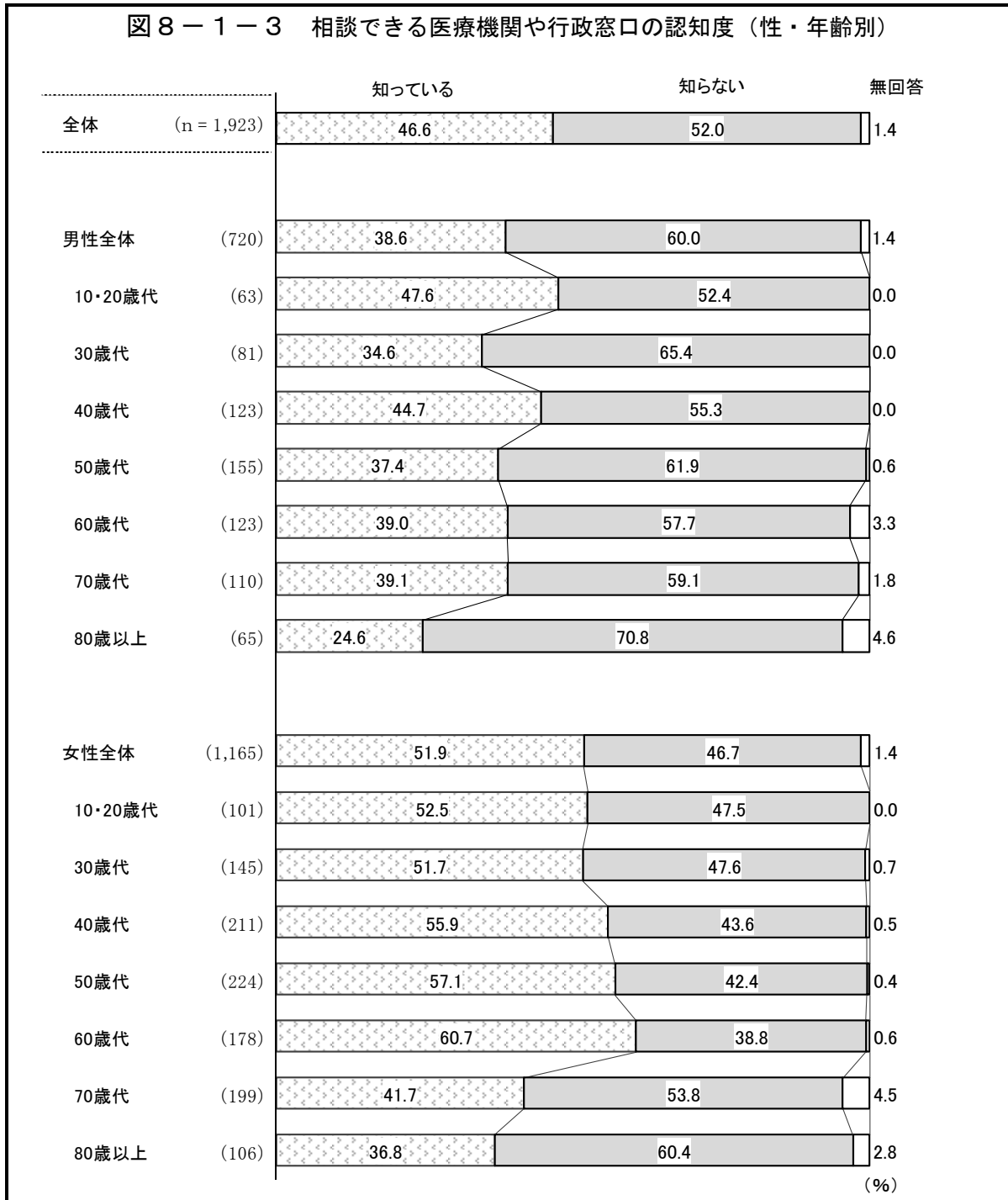


相談できる医療機関や行政窓口の認知度を聞いたところ、「知っている」(46.6%)が5割近く、「知らない」(52.0%)が5割を超えている。(図8-1-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成 30 年度（36.6%）から令和 4 年度（46.6%）で増加している。（図 8-1-2）

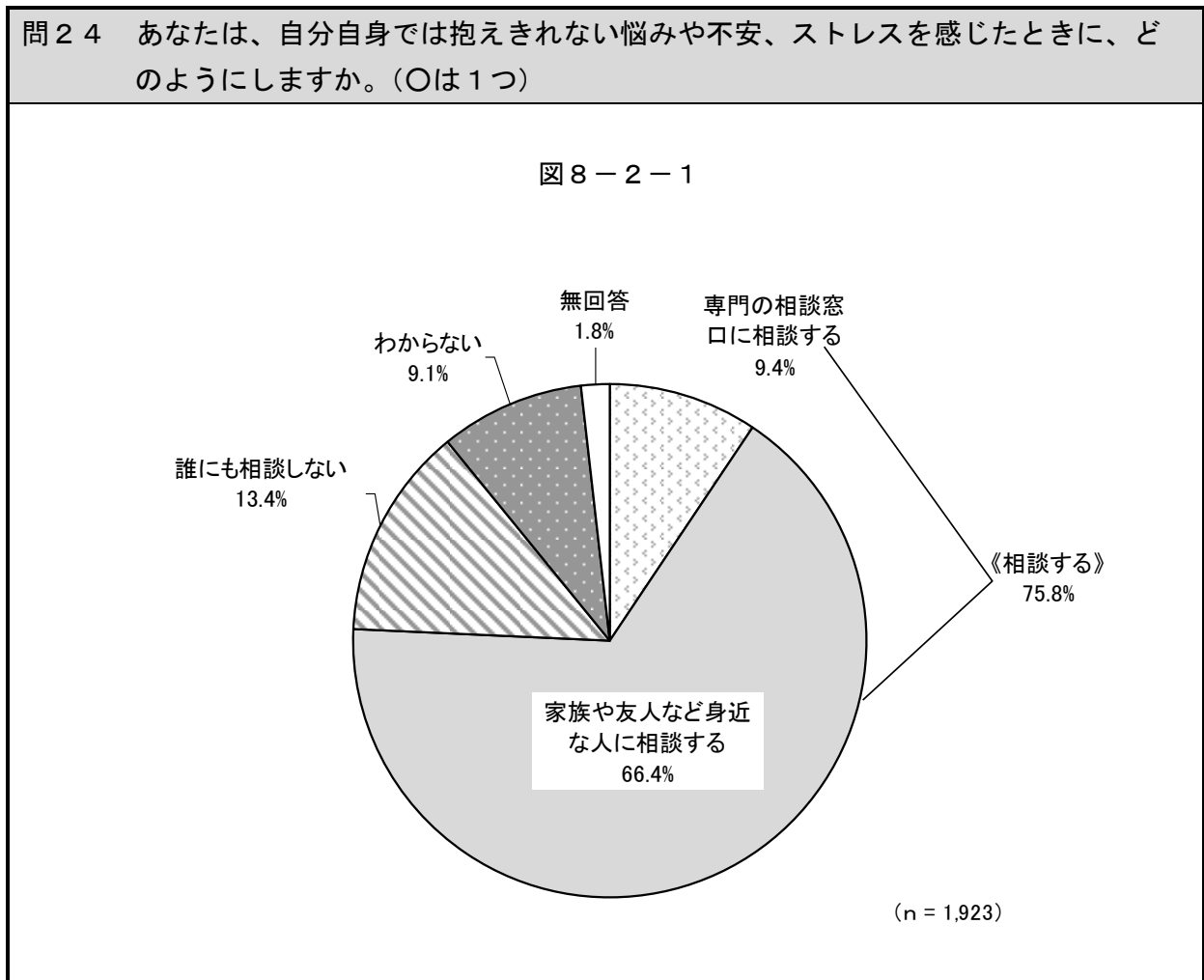
図 8-1-3 相談できる医療機関や行政窓口の認知度（性・年齢別）



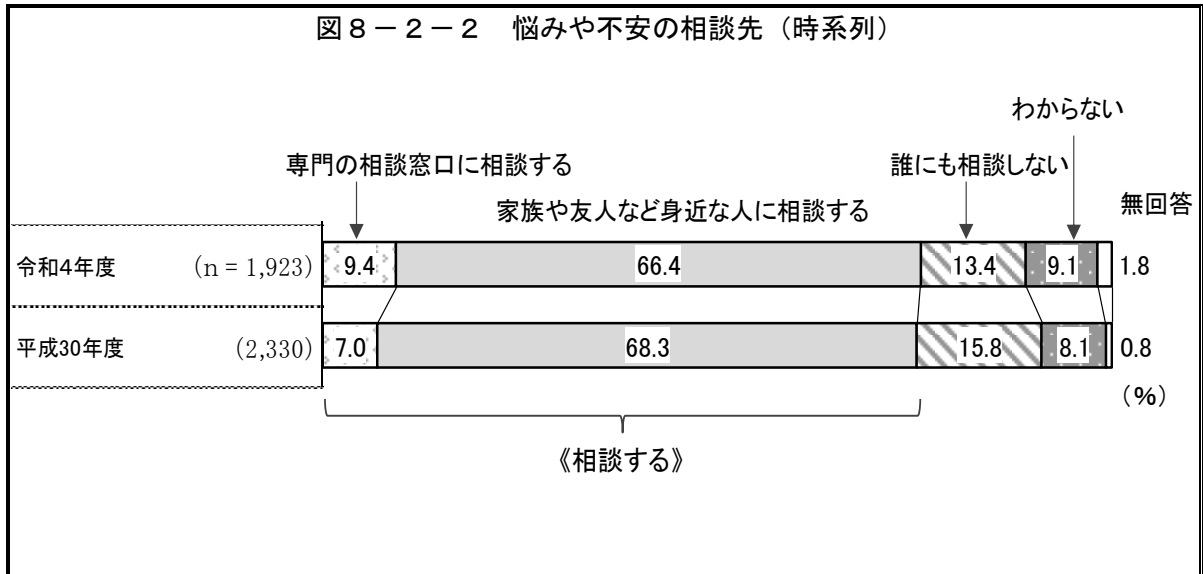
性・年齢別にみると、「知っている」は全ての年代で、男性より女性の方が高く、認知度が高い。特に、女性の60歳代でほぼ6割と一番高くなっている。(図8-1-3)

(2) 悩みや不安の相談先

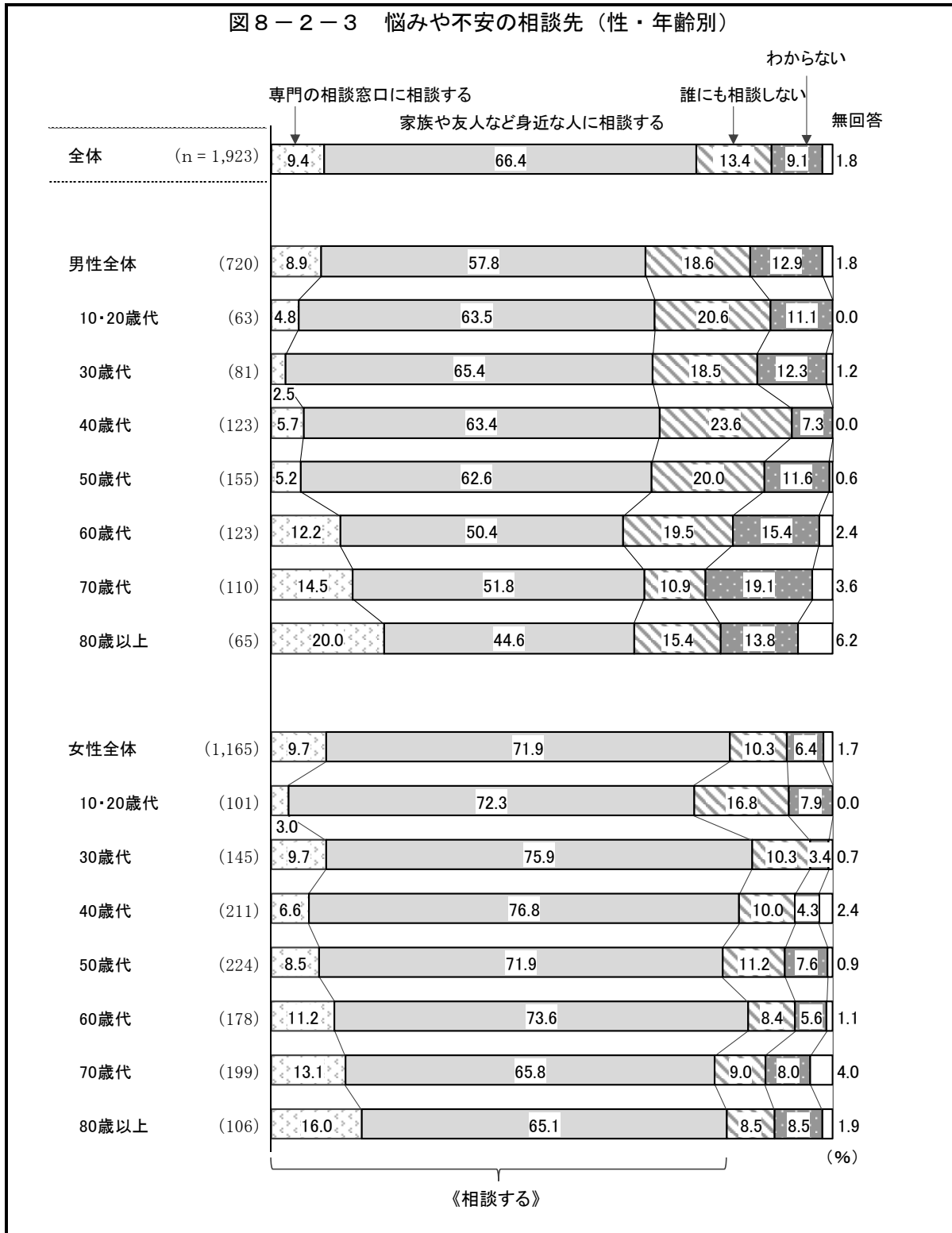
◎「家族や友人など身近な人に相談する」が6割半ば



悩みや不安の相談先について聞いたところ、「家族や友人など身近な人に相談する」(66.4%)が6割半ばで「専門の相談窓口」(9.4%)と合わせた《相談する》(75.8%)が7割半ばとなっている。「誰にも相談しない」(13.4%)は1割を超えている。(図8-2-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、「誰にも相談しない」は平成 30 年度（15.8%）から令和 4 年度（13.4%）でわずかに減少している。（図 8-2-2）

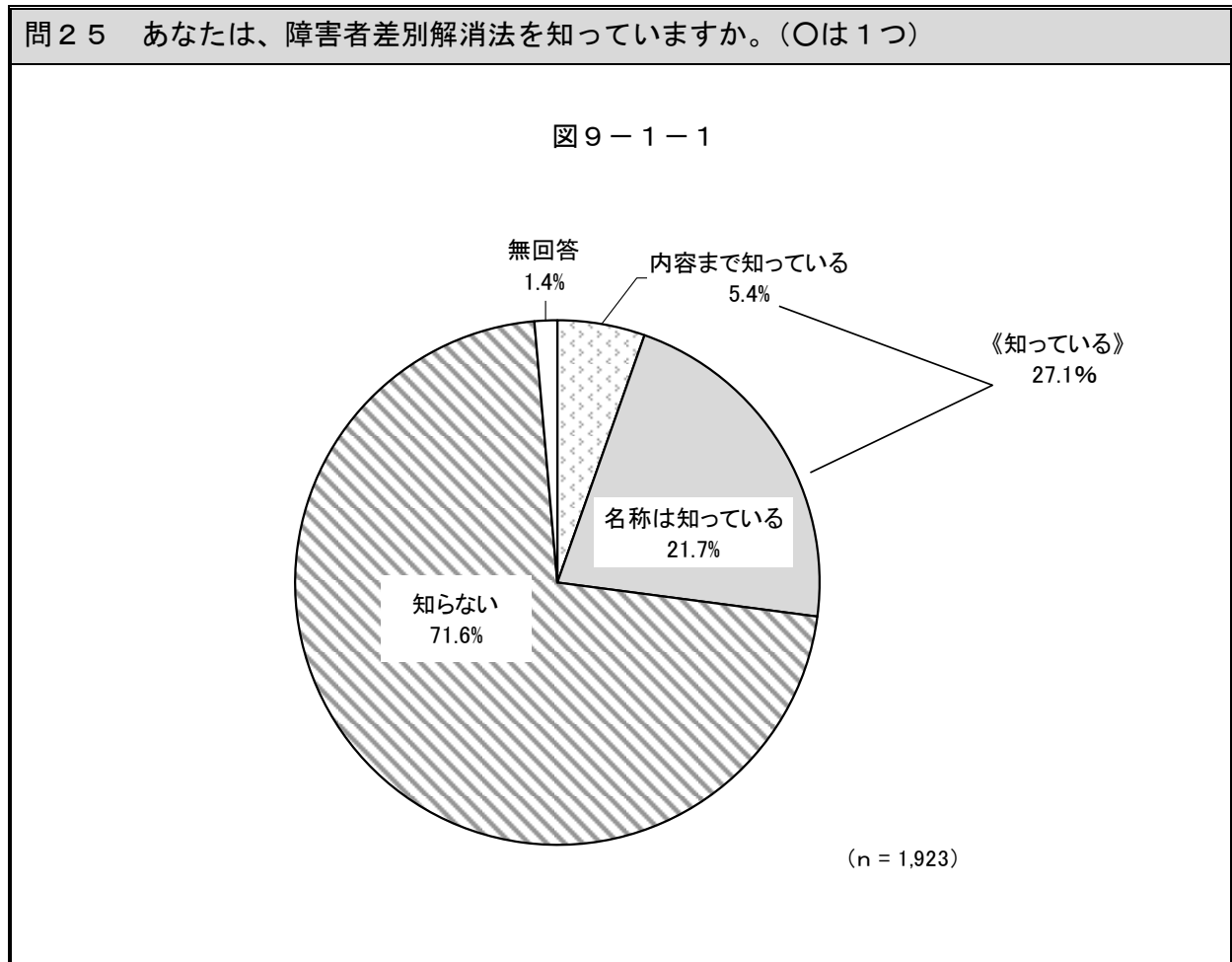


性・年齢別にみると、「家族や友人など身近な人に相談する」は女性の40歳代で8割近くとなっている。「誰にも相談しない」は男性の40歳代で2割を超え、全ての年代で、女性に比べ男性の方が高い。（図8-2-3）

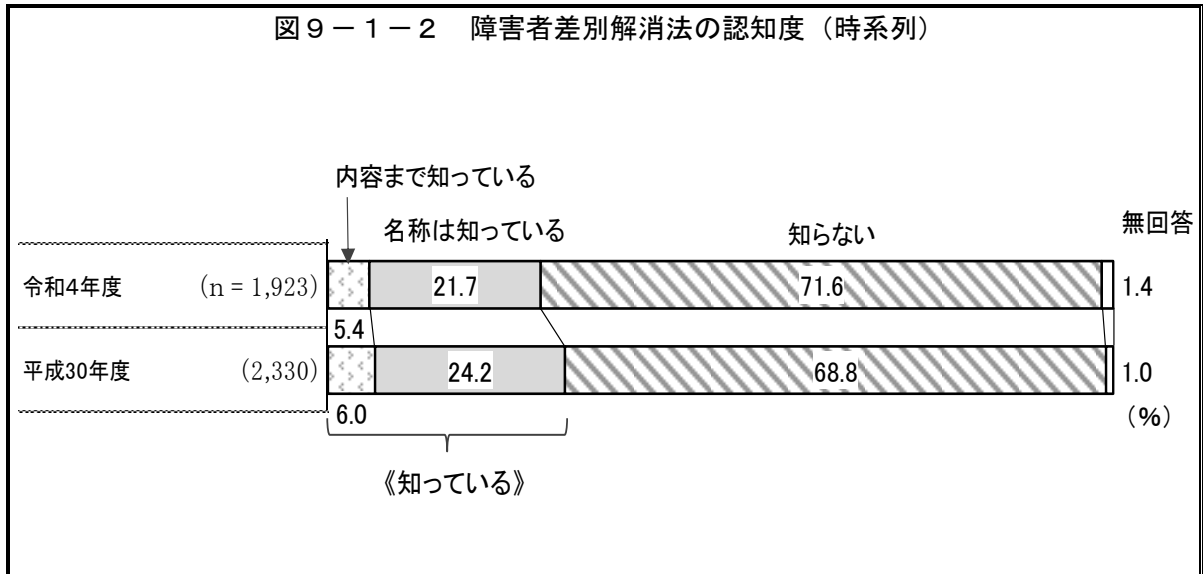
9. 障害者を支える取り組み

(1) 障害者差別解消法の認知度

◎ 《知っている》は3割近く

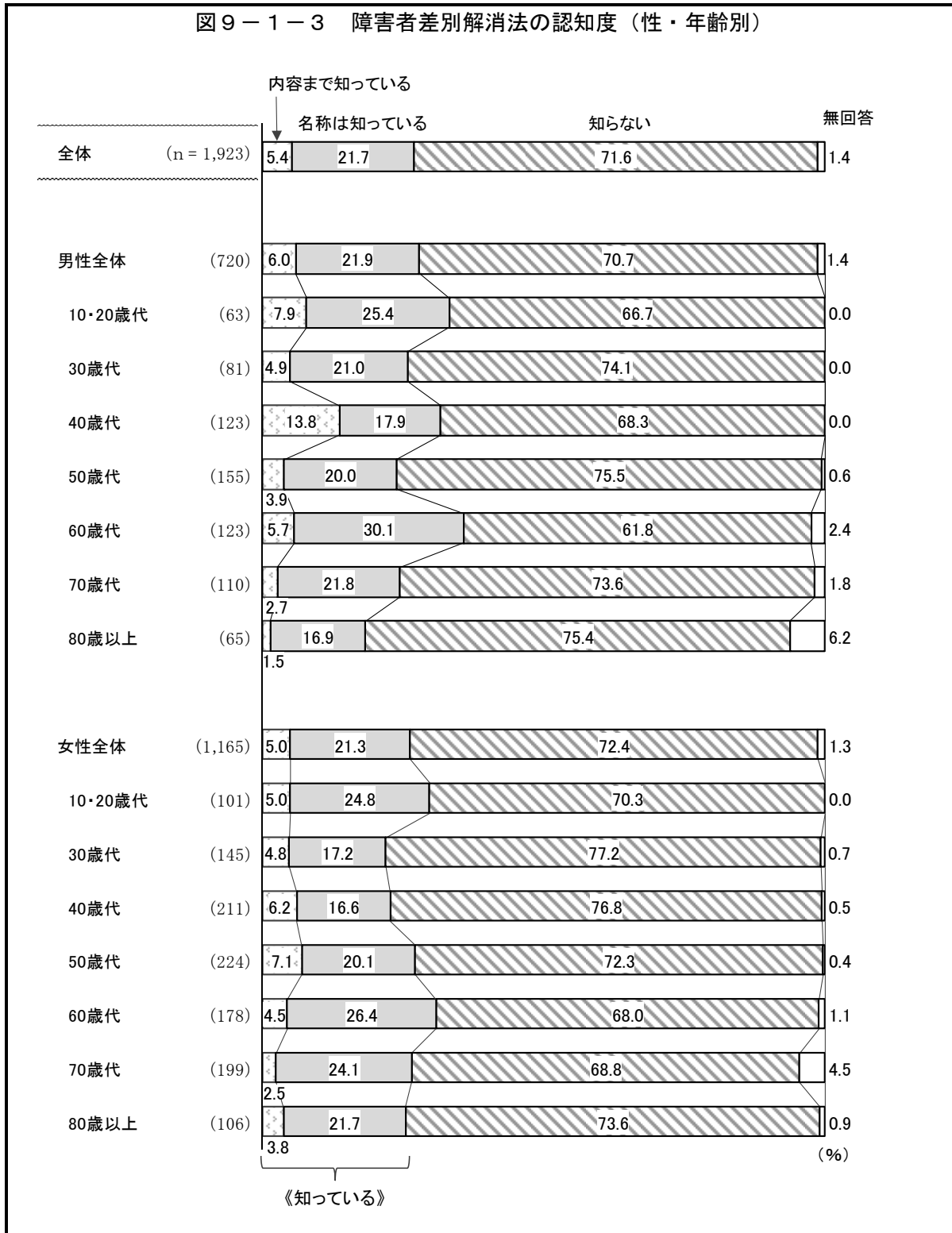


障害者差別解消法の認知度を聞いたところ、「内容まで知っている」(5.4%)と「名称は知っている」(21.7%)を合わせた《知っている》(27.1%)が3割近く、「知らない」(71.6%)が7割を超えている。(図9-1-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（30.2%）から令和 4 年度（27.1%）でわずかに減少している。（図 9 - 1 - 2）

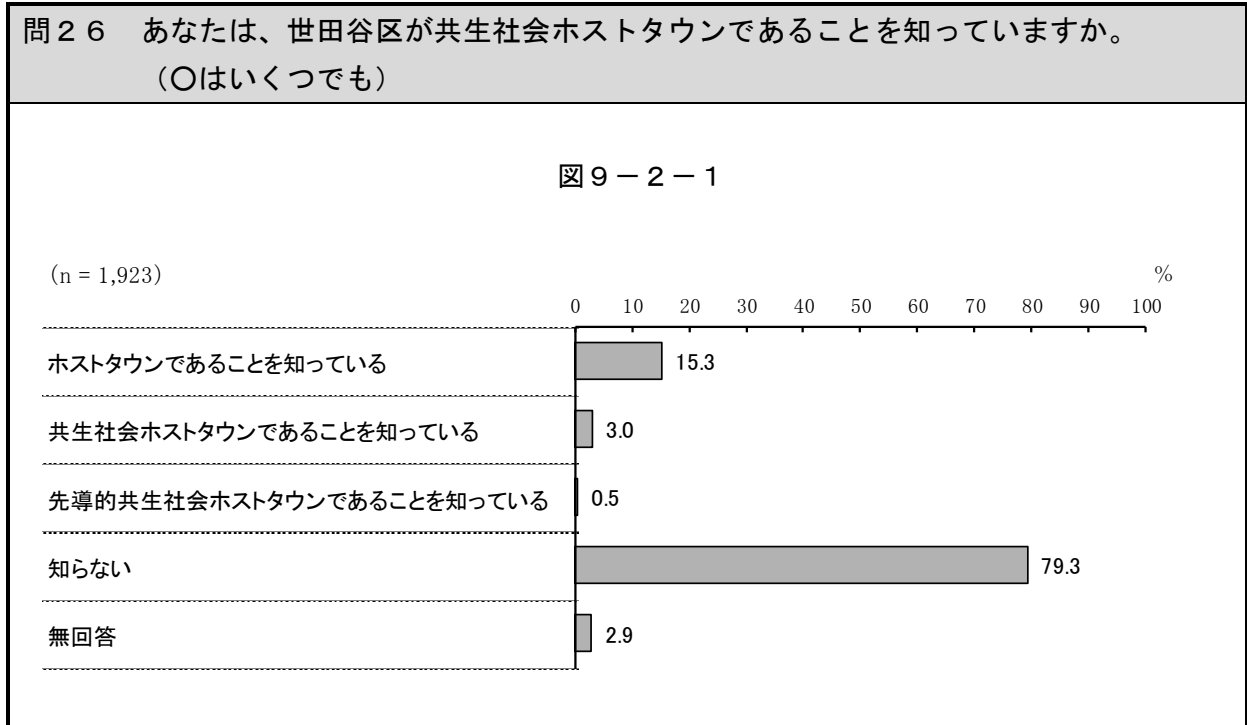
図 9-1-3 障害者差別解消法の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男性の60歳代が3割半ば、男性の10・20歳代、40歳代が3割を超えている。「内容まで知っている」は男性の40歳代を除き、すべての年代で1割に満たない。（図9-1-3）

(2) 共生社会ホストタウンの認知度

◎ 「知らない」方はほぼ8割



世田谷区が共生社会ホストタウンであることの認知度を聞いたところ、「知らない」(79.3%)がほぼ8割で最も高く、「ホストタウンであることを知っている」(15.3%)、「共生社会ホストタウンであることを知っている」(3.0%)、「先導的共生社会ホストタウンであることを知っている」(0.5%)と続いている。(図9-2-1)

表9-2-1 世田谷区が共生社会ホストタウンであることの認知度（性・年齢別）（%）

区分		n	知らない	知っている ホストタウンであることを	共生社会ホストタウンであることを知っている	先導的共生社会ホストタウンであることを知っている	無回答
全体		1,923	79.3	15.3	3.0	0.5	2.9
性・年齢別	男性全体	720	81.0	14.3	3.2	0.4	2.5
	10・20 歳代	63	81.0	14.3	4.8	-	-
	30 歳代	81	88.9	8.6	2.5	-	-
	40 歳代	123	76.4	21.1	0.8	-	1.6
	50 歳代	155	82.6	14.2	2.6	-	1.3
	60 歳代	123	80.5	16.3	5.7	1.6	-
	70 歳代	110	79.1	11.8	2.7	0.9	8.2
	80 歳以上	65	80.0	9.2	4.6	-	7.7
	女性全体	1,165	78.3	16.4	3.0	0.3	2.8
	10・20 歳代	101	85.1	13.9	1.0	-	-
	30 歳代	145	85.5	11.0	3.4	-	0.7
	40 歳代	211	75.4	20.4	2.4	0.5	2.8
	50 歳代	224	76.8	20.1	2.7	0.9	0.4
	60 歳代	178	78.7	15.7	4.5	-	2.2
	70 歳代	199	76.9	16.1	3.0	0.5	4.0
	80 歳以上	106	72.6	12.3	3.8	-	12.3

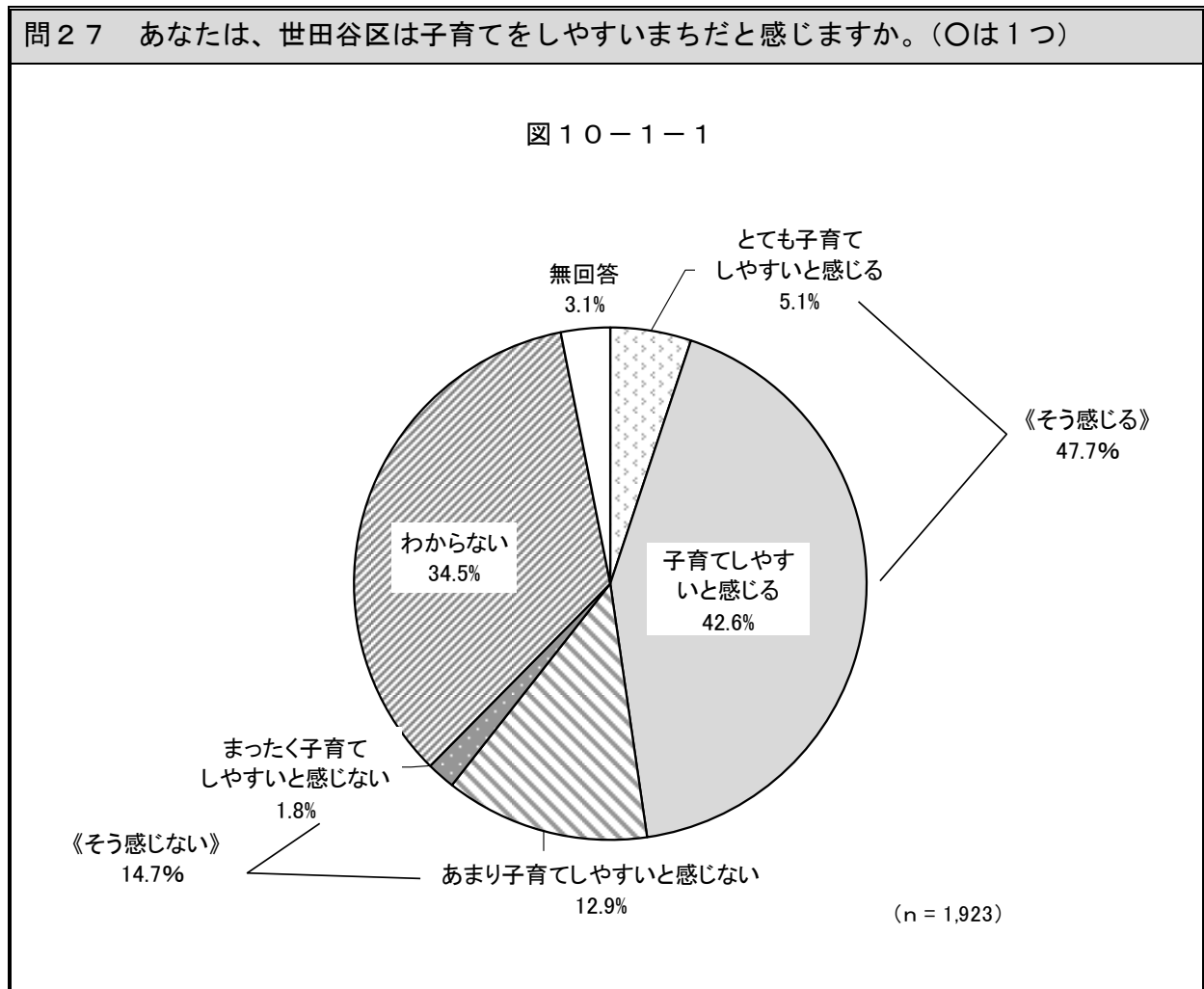
性・年齢別にみると、「知らない」は男性の30歳代が9割近くで最も高く、「ホストタウンであることを知っている」は男性の40歳代、女性の40歳代、50歳代で、やや高くなっている。

（表9-2-1）

10. 子育て・子どもを取り巻く環境

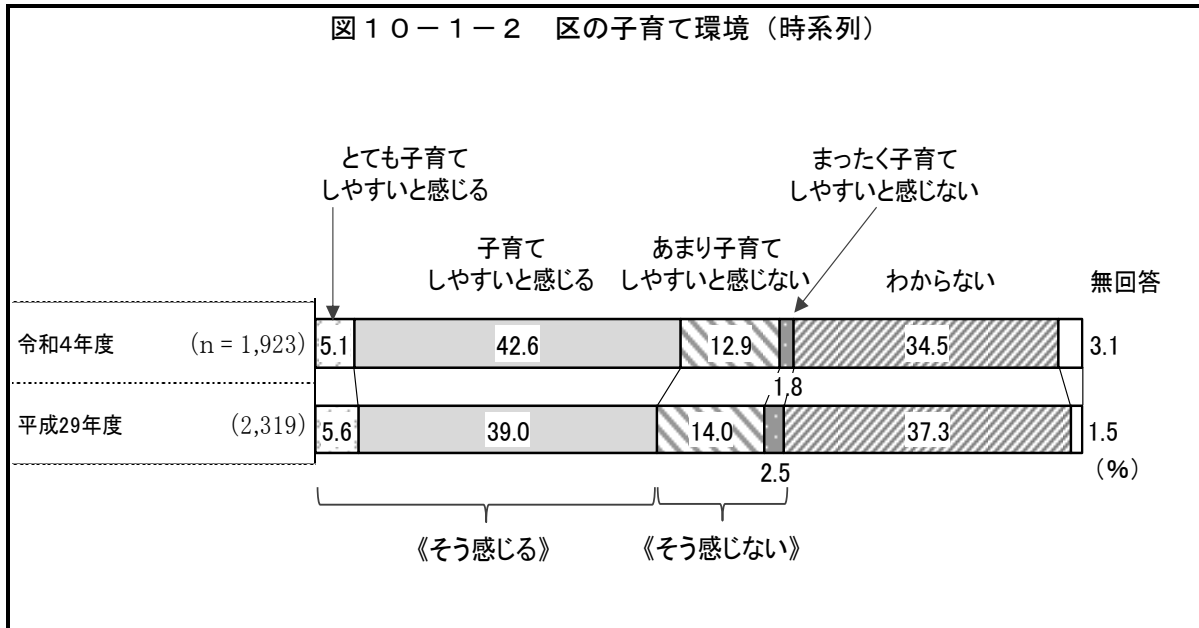
(1) 区の子育て環境

◎「とても子育てしやすいと感じる」と「子育てしやすいと感じる」を合わせると5割近く

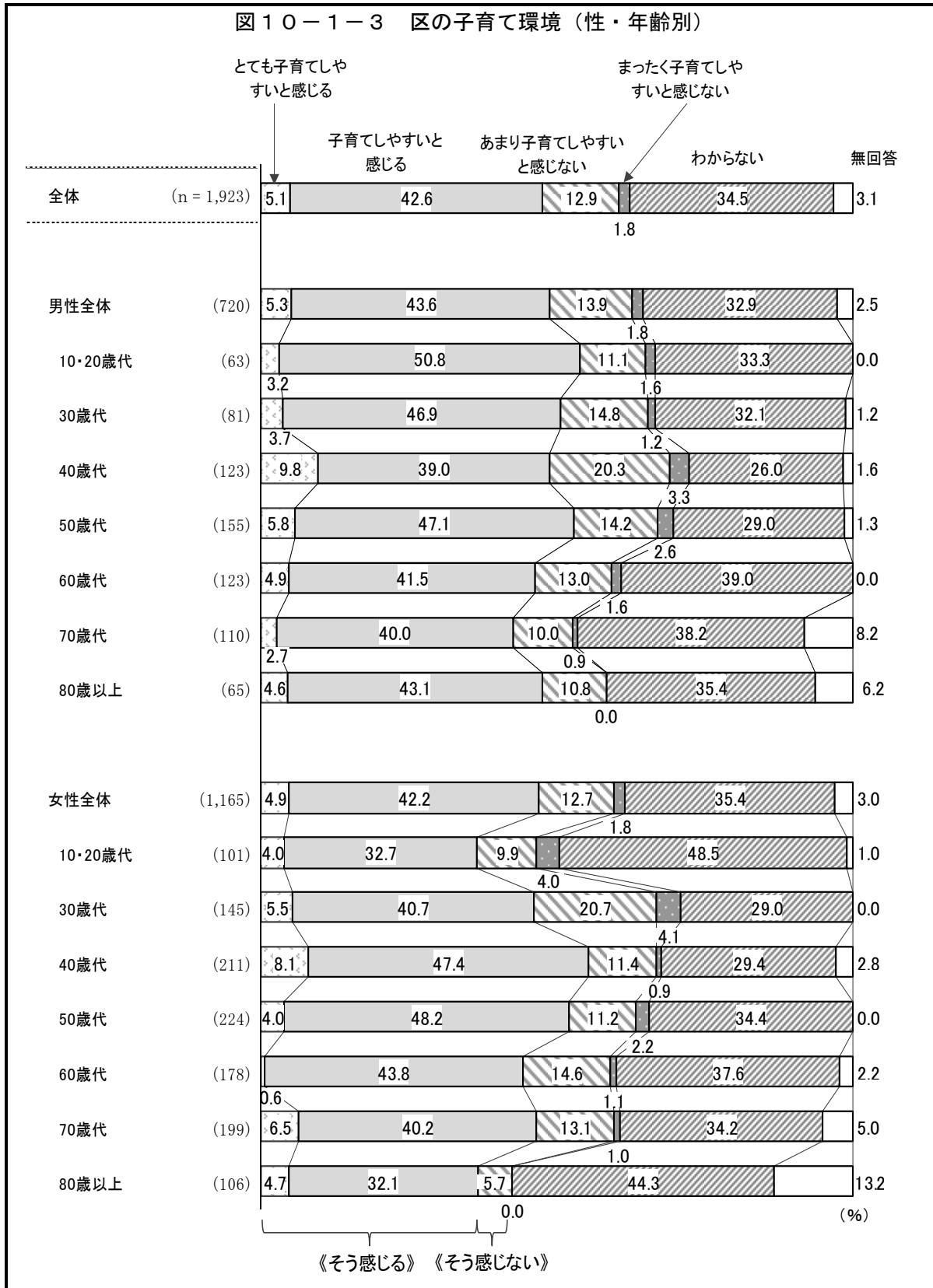


世田谷区の子育て環境について聞いたところ、「子育てしやすいと感じる」(42.6%)が4割を超え、「とても子育てしやすいと感じる」(5.1%)と合わせた《そう感じる》(47.7%)が5割近く、「あまり子育てしやすいと感じない」(12.9%)と「まったく子育てしやすいと感じない」(1.8%)を合わせた《そう感じない》(14.7%)が1割半ばとなっている。

(図10-1-1)

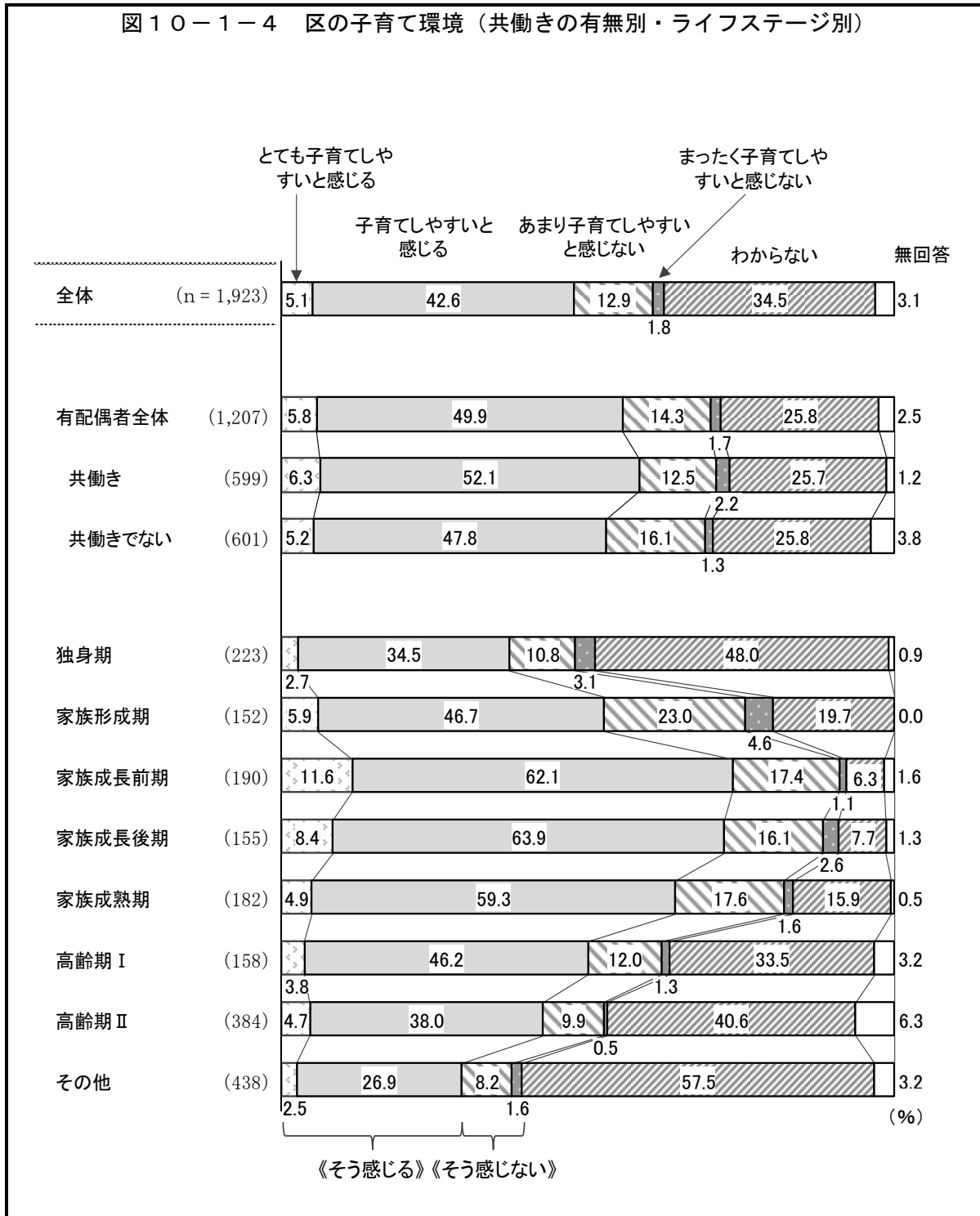


平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《そう感じる》は平成 29 年度（44.6%）から令和 4 年度（47.7%）でやや増加している。《そう感じない》は平成 29 年度（16.5%）から令和 4 年度（14.7%）でやや減少している。（図 10-1-2）



性・年齢別にみると、《そう感じる》は男性の10・20歳代、女性の40歳代で5割半ば、男性の50歳代、女性の50歳代で5割を超えている。《そう感じない》は女性の30歳代で2割半ば、男性の40歳代で2割を超えている。（図10-1-3）

図10-1-4 区の子育て環境（共働きの有無別・ライフステージ別）



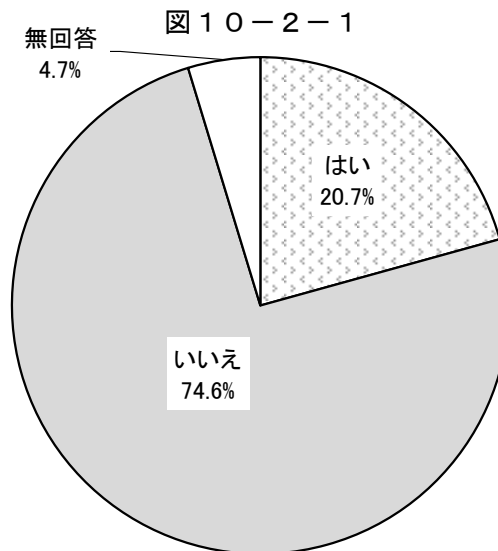
共働きの有無別にみると、共働き世帯、共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

ライフステージ別にみると、《そう感じる》は家族成長前期、家族成長後期で7割を超えている。一方、《そう感じない》は家族形成期で3割近くとなっている。（図10-1-4）

(2) 子育てについて相談できる人の有無

◎「相談できる人がいる」が7割半ば、「相談できる人がいない」が2割半ば

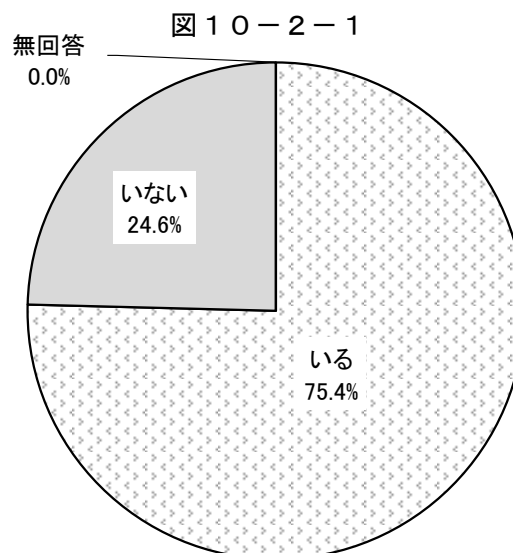
問28 あなたは、18歳未満の子どもを子育て中、またはあなたご自身もしくは配偶者が妊娠中ですか。(〇は1つ)



(n = 1,923)

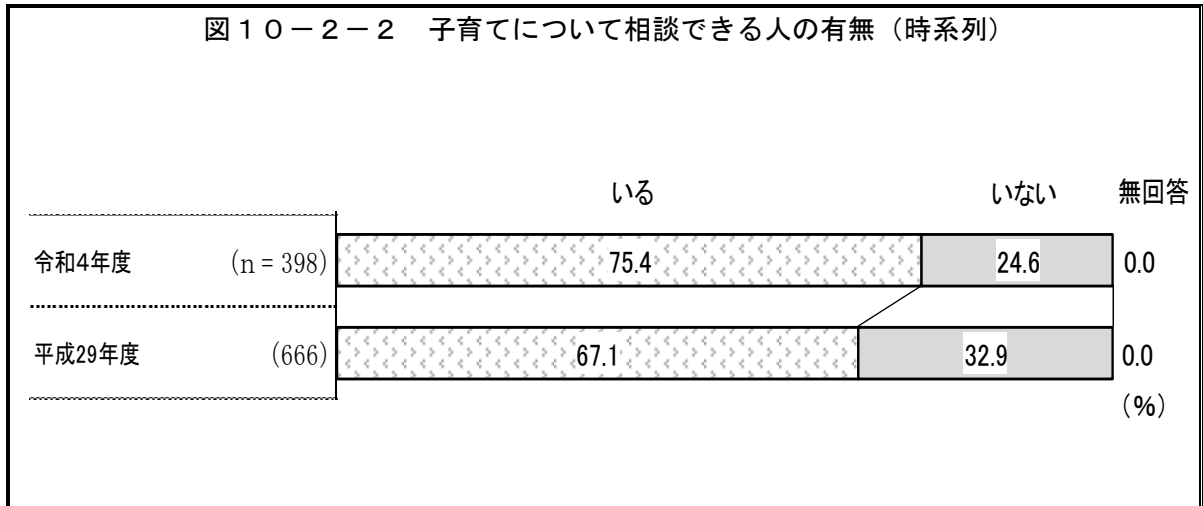
(問28で「はい」と答えた方に)

問28-1 あなたは、子育てについて相談できる人が身近な地域にいますか。(〇は1つ)

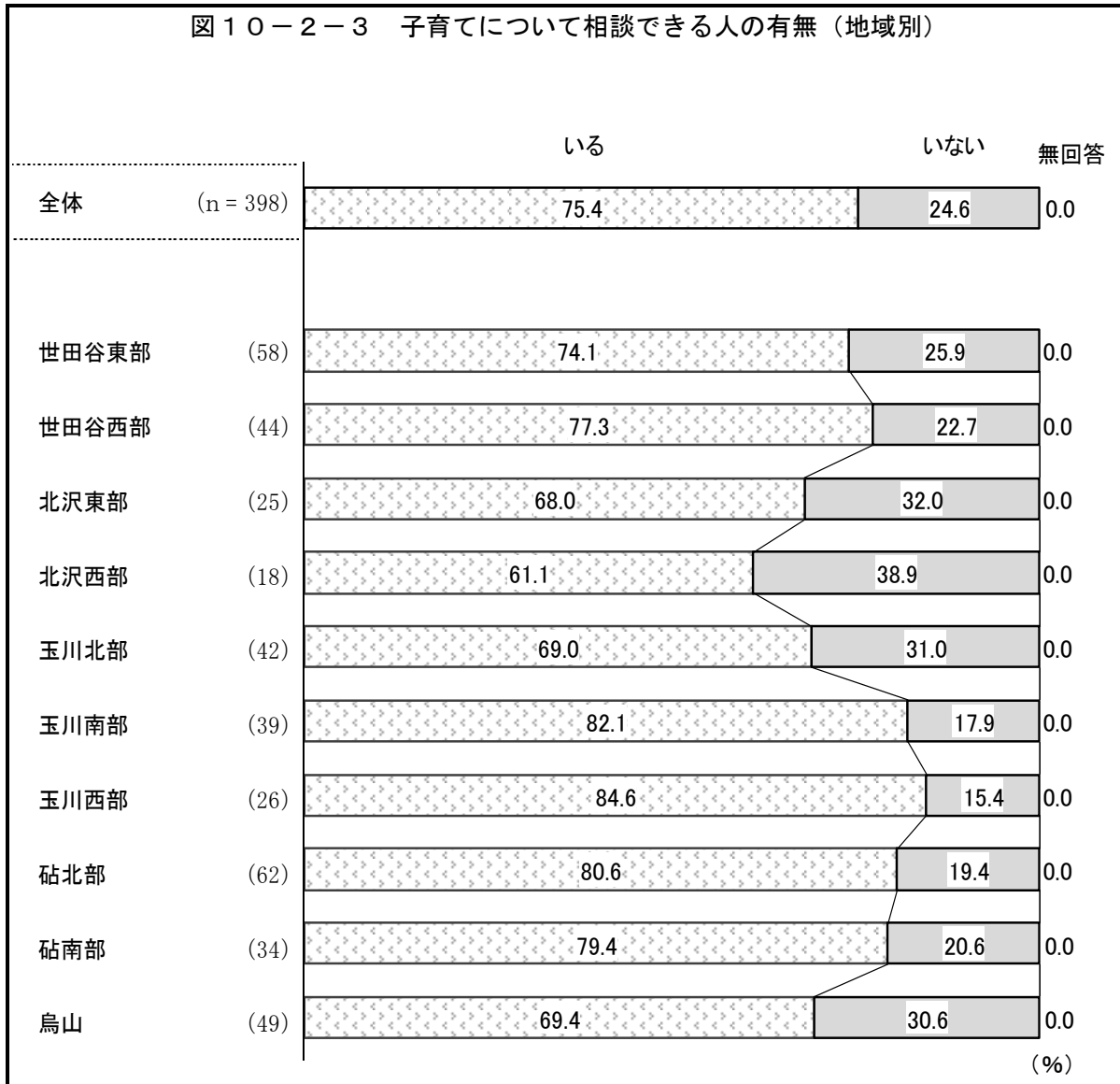


(n = 398)

18歳未満の子どもを子育て中、またはご自身もしくは配偶者が妊娠中の方(398人)に、子育てについて相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(75.4%)は7割半ば、「いない」(24.6%)は2割半ばとなっている。(図10-2-1)



平成29年度からの時系列の変化をみると、「いない」は平成29年度（32.9%）から令和4年度（24.6%）で減少している。（図10-2-2）



地域別にみると、「いる」は玉川西部で8割半ば、玉川南部で8割を超えている。「いない」は北沢西部で4割近くとなっている。（図10-2-3）

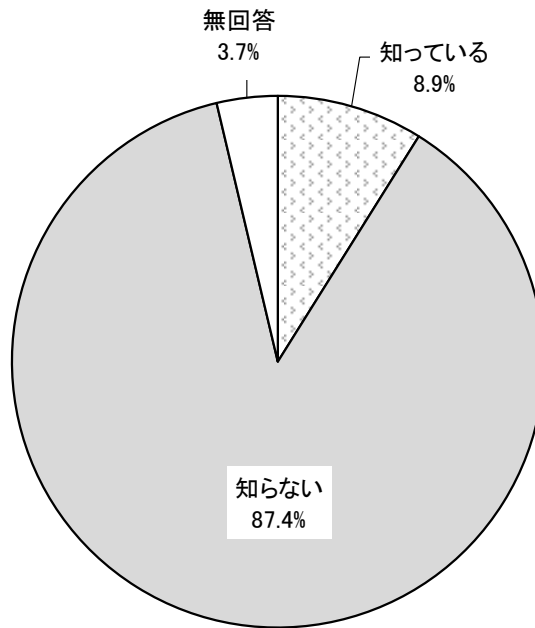
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

(3) 「世田谷版ネウボラ」の認知度

◎世田谷版ネウボラを「知らない」が9割近く

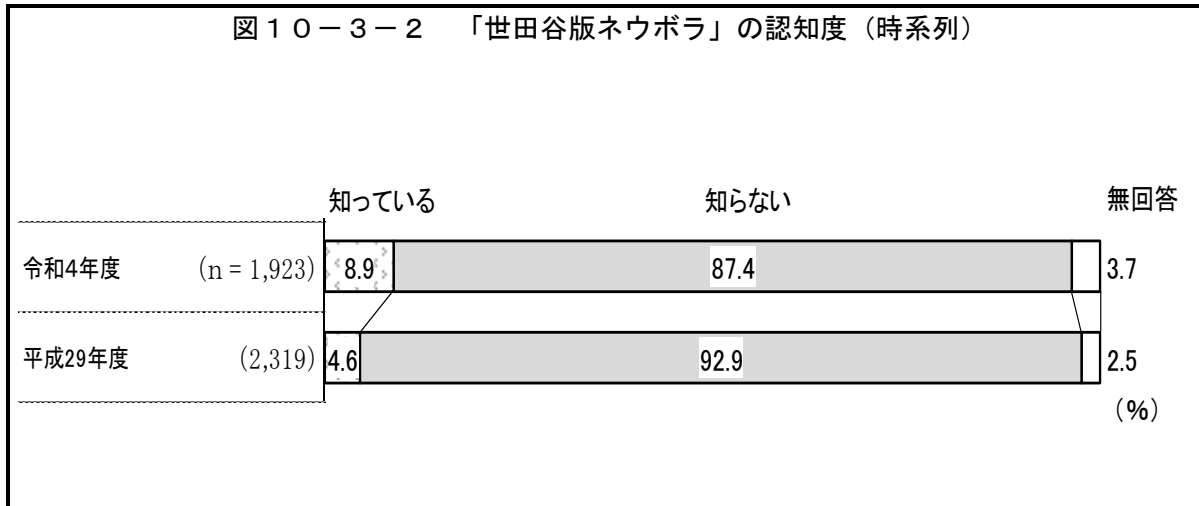
問29 あなたは、「世田谷版ネウボラ」という、妊娠期から就学前までの乳幼児を育てているご家庭を切れ目なく支えるため、医療機関や地域の支援の担い手と連携して相談支援していく取り組みを行っていることを知っていますか。(〇は1つ)

図10-3-1

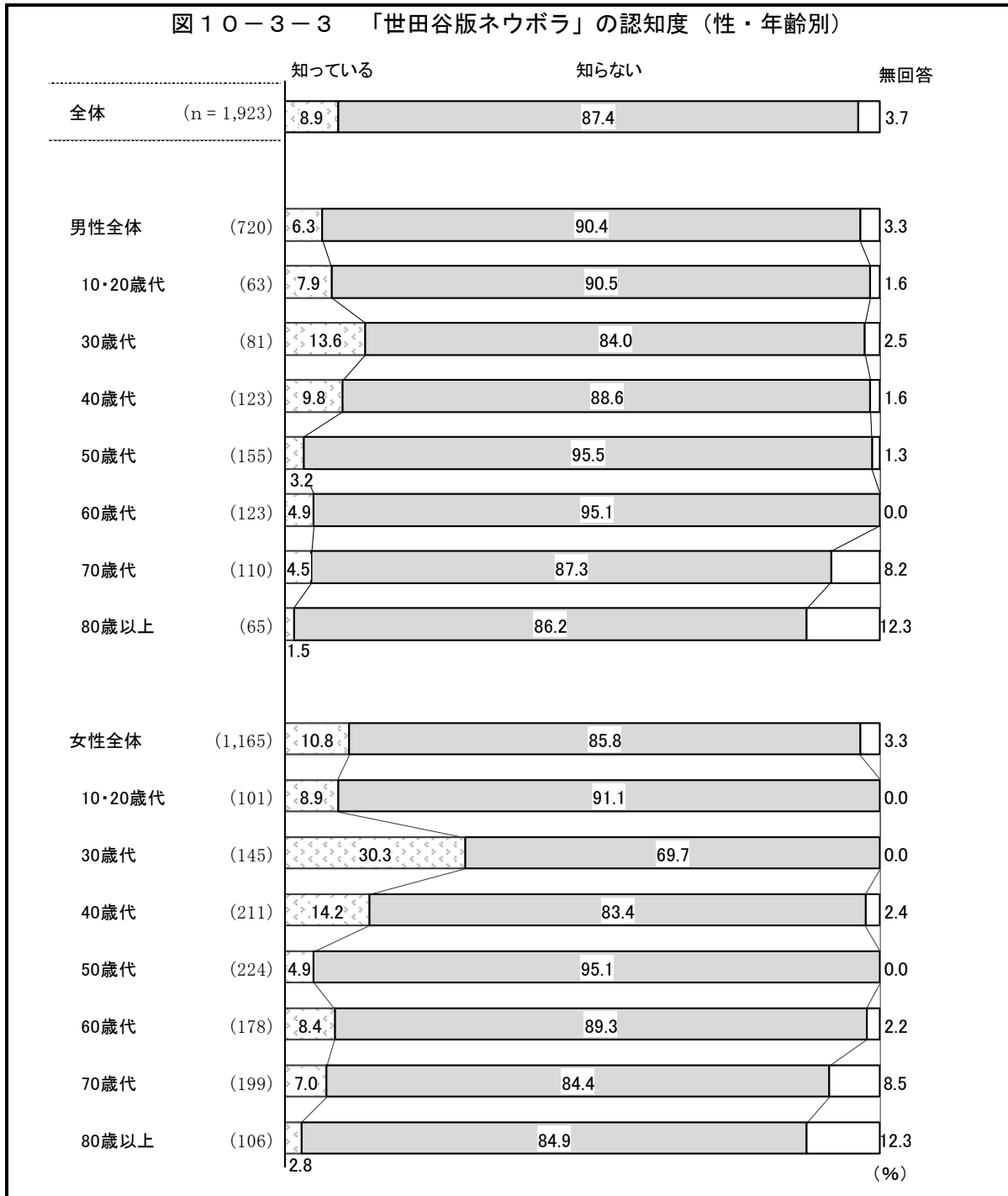


(n = 1,923)

「世田谷版ネウボラ」の認知度を聞いたところ、「知っている」(8.9%)が1割に満たず、「知らない」(87.4%)が9割近くとなっている。(図10-3-1)



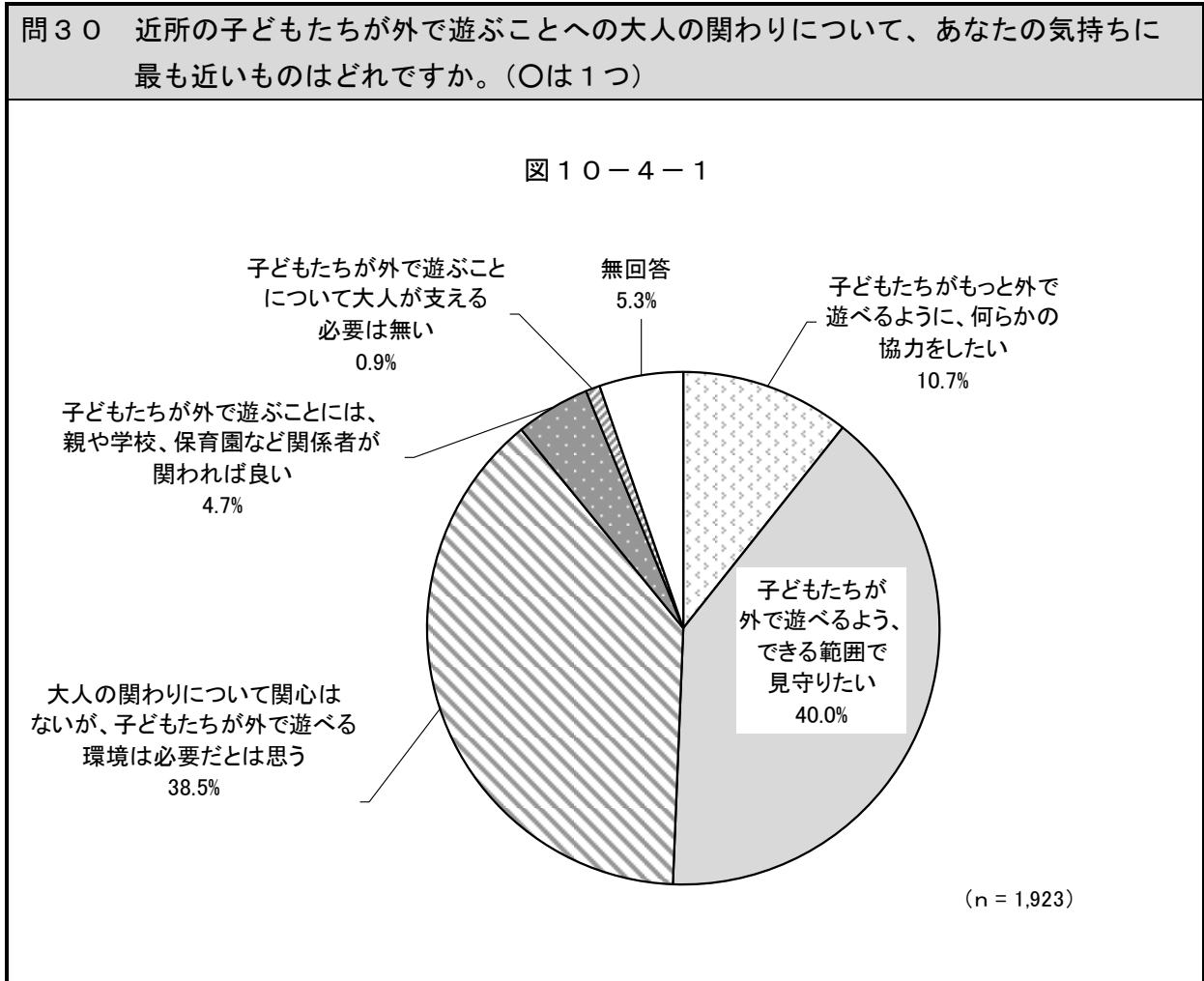
平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成 29 年度（4.6%）から令和 4 年度（8.9%）でわずかに増加している。（図 10-3-2）



性・年齢別にみると、「知っている」は、男性、女性ともに30歳代が他の年代に比べ高く、女性が3割、男性が1割を超えている。その他の年代は、女性の40歳代が1割半ば、男性の40歳代が1割にとどまっている。（図10-3-3）

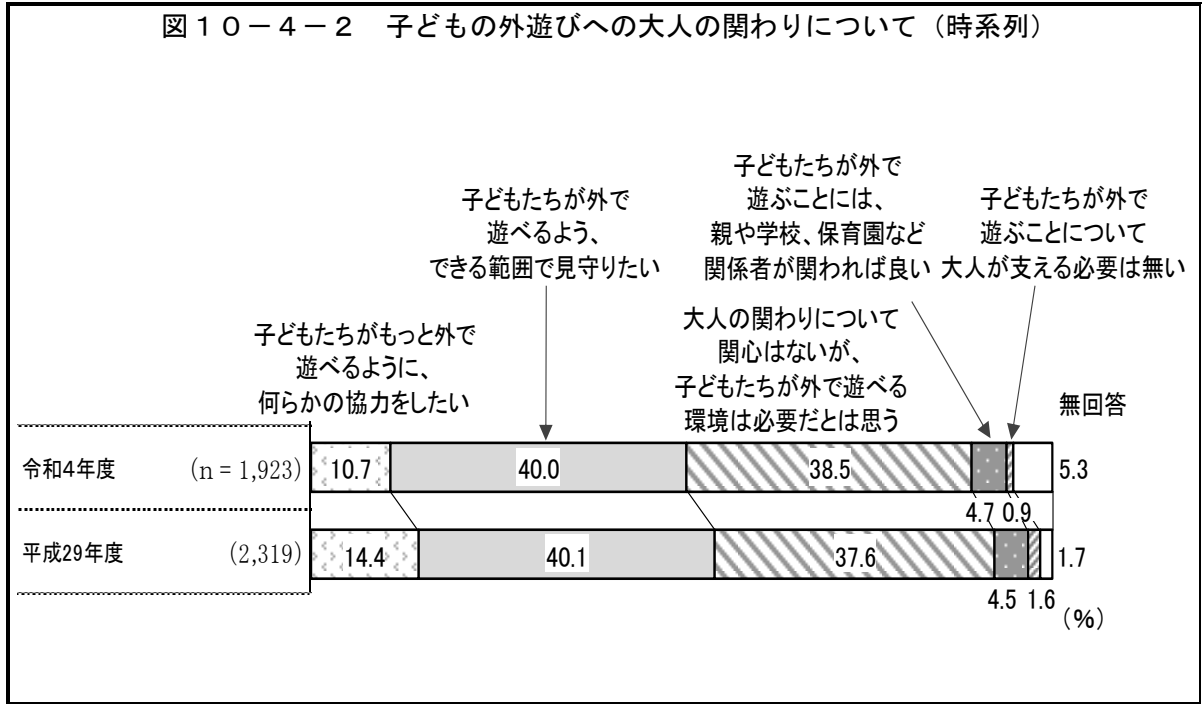
(4) 子どもの外遊びへの大人の関わりについて

◎「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」が4割、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」が4割近く



子どもの外遊びへの大人の関わりについて聞いたところ、「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」(40.0%)が4割、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」(38.5%)が4割近くと高い。次いで、「子どもたちがもっと外で遊べるように、何らかの協力をしたい」(10.7%)がほぼ1割となっている。

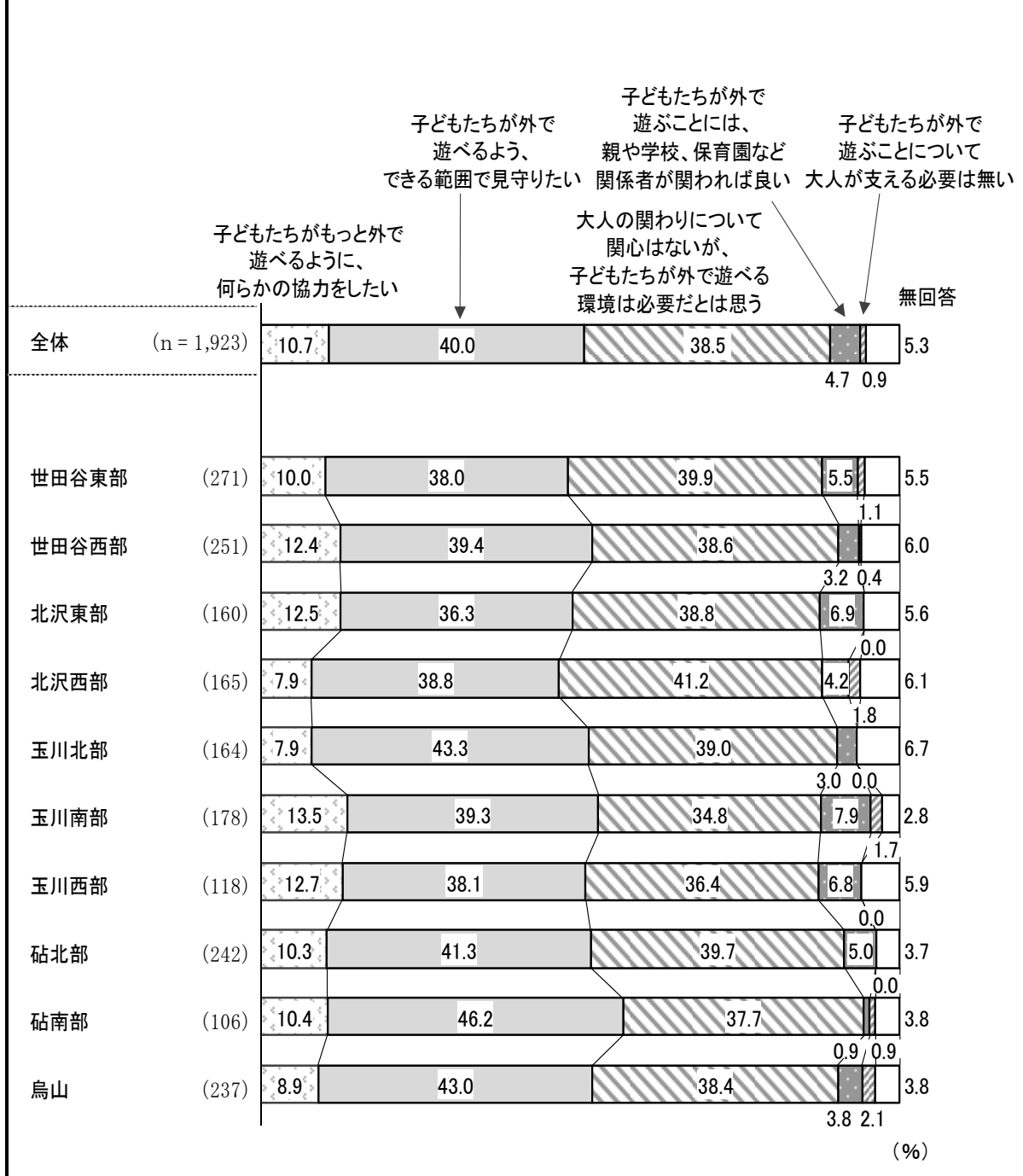
(図10-4-1)



平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だと思う」は平成 29 年度（37.6%）から令和 4 年度（38.5%）で大きな違いはみられない。「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」も平成 29 年度（40.1%）から令和 4 年度（40.0%）で大きな違いはみられない。

(図 10 - 4 - 2)

図10-4-3 子どもの外遊びへの大人の関わりについて（地域別）

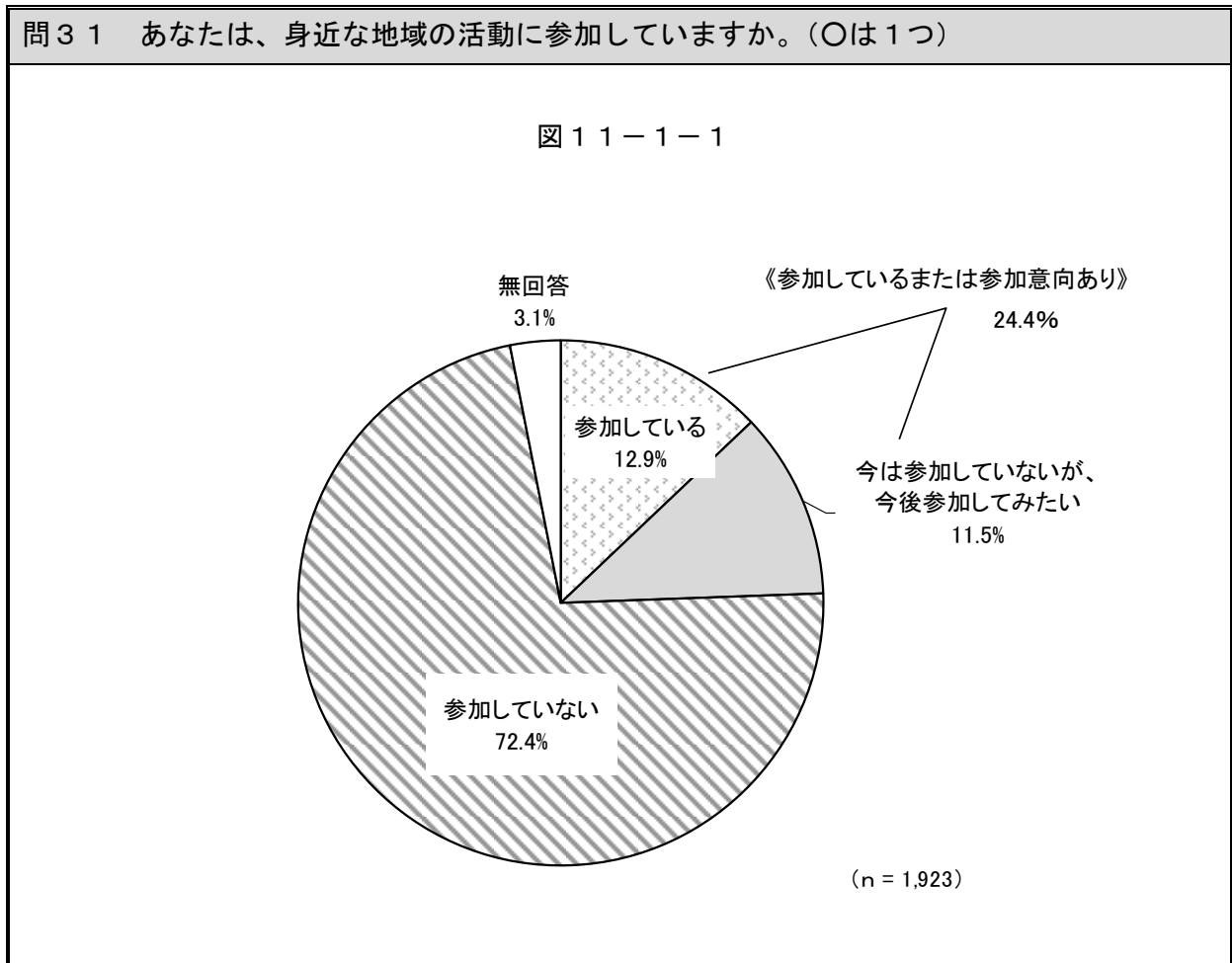


地域別にみると、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」は北沢西部で4割を超え、「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」は砧南部で4割半ばとなっている。（図10-4-3）

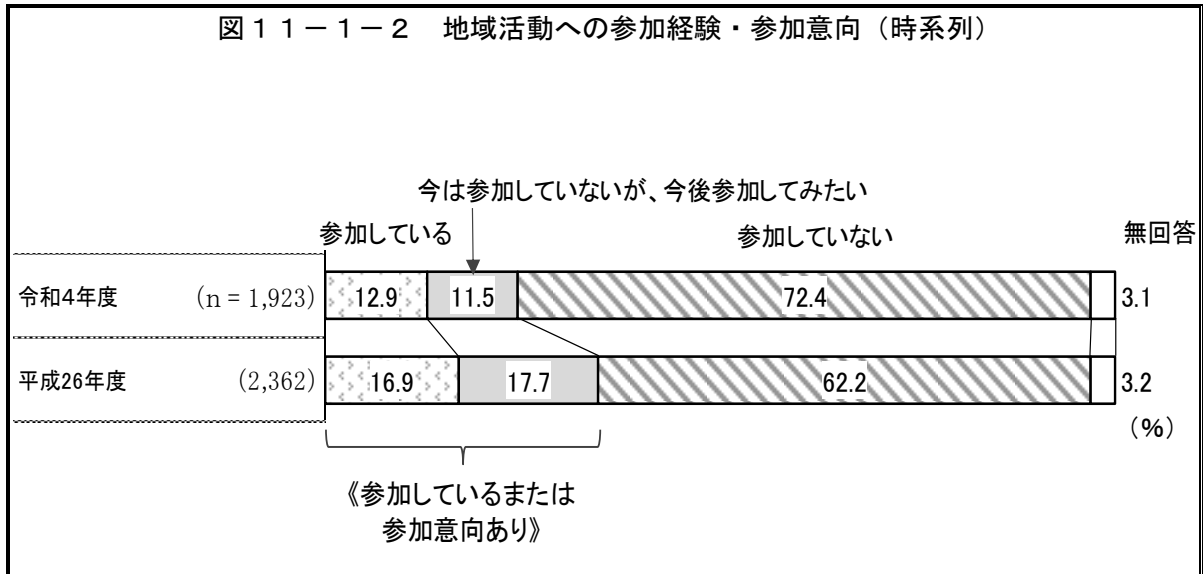
11. 地域コミュニティ

(1) 地域活動への参加経験・参加意向

◎ 《参加しているまたは参加意向あり》が2割半ば

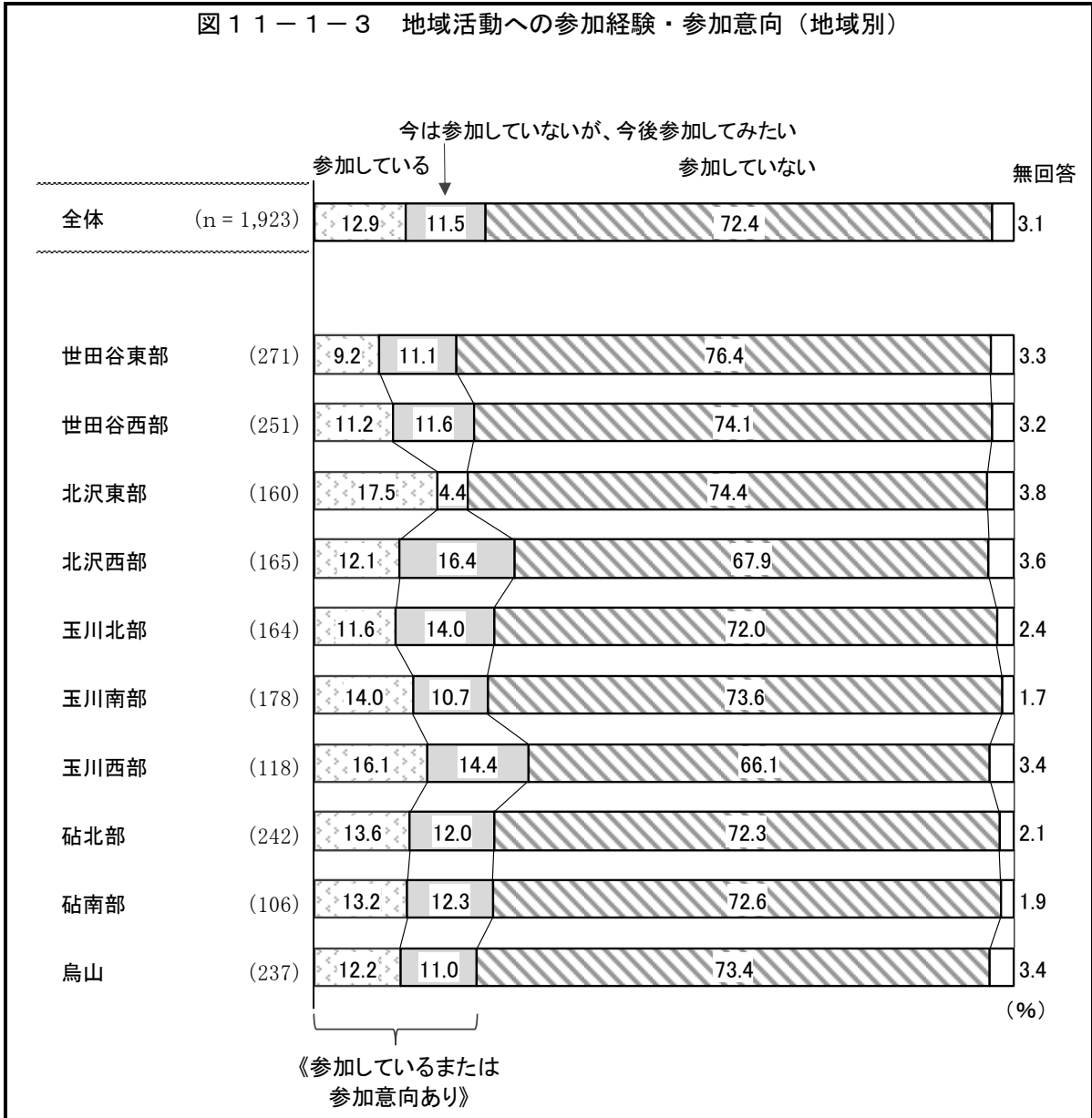


身近な地域の活動に参加しているかどうかを聞いたところ、「参加している」(12.9%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(11.5%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》(24.4%)が2割半ばとなっている。「参加していない」(72.4%)は7割を超えている。(図11-1-1)



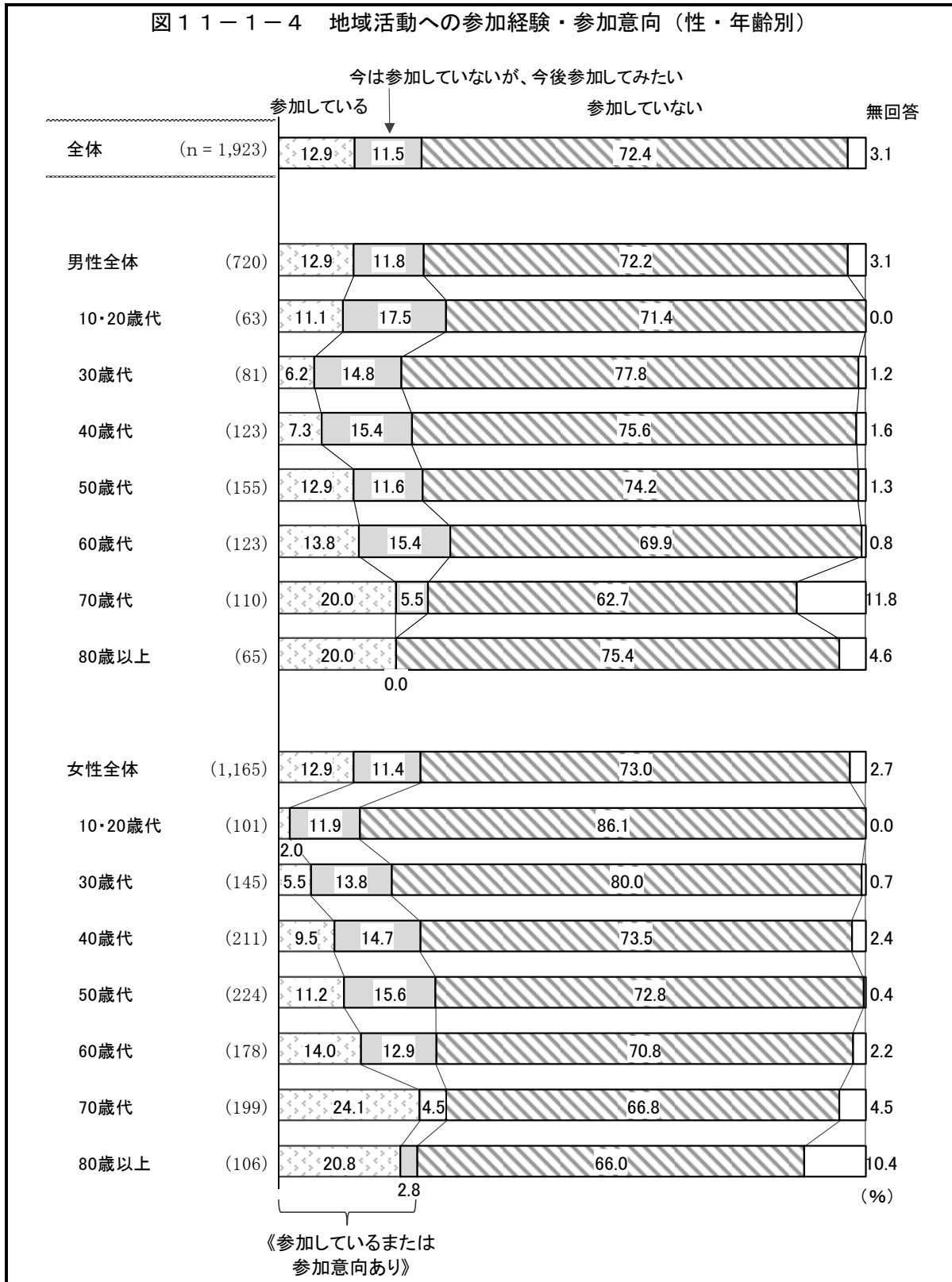
平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《参加しているまたは参加意向あり》は平成 26 年度（34.6%）から令和 4 年度（24.4%）で減少している。（図 1 1 - 1 - 2）

図 1 1 - 1 - 3 地域活動への参加経験・参加意向（地域別）



地域別にみると、「参加している」は北沢東部が2割近く、「今は参加していないが、今後参加してみたい」は北沢西部、玉川北部、玉川西部で1割半ばとなっている。《参加しているまたは参加意向あり》は玉川西部でほぼ3割となっている。（図 1 1 - 1 - 3）

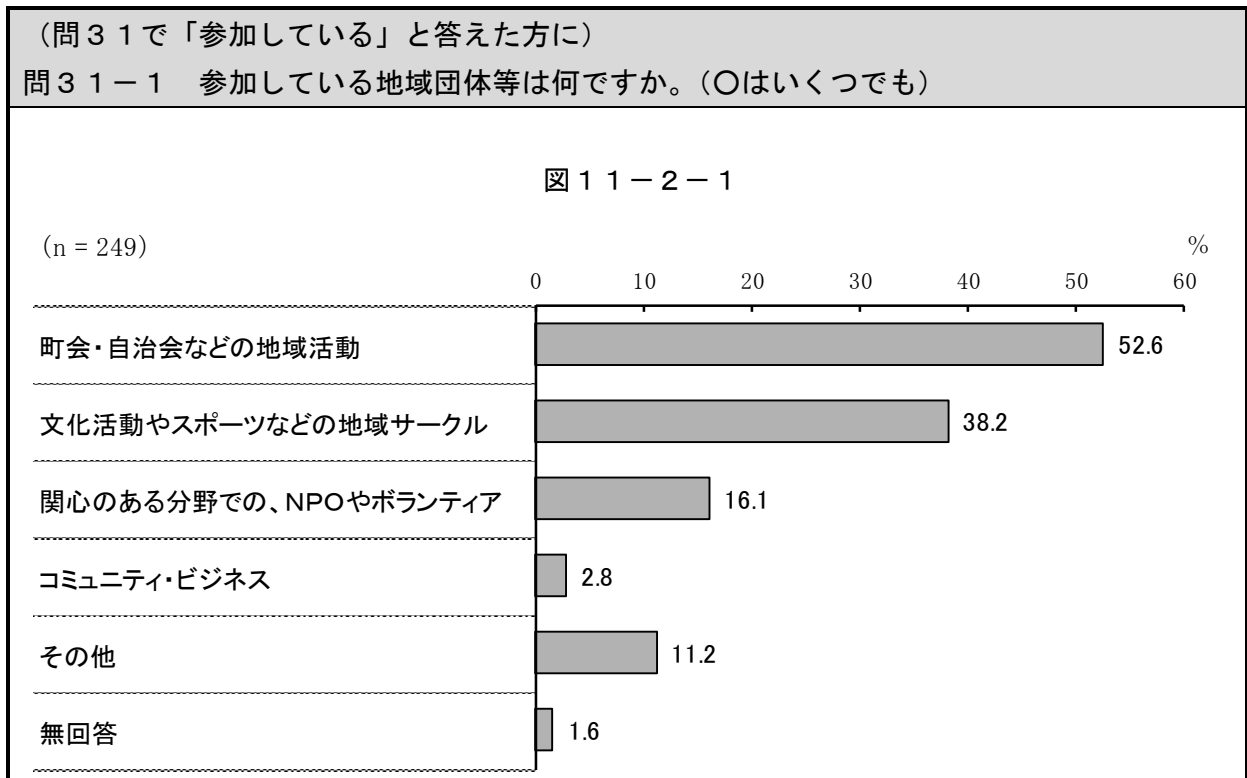
図 1 1 - 1 - 4 地域活動への参加経験・参加意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「参加している」は女性の70歳代で2割半ば、女性の80歳代以上ではほぼ2割、男性の70歳代、80歳以上で2割となっている。「今は参加していないが、今後参加してみたい」は、男性の10・20歳代で2割近くとなっている。《参加しているまたは参加意向あり》は男性の60歳代でほぼ3割となっている。（図1 1 - 1 - 4）

(2) 参加している地域団体

◎「町会・自治会などの地域活動」が5割超え、「文化活動やスポーツなどの地域サークル」が4割近く



地域の活動に参加していると答えた方(249人)に、参加している地域団体等は何かを聞いたところ、「町会・自治会などの地域活動」(52.6%)が5割を超え、次いで、「文化活動やスポーツなどの地域サークル」(38.2%)が4割近くと高い。以下、「関心のある分野での、NPOやボランティア」(16.1%)、「コミュニティ・ビジネス」(2.8%)と続いている。

(図11-2-1)

区分		n	町会・自治会などの地域活動	文化活動やスポーツなどの地域サークル	関心のある分野での、NPO（社会貢献をする市民活動団体）やボランティア	コミュニティ・ビジネス	その他	無回答
時系列	令和 4 年度	249	52.6	38.2	16.1	2.8	11.2	1.6
	平成 26 年度	399	52.1	39.6	20.6	3.8	10.0	1.8

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「町会・自治会などの地域活動」は平成 26 年度（52.1%）から令和 4 年度（52.6%）で大きな違いはみられない。「関心のある分野での、NPO（社会貢献をする市民活動団体）やボランティア」は平成 26 年度（20.6%）から令和 4 年度（16.1%）でやや減少している。（表 1 1 - 2 - 1）

表 1 1 - 2 - 2 参加している地域団体（性・年齢別）

（％）

区分		n	町会・自治会などの地域活動	文化活動やスポーツなどの地域サークル	関心のある分野での、NPO（社会貢献をする市民活動団体）やボランティア	コミュニティ・ビジネス	その他	無回答
全 体		249	52.6	38.2	16.1	2.8	11.2	1.6
性・年齢別	男性全体	93	52.7	37.6	7.5	4.3	15.1	2.2
	10・20 歳代	7	-	57.1	-	28.6	14.3	-
	30 歳代	5	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	-
	40 歳代	9	44.4	33.3	-	11.1	44.4	-
	50 歳代	20	55.0	40.0	10.0	-	20.0	-
	60 歳代	17	64.7	29.4	11.8	-	5.9	5.9
	70 歳代	22	54.5	50.0	9.1	-	4.5	-
	80 歳以上	13	69.2	23.1	-	-	7.7	7.7
	女性全体	150	53.3	38.0	21.3	2.0	9.3	0.7
	10・20 歳代	2	-	50.0	50.0	-	-	-
	30 歳代	8	12.5	25.0	25.0	-	37.5	-
	40 歳代	20	55.0	45.0	10.0	-	10.0	-
	50 歳代	25	48.0	24.0	24.0	-	16.0	-
	60 歳代	25	64.0	24.0	24.0	4.0	8.0	-
	70 歳代	48	52.1	50.0	25.0	2.1	6.3	-
	80 歳以上	22	68.2	40.9	13.6	4.5	-	4.5

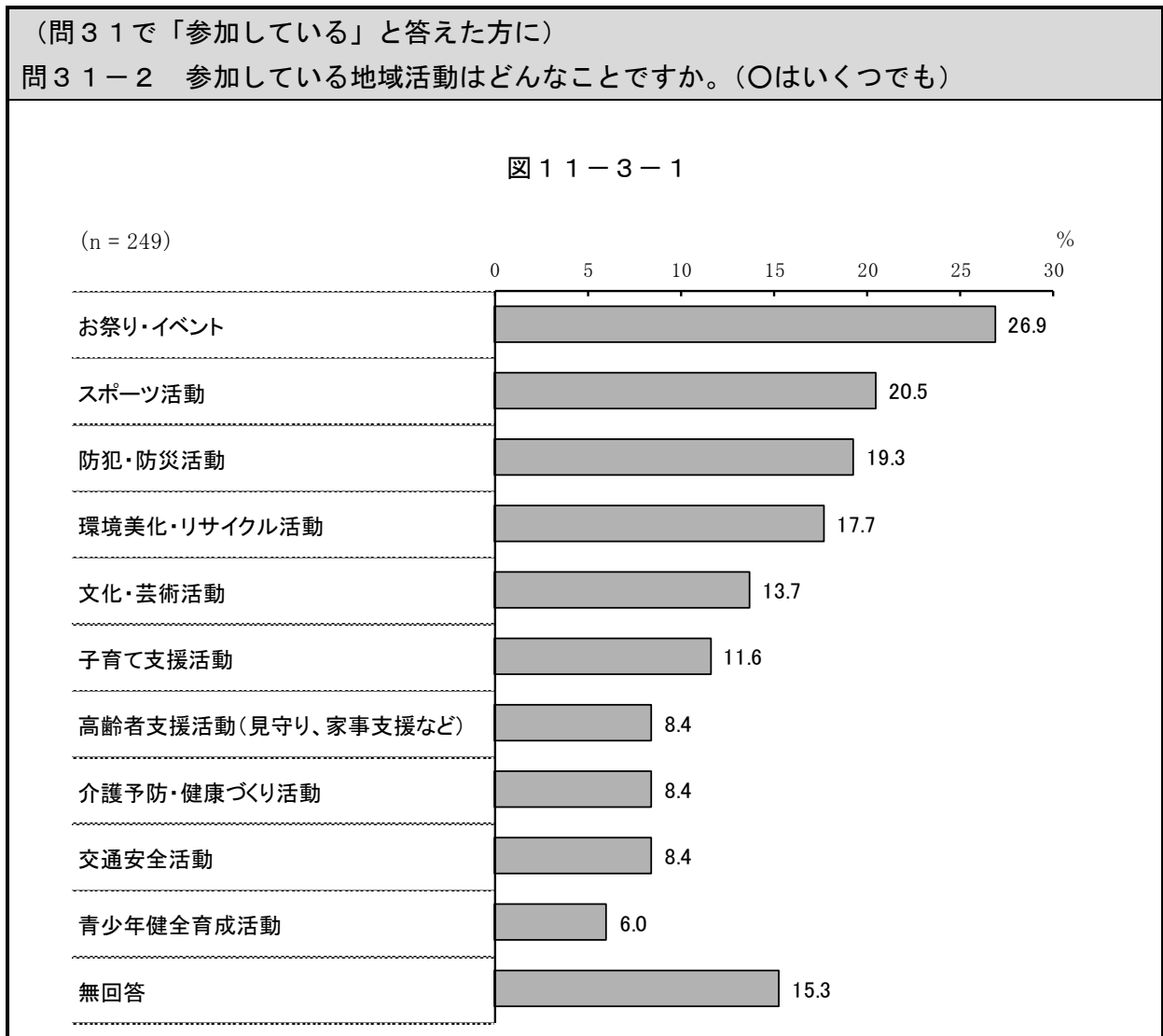
性・年齢別にみると、「町会・自治会などの地域活動」は男性、女性ともに5割を超えている。「文化活動やスポーツなどの地域サークル」は男性、女性ともに4割近くとなっている。

（表 1 1 - 2 - 2）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

(3) 参加している地域活動の種類

◎「お祭り・イベント」が3割近く



地域の活動に参加していると答えた方(249人)に、活動の内容を聞いたところ、「お祭り・イベント」(26.9%)が3割近くと最も高く、以下、「スポーツ活動」(20.5%)、「防犯・防災活動」(19.3%)、「環境美化・リサイクル活動」(17.7%)、「文化・芸術活動」(13.7%)などと続く。(図11-3-1)

表 1 1 - 3 - 1 参加している地域活動の種類（時系列）

区分		（％）											
		有効回答数（件）	お祭り・イベント	スポーツ活動	防犯・防災活動	環境美化・リサイクル活動	文化・芸術活動	子育て支援活動	高齢者支援活動 （見守り、家事支援など）	介護予防・健康づくり活動	交通安全活動	青少年健全育成活動	無回答
時系列	令和 4 年度	249	26.9	20.5	19.3	17.7	13.7	11.6	8.4	8.4	8.4	6.0	15.3
	平成 26 年度	399	36.3	24.1	24.6	16.0	18.5	15.8	7.0	10.8	10.5	6.8	12.8

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「お祭り・イベント」は平成 26 年度（36.3%）から令和 4 年度（26.9%）で減少している。（表 1 1 - 3 - 1）

表 1 1 - 3 - 2 参加している地域活動の種類（性・年齢別）

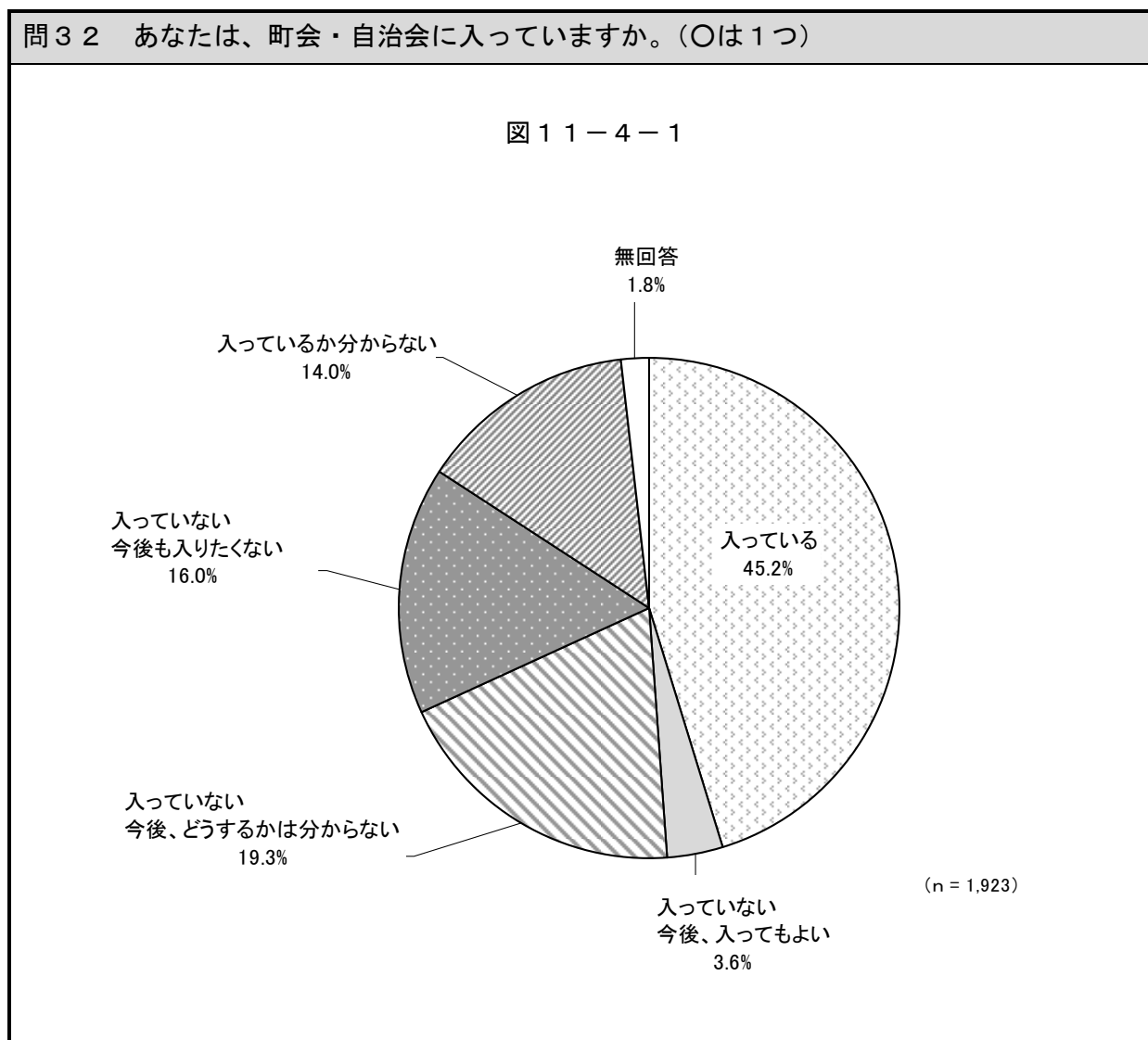
		(%)											
区分	有効回答数 (件)	お祭り・イベント	スポーツ活動	防犯・防災活動	環境美化・リサイクル活動	文化・芸術活動	子育て支援活動	高齢者支援活動（見守り、家事支援など）	介護予防・健康づくり活動	交通安全活動	青少年健全育成活動	無回答	
全体	249	26.9	20.5	19.3	17.7	13.7	11.6	8.4	8.4	8.4	6.0	15.3	
性・年齢別	男性全体	93	33.3	21.5	21.5	19.4	17.2	11.8	6.5	2.2	8.6	5.4	11.8
	10・20 歳代	7	42.9	42.9	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3
	30 歳代	5	20.0	40.0	20.0	-	-	40.0	-	-	-	20.0	-
	40 歳代	9	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	33.3	-	-	-	11.1	22.2
	50 歳代	20	35.0	25.0	20.0	20.0	15.0	20.0	-	-	10.0	5.0	5.0
	60 歳代	17	35.3	5.9	29.4	23.5	23.5	-	5.9	-	11.8	5.9	17.6
	70 歳代	22	31.8	22.7	13.6	22.7	22.7	-	13.6	4.5	4.5	-	13.6
	80 歳以上	13	30.8	7.7	38.5	30.8	23.1	15.4	15.4	7.7	23.1	7.7	7.7
	女性全体	150	23.3	19.3	18.0	17.3	12.0	11.3	10.0	12.7	8.0	6.0	15.3
	10・20 歳代	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	30 歳代	8	25.0	12.5	-	12.5	12.5	37.5	-	-	12.5	-	-
	40 歳代	20	30.0	30.0	15.0	20.0	5.0	10.0	-	5.0	20.0	5.0	15.0
	50 歳代	25	24.0	12.0	24.0	24.0	12.0	16.0	-	4.0	16.0	4.0	16.0
	60 歳代	25	28.0	-	32.0	20.0	8.0	24.0	16.0	8.0	8.0	16.0	12.0
70 歳代	48	16.7	27.1	14.6	14.6	12.5	4.2	18.8	18.8	2.1	4.2	20.8	
80 歳以上	22	22.7	27.3	13.6	13.6	22.7	-	9.1	27.3	-	-	13.6	

性・年齢別にみると、「お祭り・イベント」が男性、女性ともに最も高く、男性が3割を超え、女性が2割を超えている。「防犯・防災活動」で男性が2割を超え、女性が2割近くで、男性の方が高い。（表 1 1 - 3 - 2）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

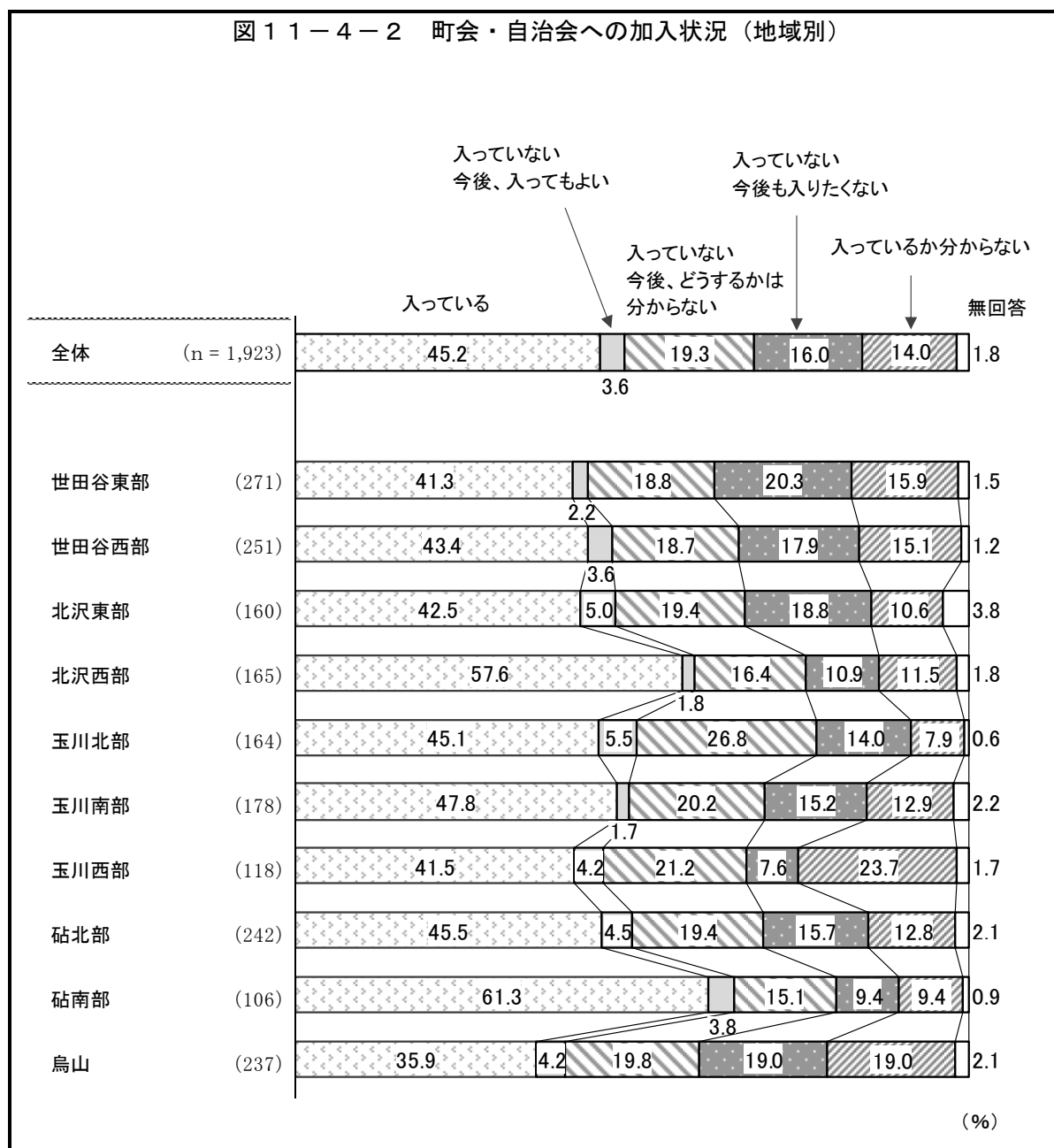
(4) 町会・自治会への加入状況

◎「入っている」が4割半ば

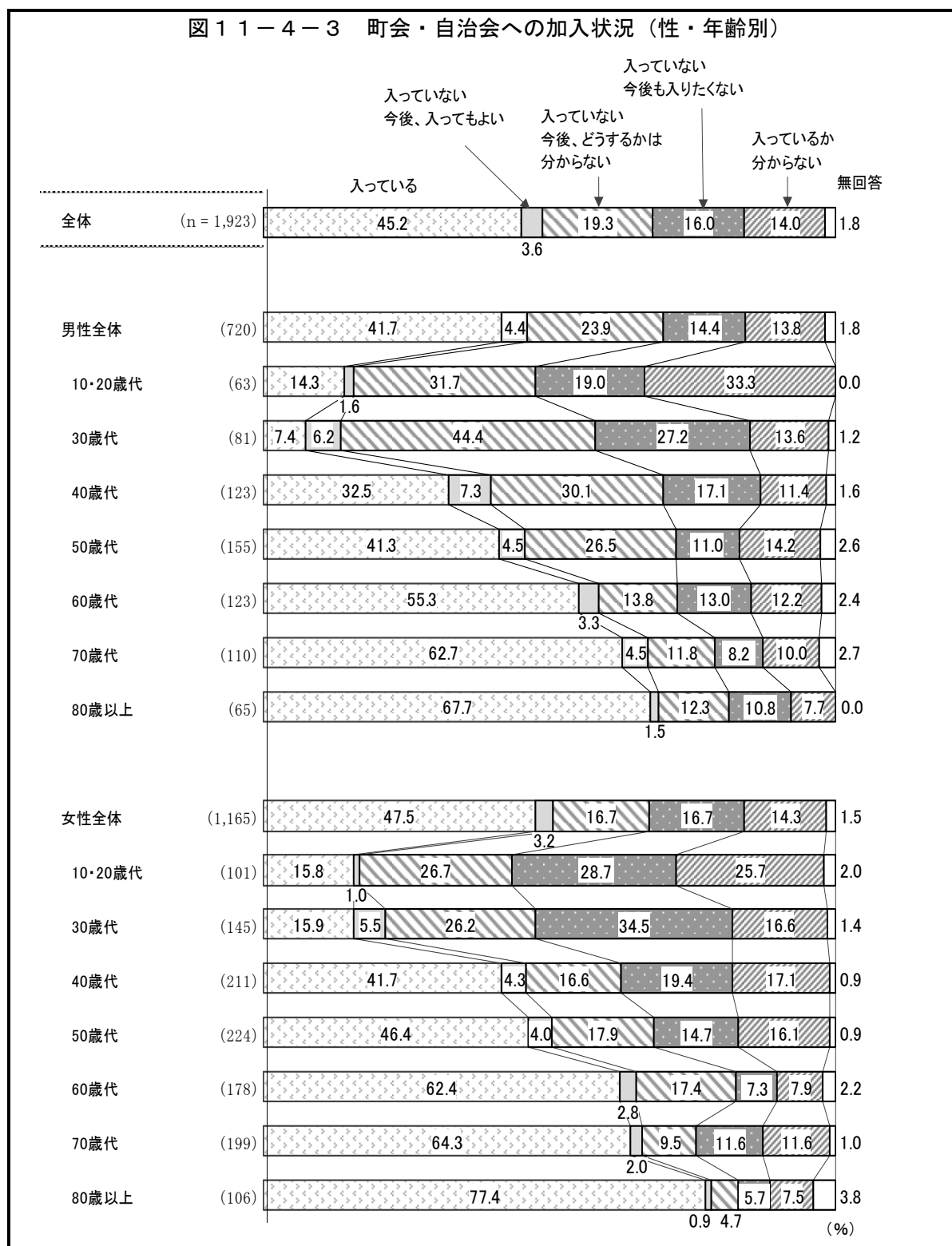


町会・自治会への参加の有無を聞いたところ、「入っている」(45.2%)が4割半ばと最も高く、以下、「入っていない。今後、どうするかは分からない」(19.3%)、「入っていない。今後もしりたくない」(16.0%)、「入っているか分からない」(14.0%)、「入っていない。今後、入ってもよい」(3.6%)と続く。(図11-4-1)

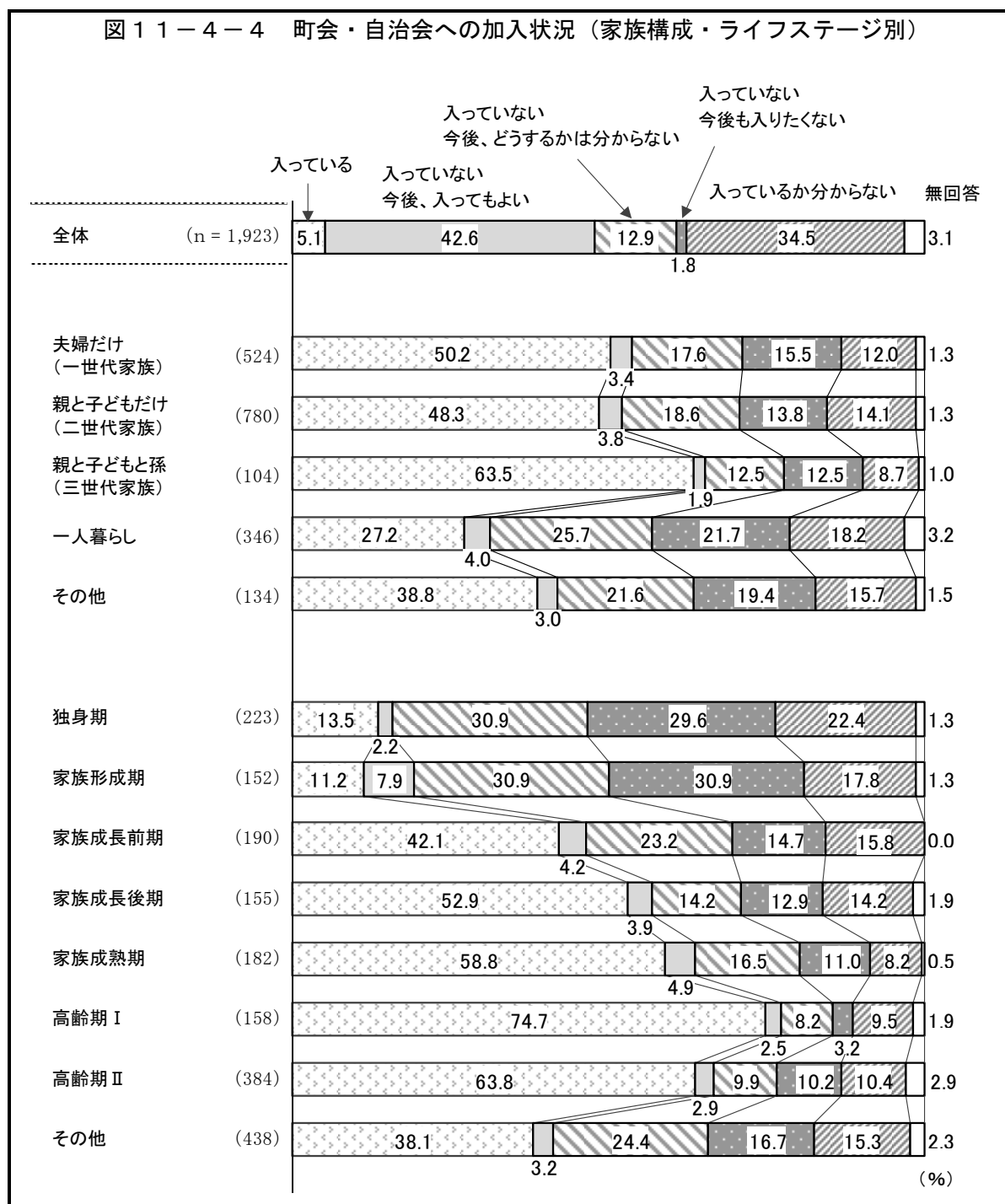
図 1 1 - 4 - 2 町会・自治会への加入状況（地域別）



地域別にみると、「加入している」は砧南部で6割を超え、北沢西部で6割近くとなっている。
 (図 1 1 - 4 - 2)



性・年齢別にみると、「入っている」が男性、女性ともに、年齢が上がるにつれ、高くなる傾向がみられる。（図 1 1 - 4 - 3）



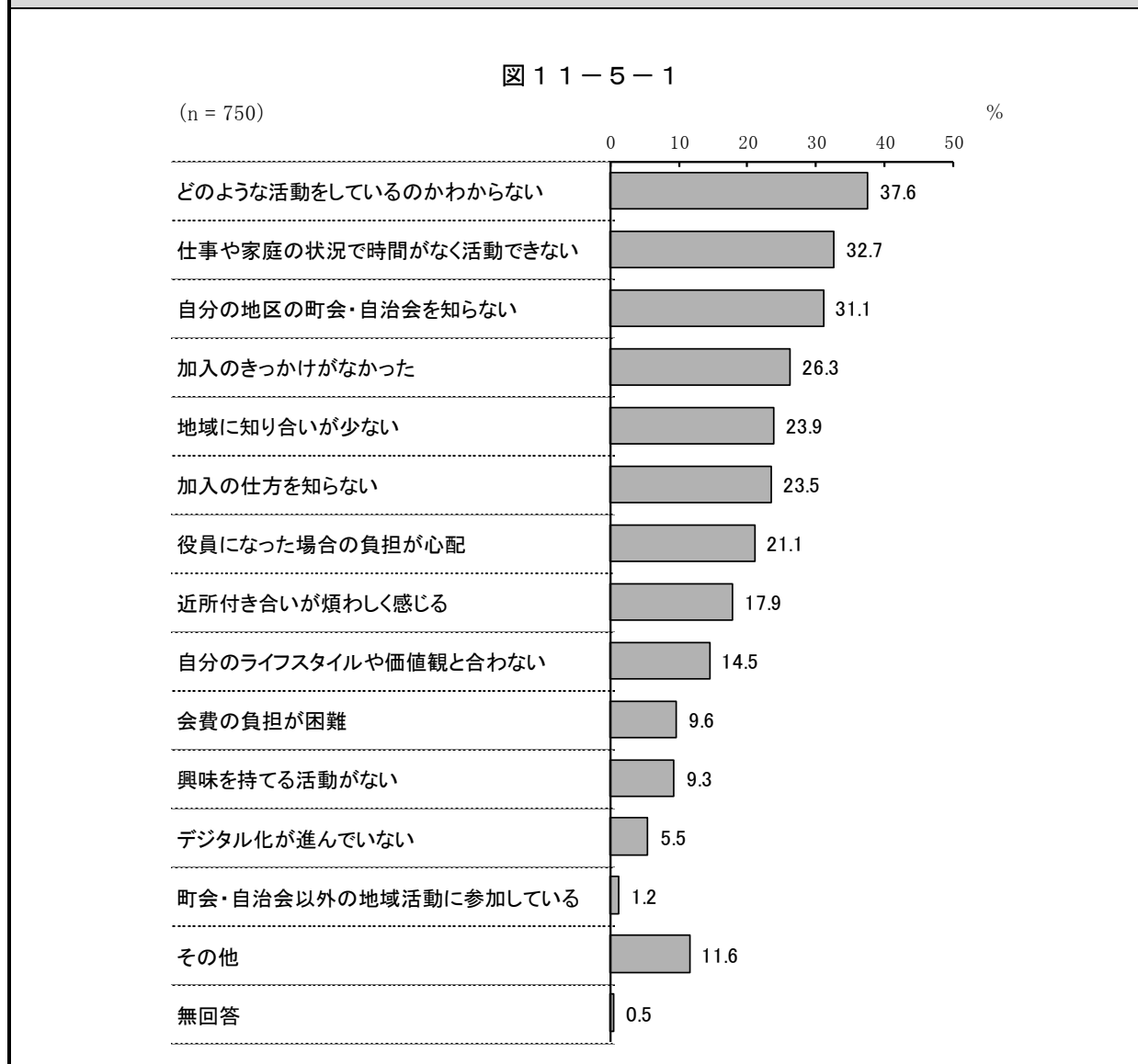
家族構成別にみると、「入っている」は、親と子どもと孫（三世世代家族）で6割を超えている。ライフステージ別にみると、「入っている」は、高齢期 I で7割半ばとなっている。（図 1 1 - 4 - 4）

(5) 町会・自治会に加入しない理由

◎「どのような活動をしているのかわからない」が4割近く

(問32で「入っていない。今後、入ってもよい」「入っていない。今後、どうするかは分からない」「入っていない。今後も入りたくない」と答えた方に)

問32-1 町会・自治会に入っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



町会・自治会に入っていない理由を聞いたところ、「どのような活動をしているのかわからない」(37.6%)が4割近くと最も高く、以下、「仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない」(32.7%)、「自分の地区の町会・自治会を知らない」(31.1%)、「加入のきっかけがなかった」(26.3%)、「地域に知り合いが少ない」(23.9%)などと続く。(図11-5-1)

表 11-5-1 町会・自治会に加入しない理由（地域別）

（%）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	750	どのような活動をしているのかわからない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	自分の地区の町会・自治会を知らない	加入のきっかけがなかった	地域に知り合いが少ない	加入の仕方を知らない	役員になった場合の心配	近所付き合いが煩わしく感じる	自分のライフスタイルや価値観と合わない	会費の負担が困難
		37.6	32.7	31.1	26.3	23.9	23.5	21.1	17.9	14.5	9.6
世田谷部	112	どのような活動をしているのかわからない	自分の地区の町会・自治会を知らない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	加入の仕方を知らない	加入のきっかけがなかった	近所付き合いが煩わしく感じる	地域に知り合いが少ない	役員になった場合の心配	自分のライフスタイルや価値観と合わない	会費の負担が困難
		35.7	34.8	30.4	26.8	23.2	22.3	21.4	17.9	11.6	8.9
世田谷部	101	どのような活動をしているのかわからない	自分の地区の町会・自治会を知らない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	加入の仕方を知らない	加入のきっかけがなかった	地域に知り合いが少ない	自分のライフスタイルや価値観と合わない／近所付き合いが煩わしく感じる／役員になった場合の負担が心配		デジタル化が進んでいない／会費の負担が困難	
		42.6	34.7	31.7	28.7	25.7	17.8		14.9	8.9	
北東 沢部	69	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	自分の地区の町会・自治会を知らない	どのような活動をしているのかわからない	加入のきっかけがなかった	役員になった場合の心配	地域に知り合いが少ない	興味を持てる活動がない／加入の仕方を知らない		自分のライフスタイルや価値観と合わない／近所付き合いが煩わしく感じる	
		40.6	39.1	36.2	26.1	24.6	23.2		17.4	14.5	
北西 沢部	48	どのような活動をしているのかわからない	自分の地区の町会・自治会を知らない	地域に知り合いが少ない／仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない／加入のきっかけがなかった		加入の仕方を知らない	役員になった場合の心配	近所付き合いが煩わしく感じる		自分のライフスタイルや価値観と合わない／会費の負担が困難	
		50.0	45.8			37.5	33.3	22.9	20.8		14.6
玉北 川部	76	どのような活動をしているのかわからない	地域に知り合いが少ない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	加入のきっかけがなかった	役員になった場合の負担が心配／自分の地区の町会・自治会を知らない	加入の仕方を知らない	興味を持てる活動がない／近所付き合いが煩わしく感じる		自分のライフスタイルや価値観と合わない／会費の負担が困難	
		36.8	31.6	30.3	25.0		22.4	21.1		15.8	13.2
玉南 川部	66	どのような活動をしているのかわからない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	自分の地区の町会・自治会を知らない／加入の仕方を知らない		役員になった場合の負担が心配	地域に知り合いが少ない／加入のきっかけがなかった	近所付き合いが煩わしく感じる	自分のライフスタイルや価値観と合わない	興味を持てる活動がない／会費の負担が困難	
		43.9	39.4		27.3	24.2		21.2	18.2	13.6	9.1
玉西 川部	39	どのような活動をしているのかわからない／仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない		加入のきっかけがなかった	地域に知り合いが少ない	自分の地区の町会・自治会を知らない	役員になった場合の負担が心配／加入の仕方を知らない	自分のライフスタイルや価値観と合わない	近所付き合いが煩わしく感じる	加入の仕方を知らない	興味を持てる活動がない
		33.3		28.2	25.6	23.1		17.9	12.8		7.7
砧北部	96	どのような活動をしているのかわからない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	自分の地区の町会・自治会を知らない	加入のきっかけがなかった	役員になった場合の負担が心配	地域に知り合いが少ない	近所付き合いが煩わしく感じる	自分のライフスタイルや価値観と合わない	加入の仕方を知らない	興味を持てる活動がない
		35.4	31.3	27.1	26.0	22.9	21.9	18.8	14.6	13.5	8.3
砧南部	30	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない／加入のきっかけがなかった		どのような活動をしているのかわからない／役員になった場合の負担が心配		加入の仕方を知らない	自分の地区の町会・自治会を知らない	地域に知り合いが少ない／近所付き合いが煩わしく感じる		興味を持てる活動がない／自分のライフスタイルや価値観と合わない／デジタル化が進んでいない	
			40.0		33.3	26.7	23.3		20.0		13.3
烏山	102	どのような活動をしているのかわからない	自分の地区の町会・自治会を知らない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	地域に知り合いが少ない／加入のきっかけがなかった	加入の仕方を知らない	役員になった場合の負担が心配	自分のライフスタイルや価値観と合わない／近所付き合いが煩わしく感じる		会費の負担が困難	
		33.3	32.4	27.5		25.5	24.5	22.5		18.6	10.8

地域別にみると、「どのような活動をしているのかわからない」は10地域中8地域で1位以上に挙げられている。「仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない」はすべての地域で3位以内に挙げられている。（表11-5-1）

表 1 1 - 5 - 2 町会・自治会に加入しない理由（性・年齢別） (%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	750	どのような活動をしているのかわからない 37.6	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 32.7	自分の地区の町会・自治会を知らない 31.1	加入のきっかけがなかった 26.3	地域に知り合いが少ない 23.9	加入の仕方を知らない 23.5	役員になった場合の負担が心配 21.1	近所付き合いが煩わしく感じる 17.9	自分のライフスタイルや価値観と合わない 14.5	会費の負担が困難 9.6
男性全体	308	どのような活動をしているのかわからない 39.9	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 29.5	自分の地区の町会・自治会を知らない 28.2	地域に知り合いが少ない／加入のきっかけがなかった 26.0	地域に知り合いが少ない 26.0	役員になった場合の負担が心配／加入の仕方を知らない 21.4	役員になった場合の負担が心配 21.4	自分のライフスタイルや価値観と合わない 17.5	近所付き合いが煩わしく感じる 15.3	興味を持てない／活動がない 10.4
10・20歳代	33	どのような活動をしているのかわからない 48.5	加入のきっかけがなかった 30.3	加入の仕方を知らない 27.3	自分の地区の町会・自治会を知らない 24.2	自分のライフスタイルや価値観と合わない／地域に知り合いが少ない／役員になった場合の負担が心配 21.2	自分のライフスタイルや価値観と合わない 21.2	役員になった場合の負担が心配 21.2	興味を持てない／活動がない／会費の負担が困難 15.2	近所付き合いが煩わしく感じる 15.2	デジタル化が進んでいない／仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 6.1
30歳代	63	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 41.3	どのような活動をしているのかわからない 38.1	加入のきっかけがなかった 34.9	地域に知り合いが少ない 33.3	自分の地区の町会・自治会を知らない 30.2	役員になった場合の負担が心配 28.6	加入の仕方を知らない 27.0	近所付き合いが煩わしく感じる 23.8	自分のライフスタイルや価値観と合わない 17.5	デジタル化が進んでいない／会費の負担が困難 14.3
40歳代	67	どのような活動をしているのかわからない 44.8	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 32.8	自分の地区の町会・自治会を知らない 26.9	加入の仕方を知らない 25.4	地域に知り合いが少ない 25.4	役員になった場合の負担が心配 22.4	加入のきっかけがなかった 20.9	自分のライフスタイルや価値観と合わない 14.9	デジタル化が進んでいない／近所付き合いが煩わしく感じる 14.9	9.0
50歳代	65	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 43.1	どのような活動をしているのかわからない 40.0	加入のきっかけがなかった 29.2	自分の地区の町会・自治会を知らない 27.7	地域に知り合いが少ない 26.2	役員になった場合の負担が心配 21.5	自分のライフスタイルや価値観と合わない 20.0	近所付き合いが煩わしく感じる 15.4	興味を持てない／活動がない 13.8	13.8
60歳代	37	どのような活動をしているのかわからない 32.4	自分の地区の町会・自治会を知らない 27.0	地域に知り合いが少ない 24.3	加入のきっかけがなかった 24.3	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 21.6	自分のライフスタイルや価値観と合わない 21.6	近所付き合いが煩わしく感じる 18.9	興味を持てない 10.8	加入の仕方を知らない 8.1	8.1
70歳代	27	どのような活動をしているのかわからない 48.1	自分の地区の町会・自治会を知らない 40.7	地域に知り合いが少ない 25.9	加入のきっかけがなかった 22.2	自分のライフスタイルや価値観と合わない／近所付き合いが煩わしく感じる 22.2	自分のライフスタイルや価値観と合わない／近所付き合いが煩わしく感じる 18.5	役員になった場合の負担が心配 11.1	興味を持てない 7.4	デジタル化が進んでいない 7.4	7.4
80歳以上	16	地域に知り合いが少ない 25.0	近所付き合いが煩わしく感じる 18.8	どのような活動をしているのかわからない 18.8	自分のライフスタイルや価値観と合わない 18.8	加入の仕方を知らない 12.5	自分のライフスタイルや価値観と合わない 12.5	近所付き合いが煩わしく感じる 6.3	会費の負担が困難 6.3	-	-
女性全体	427	どのような活動をしているのかわからない 36.1	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 35.1	自分の地区の町会・自治会を知らない 33.5	加入のきっかけがなかった 26.2	加入の仕方を知らない 24.8	地域に知り合いが少ない 22.0	役員になった場合の負担が心配 20.8	近所付き合いが煩わしく感じる 19.7	自分のライフスタイルや価値観と合わない 12.2	会費の負担が困難 9.8
10・20歳代	57	どのような活動をしているのかわからない 59.6	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 36.8	加入のきっかけがなかった 35.1	加入の仕方を知らない 33.3	自分の地区の町会・自治会を知らない 29.8	地域に知り合いが少ない 26.3	近所付き合いが煩わしく感じる 17.5	会費の負担が困難 15.8	自分のライフスタイルや価値観と合わない 14.0	役員になった場合の負担が心配 14.0
30歳代	96	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 42.7	どのような活動をしているのかわからない 38.5	加入の仕方を知らない 34.4	加入のきっかけがなかった 32.3	自分の地区の町会・自治会を知らない 31.3	地域に知り合いが少ない 29.2	自分のライフスタイルや価値観と合わない 20.8	会費の負担が困難 18.8	自分のライフスタイルや価値観と合わない 18.8	会費の負担が困難 18.8
40歳代	85	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 38.8	どのような活動をしているのかわからない 36.5	加入の仕方を知らない 27.1	役員になった場合の負担が心配 27.1	加入の仕方を知らない 25.9	近所付き合いが煩わしく感じる 21.2	地域に知り合いが少ない 18.8	自分のライフスタイルや価値観と合わない 10.6	会費の負担が困難 10.6	10.6
50歳代	82	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 40.2	自分の地区の町会・自治会を知らない 35.4	どのような活動をしているのかわからない 29.3	加入の仕方を知らない 28.0	加入のきっかけがなかった 24.4	近所付き合いが煩わしく感じる 22.0	地域に知り合いが少ない 18.3	自分のライフスタイルや価値観と合わない 8.5	興味を持てない 6.1	6.1
60歳代	49	自分の地区の町会・自治会を知らない 38.8	どのような活動をしているのかわからない 22.4	加入のきっかけがなかった 20.4	役員になった場合の負担が心配 20.4	加入の仕方を知らない 16.3	地域に知り合いが少ない 14.3	興味を持てない 12.2	近所付き合いが煩わしく感じる 8.2	自分のライフスタイルや価値観と合わない 6.1	自分のライフスタイルや価値観と合わない 4.1
70歳代	46	どのような活動をしているのかわからない 32.6	自分の地区の町会・自治会を知らない 30.4	地域に知り合いが少ない 26.1	近所付き合いが煩わしく感じる 23.9	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない 15.2	興味を持てない 13.0	役員になった場合の負担が心配 13.0	自分のライフスタイルや価値観と合わない 10.9	会費の負担が困難 4.3	加入の仕方を知らない 4.3
80歳以上	12	近所付き合いが煩わしく感じる 33.3	加入のきっかけがなかった 25.0	どのような活動をしているのかわからない 16.7	自分のライフスタイルや価値観と合わない 16.7	加入の仕方を知らない 8.3	自分のライフスタイルや価値観と合わない 8.3	-	-	-	-

性・年齢別にみると、「どのような活動をしているのかわからない」が男性女性ともに80歳以上を除き、どの年代でも上位3位以内に入っている。なお、基数が30に満たない層については参考値とする。（表1 1 - 5 - 2）

表 1 1 - 5 - 3 町会・自治会に加入しない理由（家族構成・ライフステージ別）

（％）

区分	n	どのような活動をしているのかわからない	仕事や家庭の状況で時間がなく活動できない	自分の地区の町会・自治会を知らない	加入のきっかけがなかった	地域に知り合いが少ない	加入の仕方を知らない	役員になった場合の負担が心配	近所付き合いが煩わしく感じる	自分のライフスタイルや価値観と合わない	会費の負担が困難	興味を持てない活動がない	デジタル化が進んでいない	町会・自治会以外の地域活動に参加している	その他	無回答	
全体	750	37.6	32.7	31.1	26.3	23.9	23.5	21.1	17.9	14.5	9.6	9.3	5.5	1.2	11.6	0.5	
家族構成別	夫婦だけ （一世代家族）	191	35.6	34.6	31.9	24.6	23.6	22.0	22.5	20.4	18.3	8.4	10.5	6.3	1.6	12.0	0.5
	親と子どもだけ （二世代家族）	283	34.3	35.7	28.6	27.9	18.0	24.4	25.1	15.9	12.0	8.1	8.5	4.9	1.1	12.0	0.7
	親と子どもと孫 （三世代家族）	28	42.9	35.7	21.4	7.1	17.9	7.1	25.0	17.9	10.7	25.0	14.3	-	7.1	-	
	一人暮らし	178	43.3	24.2	38.2	28.7	34.3	27.0	17.4	20.8	14.6	12.9	9.0	2.8	0.6	10.7	0.6
	その他	59	39.0	39.0	22.0	25.4	23.7	20.3	8.5	10.2	10.2	10.2	5.1	10.2	3.4	10.2	-
ライフステージ別	独身期	140	48.6	29.3	30.7	32.1	32.9	32.9	18.6	15.7	19.3	16.4	14.3	6.4	-	5.7	-
	家族形成期	106	40.6	43.4	30.2	34.0	24.5	30.2	28.3	21.7	16.0	14.2	7.5	8.5	1.9	4.7	-
	家族成長前期	80	35.0	38.8	26.3	30.0	17.5	22.5	32.5	11.3	11.3	8.8	8.8	7.5	-	16.3	-
	家族成長後期	48	18.8	43.8	29.2	22.9	16.7	27.1	31.3	25.0	18.8	14.6	14.6	4.2	-	16.7	-
	家族成熟期	59	37.3	33.9	22.0	20.3	18.6	22.0	10.2	10.2	10.2	1.7	11.9	6.8	1.7	15.3	-
	高齢期Ⅰ	22	22.7	18.2	31.8	22.7	27.3	13.6	18.2	9.1	-	4.5	4.5	-	9.1	9.1	4.5
	高齢期Ⅱ	88	33.0	13.6	33.0	14.8	22.7	8.0	13.6	20.5	13.6	3.4	9.1	2.3	1.1	23.9	1.1
その他	194	38.1	35.1	37.6	25.3	24.2	22.2	20.1	19.1	12.9	7.2	4.6	4.6	1.0	9.8	1.0	

家族構成別にみると、「どのような活動をしているのかわからない」は、一人暮らしで4割を超えている。

ライフステージ別にみると、「どのような活動をしているのかわからない」は、独身期で5割近くとなっている。（表 1 1 - 5 - 3）

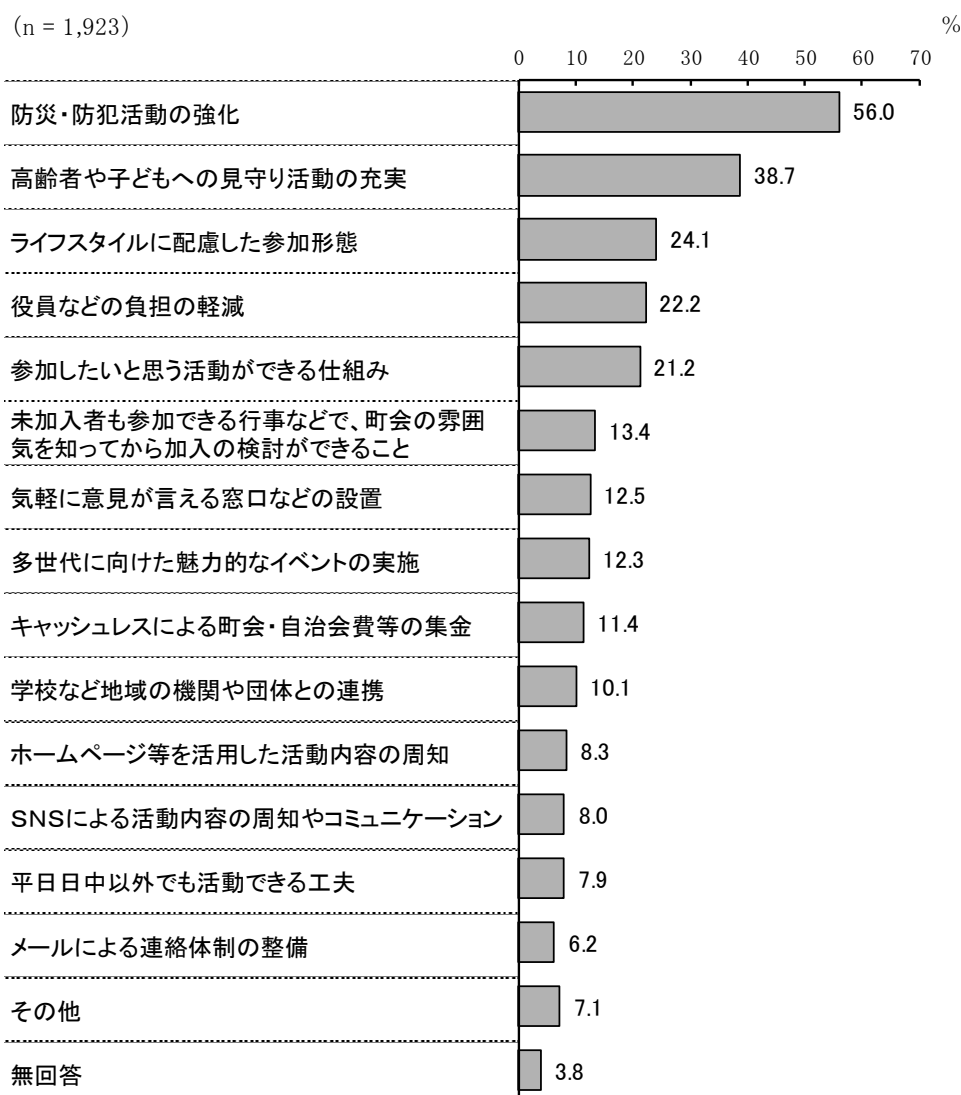
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

(6) 町会・自治会に期待するもの

◎「防災・防犯活動の強化」が5割半ば

問33 町会・自治会に期待するものは何ですか。(〇はいくつでも)

図11-6-1



町会・自治会に期待するものを聞いたところ、「防災・防犯活動の強化」(56.0%)が5割半ばと最も高く、以下、「高齢者や子どもへの見守り活動の充実」(38.7%)、「ライフスタイルに配慮した参加形態」(24.1%)、「役員などの負担の軽減」(22.2%)、「参加したいと思う活動ができる仕組み」(21.2%)などと続く。(図11-6-1)

表 1 1 - 6 - 1 町会・自治会に期待するもの（地域別）

(%)											
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	防災・防犯活動の強化 56.0	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 38.7	ライフスタイルに配慮した参加形態 24.1	役員などの負担軽減 22.2	参加したいと思う活動ができる仕組み 21.2	町会の券を知ってからの加入ができること 13.4	気軽に意見が言える窓口などの設置 12.5	多世代に力を入れたイベントの実施 12.3	キャッシュレスによる自治会費等の集金 11.4	学校など地域の機関や団体との連携 10.1
世田谷部	271	防災・防犯活動の強化 56.8	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 32.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 22.5	役員などの負担軽減 20.3	参加したいと思う活動ができる仕組み 18.8	多世代に力を入れたイベントの実施 13.7	キャッシュレスによる自治会費等の集金 11.1	町会の券を知ってからの加入ができること 10.0	学校など地域の機関や団体との連携 8.9	平日でも活工軽ができる意見窓口に言えるなどの設置 8.5
世田谷部	251	防災・防犯活動の強化 51.8	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 37.1	参加したいと思う活動ができる仕組み 23.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 23.1	役員などの負担軽減 20.3	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 10.8	キャッシュレスによる自治会費等の集金／気軽に意見が言える窓口などの設置 10.4	町会の券を知ってからの加入ができること 9.6	学校など地域の機関や団体との連携 8.4	
北沢部	160	防災・防犯活動の強化 53.1	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 42.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 28.8	役員などの負担軽減 20.0	参加したいと思う活動ができる仕組み 19.4	キャッシュレスによる自治会費等の集金 15.0	町会の券を知ってからの加入ができること 14.4	気軽に意見が言える窓口などの設置 11.3	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 10.6	多世代に力を入れたイベントの実施 9.4
北沢部	165	防災・防犯活動の強化 60.6	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 44.8	役員などの負担軽減 27.3	参加したいと思う活動ができる仕組み 26.7	ライフスタイルに配慮した参加形態 24.8	気軽に意見が言える窓口などの設置 16.4	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／町会の券を知ってからの加入の検討ができること 14.5	キャッシュレスによる自治会費等の集金 13.3	学校など地域の機関や団体との連携 12.1	
玉川部	164	防災・防犯活動の強化 55.5	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 38.4	役員などの負担軽減 23.2	参加したいと思う活動ができる仕組み 22.0	ライフスタイルに配慮した参加形態 21.3	気軽に意見が言える窓口などの設置 14.0	町会の券を知ってからの加入の検討ができること 13.4	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／キャッシュレスによる自治会費等の集金 11.6	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 11.0	
玉川部	178	防災・防犯活動の強化 55.6	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 38.2	ライフスタイルに配慮した参加形態 27.0	役員などの負担軽減 23.0	参加したいと思う活動ができる仕組み／町会の券を知ってからの加入の検討ができること 20.2	キャッシュレスによる自治会費等の集金 14.0	気軽に意見が言える窓口などの設置 13.5	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 12.9	学校など地域の機関や団体との連携 11.2	
玉川部	118	防災・防犯活動の強化 52.5	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 39.0	参加したいと思う活動ができる仕組み 22.0	ライフスタイルに配慮した参加形態 16.9	気軽に意見が言える窓口などの設置／町会の券を知ってからの加入の検討ができること 16.1	役員などの負担軽減 14.4	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／平日日中以外でも活動できる工夫 12.7	学校など地域の機関や団体との連携 11.9		
砧北部	242	防災・防犯活動の強化 59.5	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 43.0	ライフスタイルに配慮した参加形態 23.6	参加したいと思う活動ができる仕組み 21.9	役員などの負担軽減 20.7	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／町会の券を知ってからの加入の検討ができること 12.8	キャッシュレスによる自治会費等の集金 12.0	気軽に意見が言える窓口などの設置 11.6	学校など地域の機関や団体との連携 10.7	
砧南部	106	防災・防犯活動の強化 59.4	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 42.5	役員などの負担軽減 33.0	参加したいと思う活動ができる仕組み 24.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 23.6	気軽に意見が言える窓口などの設置／町会の券を知ってからの加入の検討ができること 17.9	キャッシュレスによる自治会費等の集金 13.2	メールによる連絡体制の整備 11.3	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／学校など地域の機関や団体との連携 10.4	
烏山	237	防災・防犯活動の強化 56.5	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 35.4	ライフスタイルに配慮した参加形態 27.8	役員などの負担軽減 22.4	参加したいと思う活動ができる仕組み 16.0	町会の券を知ってからの加入の検討ができること 12.7	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／気軽に意見が言える窓口などの設置 11.8	学校など地域の機関や団体との連携 9.7	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 9.3	

地域別にみると、すべての地域で「防災・防犯活動の強化」は1位に、「高齢者や子どもへの見守り活動の充実」は2位に挙げられている。（表 1 1 - 6 - 1）

表 1 1 - 6 - 2 町会・自治会に期待するもの（性・年齢別）

（%）

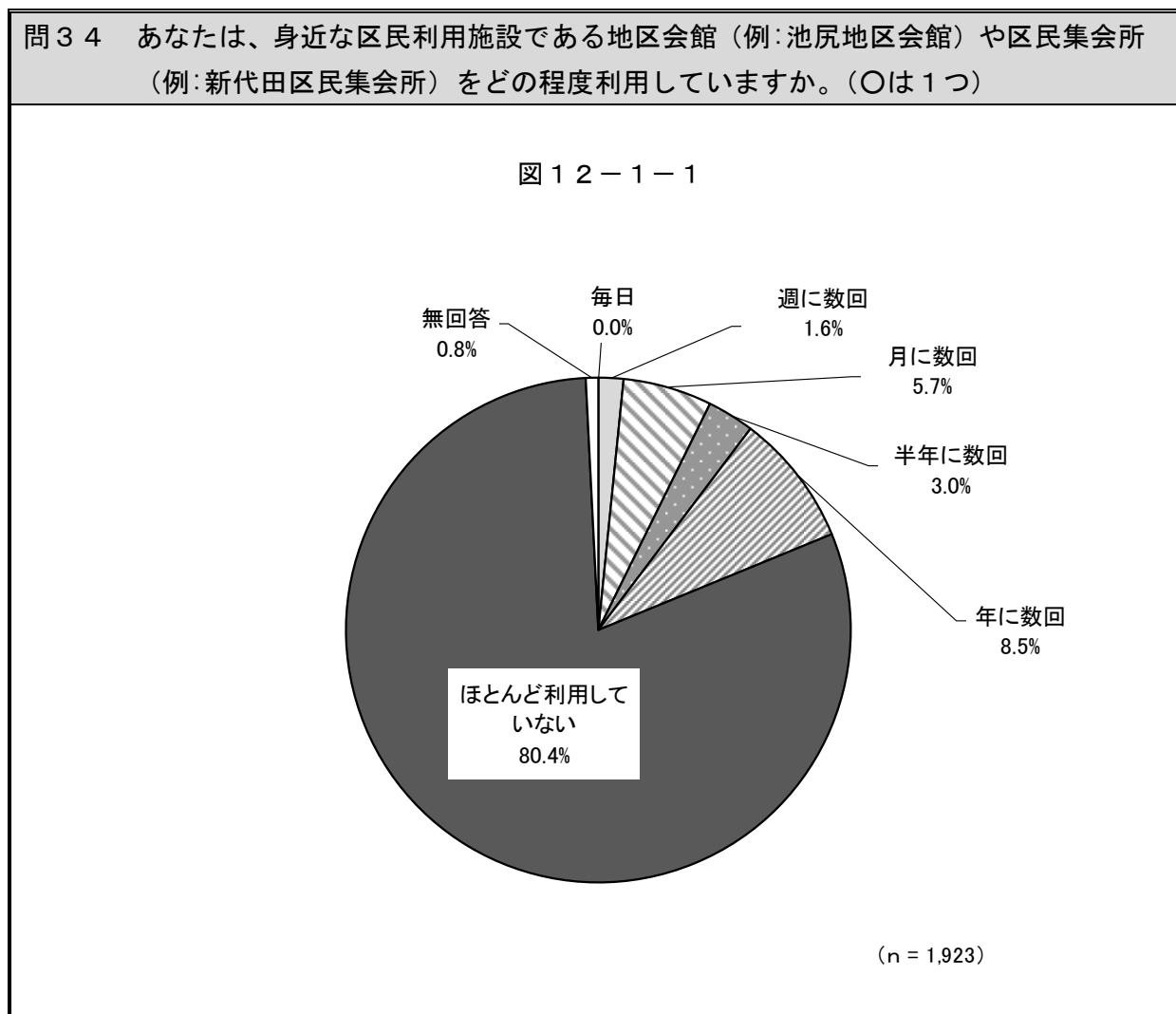
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	防災・防犯活動の強化 56.0	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 38.7	ライフスタイルに配慮した参加形態 24.1	役員などの負担の軽減 22.2	参加したいと思う活動ができる仕組み 21.2	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 13.4	気軽に意見を言える窓口などの設置 12.5	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 12.3	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 11.4	学校など地域や地域の連携 10.1
男性全体	720	防災・防犯活動の強化 55.0	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 37.2	ライフスタイルに配慮した参加形態 22.1	役員などの負担の軽減 20.1	参加したいと思う活動ができる仕組み 19.7	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 11.9	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 11.5	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 11.3	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 11.3	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 10.1
10・20歳代	63	防災・防犯活動の強化 36.5	参加したいと思う活動ができる仕組み 27.0	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション／ライフスタイルに配慮した参加形態 22.2	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 22.2	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 20.6	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／役員などの負担の軽減 14.3	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 11.1	気軽に意見を言える窓口などの設置 9.5	学校など地域や地域の連携 6.3	
30歳代	81	防災・防犯活動の強化 45.7	ライフスタイルに配慮した参加形態 33.3	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 32.1	参加したいと思う活動ができる仕組み 28.4	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 19.8	役員などの負担の軽減／平日日中以外でも活動できる工夫 18.5	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション／町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 17.3	気軽に意見を言える窓口などの設置 14.8		
40歳代	123	防災・防犯活動の強化 54.5	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 35.8	ライフスタイルに配慮した参加形態 28.5	役員などの負担の軽減 21.1	参加したいと思う活動ができる仕組み 17.9	平日日中以外でも活動できる工夫 14.6	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 13.8	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 13.0	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 9.8	学校など地域や地域の連携 8.9
50歳代	155	防災・防犯活動の強化 58.1	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 39.4	役員などの負担の軽減 26.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 24.5	参加したいと思う活動ができる仕組み 21.3	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 14.2	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金／気軽に意見を言える窓口などの設置 12.9	メールによる連絡体制の整備 12.3	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション 11.0	
60歳代	123	防災・防犯活動の強化 65.0	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 43.9	役員などの負担の軽減 24.4	ライフスタイルに配慮した参加形態 22.0	参加したいと思う活動ができる仕組み 17.1	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 13.0	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金／町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 9.8	学校など地域や地域の連携 8.9	ホームページ等を活用した活動内容の周知 8.1	
70歳代	110	防災・防犯活動の強化 56.4	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 40.0	参加したいと思う活動ができる仕組み 16.4	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 15.5	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 14.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 13.6	ホームページ等を活用した活動内容の周知 12.7	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 10.9		
80歳以上	65	防災・防犯活動の強化 56.9	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 40.0	気軽に意見を言える窓口などの設置 13.8	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金／参加したいと思う活動ができる仕組み 12.3	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 10.8	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 7.7	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 3.1	メールによる連絡体制の整備／ライフスタイルに配慮した参加形態／平日日中以外でも活動できる工夫 3.1		
女性全体	1,165	防災・防犯活動の強化 57.3	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 39.9	ライフスタイルに配慮した参加形態 25.9	役員などの負担の軽減 23.6	参加したいと思う活動ができる仕組み 22.1	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 14.3	気軽に意見を言える窓口などの設置 13.1	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 12.9	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 11.6	学校など地域や地域の連携 10.2
10・20歳代	101	防災・防犯活動の強化 46.5	ライフスタイルに配慮した参加形態 30.7	参加したいと思う活動ができる仕組み 28.7	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 27.7	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 18.8	役員などの負担の軽減 17.8	SNSによる活動内容の周知やコミュニケーション／気軽に意見を言える窓口などの設置 13.9	学校など地域や地域の連携 11.9		
30歳代	145	防災・防犯活動の強化 53.1	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 44.1	ライフスタイルに配慮した参加形態 35.9	参加したいと思う活動ができる仕組み 26.2	役員などの負担の軽減 23.4	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 19.3	学校など地域や地域の連携 13.8	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 12.4	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 10.3	平日日中以外でも活動できる工夫／気軽に意見を言える窓口などの設置 7.6
40歳代	211	防災・防犯活動の強化 56.9	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 40.3	ライフスタイルに配慮した参加形態 29.9	役員などの負担の軽減 28.9	参加したいと思う活動ができる仕組み 24.6	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金／町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 15.6	学校など地域や地域の連携 14.2	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 11.4	気軽に意見を言える窓口などの設置 10.9	
50歳代	224	防災・防犯活動の強化 64.3	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 40.2	ライフスタイルに配慮した参加形態 30.4	役員などの負担の軽減 29.9	参加したいと思う活動ができる仕組み 17.0	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 16.5	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 12.5	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 11.6	ホームページ等を活用した活動内容の周知 11.2	
60歳代	178	防災・防犯活動の強化 57.3	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 40.4	役員などの負担の軽減 25.3	参加したいと思う活動ができる仕組み 21.9	ライフスタイルに配慮した参加形態 20.8	気軽に意見を言える窓口などの設置 12.9	ホームページ等を活用した活動内容の周知 10.7	学校など地域や地域の連携／町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 10.1	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 9.6	
70歳代	199	防災・防犯活動の強化 58.3	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 43.2	参加したいと思う活動ができる仕組み 20.6	ライフスタイルに配慮した参加形態／町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 18.1	役員などの負担の軽減 17.6	多世代に向けた魅力的なイベントの実施 15.6	気軽に意見を言える窓口などの設置 14.1	ホームページ等を活用した活動内容の周知 8.5	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 8.0	
80歳以上	106	防災・防犯活動の強化 58.5	高齢者や子どもへの見守り活動の充実 37.7	参加したいと思う活動ができる仕組み 18.9	多世代に向けた魅力的なイベントの実施／気軽に意見を言える窓口などの設置 15.1	ライフスタイルに配慮した参加形態 14.2	役員などの負担の軽減 13.2	キャッシュレスによる町会・自治会費等の集金 10.4	学校など地域や地域の連携 7.5	町会の雰囲気を知ってからの加入の検討ができる 6.6	

性・年齢別にみると、「防災・防犯活動の強化」が、どの年代でも1位に挙げられている。
（表 1 1 - 6 - 2）

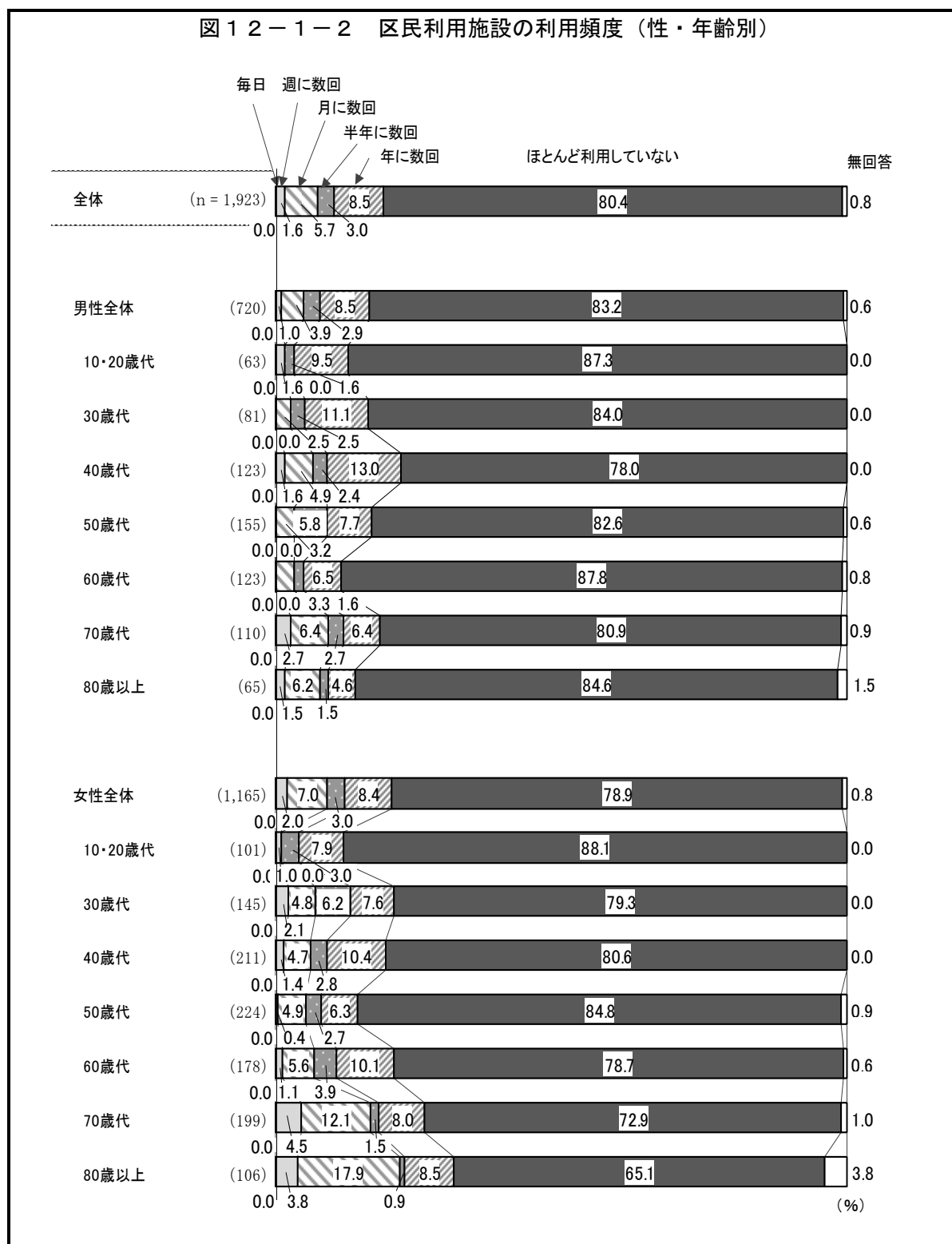
12. 公共施設

(1) 区民利用施設の利用頻度

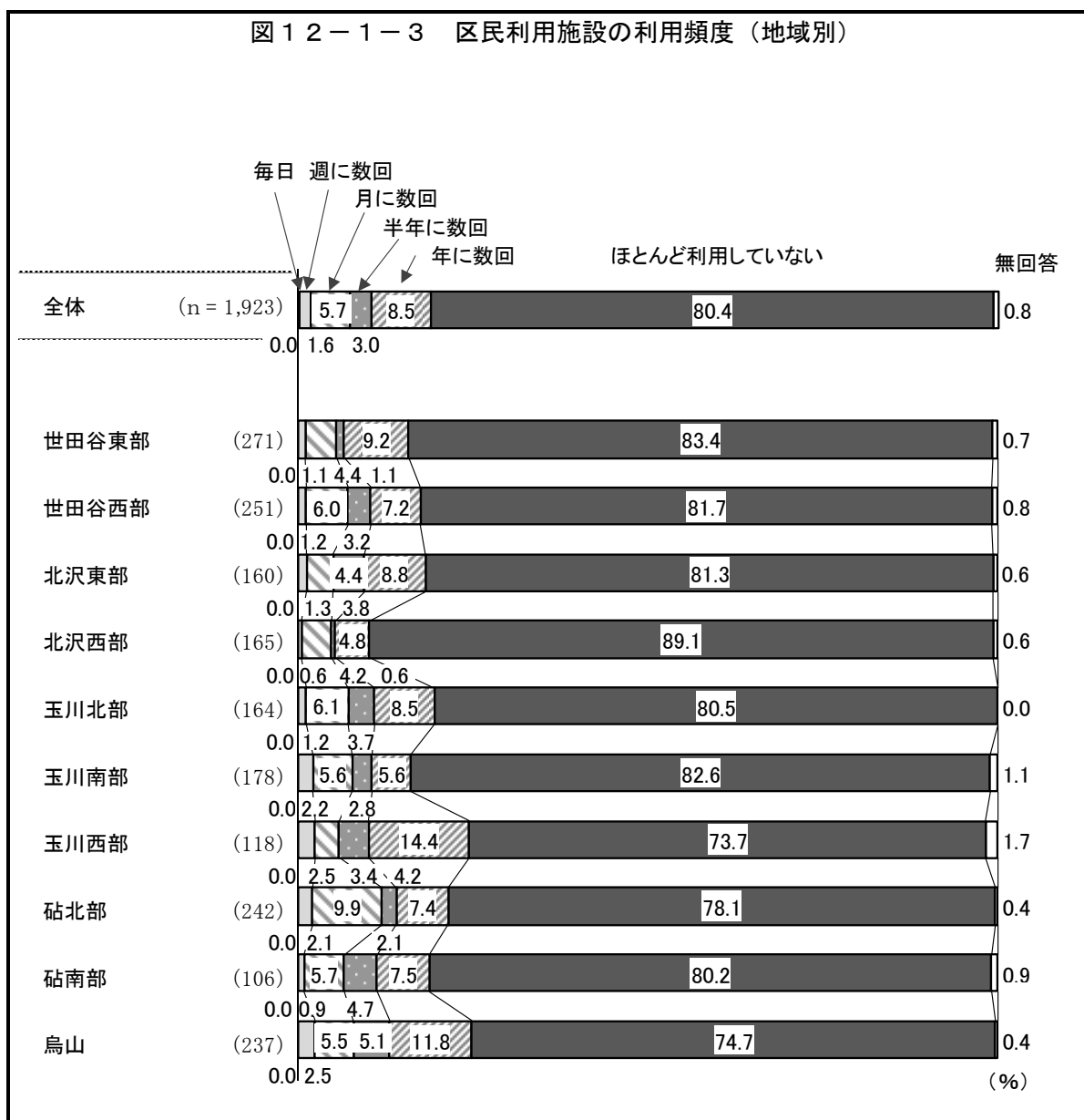
◎「ほとんど利用していない」が8割



区民利用施設の利用頻度を聞いたところ、「ほとんど利用していない」（80.4%）が8割となっている。「年に数回」（8.5%）、「月に数回」（5.7%）、「半年に数回」（3.0%）、「週に数回」（1.6%）と続いている。（図12-1-1）



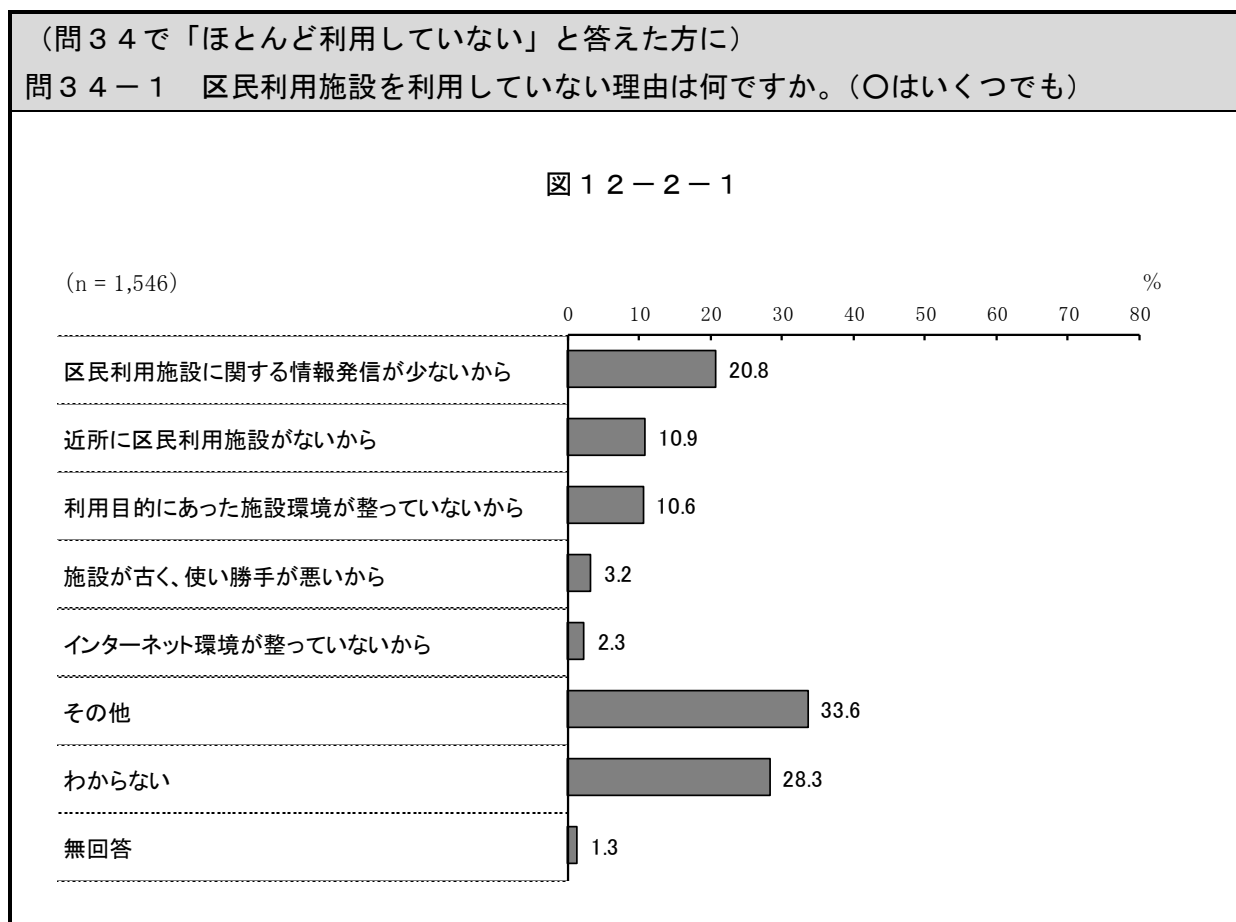
性・年齢別にみると、「月に数回」は女性の80歳以上で2割近く、女性70歳代で1割を超えている。（図 1 2 - 1 - 2）



地域別にみると、「年に数回」は玉川西部で1割半ば、烏山で1割を超えている。
(図 1 2 - 1 - 3)

(2) 区民利用施設を利用しない理由

◎ 「区民利用施設に関する情報発信が少ないから」がほぼ2割



区民利用施設を利用しない理由を聞いたところ、「区民利用施設に関する情報発信が少ないから」(20.8%)が2割を超えている。次いで、「近所に区民利用施設がないから」(10.9%)、「利用目的にあった施設環境が整っていないから」(10.6%)、「施設が古く、使い勝手が悪いから」(3.2%)、「インターネット環境が整っていないから」(2.3%)などと続いている。

(図12-2-1)

表 1 2 - 2 - 1 区民利用施設を利用しない理由（性・年齢別）

区分		n	区民利用施設に関する 情報発信が少ないから	近所に区民利用施設がないから	利用目的にあった施設環境が 整っていないから	施設が古く、使い勝手が悪いから	インターネット環境が整って いないから	その他	わからない	無回答
全 体		1,546	20.8	10.9	10.6	3.2	2.3	33.6	28.3	1.3
性・ 年齢別	男性全体	599	20.9	10.2	13.4	3.8	2.8	32.1	27.9	0.7
	10・20 歳代	55	9.1	10.9	14.5	9.1	5.5	21.8	43.6	-
	30 歳代	68	19.1	10.3	26.5	5.9	7.4	20.6	26.5	1.5
	40 歳代	96	21.9	6.3	15.6	3.1	2.1	30.2	30.2	2.1
	50 歳代	128	21.9	7.8	10.2	3.1	1.6	35.2	28.1	-
	60 歳代	108	24.1	7.4	10.2	3.7	2.8	39.8	24.1	-
	70 歳代	89	24.7	16.9	14.6	2.2	1.1	27.0	22.5	1.1
	80 歳以上	55	18.2	16.4	3.6	1.8	1.8	45.5	25.5	-
	女性全体	919	20.6	11.3	8.9	2.7	2.0	34.7	28.4	1.5
	10・20 歳代	89	9.0	14.6	7.9	2.2	3.4	32.6	38.2	-
	30 歳代	115	18.3	9.6	13.0	1.7	1.7	30.4	34.8	0.9
	40 歳代	170	17.6	7.6	8.8	6.5	2.9	34.7	31.8	1.2
	50 歳代	190	18.9	11.6	8.4	3.7	1.1	44.7	21.6	-
	60 歳代	140	26.4	10.7	8.6	0.7	2.9	40.0	21.4	-
70 歳代	145	32.4	13.8	10.3	0.7	-	26.9	26.2	1.4	
80 歳以上	69	13.0	14.5	2.9	1.4	2.9	23.2	34.8	13.0	

性・年齢別にみると、「区民利用施設に関する情報発信が少ないから」は男性の10・20歳代、30歳代、女性の10・20歳代、80歳以上を除き、いずれの性別・年代でも最も高く、男性の60歳代、70歳代が2割半ば、女性の70歳代で3割を超えている。（表12-2-1）

表 1 2 - 2 - 2 区民利用施設を利用しない理由（地域別）

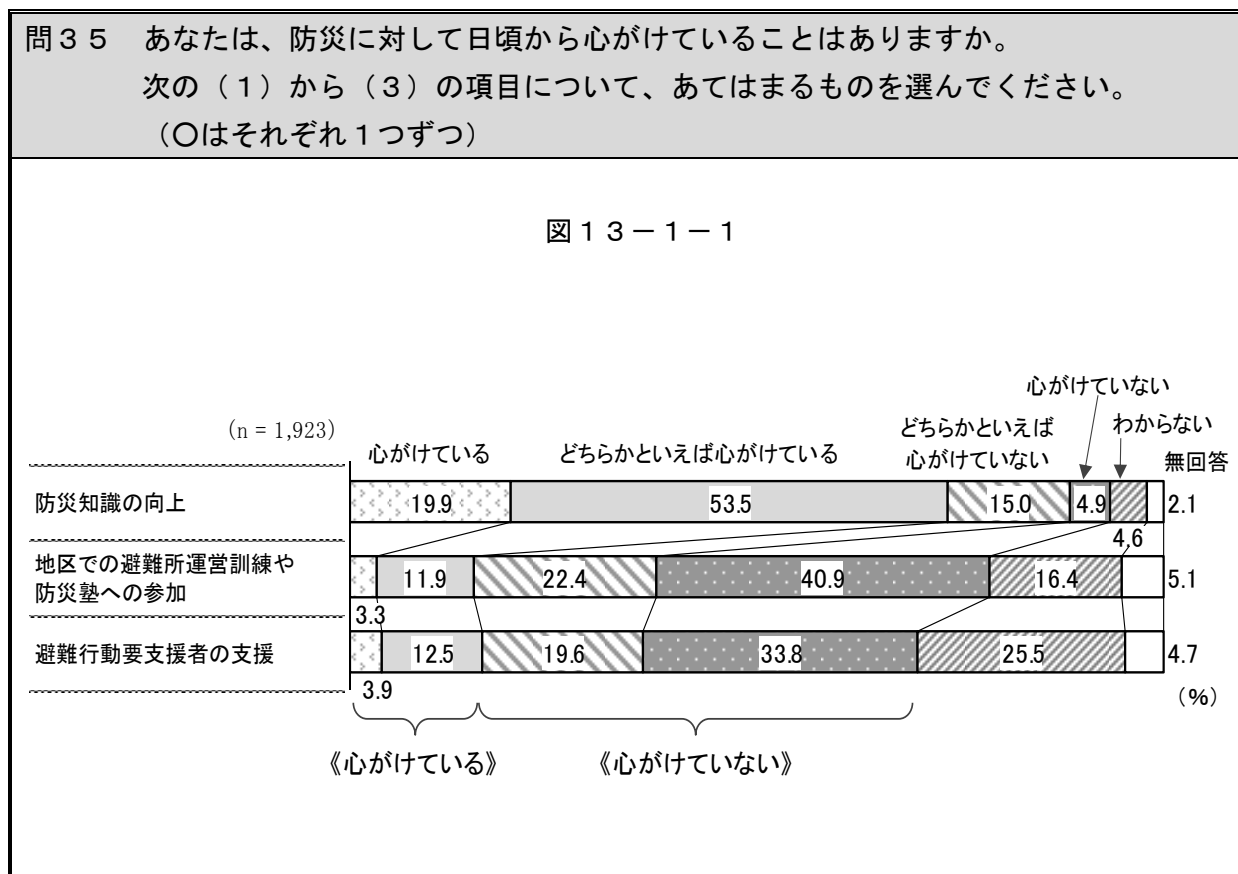
		(%)								
区分	n	区民利用施設に関する 情報発信が少ないから	近所に区民利用施設がないから	整っていないから	利用目的にあった施設環境が 整っていないから	施設が古く、使い勝手が悪いから	インターネット環境が整って いないから	その他	わからない	無回答
全 体	1,546	20.8	10.9	10.6	3.2	2.3	33.6	28.3	1.3	
地域別	世田谷東部	226	21.7	12.4	8.8	3.5	3.5	32.7	28.8	0.9
	世田谷西部	205	18.5	10.7	12.7	1.5	2.0	33.2	28.3	2.0
	北沢東部	130	25.4	4.6	12.3	3.1	3.1	30.0	29.2	0.8
	北沢西部	147	25.2	15.6	6.1	0.7	0.7	27.9	31.3	3.4
	玉川北部	132	14.4	8.3	9.1	4.5	3.0	37.1	33.3	-
	玉川南部	147	19.7	9.5	13.6	3.4	1.4	39.5	22.4	0.7
	玉川西部	87	27.6	13.8	9.2	2.3	1.1	25.3	27.6	2.3
	砧北部	189	16.4	7.9	10.6	2.6	2.1	41.3	26.5	-
	砧南部	85	25.9	9.4	14.1	3.5	3.5	34.1	20.0	1.2
	烏山	177	19.8	14.7	11.9	6.2	2.3	29.4	31.6	2.3

地域別でみると、「区民利用施設に関する情報発信が少ないから」はいずれの地域でも最も高く、玉川西部が3割近くとなっている。（表 1 2 - 2 - 2）

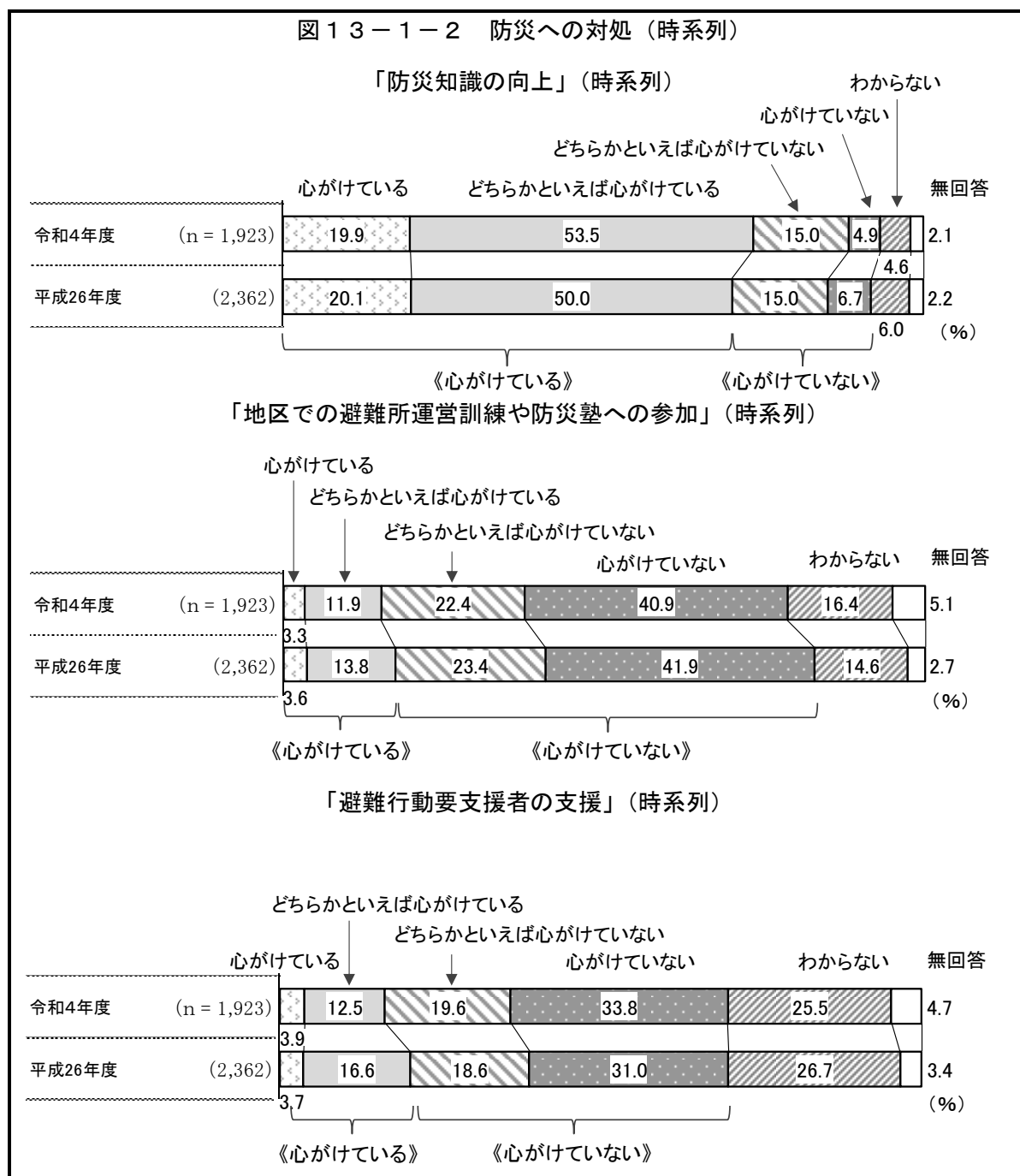
13. 災害時の備え

(1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が7割を超え



防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(73.4%)が7割を超え、一方「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.2%)、「避難行動要支援者の支援」(16.4%)は1割半ばにとどまっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(63.3%)が6割を超えて、他の2つより高くなっている。(図13-1-1)

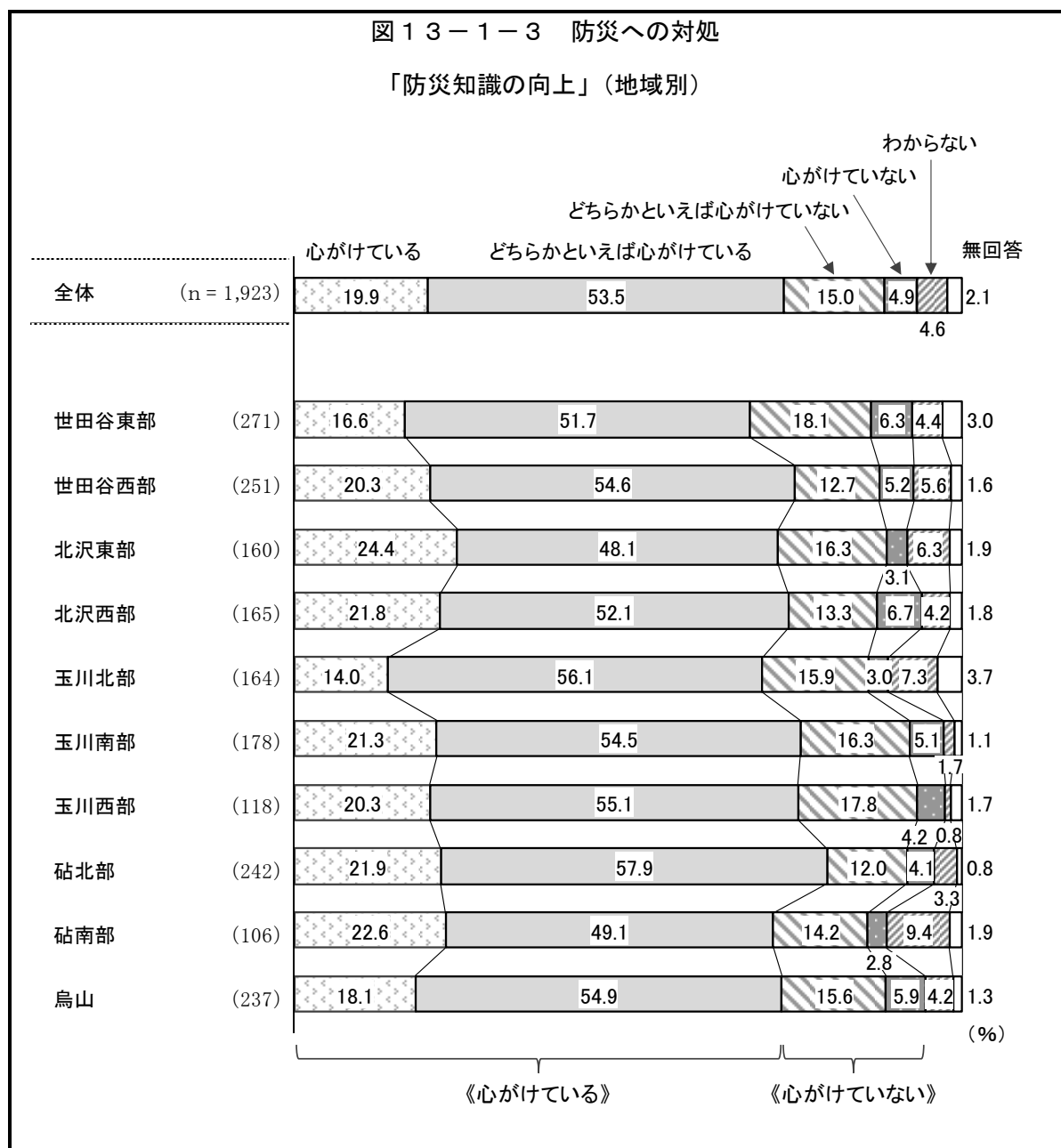


「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度 (70.1%) から令和 4 年度 (73.4%)、《心がかけていない》は平成 26 年度 (21.7%) から令和 4 年度 (19.9%) で大きな違いはみられない。

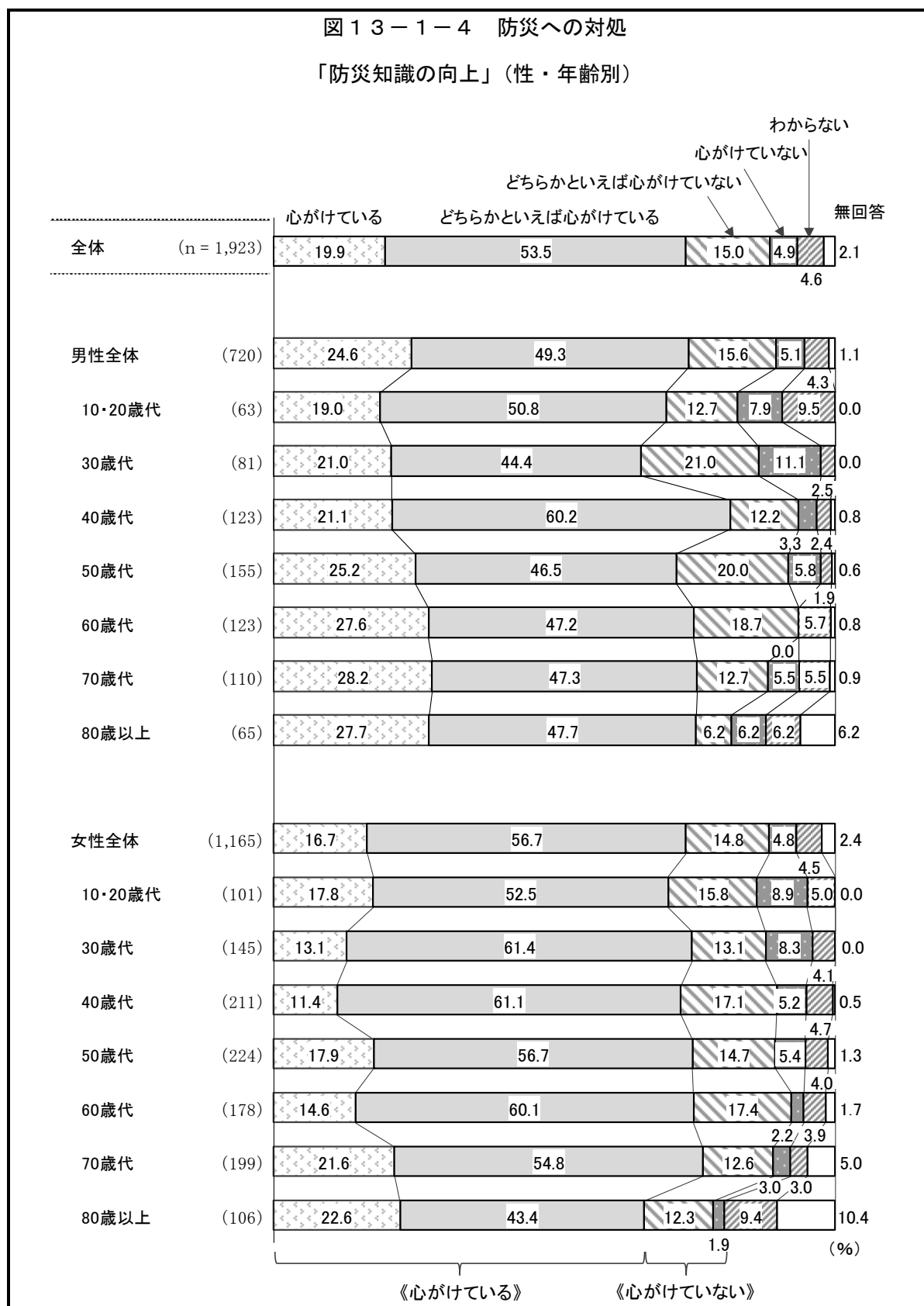
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度 (17.4%) から令和 4 年度 (15.2%)、《心がかけていない》は平成 26 年度 (65.3%) から令和 4 年度 (63.3%) で大きな違いはみられない。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度 (20.3%) から令和 4 年度 (16.4%) で減少している。《心がかけていない》は平成 26 年度 (49.6%) から令和 4 年度 (53.4%) で増加している。

(図 1 3 - 1 - 2)

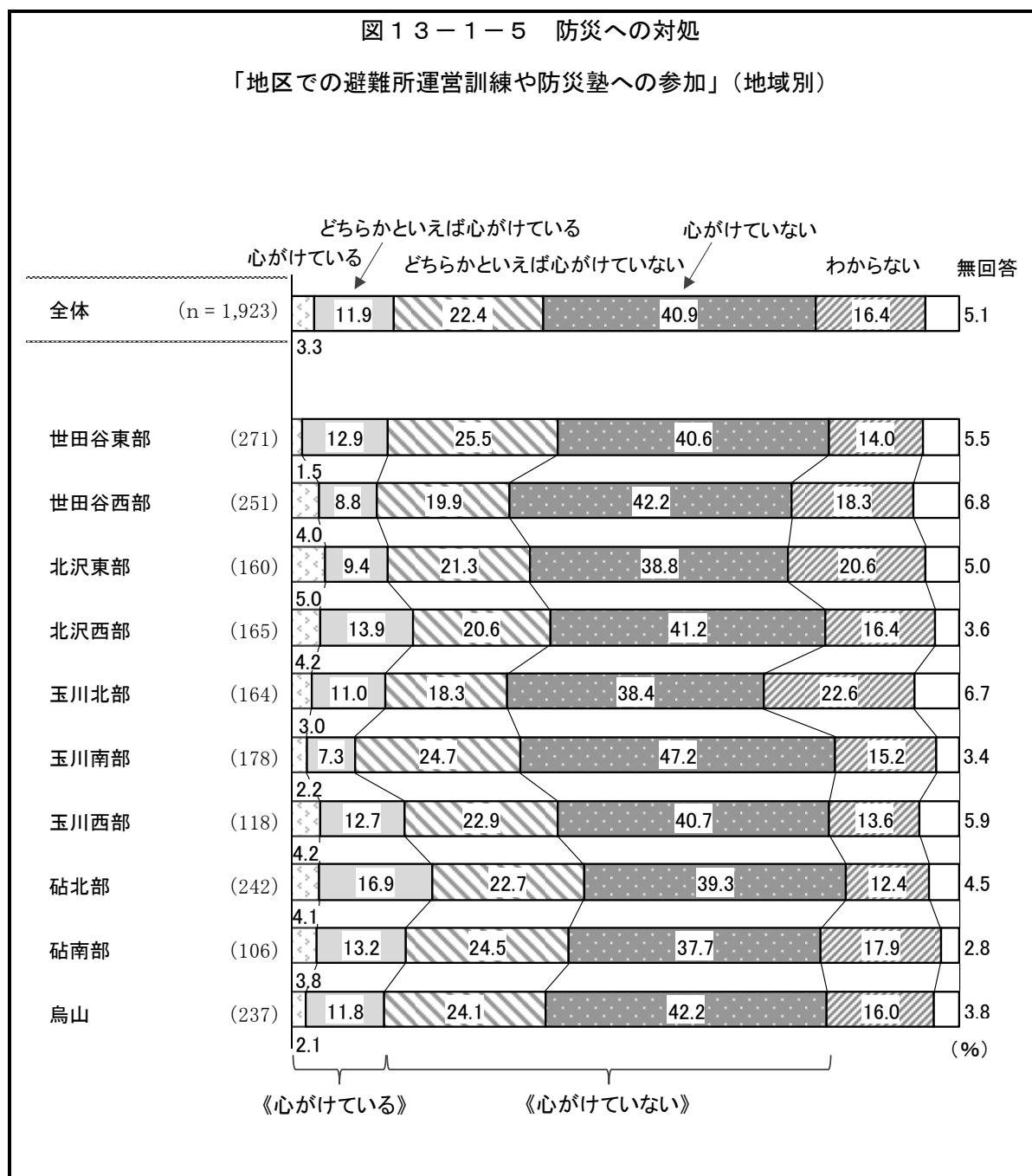


「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は北沢東部で2割半ばとなっている。《心がけている》は砧北部で8割、《心がけていない》は世田谷東部で2割半ばとなっている。(図 1 3 - 1 - 3)



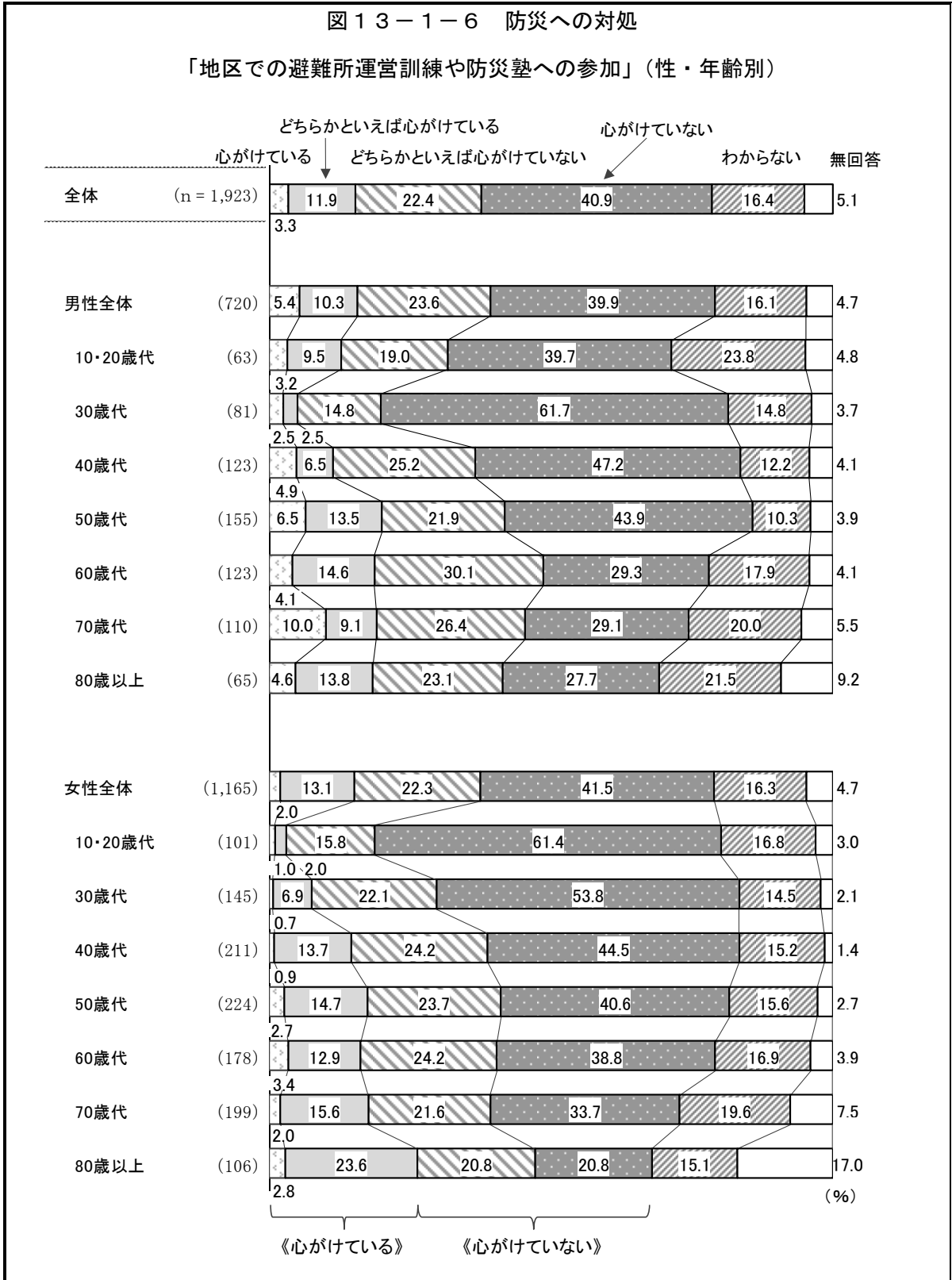
「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は男性の40歳代が8割を超え、女性の30歳代、50歳代、60歳代、70歳代が7割半ばとなっている。

(図 1 3 - 1 - 4)

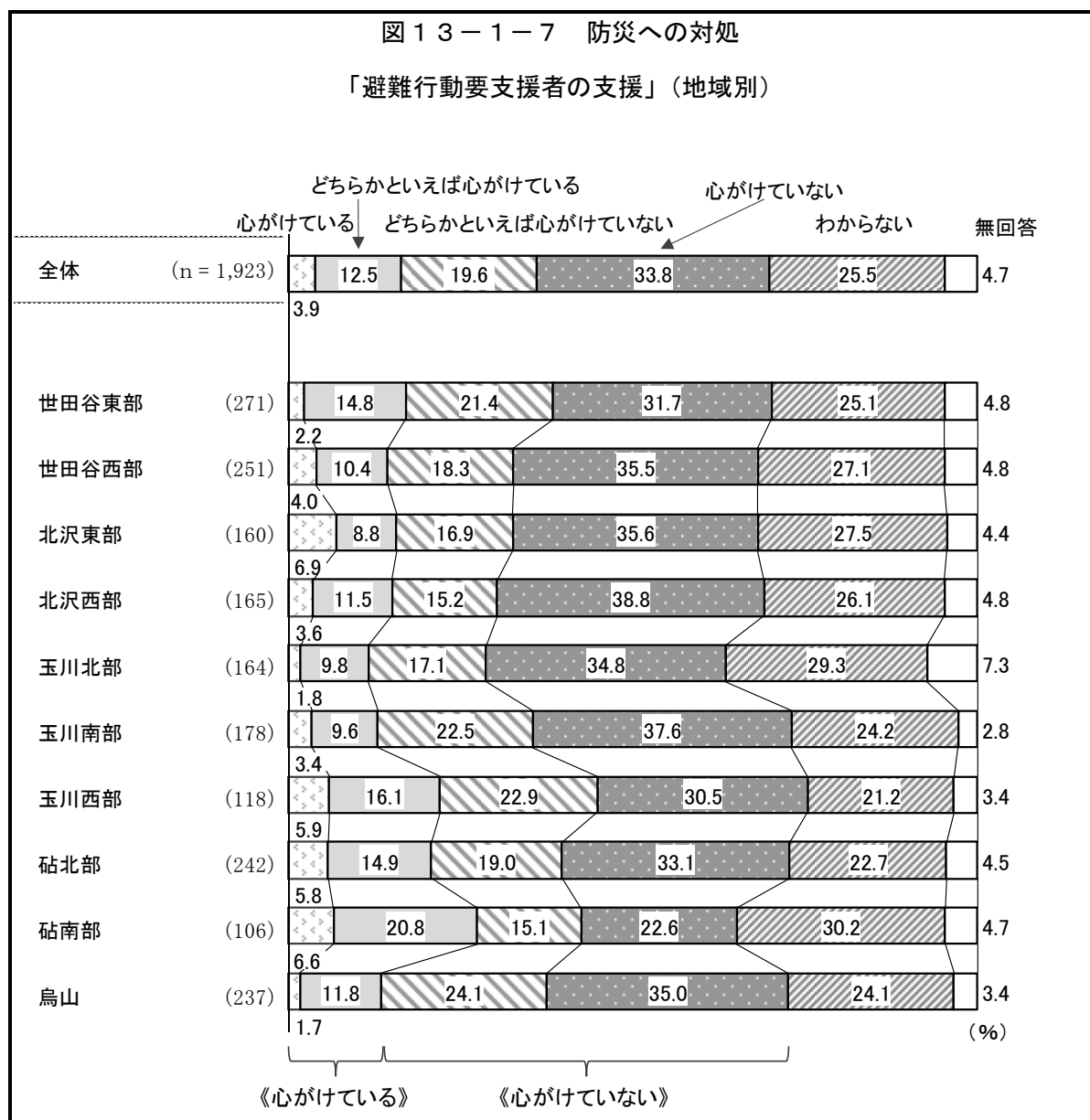


「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は砧北部で2割を超えている。《心がけていない》は玉川南部で7割を超えている。

(図 1 3 - 1 - 5)

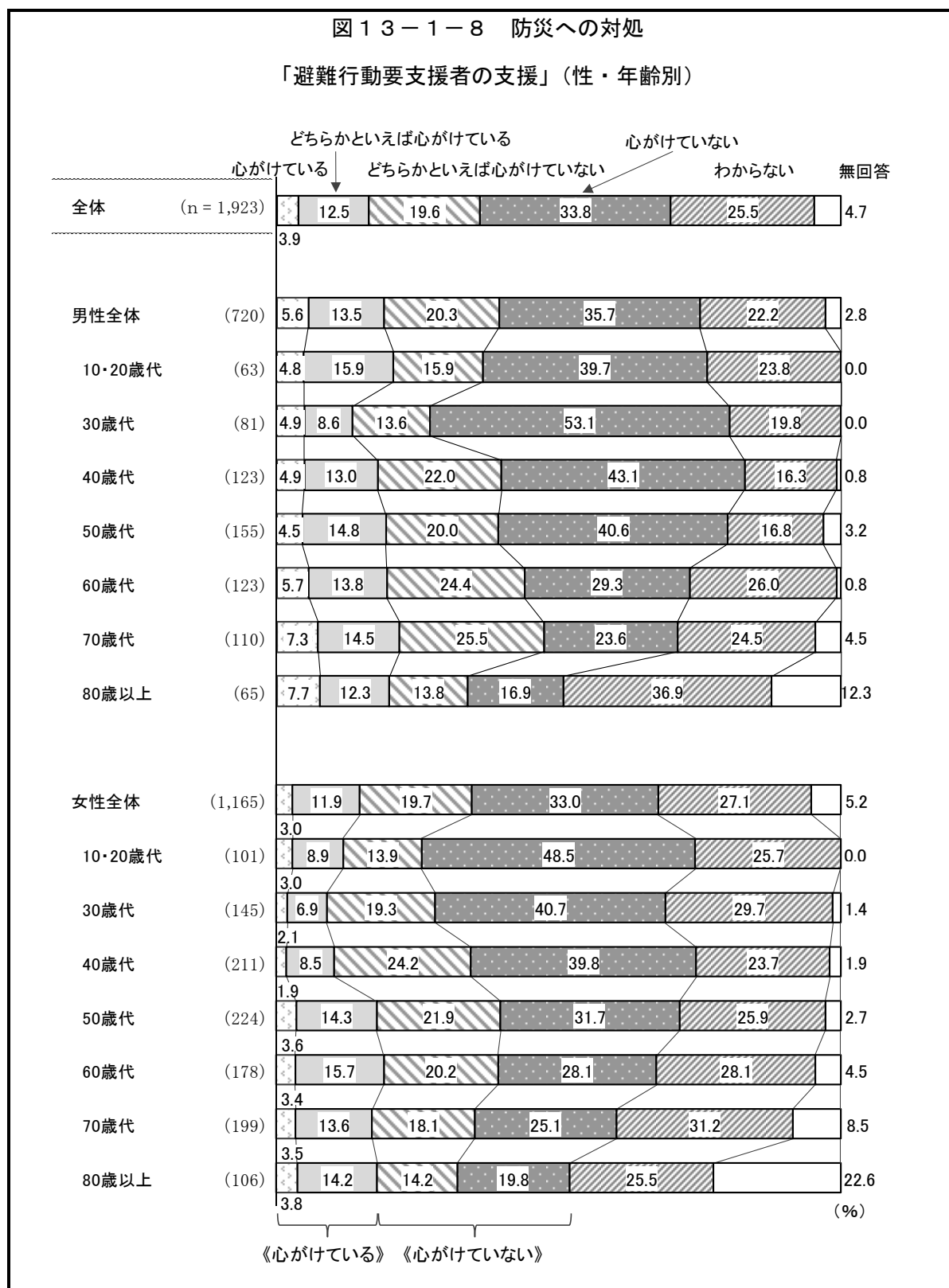


「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は女性の80歳以上が2割半ば、男性の50歳代が2割となっている。《心がけていない》は女性の10・20歳代、男性の30歳代が8割近くとなっている。(図13-1-6)



「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は砧南部で3割近くとなっている。《心がけていない》は玉川南部で6割となっている。

(図 1 3 - 1 - 7)



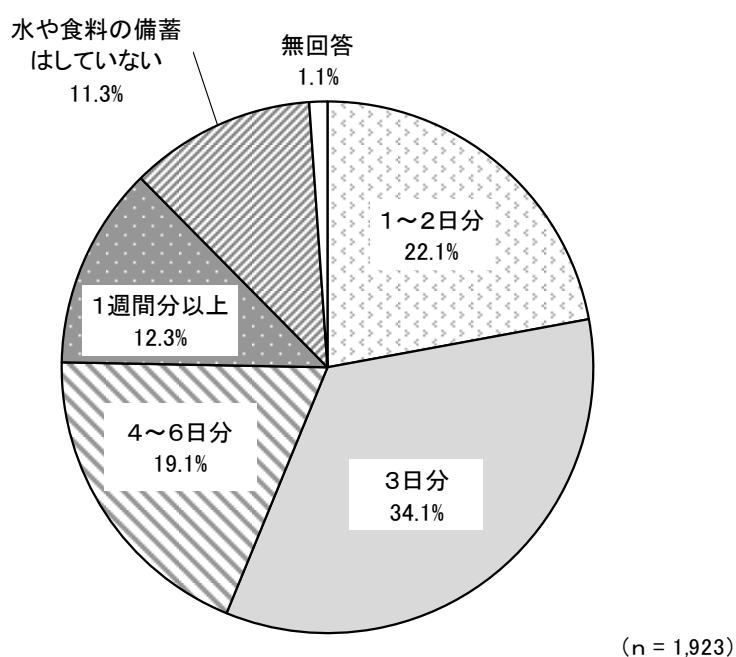
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は男性の70歳代が2割を超えている。《心がかけていない》は男性の30歳代が7割近くとなっている。(図13-1-8)

(2) 水や食料の備蓄について

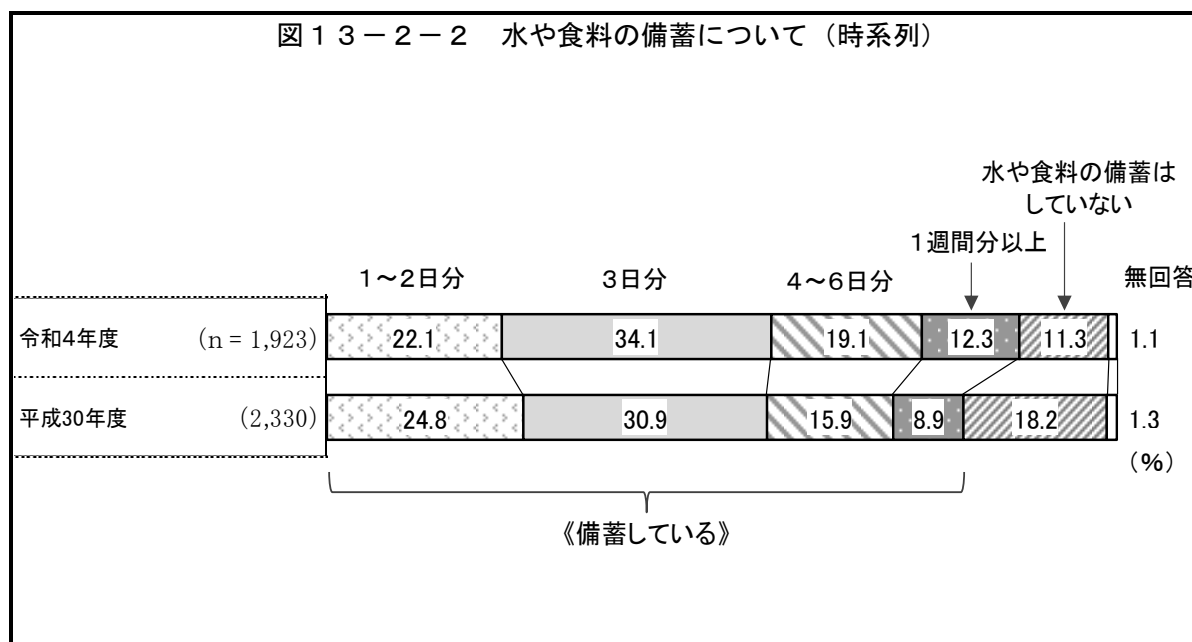
◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割半ば

問36 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。
(○は1つ)

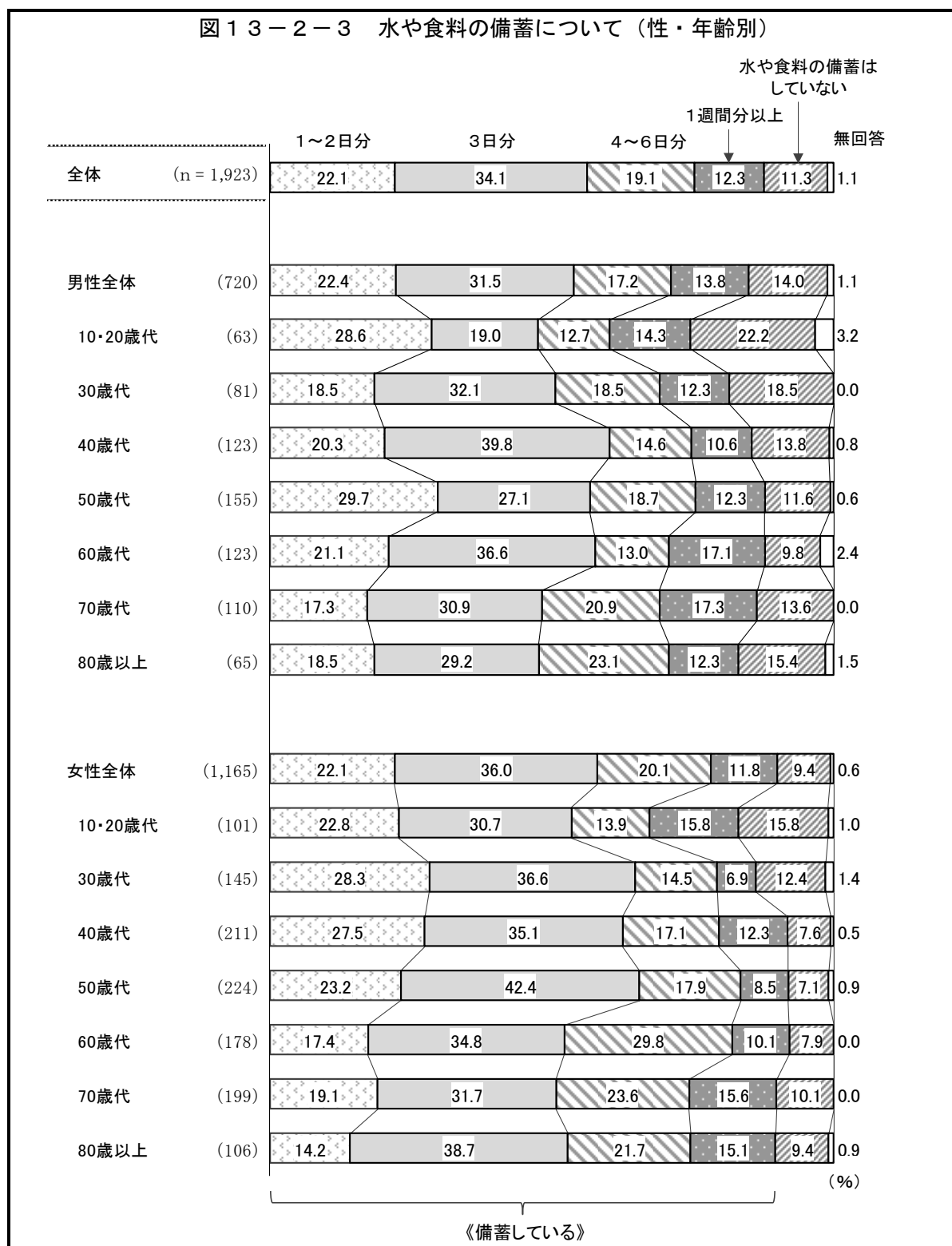
図13-2-1



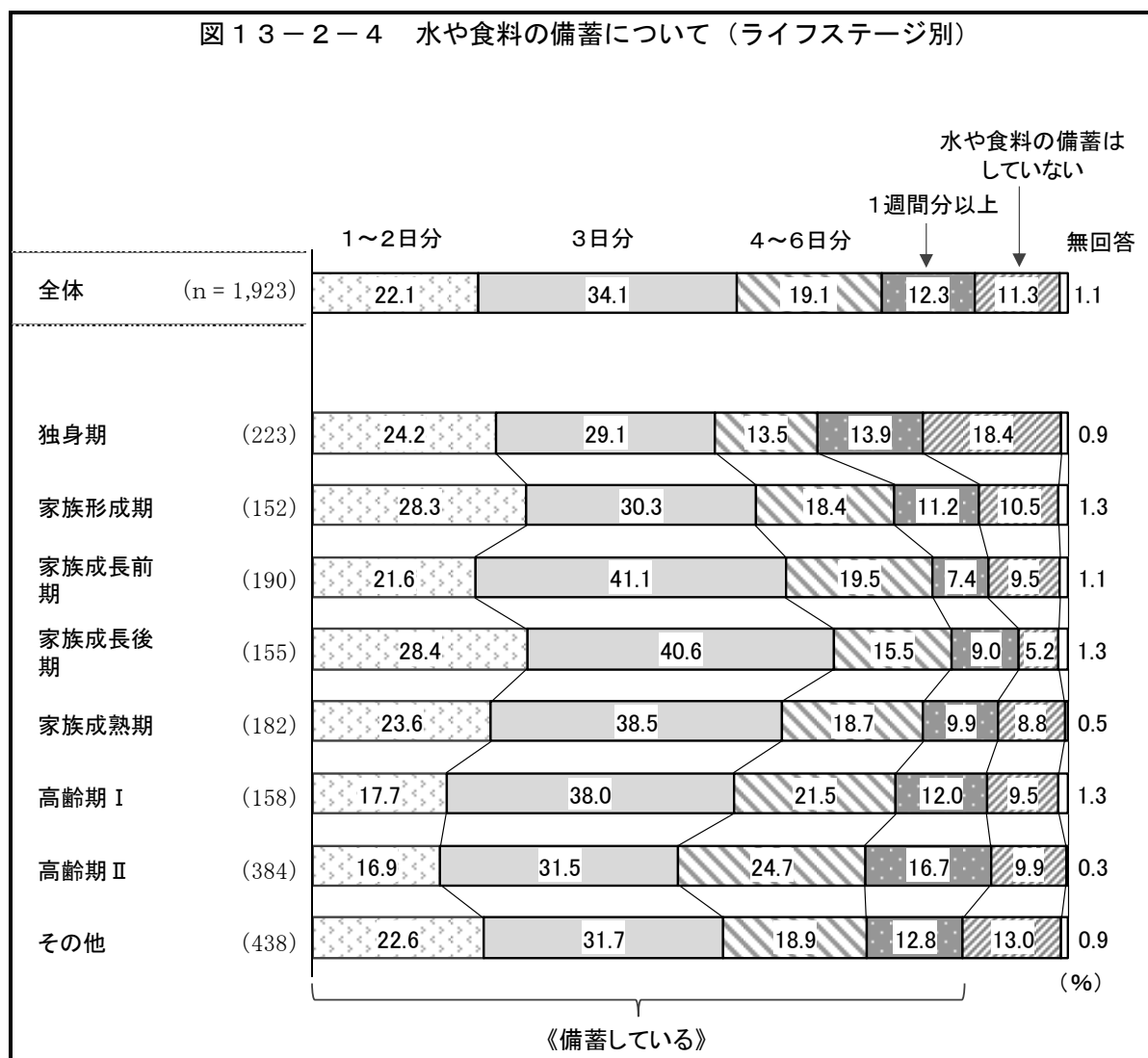
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(34.1%)が3割半ばで最も高く、以下、「1~2日分」(22.1%)、「4~6日分」(19.1%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(11.3%)は1割を超えている。(図13-2-1)



平成30年度からの時系列の変化をみると、《備蓄している》は平成30年度（80.5%）から令和4年度（87.6%）で増加している。（図13-2-2）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、男性の10・20歳代を除き、いずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代、80歳以上は7割半ばとなっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男性、女性ともに10・20歳代が他の年代に比べ高く、男性の10・20歳代で2割を超え、女性の10・20歳代で1割半ばとなっている。（図1 3 - 2 - 3）

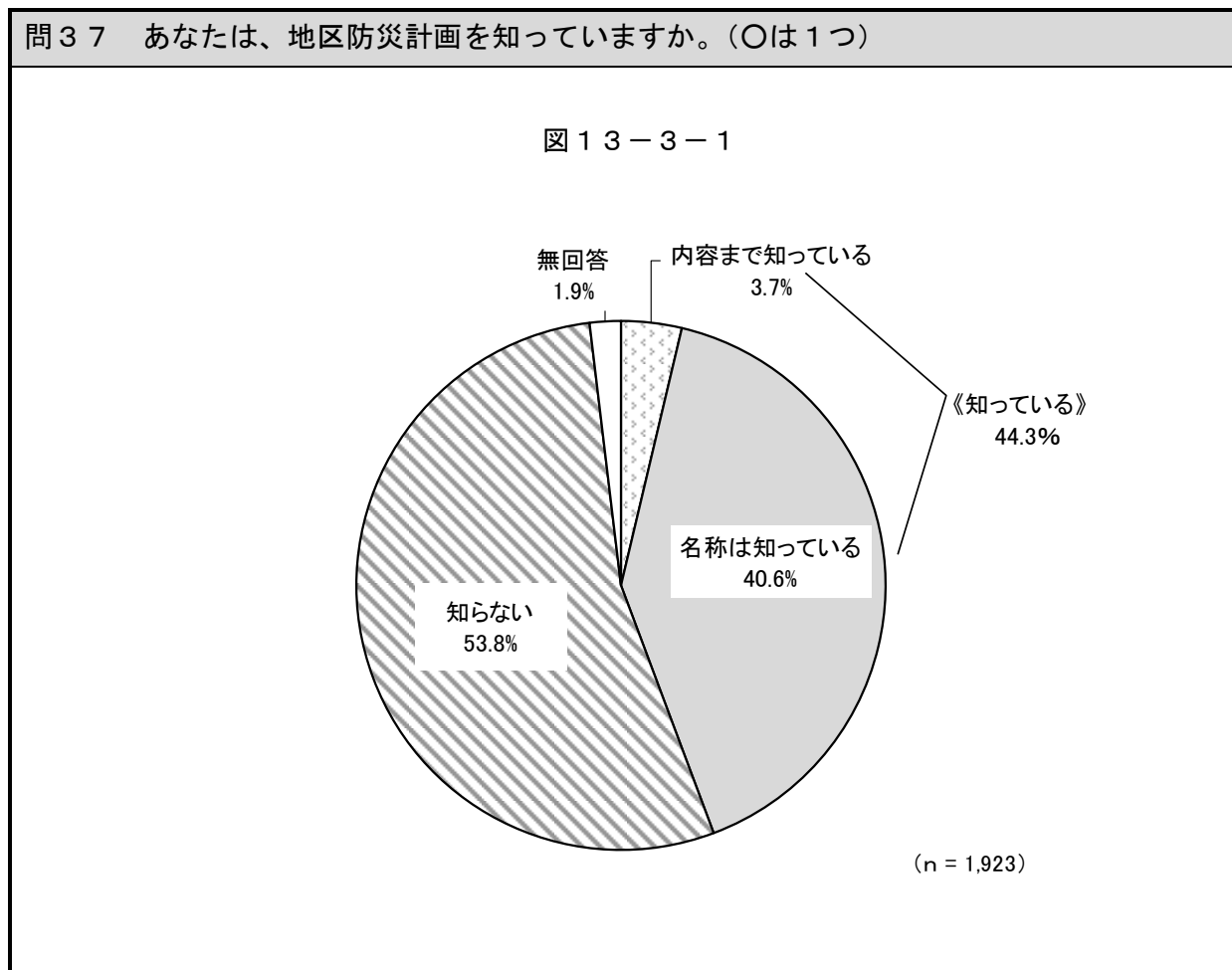


ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は高齢期 I、高齢期 II が 7 割を超えている。一方、独身期で 3 日以上備蓄している割合は 6 割近くと他のライフステージに比べ低い。

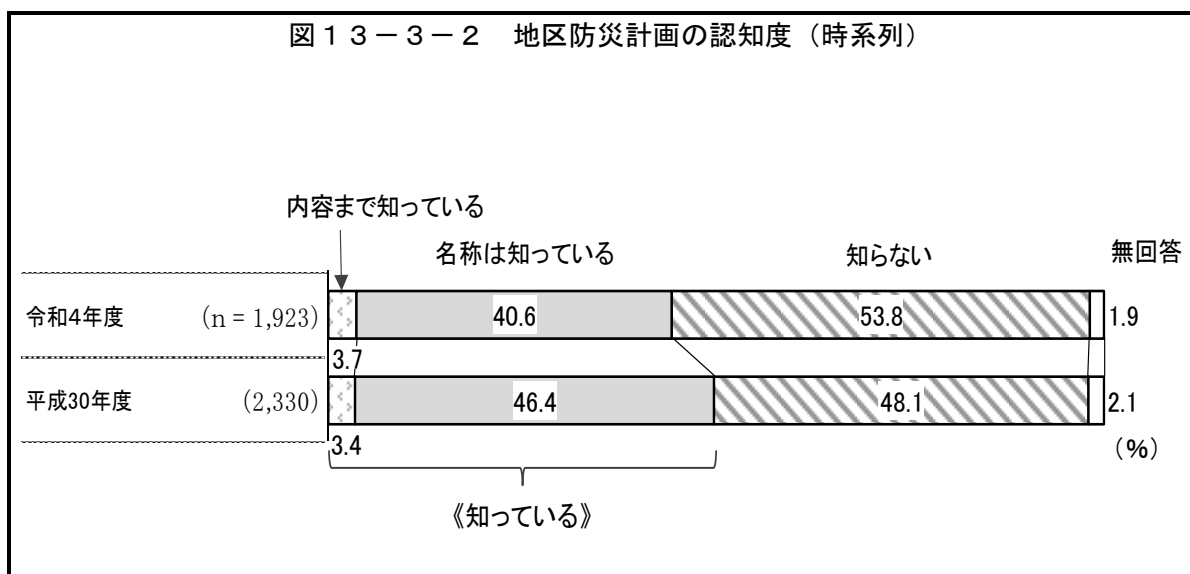
（図 1 3 - 2 - 4）

(3) 地区防災計画の認知度

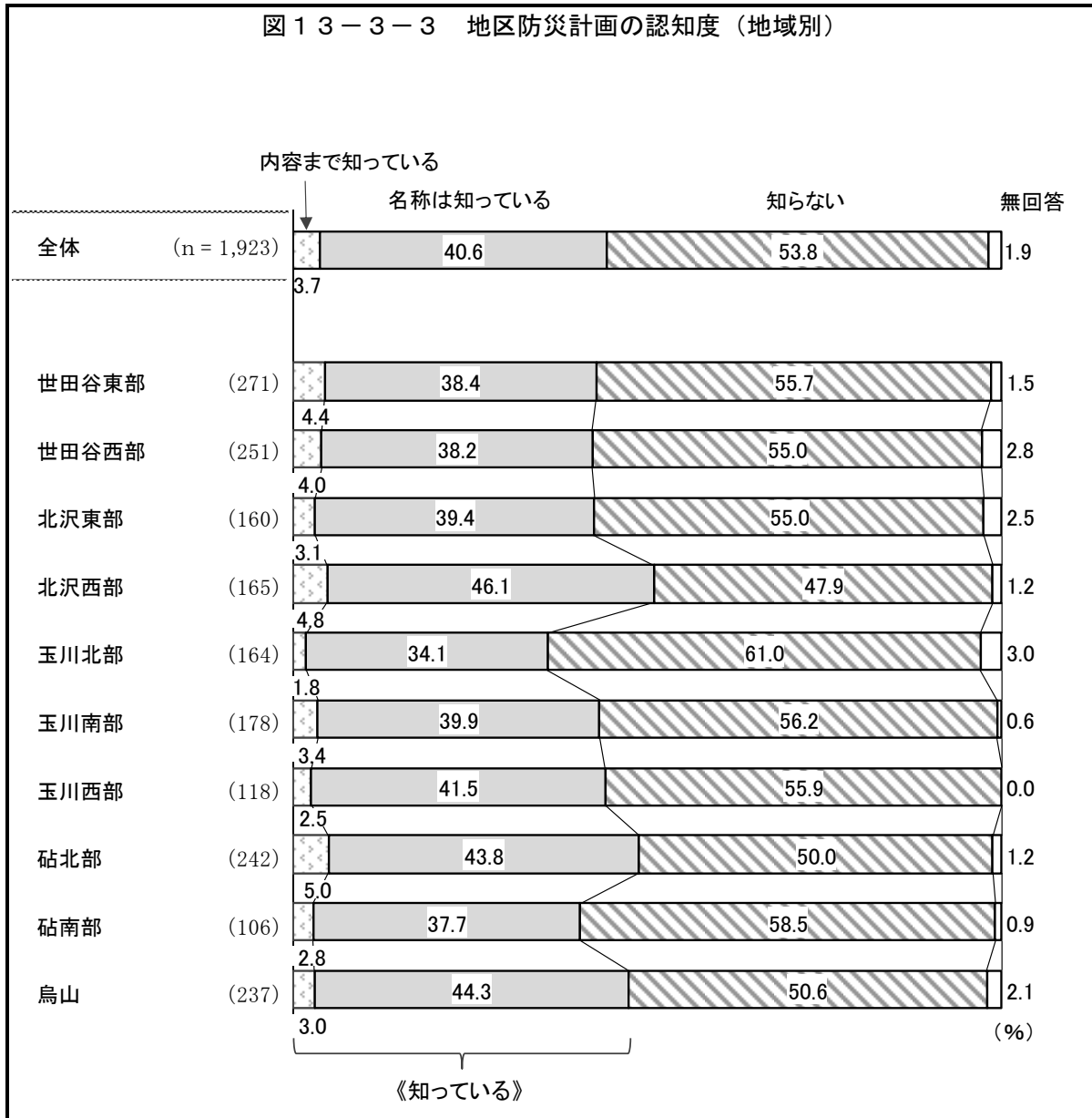
◎地区防災計画の「名称は知っている」がほぼ4割だが「内容まで知っている」は1割未満



地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(40.6%)がほぼ4割、「内容まで知っている」(3.7%)と合わせた《知っている》(44.3%)が4割半ば、「知らない」(53.8%)が5割を超えている。(図13-3-1)

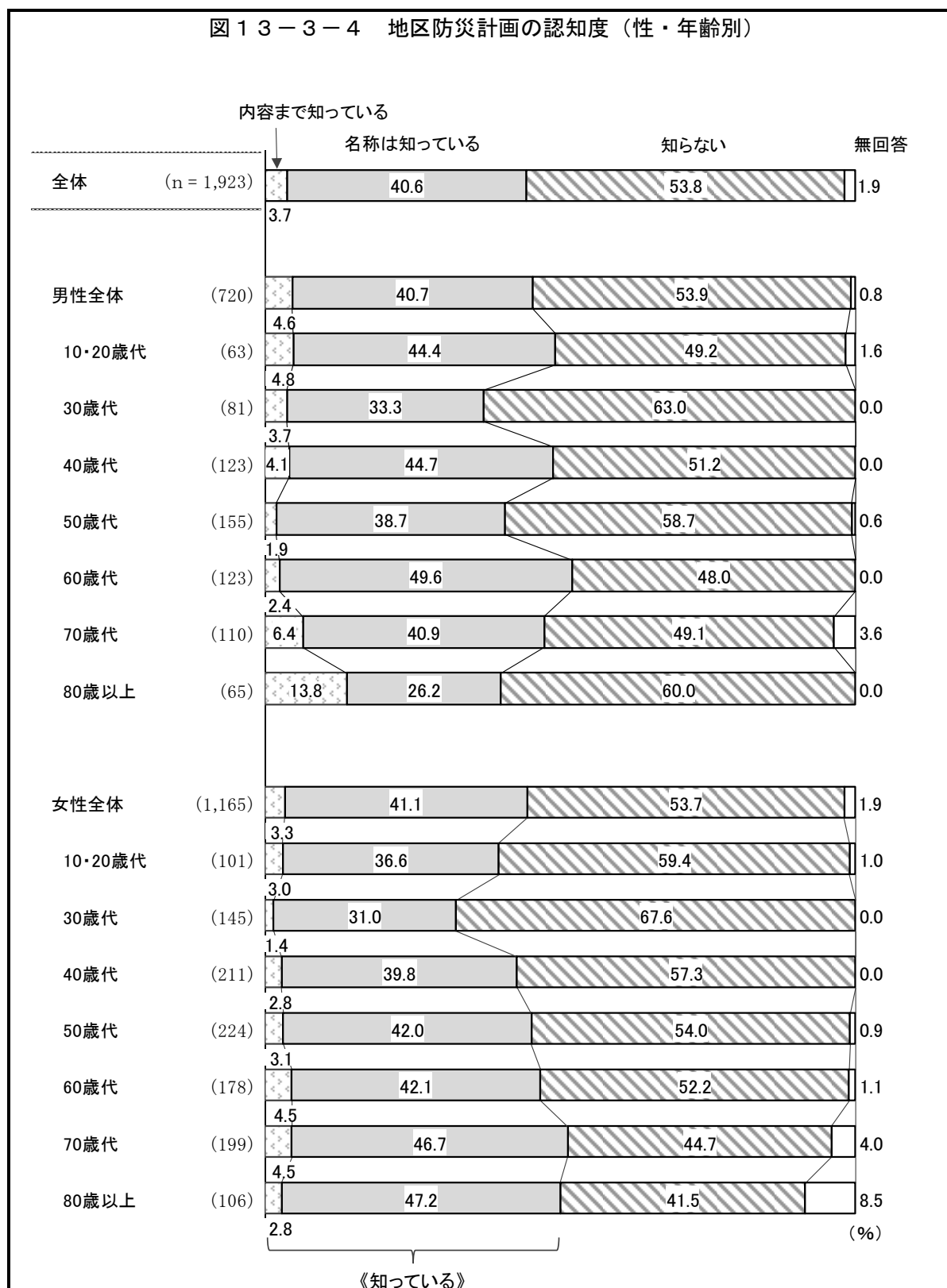


平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（49.8%）から令和 4 年度（44.3%）で減少している。（図 1 3 - 3 - 2）



地域別にみると、《知っている》は北沢西部ではほぼ5割。「知らない」は玉川北部で6割を超えている。（図 1 3 - 3 - 3）

図 1 3 - 3 - 4 地区防災計画の認知度（性・年齢別）

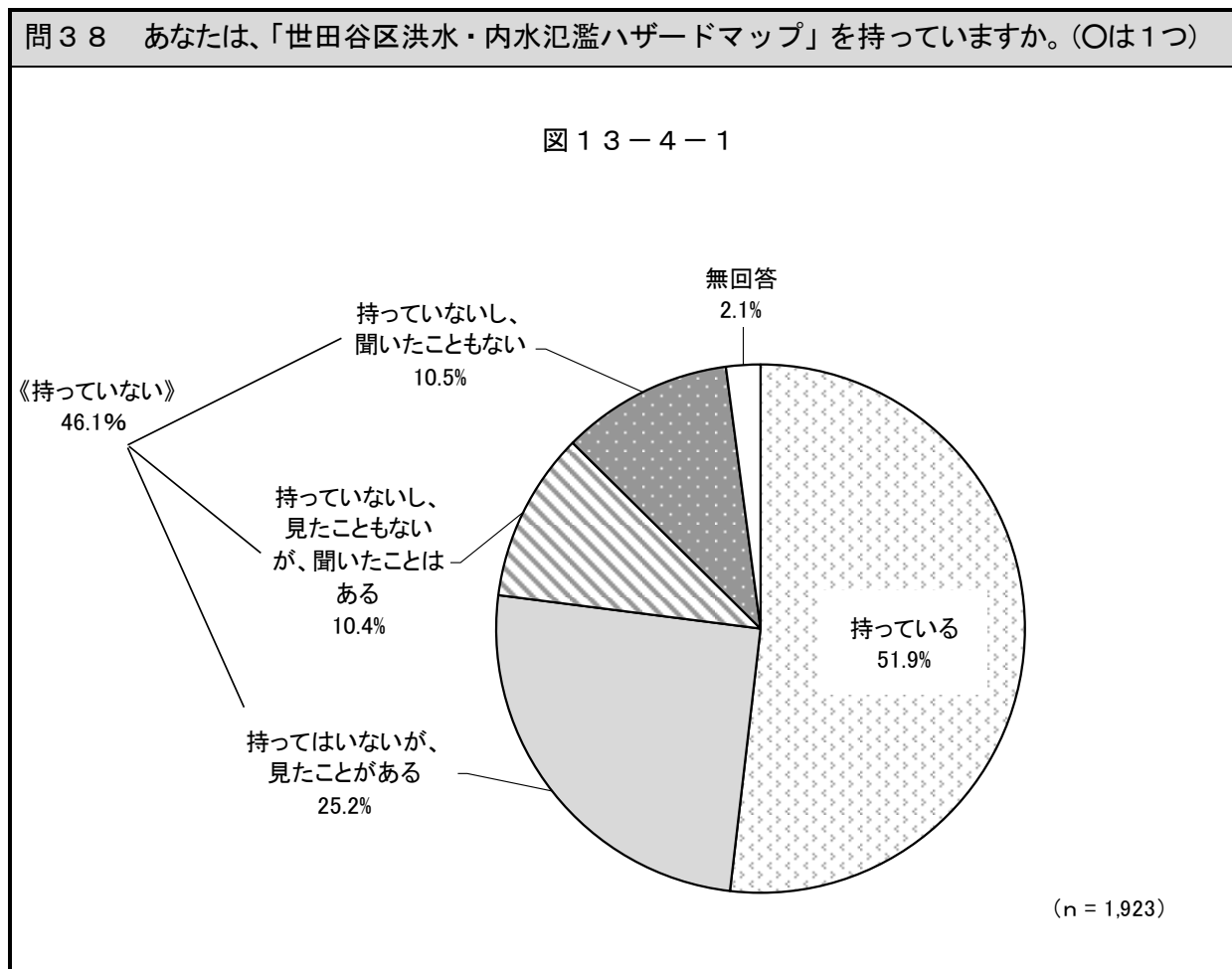


性・年齢別にみると、《知っている》は男性の60歳代と女性の70歳代で5割を超えている。「知らない」は男性の30歳代で6割を超え、女性の30歳代で7割近くとなっている。

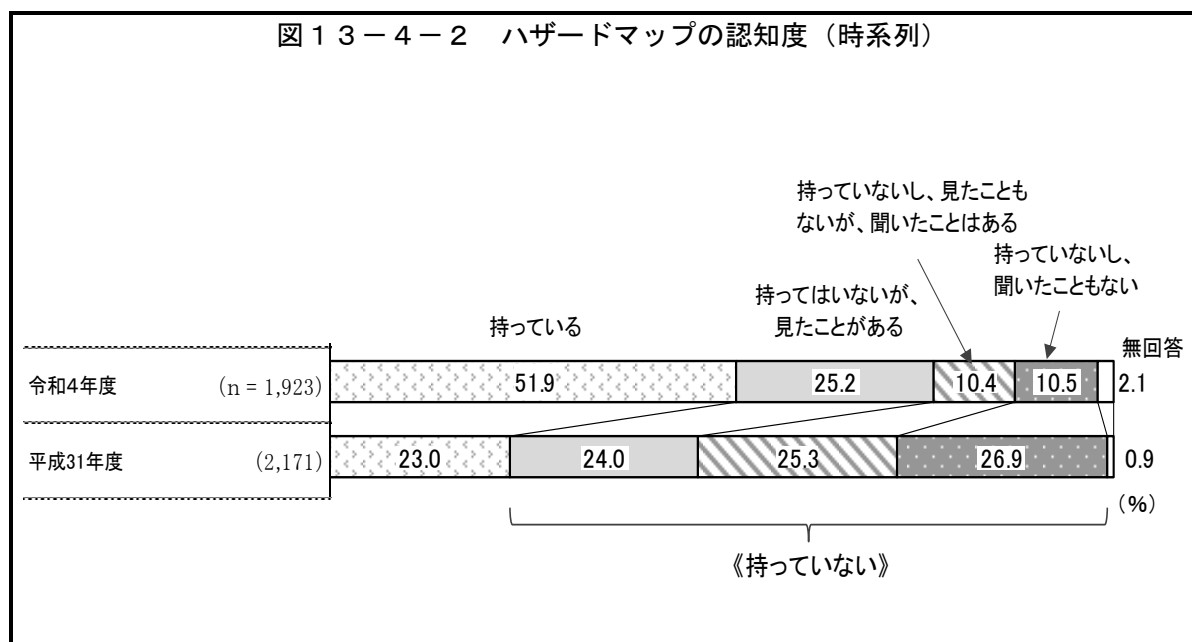
(図 1 3 - 3 - 4)

(4) ハザードマップの認知度

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「持っている」が5割を超える

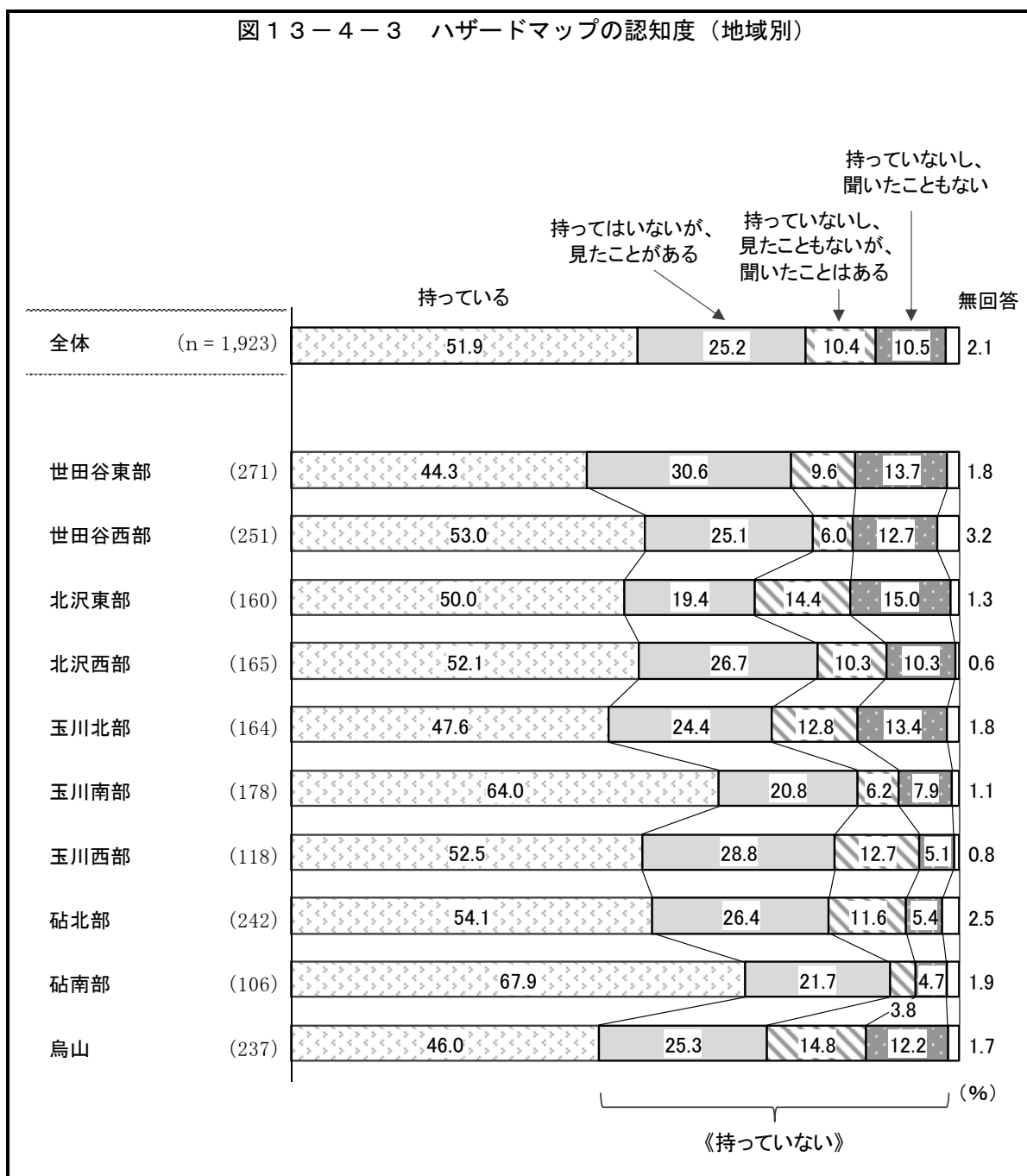


ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」(51.9%)が5割を超え、「持ってはいないが、見たことがある」(25.2%)と「持っているし、見たこともないが、聞いたことはある」(10.4%)と「持っているし、聞いたこともない」(10.5%)を合わせた《持っていない》(46.1%)が4割半ばとなっている。(図13-4-1)



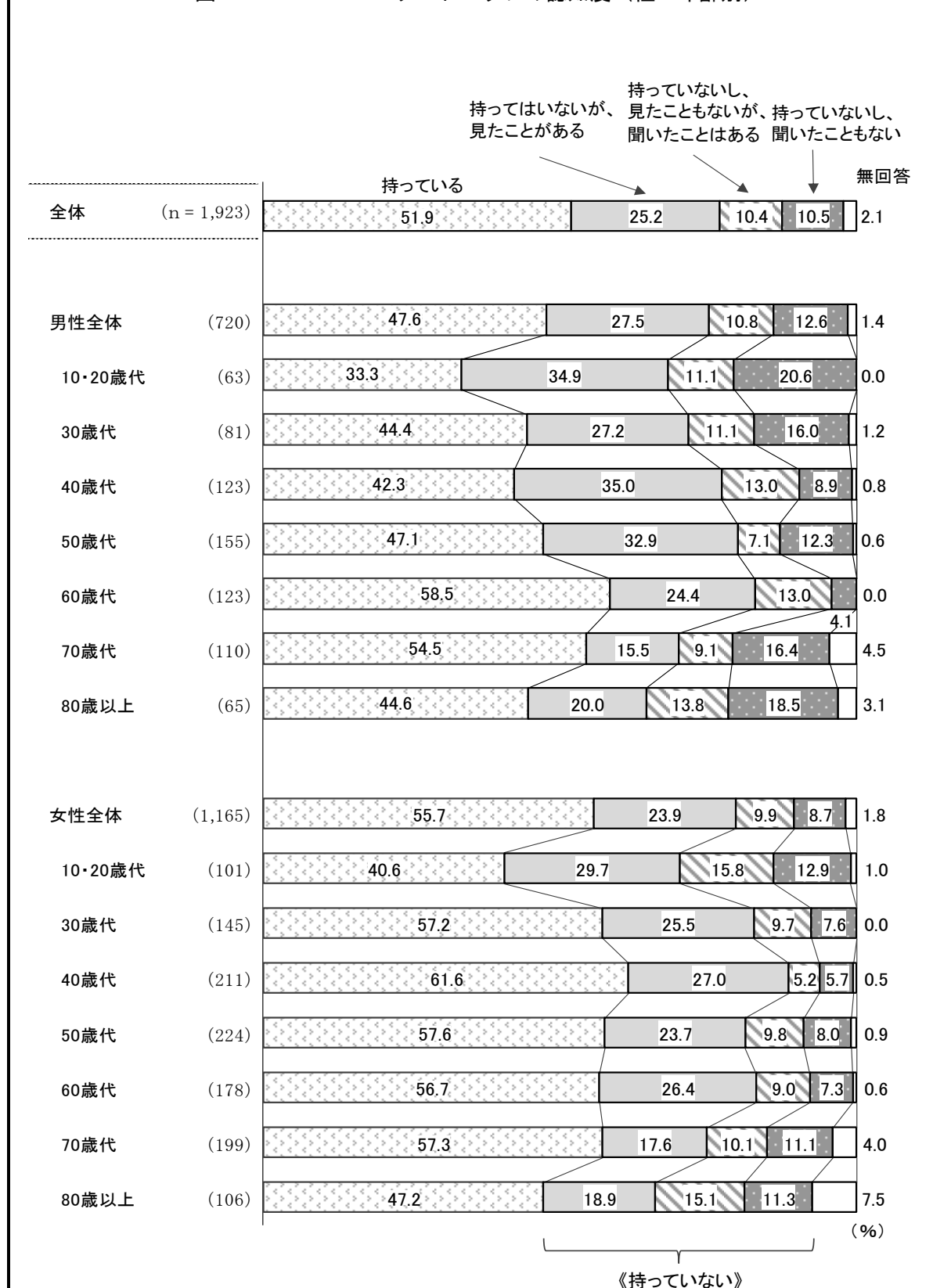
平成 31 年度からの時系列の変化をみると、《持っていない》は平成 31 年度（76.2%）から令和 4 年度（46.1%）にかけて大きく減少しており、ハザードマップを所有している人が大きく増加している。（図 1 3 - 4 - 2）

図 1 3 - 4 - 3 ハザードマップの認知度 (地域別)

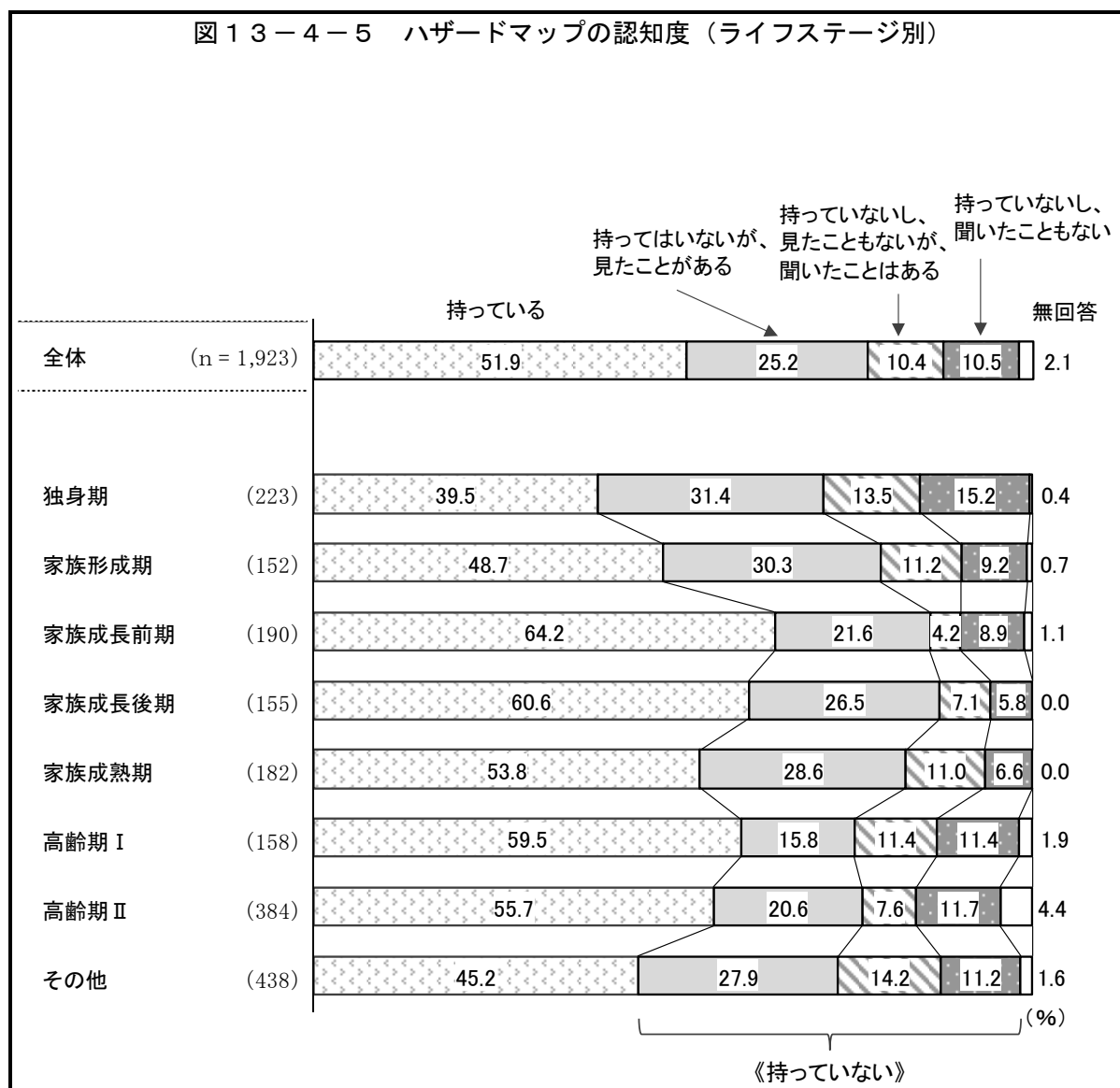


地域別にみると、「持っている」は砧南部で7割近く、玉川南部で6割半ばとなっている。
(図 1 3 - 4 - 3)

図 1 3 - 4 - 4 ハザードマップの認知度 (性・年齢別)



性・年齢別にみると、「持っている」は女性の40歳代で6割を超えている。《持っていない》は男性の10・20歳代で7割近く、女性の10・20歳代で6割近くと、他に比べて高くなっている。(図13-4-4)



ライフステージ別にみると、「持っている」は家族成長前期で6割半ばとなっている。《持っていない》は独身期で6割となっている。(図 1 3 - 4 - 5)

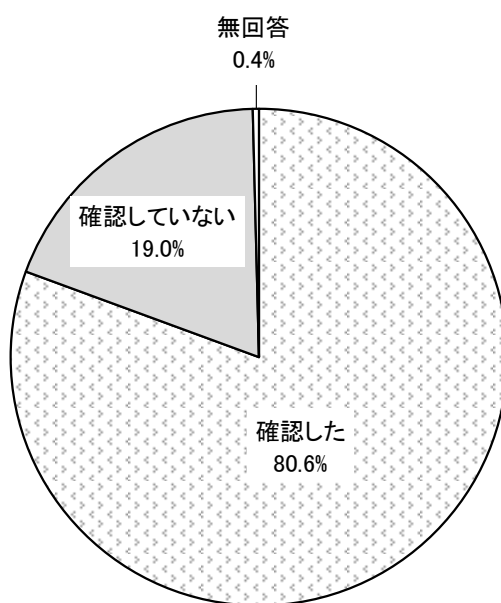
(5) ハザードマップの活用状況

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「確認した」がほぼ8割

(問38で「持っている」「持ってはいないが、見たことがある」と答えた方に)

問38-1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅の浸水リスク
(浸水するかどうか、浸水する場合は浸水の深さ)を確認しましたか。
(○は1つ)

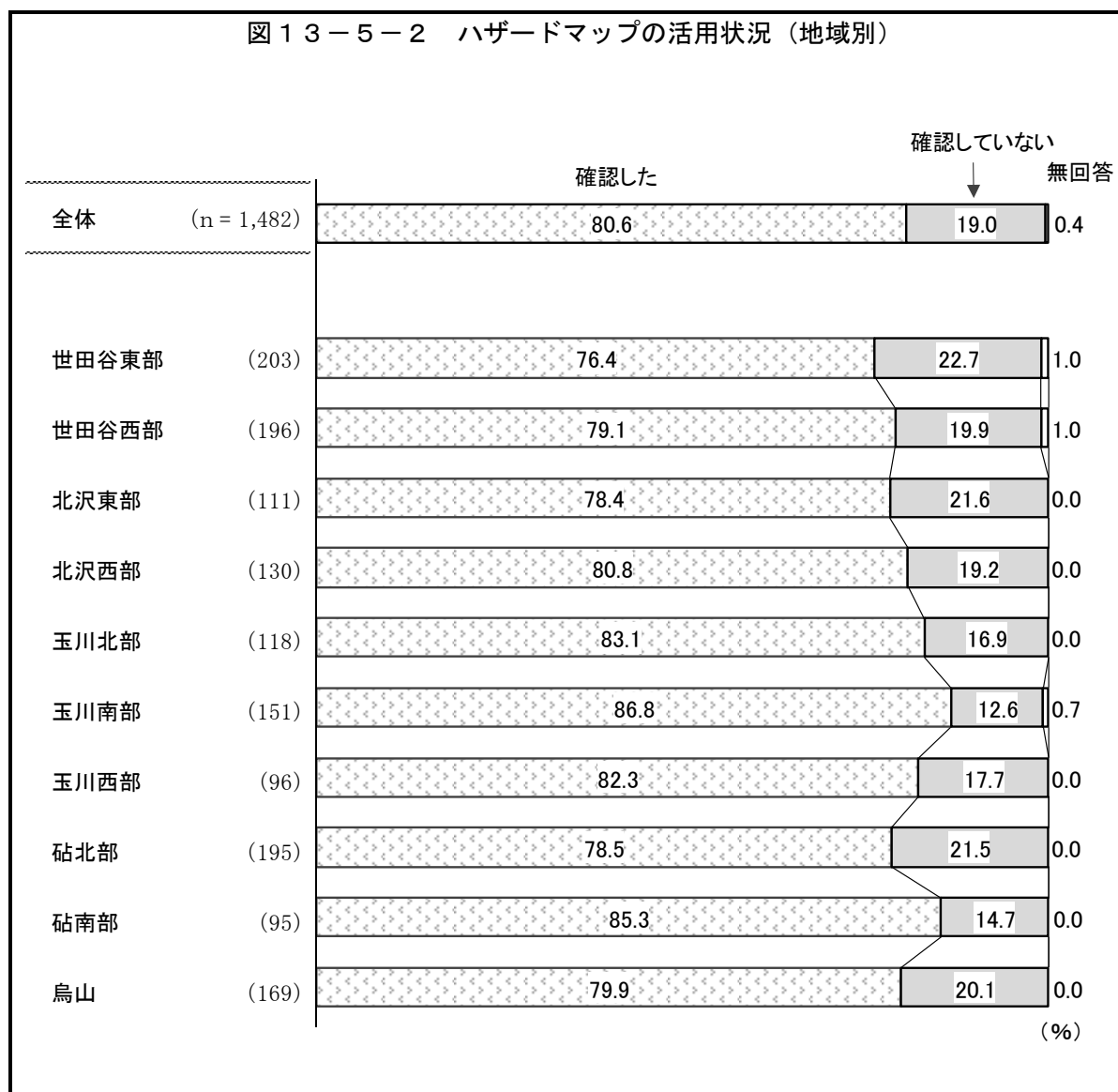
図13-5-1



(n = 1,482)

ハザードマップの活用状況を聞いたところ、「確認した」(80.6%)がほぼ8割となっている。

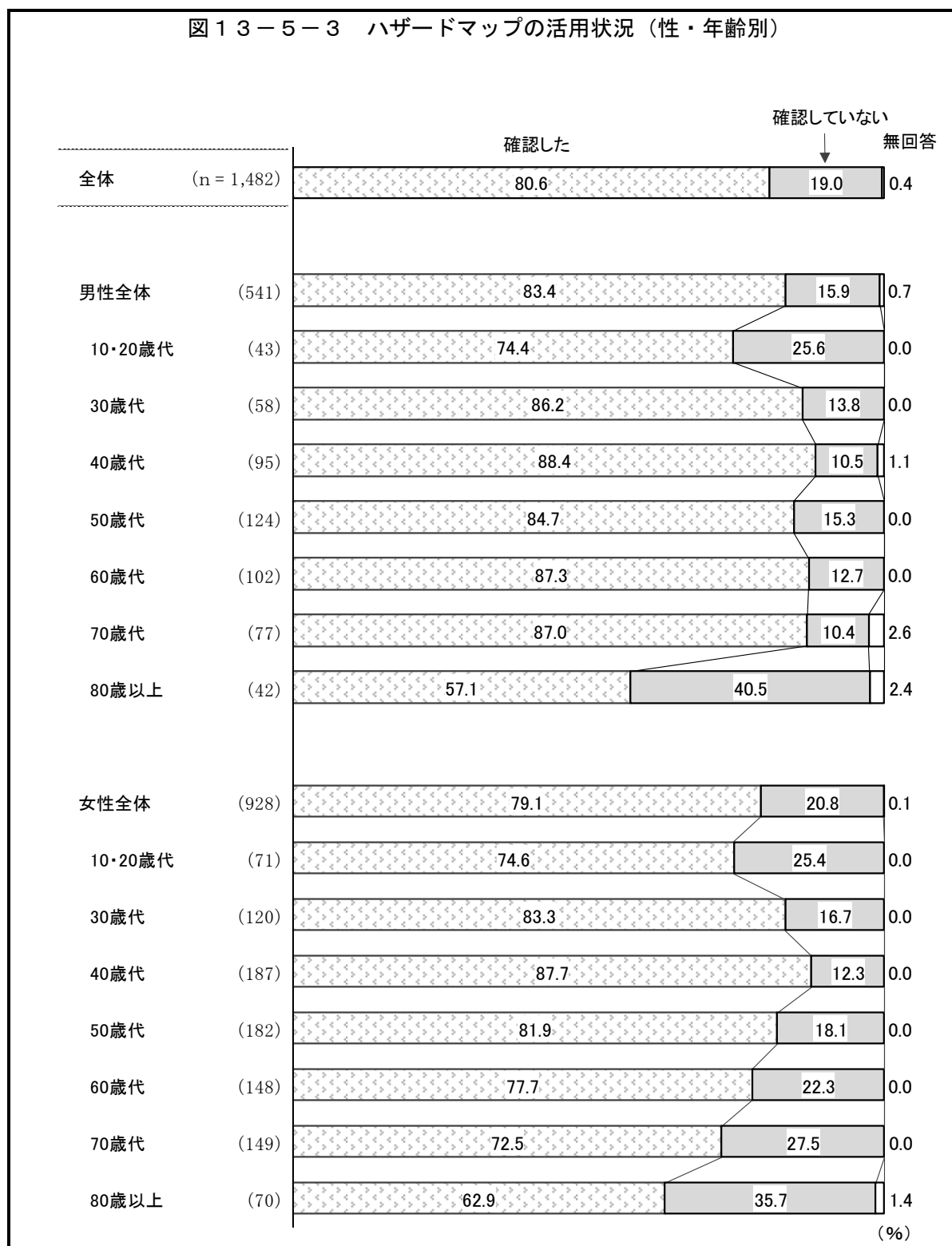
(図13-5-1)



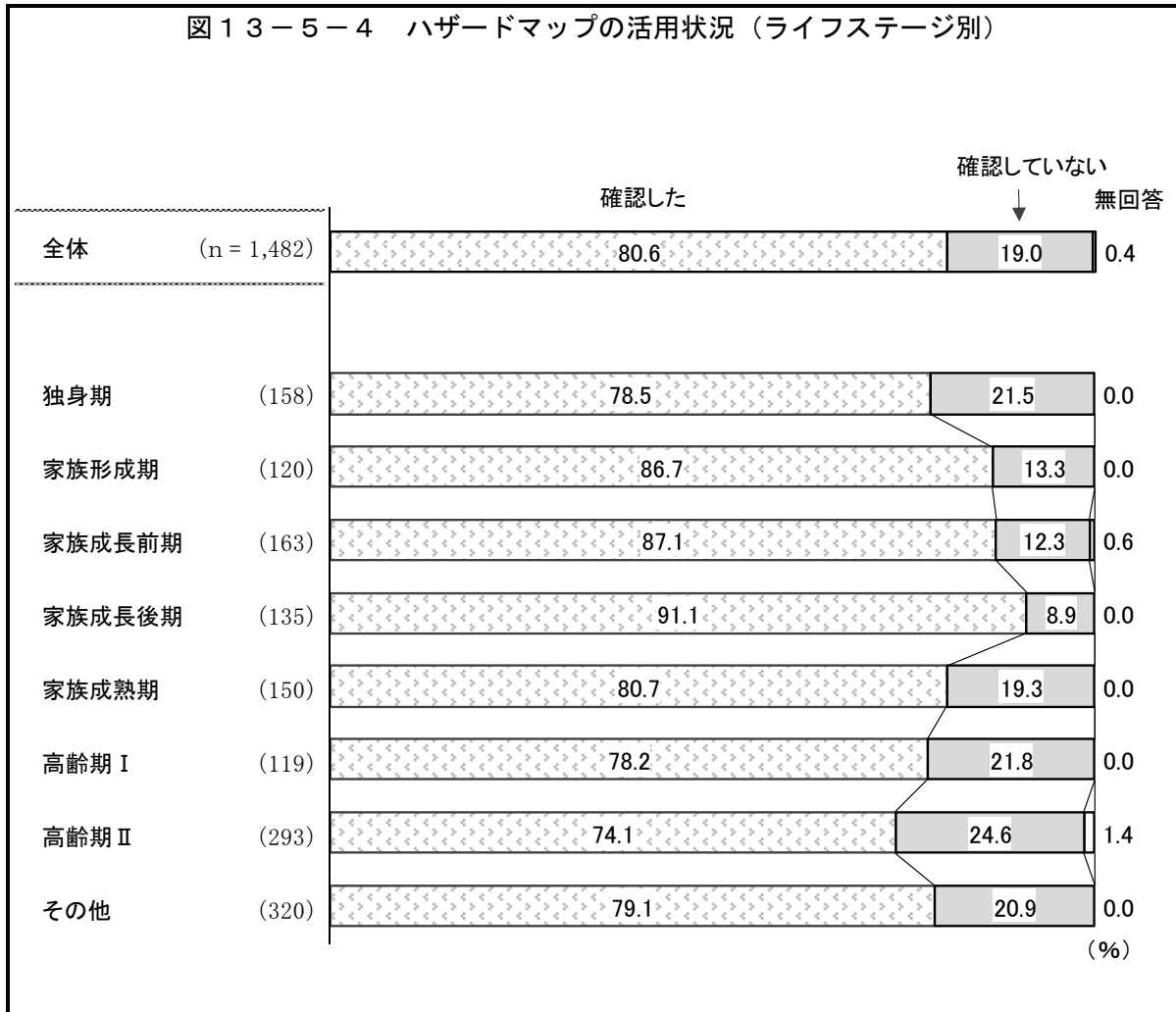
地域別にみると、「確認した」は玉川南部で9割近く、砧南部で8割半ばとなっている。

(図 1 3 - 5 - 2)

図 1 3 - 5 - 3 ハザードマップの活用状況 (性・年齢別)



性・年齢別にみると、「確認していない」は男性の80歳以上でほぼ4割、女性の80歳以上で3割半ばと高くなっている。(図13-5-3)

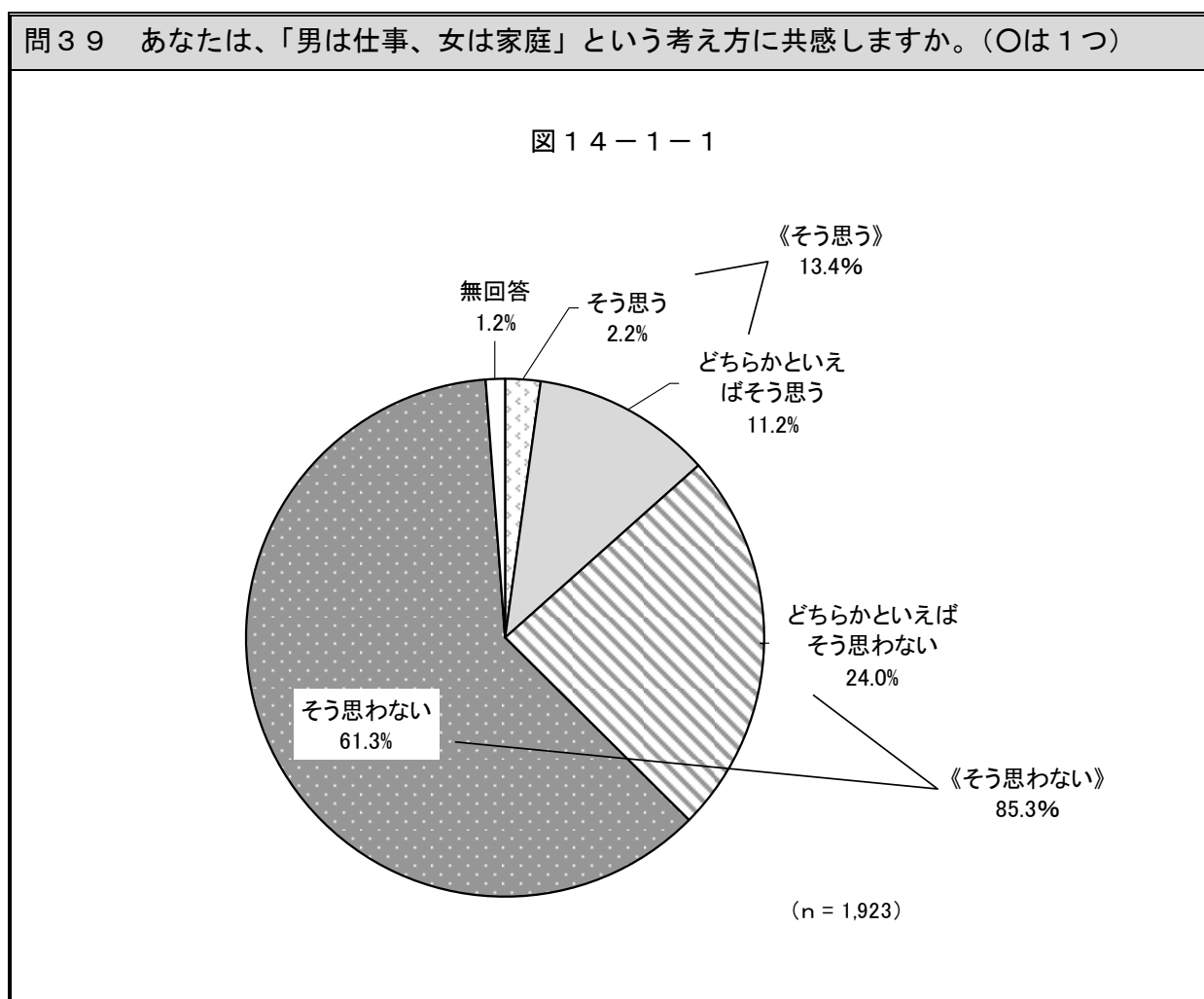


ライフステージ別にみると、「確認した」は家族成長後期で9割を超えている。「確認していない」は高齢期Ⅱで2割半ばとなっている。（図 1 3 - 5 - 4）

14. 男女共同参画の推進

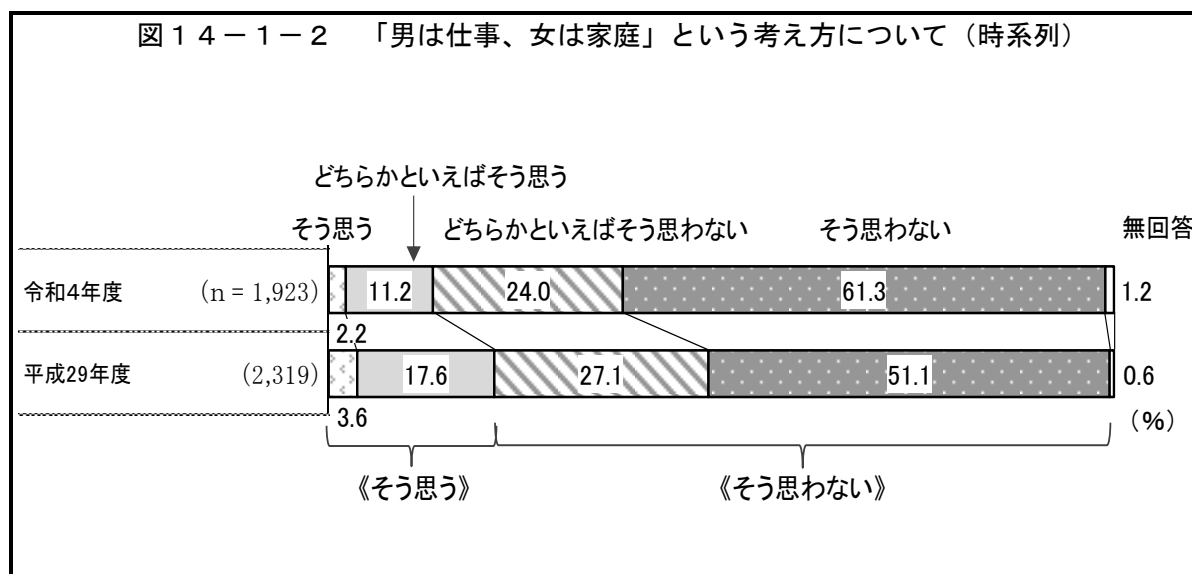
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

◎ 《そう思わない》が8割半ば

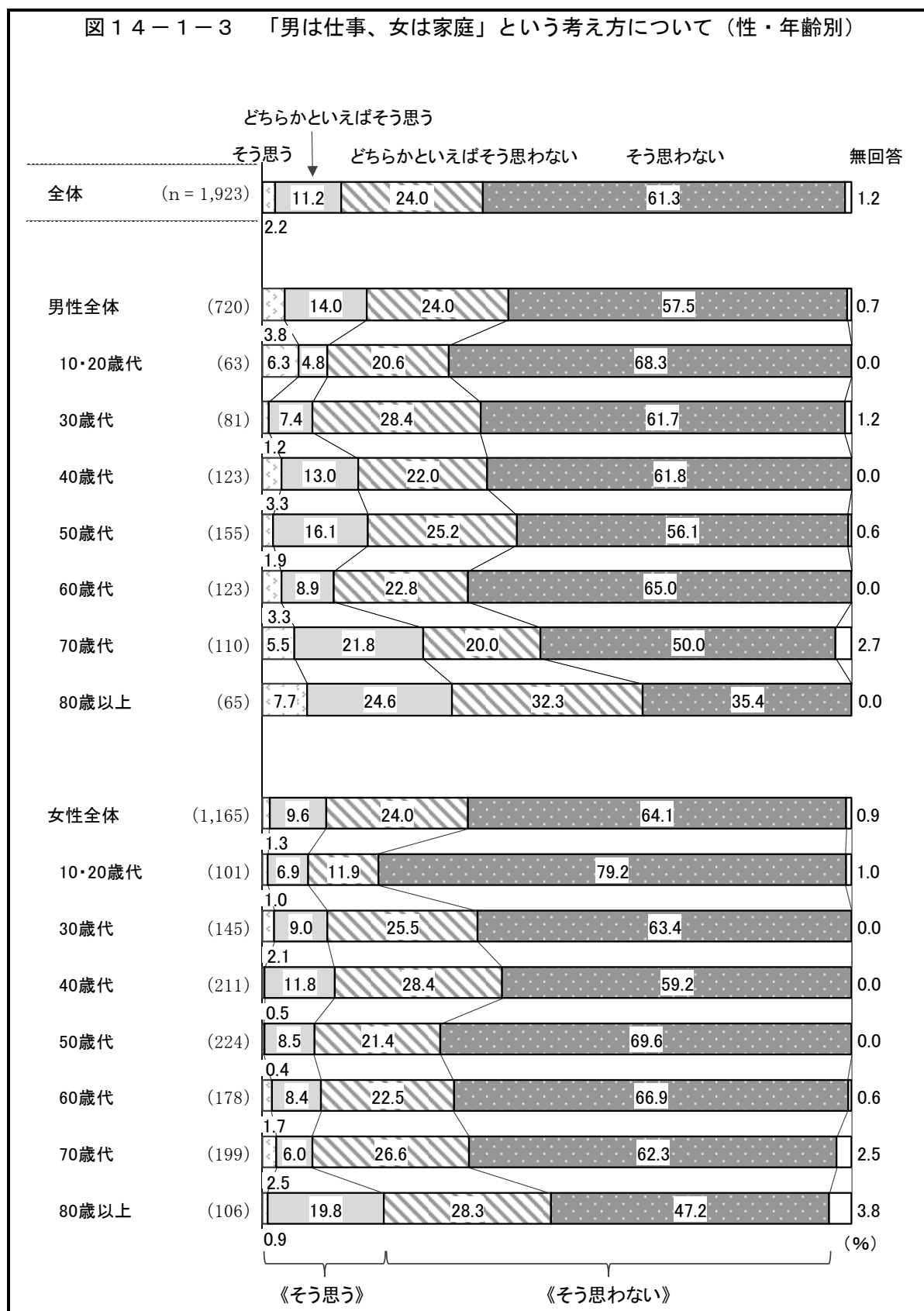


「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(61.3%)が6割を超えて最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(24.0%)と合わせた《そう思わない》(85.3%)が8割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思う」(11.2%)と「そう思う」(2.2%)を合わせた《そう思う》(13.4%)は1割を超えている。

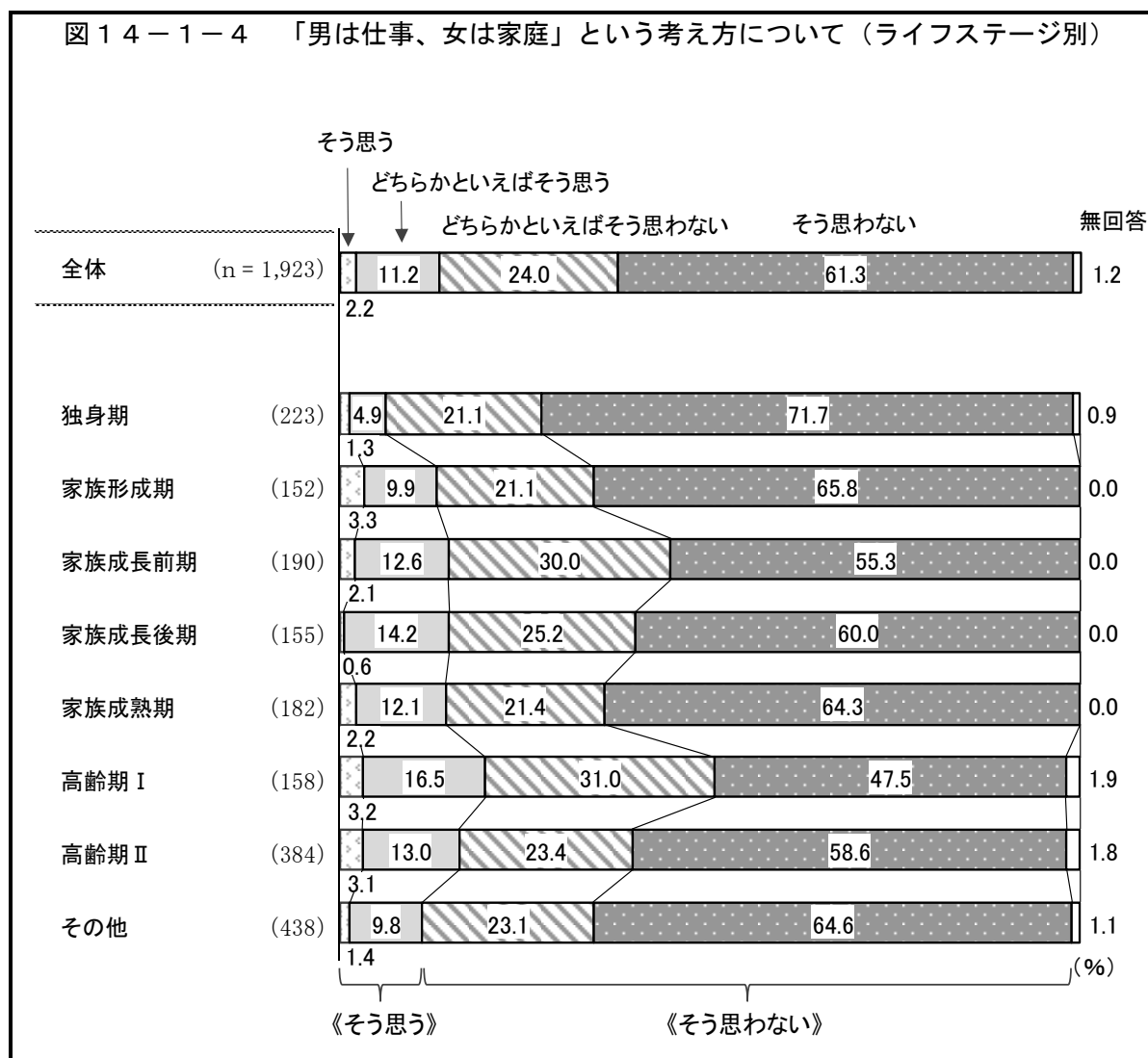
(図14-1-1)



平成29年度からの時系列の変化をみると、《そう思う》は平成29年度（21.2%）から令和4年度（13.4%）で減少している。《そう思わない》は平成29年度（78.2%）から令和4年度（85.3%）で増加している。（図14-1-2）



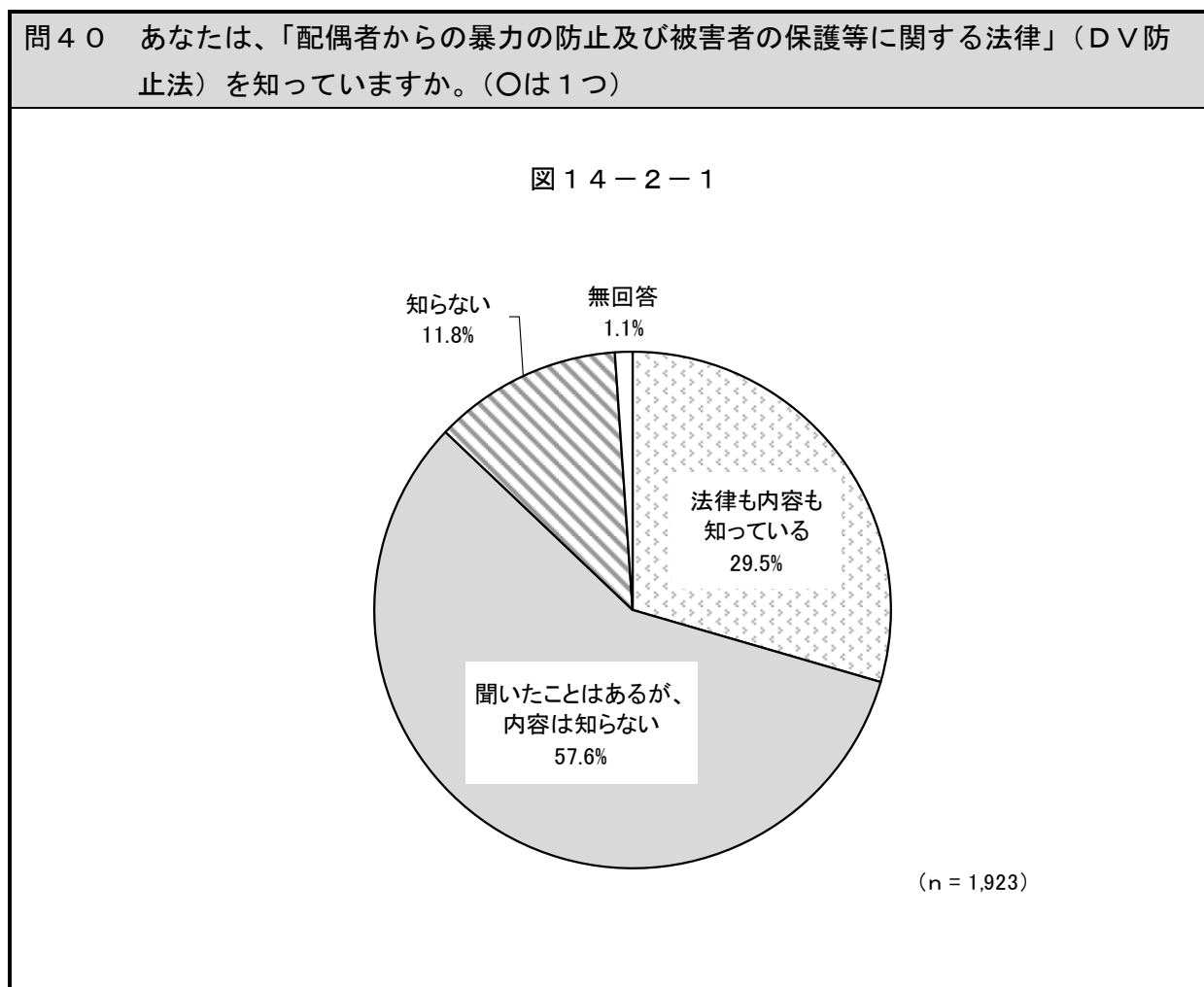
性・年齢別にみると、《そう思う》は男性、女性ともに80歳以上が高く、男性の80歳以上で3割を超え、女性の80歳以上ではほぼ2割となっている。一方、《そう思わない》は女性の10・20歳代で9割を超え、男性の30歳代で9割となっている。(図14-1-3)



ライフステージ別にみると、《そう思う》は高年齢期 I で 2 割となっている。《そう思わない》は独身期で 9 割を超えている。（図 14-1-4）

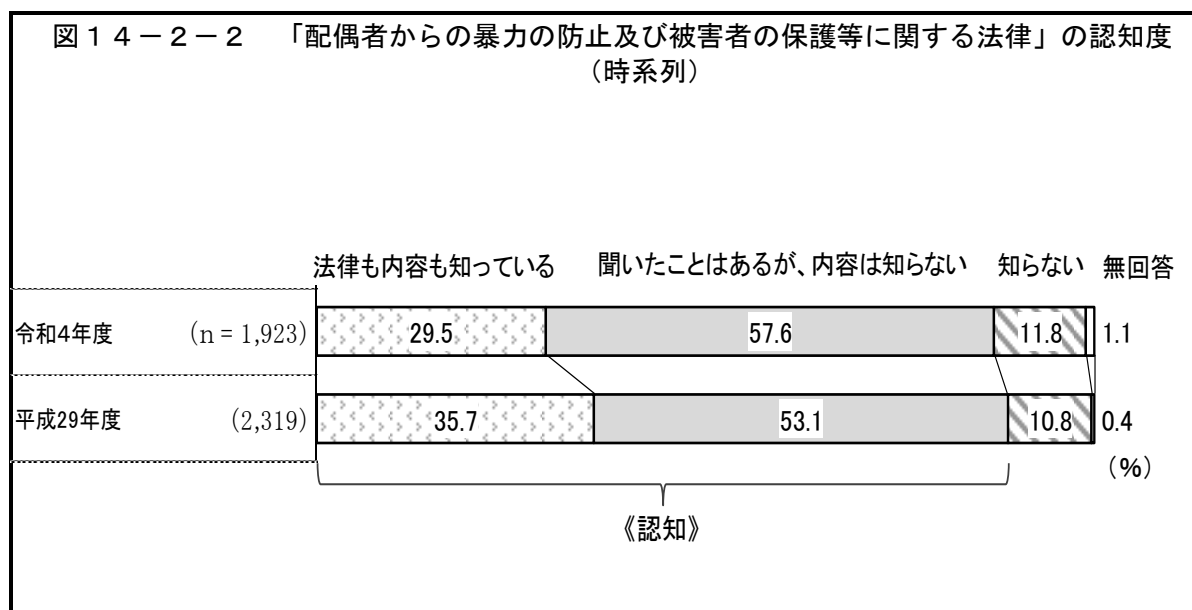
(2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度

◎ 「聞いたことはあるが、内容は知らない」が6割近く



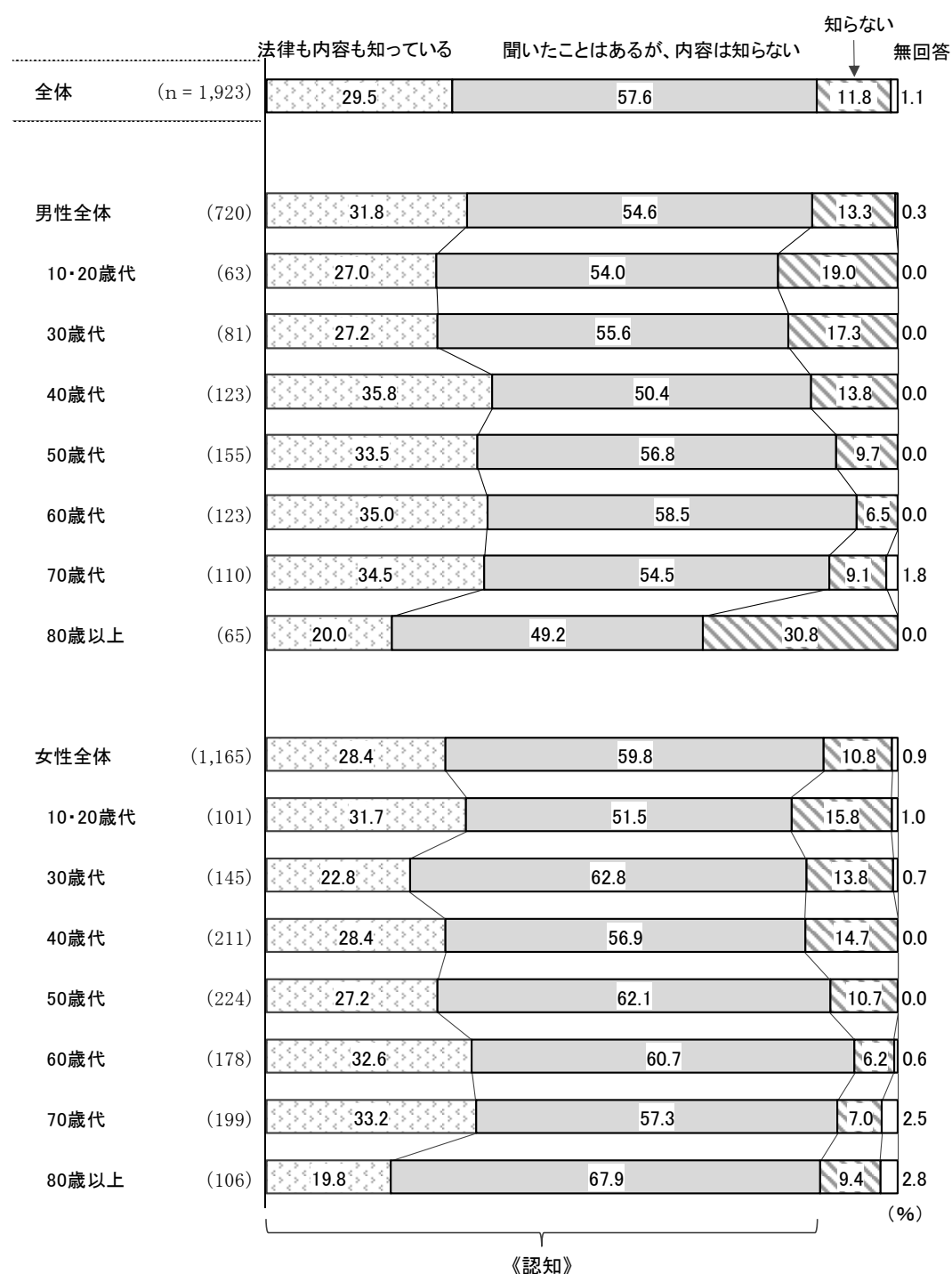
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度を聞いたところ、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(57.6%)が6割近くで最も高く、「法律も内容も知っている」(29.5%)は3割、「知らない」(11.8%)は1割を超えている。

(図14-2-1)



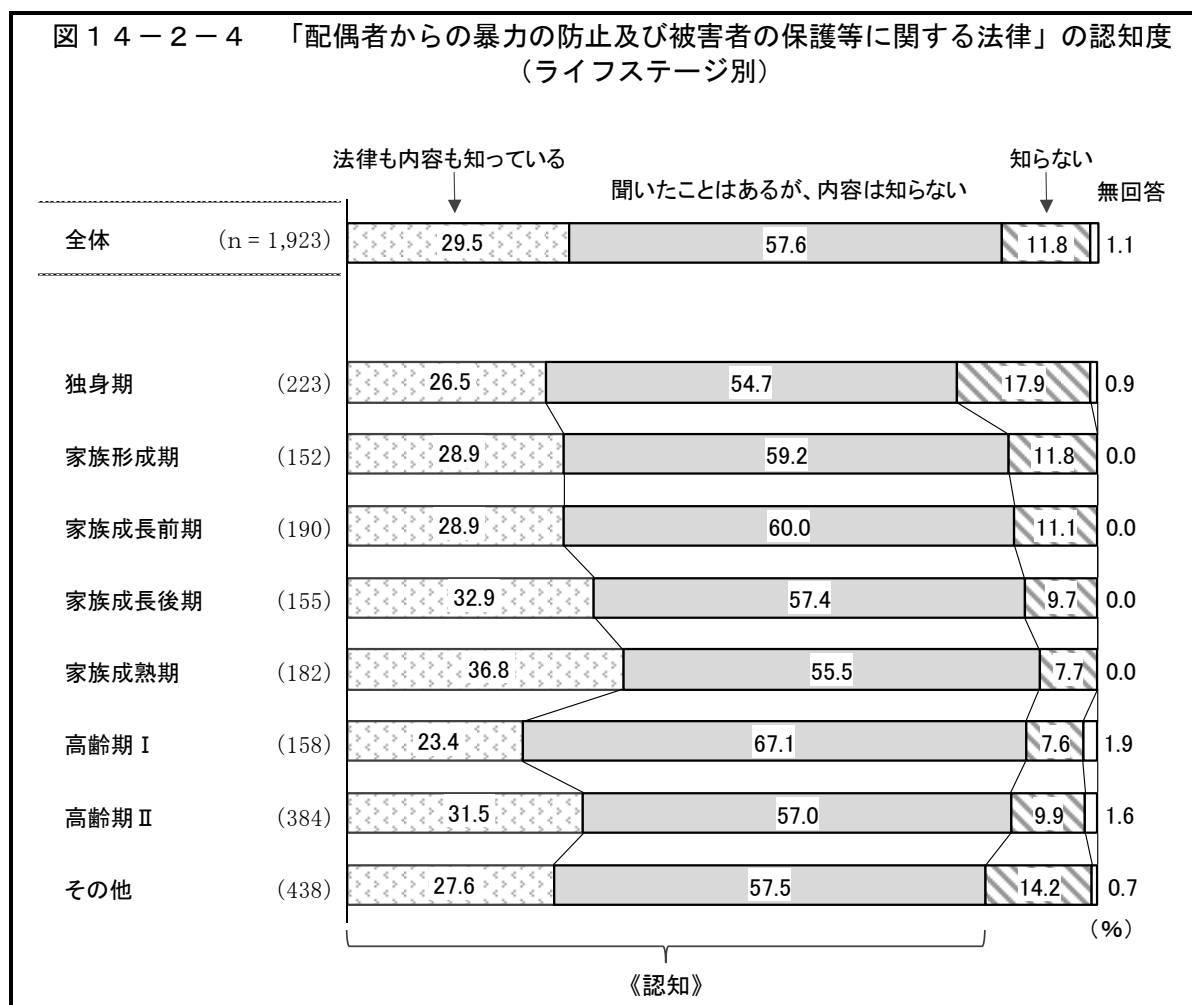
平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《認知》は平成 29 年度 (88.8%) から令和 4 年度 (87.1%) で大きな違いはみられない。(図 1 4 - 2 - 2)

図 1 4 - 2 - 3 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度
(性・年齢別)



性・年齢別にみると、「法律も内容も知っている」は、男性の40歳代、60歳代、70歳代で3割半ば、女性の10・20歳代、60歳代、70歳代で3割を超えている。「知らない」は男性の80歳以上でほぼ3割、女性の10・20歳代、40歳代で1割半ばとなっている。

(図 1 4 - 2 - 3)

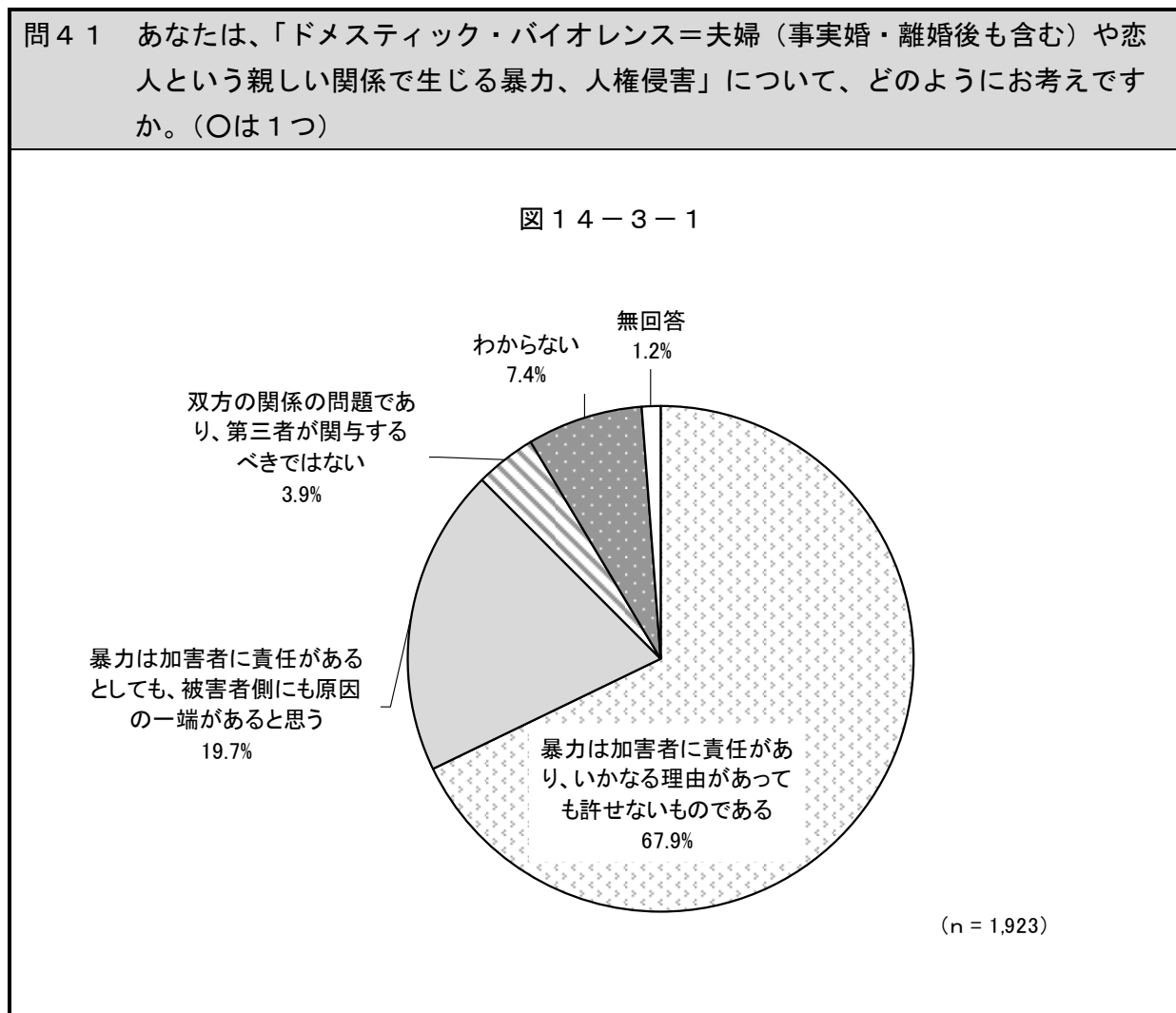


ライフステージ別にみると、「法律も内容も知っている」は家族成熟期で4割近く、家族成長後期、高齢期IIで3割を超えている。「知らない」は独身期で2割近くとなっている。

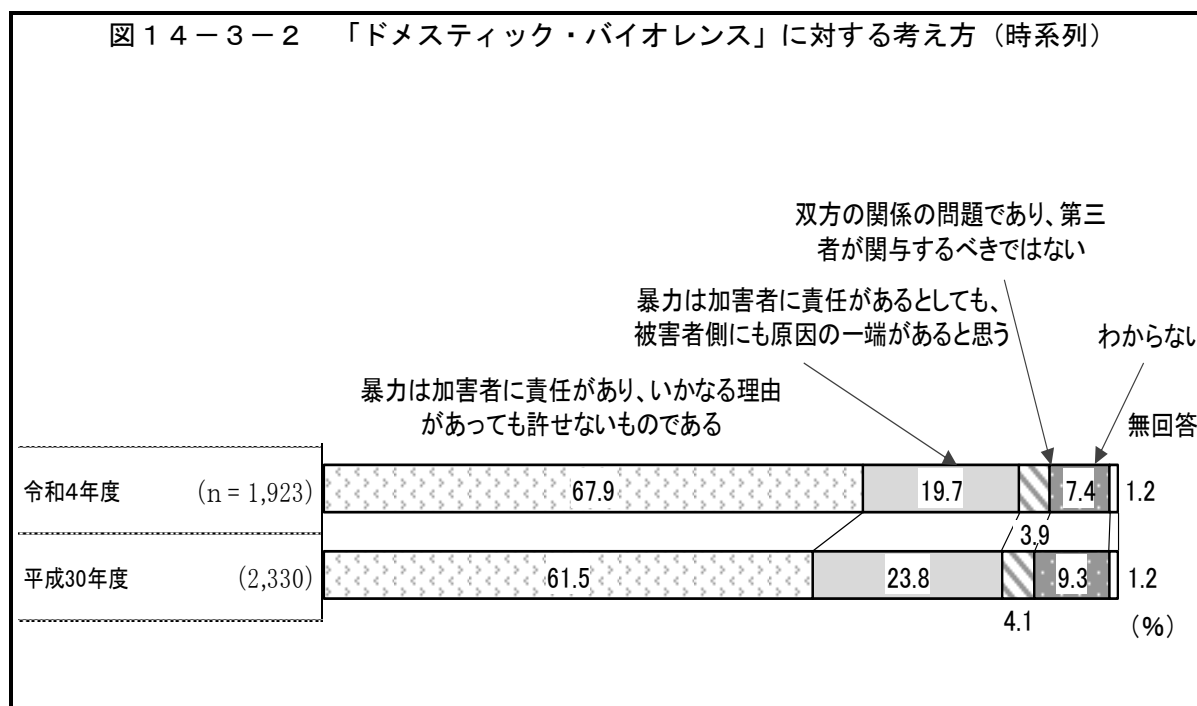
(図 1 4 - 2 - 4)

(3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

- ◎「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が7割近く

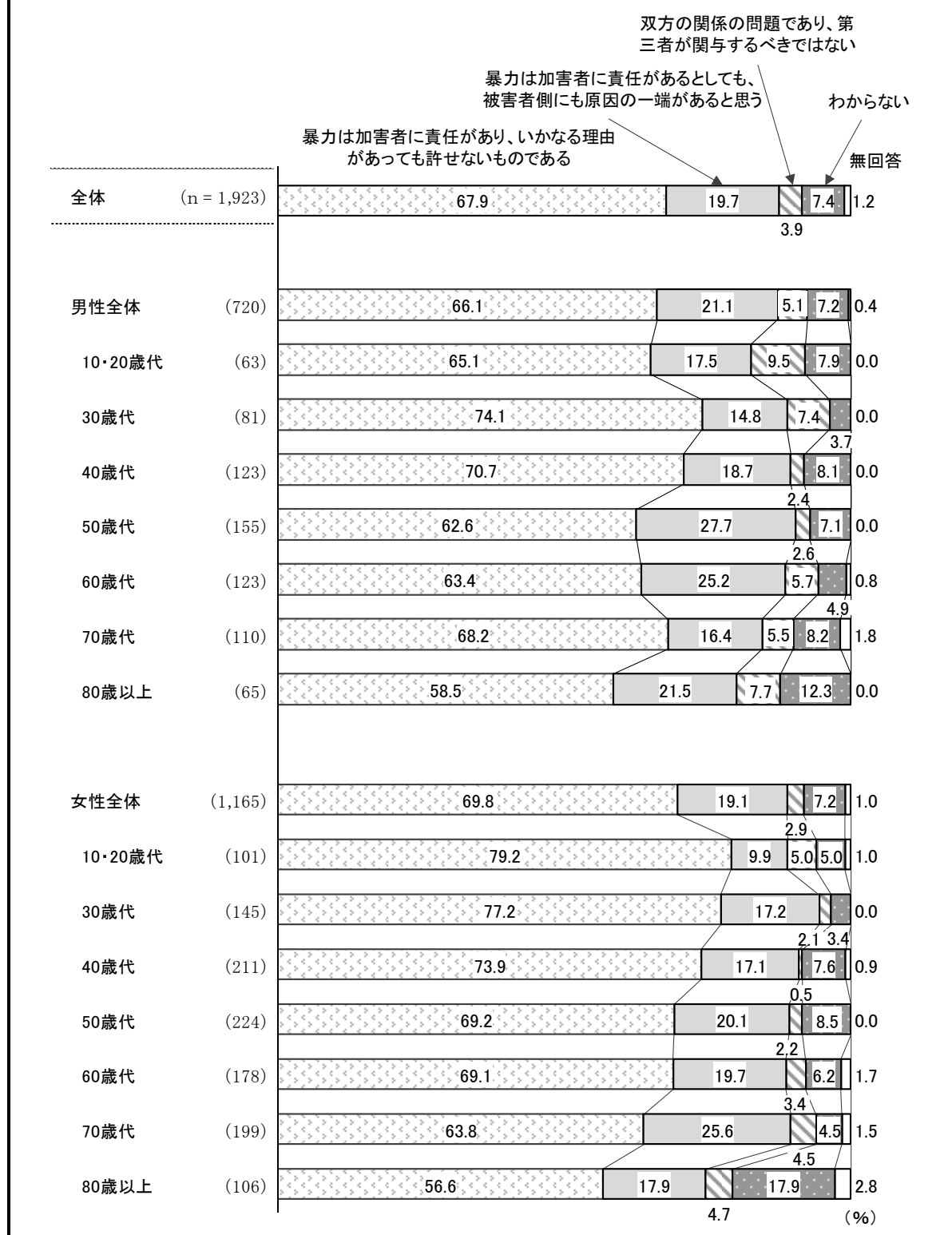


「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」（67.9%）が7割近くで最も高く、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」（19.7%）が2割となっている。（図14-3-1）



平成30年度からの時系列の変化をみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は平成30年度（61.5%）から令和4年度（67.9%）で増加している。（図14-3-2）

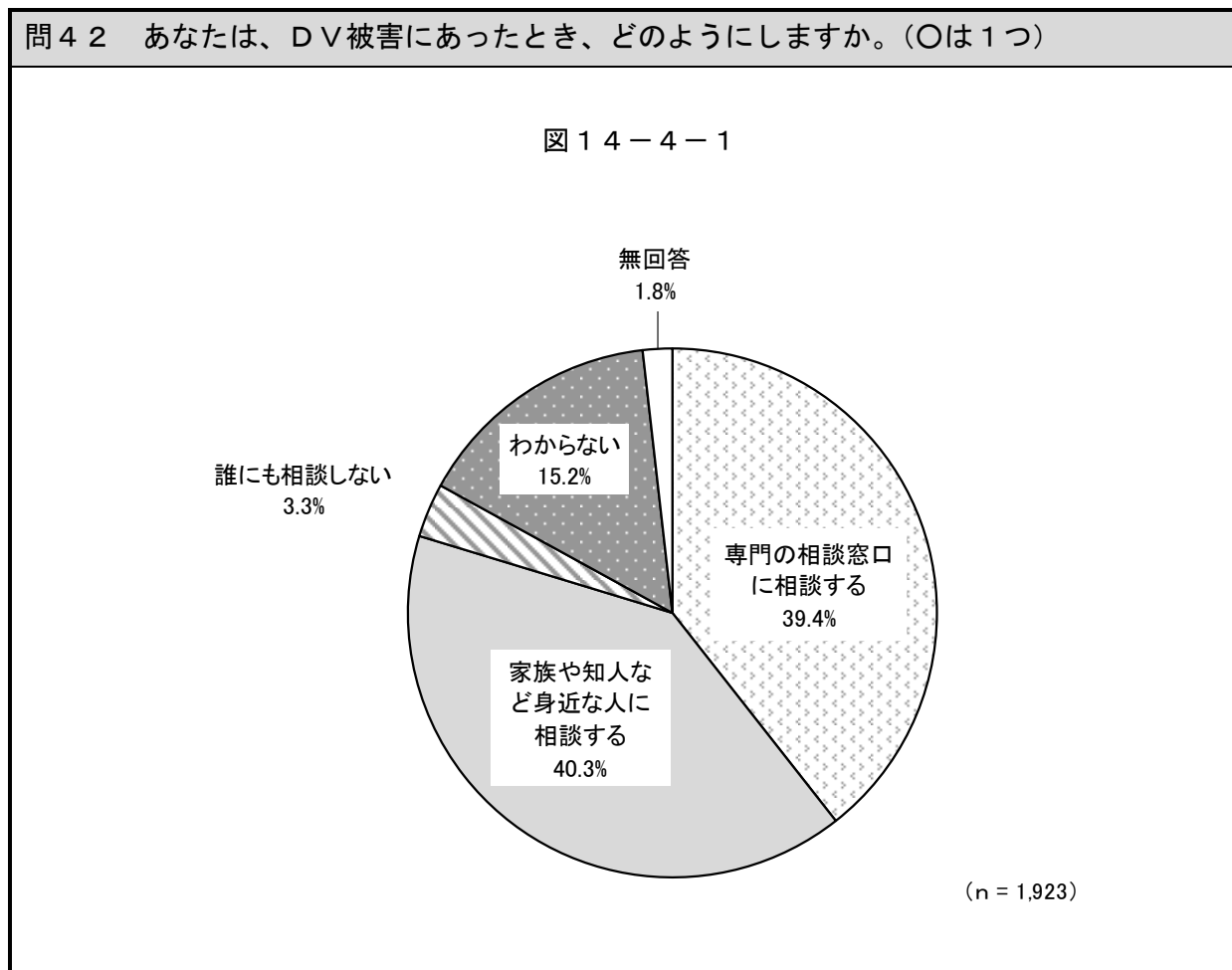
図14-3-3 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（性・年齢別）



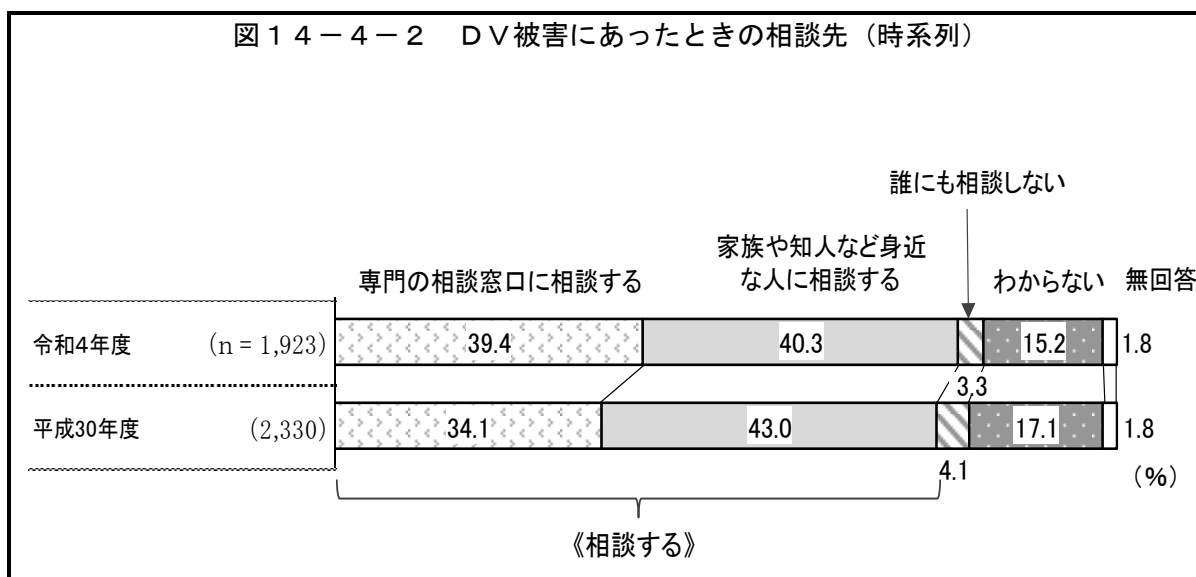
性・年齢別にみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は女性の10・20歳代がほぼ8割、男性の30歳代が7割半ばとなっている。「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」は男性の50歳代で3割近く、女性の70歳代で2割半ばとなっている。（図14-3-3）

(4) DV被害にあったときの相談先

◎「家族や知人など身近な人に相談する」が4割、「専門の相談窓口
に相談する」がほぼ4割

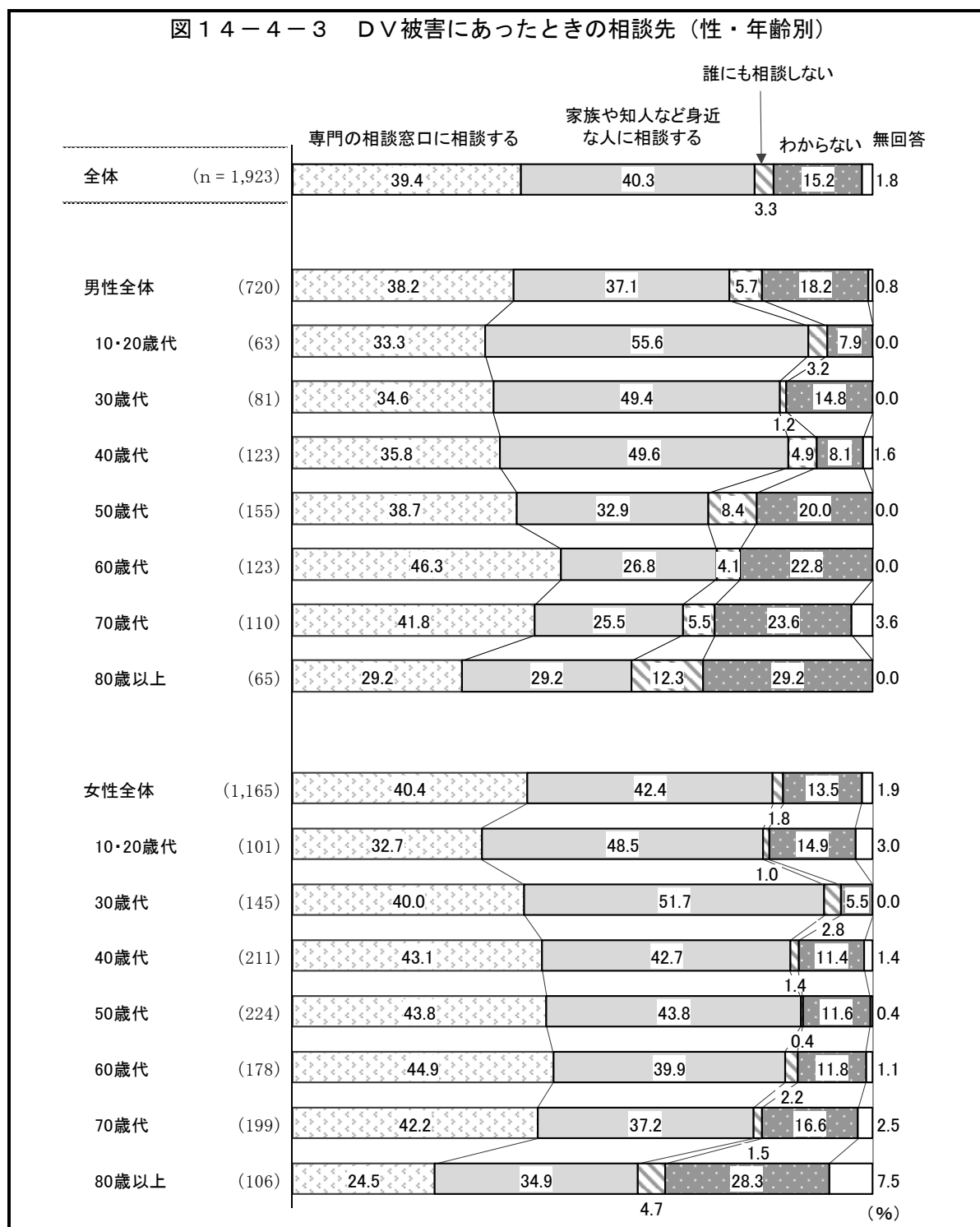


DV被害にあったときの相談先について聞いたところ、「家族や知人など身近な人に相談する」(40.3%)が4割、「専門の相談窓口
に相談する」(39.4%)がほぼ4割となっている。「誰にも相談しない」(3.3%)は1割に満たない。(図14-4-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《相談する》は平成 30 年度（77.1%）から令和 4 年度（79.7%）で大きな違いはみられない。（図 1 4 - 4 - 2）

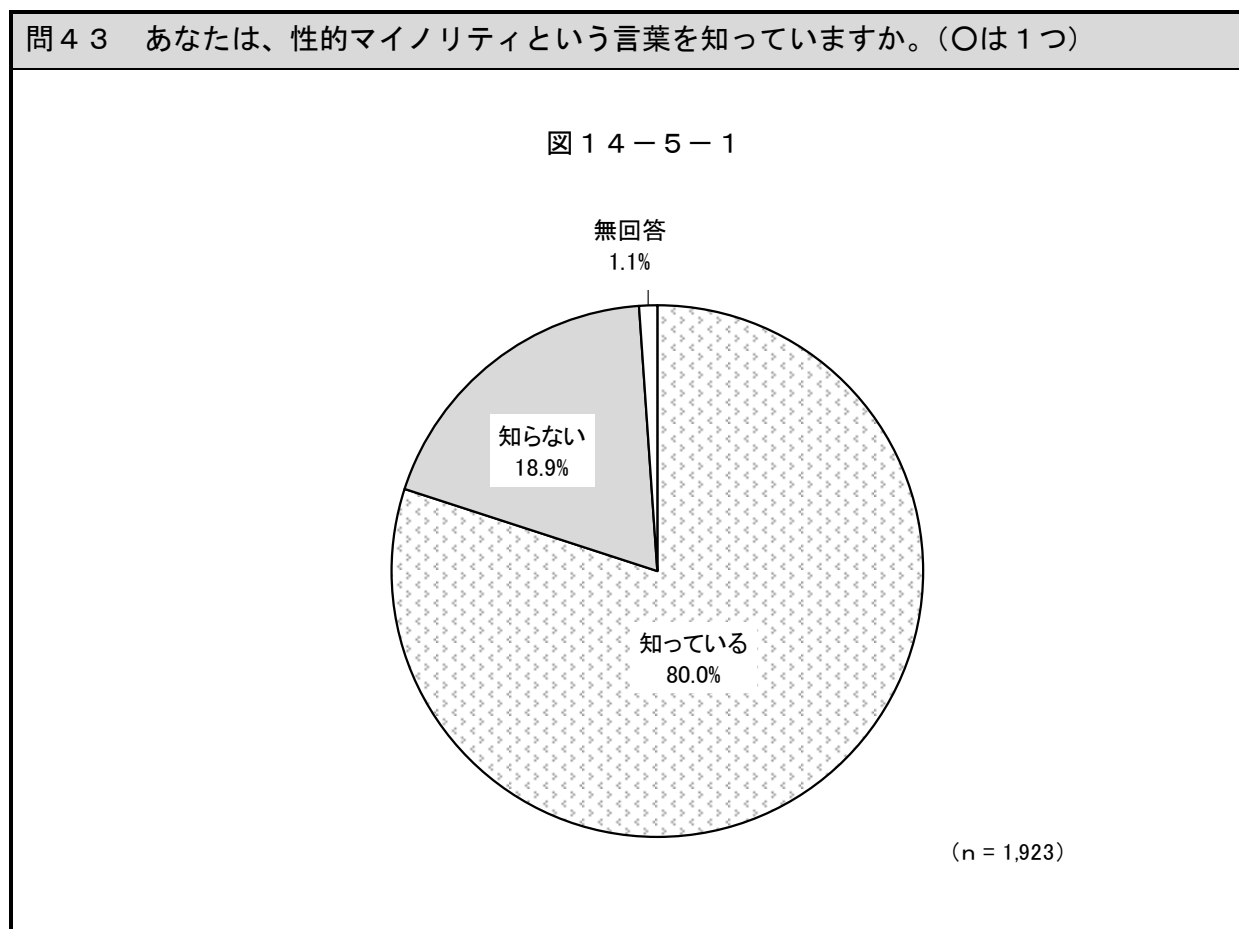
図 1 4 - 4 - 3 DV被害にあったときの相談先 (性・年齢別)



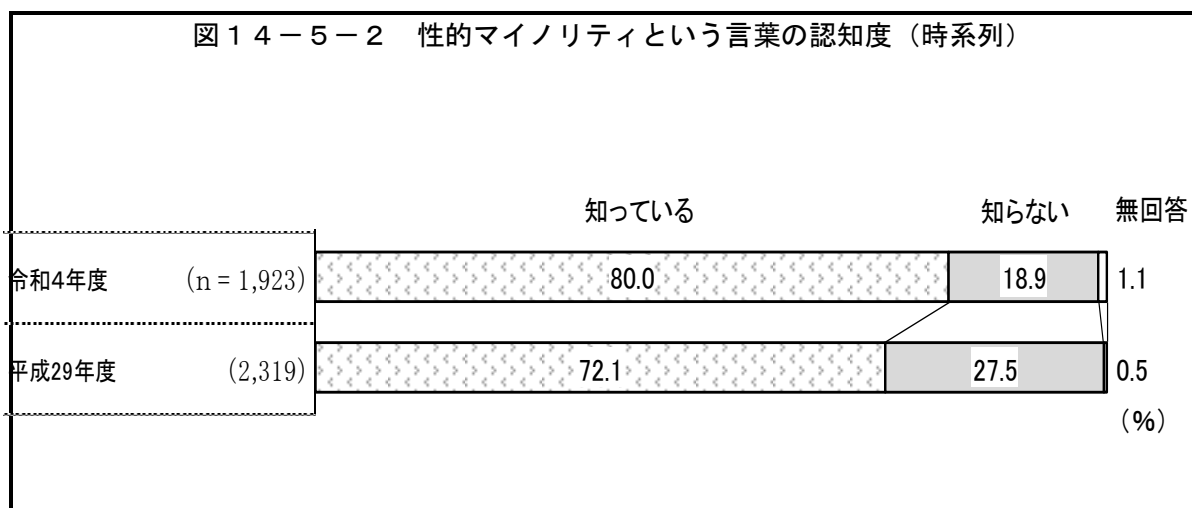
性・年齢別にみると、「家族や知人など身近な人に相談する」は男性の10・20歳代で5割半ば、女性の30歳代で5割を超えている。「専門の相談窓口相談する」は男性の60歳代で4割半ば、女性も60歳代で4割半ばとなっている。(図14-4-3)

(5) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎ 「知っている」が8割

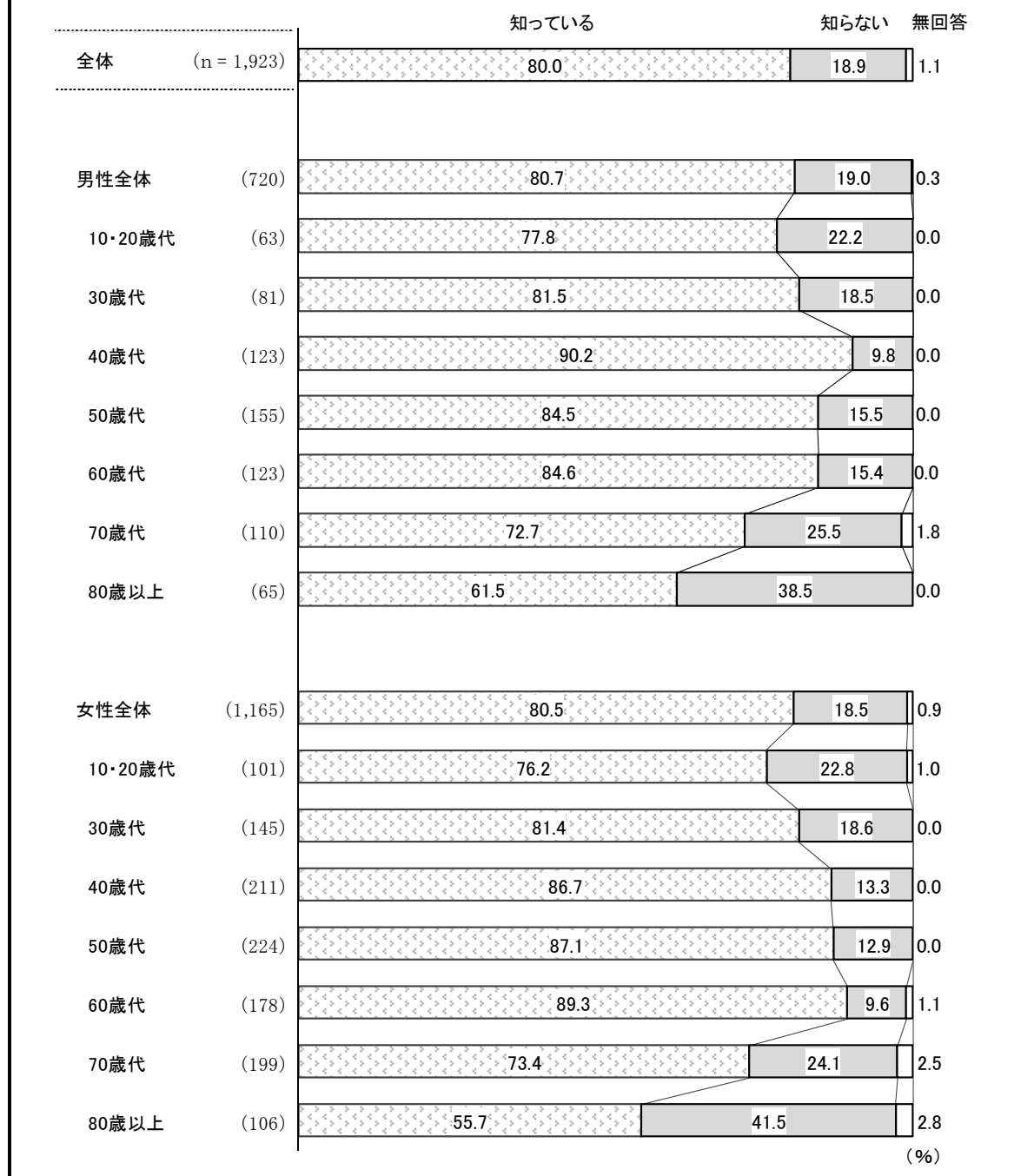


性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(80.0%)が8割、「知らない」(18.9%)が2割近くとなっている。(図14-5-1)



平成29年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成29年度（72.1%）から令和4年度（80.0%）で増加している。（図14-5-2）

図 1 4 - 5 - 3 性的マイノリティという言葉の認知度（性・年齢別）

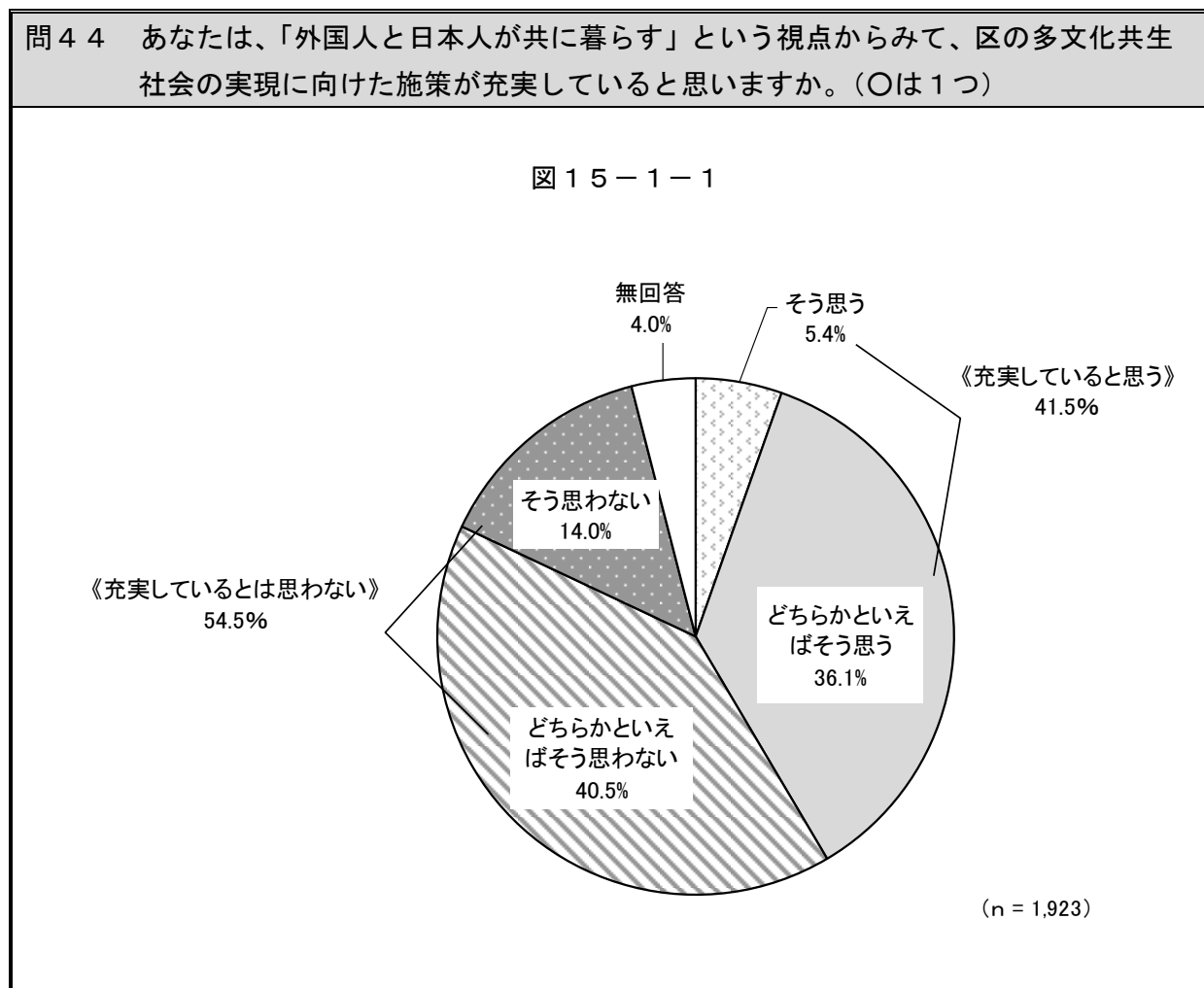


性・年齢別にみると、「知っている」は男性の40歳代で9割、女性の60歳代でほぼ9割となっている。（図14-5-3）

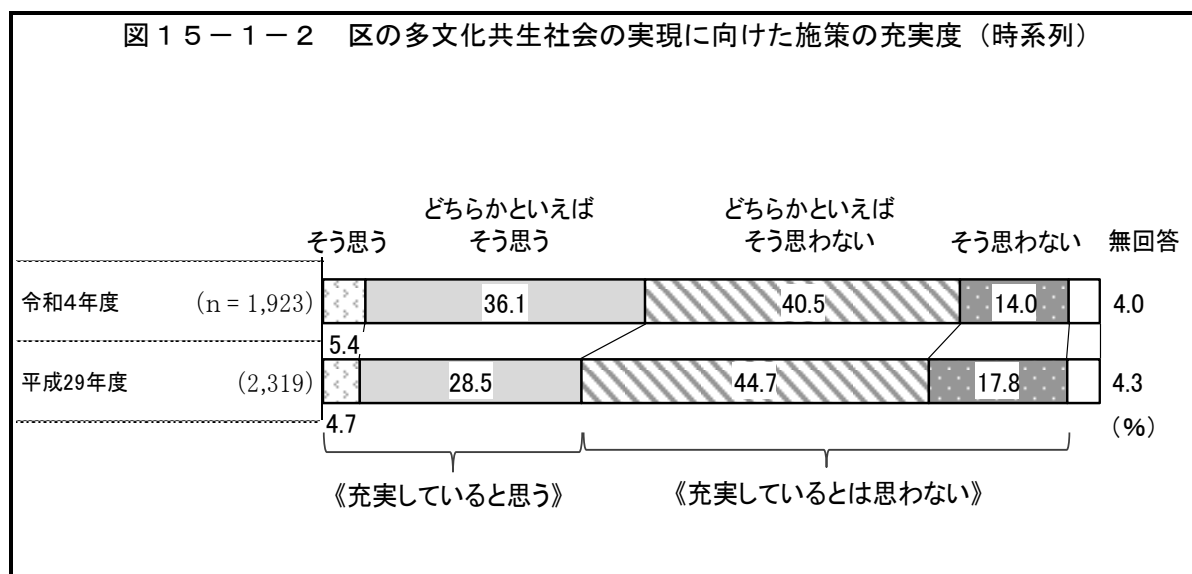
15. 多文化共生

(1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

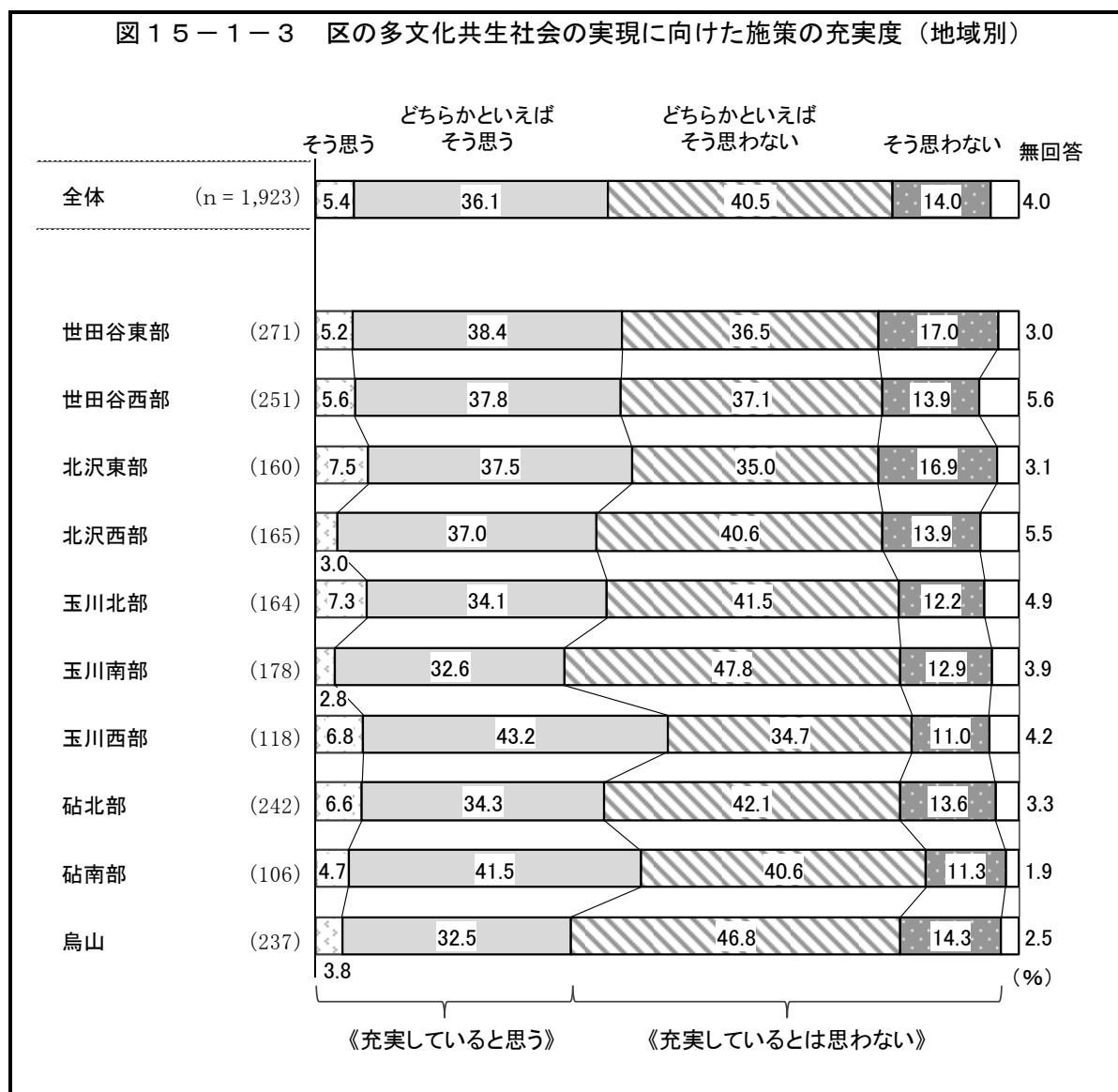
◎ 《充実しているとは思わない》が5割半ば



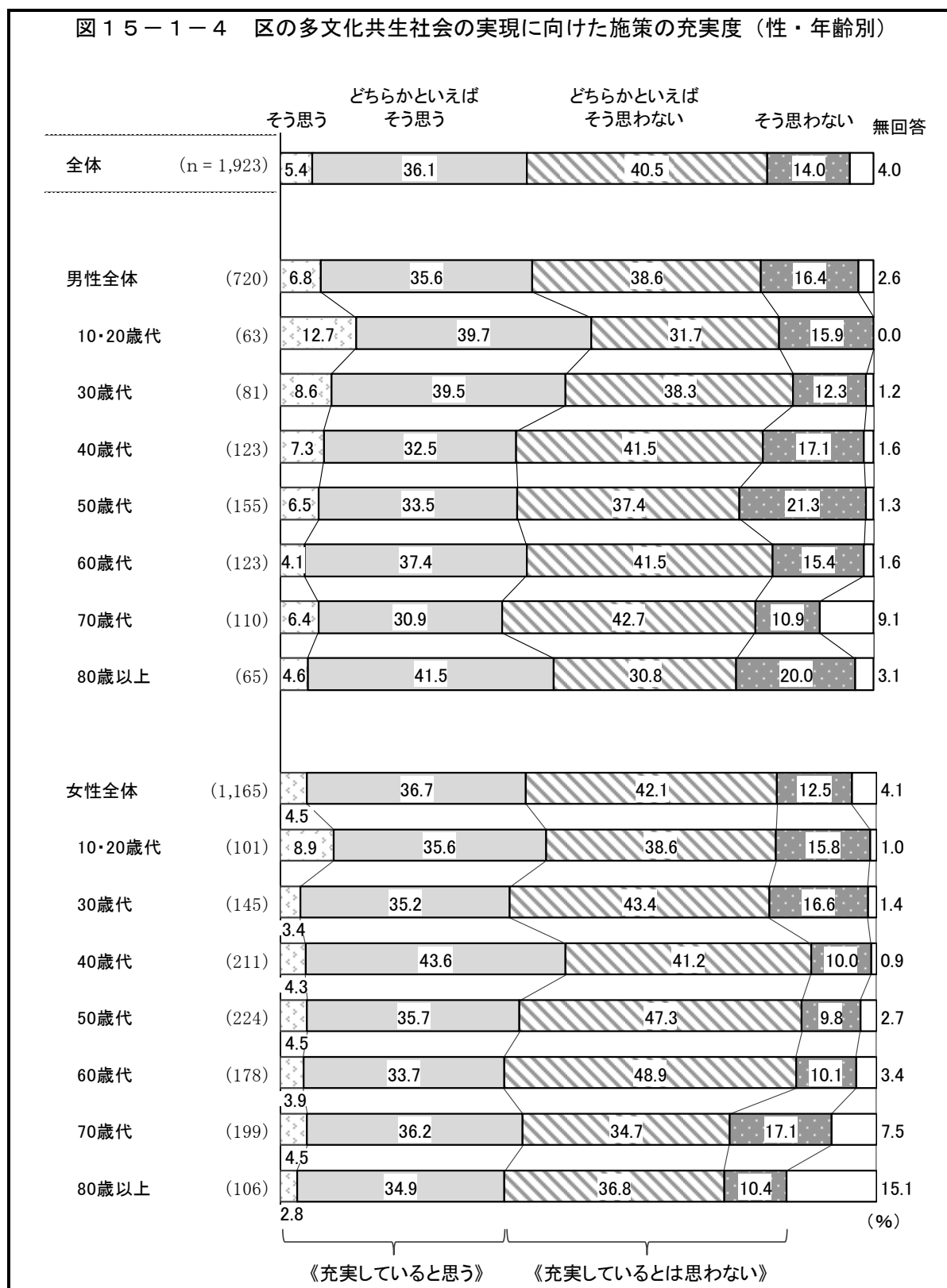
区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度を聞いたところ、「どちらかといえばそう思わない」(40.5%)がほぼ4割で最も高く、「そう思わない」(14.0%)と合わせた《充実しているとは思わない》(54.5%)が5割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思う」(36.1%)と「そう思う」(5.4%)を合わせた《充実していると思う》(41.5%)は4割を超えるにとどまっている。(図15-1-1)



平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《充実していると思う》は平成 29 年度（33.2%）から令和 4 年度（41.5%）で増加している。（図 15-1-2）



地域別にみると、《充実していると思う》は玉川西部で5割となっている。《充実しているとは思わない》は烏山で6割を超えている。（図15-1-3）

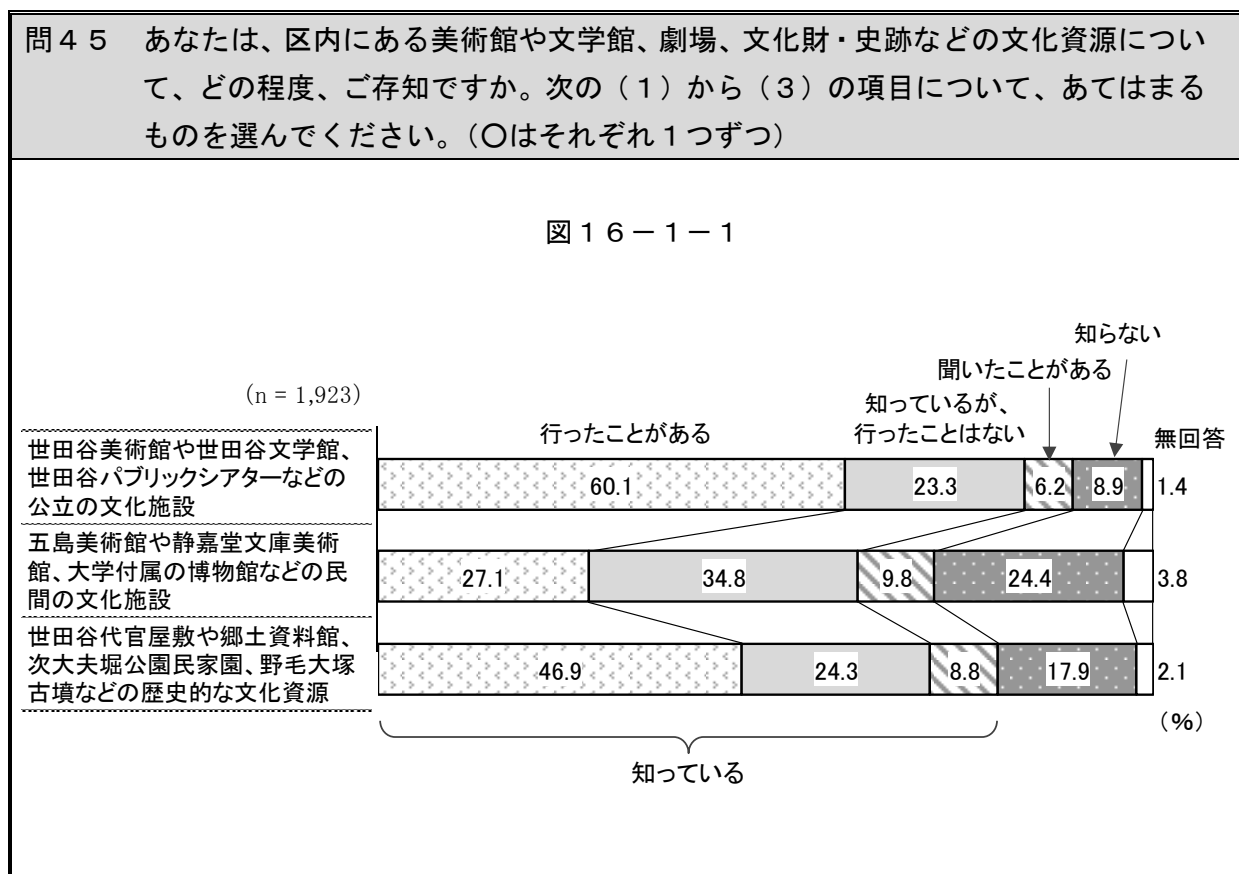


性・年齢別にみると、《充実していると思う》は男性の10・20歳代で5割を超え、女性の40歳代で5割近くとなっている。《充実しているとは思わない》は男性の40歳代、50歳代で6割近く、女性の30歳代で6割となっている。（図15-1-4）

16. 文化活動

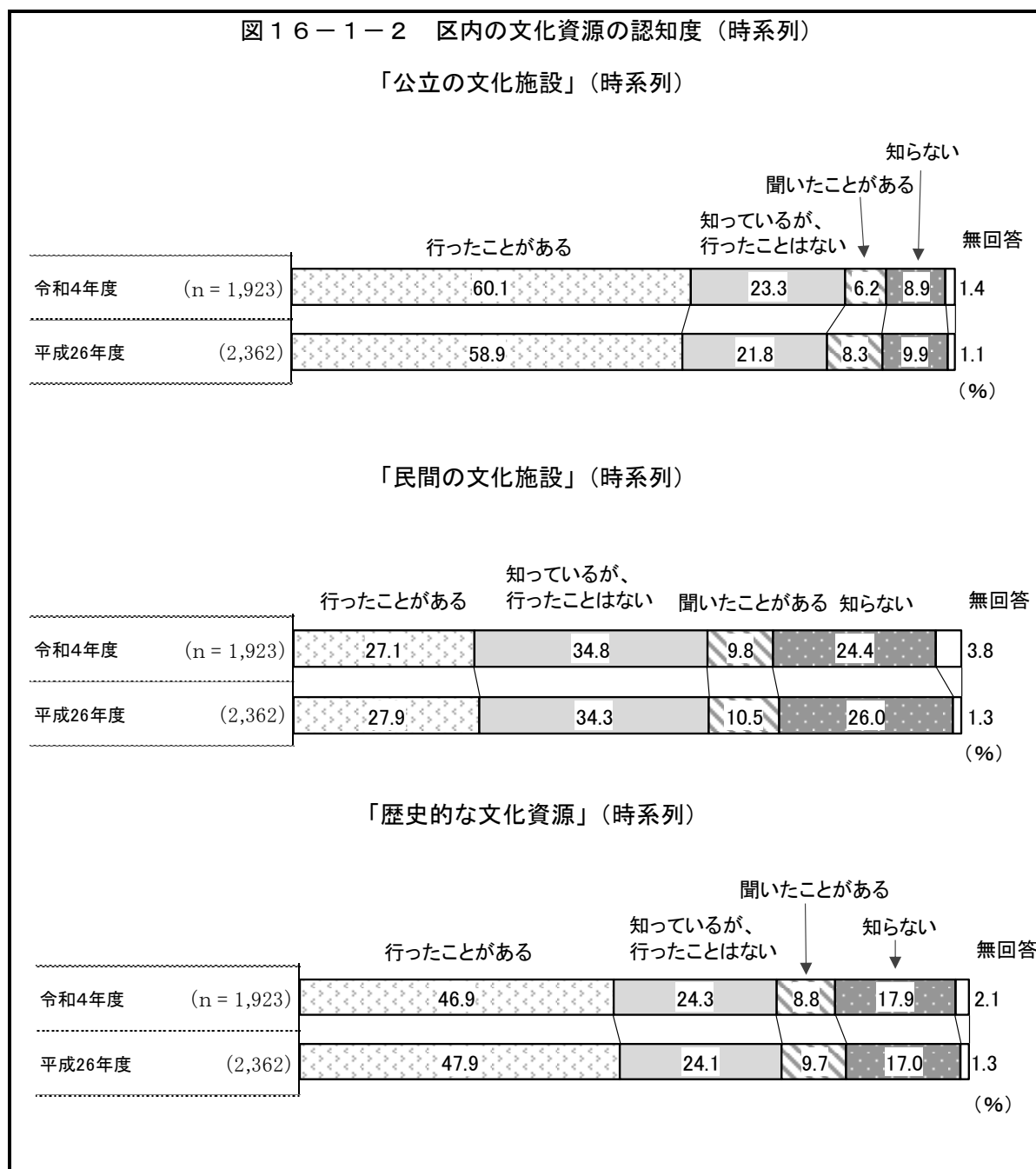
(1) 区内の文化資源の認知度

◎「行ったことがある」は公立の文化施設が6割、歴史的な文化資源が5割近く



区内の文化資源についてどの程度知っているか聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設(60.1%)が6割で最も高く、歴史的な文化資源(46.9%)が5割近く、民間の文化施設(27.1%)が3割近くとなっている。《知っている》は、公立の文化施設が9割で最も高い。

(図16-1-1)

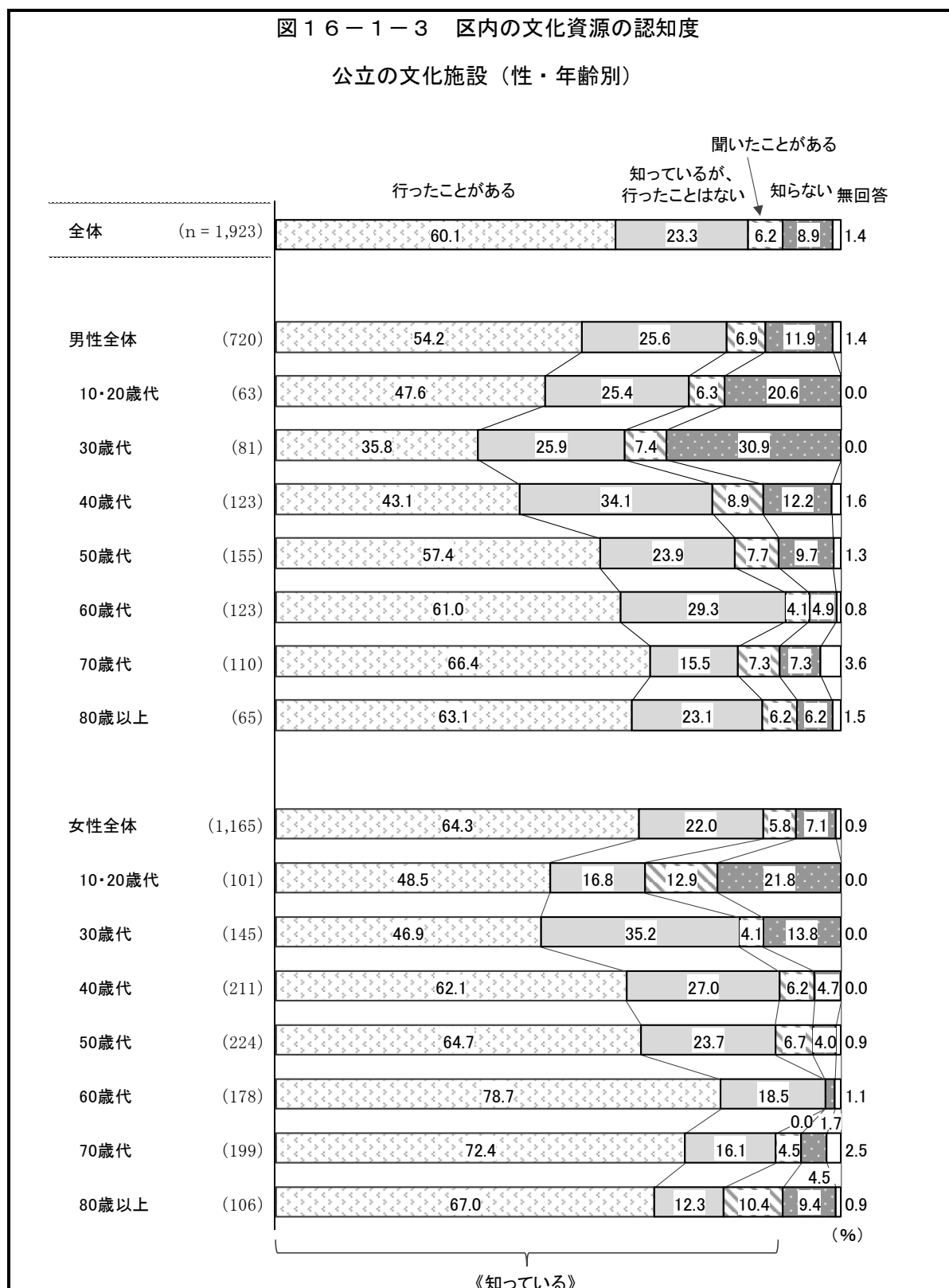


「公立の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（58.9%）から令和 4 年度（60.1%）で大きな違いはみられない。

「民間の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（27.9%）から令和 4 年度（27.1%）で大きな違いはみられない。

「歴史的な文化資源」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（47.9%）から令和 4 年度（46.9%）で大きな違いはみられない。

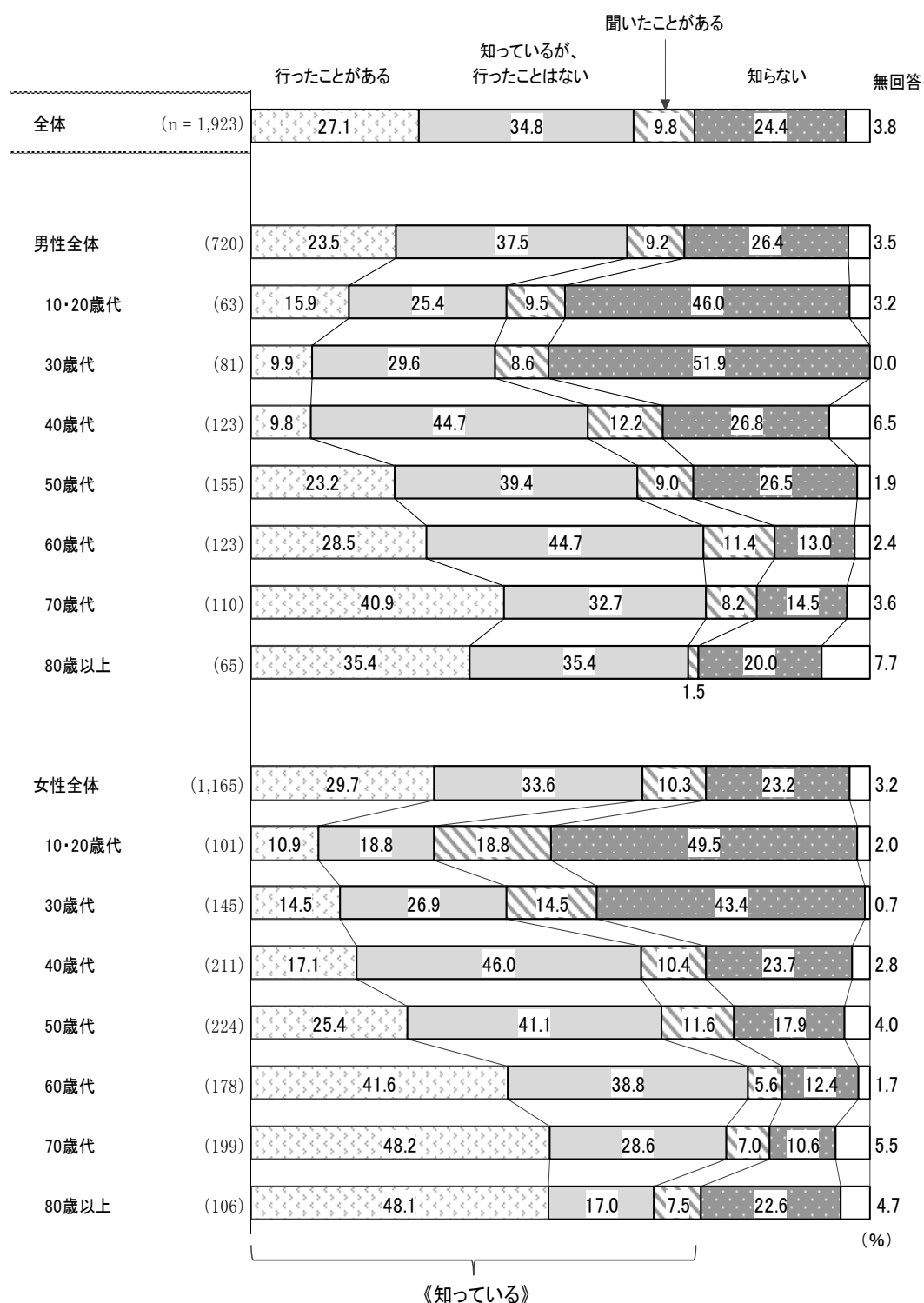
（図 1 6 - 1 - 2）



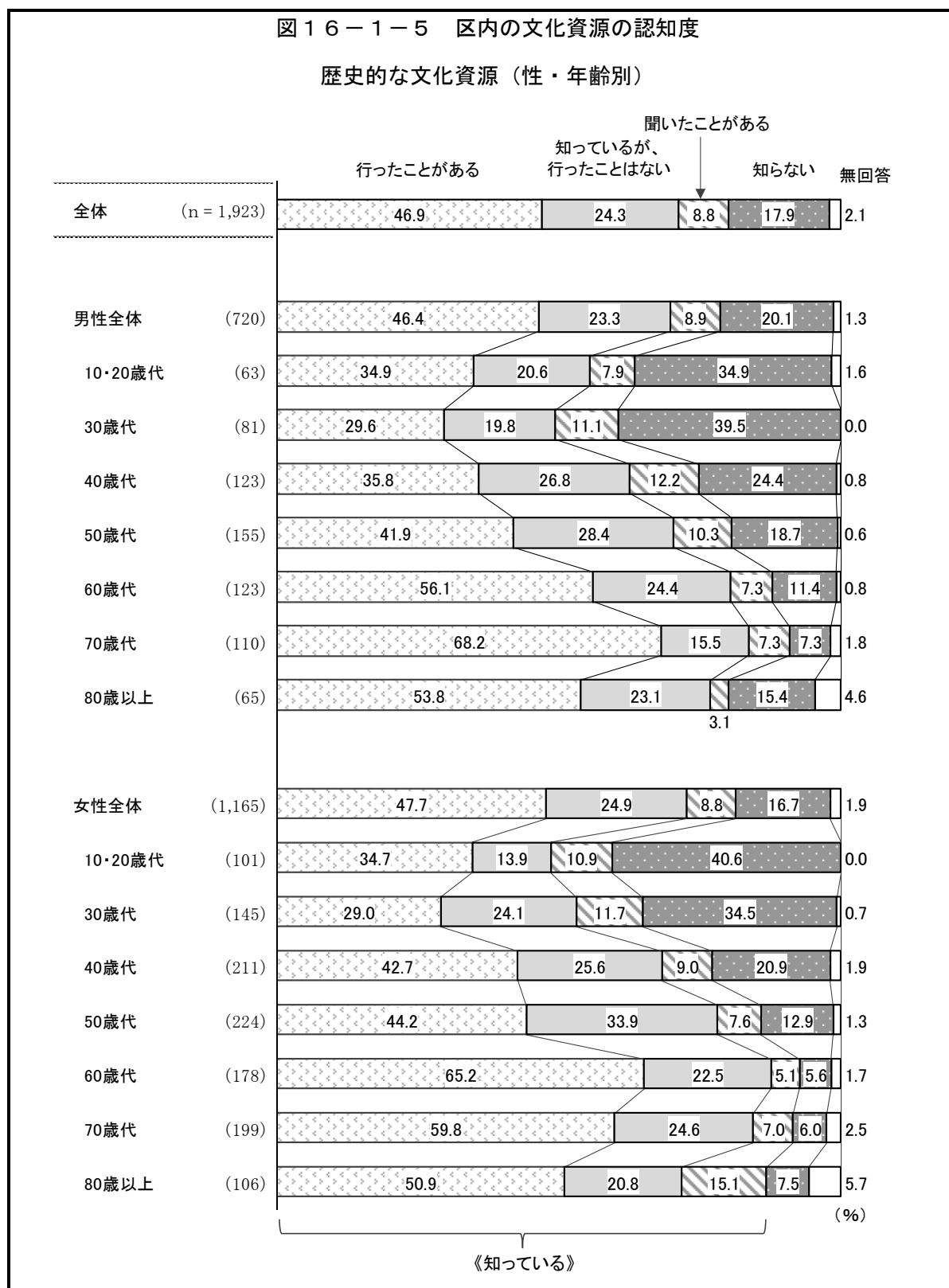
「公立の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の60歳代で8割近くとなっている。「知らない」は男性の30歳代でほぼ3割、女性の10・20歳代で2割を超えている。（図16-1-3）

図 1 6 - 1 - 4 区内の文化資源の認知度

民間の文化施設（性・年齢別）



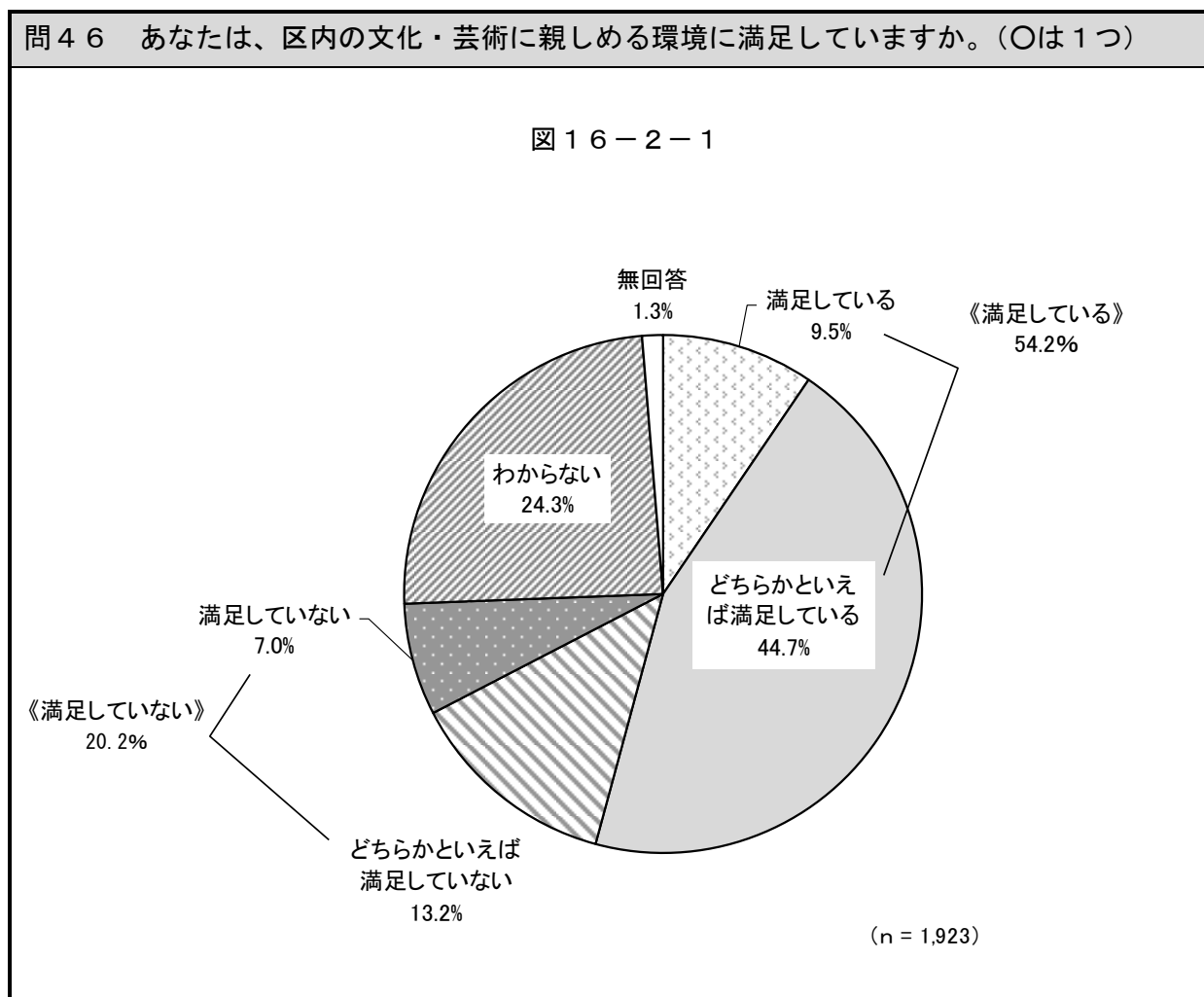
「民間の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の70歳代、80歳代で5割近くとなっている。「知らない」は男性の30歳代で5割を超え、女性の10・20歳代でほぼ5割となっている。（図16-1-4）



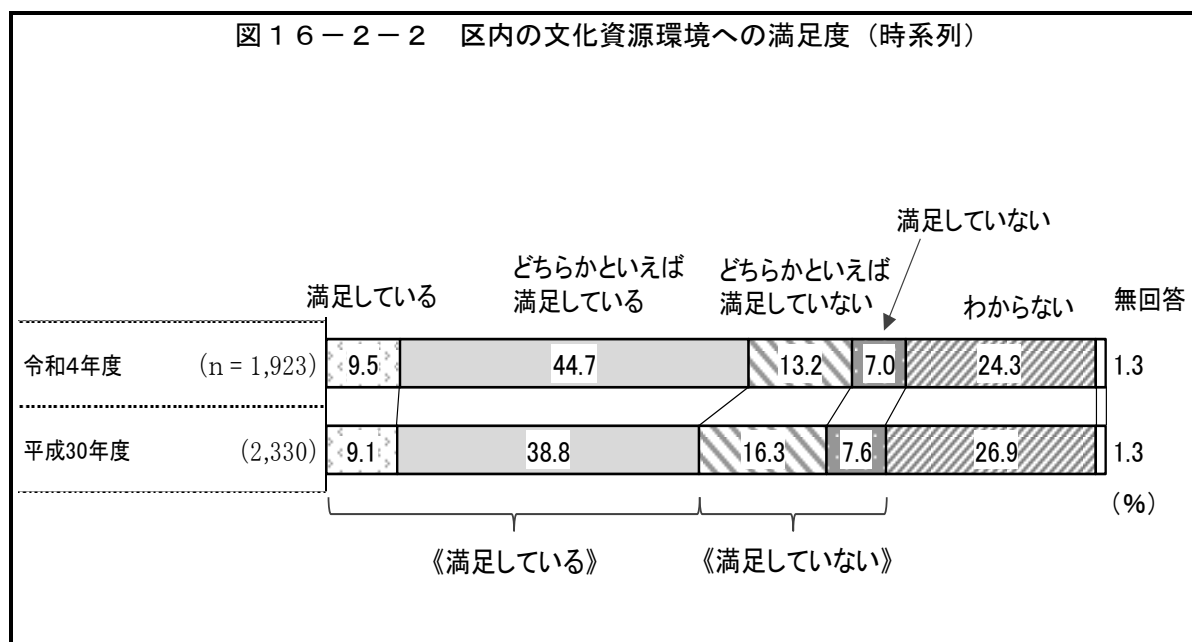
「歴史的な文化資源」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は男性の70歳代で7割近くとなっている。「知らない」は女性の10・20歳代でほぼ4割、男性の30歳代で4割となっている。（図16-1-5）

(2) 区内の文化資源環境への満足度

◎ 《満足している》が5割半ば

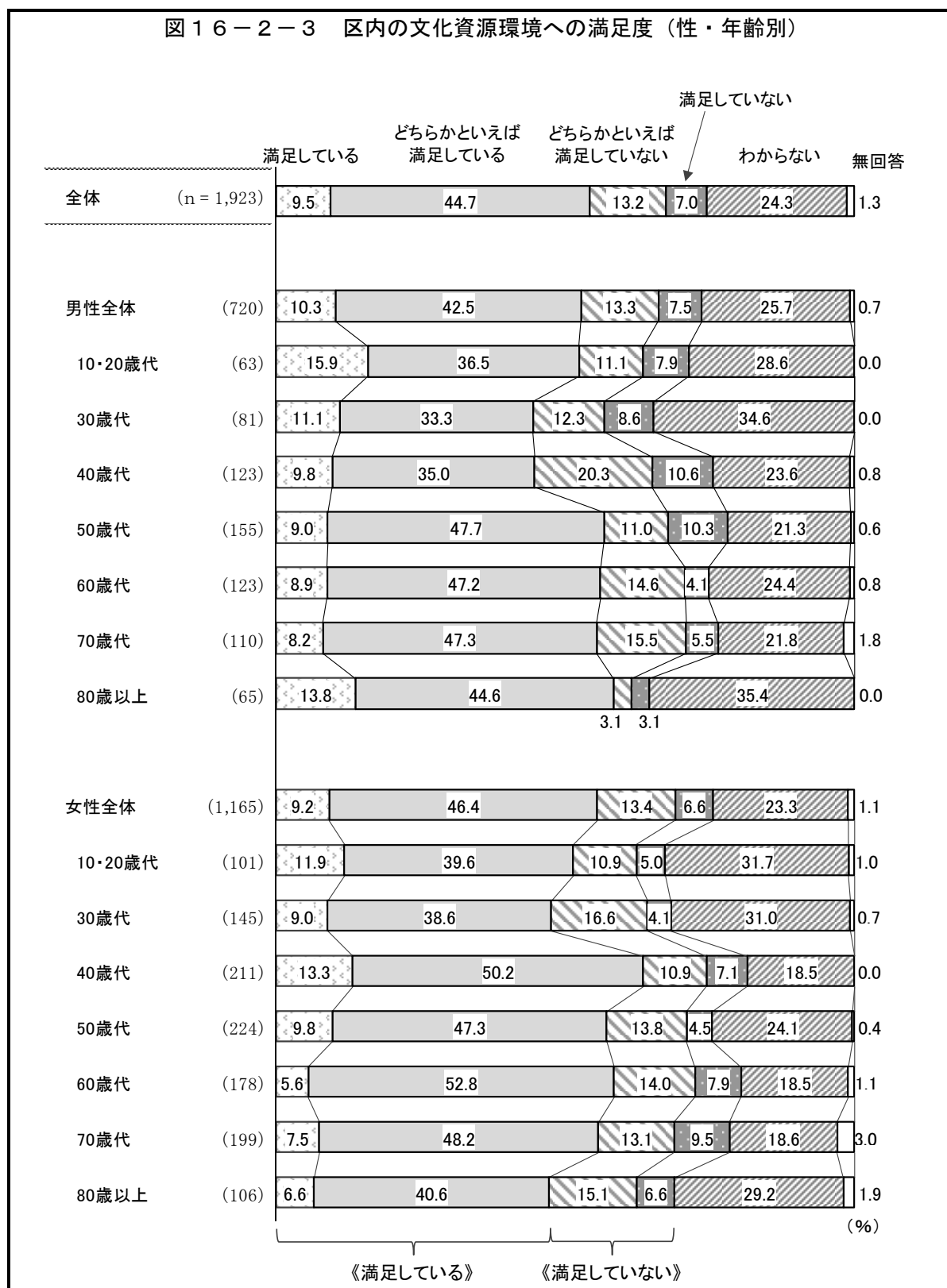


区内の文化資源環境への満足度を聞いたところ、「どちらかといえば満足している」(44.7%)が4割半ば、「満足している」(9.5%)と合わせた《満足している》(54.2%)が5割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば満足していない」(13.2%)と「満足していない」(7.0%)を合わせた《満足していない》(20.2%)は2割となっている。(図16-2-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《満足していない》は、平成 30 年度（23.9%）から令和 4 年度（20.2%）でわずかに減少している。（図 1 6 - 2 - 2）

図16-2-3 区内の文化資源環境への満足度（性・年齢別）

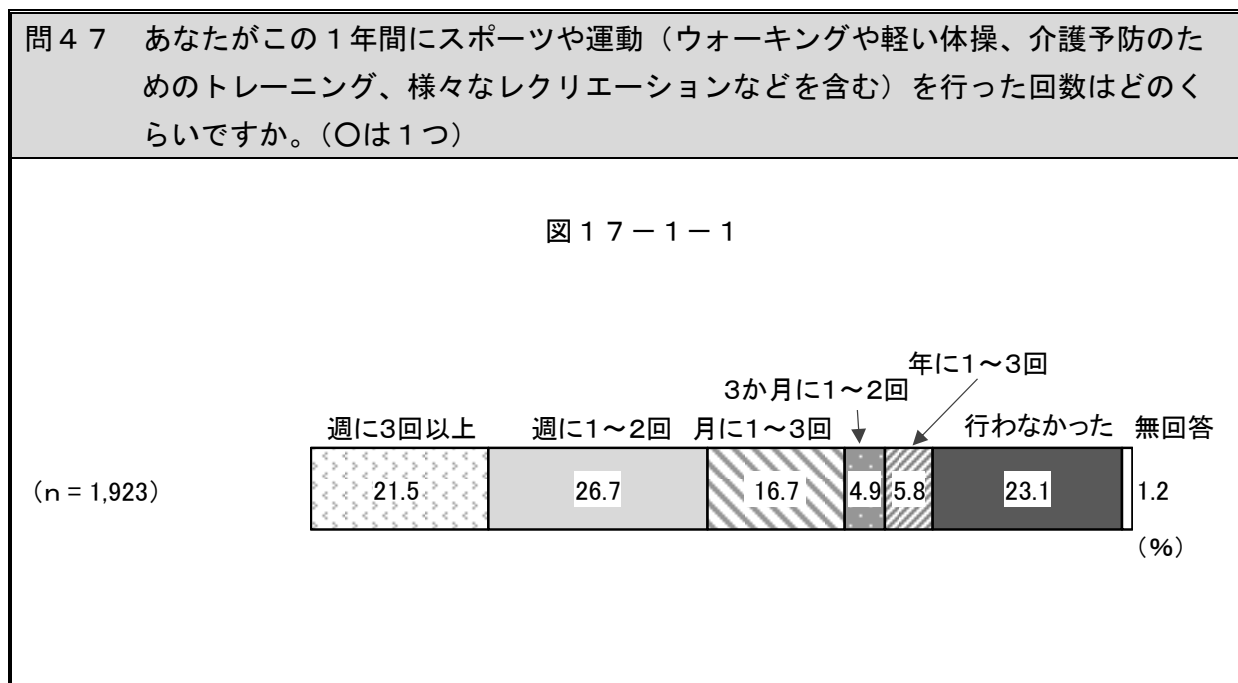


性・年齢別にみると、《満足している》は女性の40歳代で6割を超え、男性の80歳以上は6割近くとなっている。《満足していない》は男性の40歳代でほぼ3割、女性の60歳代、70歳代、80歳以上で2割を超えている。（図16-2-3）

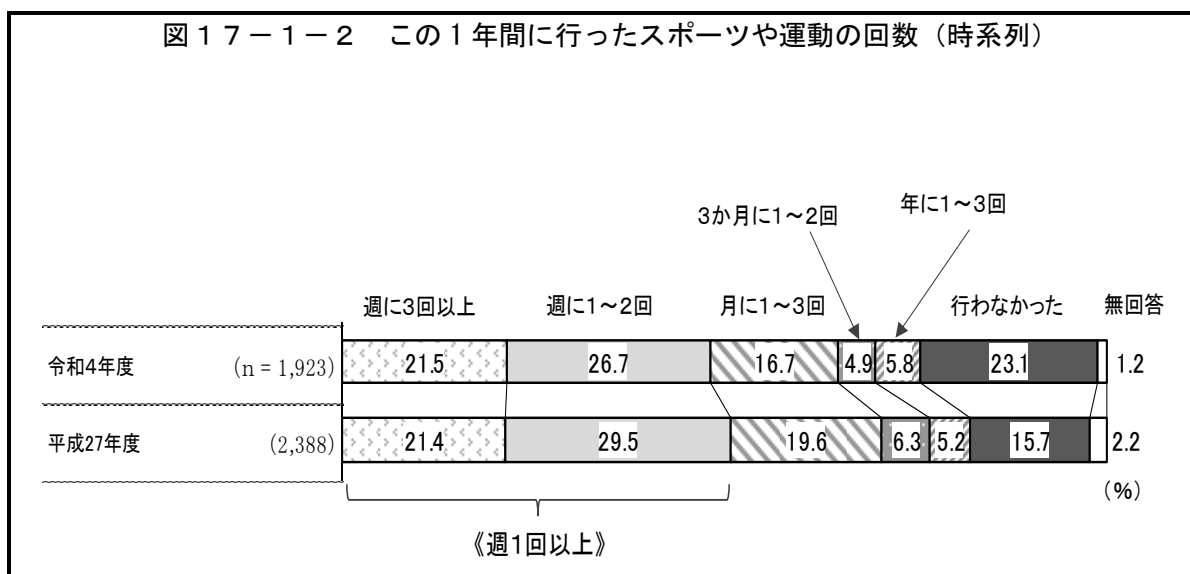
17. スポーツ

(1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数

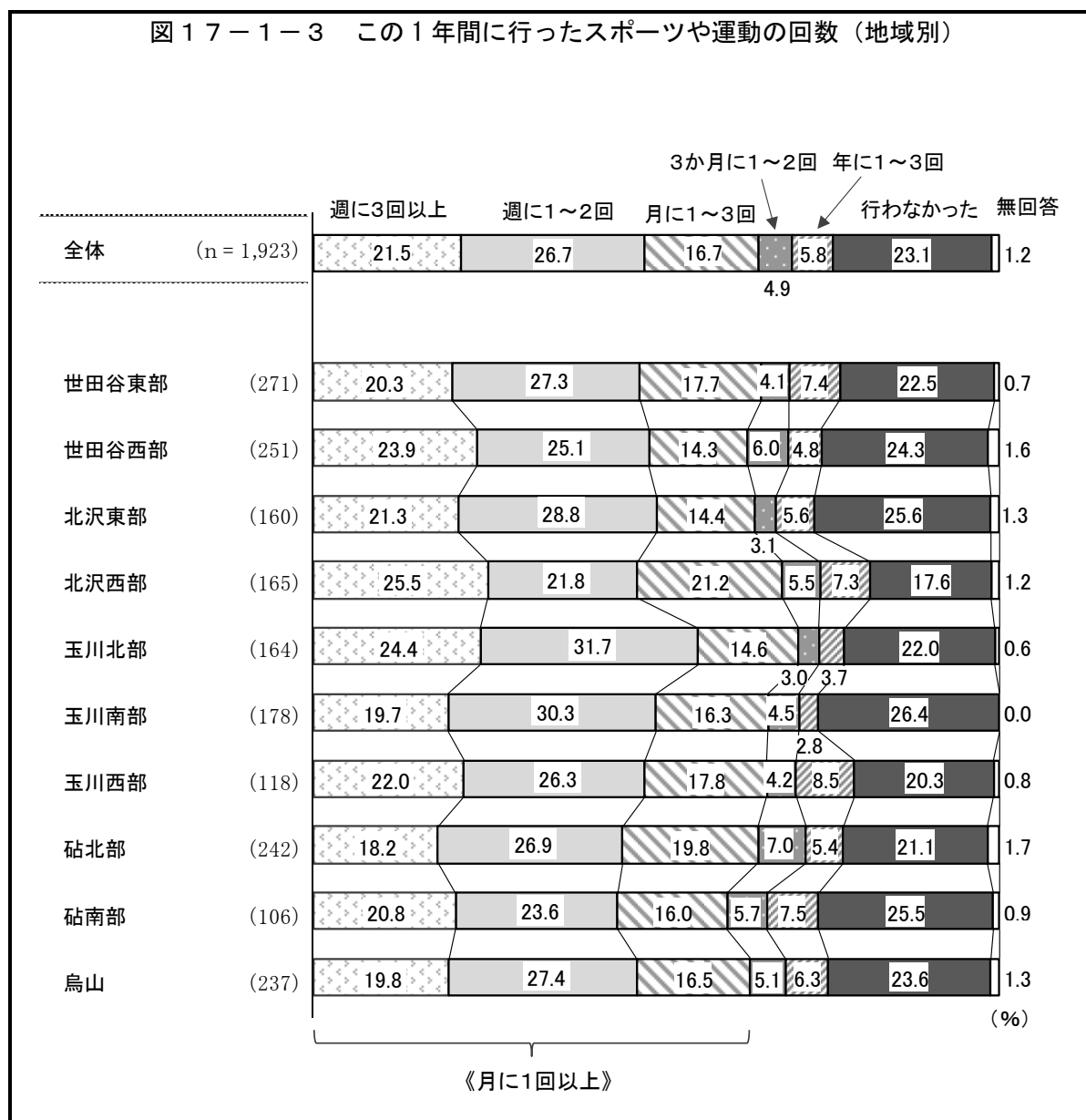
◎「週に1～2回」が3割近く、「週に3回以上」が2割超え



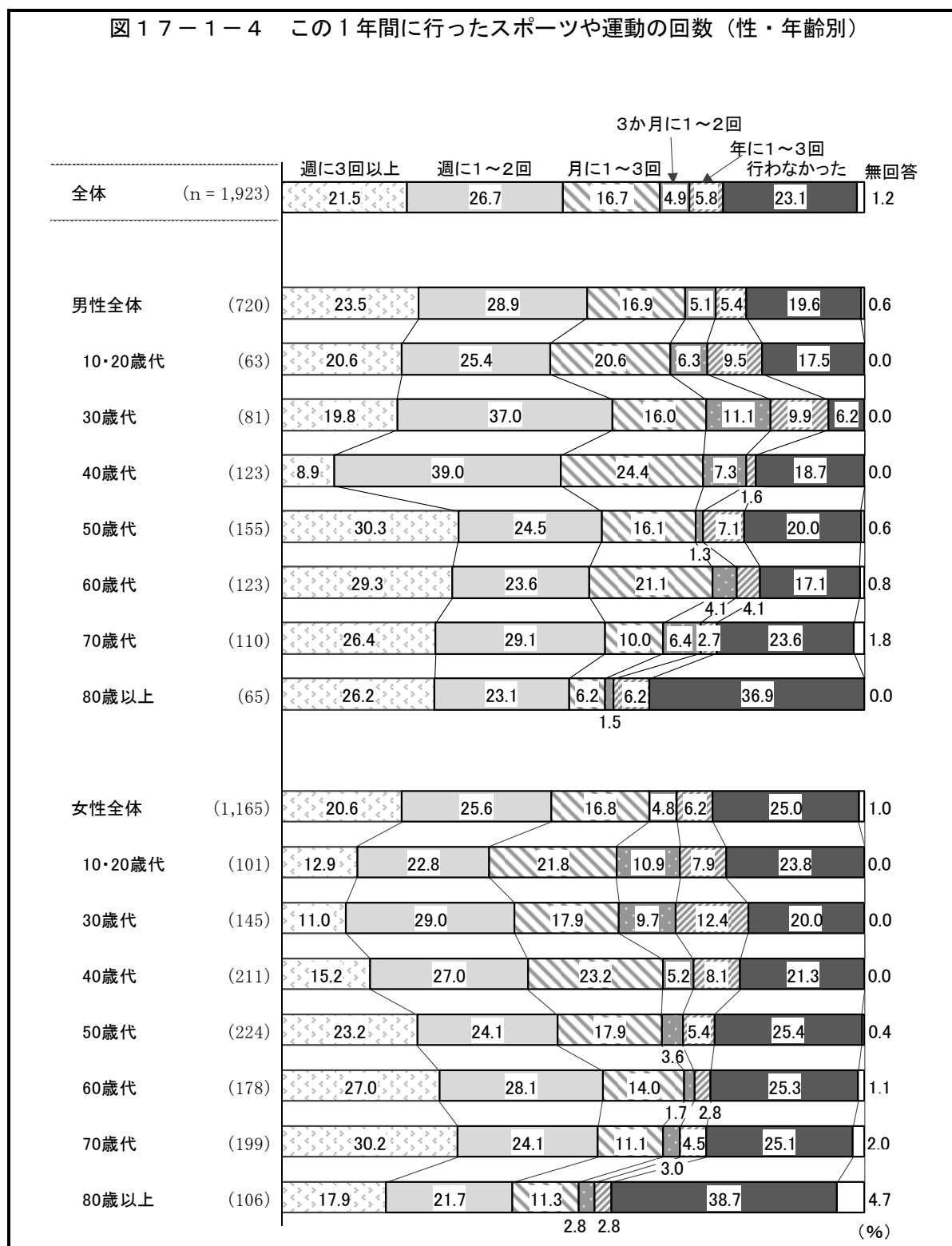
この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に1～2回」（26.7%）が3割近くで最も高く、以下、「週に3回以上」（21.5%）、「月に1～3回」（16.7%）などと続く。「行わなかった」（23.1%）は2割を超えている。（図17-1-1）



平成27年度からの時系列の変化をみると、《週1回以上》は、平成27年度（50.9%）から令和4年度（48.2%）で減少している。（図17-1-2）



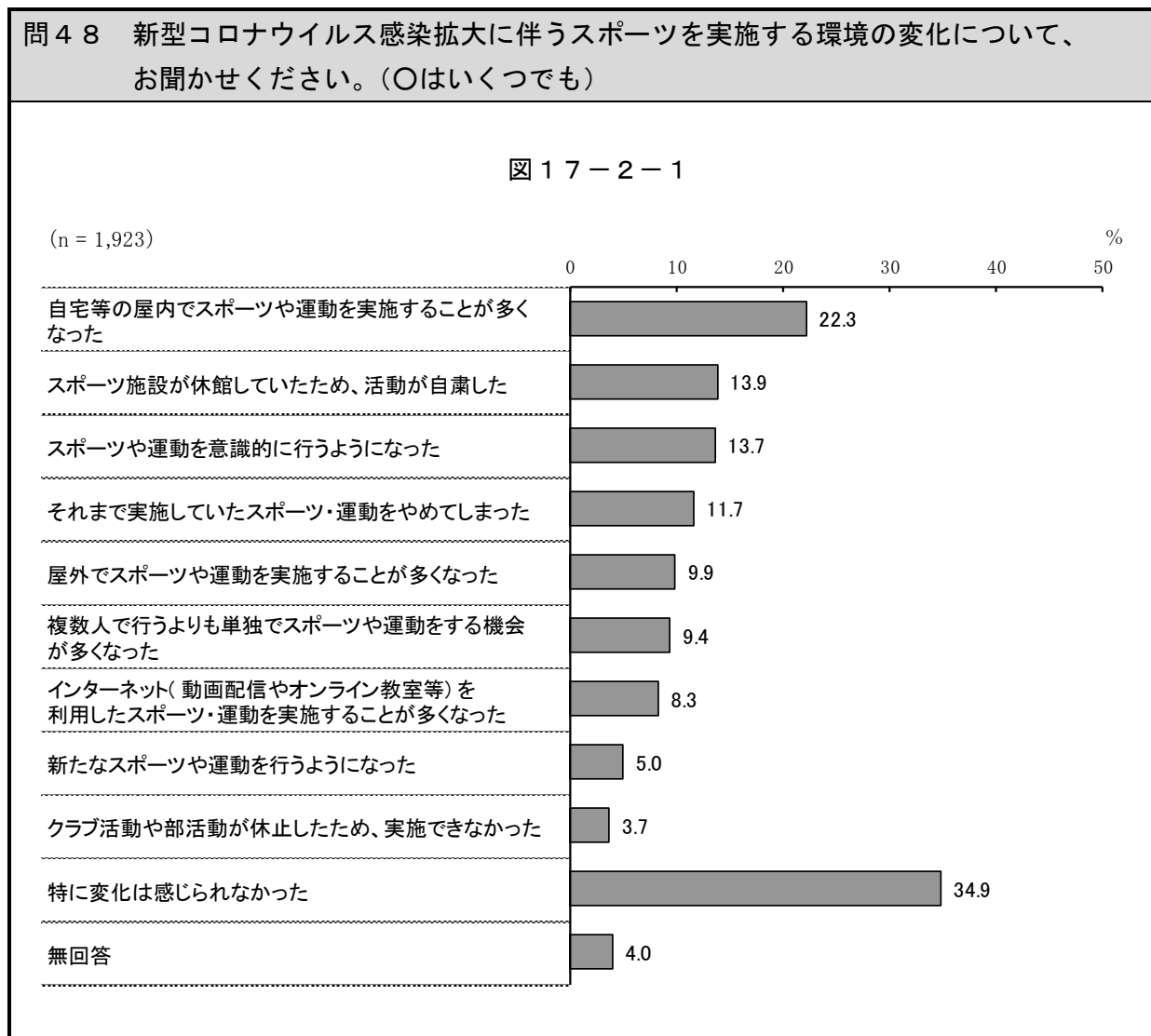
地域別にみると、「週に3回以上」は北沢西部、玉川北部で2割半ばとなっている。週に1回以上（「週に3回以上」＋「週に1～2回」）は玉川北部で5割半ばとなっている。月に1回以上（「週に3回以上」＋「週に1～2回」＋「月に1～3回」）は砧南部が6割で他の地域に比べ低い。（図17-1-3）



性・年齢別にみると、「週に3回以上」は男性の50歳代、女性の70歳代で3割となっている。週に1回以上は男性の30歳代が6割近く、月に1回以上は男性の60歳代で7割半ばとなっている。（図17-1-4）

(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツ実施環境の変化

◎「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」が2割を超える



新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツ実施環境の変化を聞いたところ、「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」(22.3%)が2割を超えて最も高く、以下、「スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した」(13.9%)、「スポーツや運動を意識的に行うようになった」(13.7%)などと続く。「特に変化は感じられなかった」(34.9%)は3割半ばとなっている。(図17-2-1)

表 17-2-1 新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツ実施環境の変化（性・年齢別）

（%）

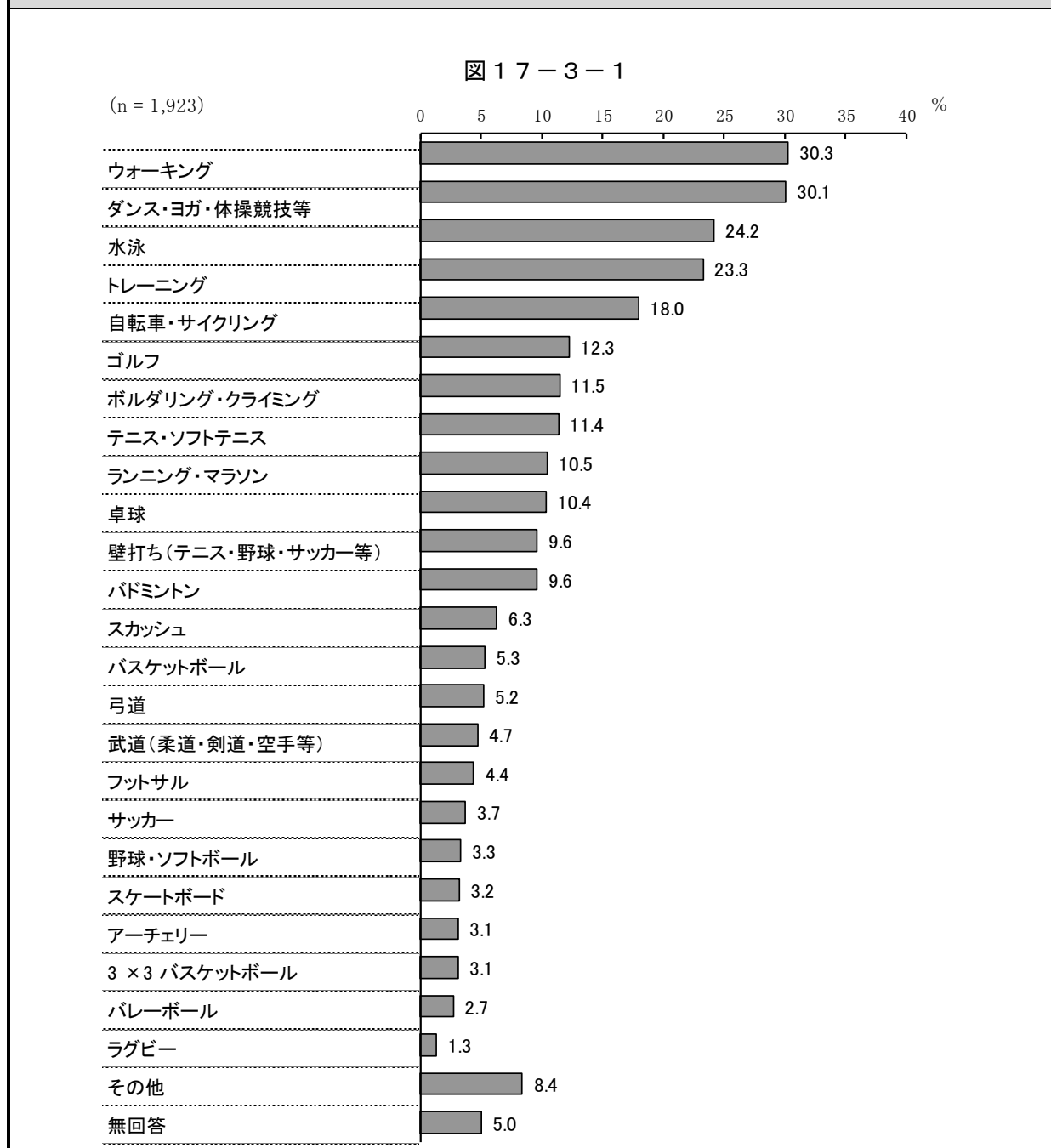
	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,923	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 22.3	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 13.9	スポーツや運動を意識的に行うようになった 13.7	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 11.7	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 9.9
男性全体	720	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 21.3	スポーツや運動を意識的に行うようになった 14.7	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 13.6	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 13.1	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 10.6
10・20歳代	63	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 22.2	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 17.5	スポーツや運動を意識的に行うようになった 14.3	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 11.1	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 7.9
30歳代	81	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 30.9	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 17.3	スポーツや運動を意識的に行うようになった 16.0	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 13.6	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 11.1
40歳代	123	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 19.5	スポーツや運動を意識的に行うようになった 17.1	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 14.6	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった／それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 12.2	
50歳代	155	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 21.3	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 18.1	スポーツや運動を意識的に行うようになった 15.5	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 9.7	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった 7.7
60歳代	123	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 22.0	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 18.7	スポーツや運動を意識的に行うようになった 15.4	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 14.6	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 12.2
70歳代	110	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 21.8	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 13.6	スポーツや運動を意識的に行うようになった 12.7	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった／複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった 11.8	
80歳以上	65	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 18.5	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった 12.3	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した／スポーツや運動を意識的に行うようになった 9.2	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 7.7	
女性全体	1,165	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 22.9	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 14.4	スポーツや運動を意識的に行うようになった 13.3	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 12.4	インターネット（動画配信やオンライン教室等）を利用したスポーツ・運動を実施することが多くなった 10.6
10・20歳代	101	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 30.7	スポーツや運動を意識的に行うようになった 19.8	インターネット（動画配信やオンライン教室等）を利用したスポーツ・運動を実施することが多くなった 16.8	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 10.9	クラブ活動や部活動が休止したため、実施できなかった 8.9
30歳代	145	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 21.4	インターネット（動画配信やオンライン教室等）を利用したスポーツ・運動を実施することが多くなった 16.6	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 13.1	スポーツや運動を意識的に行うようになった 11.0	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった 10.3
40歳代	211	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 24.6	インターネット（動画配信やオンライン教室等）を利用したスポーツ・運動を実施することが多くなった 16.1	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 13.7	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した／スポーツや運動を意識的に行うようになった 13.3	
50歳代	224	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 21.9	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 15.2	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した／スポーツや運動を意識的に行うようになった 13.4	インターネット（動画配信やオンライン教室等）を利用したスポーツ・運動を実施することが多くなった 12.1	
60歳代	178	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 19.7	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 16.9	スポーツや運動を意識的に行うようになった／それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 14.6	屋外でスポーツや運動を実施することが多くなった 10.7	
70歳代	199	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 25.1	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した 18.1	スポーツや運動を意識的に行うようになった 14.1	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった 13.6	それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 7.5
80歳以上	106	自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった 17.0	スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛した／それまで実施していたスポーツ・運動をやめてしまった 16.0	複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった 8.5	スポーツや運動を意識的に行うようになった 6.6	

性・年齢別にみると、男性の40歳代を除き、全ての年代で「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」が1位となっている。（表17-2-1）

(3) 今後のスポーツ施設整備について

◎新たな施設の要望として「ウォーキング」「ダンス・ヨガ・体操競技等」が3割

問49 新たなスポーツ施設が作られるとしたら、あなたは何ができる施設が欲しいですか。(〇はいくつでも)



今後のスポーツ施設整備について聞いたところ、「ウォーキング」(30.3%)が3割で最も高く、以下、「ダンス・ヨガ・体操競技等」(30.1%)、「水泳」(24.2%)などと続く。

(図17-3-1)

表 17-3-1 今後のスポーツ施設整備について（性・年齢別）

（%）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	ウォーキング 30.3	ダンス・ヨガ・体操競技等 30.1	水泳 24.2	トレーニング 23.3	自転車・サイクリング 18.0	ゴルフ 12.3	ボルダリング・クライミング 11.5	テニス・ソフトテニス 11.4	ランニング・マラソン 10.5	卓球 10.4
男性全体	720	ウォーキング 32.9	トレーニング 27.9	水泳 21.9	自転車・サイクリング 21.3	ゴルフ 18.3	ランニング・マラソン 14.2	ダンス・ヨガ・体操競技等 13.1	ボルダリング・クライミング 11.7	壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 11.1	テニス・ソフトテニス 10.1
10・20歳代	63	トレーニング／自転車・サイクリング／壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 28.6			水泳 27.0	テニス・ソフトテニス／ボルダリング・クライミング 22.2		ランニング・マラソン／バスケットボール 19.0		ゴルフ／フットサル 17.5	
30歳代	81	トレーニング 35.8	フットサル 27.2	水泳 23.5	ウォーキング／ボルダリング・クライミング 21.0		ランニング・マラソン 19.8	自転車・サイクリング／壁打ち（テニス・野球・サッカー等）／ダンス・ヨガ・体操競技等 17.3		卓球 14.8	
40歳代	123	ウォーキング 30.9	トレーニング 27.6	自転車・サイクリング 24.4	ボルダリング・クライミング／水泳 23.6		ランニング・マラソン 22.0	ダンス・ヨガ・体操競技等 18.7	壁打ち（テニス・野球・サッカー等）／フットサル 13.0		ゴルフ 12.2
50歳代	155	ウォーキング 32.3	トレーニング 30.3	水泳 28.4	自転車・サイクリング 27.1	ゴルフ 23.9	ランニング・マラソン 16.1	ダンス・ヨガ・体操競技等 12.9	ボルダリング・クライミング 11.0	壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 10.3	テニス・ソフトテニス 8.4
60歳代	123	ウォーキング 40.7	トレーニング 33.3	ゴルフ 25.2	自転車・サイクリング 19.5	水泳 18.7	ダンス・ヨガ・体操競技等 14.6	ランニング・マラソン 13.0	テニス・ソフトテニス 9.8	壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 8.9	武道（柔道・剣道・空手等） 7.3
70歳代	110	ウォーキング 43.6	トレーニング 22.7	ゴルフ 18.2	自転車・サイクリング 17.3	水泳 12.7	卓球／ダンス・ヨガ・体操競技等 7.3		野球・ソフトボール／アーチェリー 6.4		テニス・ソフトテニス 5.5
80歳以上	65	ウォーキング 46.2	水泳 18.5	トレーニング／ゴルフ 10.8		自転車・サイクリング 9.2	ダンス・ヨガ・体操競技等 7.7	テニス・ソフトテニス／野球・ソフトボール／卓球 3.1		ランニング・マラソン 1.5	
女性全体	1,165	ダンス・ヨガ・体操競技等 40.8	ウォーキング 29.2	水泳 25.9	トレーニング 20.9	自転車・サイクリング 16.0	テニス・ソフトテニス 12.3	バドミントン 11.8	卓球 11.7	ボルダリング・クライミング 11.4	ゴルフ 8.8
10・20歳代	101	ダンス・ヨガ・体操競技等 39.6	水泳 31.7	ウォーキング 28.7	トレーニング 27.7	自転車・サイクリング 26.7	ボルダリング・クライミング 21.8	ランニング・マラソン／バドミントン 20.8		テニス・ソフトテニス 18.8	ゴルフ 11.9
30歳代	145	ダンス・ヨガ・体操競技等 51.0	水泳 30.3	ウォーキング 24.1	バドミントン 23.4	トレーニング 22.8	ボルダリング・クライミング 22.1	自転車・サイクリング 15.2	ランニング・マラソン 14.5	卓球／バスケットボール 12.4	
40歳代	211	ダンス・ヨガ・体操競技等 47.4	水泳 32.2	ウォーキング／自転車・サイクリング 22.3		トレーニング 19.4	ボルダリング・クライミング 19.0	テニス・ソフトテニス 18.0	バドミントン 16.6	スカッシュ 14.2	壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 13.7
50歳代	224	ダンス・ヨガ・体操競技等 46.9	水泳 29.0	ウォーキング 25.9	トレーニング 21.9	自転車・サイクリング 14.7	バドミントン 14.3	テニス・ソフトテニス 13.4	壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 12.1	卓球 11.6	ゴルフ 11.2
60歳代	178	ダンス・ヨガ・体操競技等 35.4	ウォーキング 30.9	トレーニング 23.0	水泳 16.3	自転車・サイクリング 15.7	ゴルフ 12.9	テニス・ソフトテニス 11.2	壁打ち（テニス・野球・サッカー等）／卓球 9.6		ボルダリング・クライミング 7.9
70歳代	199	ウォーキング 40.2	ダンス・ヨガ・体操競技等 32.2	水泳 23.6	トレーニング 22.6	卓球 13.6	自転車・サイクリング 11.1	テニス・ソフトテニス 8.5	ゴルフ／壁打ち（テニス・野球・サッカー等） 3.5		バドミントン 3.0
80歳以上	106	ウォーキング 33.0	ダンス・ヨガ・体操競技等 26.4	水泳 16.0	卓球 14.2	トレーニング／自転車・サイクリング 5.7		ゴルフ 3.8	弓道 2.8	ランニング・マラソン／テニス・ソフトテニス 1.9	

性・年齢別にみると、男性10・20歳代を除き、全ての年代で「ウォーキング」が4位以内に挙げられている。（表17-3-1）

表 17-3-2 今後のスポーツ施設整備について（地域別）

（%）

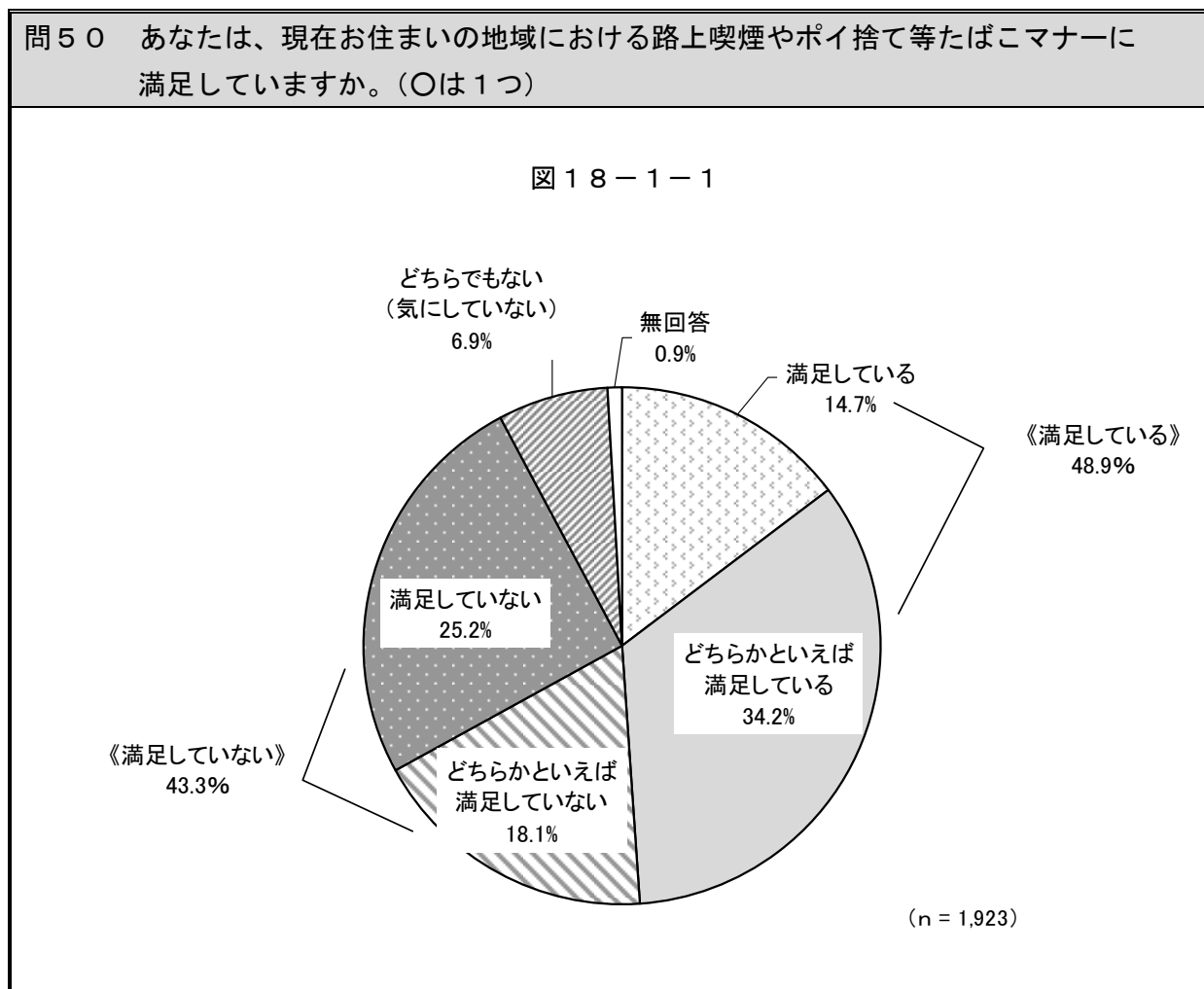
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	ウォーキング 30.3	ダンス・ヨガ・体操競技等 30.1	水泳 24.2	トレーニング 23.3	自転車・サイクリング 18.0	ゴルフ 12.3	ボルダリング・クライミング 11.5	テニス・ソフトテニス 11.4	ランニング・マラソン 10.5	卓球 10.4
世田谷部	271	ウォーキング 32.5	ダンス・ヨガ・体操競技等 29.2	水泳 24.0	トレーニング 20.7	自転車・サイクリング 16.2	ゴルフ 13.7	卓球 12.9	ゴルフ/バドミントン 12.5	テニス・ソフトテニス 10.3	
世田西部	251	ダンス・ヨガ・体操競技等 31.9	ウォーキング 29.9	トレーニング/自転車・サイクリング 23.5	水泳 19.5	テニス・ソフトテニス/卓球 11.2			ランニング・マラソン/ゴルフ 10.8	ボルダリング・クライミング 10.4	
北沢部	160	ダンス・ヨガ・体操競技等 33.1	ウォーキング 26.3	トレーニング 25.0	水泳 22.5	自転車・サイクリング 17.5	ゴルフ 16.3	ボルダリング・クライミング 12.5	卓球 10.0	バドミントン 9.4	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 8.8
北沢部	165	ウォーキング 37.0	水泳 28.5	ダンス・ヨガ・体操競技等 26.7	トレーニング 23.0	自転車・サイクリング 20.0	ゴルフ 12.7	ボルダリング・クライミング 12.1	テニス・ソフトテニス 10.3	ランニング・マラソン 9.7	卓球 8.5
玉川部	164	水泳 34.1	ダンス・ヨガ・体操競技等 33.5	トレーニング 26.2	ウォーキング 23.8	自転車・サイクリング/ゴルフ 17.1		ボルダリング・クライミング 15.9	ランニング・マラソン 15.2	テニス・ソフトテニス 14.0	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 13.4
玉川部	178	ダンス・ヨガ・体操競技等 30.9	ウォーキング 28.7	水泳 27.5	トレーニング 22.5	テニス・ソフトテニス 15.7	ゴルフ 13.5	ランニング・マラソン/自転車・サイクリング 12.4	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 11.2	バドミントン 10.7	
玉川部	118	ウォーキング 28.8	トレーニング/ダンス・ヨガ・体操競技等 25.4	水泳 22.9	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 19.5	自転車・サイクリング 18.6	ゴルフ 15.3	テニス・ソフトテニス 13.6	ボルダリング・クライミング 11.9	卓球 11.0	
砧北部	242	ウォーキング 30.6	ダンス・ヨガ・体操競技等 28.1	トレーニング 24.4	水泳 21.1	自転車・サイクリング 17.8	ゴルフ 12.4	卓球 12.0	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 9.9	テニス・ソフトテニス/ボルダリング・クライミング/バドミントン 9.5	
砧南部	106	ウォーキング 32.1	ダンス・ヨガ・体操競技等 26.4	自転車・サイクリング/水泳 15.1	テニス・ソフトテニス 14.2	トレーニング/ボルダリング・クライミング 13.2		壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 11.3	ランニング・マラソン 8.5	ゴルフ/サッカー/バドミントン 7.5	
烏山	237	ダンス・ヨガ・体操競技等 34.2	ウォーキング 32.9	トレーニング 27.4	水泳 26.2	自転車・サイクリング 19.8	ランニング・マラソン 13.1	テニス・ソフトテニス 11.8	バドミントン 10.1	卓球 9.7	ボルダリング・クライミング 9.3

地域別にみると、「ダンス・ヨガ・体操競技等」は全ての地域で、3位以内に挙げられている。
（表 17-3-2）

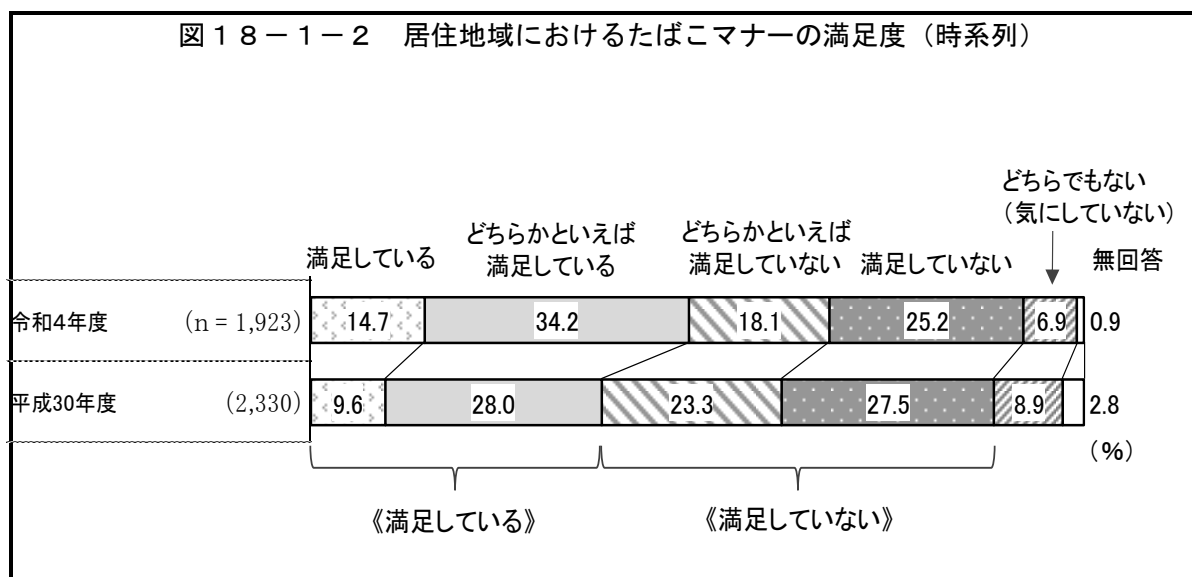
18. たばこマナー

(1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度

◎ 《満足していない》が4割を超え、《満足している》が5割近く

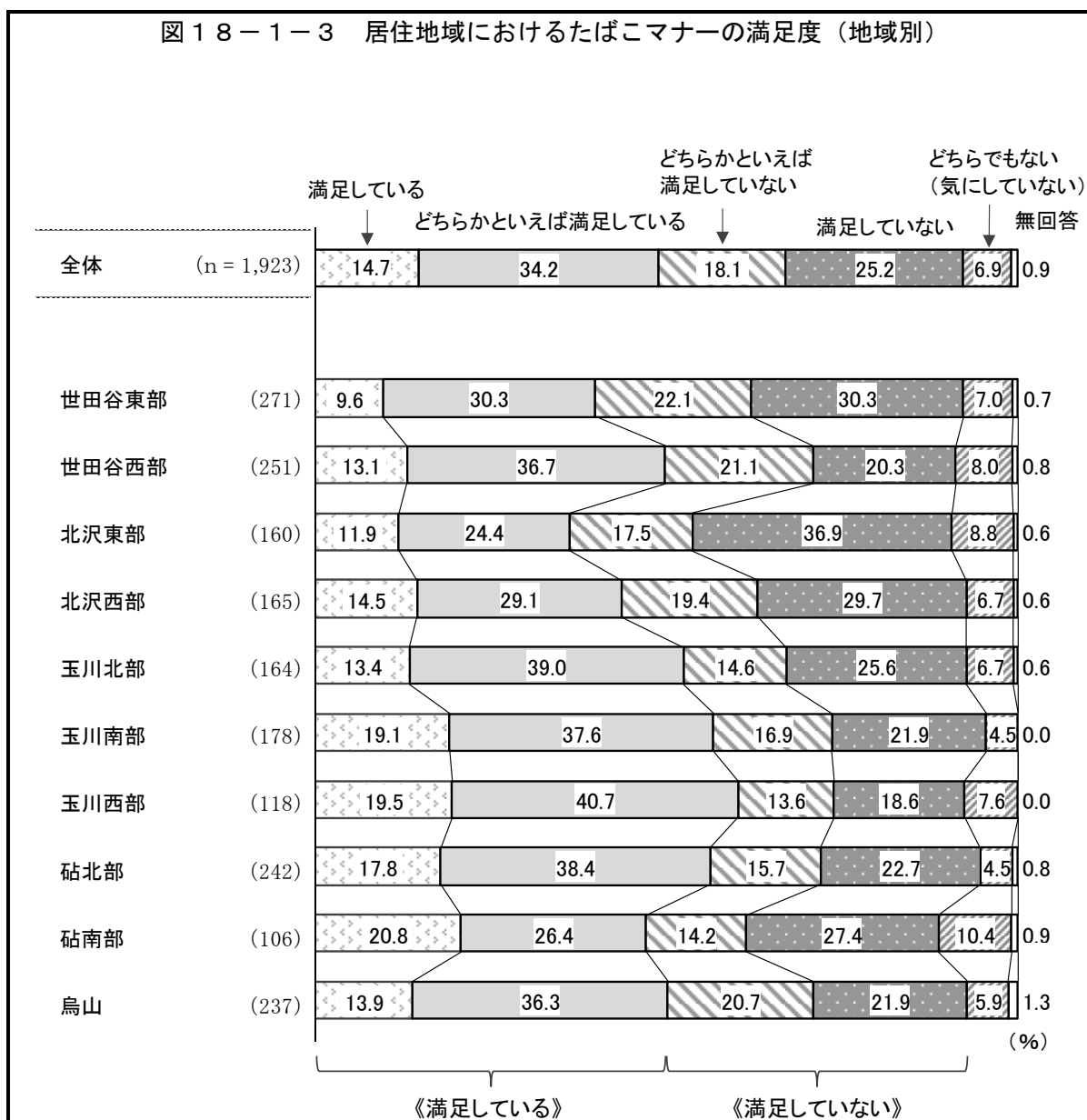


居住地域におけるたばこマナーの満足度を聞いたところ、「満足していない」(25.2%)と「どちらかといえば満足していない」(18.1%)を合わせた《満足していない》(43.3%)が4割を超えている。一方、「満足している」(14.7%)と「どちらかといえば満足している」(34.2%)を合わせた《満足している》(48.9%)は5割近くとなっている。(図18-1-1)

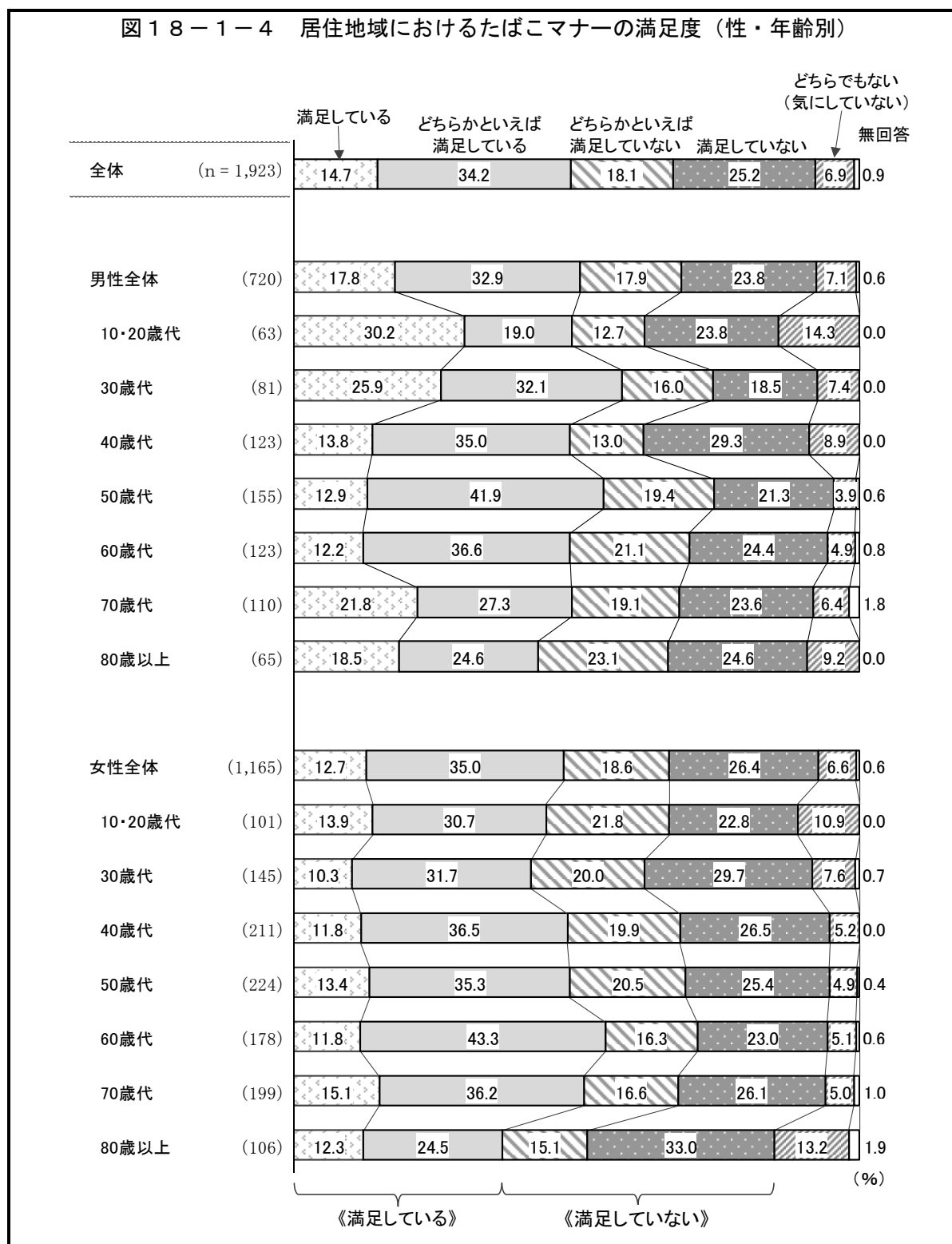


平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《満足している》は、平成 30 年度（37.6%）から令和 4 年度（48.9%）で増加している。（図 18-1-2）

図 18-1-3 居住地域におけるたばこマナーの満足度（地域別）



地域別にみると、《満足している》は玉川西部で6割、玉川南部で6割近くとなっている。一方、《満足していない》は北沢東部で5割半ばとなっている。（図18-1-3）

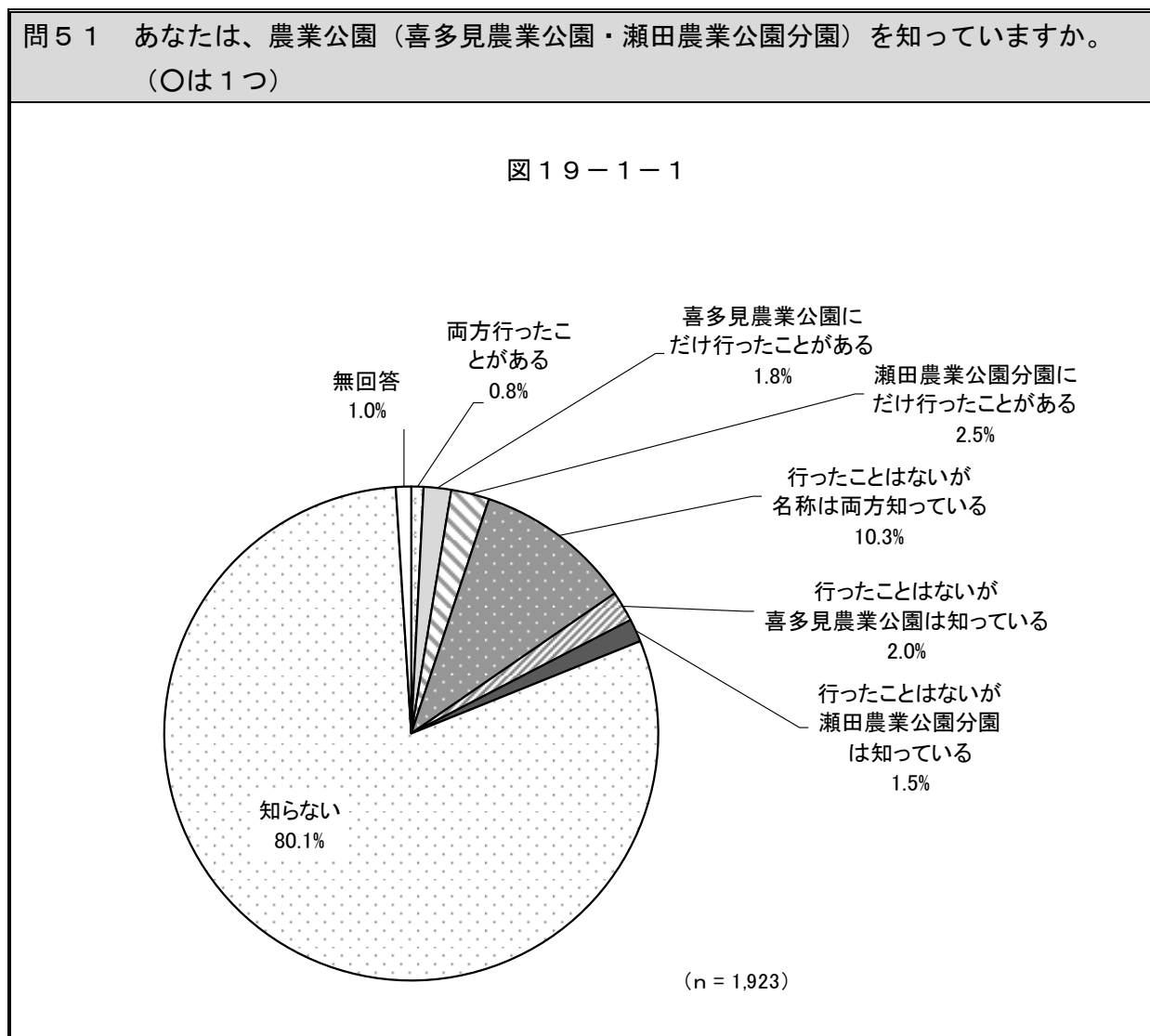


性・年齢別にみると、《満足している》は男性の30歳代で6割近く、男性の50歳代、女性の60歳代で5割半ばとなっている。《満足していない》は女性の30歳代で5割、男性の80歳以上、女性の80歳以上で5割近くとなっている。（図18-1-4）

19. 農業

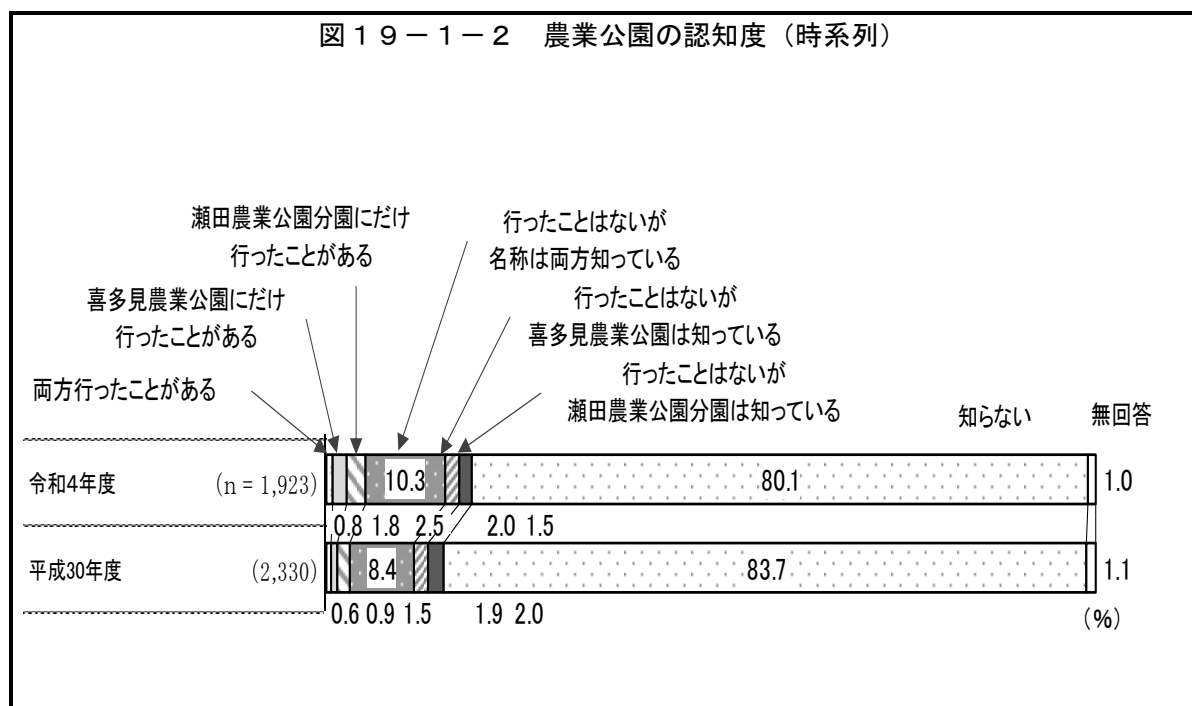
(1) 農業公園の認知度

◎農業公園を「知らない」が8割

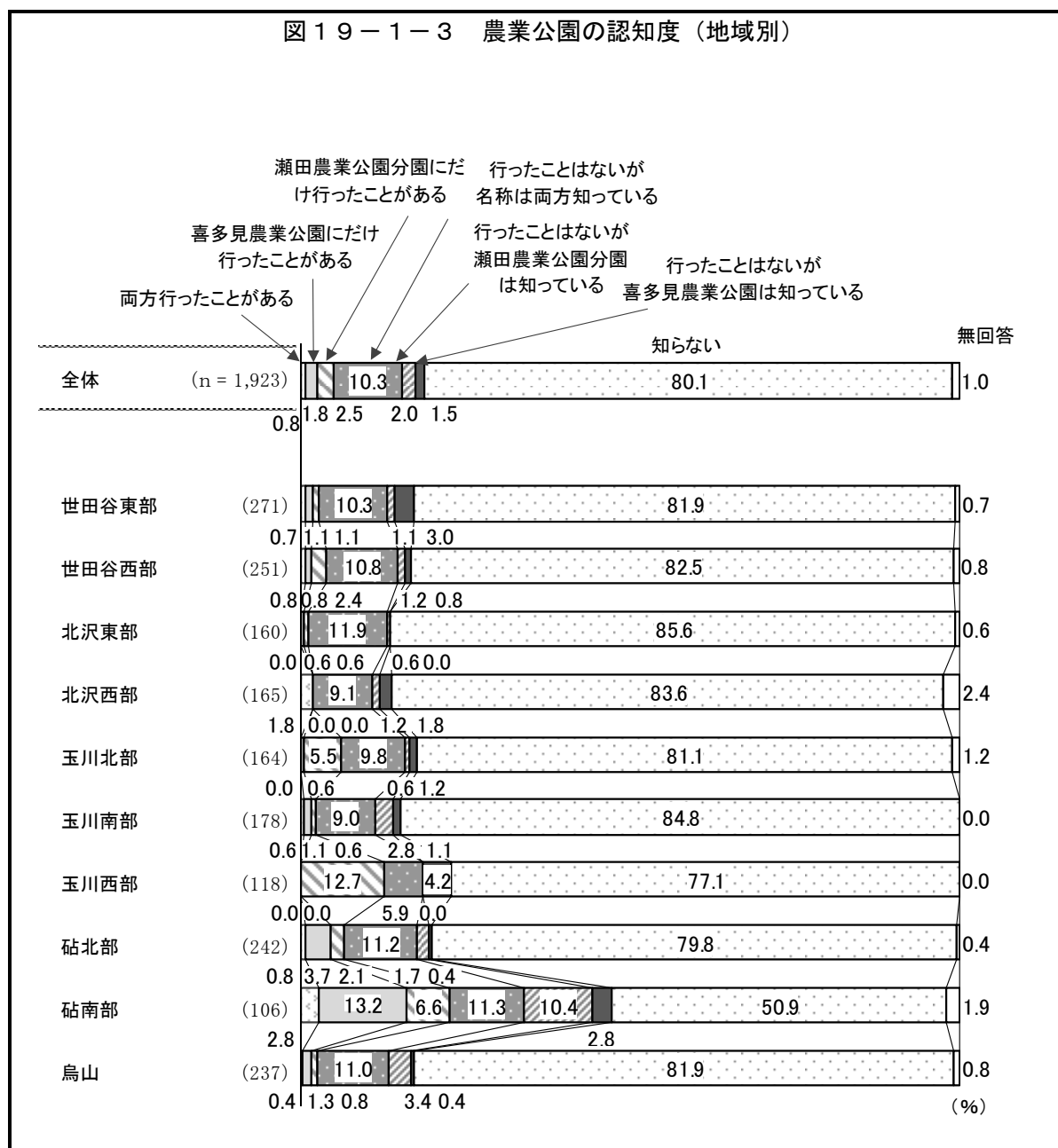


農業公園の認知度を聞いたところ、「知らない」(80.1%)が8割と多数を占めている。喜多見農業公園の認知度と瀬田農業公園分園の認知度は、それぞれ1割半ばにとどまっている。

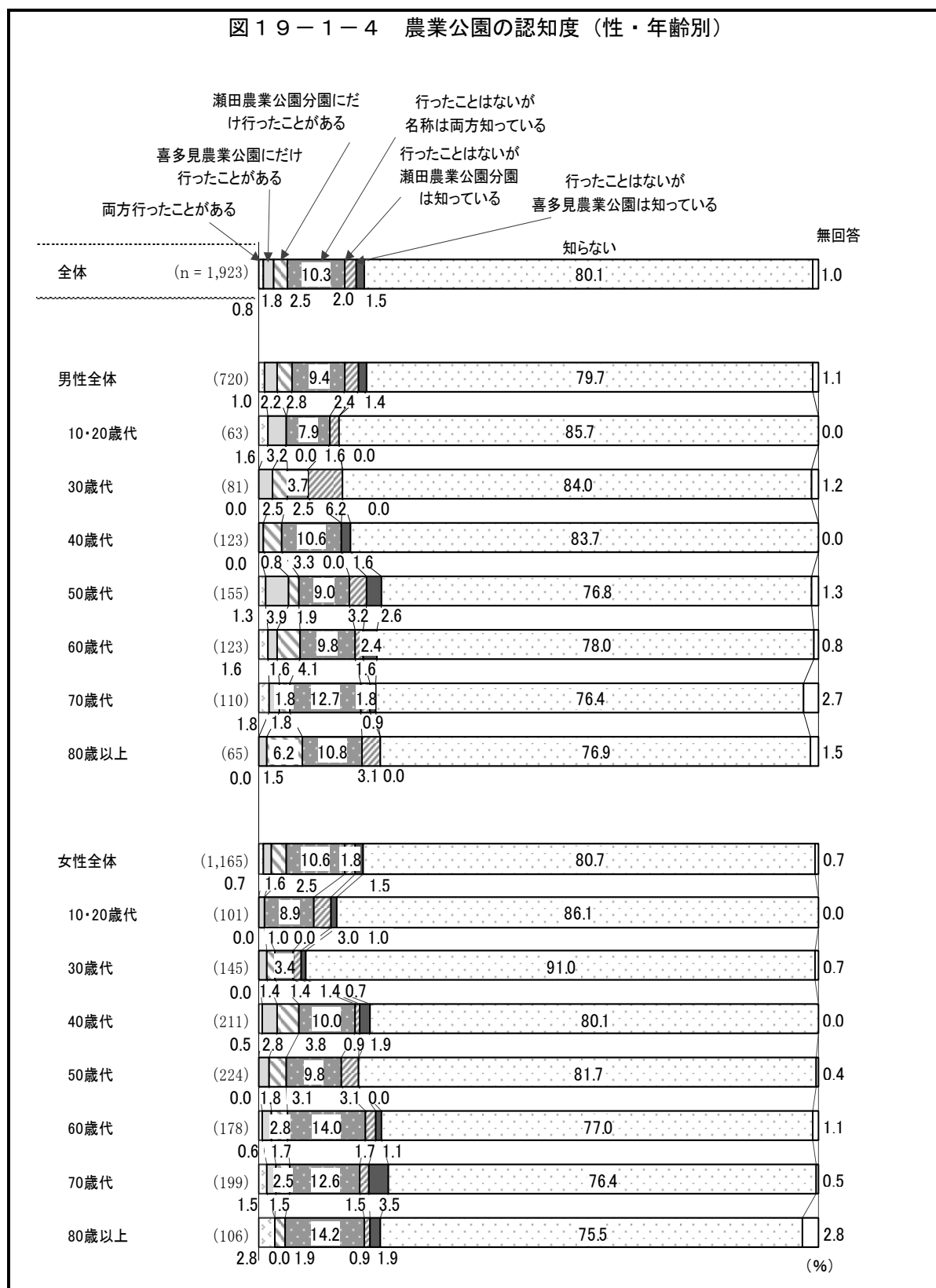
(図19-1-1)



平成 30 年度からの時系列の変化をみると、「知らない」は、平成 30 年度（83.7%）から令和 4 年度（80.1%）でわずかに減少している。（図 19-1-2）



地域別にみると、両方またはいずれかの農業公園への訪問経験は、砧南部が2割を超えている。両方またはいずれかの農業公園の認知度は、砧南部が5割近くとなっている。(図19-1-3)



性・年齢別にみると、両方またはいずれかの農業公園への訪問経験は、男性の50歳代、60歳代、80歳以上、女性の40歳代が1割近くとなっている。両方またはいずれかの農業公園の認知度は、男性、女性ともに60歳代、80歳以上、男性の50歳代、女性の70歳代で2割を超えている。（図19-1-4）

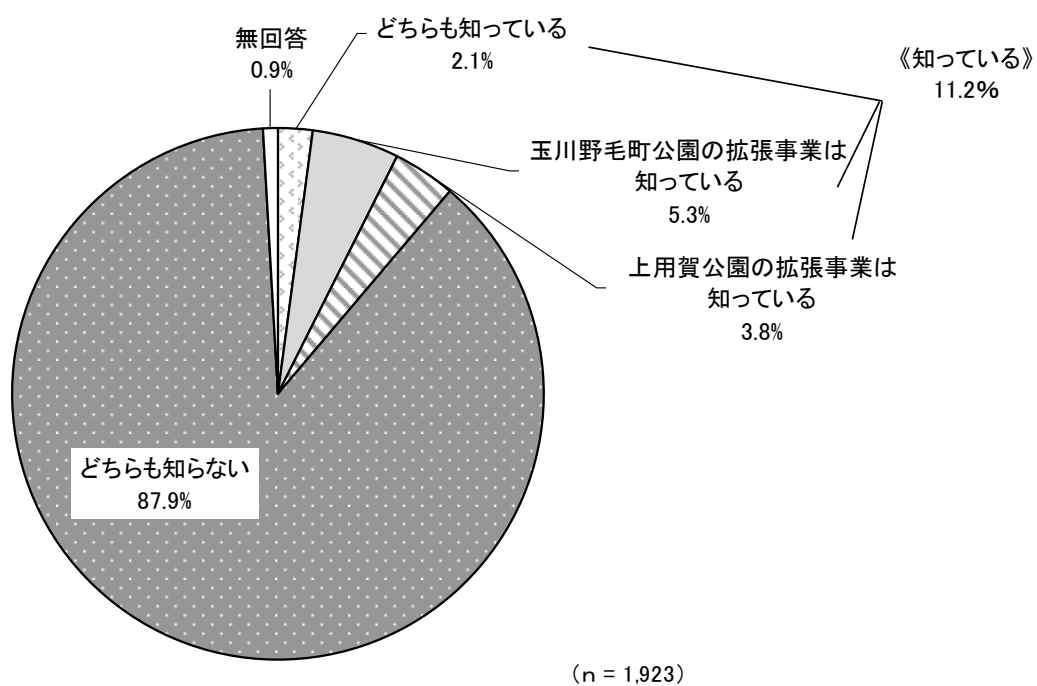
20. 公園

(1) 公園拡張事業の認知度

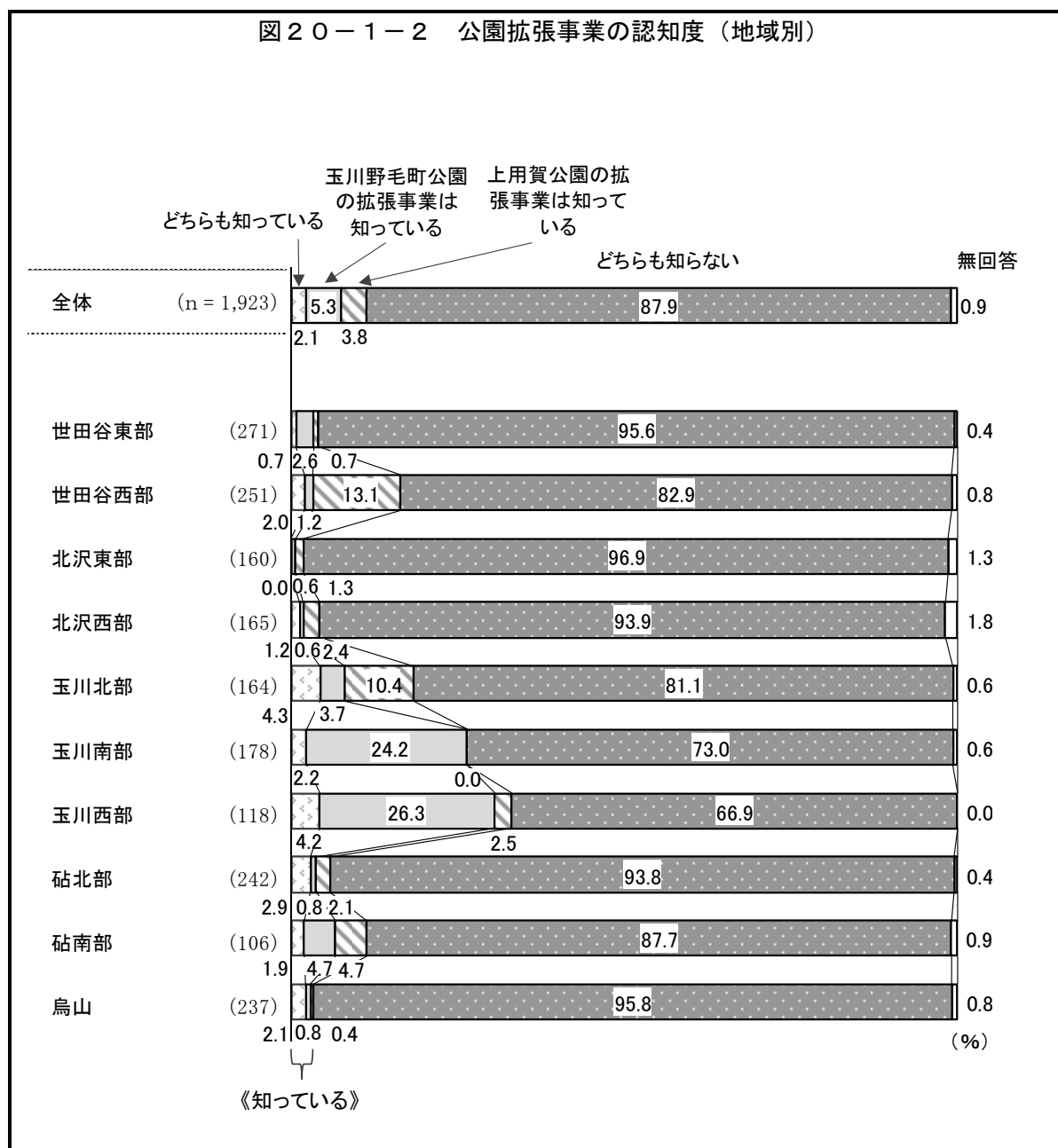
◎「知らない」が9割近く

問52 区では、国家公務員宿舎跡地を活用し、玉川野毛町公園（野毛一丁目）や上用賀公園（上用賀四丁目）の拡張事業を進めています。あなたは、これらの公園で拡張事業が進められていることを知っていますか。（○は1つ）

図20-1-1

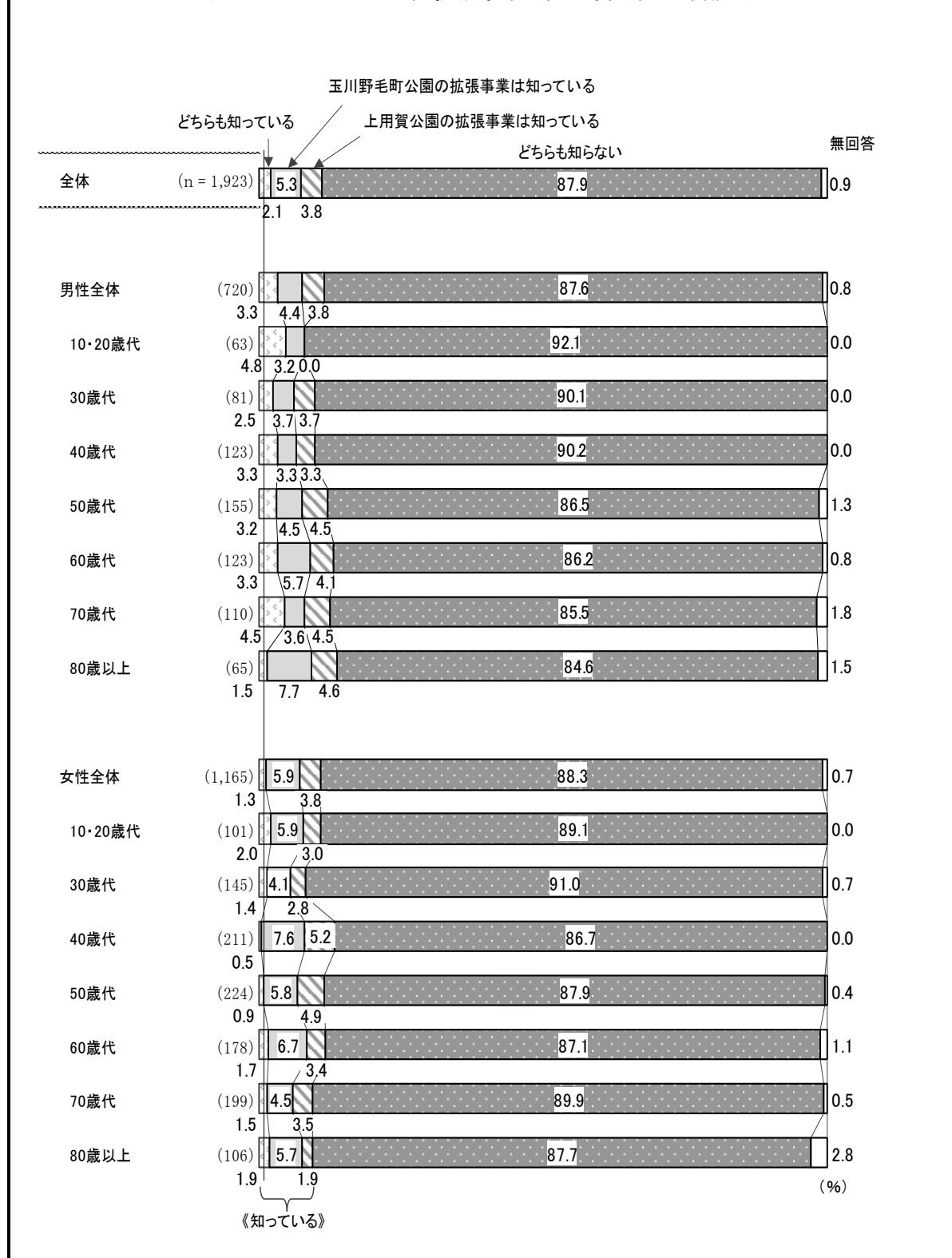


公園拡張事業の認知度は、「知らない」（87.9%）が9割近くと、多数を占めている。「どちらも知っている」（2.1%）と「玉川野毛町公園の拡張事業は知っている」（5.3%）と「上用賀公園の拡張事業は知っている」（3.8%）を合わせた《知っている》（11.2%）は1割を超えるにとどまっている。（図20-1-1）



地域別でみると、玉川野毛町公園の拡張事業を《知っている》は、玉川西部が3割を超え、玉川南部が2割半ばとなっている。また、上用賀公園の拡張事業を《知っている》は、玉川北部及び世田谷西部が1割半ばとなっている。（図20-1-2）

図 20-1-3 公園拡張事業の認知度（性・年齢別）

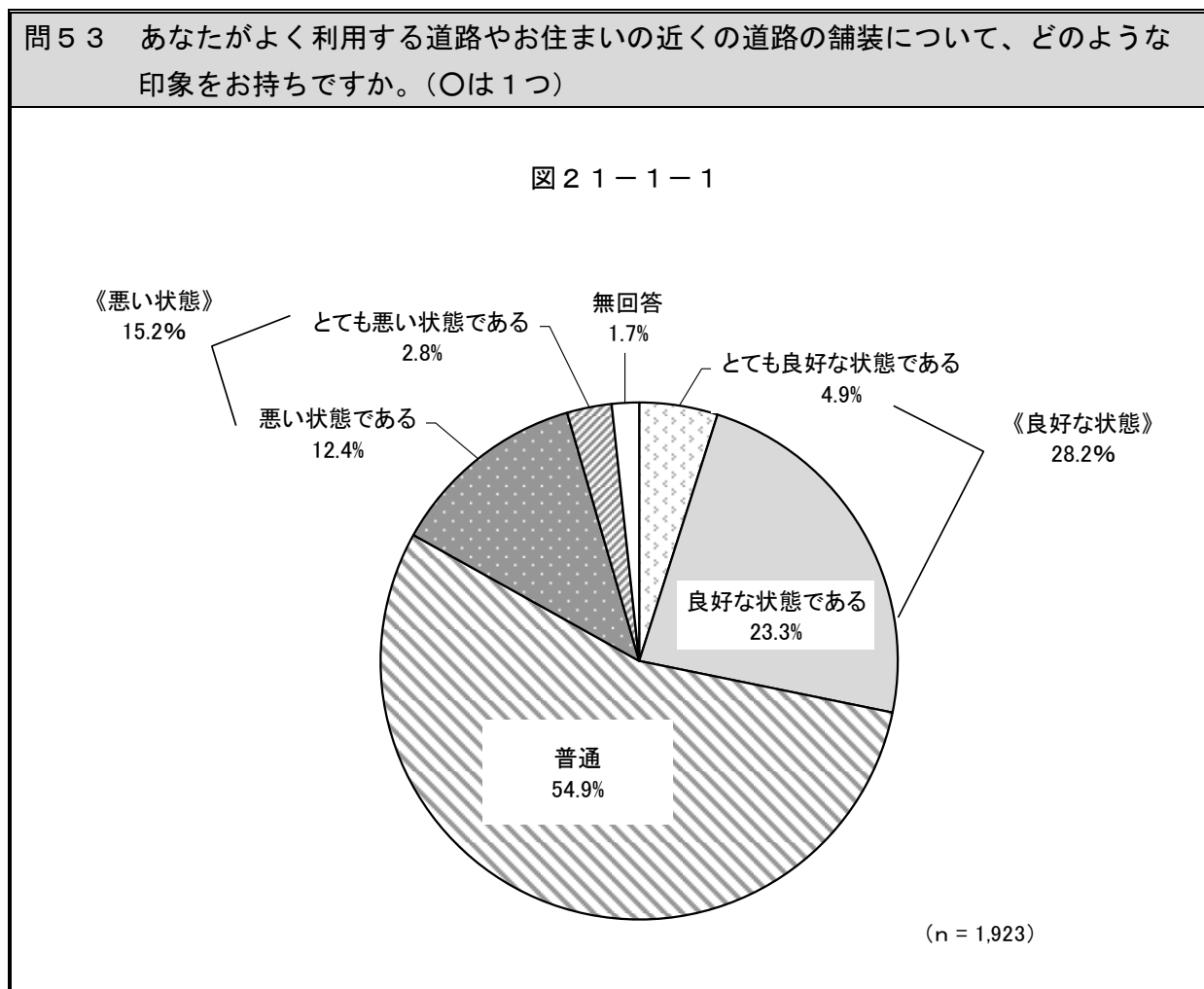


性・年齢別でみると、《知っている》は、男性の70歳代、80歳以上、女性の40歳代、男性、女性ともに50歳代、60歳代が1割を超えている。一方、「知らない」は男性の10・20歳代、女性の30歳代が9割を超えている。（図20-1-3）

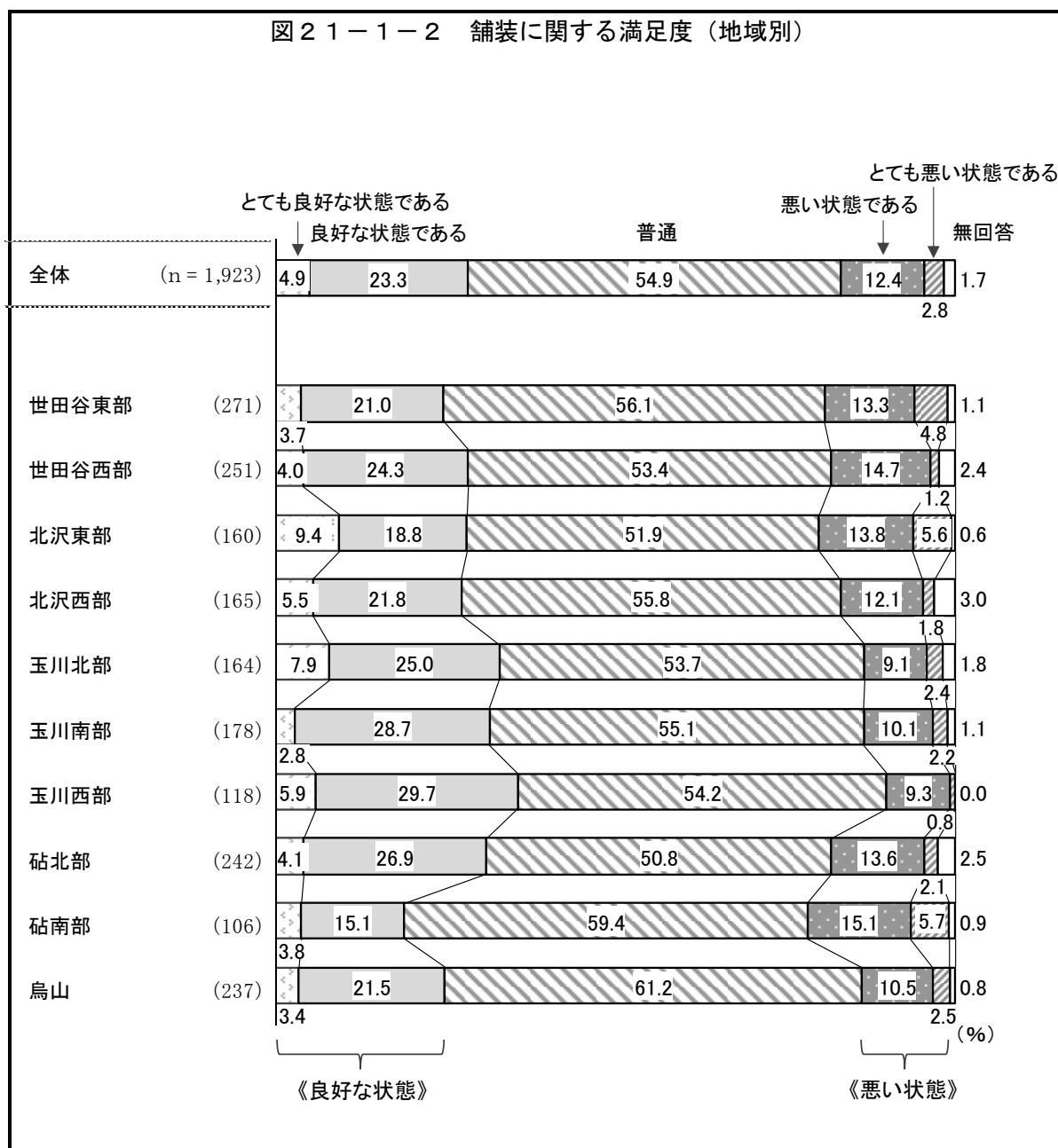
21. 区道の舗装

(1) 舗装に関する満足度

◎ 《良好な状態》が3割近く、《悪い状態》が1割半ば



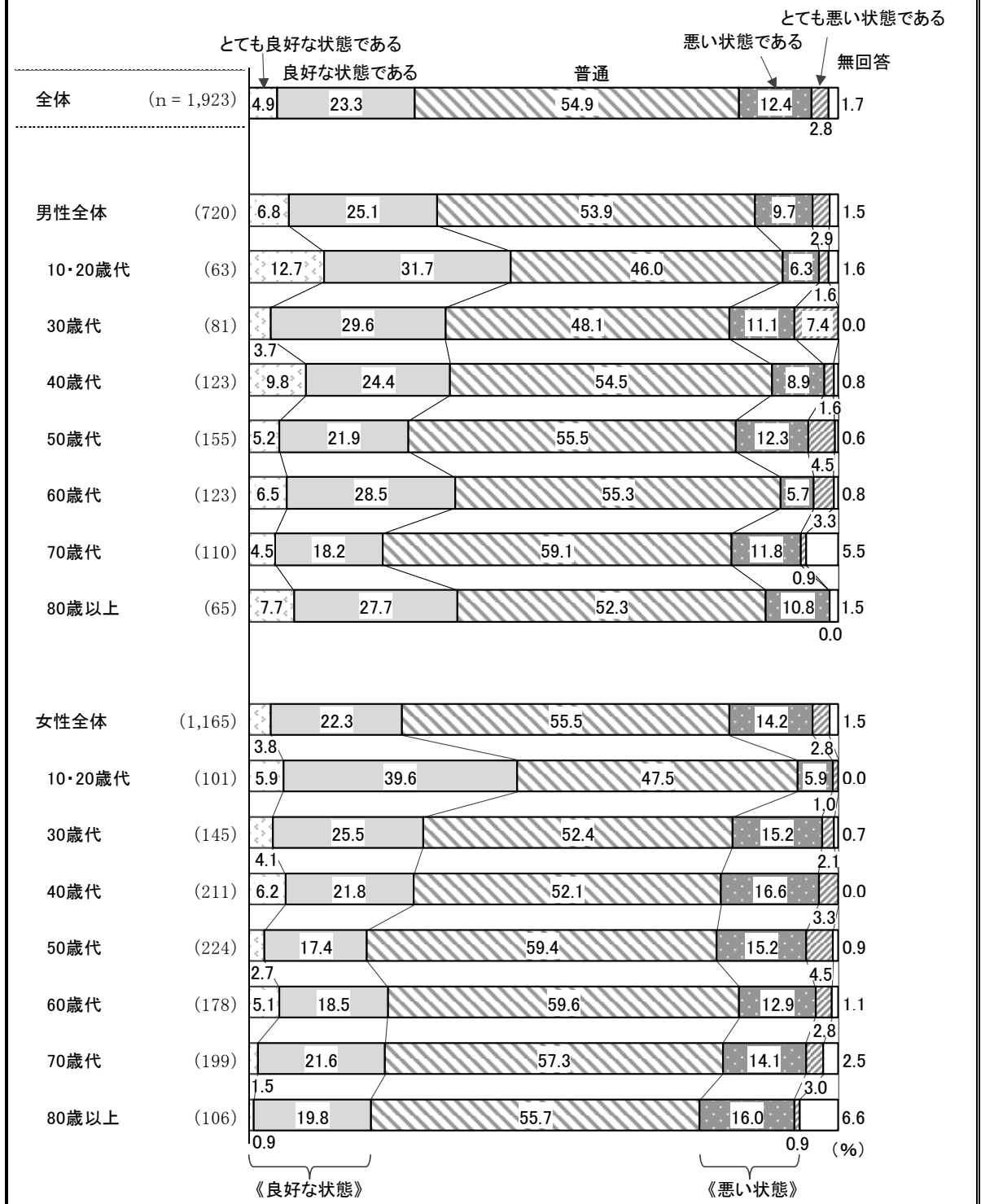
舗装に関する満足度は、《良好な状態》(28.2%)が3割近くとなっている。一方、《悪い状態》(15.2%)は1割半ばとなっている。(図21-1-1)



地域別でみると、《良好な状態》は、玉川西部が3割半ば、玉川北部、玉川南部、砧北部が3割を超えている。一方、《悪い状態》は砧南部、北沢東部がほぼ2割となっている。

(図 2 1 - 1 - 2)

図 2 1 - 1 - 3 舗装に関する満足度 (性・年齢別)

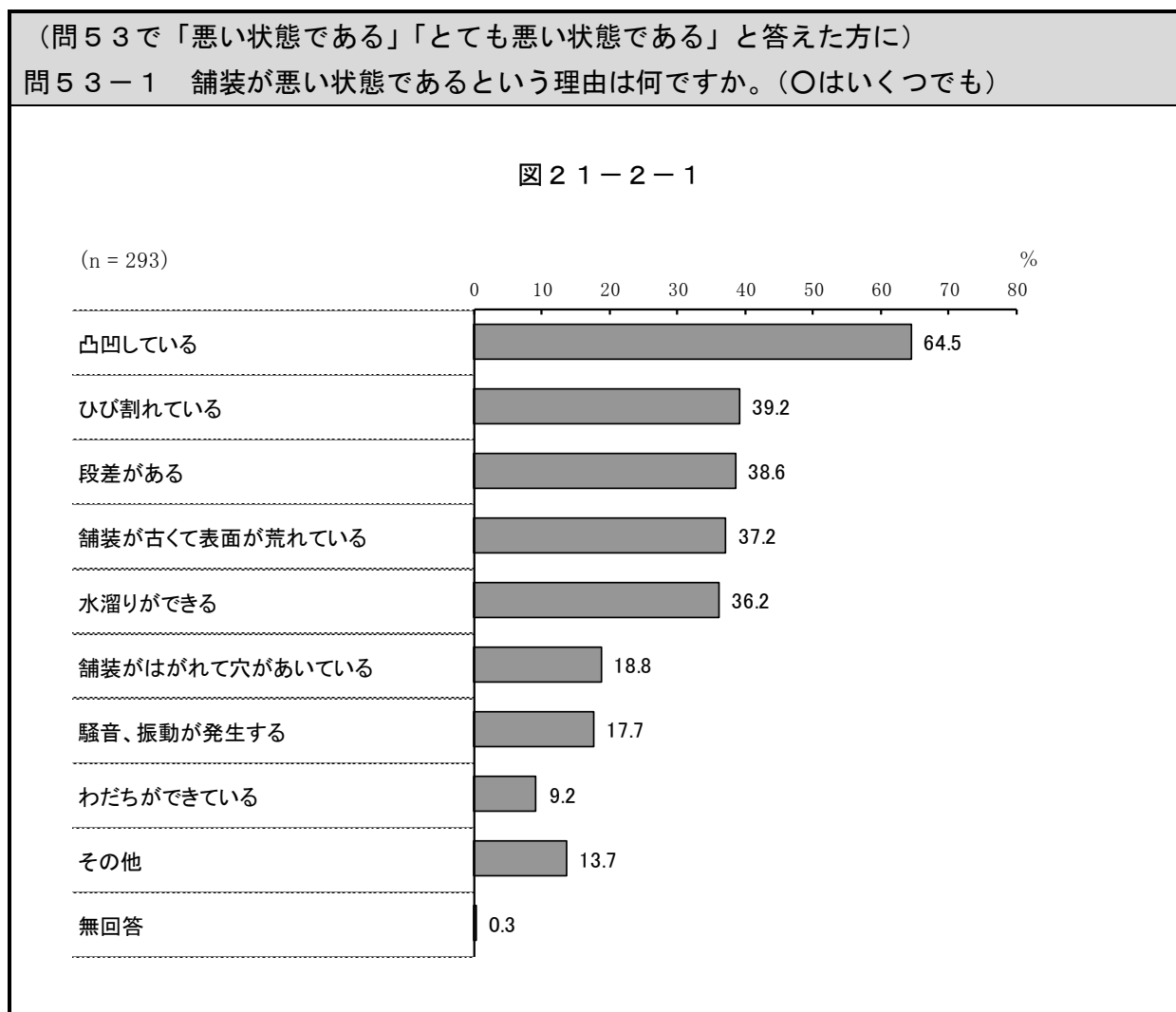


性・年齢別でみると、《良好な状態》は、女性の10・20歳代、男性の10・20歳代が4割半ばとなっている。《悪い状態》は、女性の40歳代、50歳代が2割となっている。

(図 2 1 - 1 - 3)

(2) 舗装状態が悪い理由

◎「凸凹している」が6割半ば

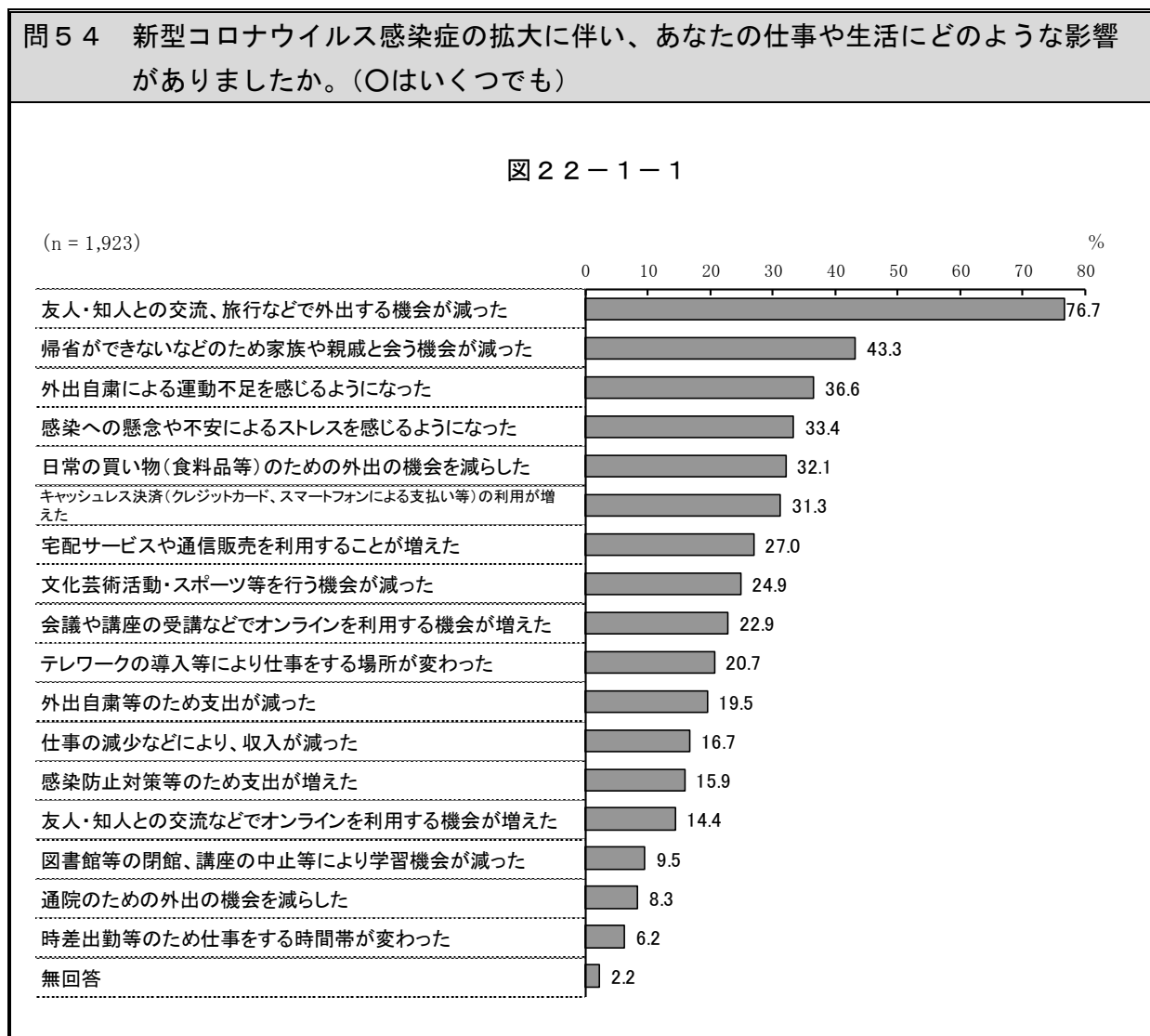


舗装状態が悪い理由を聞いたところ、「凸凹している」(64.5%)が6割半ばで最も高く、次いで「ひび割れている」(39.2%)、「段差がある」(38.6%)、「舗装が古くて表面が荒れている」(37.2%)、「水溜りができる」(36.2%)などと続いている。(図21-2-1)

22. 新型コロナウイルス感染症

(1) 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響

◎「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」が8割近く



新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響について聞いたところ、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」が8割近くで最も高く、以下「帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った」(43.3%)、「外出自粛による運動不足を感じるようになった」(36.6%)、「感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった」(33.4%)、「日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした」(32.1%)、「キャッシュレス決済(クレジットカード、スマートフォンによる支払い等)の利用が増えた」(31.3%)などと続いている。(図22-1-1)

表 2 2 - 1 - 1 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響 (性・年齢別)(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	1,923	友人・知人の交流や旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出の機会を減らした	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	会議や講座などのオンラインを利用する機会が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	
		76.7	43.3	36.6	33.4	32.1	31.3	27.0	24.9	22.9	20.7	
男性全体	720	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出の機会を減らした	キャッシュレス決済の利用が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	会議や講座などのオンラインを利用する機会が増えた	外出自粛等による支出不安が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	日常の買い物のための外出の機会を減らした
		69.3	38.2	32.6	28.1	27.5	27.2	26.0	24.4	22.8	22.6	
10・20歳代	63	旅行など外出する機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	仕事への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	仕事への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	仕事への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	仕事への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	外出自粛による運動不足を感じるようになった	仕事をする場所の変更や通信販売を利用する機会が増えた	
		54.0	33.3	25.4	22.2	22.2	22.2	22.2	19.0	17.5		
30歳代	81	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	友人・知人との交流でオンラインを利用する機会が増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	外出自粛等による支出不安が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった
		77.8	56.8	38.3	37.0	34.6	34.6	32.1	27.2	25.9		
40歳代	123	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	外出自粛による運動不足を感じるようになった	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等による支出不安が増えた	仕事への減少や収入が減った	通信販売を利用することが増加した	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた
		71.5	55.3	48.0	39.8	35.0	33.3	30.9	28.5	22.0	21.1	
50歳代	155	旅行など外出する機会が減った	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	家族や親戚と会う機会が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	キャッシュレス決済の利用が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	外出自粛による運動不足を感じるようになった	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	外出自粛等による支出不安が増えた	仕事をする場所の変更や通信販売を利用する機会が増えた
		67.7	38.7	38.1	36.8	32.3	26.5	25.8	25.8	22.6	22.6	
60歳代	123	旅行など外出する機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	家族や親戚と会う機会が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	キャッシュレス決済の利用が増えた	外出自粛等による支出不安が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	日常の買い物のための外出の機会を減らした	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた
		74.8	36.6	30.9	29.3	29.3	26.8	26.8	25.2	22.8	22.8	
70歳代	110	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	日常の買い物のための外出の機会を減らした	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等による支出不安が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	仕事への減少や収入が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売を利用することが増加した	在宅ワークの導入等により仕事をする場所が変更された	在宅ワークの導入等により仕事をする場所が変更された
		70.9	33.6	30.9	29.1	27.3	21.8	20.0	19.1	14.5	14.5	
80歳以上	65	旅行など外出する機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のための外出の機会を減らした	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等による支出不安が増えた	家族や親戚と会う機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った
		60.0	43.1	40.0	24.6	23.1	20.0	18.5	16.9	12.3	12.3	
女性全体	1,165	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のための外出の機会を減らした	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	会議や講座などのオンラインを利用する機会が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた
		82.0	47.0	38.9	37.9	37.6	34.1	30.9	26.5	21.5	17.8	
10・20歳代	101	旅行など外出する機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	キャッシュレス決済の利用が増えた	家族や親戚と会う機会が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	外出自粛による運動不足を感じるようになった	友人・知人との交流でオンラインを利用する機会が増えた	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された
		74.3	47.5	40.6	39.6	32.7	31.7	30.7	26.7	23.8	23.8	
30歳代	145	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	友人・知人との交流でオンラインを利用する機会が増えた	友人・知人との交流でオンラインを利用する機会が増えた
		87.6	53.8	48.3	45.5	35.2	34.5	31.0	30.3	24.1	24.1	
40歳代	211	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	外出自粛による運動不足を感じるようになった	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出の機会を減らした	テレワークの導入等により仕事をする場所が変更された	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた
		83.4	64.5	45.0	42.2	38.4	37.0	34.6	31.8	28.4	26.1	
50歳代	224	旅行など外出する機会が減った	家族や親戚と会う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のための外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	会議や講座の受講でオンラインを利用する機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	仕事への減少や収入が減った	仕事への減少や収入が減った
		84.8	54.9	39.7	38.8	34.8	32.1	30.8	28.1	25.4	23.2	
60歳代	178	旅行など外出する機会が減った	日常の買い物のための外出の機会を減らした	家族や親戚と会う機会が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	外出自粛等による支出不安が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた
		83.7	46.6	42.7	38.2	37.6	32.0	32.0	31.5	21.9	16.3	
70歳代	199	旅行など外出する機会が減った	日常の買い物のための外出の機会を減らした	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	家族や親戚と会う機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた	宅配サービスや通信販売の売上が増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	通院のための外出の機会を減らした	通院のための外出の機会を減らした
		82.9	52.3	46.7	38.2	30.7	26.6	18.6	17.1	16.1	16.1	
80歳以上	106	旅行など外出する機会が減った	日常の買い物のための外出の機会を減らした	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	家族や親戚と会う機会が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	外出自粛等による支出不安が増えた	感染防止対策等のため支出不安が増えた	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った
		67.9	50.9	48.1	34.0	32.1	25.5	17.9	17.0	13.2	13.2	

性・年齢別で見ると、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」は全ての世代で1位に挙げられているが、男性の10・20歳代では54.0%にとどまっている。(表 2 2 - 1 - 1)

表 2 2 - 1 - 2 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響
(ライフステージ別)

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,923	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 76.7	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 43.3	外出自粛による運動不足を感じるようになった 36.6	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 33.4	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 32.1	キャッシュレス決済の利用率が増えた 31.3	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 27.0	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った 24.9	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた 22.9	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった 20.7
独身期	223	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 74.9	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 38.6	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 34.5	キャッシュレス決済の利用率が増えた 34.5	外出自粛による運動不足を感じるようになった 33.2	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 30.0	友人・知人との交流などでオンラインを利用する機会が増えた 29.1	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった 28.7	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた 28.3	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った 25.1
家族形成期	152	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 78.9	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 58.6	キャッシュレス決済の利用率が増えた 52.0	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 44.7	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 34.2	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった 30.9	外出自粛による運動不足を感じるようになった 30.3	会議や講座などでオンラインを利用する機会が増えた 28.3	友人・知人との交流などでオンラインを利用する機会が増えた 26.3	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 23.7
家族成長前期	190	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 81.6	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 65.8	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた 40.0	外出自粛による運動不足を感じるようになった 39.5	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 37.9	キャッシュレス決済の利用率が増えた 36.3	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 35.8	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった 32.6	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 26.3	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った 23.7
家族成長後期	155	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 78.1	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 52.3	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた 41.3	キャッシュレス決済の利用率が増えた 40.0	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった/外出自粛による運動不足を感じるようになった 34.2	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた 32.3	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 31.6	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 25.8		
家族成熟期	182	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 84.1	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 48.4	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった/運動不足を感じるようになった 35.2	キャッシュレス決済の利用率が増えた 33.0	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 29.7	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 28.6	会議や講座などでオンラインを利用する機会が増えた 26.9	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた 23.1	外出自粛等のため支出が減った 19.2	
高齢期Ⅰ	158	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 77.8	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 44.9	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 39.2	外出自粛による運動不足を感じるようになった 38.0	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 29.7	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた 24.1	外出自粛等のため支出が減った 22.8	キャッシュレス決済の利用率が増えた 20.9	感染防止対策のため支出が増えた 17.7	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 17.1
高齢期Ⅱ	384	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 74.7	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 44.3	外出自粛による運動不足を感じるようになった 43.0	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 31.8	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 29.9	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた 26.0	外出自粛等のため支出が減った 19.8	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 19.8	キャッシュレス決済の利用率が増えた 17.7	感染防止対策のため支出が増えた 14.3
その他	438	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った 74.7	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った 42.0	外出自粛による運動不足を感じるようになった 35.4	キャッシュレス決済の利用率が増えた 33.3	日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした 32.6	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった 32.0	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった 25.1	宅配サービスや通信販売を利用する機会が増えた 24.2	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた 23.7	仕事の減少などにより、収入が減った 22.8

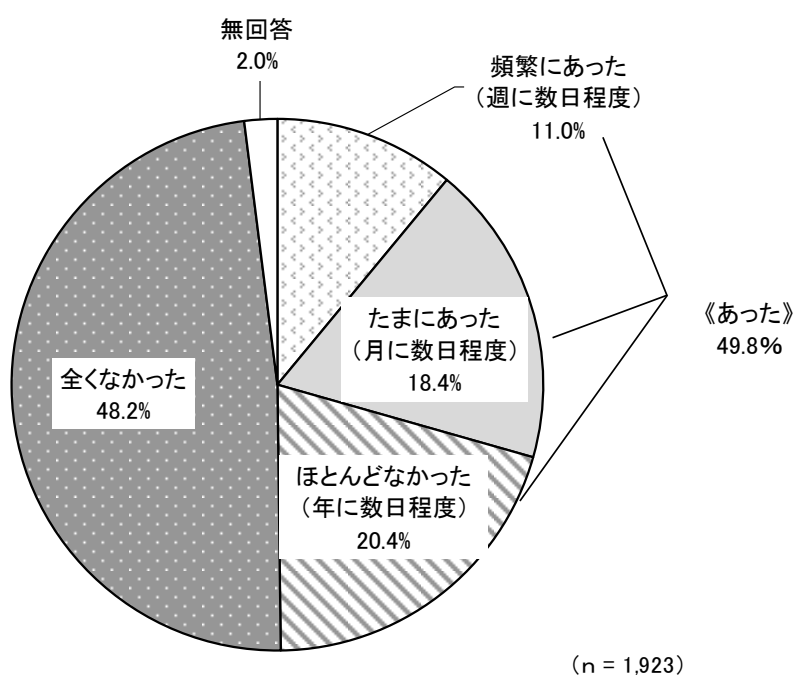
ライフステージ別にみると、全てのライフステージで「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」が1位に挙げられている。「帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った」は、独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期、その他で2位となっている。(表 2 2 - 1 - 2)

(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴うコミュニケーションの機会について

◎ 《あった》が5割、「全くなかった」がほぼ5割

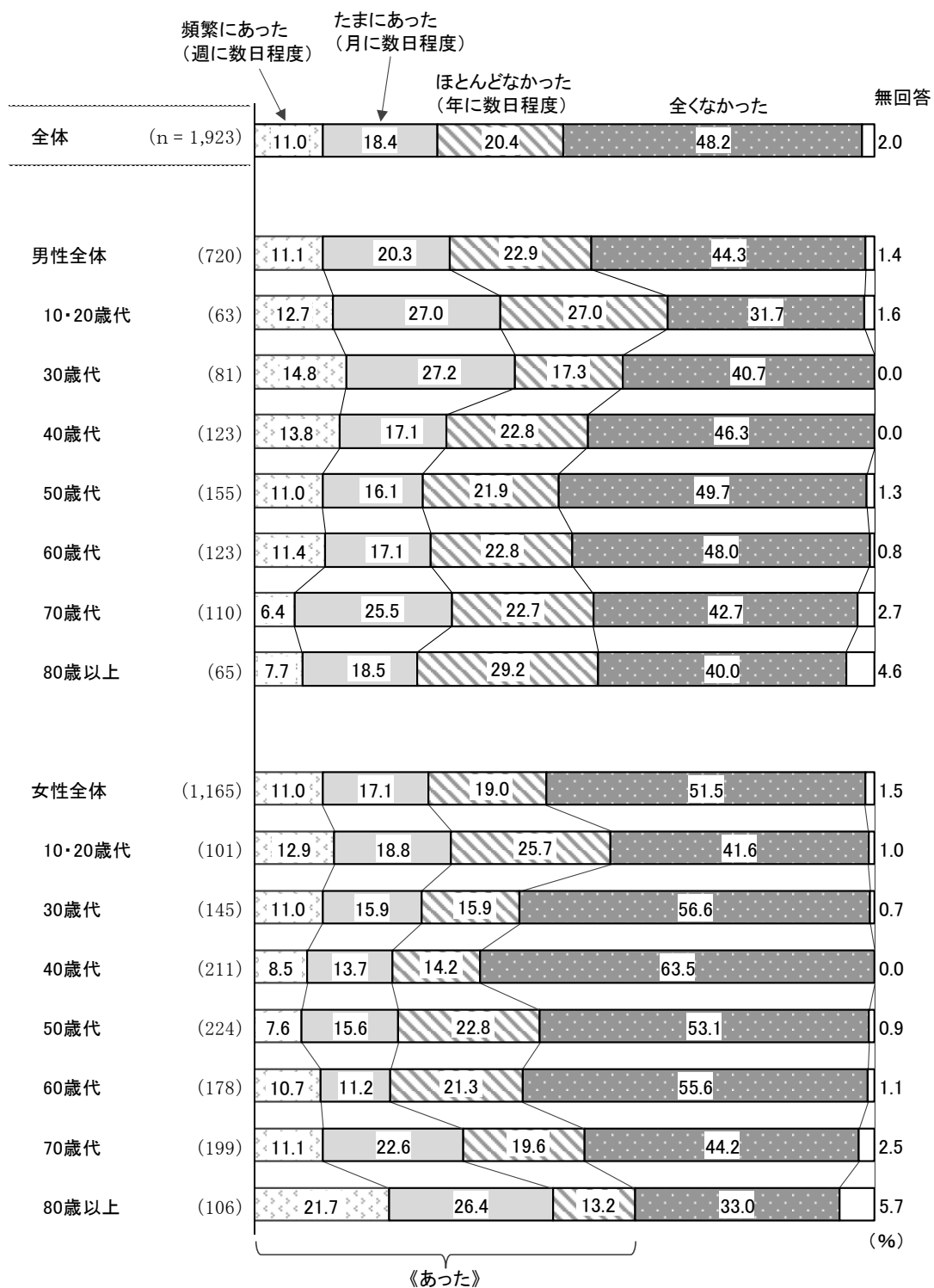
問55 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外出や人とのコミュニケーションの機会が減少することが問題となっています。あなたは、この1年間に「1日中誰とも会話をしなかった日」がありましたか。(〇は1つ)

図22-2-1



この1年間に「1日中誰とも会話をしなかった日」があったかどうか聞いたところ、《あった》が5割となっている。一方、「全くなかった」がほぼ5割となっている。(図22-2-1)

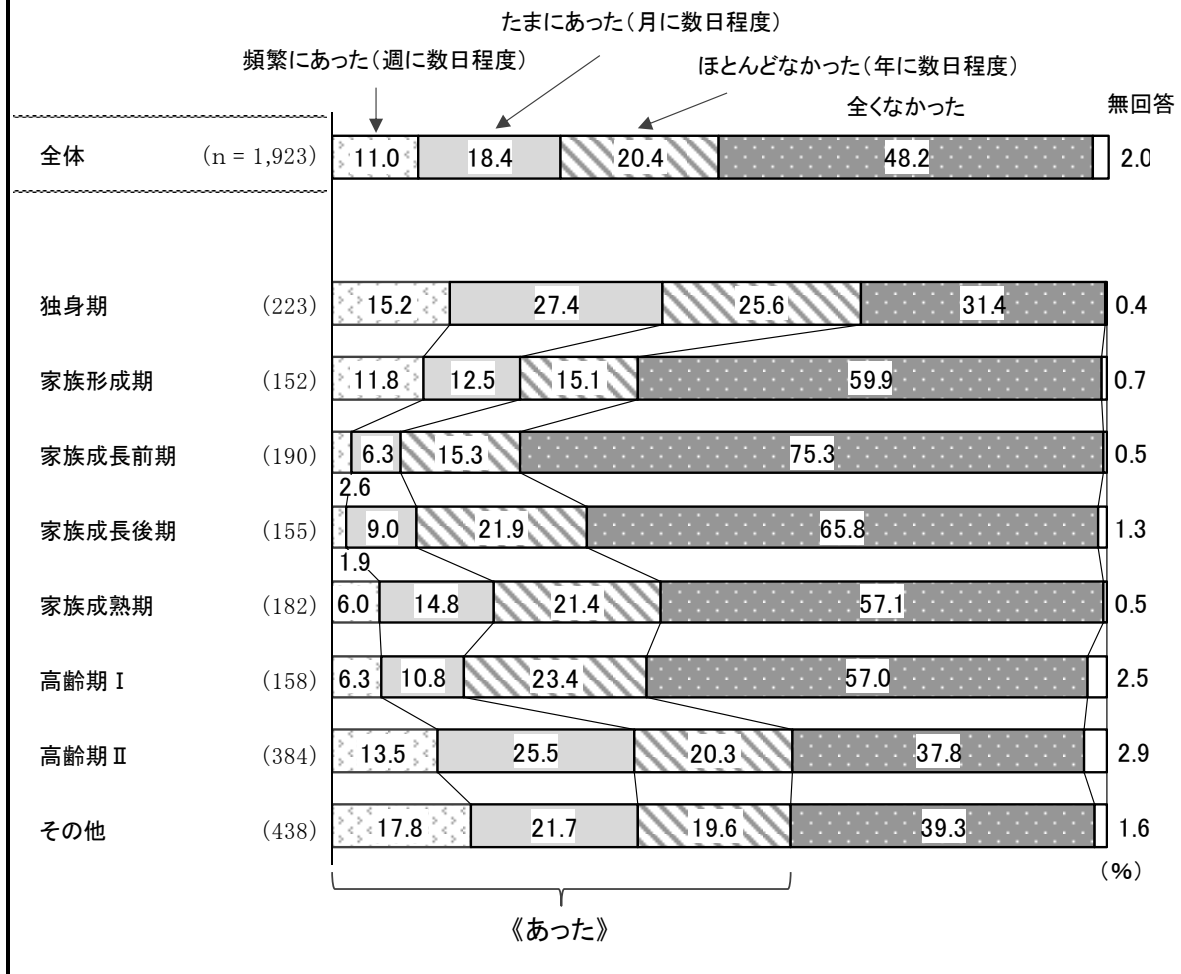
図 2 2 - 2 - 2 新型コロナウイルス感染拡大に伴うコミュニケーションの機会について
(性・年齢別)



性・年齢別で見ると、《あった》は、男性の10・20歳代が7割近く、女性の80歳以上で6割を超えている。一方、「全くなかった」は、女性の40歳代が6割を超えている。

(図 2 2 - 2 - 2)

図 2 2 - 2 - 3 新型コロナウイルス感染拡大に伴うコミュニケーションの機会について
(ライフステージ別)

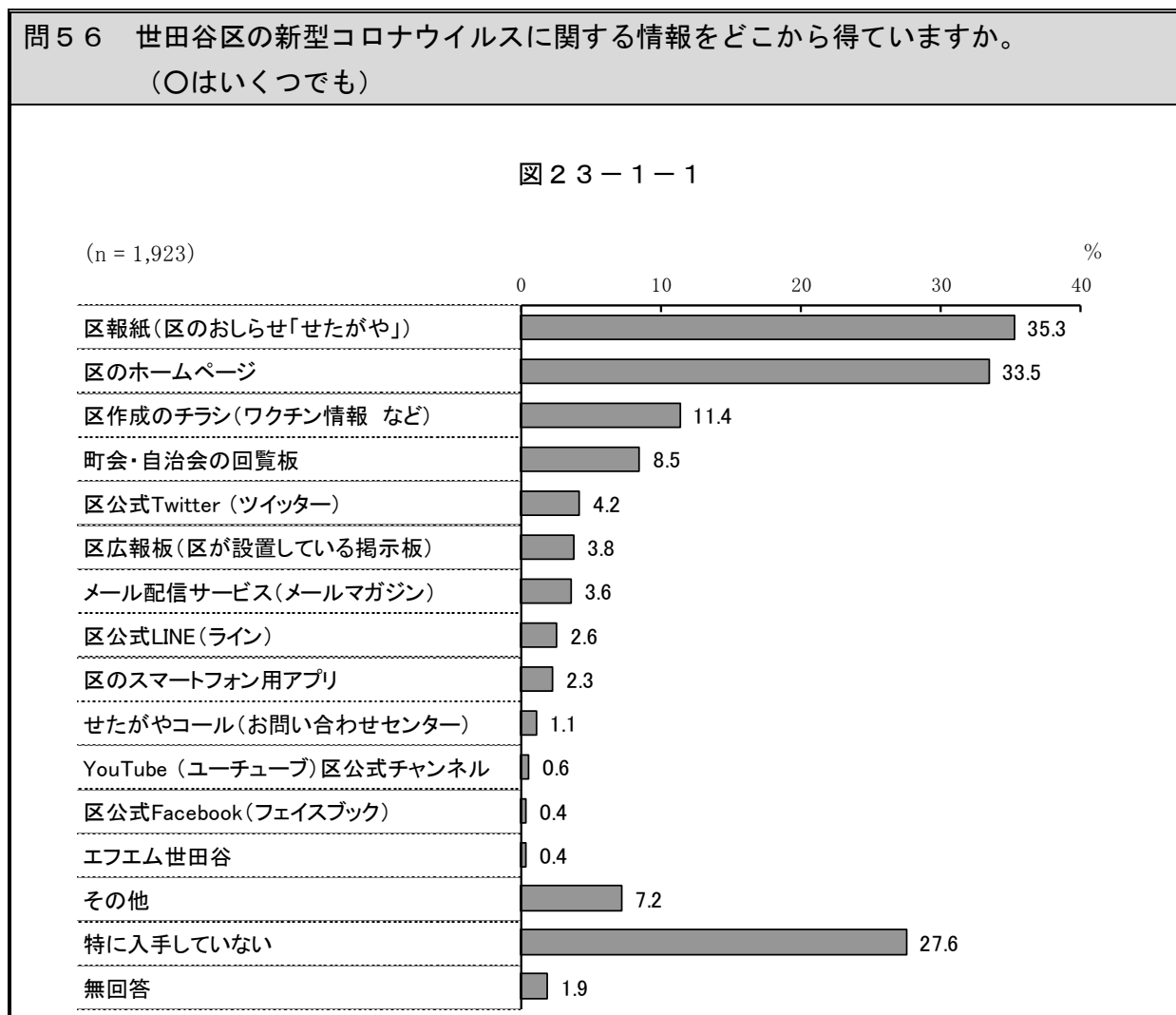


ライフステージ別でみると、《あった》は、独身期で7割近くとなっている。一方、「全くなかった」は、家族成長前期で7割半ばとなっている。(図 2 2 - 2 - 3)

23. 区の情報発信

(1) 区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先

◎「区報紙（区のおしらせ「せたがや）」が3割半ば



区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先について聞いたところ、「区報紙（区のおしらせ「せたがや）」が3割半ばで最も高くなっている。以下、「区のホームページ」（33.5%）、「区作成のチラシ（ワクチン情報など）」（11.4%）、「町会・自治会の回覧板」（8.5%）、「区公式Twitter（ツイッター）」（4.2%）と続いている。（図23-1-1）

表 2 3 - 1 - 1 区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先（性・年齢別）

（％）

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,923	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 35.3	区のホームページ 33.5	特に入手していない 27.6	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 11.4	町会・自治会の回覧板 8.5
男性全体	720	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 35.3	区のホームページ 32.9	特に入手していない 31.1	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 10.1	町会・自治会の回覧板 8.1
10・20歳代	63	特に入手していない 50.8	区のホームページ 25.4	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 12.7	区公式 Twitter(ツイッタ-) 7.9	町会・自治会の回覧板 4.8
30歳代	81	特に入手していない 59.3	区のホームページ 25.9	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 14.8	区公式 Twitter(ツイッタ-) 4.9	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 2.5
40歳代	123	区のホームページ 39.0	特に入手していない 34.1	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 18.7	区公式 Twitter(ツイッタ-) 8.1	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 5.7
50歳代	155	区のホームページ 36.8	特に入手していない 32.9	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 25.8	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 8.4	メール配信サービス(メールマガジン) 5.2
60歳代	123	区のホームページ 49.6	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 47.2	特に入手していない 19.5	町会・自治会の回覧板 11.4	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 8.9
70歳代	110	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 58.2	区のホームページ 25.5	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 21.8	特に入手していない 18.2	町会・自治会の回覧板 16.4
80歳以上	65	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 75.4	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 23.1	区広報板(区が設置している掲示板) 16.9	町会・自治会の回覧板 15.4	特に入手していない 10.8
女性全体	1,165	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 36.2	区のホームページ 34.7	特に入手していない 25.9	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 12.5	町会・自治会の回覧板 9.0
10・20歳代	101	特に入手していない 55.4	区のホームページ 26.7	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 8.9	区公式 Twitter(ツイッタ-) 5.0	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 3.0
30歳代	145	区のホームページ 39.3	特に入手していない 36.6	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 15.9	区公式 Twitter(ツイッタ-) 7.6	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 6.2
40歳代	211	区のホームページ 48.8	特に入手していない 28.0	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 18.0	区公式 Twitter(ツイッタ-)/メール配信サービス(メールマガジン) 7.6	町会・自治会の回覧板 8.0
50歳代	224	区のホームページ 45.1	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 33.9	特に入手していない 22.3	区作成のチラシ(ワクチン情報 など)/町会・自治会の回覧板 8.0	町会・自治会の回覧板 11.8
60歳代	178	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 50.6	区のホームページ 37.6	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 15.2	特に入手していない 14.6	町会・自治会の回覧板 11.8
70歳代	199	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 65.3	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 31.7	区のホームページ 19.6	特に入手していない 16.1	町会・自治会の回覧板 15.6
80歳以上	106	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 52.8	特に入手していない 24.5	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 18.9	町会・自治会の回覧板 17.9	区のホームページ 8.5

性・年齢別でみると、「区報紙(区のおしらせ「せたがや」)」は男性の70歳代、80歳以上、女性の60歳代、70歳代、80歳以上で1位となっている。(表23-1-1)

表 2 3 - 1 - 2 区の新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先
(ライフステージ別)

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全体	1,923	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 35.3	区のホームページ 33.5	特に入手していない 27.6	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 11.4	町会・自治会の回覧板 8.5
独身期	223	特に入手していない 47.5	区のホームページ 28.7	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 15.7	区公式 Twitter (ツイッター) 5.8	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 4.5
家族形成期	152	特に入手していない 44.1	区のホームページ 36.2	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 11.2	区公式 Twitter (ツイッター) 9.2	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 5.3
家族成長前期	190	区のホームページ 48.4	特に入手していない 31.1	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 14.2	メール配信サービス(メールマガジン) 7.9	区公式 LINE(ライン) 5.8
家族成長後期	155	区のホームページ 51.6	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 31.0	特に入手していない 22.6	メール配信サービス(メールマガジン) 6.5	区公式 Twitter (ツイッター) 5.8
家族成熟期	182	区のホームページ 45.6	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 38.5	特に入手していない 19.2	町会・自治会の回覧板 11.0	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 9.9
高齢期 I	158	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 63.9	区のホームページ 25.3	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 23.4	町会・自治会の回覧板 20.3	特に入手していない 15.2
高齢期 II	384	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 60.4	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 23.4	区のホームページ 22.9	特に入手していない 17.7	町会・自治会の回覧板 13.8
その他	438	区のホームページ 31.3	区報紙(区のおしらせ「せたがや」) 30.6	特に入手していない 29.9	区作成のチラシ(ワクチン情報 など) 10.3	町会・自治会の回覧板 6.8

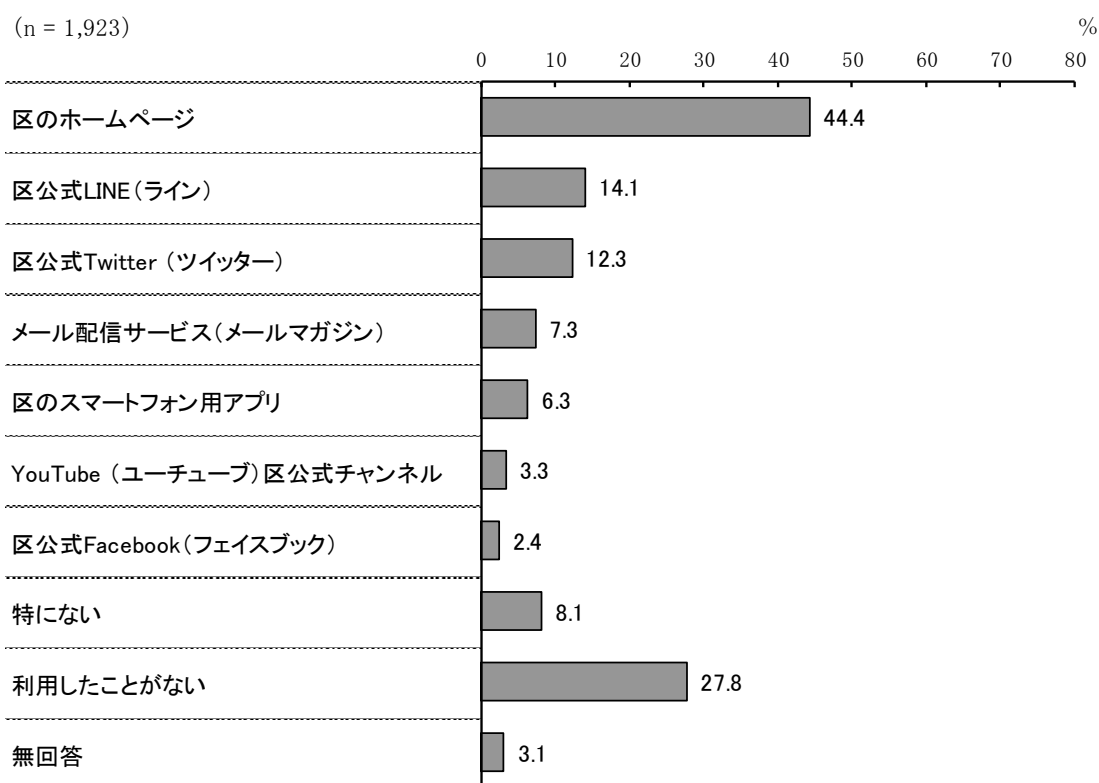
ライフステージ別にみると、「区報紙(区のおしらせ「せたがや」)」は高齢期 I、高齢期 II で 1 位となっている。(表 2 3 - 1 - 2)

(2) 情報を入手しやすいデジタル媒体

◎ 「区のホームページ」が4割半ば

問57 区では、区ホームページや区公式ツイッターなど様々なデジタル媒体で情報の発信をしています。これらの媒体で情報を入手しやすいと思うものはどれですか。
(〇はいくつでも)

図23-2-1



情報を入手しやすいデジタル媒体について聞いたところ、「区のホームページ」が4割半ばで最も高くなっている。以下、「区公式LINE(ライン)」(14.1%)、「区公式Twitter(ツイッター)」(12.3%)、「メール配信サービス(メールマガジン)」(7.3%)、「区のスマートフォン用アプリ」(6.3%)と続いている。(図23-2-1)

区分	n	区のホームページ	区公式LINE（ライン）	区公式Twitter（ツイッター）	メール配信サービス（メールマガジン）	区のスマートフォン用アプリ	YouTube（ユーチューブ）区公式チャンネル	区公式Facebook（フェイスブック）	特にない	利用したことがない	無回答	
全 体	1,923	44.4	14.1	12.3	7.3	6.3	3.3	2.4	8.1	27.8	3.1	
性・年齢別	男性全体	720	45.7	11.3	12.5	5.4	6.0	4.3	3.8	8.3	29.9	1.1
	10・20 歳代	63	31.7	11.1	31.7	-	9.5	6.3	1.6	3.2	36.5	-
	30 歳代	81	33.3	19.8	25.9	7.4	6.2	9.9	6.2	7.4	34.6	1.2
	40 歳代	123	46.3	14.6	18.7	4.9	4.9	4.9	4.9	8.9	22.0	0.8
	50 歳代	155	59.4	14.2	11.6	9.7	7.7	3.9	3.9	5.2	20.0	-
	60 歳代	123	59.3	8.1	5.7	6.5	8.1	3.3	2.4	6.5	22.0	-
	70 歳代	110	40.9	7.3	0.9	3.6	2.7	2.7	5.5	13.6	38.2	3.6
	80 歳以上	65	23.1	-	-	-	1.5	-	-	15.4	56.9	3.1
	女性全体	1,165	44.7	16.3	12.3	8.6	6.7	2.8	1.7	8.2	27.0	2.1
	10・20 歳代	101	27.7	29.7	31.7	6.9	4.0	6.9	-	2.0	35.6	1.0
	30 歳代	145	46.9	24.8	24.1	9.0	9.7	2.8	2.8	4.1	24.1	-
	40 歳代	211	49.8	23.7	21.3	14.2	6.6	2.4	1.4	4.7	18.5	-
	50 歳代	224	57.6	17.4	8.5	11.2	5.8	3.1	4.0	6.3	17.9	0.4
	60 歳代	178	52.8	11.8	4.5	7.3	8.4	1.1	1.1	9.0	23.6	2.8
	70 歳代	199	35.2	5.0	2.0	5.0	6.0	4.0	0.5	16.1	37.2	3.5
	80 歳以上	106	24.5	3.8	-	1.9	5.7	-	0.9	14.2	45.3	9.4

性・年齢別でみると、「区公式LINE（ライン）」は、女性の10・20歳代で3割となっている。また、「利用したことがない」は男性80歳以上で6割近くとなっている。（表23-2-1）

表 2 3 - 2 - 2 情報入手しやすいデジタル媒体（ライフステージ別） (%)

区分	n	区のホームページ	区公式LINE（ライン）	区公式Twitter（ツイッター）	メール配信サービス（メールマガジン）	区のスマートフォン用アプリ	YouTube（ユーチューブ）区公式チャンネル	区公式Facebook（フェイスブック）	特にない	利用したことがない	無回答	
全 体	1,923	44.4	14.1	12.3	7.3	6.3	3.3	2.4	8.1	27.8	3.1	
ライフステージ別	独身期	223	34.5	21.5	32.7	7.6	7.2	7.6	1.8	2.2	34.1	-
	家族形成期	152	42.1	22.4	27.0	4.6	9.2	4.6	3.9	6.6	23.7	1.3
	家族成長前期	190	52.6	21.1	13.7	13.7	5.8	2.1	2.6	5.8	17.9	-
	家族成長後期	155	57.4	17.4	11.0	12.9	5.8	1.9	3.2	4.5	17.4	-
	家族成熟期	182	57.1	18.7	8.8	9.9	4.9	2.2	3.8	6.6	18.1	0.5
	高齢期Ⅰ	158	43.0	7.0	2.5	4.4	7.0	2.5	1.9	10.1	35.4	4.4
	高齢期Ⅱ	384	38.0	4.2	0.8	3.4	4.9	1.8	1.3	14.3	38.3	4.9
	その他	438	44.7	14.2	12.8	7.3	7.1	4.1	2.7	8.2	24.7	4.8

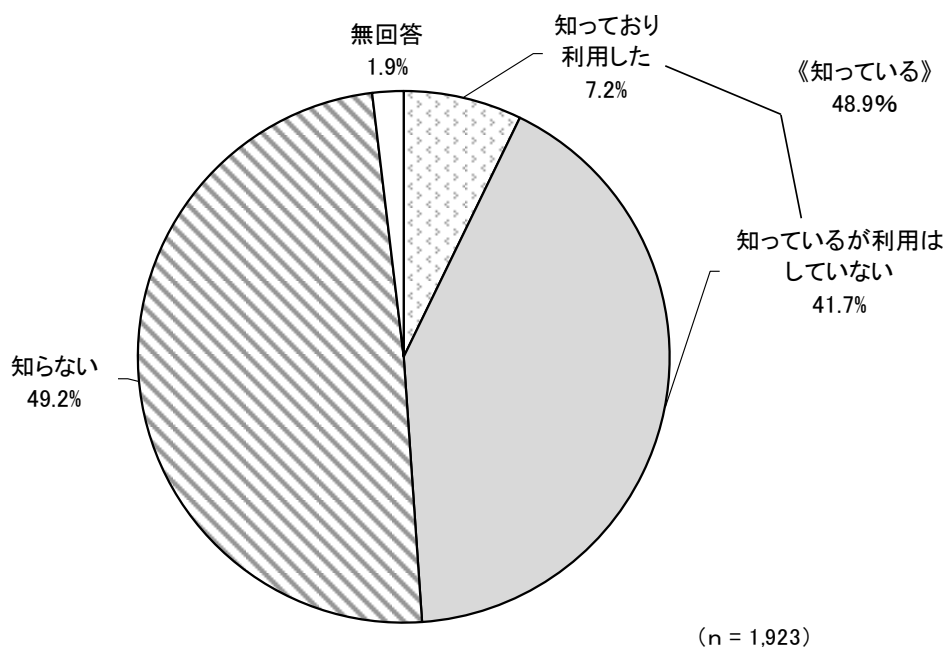
ライフステージ別にみると、「区のホームページ」は、家族成長後期、家族成熟期で6割近くとなっている。（表 2 3 - 2 - 2）

(3) 新型コロナウイルスのワクチン接種予約申し込み支援の認知度

◎ 《知っている》が5割近く

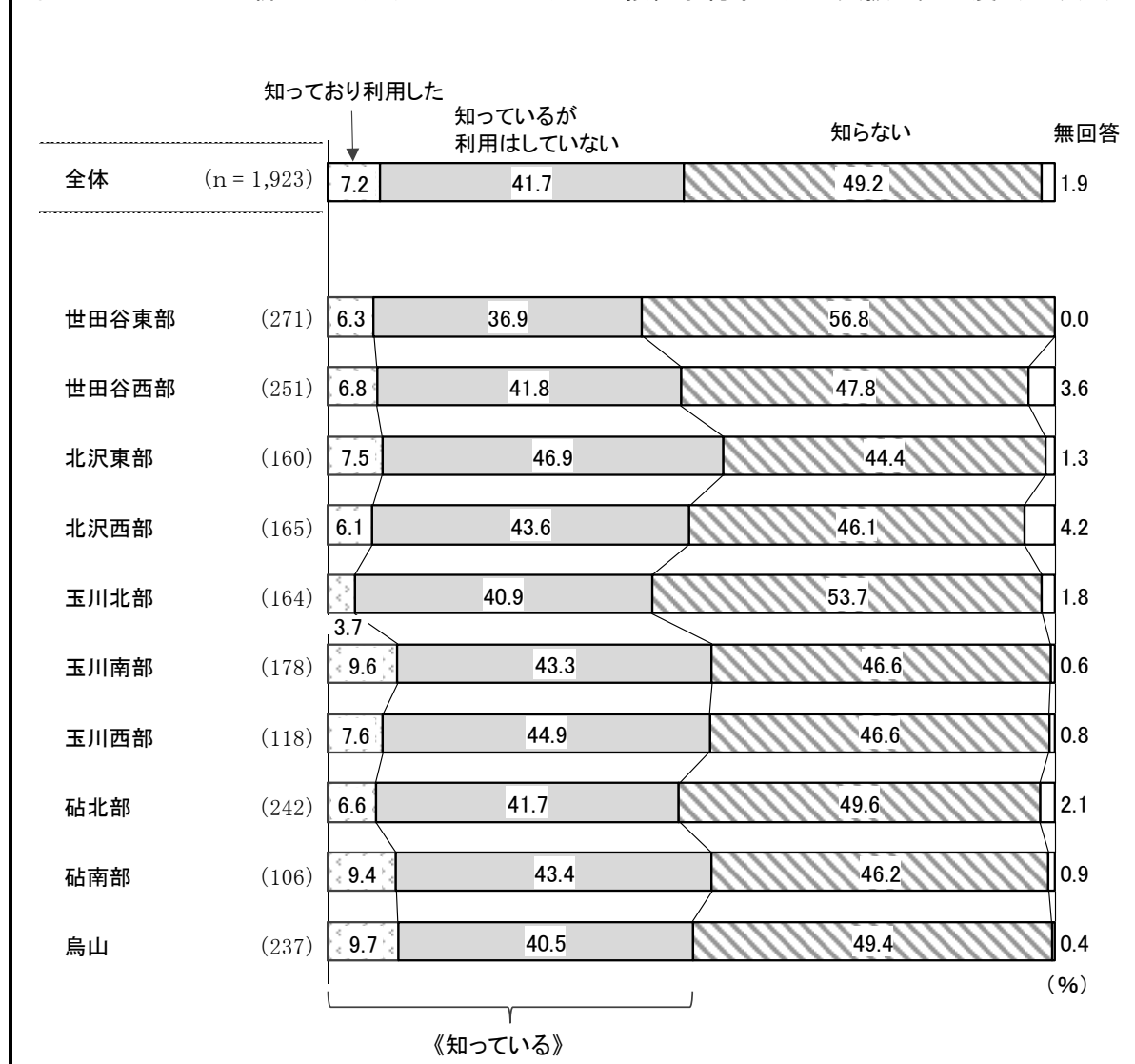
問58 区では、新型コロナワクチンの接種予約にあたり、ご自身でインターネットなどによる予約をすることが困難な方を対象に、区職員がまちづくりセンターで予約の申し込み支援を行っています。あなたは、この取り組みを知っていますか。
(〇は1つ)

図23-3-1



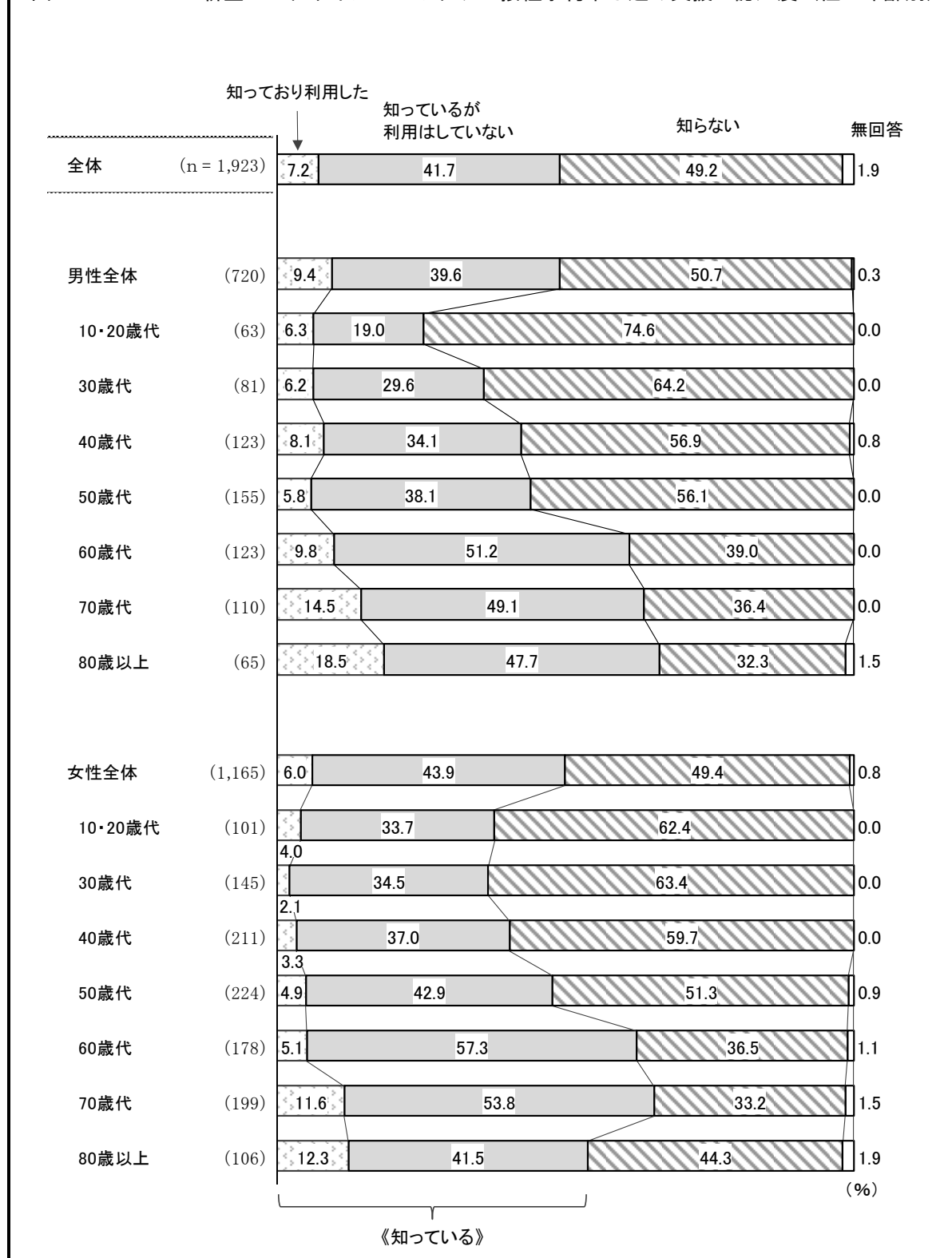
新型コロナウイルスのワクチン接種予約申し込み支援の認知度は、「知っており利用した」(7.2%)と「知っているが利用はしていない」(41.7%)をあわせた《知っている》が5割近くとなっている。一方、「知らない」(49.2%)はほぼ5割となっている。(図23-3-1)

図 2 3 - 3 - 2 新型コロナウイルスのワクチン接種予約申し込み支援の認知度（地域別）



地域別でみると、《知っている》は、北沢東部が5割半ば、玉川南部、玉川西部、砧南部が5割を超えている。一方、「知らない」は世田谷東部が6割近くとなっている。（図 2 3 - 3 - 2）

図 2 3 - 3 - 3 新型コロナウイルスのワクチン接種予約申し込み支援の認知度（性・年齢別）



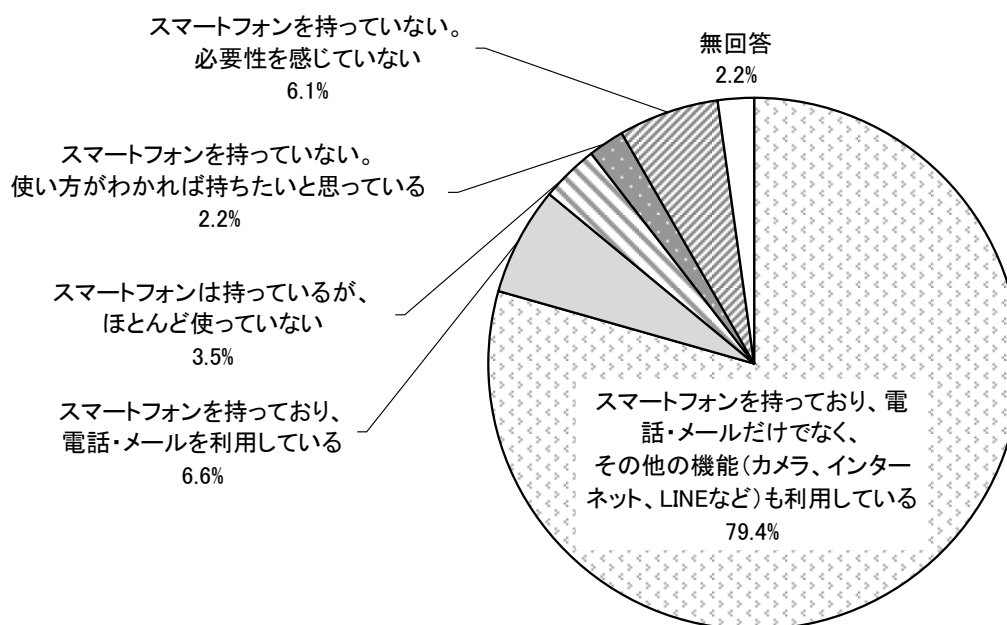
性・年齢別でみると、《知っている》は、男性の80歳以上、女性の70歳代が6割半ばとなっている。一方、「知らない」は男性の10・20歳代が7割半ばとなっている。（図23-3-3）

(4) スマートフォンの活用状況

◎「スマートフォンを持っており、電話・メールだけでなく、その他の機能（カメラ、インターネット、LINE など）も利用している」がほぼ8割

問59 スマートフォン（らくらくホンを含む）が普及し、電話やメールに限らず、インターネット利用やLINEなどのコミュニケーションツールとして、日常生活の多くの場面で使われています。スマートフォンについて、あなた自身の状況で最もあてはまるものを選択してください。（○は1つ）

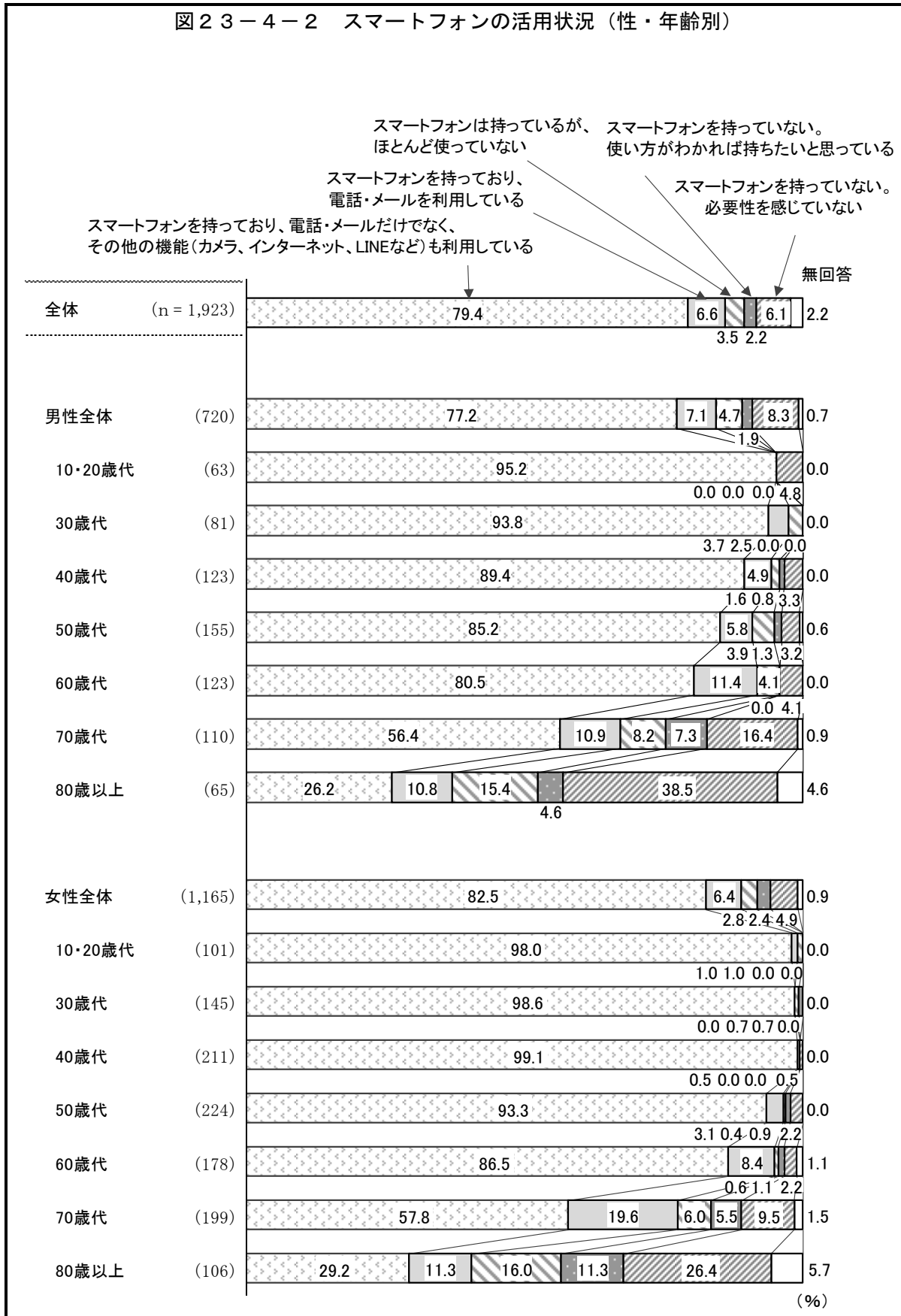
図23-4-1



(n = 1,923)

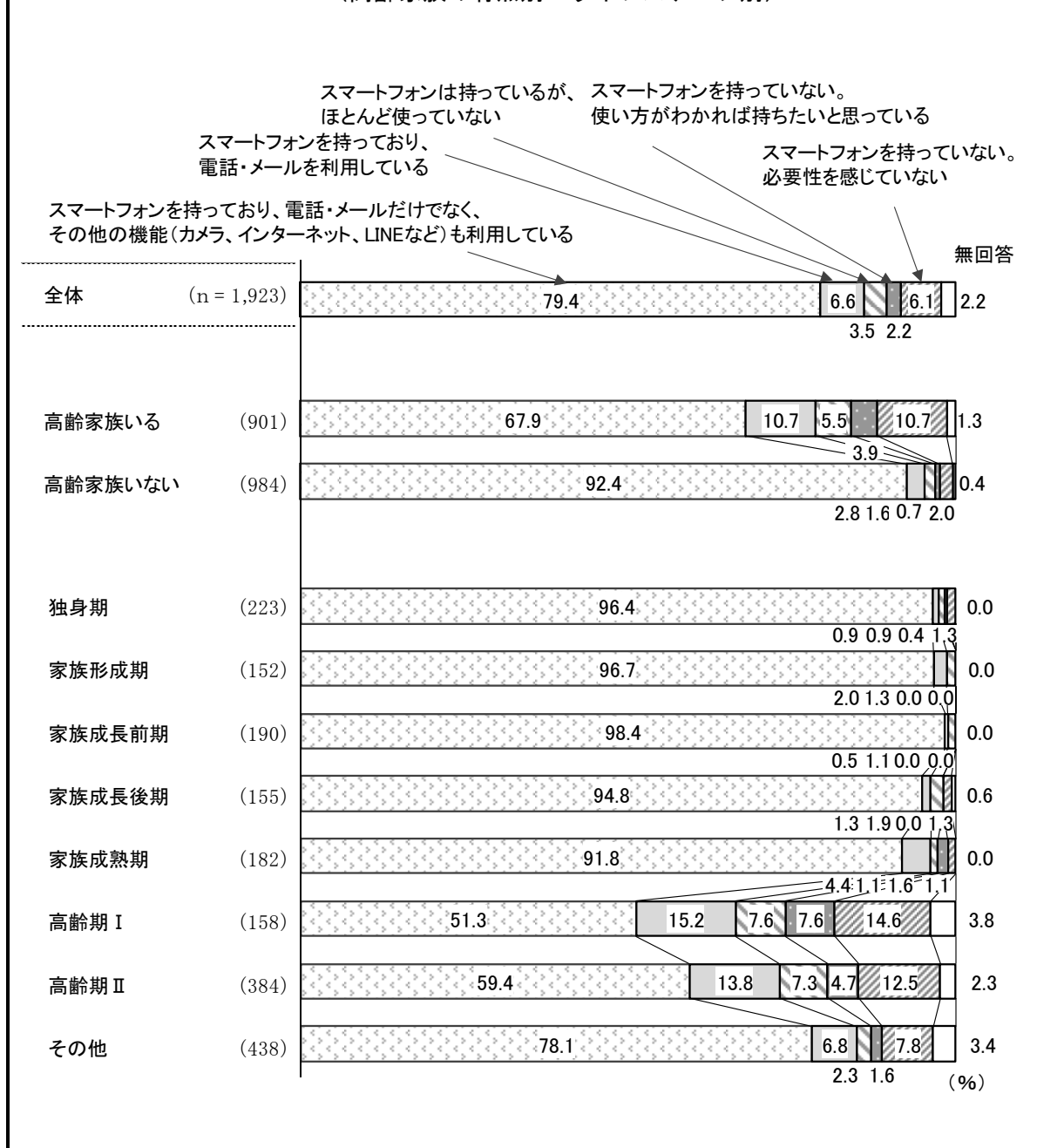
スマートフォンの活用状況は、「スマートフォンを持っており、電話・メールだけでなく、その他の機能（カメラ、インターネット、LINE など）も利用している」がほぼ8割となっている。（図23-4-1）

図 2 3 - 4 - 2 スマートフォンの活用状況 (性・年齢別)



性・年齢別でみると、「スマートフォンを持っていない。必要性を感じていない」は、男性の80歳以上が4割近く、女性の80歳以上が2割半ばとなっている。(図 2 3 - 4 - 2)

図 2 3 - 4 - 3 スマートフォンの活用状況
(高齢家族の有無別・ライフステージ別)



高齢家族の有無別で見ると、「スマートフォンを持っており、電話・メールだけでなく、その他の機能(カメラ、インターネット、LINEなど)も利用している」は高齢家族がない方で9割を超えている。

ライフステージ別で見ると、「スマートフォンを持っており、電話・メールだけでなく、その他の機能(カメラ、インターネット、LINEなど)も利用している」は、高齢期 I が5割を超え、高齢期 II がほぼ6割と、他に比べて低くなっている。(図 2 3 - 4 - 3)

世田谷区民意調査 2022

令和4年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 2094）

- 発行 世田谷区政策経営部広報広聴課
〒154-8504 東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号
電話：03（5432）2014
ファクシミリ：03（5432）3001
- 実施 株式会社名豊
〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原2丁目2番33号
電話：052（322）0071
ファクシミリ：052（322）0130